授業科目名： 幼児と健康 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 矢野　潔子、入谷　仁士、 末永　祐介／山津　幸司
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・健康

授業の到達目標及びテーマ

１．領域「健康」のねらい、内容、全体構造を理解する。

２．領域「健康」の指導上の留意点を理解し、適切な指導能力を習得する。

３．領域「健康」の指導について、小学校教育とのつながりを理解する。

４．領域「健康」の指導と幼児期運動指針の関連性を理解する。

授業の概要

講義形式で行う。発育、遊び、生活習慣、体力づくり、スポーツ、安全能力の指導（防災を含む）など、乳幼児の健康に関するテーマ・知見について、受講者の調査・発表、および全体討論を中心に進めていく。

授業計画

第１回：オリエンテーション、領域「健康」のねらいと内容（矢野　潔子、入谷　仁士、末永　祐介／山津　幸司）

第２回：乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味の理解（矢野　潔子、入谷　仁士、末永　祐介／山津　幸司）

第３回：乳幼児期の心身と運動の発達（末永　祐介／山津　幸司）

第４回：子供が進んで動こうとするための保育者のかかわり（末永　祐介／山津　幸司）

第５回：乳幼児期の健康で基本的な生活習慣の理解（矢野　潔子、入谷　仁士／山津　幸司）

第６回：乳幼児の安全能力と怪我や病気の予防の特徴の理解（矢野　潔子、入谷　仁士／山津　幸司）

第７回：指導における環境づくりの重要性（矢野　潔子、入谷　仁士、末永　祐介／山津　幸司）

第８回：まとめ、領域「健康」の指導と小学校教育への接続（矢野　潔子、入谷　仁士、末永　祐介／山津　幸司）

定期試験なし

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）
参考書・参考資料等 幼児期運動指針（文部科学省　平成２４年３月） https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm
学生に対する評価 レポート（５０％）と複数回の小テスト（５０％）で、本授業における習熟度を評価する。

授業科目名： 幼児と人間関係 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 藤田　豊／名倉　一美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・人間関係

授業の到達目標及びテーマ

幼児の人間関係の発達や学びの過程を理解する

授業の概要

・幼児期の社会性の発達特性について、０歳から６歳にかけての変化過程を理解する。

・幼児の人との関わりの特徴や、個々の多様な実態について、多面的に理解する。

授業計画

第１回：ガイダンス　保育内容「人間関係」領域の位置づけ

第２回：幼児期の社会性の発達：共同注意、アタッチメント形成

第３回：幼児期の社会性の発達：自我の芽生え

第４回：幼児期の社会性の発達：自己理解と他者理解　葛藤体験

第５回：幼児期の遊びの発達

第６回：人間関係の発達に困難を抱える幼児

第７回：幼児の多様な他者とのかかわり（家族、地域の人、外国にルーツをもつ幼児）

第８回：まとめ

定期試験なし

テキスト

適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

学生に対する評価

毎時行う各講義内課題（ワーク及びミニレポート）にて評価する(100%)

授業科目名： 幼児と環境 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤田　豊、吉村　昇／岡島 俊哉
			担当形態： クラス分け・複数（藤田、吉村）／単独（岡島）

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・環境

授業のテーマ及び到達目標

①「環境」という文字が意味することを探求する。

（例）身近な「環境」に親しむ。自然と触れ合う、発見を楽しむ。事象に興味・関心を持つ。自分から「環境」と関わりをつくる。生活に取り入れる。物の性質や数量、文字などに関する感覚を豊かにする。

②「環境」という視点を基盤に、「子ども」と「大人」の違い、関わりを探求する。

③子どもの周辺の「（自然や、（心）、社会あるいは物などの）環境要素」の存在と有様が子どもの成長や発達にどのように関わってくるか、自分の見方や考え方を形成する。

④子どもが様々な「環境」に接する（接した）とき、どのように認識が起こり、思考が始まり、そして展開されるか、について自分の見方や考え方を形成する。

授業の概要

特に幼少期から年長期にかけての子どもの学びに関する「環境」の視点について講義を行い、「環境」という要素を中心に据えて、他要素（健康、言葉、人間関係、表現）との関わ合いも意識しながら、子どもを観る視点の枠組みを創る。

授業計画

毎回の内容に関して、基礎知識とアンダーラインで示す語句を身につけるための技能を学ぶ。

第１回：自然に触れて生活する。自然の大きさ、美しさ、不思議さに気付く（１）　～地球領域～

第２回：自然に触れて生活する。自然の大きさ、美しさ、不思議さに気付く（２）　～生命領域～

第３回：様々な物に触れる、その性質やしくみに興味・関心を持つ。

第４回：自然や人間の生活の変化の季節感に気付く。

第５回：身近な事象に関心を持つ。遊びに取り入れる。

第６回：動植物に親しみを感じる、接する。

第７回：生命の尊さに気付く。対象を労わる。大切にする。

第８回：身近な物を大切にする。扱う（１）　～“大切にする”という感情の生まれ～

第９回：身近な物を大切にする。扱う（２）　～“扱う”しぐさ～

第１０回：物や道具に興味を持つ。関わる。試す。考える。工夫する。 遊びに取り入れる。

第１１回：数量、図形に関心を持つ。 第１２回：絵、図、標識、文字などに関心を持つ。 第１３回：生活に関する情報に興味・関心を持つ。 第１４回：施設などに関心を持つ。施設などで関心を持つ。 第１５回：旗や国旗に親しむ（行事との関わりにおいて） 定期試験
テキスト 文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成30年３月」フレーベル館（2018） 幼稚園教育要領の改定についてより抜粋（文部科学省　平成29年7月） （http://seiganomori.hoikuen.to/wp/wp-content/uploads/2019/10/8.pdf）
参考書・参考資料等 適宜、資料配布あるいは資料閲覧指示を行う。
学生に対する評価 毎回の課題（感想文を含む）で評価する。記憶しておくべき語句とその定義については小テストする。 課題（感想文を含む）の内容について、学生が、自身の思考の基準を主体的に・自律的に向上させようとしているか、という点（特に、“自己生成”および“感情化”という観点）を重視する。

授業科目名： 幼児と言葉 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 藤田　豊／竜田　徹 担当形態： クラス分け・単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・言葉

授業のテーマ及び到達目標

保育内容における「言葉」の役割を理解する。

授業の概要

受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら保育内容における「言葉」の役割を考察する。

授業計画

第１回：保育における言葉の役割を理解する

第２回：０歳～３歳児未満の言葉とその発達を理解する

第３回：３歳～５歳児未満の言葉とその発達を理解する

第４回：５歳児～１年生の言葉とその発達を理解する

第５回：幼児期の言葉の発達に向けた保育者の役割を理解する

第６回：言葉を育てる児童文化財の種類や役割を理解する

第７回：絵本を対象とした教材研究に取り組む

第８回：教材研究の成果を発表する

定期試験なし

テキスト

・文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

・文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

・『令和５年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社、2024年』チャイルド本社、2017年

・近藤幹生・寶川雅子・源証香・小谷宣路・瀧口優『改訂2版　実践につなぐことばと保育』ひとなる書房、2019年

・岡本夏木『幼児期』岩波書店、2005年

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する

学生に対する評価

授業への参加（討論・発表）とレポートによる

授業科目名： 幼児と表現Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山﨑　浩隆／荒巻　治美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現

授業のテーマ及び到達目標

幼児の生活環境における音や音楽的な事象や事柄に気付かせ、それに対する感性と，幼児の表現に関する知識を身に付け、自ら気づけるようになることを目的とする。実際の幼児の活動実践の分析や基本的な音楽的な活動を通して、幼児と音楽表現の関連を理解する。

授業の概要

幼児の表現における音楽の位置や意味を理解したり、そのために必要な表現媒体などを追及したりする。「表現とは何か」という問いのもとに、学生にアクティブなグループディスカッションや探究的な活動を通して幼児期における表現体験とその本質について考察する。

授業計画

第１回：幼児の音楽的活動
第２回：音楽的活動と他領域との関係
第３回：表現活動の展開－聞くこと－
第４回：表現活動の展開－身体の動き－
第５回：表現活動の展開－歌うこと－
第６回：表現活動の展開―楽器を弾くこと―
第７回：表現活動の展開―即興表現―
第８回：幼児の音楽表現指導の在り方
定期試験なし

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）
保育所保育指針（厚生労働省　平成２９年告示）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領解説（文部科学省　平成３０年２月）
保育所保育指針解説（厚生労働省　平成３０年２月）

学生に対する評価

レポートと講義への取り組み状況、複数回の小テストで習熟度を判断する。

授業科目名：幼児と表現Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独
科　目	領域および保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		

授業のテーマ及び到達目標

領域「表現」における造形的内容について、そのねらいと内容を理解する。また、初等教育とのつながりについて理解する。

授業の概要

講義形式で行う。幼児の発達に伴う造形的な遊びや表現の変化、表現のための適切な環境構成や支援のあり方について、適宜ビデオ視聴を行いながら進めていく。

授業計画

第１回：初回ガイダンス（本科目のねらいと内容）
第２回：表現と感性をめぐって
第３回：創造性と身体感覚、造形の発達
第４回：幼児の心身の発達と描画の特徴
第５回：幼児の心身の発達と立体表現の特徴
第６回：表現を育てる環境
第７回：教育課程における表現の位置づけ
第８回：まとめ、領域「表現」の指導・支援と初等教育への接続
定期試験なし

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

参考書・参考資料等

適宜資料配布を行う

学生に対する評価

複数回の小レポートで評価を行う。

授業科目名： 保育内容（健康） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 末永　祐介／松山　郁夫 担当形態： クラス分け・単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ：乳幼児の保育内容（健康）の全般について学び、その理解を深めること。

到達目標：乳幼児を取り巻く環境に関心を持ちながら、乳幼児における健康、心身・運動・生活習慣の発達、遊びの意義を捉え、指導のあり方を学習し、これらについて説明できるようになること。

授業の概要

現代の乳幼児が置かれている社会状況を捉えながら、生涯に亘る健康の基礎となる乳幼児期の心身の成長や発達に関する理解を深める。主に講義形式で行うが、乳幼児期の健康に対する支援のあり方については教材研究、指導案作成、模擬保育等を通して検討する。

授業計画

第１回：乳幼児の健康の意義

第２回：乳幼児の基本的生活習慣とその獲得

第３回：乳幼児の身体と生理的機能の成長と発達

第４回：乳幼児の知的機能・運動機能とその発達

第５回：乳幼児の情緒・パーソナリティとその発達

第６回：乳幼児における遊びの意義・遊びと健康に関する教材研究

タブレット等の情報機器を使って、絵を描いたり花の名前を調べたりして、幼児の学びの広げ方について学ぶ。

第７回：乳幼児における健康の内容・指導案の作成と指導：保育の計画・評価

第８回：乳幼児における健康の内容・指導案の作成と指導：模擬保育

定期試験

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

毎回の授業において講義の関連資料を配布します。

参考書・参考資料等

保育内容（健康）：無藤 隆（監修), 松嵜 洋子（著, 編集)北大路書房（2025）

障害のある子どもの保育・教育（小竹利夫・芳野正昭等編著）建帛社（2020）

幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年内閣府・文部科学省・厚生労働省告示)
学生に対する評価 定期試験で到達目標に関する習熟度で評価します（100%）。

授業科目名： 保育内容（環境） 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 田口　浩継／余公　敏子 担当形態： クラス分け・単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

1　幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を説明できる。

(1) 幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。

(2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。

(3) 幼児教育における評価の考え方を説明することができる。

(4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科・領域とのつながりを説明することができる。

2　幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を説明することができる。

(1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明することができる。

(2) 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育環境に活用することができる。

(3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

(4) 模擬保育と振り返りを通して、保育を改善する視点を説明することができる。

(5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことの重要性が説明できる。

授業の概要

1　現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、

幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容の理解を深める。

２　幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。

授業計画

第１回：幼児教育の基本と保育内容「環境」

・保育内容の基本的な構造と領域「環境」のねらい、内容について

第２回：子どもの発達と領域「環境」

・幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際について

第３回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動）

・園内で行われる幼児の遊びや活動の事例から（視聴覚教材活用）

第４回：領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園外活動）

・園外で行われる身近な施設や情報に関わる活動の事例から（視聴覚教材活用）

第５回：標識、文字等に関わる保育の実際と小学校以降のかかわり

・園生活や遊びの中で標識、文字、情報等に触れる活動について

数量・図形に関わる保育の実際と小学校以降のかかわり

・園生活や遊びの中で数量・図形等への関心・感覚を豊かにする活動について

生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際と小学校以降のかかわり

・園生活や遊びの中で身近な情報、日本文化や異文化に触れる活動について

第６回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（指導案作成）

第７回：身近な素材や自然物を用いた保育の実際（模擬保育と振り返り）

第８回：環境に関わる現代的課題

・ＳＤＧｓ、ＥＳＤ、ユニバーサルデザイン、インクルーシブ保育 他

定期試験　筆記試験

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

参考書・参考資料等

厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018年。

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年。

学生に対する評価

各授業の課題　20%、指導案作成・模擬保育の実際（40%）、筆記試験（40%）

授業科目名： 保育内容（人間関係） 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 藤田　豊／名倉　一美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

保育内容「人間関係」のねらい・内容を理解し、具体的に保育を構想する力を身に付ける

授業の概要

保育内容「人間関係」のねらいや内容を、具体的な実践と結び付けながら理解する。その上で、幼児の人間関係を育むための保育実践について、自ら創造する力を身につける。

授業計画

第１回：領域「人間関係」のねらい：人とかかわる力

第２回：領域「人間関係」のねらい：自立心

第３回：領域「人間関係」の内容：遊びを通した保育者や友達との関わり

第４回：領域「人間関係」の内容：協同的な学びにつながる遊びと小学校との接続

第５回：領域「人間関係」の内容：規範意識の芽生え、道徳性の芽生え

第６回：実践事例分析：集団での遊び場面にみる幼児の育ちと保育者の役割（情報機器の活用・指導案作成）

第７回：幼児をとりまく環境を踏まえた人間関係の指導方法（模擬保育）

第８回：まとめ

敵試験なし

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

学生に対する評価

毎時行う各講義内課題（ワーク及びミニレポート）にて評価する(100%)

授業科目名： 保育内容（言葉） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 藤田　豊／竜田　徹
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

保育内容における「言葉」の具体的な指導の方法を身につける。

授業の概要

受講者全員で幼稚園教育要領とテキストを読み進めながら、保育内容における「言葉」の役割を基盤とした教材研究、保育計画（指導案）作成、模擬保育を行い、具体的な指導の方法を検討する。

授業計画

第１回：幼稚園教育要領における領域「言葉」の位置づけを理解する

第２回：領域「言葉」に関する保育と教材研究の方法を理解する

第３回：０～２歳児の保育計画を領域「言葉」の視点から検討する

第４回：３～５歳児の保育計画（月案）を領域「言葉」の視点から検討する

第５回：３～５歳児の保育計画（日案）を領域「言葉」の視点から検討する

第６回：「わたしの絵本ノート」発表会で教材研究力と情報機器の活用力を伸ばす

第７回：領域「言葉」の視点に基づき保育計画（指導案）を作成し模擬保育を実践する

第８回：領域「言葉」の視点に基づき保育計画（指導案）のピア評価に取り組む

定期試験なし

テキスト

・文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

・文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

・『令和５年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社、2024年

・近藤幹生・寶川雅子・源証香・小谷宣路・瀧口優『改訂2版　実践につなぐことばと保育』ひとなる書房、2019年

・岡本夏木『幼児期』岩波書店、2005年

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への参加（討論・発表）とレポートによる。

授業科目名： 保育内容（表現Ⅰ） 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山﨑　浩隆／荒巻　治美 担当形態： 単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1，音楽学習領域における実践的な指導力を習得すること

2，幼稚園教育要領の「表現」に示された内容に基づいて、子どもにとっての音楽の意味を理解するとともに、子どもの豊かな感性や創造性を育むための基本的知識と援助・指導方法について学習する。

授業の概要

1，子どもの身体的特性についての理解を深め、音楽における身体表現の意味を探る。

2，保育者に必要な音楽知識や技術を習得するとともに、保育における音楽活動のあり方について考察する。

授業計画

第1回 保育内容（表現）のねらいと内容

第2回 音楽における身体表現の意味

第3回 音楽における身体表現の実習

第4回　歌唱表現の研究―歌詞を中心に―

第5回　歌唱表現の研究―旋律を中心に―

第6回　表現指導の準備（指導案の作成と情報機器の活用を含む）

第7回　模擬保育（音楽表現指導）

第8回　幼児期における音楽学習の意義及びレポート作成

定期試験なし

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

適宜資料を配付します

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

講義中の課題への取り組みと発表内容　50％

レポート　50%

授業科目名： 保育内容（表現Ⅱ） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

教材研究、保育案の作成、保育模擬実践を通して、幼児教育実践の基礎的知識と能力を身につける。

授業の概要

教材研究、保育案の作成、保育実践の観点から、幼児教育実践の基礎的能力を養うよう設定している。具体的には、表現素材の知識、保育案の形式・内容・評価法に関する理解を進める。保育実践の適切な環境設定について理解を進める。指導計画の作成と模擬実践に取り組むとともに、相互批評を通して指導法の獲得へつなげる。

授業計画

第１回：オリエンテーション(幼稚園教育要領の内容、発達と表現、幼小連携)

第２回：表現素材の特徴の把握、園児への関わり方、表現方法について

第３回：自然素材の教材研究と講義（見立てからの発想と指導・支援について）

第４回：描画材の効果の教材研究と講義（諸種の描画活動の指導・支援と映像の活用について）

第５回：立体の表現の教材研究と講義（生活材の教材化と指導・支援、映像記録手法について）

第６回：保育指導案の作成（形式と具体的内容、環境設定について）

第７回：模擬保育の実践と相互検討

第８回：まとめとレポート提出

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

参考書・参考資料等

佐賀大学教育学部附属幼稚園『研究紀要』第15集（2023年2月発行）

学生に対する評価

保育案および小レポートで評価

授業科目名： 保育表現演習Ⅰ（言語表現）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 竜田　徹
			担当形態： 単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

・知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤となる言葉の意義と役割について理解する。

・多様な言語文化財の特徴と保育活動に果たす役割について理解する。

授業の概要

受講者全員で幼稚園教育要領と資料を読み進めながら、幼児の発達における言葉の意義と役割を考える。また、絵本・紙芝居等の言語文化財の特徴を理解し、工夫して活用することができるようにする。これらの演習や受講者同士のコミュニケーションに積極的に取り組むことで、保育者として幼児にかかわる姿勢を形成する。

授業計画

第１回：言語と人間―言語の意義と機能、話し言葉と書き言葉

第２回：乳幼児期の言葉とその発達――言葉の機能への気付き

第３回：ことばの獲得――言葉に対する感覚の形成とその具体例

第４回：幼児の言葉の発達を支える大人のことばかけとことば遊び

第５回：言葉の感覚を豊かにする実践――幼児の発達と関わらせて

第６回：幼児の発達段階と絵本・紙芝居選び

第７回：絵本・紙芝居の分析とその読み聞かせ

第８回：言葉を豊かに育てる児童文化財

テキスト

・文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

・文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

・『令和５年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社、2024年

・岡本夏木『子どもと言葉』岩波書店、1982年

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する

学生に対する評価

・幼児の発達における言葉の意義と役割の理解：レポート30％

・絵本・紙芝居等の言語文化財の特徴の理解と活用：レポート30％、実演10％

・受講者同士のコミュニケーション、保育者として幼児にかかわる姿勢。：振り返り30％

授業科目名： 保育表現演習Ⅱ（運動表現）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 堤　公一
			担当形態： 単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、幼稚園教員として幼児期の運動遊びを支援するために必要な幼児期の運動発達の特徴と意義を理解するとともに、いろいろな運動遊びについてその考え方や進め方を理解することができる。

到達目標は、以下の通りである。

１．実践演習を通して、運動遊びの実践内容を体感することができる。

２．指導実践演習を通して、運動遊びの計画・実践・振り返りについて、指導法を理解することができる。

授業の概要

本授業は、幼稚園教育要領の心身の健康に関する領域「健康」のねらいや内容などの基本的な考え方を理解するとともに、幼稚園における運動遊びの基本的な考え方や具体的な実践内容、指導法を理解する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）

第２回：幼児期における健康と発達の特性（幼稚園教育要領領域「健康」の理解）

第３回：幼児期における生活習慣と運動発達の特徴
（幼稚園教育要領領域「健康」の理解と運動遊びの意義）

第４回：幼児期における安全教育と運動遊びの指導
（動きの多様化・洗練化を引きだす環境構成の工夫とその支援））

第５回：実践演習②運動遊び（表現リズム遊び）

第６回：実践演習⑤運動遊び（ジャンケン遊び）

第７回：指導実践演習②運動遊び（表現リズム遊び）

第８回：総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）

定期試験は実施しない

テキスト

・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房

・文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館

参考書・参考資料等

・幼児期運動指針（平成24年３月・文部科学省） ・髙内正子（2021）『子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」』教育情報出版
学生に対する評価 リフレクションレポート30%、授業リフレクション60%、意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 保育表現演習Ⅲ（造形表現）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 栗山　裕至
			担当形態： 単独

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

保育実践における造形的な活動・行為の意義や可能性について理解する。

授業の概要

造形的な活動を中心に演習を行いながら、保育実践における造形活動の内容と実践上の重要点について学修を進める。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：自然素材を使った造形活動

第３回：身に着けて遊ぶ道具作りの造形活動

第４回：絵の具を使った描画活動①バチック、スタンピング

第５回：絵の具を使った描画活動②ローラーによる活動

第６回：カラーポリ袋を使った立体表現

第７回：粘土を使った立体表現

第８回：幼児の造形活動に関わるビデオ視聴、まとめ

定期試験は行わない

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

参考書・参考資料等

実施内容に合わせて、適宜資料配布を行う。

学生に対する評価

活動内容をまとめたレポートにより評価

授業科目名： 保育表現演習Ⅳ （リズム表現）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人、荒巻 治美
			担当形態： 複数

科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

リズム表現は身体の動きを伴う活動を通じた音楽表現の重要な要素である。さらに他者との交流によって行う活動は、コミュニケーション能力を高め社会性を育んでいくことにつながっている。これらに事を踏まえた幼児教育に活用する方法の研究が、当科目の開講意図である。演習を通じて得た知識と技能を活かし、独自のアイデアを含む教材を作ることができることを到達目標とする。

授業の概要

保育表現の中のリズム表現について、基礎知識を獲得し応用する力を身につけるための演習を行う。ボディパーカッションの教材例を自ら体験する中から、独自のアイデアを活用した教材を作成する方法を研究する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：リズム表現の導入（リズムの基本原理の確認）

第３回：簡単なリズム表現への展開

第４回：リズム模倣

第５回：ボディパーカッションの要素を加えたリズム模倣

第６回：応答形式によるリズム表現

第７回：歌に合わせたリズム表現

第８回：アンサンブル形式のボディパーカッション課題

定期試験

テキスト

文部科学省「幼稚園教育要領（平成 29 年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年３月」フレーベル館（2018）

適宜配布

参考書・参考資料等　適宜配布

学生に対する評価

授業中のグループ活動への参加態度（40%）、基礎的事項の理解度（30%）、定期試験（30%）などを総合的に判断して評価する。

授業科目名： 初等国語 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 中尾　健一郎、跡上　史郎、山下　真里／中里　理子、奥野　新太郎 担当形態： クラス分け・オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1．小学校国語科における専門的な内容について理解することができる。

2．小学国語の専門的な内容について具体的な教材を通して検討することができる。

3．小学国語の専門的な内容について言語生活と重ねて思考することができる。

授業の概要

本授業では、小学校国語科の専門的な内容（言葉の知識、文学的文章、言語文化）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。

授業計画

第１回　ガイダンス、日本語の特徴　（山下　真里／中里　理子）

第２回　言葉の知識１（文字・表記など）　（山下　真里／中里　理子）

第３回　言葉の知識２（敬語・文法など）　（山下　真里／中里　理子）

第４回　文学的文章（日本の作品）　（跡上　史郎／中里　理子）

第５回　文学的文章（外国の作品）　（跡上　史郎／奥野　新太郎）

第６回　言語文化・韻文　（中尾　健一郎／奥野　新太郎）

第７回　言語文化・散文　（中尾　健一郎／奥野　新太郎）

第８回　言語文化・故事成語　（中尾　健一郎／奥野　新太郎）

定期試験は実施しない

テキスト

適宜プリント配布等を行う

参考書・参考資料等

授業時間中に紹介する

学生に対する評価

課題による評価を行う。課題は担当各教員の指示により教員ごとに提出。授業の時間数により教員の評価を比率配分した上で合算する。（ 山下37.5%、跡上25%、中尾37.5%）（中里50%、奥野50%）

授業科目名： 初等書写【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 林田　恵実／藤木　香江
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1．小学校国語科における専門的な内容について理解することができる。

2．小学国語の専門的な内容について具体的な教材を通して検討することができる。

3．小学国語の専門的な内容について言語生活と重ねて思考することができる。

授業の概要

本授業では，小学校国語科の専門的な内容（書写）を扱う。各分野において、国語科の内容についての課題の検討及び発展的内容の理解を図る。

授業計画

第１回：オリエンテーション、国語科書写の学習内容、姿勢・執筆（硬筆）

第２回：　硬筆　平仮名・片仮名、漢字の点画の種類・外形・中心

第３回：　硬筆　漢字の点画や部分の組み立て方、漢字の筆順と字形

第４回：　硬筆　文字の大きさと配列、はがきの書き方①

第５回：　硬筆　はがきの書き方②

第６回：　硬筆　掲示物の作成

第７回：　毛筆　平仮名・片仮名

第８回：　毛筆　漢字

定期試験は実施しない

テキスト　　特定の教科書は用いず、適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等　　小学校学習指導要領解説国語科編・中学校学習指導要領解説国語科編、国語科書写の理論と実践！

学生に対する評価　レポート（１６％）　硬筆課題作品（６０％）　毛筆課題作品（２４％）

授業科目名： 初等社会 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 黨　武彦、山本耕三、春田直紀、大野　正久／後藤　正英、黒田　圭介、岡本　託、吉岡　剛彦 担当形態： クラス分け・オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・社会

授業のテーマ及び到達目標

小学校社会科の意義と目標を踏まえたうえで、教育内容について検討するとともに、教材研究の進め方についての方法論の基礎を習得する。

授業の概要

学習指導要領をもとに小学校社会科の特質と役割、目標と内容構成について説明する。そして、小学校社会科で扱ういくつかのトピックを地理・歴史・公民の３分野に分けて取り上げ、その内容に関する教材研究の進め方についても講義する。

授業計画

第１回：小学校社会科の特質と役割　　（黨　武彦／後藤　正英）
第２回：小学校社会科の目標と内容　　（黨　武彦／後藤　正英）
第３回：小学校社会科地理分野の教育内容（山本耕三／黒田　圭介）
第４回：小学校社会科地理分野の教材研究（山本耕三／黒田　圭介）
第５回：小学校社会科歴史分野の教育内容（春田　直紀／岡本　託）
第６回：小学校社会科歴史分野の教材研究（春田　直紀／岡本　託）
第７回：小学校社会科公民分野の教育内容（大野　正久／吉岡　剛彦）
第８回：小学校社会科公民分野の教材研究（大野　正久／吉岡　剛彦）

テキスト

『小学校学習指導要領解説　社会編』文部科学省

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

上記到達目標について担当者ごとに評価を行い、合算によって本授業科目の評点を算出する。

授業科目名： 初等算数【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中川　泰宏、籾原　幸二、吉村　昇、吉井　貴寿／橋永　貴弘
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数

授業のテーマ及び到達目標

論理･集合，代数，幾何，解析，応用数学等の中から，いくつかの話題を取り上げ，学ぶことを通して，算数を教えるために必要とされる数学的知識を獲得する。

授業の概要

論理･集合，代数，幾何，解析，応用数学等の中から，いくつかの話題を取り上げて紹介する。また，それらの内容と小学校算数の繋がりを考えたり，それらの内容を発展的に考察しさらに理解を深めたりする活動を行い，算数の指導力向上に繋げる。

授業計画

第１回：オリエンテーション，幾何１（幾何学とその応用）（吉村　昇／橋永　貴弘）
第２回：幾何２（平面幾何と空間幾何）　（吉村　昇／橋永　貴弘）
第３回：代数１（数とその性質）　（吉井　貴寿／橋永　貴弘）
第４回：代数２（数の性質の応用）　（吉井　貴寿／橋永　貴弘）
第５回：論理・集合（数学と人間の活動）（籾原　幸二／橋永　貴弘）
第６回：応用数学（数学と社会生活）　（籾原　幸二／橋永　貴弘）
第７回：解析（数学的な表現の工夫）　（中川　泰宏／橋永　貴弘）
第８回：全体の振り返り（試験）　（中川　泰宏／橋永　貴弘）

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介する。

学生に対する評価

試験(60%)・レポート(40%)の結果6割以上の成績を修めたものを合格とする。

授業科目名： 初等理科【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田邊　力、岸木　敬太、村田　貴広、島田　秀昭／嬉　正勝、角縁　進、岡島　俊哉、中村　聡 担当形態： クラス分け・オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 理科

授業のテーマ及び到達目標

小学校理科の教科内容に関する基礎的知識を身につけ、また授業実施のための特性について学ぶ。

授業の概要

将来、小学校教員になった際に自信を持って理科を指導できるように、小学校理科教科書４領域（エネルギー、粒子、生命、地球）の知識を確かなものとすると同時に、授業実施のための教科特性を理解する。

授業計画

第１回：（ガイダンス）生命の単元について　（田邊　力／嬉　正勝）
第２回：生命分野のまとめと復習　（田邊　力／嬉　正勝）
第３回：地球分野の単元について　（岸木　敬太／角縁　進）
第４回：地球分野のまとめと復習　（村田　貴広／角縁　進）
第５回：エネルギー分野の単元について　（岸木　敬太／中村　聡）
第６回：エネルギー分野のまとめと復習　（岸木　敬太／中村　聡）
第７回：粒子分野の単元について　（村田　貴広、島田　秀昭／岡島　俊哉）
第８回：粒子分野のまとめと復習　（村田　貴広、島田　秀昭／岡島　俊哉）

テキスト

担当教員より適宜資料を提供する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領　解説　理科編
「たのしい理科 3年, 4年, 5年, 6年」大日本図書など，佐賀県または熊本県の小学校で使用する理科教科書

学生に対する評価

試験，小レポートにより評価。

授業科目名： 初等生活 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 飯野(金柿) 直子、春田　直紀、田口　浩継、八幡(谷口) 彩子／黒田　圭介、坂本　憲明、栗山　裕至，中西　雪夫 担当形態： クラス分け・オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ·生活

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：小学校の生活科において必要な基礎的知識を習得する。

授業の概要

小学校「生活」の教育内容について、（1）社会と子ども、（2）自然と子ども、（3）遊びと子ども、（4）家庭と子どもの4つの分野に分けて、オムニバスで講義形式の授業をオンラインで行う。

授業計画

第1回：社会と子ども（1）生活科と小学校社会科（地理）との関連について（飯野(金柿)直子／黒田　圭介)

第2回：社会と子ども（2）町探検における具体的な実践事例を学ぶ(飯野(金柿) 直子／黒田　圭介)

第3回：自然と子ども（1）身の回りの自然について　（春田　直紀／坂本　憲明)

第4回：自然と子ども（2）自然と子どもの認識について　（春田　直紀／坂本　憲明)

第5回：遊びと子ども（1）社会像の変貌と遊びの位置づけ　（田口　浩継／栗山　裕至)

第6回：遊びと子ども（2）実態調査から見えてくる子どもの生活と遊び（田口　浩継／栗山　裕至)

第7回：家庭と子ども（1）家庭生活の実態について　（八幡(谷口) 彩子／中西　雪夫)

第8回：家庭と子ども（2）子どもの家庭生活への関わりについて（八幡(谷口) 彩子／中西　雪夫)

定期試験は実施しない。

テキスト

使用しない。資料を配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説　生活編（平成29年度告示，文部科学省）

学生に対する評価

分野ごとに、毎時課題または最終課題によって評価する。

配点は各分野25点ずつとし，総合点によって判定を行う。

授業科目名： 初等音楽 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山田　高誌、稲森　安太己、中原　雅彦、山﨑　浩隆／荒巻　治美、石川　美也子、小村　朋代、今井　治人 担当形態： クラス分け・オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽

授業のテーマ及び到達目標

小学校音楽科を指導するために必要な基礎的知識を習得し、授業を実践するための基礎的技能を身につける。

授業の概要

小学校音楽科の授業を実践する上で必要な楽譜の読み書きや音楽の規則を理解するとともに、発声法，演奏法や音楽の歴史について知る。

授業計画

第１回：ガイダンス、求められる知識および技能（山﨑　浩隆／荒巻　治美）
第２回：音楽史１（世界の音楽）　（山田　高誌／今井　治人）
第３回：音楽史２（西洋の音楽）　（山田　高誌／今井　治人）
第４回：楽典１（音程について）　（稲森　安太己／石川　美也子）
第５回：楽典２（調性・音階について）　（稲森　安太己／石川　美也子）
第６回：発声法について　（中原　雅彦／小村　朋代）
第７回：歌唱について　（中原　雅彦／小村　朋代）
第８回：授業の実際と必要な知識・技能　（山﨑　浩隆／荒巻　治美）

テキスト

必要があれば配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

本授業はオムニバス形式で行うため、各回ごとに示す課題およびフィードバックによって評価する。 担当教員ごとの授業回数に応じ5～20点で評価し、それを合算する。

授業科目名： 小学音楽実技(ピアノ) 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽

授業のテーマ及び到達目標

小学校教員に必要なピアノの基礎技能を学ぶ。

授業の概要

小学校の授業展開に必要なピアノを演奏する上での基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。

授業計画

第１回：ピアノ演奏における手の使い方

第２回：片手奏・基礎Ⅰ

第３回：両手奏・基礎Ⅱ

第４回：楽曲演奏・基礎Ⅲ

第５回：演奏発表の基礎

第６回：模範奏の役割

第７回：唱歌演奏基礎Ⅰ

第８回：唱歌演奏基礎Ⅱ

個々の技能や進度に合わせて、1~8回の内容を総合的に指導する。

実技試験

テキスト

ハノン・バイエル（全音出版社、音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・40％

実技試験・・60％

授業科目名： 小学音楽実技(声楽) 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 小村　朋代
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽

授業のテーマ及び到達目標

小学校教員に必要な音楽基礎技能を学ぶ。

授業の概要

声楽についての基本的技能・知識を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。

授業計画

第１回：歌う際の身体の使い方（体操・発声）

第２回：リズム唱

第３回：視唱

第４回：文部省唱歌歌唱指導Ⅰ

第５回：文部省唱歌歌唱指導Ⅱ

第６回：外国語歌曲指導（英語・独語・伊語）

第７回：歌曲解釈

第８回：歌曲表現

個々の技能や進度に合わせて、1~8回の内容を総合的に指導する

実技試験

テキスト

声楽教本（教育芸術社）ほか

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・40％

実技試験・・60％

授業科目名： 初等図画工作【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 喜久山　悟、松永　拓己／栗山　裕至
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作

授業のテーマ及び到達目標

図画工作の指導者に必要な実技表現・鑑賞に関する内容を修得する。

授業の概要

図画工作科の意義を明らかにし、表現及び鑑賞の活動をおこないながら、図画工作指導を行うに必要な、資質・能力を育成するものである。

授業計画

第１回：ガイダンス・・・図画工作科の学習内容について概要を理解する。（喜久山　悟／栗山　裕至）

第２回：子どもと造形表現・・・「造形遊び」の実践と指導を中心に、子どもにとっての造形活動の意義について考える。（松永　拓己／栗山　裕至）

第３回：描画活動について・・・絵画の技能について広く理解し、子どもの描画の発達段階に応じた指導力を培う。（松永　拓己／栗山　裕至）

第４回：平面表現について・・・平面作品制作によって育てられる思考力・判断力・表現力について実践をもとに理解する。（松永　拓己／栗山　裕至）

第５回：立体表現について１・・・立体作品制作を実践的に取り組む。（喜久山　悟／栗山　裕至）

第６回：立体表現について２・・・立体作品制作によって育てられる思考力・判断力・表現力について考察を加える。（喜久山　悟／栗山　裕至）

第７回：美術鑑賞教育について・・・美術作品の鑑賞とその指導法を学習する。（松永　拓己／栗山　裕至）

第８回：まとめ・・・表現・鑑賞の実践を通じて本教科の特色を活かした授業づくりの要点をまとめていく。（喜久山　悟／栗山　裕至）

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年）

参考書・参考資料等

図画工作科教科書各種

学生に対する評価 提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名： 初等家庭 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 八幡（谷口） 彩子、中迫 由実、篠塚　致子／澤島　智 明、小松　美和子、萱島　知 子、奥谷（竹内）めぐみ、 担当形態： クラス分け・オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭

授業のテーマ及び到達目標　小学校家庭科における基礎知識を獲得することができ、基礎技能への理解を深めることができる。小学校教員としての指導力を身につけることができる。

授業の概要　小学校家庭科の授業づくりための基礎的知識について内容を解説するとともに基礎技能を習得するための演習等を行う。

授業計画

第１回：家庭生活と家族の協力・協働　（八幡（谷口） 彩子／奥谷（竹内） めぐみ）
第２回：持続可能な社会と消費生活・環境　（八幡（谷口） 彩子／奥谷（竹内） めぐみ）
第３回：生活文化における食生活（基礎知識）　（篠塚　致子／萱島　知子）
第４回：生活文化における食生活（現代の課題）（篠塚　致子／萱島　知子）
第５回：生活文化における衣生活（基礎知識）　（篠塚　致子／小松　美和子）
第６回：生活文化における衣生活（現代の課題）（篠塚　致子／小松　美和子）
第７回：生活文化における住生活（基礎知識）　（中迫　由実／澤島　智明）
第８回：生活文化における住生活（現代の課題）（中迫　由実／澤島　智明）

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

中西雪夫他（編）『小中学校家庭科の授業をつくる　5年間を見通すための理論・実践・基礎知識）』学術図書出版（2023）
鳴海多恵子他『わたしたちの家庭科　5・6』開隆堂（2024）
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編』東洋館出版（2018）
岡陽子他『新編　新しい家庭科　5・6』東京書籍（2025）

学生に対する評価

課題、授業中に作成する小レポート、試験等で評価する。

授業科目名： 初等体育【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 末永　祐介／山津　幸司、坂元　康成、井上　伸一 担当形態： クラス分け・単独／オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育

授業の到達目標及びテーマ

本授業のテーマは、小学校教員として指導すべき運動種目（陸上運動、器械運動、体つくり運動、球技、水泳）の基本的な技能を習得する。また、新体力テストの実施目的や実施方法を習得する。到達目標は「小学校教員として体育の授業を行うために、各運動領域の基本的な内容を十分に理解し、指導法を習得することができる」ようになることである。

授業の概要

本授業は、小学校学習指導要領において体育の内容として取り上げられている運動領域「陸上運動」「器械運動」「体つくり運動」「球技」「水泳」および「新体力テスト」の学習内容を理解し、教員としてそれぞれの運動種目を指導していくために必要な基本的な技能を学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション（末永　祐介／山津　幸司、坂元　康成、井上　伸一）
第２回：陸上運動（陸上運動の内容および方法を理解する）（末永　祐介／山津　幸司、坂元　康成、井上　伸一）
第３回：器械運動（器械運動の内容および方法を理解する）（末永　祐介／山津　幸司、坂元　康成、井上　伸一）
第４回：体つくり運動（体つくり運動の内容および方法を理解する）（末永　祐介／山津　幸司、坂元　康成、井上　伸一）
第５回：球技①（ゴール型球技の内容および方法を理解する）（末永　祐介／坂元　康成）
第６回：球技②（ベースボール型球技の内容および方法を理解する）（末永　祐介／井上　伸一）
第７回：水泳系（水泳系の内容および方法を理解する）（末永　祐介／山津　幸司）
第８回：新体力テスト（新体力テストの内容および方法を理解する）（末永　祐介／山津　幸司）

テキスト

教科書は使用しない。随時、配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説体育編」https://www.mext.go.jp/content/20240918-mxt_kyoiku01-100002607.pdf 鈴木秀人・山本理人・杉山哲司編著（2009）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖（2010）「新版体育科教育学入門」大修館書店
学生に対する評価 演習レポート、意欲（授業への取り組み）を総合的に評価する。

授業科目名： 初等外国語【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 岡﨑　伸一／林（内田）裕子 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		

授業の到達目標及びテーマ

（1）小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力を身に付ける。

（2）小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語に関する背景的な知識を身に付ける。

小学校外国語活動及び外国語の授業実践に必要な英語表現を，題材（話題・場面）ごとに整理し，演習を通して実践的な英語運用能力の向上を図る。８回の授業を通して，英語の音声の仕組み（アクセント，リズム，イントネーション，発音と綴りの関係など）や正書法，文学素材などについて講義と演習を交えて学びながら英語に関する背景的な知識を身に付け，小学校での外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用能力の習得を図る。

授業計画

第１回：オリエンテーション，第二言語習得に関する基本的な知識

第２回：音声に関する基本的な知識（母音，子音，フォニックスなど）

第３回：教室英語表現、場面や目的に応じたＡＬＴとの会話（聞くこと・話すこと）

第４回：文構造・文法に関する基本的な知識（読むこと・書くこと）

第５回：　チャンツ，歌の指導　（聞くこと・話すこと）

第６回：児童文学（歌や詩，絵本）（読むこと）

第７回：正書法・板書や提示物における英語の正しい表記（書くこと）

第８回：異文化理解，まとめ

定期試験

テキスト

「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」（中村典生 他著　東京書籍）(2022)

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省）、小学校外国語活動・外国語の研修ガイドブック　http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

学生に対する評価

期末試験　５０％，授業課題の達成度　５０％

授業科目名： 初等国語科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北川　雅浩／達富　洋二 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について理解し、学習指導案を作成する上で必要とされる実践的な知識や構想力を身に付ける。

授業の概要

『小学校学習指導要領解説　国語編』に基づいて国語科の目標・内容を理解し、小学校国語科教科書の教材を用いて学習指導や評価の方法についての理解を深める。

授業計画

第１回：学習指導要領と年間指導計画
第２回：「国語の特徴に関する事項」の学習指導
第３回：「伝統的な言語文化に関する事項」の学習指導（書写を含む）
第４回：単元の学習計画
第５回：指導事項と対応させた言語活動の設定
第６回：１単位時間の学習計画
第７回：「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導の手立て
第８回：総括・レポートの作成
定期試験は実施しない

テキスト

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版社（2018）
・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）

参考書・参考資料等

授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（50%）、授業の最後に提出する小レポート（50%）

授業科目名： 初等国語科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 北川雅浩／達富洋二
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、リフレクションを通して小学校国語科の学習指導方法についての理解を深める。

授業の概要

「初等国語科指導法Ⅰ」で学んだことをもとに、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。模擬授業後にリフレクションを行い、授業の中で得られた実践的知識の共有と深化を図る。

授業計画

第1回：国語科授業の実践知
第2回：「話すこと・聞くこと」の単元づくり
第3回：「書くこと」の単元づくり
第4回：「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の学習指導案の作成
第5回：「読むこと」の単元づくり
第6回：「読むこと」の学習指導案の作成
第7回：模擬授業とICT活用のリフレクション
第８回：総括・レポートの作成
定期試験は実施しない

テキスト

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版社（2018）
・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）

参考書・参考資料等

授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価

学習指導案及び模擬授業（50%）、授業の最後に提出する小レポート（50%）

授業科目名： 初等社会科指導法Ⅰ【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 竹中　伸夫／土肥　大次郎 担当形態： クラス分け／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・社会

授業のテーマ及び到達目標

・講義に基づき、多様な社会科授業の目標観の特質と課題、実践上の留意点を理解するとともに、それを通して自らの目標観を相対化し、再構築できる。

・そうして再構築した目標観に基づき授業を構成していくこと（カリキュラム・マネジメント）の重要性と必要性について気付く。

授業の概要

社会科といえば知識を暗記することとの誤解を解くことを目的に、学習指導要領の解説や過去や外国の社会科教育の事例なども参照しながら、社会科とは何でなければならないのかを理論的に解明する。今後実践的に社会科の在り方を考えるうえで必須の理論的基盤を確立させる。

授業計画

第１回：オリエンテーション：社会科とはどのような科目か（竹中伸夫／野田　秀樹）

第２回：にもかかわらず、現状どうなっているのかー暗記教育と活動主義の特質と限界ー
（竹中伸夫／野田　秀樹）

第３回：その目標の実現のために小学校中学年社会科は何の育成を目指しているのかー学習指導要領の解説を手がかりにー　（竹中伸夫／野田　秀樹）

第４回：その目標の実現のために小学校高学年社会科は何の育成を目指しているのかー学習指導要領の解説を手がかりにー　（竹中伸夫／野田　秀樹）

第５回：ほかにどのような教育がありえるかー教育史を手がかりに（初期社会科とは何か）ー
（竹中伸夫／野田　秀樹）

第６回：ほかにどのような教育がありえるかー比較教育①（イギリスの教育とは何か）ー
（竹中伸夫／野田　秀樹）

第７回：ほかにどのような教育がありえるかー比較教育②（ハーバード社会科とは何か）ー
（竹中伸夫／野田　秀樹）

第８回：社会科の目標観の類型とカリキュラム・マネジメント（竹中伸夫／野田　秀樹）

定期試験はしない

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」日本文教出版（2018）

社会認識教育学会編『小学校社会科教育』平成31年4月
参考書・参考資料等 講義中に適宜指示する
学生に対する評価 レポート100％

授業科目名： 初等社会科指導法Ⅱ **【シラバス共通科目（熊大・佐大）】**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 藤瀬　泰司／土肥　大次郎 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・社会

授業のテーマ及び到達目標

・小学校社会科の主教材である教科書の特性・特質を理解できる。

・教科書を活用した小学校社会科の授業を開発することができる。

・模擬授業を実施してそのよしあしを検討することができる。

授業の概要

・教科書の特性・特質を踏まえた教材（教科書）研究に取り組む。

・教科書を活用して小学校社会科の学習指導案を作成する。

・模擬授業を実施して，その検討会を開催する。

授業計画

第１回：オリエンテーション―小学校社会科の授業動画―

第２回：小学校社会科の教材研究①―教科書の特性・特質―

第３回：小学校社会科の教材研究②―教科書の分析―

第４回：小学校社会科の授業づくり①―グループの編成―

第５回：小学校社会科の授業づくり②―授業目標の設定―

第６回：小学校社会科の授業づくり③―学習指導案（評価含む）の作成―

第７回：小学校社会科の授業づくり④―模擬授業（ICT活用含む）の実施―

第８回：まとめ―模擬授業の検討会―

※定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」日本文教出版（2018）

社会認識教育学会編『小学校社会科教育』学術図書（2019）

適宜、レジュメを配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』

学生に対する評価

レポートの作成40％、学習指導案の作成40％、模擬授業20％

授業科目名： 初等算数科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 吉村　昇、吉井　貴寿／大林　将呉
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・算数

授業のテーマ及び到達目標

・　この講義では、次の点について理解を目指す。

(1)小学校の主要教科としての算数科の目標についての理解

(2)小学校算数科の学習内容について高い立場からの理解(メタ知識の獲得と問題意識)。

(3)算数教育に関する従来の研究成果をもとに、算数科教育の方法論の理解と問題意識。

・　到達目標（A水準）

(1)算数科の目標及び内容を理解し、その指導を考えることができる。

(2)算数・数学教育の課題を理解し、それをふまえてこれからの教育を考えることができる。

授業の概要

・　算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。

授業計画

第１回：オリエンテーション　小学校学習指導要領算数科の目標（吉井　貴寿／大林　将呉）

第２回：「数と計算」領域の指導の概要と実際　低学年・中学年（吉村　昇／大林　将呉）

第３回：「数と計算」領域の指導の概要と実際　中学年・高学年（吉井　貴寿／大林　将呉）

第４回：「測定」領域の指導の概要と実際　（吉井　貴寿／大林　将呉）

第５回：「変化と関係」領域の指導の概要と実際　（吉村　昇／大林　将呉）

第６回：「図形」領域の指導の概要と実際　（吉井　貴寿／大林　将呉）

第７回：「データの活用」領域の指導の概要と実際　（吉村　昇／大林　将呉）

第８回：全体の振り返り（後半に試験またはレポート）　（吉村　昇／大林　将呉）

テキスト：特に使用しない

参考書・参考資料等

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編」日本文教出版（2018）

教育実習で用いる教科書

学生に対する評価

各回の授業課題（40%）、試験・レポート（60%）により総合的に評価する。

授業科目名： 初等算数科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 吉村　昇、吉井　貴寿／大林　将呉
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・算数

授業のテーマ及び到達目標

・　この講義では、次の点について理解を目指す。

(1)小学校の主要教科としての算数科の目標についての理解

(2)小学校算数科の学習内容について高い立場からの理解(メタ知識の獲得と問題意識)。

(3)算数教育に関する従来の研究成果をもとに、算数科教育の方法論の理解と問題意識。

・　到達目標（A水準）

(1)算数科における教材研究の具体的な方法を知り、それを実践することができる。

(2)算数科教育の方法論と問題意識をもとに、学習指導案を作成することができる。

授業の概要

・　算数科の目標を理解するとともに、学習内容について理解する。また、算数科教育に関する従来の研究成果をもとに算数科教育の方法論を理解し、問題意識をもつ。

授業計画

第１回：制度としての算数科教育の理解（算数科の性格・特徴と課題）（吉村　昇／大林　将呉）

第２回：算数科教育における教材研究と学習指導案　　（吉井　貴寿／大林　将呉）

第３回：算数科教育におけるテクノロジーの活用（ICT活用）とその実際（吉村　昇／大林　将呉）

第４回：「数と計算」領域の授業研究　（指導案検討及び模擬授業）（吉村　昇・吉井　貴寿／大林　将呉）

第５回：「測定」領域と「変化と関係」の授業研究（指導案検討（振り返り含む）及び模擬授業）（吉村　昇・吉井　貴寿／大林　将呉）

第６回：「図形」領域の指導の実際　（指導案検討（振り返り含む）及び模擬授業）（吉村　昇・吉井　貴寿／大林　将呉）

第７回：「データの活用」領域の指導の実際（指導案検討（振り返り含む）及び模擬授業）（吉村　昇・吉井　貴寿／大林　将呉）

第８回：全体の振り返り（試験・レポート）（吉井　貴寿／大林　将呉）

テキスト：

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編」日本文教出版（2018）
参考書・参考資料等 教育実習で用いる教科書
学生に対する評価 　各回の授業課題（40%）、授業研究への取組み（30%）、試験・レポート（30%）により総合的に評価する。

授業科目名： 初等理科指導法Ⅰ 【シラバス共通（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邉　重義、飯野（金柿）直子／後藤　大二郎 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・理科

授業のテーマ及び到達目標

学習指導要領に示された理科の目標や内容や理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。

1．初等教育の学習指導要領に示された理科の目標や内容を理解する。

2．基礎的な理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。

授業の概要

初等理科教育に関する目的論、カリキュラム論、学習指導方法論、自然認識論、評価論等の各領域について概説する。

1．小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。

2．生徒の自然認識・科学的思考・理科の学力などの実態を視野に入れた理科授業設計の重要性、教科としての理科の特性に応じたICT・教材の効果的な活用法、理科学習指導案の構成と具体的実践を想定した教材研究の方法（含：理科実践研究の動向）について具体的に論じる。

授業計画

第１回：イントロダクション　（渡邉　重義、飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第２回：小学校理科の現実的課題／理科教育の目的（学習指導要領）
（渡邉　重義、飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第３回：理科の学び１：理科の見方・考え方（学習指導要領）（実習含む）
（渡邉　重義／後藤　大二郎）

第４回：理科の学び２：問題解決学習（学習指導要領）　（渡邉　重義／後藤　大二郎）

第５回：理科の学び３：子どもの自然認識　（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第６回：理科の学び４：表現活動と評価　（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第７回：理科の学び５：学習支援とICT活用　（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第８回：総括的評価とまとめ　（渡邉　重義、飯野（金柿）直子／後藤　大

二郎) レポート（定期試験は実施しない）
テキスト 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018） 文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」東洋館出版社（2018）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 レポート試験（80%）、授業における取組状況（20%）

授業科目名： 初等理科指導法Ⅱ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邉重義　飯野（金柿）直子／後藤　大二郎
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・理科

授業のテーマ及び到達目標

学習指導要領に示された理科の目標や内容や理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。

1．初等教育の学習指導要領に示された理科の目標や内容を理解する。

2．基礎的な理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。

授業の概要

初等理科教育に関する実際の授業実践を想定し、具体的な理科の学習内容について取り上げる。

1．小学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造、個別の理科学習内容についての指導上の留意点（含：発展的な内容）、理科の学習評価に対する考え方、及び教科理科と自然科学との関係性を理解するとともに、教材研究に活用できる具体的方策について論じる。

2．理科の学習内容等の発表（模擬授業）の実施とその振り返りから、授業改善の視点（含：授業設計の向上）について具体的に論じる。

授業計画

第１回：イントロダクション　（渡邉重義　飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第２回：理科の教材構成と授業実践１：3年生（学習指導要領）（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第３回：理科の教材構成と授業実践２：4年生（学習指導要領）（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第４回：理科の教材構成と授業実践３：5年生（学習指導要領）（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第５回：理科の教材構成と授業実践４：6年生（学習指導要領）（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第６回：理科の授業構想：学習指導案作成　（飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第７回：模擬授業　（渡邉重義　飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

第８回：模擬授業の省察／総括　（渡邉重義　飯野（金柿）直子／後藤　大二郎）

レポート（定期試験は実施しない）

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」東洋館出版社（2018）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 発表（模擬授業含む）における取組状況（80%）、レポート課題（20%）

授業科目名： 初等生活科指導法Ⅰ【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 苫野　一徳／名倉　一美、坂本　憲明
			担当形態： クラス分け・単独／オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） ·生活

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：初等教育段階における生活科教育の基礎理論や具体的な実践例を学び、それらに関する基礎的な知識を身につける。知識をもとに、教材開発や指導案の作成、模擬授業を行って、実践力を高めることを到達目標とする。

授業の概要

・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。
・具体的実践事例を講義し、自然領域における教材開発を実際に行う。
・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。

授業計画

第１回：オリエンテーション、生活科の基礎理論（自然認識と子ども）（苫野　一徳／坂本憲明）
第２回：指導の実際と授業の分析・検討（自然）（苫野　一徳／坂本憲明）
第３回：教材研究（自然）（苫野　一徳／坂本憲明）
第４回：学習指導案作成（自然）（評価の考え方含む）（苫野　一徳／坂本憲明）
第５回：実際の授業とその分析（模擬授業）（苫野　一徳／坂本憲明）
第６回：幼小接続と生活科を核としたスタートカリキュラム（苫野　一徳／名倉一美）
第７回：スタートカリキュラムの実際と授業の分析・検討（苫野　一徳／名倉一美）
第８回：スタートカリキュラムの指導案作成（苫野　一徳／名倉一美）
定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編」東洋館出版社（2018）

参考書・参考資料等

適宜レジメを配布する。

学生に対する評価

毎時課題(ミニッツペーパー等)30%、授業への参加(教材開発、指導案、模擬授業等)30%、最

終レポート40%、以上を総合して評価する。

授業科目名： 初等生活科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 苫野　一徳／黒田　圭介、名倉　一美 担当形態： クラス分け・単独／オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ·生活

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：初等教育段階における生活科教育の基礎理論や具体的な実践例を学び、それらに関する基礎的な知識を身につける。その知識をもとに、指導案やルーブリックの作成、模擬授業を行って、生活科教育における実践力を高めることを到達目標とする。

授業の概要

・初等教育段階における生活科教育の基礎理論及び基礎知識を講義する。
・具体的実践事例を講義し、特にICTを活用した教材開発を実際に行う。
・模擬授業を通じて生活科における教育のイメージを具体的に掴む。

授業計画

第１回：オリエンテーション、生活科の基礎理論（社会認識と子ども）（苫野　一徳／黒田圭介）
第２回：指導の実際と授業の分析・検討（社会）（評価の考え方・ＩＣＴ活用含む）（苫野　一徳／黒田圭介）
第３回：教材研究（社会）（ＩＣＴ活用含む）（苫野　一徳／黒田圭介）
第４回：学習指導案作成（評価の考え方・ＩＣＴ活用含む）（苫野　一徳／黒田圭介）
第５回：実際の授業とその分析（模擬授業）（苫野　一徳／黒田圭介）
第６回：幼児期から小学校低学年の児童の発達（自己認識と子ども）（苫野　一徳／名倉一美）
第７回：幼小接続・連携と生活科の役割（苫野　一徳／名倉一美）
第８回：幼児期の教育と生活科の「あそび」（評価の考え方）（苫野　一徳／名倉一美）
定期試験は実施しない。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編」東洋館出版社（2018）

参考書・参考資料等

適宜レジメを配布する。

学生に対する評価

毎時課題（ミニッツペーパー等）30％、授業への参加（教材開発、指導案、模擬授業等）30%、最

終レポート40%、以上を総合して評価する。

授業科目名： 初等音楽科指導法Ⅰ【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山﨑浩隆／荒巻治美
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・音楽		

授業のテーマ及び到達目標

小学校音楽科の授業づくりの方法とその考え方を知るとともに指導についての知識・技能を高める。

授業の概要

小学校における表現と鑑賞の各活動の指導のあり方とその考え方を知り、教育実習等、指導の実際にかかわる指導方 法を考える。また、ICTを活用した効果的な指導法についても知る。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：音楽科の全体概要
第３回：音楽科学習指導要領の解説
第４回：音楽科教材研究の方法
第５回：低学年の表現指導
第６回：中・高学年の表現指導
第７回：低学年の鑑賞指導
第８回：中・高学年の鑑賞指導
定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」東洋館出版社（2018）
必要があれば、適宜紹介、配布する

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

最終レポート60％　小レポート40％

授業科目名： 初等音楽科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山﨑浩隆／荒巻治美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・音楽

授業のテーマ及び到達目標

小学校音楽科の授業づくりについての理解と指導法の理解を深める。

授業の概要

小学校音楽科における表現と鑑賞の授業づくりについての理解を深める。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：歌唱領域の授業研究（学習指導案とICT機器活用を含む）

第３回：「音楽づくり」「器楽演奏」の授業研究（学習指導用案とICT機器活用を含む）

第４回：鑑賞領域の授業研究

第５回：模擬授業１（歌唱領域）

第６回：模擬授業２（音楽づくりと器楽演奏）

第７回：模擬授業３（鑑賞領域）

第８回：音楽科の課題と展望

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」東洋館出版社（2018）

必要があれば、Teamsを通して配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

最終レポート50％　実技試験30％　小レポート20％

授業科目名： 初等図画工作科指導法Ⅰ【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・図画工作		

授業のテーマ及び到達目標

小学校図画工作科の意義や特性、目標、内容、方法について理解を深める。

授業の概要

第1～3回において小学校図画工作科の意義や目的、発達と造形の関係等の全般的な内容を学ぶ。第4回以降においては学習指導要領を踏まえた教科の内容（表現及び鑑賞）を習得する。

授業計画

第１回：図画工作科はどのような教科であるのか（ガイダンス）
第２回：児童の発達と造形表現の変化
第３回：図画工作科教育の歴史・内容と学習指導要領の変遷
第４回：図画工作科の教科内容（造形遊び）について
第５回：図画工作科の教科内容（絵に表す活動）について
第６回：図画工作科の教科内容（立体に表す活動、工作に表す活動）について
第７回：図画工作科の教科内容（鑑賞学習）について
第８回：図画工作科の今日的課題（ICT活用を中心に）
定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）図画工作編」日本文教出版（2018）

参考書・参考資料等

吉田武男監修、石崎和宏・直江俊雄編著『初等図画工作科教育』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

教科内容に関するワークシート（70%）と小レポート（30%）による総合評価

授業科目名： 初等図画工作科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） ・図画工作		

授業のテーマ及び到達目標

小学校図画工作科の教育課程及び授業実践における指導法の基礎知識・技能を身につける。

授業の概要

小学校図画工作科の学習指導・支援や学習評価の全般的な内容を学ぶ。教科内容の模擬演習・講義や、模擬授業の取り組みを通して授業技能を身につける。

授業計画

第１回：図画工作科の学習指導・支援（ICT活用を含む）
第２回：図画工作科の学習評価のあり方
第３回：図画工作科の教科内容（造形遊び）についての模擬演習と講義
第４回：図画工作科の教科内容（絵に表す活動）についての模擬演習と講義
第５回：図画工作科の教科内容（立体に表す活動、工作に表す活動）についての模擬演習と講義
第６回：図画工作科の教科内容（鑑賞学習）についての模擬演習と講義
第７回：模擬授業へ向けた学習指導案の立案
第８回：模擬授業と振り返り
定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）図画工作編」日本文教出版（2018）

参考書・参考資料等

吉田武男監修、石崎和宏・直江俊雄編著『初等図画工作科教育』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

教科内容に関するワークシート（60%）と指導計画（40%）による総合評価

授業科目名： 初等家庭科指導法Ⅰ【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 増田　仁／中西　雪夫
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ·家庭		

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：家庭科を学ぶ意義を理解するとともに，小学校家庭科の学習内容と学習指導方法についての理解を深める。

授業の概要

家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：家庭科教育の概要と学習指導要領
第３回：戦前の家庭科教育の歴史
第４回：戦後の家庭科教育の歴史
第５回：これからの家庭科教育
第６回：家庭科の内容A
第７回：家庭科の内容B
第８回：家庭科の内容C（後半定期試験実施の場合もある）

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」東洋館出版社（2018）
中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

定期試験または期末レポート（80%），小レポート等（20%）

授業科目名： 初等家庭科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 増田　仁／中西　雪夫
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。） ·家庭

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：小学校家庭科の授業設計及び実施に必要な基礎的知識・技能を習得する。

授業の概要

家庭科の授業実践に必要な基礎的技能を身に付けるため、小学校家庭科における課題解決学習、ICT活用、評価などの実践事例を分析し、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を実施する。

授業計画

第１回：年間指導計画と学習指導案
第２回：家庭科の授業展開（内容A）
第３回：家庭科の授業展開（内容B）
第４回：家庭科の授業展開（内容C）
第５回：家庭科におけるICT活用
第６回：模擬授業（１）グループ１～４
第７回：模擬授業（２）グループ５～８
第８回：総括-

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」東洋館出版社（2018）
中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

レポート（50%），模擬授業の内容（50%）

授業科目名： 初等体育科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 末永　祐介／堤　公一 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・体育

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、小学校教員として「体育の授業をつくる」そして「体育の授業を実践する」ために必要な体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、小学校学習指導要領における体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義を通して体育科指導法の基礎を理解する。

到達目標は、以下の通りである。

1　小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。

授業の概要

本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（授業の目標と概要、成績評価について・体育科の学びとは）
第２回　子どもの成長と体力（運動能力の要素と新体力テスト）
第３回　体育のこれまでとこれから（学習指導要領体育科の変遷）
第４回　体育の目標・カリキュラム・学習内容（現行学習指導要領解説体育編の理解）
第５回　体育の授業づくり①（体育授業の条件・体育の授業評価）
第６回　体育の授業づくり②（体育科の教材・教具について・ＩＣＴ活用）
第７回　体育の授業づくり③（体育授業のマネジメント方略・ＩＣＴ活用）
第８回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）
定期試験は実施しない

テキスト

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）体育編」東洋館出版社（2018）

参考書・参考資料等

・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店

・鈴木秀人/山本理人/杉山哲司/佐藤善人編著（2021）「第６版小学校の体育授業づくり入門」学文社
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校体育】（令和２年６月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・岩田靖/吉野聡/日野克博/近藤智博（2018）「初等体育授業づくり入門」大修館書店
・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

学生に対する評価

リフレクションレポート30%、授業リフレクション60%　意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 初等体育科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 末永　祐介／堤　公一 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・体育		

授業の到達目標及びテーマ

本授業のテーマは、小学校教員として「体育の授業をつくる」そして「体育の授業を実践する」ために必要な体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、小学校学習指導要領における体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義と演習を通して体育科指導法の基礎を理解する

到達目標は、以下の通りである。

1　小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解することができる。

2　小学校学習指導要領において取り上げられている「体つくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。

授業の概要

本授業は、講義を通して小学校体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して小学校学習指導要領において取り上げられている「体つくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ボール運動」「表現運動」「保健」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。

授業計画

第1回　オリエンテーション

（授業の目標と概要、成績評価について・体育科の学びとは）

第2回　体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）

第3回　体育の授業づくり①（体育科における学習評価）

第4回　体育の授業づくり②（体育学習指導案・学習ノートの作成方法）

第5回　体育の授業づくり③（体育授業改善に貢献する授業研究）

第6回　体育の授業実践①（附属小学校体育授業参観）（演習）

第7回　体育の授業実践②（模擬授業実践演習）（演習）

第8回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）

定期試験は実施しない

テキスト

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
・文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）体育編」東洋館出版社（2018）

参考書・参考資料

・鈴木秀人/山本理人/杉山哲司/佐藤善人編著（2021）「第６版小学校の体育授業づくり入門」学文社
・佐賀県教育委員会（2021）「小学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校体育】（令和２年６月
・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・岩田靖/吉野聡/日野克博/近藤智博（2018）「初等体育授業づくり入門」大修館書店
・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

学生に対する評価

リフレクションレポート30%、授業リフレクション60%　意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 初等外国語指導法Ⅰ【共同科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡﨑　伸一／林（内田）裕子
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語（英語）		

授業のテーマ及び到達目標

1. 小学校外国語活動及び外国語科の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことがで きる。
2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・模擬活動を行うことができる。

授業の概要

小学校外国語活動の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞を取り入れることにより、英語指導技術の基礎を身につける。

授業計画

第１回：オリエンテーション、学習指導要領からみる小・中・高等学校の外国語科の目標
第２回：小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、主教材の構成・趣旨
第３回：関連分野の諸理論からみる外国語活動
第４回：指導者の役割
第５回：授業過程と学習指導案の作り方
第６回：指導導目標・指導計画の立て方、学習状況の評価
第７回：教材・テキストの構成と内容
第８回：模擬活動（教材・テキストの構成と内容）
定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動編・外国語編」開隆堂出版（2018）

参考書・参考資料等

中村典生 他「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」東京書籍
村野井仁(編著)（2018）『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）小学校外国語活動・外国語の研修ガイドブック
学生に対する評価 ▪ 期末試験（50%） ▪ 教室英語テスト（20%） ▪ 授業での取組（個人・グループ課題）（30%）

授業科目名： 初等外国語指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡﨑　伸一／林（内田）裕子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・外国語（英語）

授業のテーマ及び到達目標

1. 小学校外国語活動及び外国語科の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことがで きる。
2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・授業実践を行うことができる。

授業の概要

小学校外国語活動及び外国語科の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解を深める。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践映像の鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身につける。

授業計画

第１回：オリエンテーション，学習指導要領からみる外国語教育の目標，指導方法と指導技術
第２回：ALTとのティーム・ティーチング
第３回：教材研究とICTの利活用
第４回：模擬授業（教材研究とICTの利活用）
第５回：文字の指導、読む・書く活動への導き方
第６回：模擬授業（読む活動への導き方）
第７回：模擬授業（書く活動への導き方）
第８回：小・中・高等学校の連携と小学校外国語活動・外国語科の役割、まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2018）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動編・外国語編」開隆堂出版（2018）

参考書・参考資料等

「中村典生 他コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」東京書籍
村野井仁(編著)『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店（2018）

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019） 小学校外国語活動・外国語の研修ガイドブック
学生に対する評価 ▪ 期末試験（50%） ▪ 教室英語テスト（20%） ▪ 授業での取組（個人・グループ課題）（30%）

授業科目名： 国語学概説Ⅰ【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中里　理子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

１　現代日本語の基礎的な知識（音韻・音声、語彙、方言、文法）を学び、身近な例を通して理解する。

２　現代日本語の音韻、語彙、文法の特徴について、わかりやすく説明できる。

授業の概要

現代日本語の特徴について音声・音韻・語彙・方言・文法の側面から学び、日本語のしくみについて考える。身近な言語事象を通して学ぶことで現代の生きた日本語の基礎知識を身に着けることを目指す。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業の進め方と成績評価）、日本語の特徴に関する概説

第２回：日本語の音声

第３回：日本語の音韻

第４回：日本語のアクセント

第５回：日本語の語彙体系

第６回：日本語の語彙の特徴１（和語・漢語・外来語）

第７回：日本語の語彙の特徴２（言葉の位相）

第８回：日本語の語彙の特徴３（オノマトペなど）

第９回：日本語の語彙の特徴４（語彙と文体）

第１０回：日本語の方言

第１１回：日本語の文法総論

第１２回：日本語の文法の特徴１（動詞・形容詞・形容動詞など）

第１３回：日本語の文法の特徴２（助詞、助動詞など）

第１４回：日本語の文法の特徴３（主語、「は」と「が」）

第１５回：日本語の文法と表現

定期試験

テキスト

伊坂淳一『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房

参考書・参考資料等

沖森 卓也・木村 義之・陳 力衛・山本 真吾『図解日本語』三省堂、山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版　など
学生に対する評価 授業参加態度（小課題提出、質疑応答）30％、期末試験70％

授業科目名： 国語学概説Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山下　真里／中里　理子
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

日本語の文字・表記、待遇表現に関する基本的な知識を理解し、身につける。また、文章表現に関する基礎的な技能を身につけ、日本語による表現力を高める。ここで学ぶ日本語の基本的な知識・技能を、小学校・中学校の国語科教育に生かせるようにする。

授業の概要

授業の前半では、現代日本語の文字・表記、待遇表現の特徴について基礎的な知識について学ぶことで、日本語で表現するための基礎力を身につける。授業の後半では、日本語による表現力を高めるため、さまざまな種類の文章を作成し、相互評価を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業の進め方と成績評価）
第２回：日本語の文字・表記の特徴１（ひらがな、ローマ字）
第３回：日本語の文字・表記の特徴２（漢字）
第４回：日本語の文字・表記の特徴３（表記法）
第５回：日本語の待遇表現の特徴１（待遇表現）
第６回：日本語の待遇表現の特徴２（授受表現）
第７回：日本語の待遇表現の特徴３（敬語のしくみ）
第８回：日本語の待遇表現の特徴４（間違いやすい敬語など）
第９回：文章表現についての概説
第１０回：文章表現の練習１（感想文など）
第１１回：文章表現の練習２（説明文など）
第１２回：テーマに沿った文章の作成１（文章の作成）
第１３回：テーマに沿った文章の作成２（文章の相互評価）
第１４回：テーマに沿った文章の作成３（文章の修正、推敲）
第１５回：授業内容の振り返りとまとめ

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

沖森 卓也・木村 義之・陳 力衛・山本 真吾『図解日本語』三省堂、山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、石黒圭『日本語文章チェック事典』東京堂出版、石黒圭『この１冊できちんと書ける論文・レポートの基本』日本実業出版社　など
学生に対する評価 授業参加態度（提出物、質疑応答）40％、小テスト30％、レポート30％

授業科目名： 国語学概説Ⅲ 【独自科目（熊大】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：山下　真里 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

１　日本語の変遷についての基礎的な知識を身につけ、説明できる。

２　身の回りのことばについて、日本語の変化という観点からとらえることができる。

授業の概要

日本語の変遷について、文字、音韻、仮名遣い、文法、語彙の分野ごとに解説する。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業の進め方と成績評価）、日本語の歴史について

第２回：文字史１（漢字）

第３回：文字史２（仮名）

第４回：音韻史１（五十音図）

第５回：音韻史２（アヤワ行の変遷）

第６回：音韻史３（子音の変遷）

第７回：音韻史４（四つ仮名）

第８回：音韻史５（音の変化のまとめ）

第９回：仮名遣い１（仮名遣いの発生）

第１０回：仮名遣い１（歴史的仮名遣い）

第１１回：文法史１（上代・中古の文法）

第１２回：文法史２（活用の種類の変遷）

第１３回：文法史３（動詞）

第１４回：語彙史１（和文語と訓読語）

第１５回：語彙史２（位相語）

期末試験

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

沖森 卓也・木村 義之・陳 力衛・山本 真吾『図解日本語』三省堂、沖森卓也編著『日本語ライブラリー日本語史概説』朝倉書店、岡崎友子・森勇太『ワークブック日本語の歴史』くろしお出版　など

学生に対する評価

授業参加態度（提出物、課題）40％、期末試験　60％

授業科目名： 国語学演習Ⅰ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山下　真里／中里　理子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

現代日本語の意味や用法、文法などを分析することを通して、国語教育で必要とされる日本語の意味や用法、文法をわかりやすく説明する力を身に付ける。

授業の概要

第１回から第５回では、国語教育において日本語を分析できる力の重要性および日本語について調査・分析する方法を学ぶ。第６回以降は、各自がテーマを見つけて実際に調査・分析を行った内容を発表し、話し合いを行う。

授業計画

第1回：オリエンテーション
第2回：国語教育と日本語分析力の関連性について
第3回：現代日本語の調査テーマについて
第4回：現代日本語の分析方法について（事前調査の方法）
第5回：現代日本語の分析方法について（本調査の方法）
第6回：ことばの意味に関する調査テーマの検討
第7回：ことばの用法に関する調査テーマの検討
第8回：文法に関する調査テーマの検討
第9回：ことばの意味に関する調査結果の中間発表と質疑応答
第１０回：ことばの用法に関する調査結果の中間発表と質疑応答
第１１回：文法に関する調査結果の中間発表と質疑応答
第１２回：ことばの意味に関する調査結果の発表と質疑応答
第１３回：ことばの用法に関する調査結果の発表と質疑応答
第１４回：文法に関する調査結果の発表と質疑応答
第１５回：全体のまとめ
定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

適宜、授業中に紹介する
学生に対する評価 授業への取り組み：20%、発表（資料作成と話し合い）：30%、最終レポート：50%

授業科目名： 国語学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中里　理子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１　古語の意味と古典文法を理解し、古典作品を読み味わうことができる。

２　古語の意味・用法について分析的に考え、整理することができる。

３　語彙研究の方法を理解し、実践できる。

授業の概要

教科書で扱う古典作品を中心に、古語や表現に着目して読み味わう。合わせて古典文法や当時の文化に関する知識を確認し作品理解を深める。後半は作品ごとに分担を割り当て、受講者の発表を取り入れて作品を読み進める。

授業計画

第１回：授業のガイダンス、古典作品の背景：文学史概説

第２回：中古の作品と文化的背景：竹取物語

第３回：中古の作品と古語1：伊勢物語

第４回：中古の作品と古語2：大和物語

第５回：中古の作品と古語3：土佐日記

第６回：中古の作品と古語4：蜻蛉日記

第７回：中古の作品と古語5：紫式部日記

第８回：中古の作品と古語6：源氏物語

第９回：「枕草子」の調査発表と質疑応答

第１０回受：「大鏡」の調査発表と質疑応答

第１１回：「平家物語」の調査発表と質疑応答

第１２回：「徒然草」の調査発表と質疑応答

第１３回：「今昔物語集」の調査発表と質疑応答

第１４回：「奥の細道」の調査発表と質疑応答

第１５回：まとめ（古典作品と古語）

定期試験は実施しない

テキスト

授業中適宜資料を配布する

参考書・参考資料等

適宜、授業中に紹介する
学生に対する評価 授業への取り組み：10%、発表（資料作成と話し合い）：40%、最終レポート：50%

授業科目名： 国語学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中里　理子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１　日本語学（国語学）の研究について理解し、研究方法を身につける。

２　国語学的観点から言葉を分析することができる。

３　自分の考えをわかりやすく伝えることができる。

授業の概要

日本語学（国語学）の研究分野の中から、語彙と文章表現を中心に、文字・表記、意味変化、文法などを取り上げ、課題の発見のしかたと研究方法について学ぶ。前半は、語彙を中心に解説しながら簡単な課題について考える。後半は、受講生各自が興味を持った研究分野・研究対象を選び、簡単な調査を行い、データを分析・考察して資料にまとめて発表を行う。

授業計画

第１回：授業ガイダンス、国語学（日本語学）という学問について

第２回：日本語の語彙１（若者語・流行語・略語）

第３回：日本語の語彙２（言葉の性差）

第４回：日本語の語彙３（意味変化）

第５回：日本語の文字と表記

第６回：現代小説の文章表現と文体

第７回：古典作品の文体

第８回：日本語の文法

第９回：語彙（若者語など）に関する調査の発表と質疑応答

第１０回：語彙（言葉の性差など）に関する調査の発表と質疑応答

第１１回：語彙（現代語の意味など）に関する調査の発表と質疑応答

第１２回：語彙（古語の意味変化など）に関する調査の発表と質疑応答

第１３回：現代小説の文章表現に関する調査の発表と質疑応答

第１４回：文法に関する調査の発表と質疑応答

第１５回：まとめ（分析の観点）

定期試験は実施しない

テキスト

授業中適宜資料を配布する

参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20%　研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 国語学特別演習Ⅰ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山下　真里 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

国語学の諸問題および国語学に関する基礎的な調査方法、文献読解力を身につけること。

授業の概要

指定された、または受講者が設定したテーマについて、調査発表者を決め質疑応答を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：資料例の提示、担当の決定

第３回：日本語をめぐる諸問題　研究テーマについて

第４回：日本語をめぐる諸問題　現代日本語を対象とした研究論文の紹介発表・質疑応答１

第５回：日本語をめぐる諸問題　古典日本語を対象とした研究論文の紹介発表・質疑応答２

第６回：日本語をめぐる諸問題　調査の方法について

第７回：現代日本語をめぐる諸問題　調査テーマの発表・質疑応答１

第８回：古典日本語をめぐる諸問題　調査テーマの発表・質疑応答２

第９回：現代日本語（語彙）をめぐる諸問題　　調査結果の発表・質疑応答１

第１０回：現代日本語（文字表記）をめぐる諸問題　調査結果の発表・質疑応答２

第１１回：現代日本語（文法）をめぐる諸問題　調査結果の発表・質疑応答３

第１２回：古典日本語（語彙）をめぐる諸問題　調査結果の発表・質疑応答４

第１３回：古典日本語（文字表記）をめぐる諸問題　調査結果の発表・質疑応答５

第１４回：古典日本語（文法）をめぐる諸問題　調査結果の発表・質疑応答６

第１５回：全体のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

大木一夫編『ガイドブック日本語史研究法』ひつじ書房、小椋秀樹編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の語彙・表記』朝倉書店、田中牧郎編『コーパスで学ぶ日本語学　日本語の歴史』朝倉書店　など

学生に対する評価 発表の内容（７０％）、質疑応答への参加（３０％）

授業科目名： 国語学特別演習Ⅱ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山下　真里 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

国語学研究の諸問題および研究論文を読解する力を身につけること。

授業の概要

指定された、または受講者が設定したテーマについて、調査発表者を決め質疑応答を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：資料例の提示、担当の決定

第３回：日本語をめぐる諸問題　研究テーマについて

第４回：日本語をめぐる諸問題　共時的研究を行なう研究論文の紹介発表・質疑応答１

第５回：日本語をめぐる諸問題　通時的研究を行なう研究論文の紹介発表・質疑応答２

第６回：日本語をめぐる諸問題　調査の方法について

第７回：日本語の共時的研究をめぐる諸問題　調査テーマの発表・質疑応答１

第８回：日本語の通時的研究をめぐる諸問題　調査テーマの発表・質疑応答２

第９回：日本語の共時的研究（語彙）をめぐる諸問題　発表・質疑応答１

第１０回：日本語の共時的研究（文字表記）をめぐる諸問題　発表・質疑応答２

第１１回：日本語の共時的研究（文法）をめぐる諸問題　発表・質疑応答３

第１２回：日本語の共時的研究（語彙）をめぐる諸問題　発表・質疑応答４

第１３回：日本語の共時的研究（文字表記）をめぐる諸問題　発表・質疑応答５

第１４回：日本語の共時的研究（文法）をめぐる諸問題　発表・質疑応答６

第１５回：全体のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト　特になし。

参考書・参考資料等

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版、日本漢字学会編『漢字文化事典』丸善出版

学生に対する評価

発表の内容（７０％）、質疑応答への参加（３０％）

授業科目名： 国文学概説 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾健一郎・跡上史郎 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語・書道）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

国文学史及び国文学に関する歴史的理解を得ること。

授業の概要

国文学に関して具体的な作品を挙げながら歴史を講ずる。

授業計画

第１回：ガイダンス、上代における神話と歌謡　『古事記』と『万葉集』（担当：中尾健一郎）

第２回：中古の和歌と物語　『古今和歌集』と『伊勢物語』（担当：中尾健一郎）

第３回：中古の随筆と物語　『枕草子』と『源氏物語』（担当：中尾健一郎）

第４回：中世の和歌と歌論書　『百人一首』と『毎月抄』（担当：中尾健一郎）

第５回：中世の随筆と物語　『徒然草』と『平家物語』（担当：中尾健一郎）

第６回：近世の紀行文と俳句　『おくのほそ道』（担当：中尾健一郎）

第７回：近世国学とその周辺　本居宣長『玉勝間』、上田秋成『雨月物語』（担当：中尾健一郎）

第８回：最初の近代小説『浮雲』の写実主義（担当：跡上史郎）

第９回：島崎藤村『破戒』と田山花袋「蒲団」の自然主義（担当：跡上史郎）

第１０回：夏目漱石「坊っちやん」と国の命運（担当：跡上史郎）

第１１回：芥川龍之介の技巧と「奉教人の死」（担当：跡上史郎）

第１２回：やることがなくなった太宰治のデビュー作『晩年』（担当：跡上史郎）

第１３回：現実を文学にしてしまう三島由紀夫の三島事件（担当：跡上史郎）

第１４回：近代文学をも飲み込む現代の古典文学・澁澤龍彦（担当：跡上史郎）

第１５回：全体のまとめ（担当：跡上史郎）

定期試験は実施しない。

テキスト

適宜PDF・プリント等配布。

参考書・参考資料等

乾安代他編『日本古典文学史』（双文社出版、1987・1）

山崎義光他編『日本近現代文学史への招待』（ひつじ書房、2024・10）
学生に対する評価 古典文学の課題（５０％）、近現代文学の課題（５０％）

授業科目名： 国文学論【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 野坂　昭雄
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書写）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

【授業のテーマ】

・国語の教員に求められる知識として日本文学の歴史や作品の多様性への理解を深めること

・文学作品を通して文化や社会の問題に関心を持つこと

【到達目標】

・日本の近代文学の歴史、展開、意義について理解している

・小説の分析・解釈の方法を理解し、それを用いて作品を読み、作品についての自分の考えを他者に適切に説明できる

授業の概要

講義の10回分は、近代文学史（主に小説）における重要なトピックを辿りながら、歴史的な展開について講義を行う。高校までのように、単に作家名と作品名を覚えるだけではなく、実際の作品に触れながら立体的に理解できるよう授業を進める。

残りのうち4回で、語り手や人称、小説の構造など、文学作品を理解する上で重要な事項を具体的に取り上げ、グループワークをしながら作品を読んでいく。

授業計画

第１回：概説――日本・近代・文学の歴史

第２回：近代文学と近代以前の文学――書物の流通と印刷

第３回：小説の読解①――語り手について（グループワーク）

第４回：戯作文学と翻訳文学――明治文学史(1)

第５回：言文一致と「内面」の発見――明治文学史(2)

第６回：国木田独歩――明治文学史(3)

第７回：小説の読解②――フィクションの構造（グループワーク）

第８回：自然主義――明治文学史(4)

第９回：出版文化の発展――大正文学史(1)

第１０回：白樺派と社会――大正文学史(2)

第１１回：小説の読解③――文学の社会性について（グループワーク）

第１２回：プロレタリア文学――昭和文学史(1) 第１３回：都市文化とモダニズム文学――昭和文学史(2) 第１４回：戦争と文学――昭和文学史(3) 第１５回：小説の読解④――国語教育と文学（グループワーク） 定期試験
テキスト 教科書は特に用いない。授業ではプリントを配付する。
参考書・参考資料等 授業の予習・復習の際には、高校の国語便覧を活用すること。
学生に対する評価 各回の終わりに提出してもらうコメントペーパーの記載内容から判断する平常点（40%）と、講義終了後の最終レポートの内容（60%）とを総合して評価する。

授業科目名：国文学講義Ⅰ（古典） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：日高愛子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語・書道）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		

授業のテーマ及び到達目標

(1) 古代から近世までの日本古典文学の流れを理解し、主要な作品の文学史的位置付けについて説明できる。

(2) 作品の成立背景や他作品との影響関係、後世の受容と展開について理解を深める。

授業の概要

古代から近世までの日本古典文学の流れについて講述する。具体的な作品を取り上げ、成立の背景や時代性、作者の問題等について考えるとともに、他作品との影響関係や後世の受容と展開について理解を深める。

授業計画

第１回：イントロダクション ― 文学の発生
第２回：古代の漢詩と和歌
第３回：中古の物語文学
第４回：日記文学の展開
第５回：随筆文学の問題
第６回：歴史物語の世界
第７回：説話文学の世界
第８回：軍記物語の世界
第９回：中世の和歌と連歌
第１０回：中世の物語文学
第１１回：俳諧と紀行文
第１２回：御伽草子と仮名草子
第１３回：浮世草子と読本
第１４回：出版文化の隆盛
第１５回：授業の総括
定期試験

テキスト 小峯和明編『日本文学史』吉川弘文館、2014年
参考書・参考資料等 小峯和明編『日本文学史 古代・中世編』ミネルヴァ書房、2013年 榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』ミネルヴァ書房、2010年
学生に対する評価 授業時のコメントシート（50%）ならびに学期末レポート（50%）によって総合的に評価する。レポートは、授業で扱ったテーマに関連する作品を取り上げ、授業内容を正しく理解しているか、論理的に考察できているかという観点から評価を行う。

授業科目名： 国文学講義Ⅱ（近現代） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 跡上史郎 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語・書道）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		

授業のテーマ及び到達目標

日本近現代文学研究の実例及びレポートではない論文を書くことに関する理解を得ること。

授業の概要

夏目漱石の研究史から文学研究の方法を学び村上春樹研究に応用する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：夏目漱石はどのように研究されてきたか?

第３回：印象批評

第４回：作家論

第５回：作品論

第６回：テクストの概念

第７回：政治的批評

第８回：村上春樹の変質

第９回：　妻や猫が消える物語

第１０回：なぜ善は悪を滅ぼせないか?

第１１回：オウム真理教と論理的思考力

第１２回：論理的な正解と合理的な近似解

第１３回：村上春樹が夏目漱石から引き継いだもの

第１４回：既存の物語を置き換える物語はあるか

第１５回：全体のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

適宜PDF・プリント等配布。

参考書・参考資料等

平野芳信『村上春樹』（勉誠社、2011・3）

学生に対する評価 複数回の小課題（５０％）と最終課題（５０％）

授業科目名：国文学講読（古典） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：中尾健一郎 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語・書道）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」		

授業のテーマ及び到達目標

・近世の随筆『和学知辺草』を典拠にあたって読み解き、その内容を十分に把握できる

・古語辞典を用いて原文と典拠の現代語訳、鑑賞文を作成して発表を行うことができる

・授業を実践するために必要な教材研究を遂行する能力を身につける

授業の概要

講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『和学知辺草』の内容を読解する形で授業を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：自叙　執筆の動機

第３回：凡例　和学と漢学を兼修する意義

第４回：第１章段　日本の位置

第５回：第５章段　日本の言葉①　上代における言葉の成り立ち、漢文の訓点の起こり

第６回：第５章段　日本の言葉②　中世における唐音の流入、畿内への方言の流入

第７回：第５章段　日本の言葉③　近世における外来語の流入、字書・韻書の解説

第８回：第７章段　和歌のこと①　和歌の起こり

第９回：第７章段　和歌のこと②　歌風の変遷

第１０回：第７章段　和歌のこと③　和歌の秘伝

第１１回：第７章段　和歌のこと④　和歌と連歌・俳諧の関係

第１２回：第２５章段　大黒と恵比須①　大黒天と大己貴神

第１３回：第２５章段　大黒と恵比須②　大己貴神の異称

第１４回：第２５章段　大黒と恵比須③　恵比須の由来

第１５回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない

テキスト

適宜、プリント等を配布
参考書・参考資料等 授業時間中に紹介する
学生に対する評価 授業における質疑応答および課題提出（20%）、担当部分の発表（30%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 国文学演習Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 白石　良夫 担当形態：　単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）・「国文学、漢文学」		

授業のテーマ及び到達目標

国語辞典を読む。「ことば」というものを自覚的に認識する習慣を身につけることを目指す

授業の概要

国語辞典はふつう引くものであるが、本授業では語釈を始め、用例・語誌などを丁寧に読む。

授業計画

第１回：ガイダンス、テキスト配付

第２回：国語辞典概説

第３回：凡例とは何か

第４回：辞書の任意のページを抽出して、丁寧に読み解く。常用漢字について理解を深める。

第５回：文法研究の歴史を理解する。

第６回：学校文法について理解を深める。

第７回：「いろは」「五十音図」を理解する。

第８回：中間まとめと確認

第９回：辞書の任意のページを抽出して、丁寧に読み解く。仮名遣いの理解を深める。

第１０回：表音文字としての仮名を理解する。

第１１回：日本語の特質を知る。

第１２回：言葉の変化について考える。

第１３回：国語辞典の項目を執筆してみる。

第１４回：国語辞典と国語授業についての討論。

第１５回：全授業を総括する。

定期試験

テキスト

新明解国語辞典（三省堂書店刊）

参考書・参考資料等

新解さんの謎（赤瀬川源平著）

学生に対する評価

定期試験、レポート、小テスト

授業科目名： 国文学演習Ⅱ【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 白石　良夫 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

古典の原典を読む。崩し字の文字が読めるようになることを目指す。

授業の概要

古典の作品を、活字本ではなく、古典時代の読者とおなじ原典で読む。

授業計画

第１回：ガイダンス、テキスト配付

第２回：テキスト解説

第３回：仮名の発生を歴史的に考察する。

第４回：小城文庫蔵「無名歌集」のコピーをつかって、仮名の崩し字を読む演習。

第５回：承前。注釈作業をする。

第６回：まとめと確認。

第７回：「広益俗説弁」のコピーをつかって、漢字の崩し字を読む演習。

第８回：承前。注釈作業をする。

第９回：承前。注釈作業をする。

第１０回：まとめと確認。

第１１回：「無名歌集」の翻刻と校訂作業。

第１２回：承前。

第１３回：「広益俗説弁」の翻刻と校訂作業。

第１４回：承前。

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

原本のコピーを配付する。

参考書・参考資料等　なし

学生に対する評価

定期試験、及びレポート。

授業科目名： 国文学演習Ⅲ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 白石　良夫 担当形態：　単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

江戸の都市空間と藩邸。江戸後期の社会・生活・文化・学問などを理解する。

授業の概要

柳河藩士牧園茅山の江戸滞在日記（文政2年6月）の日記を読む。その日、江戸で何があったかを観察しながら、江戸の都市空間とそこに生きる一漢学者の生活を読み解く。s

授業計画

第１回：ガイダンス、テキスト配付

第２回：江戸時代概説

第３回：登場人物たちの概要

第４回：テキスト（白石稿「文政二年六月、江戸の都市空間と藩邸」）を丁寧に読み解く。

第５回：同上。江戸藩邸のシステムと機能について理解する。

第６回：同上。江戸時代の学問と文化と生活を理解する。

第７回：同上。近世儒教の歴史。

第８回：まとめと確認。

第９回：上記テキストを読む。近世の出版文化と教育。

第１０回：同上。文人たちの交流について知る。

第１１回：同上。近世文学史、雅文芸の世界を知る。

第１２回：同上。近世文学史、俗文学の世界を知る。

第１３回：まとめと確認

第１４回：上記テキストを読む。江戸と地方文化の交流を考える。

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

白石稿「文政二年六月、江戸の都市空間と藩邸」

参考書・参考資料等　なし

学生に対する評価

定期試験、レポート、小テスト

授業科目名： 国文学演習Ⅳ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 白石　良夫 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

古典と仮名遣い。仮名遣いの本質を認識する。

授業の概要

規範仮名遣いの歴史をたどる。こんにちの現代仮名遣いの意味を理解する。

授業計画

第１回：ガイダンス、テキスト解説

第２回：仮名遣いの認識

第３回：日本語の音とその表記の歴史

第４回：仮名遣いの誕生（前半）

第５回：承前（後半）

第６回：定家仮名遣いの論理（前半）

第７回：承前（後半）

第８回：契沖仮名遣いの世界（前半）

第９回：承前（後半）

第１０回：歴史的仮名遣いの非実用性（前半）

第１１回：承前（後半）

第１２回：現代仮名遣い解説（前半）

第１３回：承前（後半）

第１４回：現代仮名遣いと古典

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

白石良夫「かなづかい入門」（平凡社）

参考書・参考資料等　なし

学生に対する評価

定期試験、レポート、小テスト

授業科目名： 国文学特別演習Ⅰ（近現代） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 跡上史郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　国語及び高等学校　国語・書道)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

日本近現代文学に関する歴史的・表現論的知識を調査する力を身につけること。

授業の概要

指定された、または受講者が選んだ近現代文学について発表・質疑応答を行い、歴史・表現両面における調査能力を高める。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：日本近代文学の始まりと写実主義
第３回：近代の文語文
第４回：近代に始まった言文一致体
第５回：近代に始まった児童文学
第６回：近代における女性作家
第７回：翻訳文学の果たした役割
第８回：日清・日露戦争と近代文学
第９回：ストーリーとプロット
第１０回：大戦中の文学
第１１回：戦後と現代文学
第１２回：１９６０～７０年代の現代文学
第１３回：１９８０年代以降の現代文学
第１４回：世界に広まる日本の近現代文学
第１５回：全体のまとめ
定期試験は実施しない。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等 山崎義光他編『日本近現代文学史への招待』（ひつじ書房、2024・10）
学生に対する評価 発表の内容（７０％）、質疑応答への参加（３０％）

授業科目名： 国文学特別演習Ⅱ（近現代） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 跡上史郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　国語及び高等学校　国語・書道)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。） ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

近現代文学の説明文（論説文）を書くことを通じて説明文と文学の関係を理解する。

授業の概要

指定された、または受講者が選んだ近現代文学について、データ、論拠（裏付け、限定詞、反証）、主張の視点から発表・質疑応答を行い、説明文（論説文）を書く。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：文学のデータ（１）：本文と国立国会図書館の活用
第３回：文学のデータ（２）：同時代言説
第４回：文学のデータ（３）：作家の蔵書
第５回：文学のデータ（４）：対談やインタビュー
第６回：文学の論拠（１）：評伝
第７回：文学の論拠（２）：先行研究
第８回：文学の論拠（３）：印象批評
第９回：文学の論拠（４）：構造主義・記号論
第１０回：文学の論拠（５）：歴史・政治的批評
第１１回：文学の論拠（６）：時代による趨勢の変化
第１２回：文学の主張・結論（１）：論理的思考
第１３回：文学の主張・結論（２）：合理的判断
第１４回：文学の主張・結論（３）：前提の変更と情報量の増大
第１５回：全体のまとめ
定期試験は実施しない。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等 渡邉雅子『論理的思考とは何か』（岩波書店、2024・10）
学生に対する評価 発表の内容（７０％）、質疑応答への参加（３０％）

授業科目名： 漢文学概説Ⅰ【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥野　新太郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

- 漢文に関する基礎的な事項を理解する。
- 中国古典文学（特に詩歌）の表現や主題を分析する力を養う。

授業の概要

中国古典文学における重要な事項を取り上げて、それに関連する様々な時代の資料を読み、漢文の表現や主題について理解を深めていく。前半は、対句や韻律といった漢詩特有の表現技法について考察し、後半は作品のテーマやモチーフについて検討していく。

授業計画

第１回：ガイダンス、漢字・漢語学習の意義
第２回：現代における漢語
第３回：対句①　概論
第４回：対句②　杜甫
第５回：韻律①　漢語の特性、押韻
第６回：韻律②　近体詩の成立、平仄
第７回：典故①　概論、故事成語
第８回：典故②　李白、李商隠など
第９回：詩語　松竹梅、花鳥風月など
第１０回：比喩①　『詩経』の賦・比・興
第１１回：比喩②　人為と自然の問題――景情一致
第１２回：テーマ①　出仕と隠逸
第１３回：テーマ②　離別と友情
第１４回：テーマ③　家族と恋情
第１５回：まとめと補足
定期試験

テキスト

プリント配布

参考書・参考資料等

佐藤保『詳講　漢詩入門』（ちくま学芸文庫）、同『漢詩のイメージ』（大修館書店）、前野直彬『精講　漢文』（ちくま学芸文庫）、同『中国文学序説』（東京大学出版会）
学生に対する評価 平常点（各回のミニレポート）30点、期末テスト70点

授業科目名：漢文学概説Ⅱ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：中尾健一郎 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語・書道）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」		

授業のテーマ及び到達目標

・中国と日本の漢詩に関する知識に習熟する

・漢詩の語釈、書き下し文、現代語訳、鑑賞文を作成して発表を行うことができる

・授業を実践するために必要な教材研究を遂行する能力を身につける

授業の概要

講義・演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、漢詩の内容を読解する形で授業を行う。

授業計画

第１回：唐詩の概説

第２回：孟浩然、王維の詩

第３回：李白の詩

第４回：杜甫の詩（１）「天末憶李白」、「旅夜書懐」

第５回：杜甫の詩（２）「詠懐古蹟」二首

第６回：韓愈、柳宗元、白居易の詩

第７回：杜牧、李商隠の詩

第８回：日本漢詩の概説

第９回：梁川星巌、菊池五山の詩

第１０回：松橋純真、門田隣の詩

第１１回：石野世彝、広瀬謙の詩

第１２回：長允、草場廉の詩

第１３回：橋本旋、広瀬範詩

第１４回：山本錫夫、春木晃の詩

第１５回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない

テキスト

適宜PDF、プリント等を配布
参考書・参考資料等 小川環樹『唐詩概説』（岩波書店、2005年）、揖斐高『江戸漢詩選（上・下）』（岩波書店、2021年）
学生に対する評価 授業における質疑応答および課題提出（20%）、担当部分の発表（30%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 漢文学演習Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中尾　健一郎／奥野　新太郎 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語・書道）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

・中国の古典文献を読み解くための基礎力を養う。

・辞書や辞典、工具書の扱いに習熟する。

授業の概要

演習形式をとる。発表者をあらかじめ決定し、発表者の発表に基づいて質疑応答し、『蒙求』の内容を読解する形で授業を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：孫楚漱石、郝隆曬書

第３回：匡衡鑿壁、孫敬閉戸

第４回：孫康映雪、車胤聚螢

第５回：陳雷膠漆、范張鶏黍

第６回：李広成蹊

第７回：李陵初詩

第８回：田横感歌

第９回：燕昭築台

第１０回：卞和泣玉

第１１回：軻親断機

第１２回：田単火牛

第１３回：紀昌貫虱、養由号猨

第１４回：呂安題鳳、子猷尋戴

第１５回：まとめと振り返り

定期試験は実施しない

テキスト

適宜プリント配布等を行う

参考書・参考資料等 授業時間中に紹介する
学生に対する評価 授業における質疑応答および課題提出（20%）、担当部分の発表（30%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 漢文学演習Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥野　新太郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

- 中国の古典文献を読み解くための基礎力を養う。
- 辞書や辞典、工具書の扱いに習熟する。

授業の概要

漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。高校の漢文教科書に載っている詩歌を主に取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。

授業計画

第１回：ガイダンス、辞書・辞典の説明
第２回：『詩経』
第３回：古詩十九首
第４回：曹植
第５回：陶淵明
第６回：王維・孟浩然
第７回：李白
第８回：杜甫
第９回：白居易
第１０回：杜牧・李商隠
第１１回：蘇軾
第１２回：陸游
第１３回：菅原道真
第１４回：江戸の漢詩人
第１５回：夏目漱石
テスト

テキスト プリント配布
参考書・参考資料等 東京書籍『精選古典探究　漢文編』、明治書院『精選　古典探究　漢文編』、大修館『古典探究　漢文編』、数研出版『古典探究　漢文編』など
学生に対する評価 平常点（予習状況、質疑応答、議論など）20%、発表とレジュメ30%、テスト50%の割合で総合的に評価する。

授業科目名： 漢文学演習Ⅲ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥野　新太郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　国語・書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

- 中国の古典文献を読み解くための基礎力を養う。
- 辞書や辞典、工具書の扱いに習熟する。
- 中国古典文学の分野において、自ら問題を発見し、解決していく専門的な思考力を身につけ、卒業研究につなげる。

授業の概要

漢文を読むために必要な辞書や工具書を紹介した後、演習形式で作品を読み進めていく。白居易の詩歌を取りあげて精読する。毎回、担当者を決め、原文の訓読・日本語訳と注釈を発表してもらう。担当者以外も毎回、必ず予習をしておくこと。質疑応答、討論など授業への積極的な参加を求める。

授業計画

第１回：ガイダンス、辞書・辞典の説明
第２回：白居易の経歴と詩風に関する概説
第３回：新楽府・上陽白髪人
第４回：新楽府・新豊折臂翁
第５回：新楽府・五絃弾
第６回：新楽府・売炭翁
第７回：新楽府・澗底松
第８回：新楽府・李夫人
第９回：新楽府・井底引銀瓶
第１０回：長恨歌・前半部分
第１１回：長恨歌・後半部分
第１２回：琵琶引・前半部分
第１３回：琵琶引・後半部分
第１４回：中隠
第１５回：不能忘情吟

テスト
テキスト プリント配布
参考書・参考資料等 小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）、高木正一『白居易』上・下（岩波書店、1958）、川合康三『白楽天―官と隠のはざまで』（岩波新書、2010年）、川合康三『白楽天詩選』上・下（岩波文庫、2011年）
学生に対する評価 平常点（予習状況、質疑応答、議論など）20%、発表とレジュメ30%、テスト50%の割合で総合的に評価する。

授業科目名： 漢文学特別演習Ⅰ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾健一郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　国語及び高等学校　国語・書道)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学 ・「国文学、漢文学」

授業のテーマ及び到達目標

漢文学の諸問題及び漢文学と国文学の関係に関する基礎的読解力を身につけること。

授業の概要

指定された、または受講者が選んだ文学作品について調査発表者を決め質疑応答を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：資料例の提示、担当の決定

第３回：『詩経』をめぐる諸問題　発表・質疑応答１

第４回：『楚辞』をめぐる諸問題　発表・質疑応答2

第５回：五言古詩をめぐる諸問題（１）漢代、魏晋時代　発表・質疑応答3

第６回：楽府をめぐる諸問題　発表・質疑応答4

第７回：五言古詩をめぐる諸問題（２）南北朝時代　発表・質疑応答5

第８回：初唐詩をめぐる諸問題　発表・質疑応答6

第９回：盛唐詩をめぐる諸問題（１）孟浩然・李白　発表・質疑応答7

第１０回：盛唐詩をめぐる諸問題（２）王維・杜甫　発表・質疑応答8

第１１回：中唐詩をめぐる諸問題　発表・質疑応答9

第１２回：晩唐詩をめぐる諸問題　発表・質疑応答10

第１３回：北宋詩をめぐる諸問題　発表・質疑応答11

第１４回：南宋詩をめぐる諸問題　発表・質疑応答12

第１５回：全体のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

佐藤一郎著『中国文学史』（第3版、慶應義塾大学出版会、2005・5）、村上哲見著『中国文学

と日本　十二講』（創文社、2013・12）
学生に対する評価 発表の内容（７０％）、質疑応答への参加（３０％）

授業科目名： 漢文学特別演習Ⅱ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾　健一郎 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学

授業のテーマ及び到達目標

漢文学と国文学の関係に関する漢文学研究の諸問題、及び漢文学と国文学の比較研究に関する研究論文を読解する力を身につけること。

授業の概要

指定された、または受講者が選んだ研究論文について調査発表者を決め質疑応答を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：資料例の提示、担当の決定

第３回：『論語』をめぐる諸問題　発表・質疑応答１

第４回：諸子百家をめぐる諸問題（１）儒家と道家　発表・質疑応答2

第５回：諸子百家をめぐる諸問題（２）墨家と法家　発表・質疑応答3

第６回：先秦時代の史書をめぐる諸問題　発表・質疑応答4

第７回：『史記』と『漢書』をめぐる諸問題　発表・質疑応答5

第８回：辞賦文学をめぐる諸問題　発表・質疑応答6

第９回：南北朝時代の散文をめぐる諸問題（１）文芸理論書と逸話集　発表・質疑応答7

第１０回：南北朝時代の散文をめぐる諸問題（２）志怪小説　発表・質疑応答8

第１１回：唐代の散文作品をめぐる諸問題（１）韓愈と柳宗元　発表・質疑応答9

第１２回：唐代の散文作品をめぐる諸問題（２）唐代伝奇　発表・質疑応答10

第１３回：宋代の散文作品をめぐる諸問題（１）欧陽脩と王安石　発表・質疑応答11

第１４回：宋代の散文作品をめぐる諸問題（２）司馬光と蘇軾　発表・質疑応答12

第１５回：全体のまとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

佐藤一郎著『中国文学史』（第3版、慶應義塾大学出版会、2005・5）、鈴木修次著『中国文学と日本文学』（東京書籍、1978・9）、村上哲見著『中国文学と日本　十二講』（創文社、201

3・12)
学生に対する評価 発表の内容（７０％）、質疑応答への参加（３０％）

授業科目名： 書写【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 林田　恵実／藤木　香江 担当形態： クラス分け／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

書写の指導目標を知り、毛筆及び硬筆で楷書や行書の特徴をとらえて書けるようにする。

授業の概要

小学校および中学校の国語科書写の学年目標を理解し、楷書や行書の特徴と基本点画、仮名との調和等について学ばせる。この授業は中学校の実務経験を有している教員が書写の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション、国語科書写の学習内容、姿勢・執筆（硬筆）
第２回：小学校国語科書写の指導事項と要点（低学年・硬筆と水書用筆）
第３回：小学校国語科書写の指導事項と要点（中学年・硬筆と毛筆）
第４回：小学校国語科書写の指導事項と要点（中学年・硬筆と毛筆）
第５回：小学校国語科書写の指導事項と要点（中学年・硬筆と毛筆）
第６回：小学校国語科書写の指導事項と要点（高学年・硬筆と毛筆）
第７回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆と毛筆）＊行書の特徴と基本用筆
第８回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆と毛筆）＊行書の特徴と基本用筆
第９回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆）＊行書による実用の書
第１０回：中学校国語科書写の指導事項と要点（硬筆と毛筆）＊行書と仮名の調和
第１１回：中学校国語科書写の指導事項と要点（毛筆）＊「座右の銘」を書く①
第１２回：中学校国語科書写の指導事項と要点（毛筆）＊「座右の銘」を書く②
第１３回：中学校国語科書写の指導事項と要点（毛筆）＊「座右の銘」の成果発表
第１４回：教育と板書①　板書の基本
第１５回：教育と板書②　板書の演習
定期試験は実施しない

テキスト　　国語科書写の理論と実践！

参考書・参考資料等　　小学校学習指導要領解説国語科編・中学校学習指導要領解説国語科編

学生に対する評価　小学校書写課題作品（２５％）、中学校書写課題作品（２５％）、

レポート等（２５％）、意見交換・発表（２５％）

授業科目名： 書道Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤木　香江 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　書道）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

楷書の特徴とその成り立ちを理解するとともに、多様な書風の違いが用筆法や字形の取り方と関係していることを理解し、その技法を習得する。

授業の概要

北魏・唐時代の楷書の古典を中心に鑑賞・臨書に取り組むことにより楷書の特徴を捉え、用筆法・運筆法・字形の取り方等についても学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション、現代社会における書の位置づけ、書の分野、漢字の書の定義と種類、楷書の成立過程と特徴

第２回：楷書の成立過程と特徴、基本点画と姿勢・執筆

第３回：唐時代の楷書の学習　「孔子廟堂碑」の概要と特徴の理解、および臨書

第４回：唐時代の楷書の学習　「九成宮醴泉銘」の概要と特徴の理解、および臨書

第５回：唐時代の楷書の学習　「雁塔聖教序」の概要と特徴の理解、および臨書

第６回：唐時代の楷書の学習　「顔氏家廟碑」の概要と特徴の理解、および臨書

第７回：唐時代の楷書の学習　唐の四大家による選択臨書

第８回：唐時代の楷書の学習のまとめ　唐の四大家による倣書（少字数作品の完成）

第９回：三国・北魏時代の楷書の学習　「薦季直表」の概要と特徴の理解、および臨書

第１０回：三国・北魏時代の楷書の学習　「牛橛造像記」の概要と特徴の理解、および臨書

第１１回：三国・北魏時代の楷書の学習　「龍門四品」の概要と特徴の理解、および臨書

第１２回：三国・北魏時代の楷書の学習「鄭羲下碑」「論經書詩」の概要と特徴の理解、および臨書

第１３回：三国・北魏時代の楷書の学習のまとめ　三国・北魏時代の用筆による倣書（試書制作）

第１４回：三国・北魏時代の楷書の学習のまとめ
三国・北魏時代の用筆による倣書（少字数作品の完成）

第１５回：唐時代の楷書の学習のまとめ(唐の四大家による倣書の鑑賞と批評､楷書法のまとめ)

定期試験は実施しない

テキスト　　特になし
参考書・参考資料等　　書の古典と理論　改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価　課題作品(唐の四大家)（３０％）、課題作品(三国・北魏)（２５％）：技能習得レポート等（３０％）、意見交換・発表（１５％）

授業科目名： 書道Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤木　香江 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　書道）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

作品制作で多用される行書・草書の特徴や成立過程を確認し、二つの書体を関連づけながら表現技法を身につけることができるようにする。

授業の概要

行書と草書の古典作品の鑑賞と臨書を通して、多様な美を理解しながら表現技法を学ばせる。また、その表現技法を生かし、行草作品の創作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション　現代社会における書の位置づけ、書の分野、漢字の書の定義
　　行書・草書の成立過程と特徴
第２回：行書の成立と特徴　行書の基本点画　＊集字聖教序
第３回：東晋時代の行書の学習　「蘭亭序」の概要と特徴の理解、および臨書
第４回：平安時代の行書の学習　「唐様の書」の概要と特徴の理解、および臨書
第５回：唐時代の行書の学習　「三稿」の概要と特徴の理解、および臨書
第６回：北宋時代の行書の学習　「宋の三大家」の概要と特徴の理解、および臨書
第７回：平安時代の行書の学習　「和様の書」の概要と特徴の理解、および臨書
第８回：草書の成立過程と特徴　草書の基本点画　＊真草千字文
第９回：東晋時代の草書の学習　「王羲之尺牘」の概要と特徴の理解、および臨書
第１０回：唐時代の草書の学習　「書譜」の概要と特徴の理解、および臨書
第１１回：唐時代の草書の学習　「自叙帖」の概要と特徴の理解、および臨書
第１２回：明清時代の草書の学習　「王鐸」の長条幅の鑑賞、および臨書
第１３回：行草書による創作　創作の手順と草稿作成
第１４回：行草書による創作　五言絶句による作品の完成
第１５回：行草書による創作　創作作品の鑑賞と批評、行草書法のまとめ
定期試験は実施しない

テキスト　　特になし

参考書・参考資料等　　書の古典と理論　改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価　課題作品(行書)（２５％）、課題作品(草書)（２５％）、課題作品(創作)（５％） ：技能習得 レポート等（３０％）、意見交換・発表（１５％）：特徴の理解

授業科目名： 書道Ⅲ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤木　香江
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

漢字の書体の中で最も古い篆書の基本構造や用筆法、さらに篆書を簡略化し、実用的な書体となった隷書の用筆法や字形を理解し、その技法を習得する。

授業の概要

篆書は甲骨文・金文・大篆・小篆、隷書は古隷・八分、および簡牘を取り上げ、その鑑賞と臨書を通して、二つの書体の用筆法や字形について学ばせる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション　漢字の書体変遷、篆書の特徴と成立過程
第２回：殷時代の篆書の学習　「甲骨文」の概要と特徴の理解、および臨書
第３回：西周時代の篆書の学習　「金文」の概要と特徴の理解、および臨書
第４回：春秋・戦国時代の篆書の学習　「石鼓文」の概要と特徴の理解、および臨書
第５回：秦時代の篆書の学習　「泰山刻石」の概要と特徴の理解、および臨書
第６回：清時代の篆書の学習　碑学派による篆書作品の概要と特徴の理解、および選択臨書
第７回：篆書から隷書へ　　簡牘の概要と鑑賞、および選択臨書
第８回：古隷の学習　「莱子侯刻石」「開通褒斜道刻石」の概要と特徴の理解、および選択臨書
第９回：八分の学習①　「曹全碑」の概要と特徴の理解、および臨書
第１０回：八分の学習②　「礼器碑」の概要と特徴の理解、および臨書
第１１回：八分の学習③　「張遷碑」「石門頌」の概要と特徴の理解、および選択臨書
第１２回：清時代の隷書の学習　　碑学派による隷書作品の概要と特徴の理解、および選択臨書
第１３回：篆書・隷書による創作　　創作の手順と草稿作成　（試書制作）
第１４回：篆書・隷書による創作　　創作作品の制作　（作品の完成）
第１５回：篆書・隷書による創作　　篆書法・隷書法のまとめ
定期試験は実施しない

テキスト　　特になし

参考書・参考資料等　　書の古典と理論　改訂版、授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価	課題作品(篆書)（２５％）、課題作品(隷書)（２５％）、課題作品(創作)（５％） ：技能習得 レポート等（３０％）、意見交換・発表（１５％）：特徴の理解

授業科目名： 書道Ⅳ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤木　香江
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　国語　及び　高等学校　書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。） ・書道（書写を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

仮名の成り立ちや意義、美的価値を理解し、基礎的な技法を身につける。また、漢字仮名交じりの書の歴史を押さえた上で表現方法を工夫し、自分のイメージにあった作品づくりができるようにする。

授業の概要

仮名の基礎的な技法を習得し、臨書や散らし書きの学習によって仮名の美を学ばせる。また、漢字仮名交じりの書の基礎的な制作方法を身につけ、自分の思いにかなった制作に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション　仮名の定義、漢字仮名交じりの書の定義、仮名の特徴と成立過程
第２回：仮名の基本線の学習　姿勢・執筆、単体、形連・意連
第３回：和歌を書く（行書きと散らし書き）
第４回：古筆の学習①　「高野切古今和歌集」の概要と理解、および臨書
第５回：古筆の学習②　「関戸本古今和歌集」の概要と理解、および臨書
第６回：古筆の学習③　「三色紙」の概要と理解、および選択臨書
第７回：創作の学習①（草稿作成）
第８回：創作の学習②（表現の工夫）
第９回：創作の学習③（中間批評会）
第１０回：創作の学習④（作品の完成）
第１１回：仮名の書の学習のまとめ　　創作作品の鑑賞と批評
第１２回：漢字仮名交じりの書の学習　　自作または引用による作品制作①（表現の工夫）
第１３回：漢字仮名交じりの書の学習　　自作または引用による作品制作②（構成・用具用材の工夫 ）
第１４回：漢字仮名交じりの書の学習　　自作または引用による作品制作③（作品の完成）
第１５回：漢字仮名交じりの書の学習のまとめ　創作作品の鑑賞と批評
定期試験は実施しない

テキスト　特になし

参考書・参考資料等　　書の古典と理論　改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価　課題・創作作品(仮名)（３５％）、創作作品(漢字仮名交じりの書)（１５％） ：技能習得 レポート等（３０％）、意見交換・発表（２０％）：特徴の理解

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 仁野平　智明／竜田　徹 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1．中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することができる。

2．中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習指導案を作成することができる。

3．中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解したことに基づいて模擬授業を行うとともにその考察をすることができる。

授業の概要

本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解することである。

本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。

本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。

授業計画

第1回：国語科の目標と中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の概要

第2回：表現にかかわる生徒のことば

第3回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の目標と年間指導計画

第4回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の単元づくり

第5回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習計画

第6回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習のめあて（学習課題）

第7回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の言語活動

第8回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の評価

第9回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の指導上の留意点

第10回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の見通しと振り返り

第11回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習のワークシートとノート

第12回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の学習の学習指導案

第13回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とICT活用
第14回：「書くこと」」の模擬授業とICT活用
第15回：「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の模擬授業と機器活用の総括
定期試験は実施しない

テキスト
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019）
・全国大学国語教育学会編、『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』東洋館出版社（2019）
・竜田徹『構想力を育む国語教育』溪水社（2014）

参考書・参考資料等
授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価
・各課題で評価する。
・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに応じて課題の内容や回数の変わることもある。
・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。
・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。
・詳細は当年のシラバスを熟読すること。
・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の作成等。

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 仁野平　智明／達富　洋二 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することができる。
2. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習指導案を作成することができる。
3. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解したことに基づいて模擬授業を行うとともにその考察をすることができる。

授業の概要

本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することである。

本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。

本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。

第1回：国語科の目標と中学校および高等学校学習指導要領の概要
第2回：理解にかかわる生徒のことば
第3回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の目標と年間指導計画
第4回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の単元づくり
第5回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習計画
第6回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のめあて（学習課題）
第7回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の言語活動
第8回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の評価
第9回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の指導上の留意点
第10回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の見通しと振り返り
第11回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のワークシートとノート活用
第12回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の学習指導案
第13回：「読むこと」の模擬授業とICT活用
第14回：「知識及び技能」の模擬授業とICT活用

第15回：「読むこと」・「知識及び技能」の模擬授業と機器活用の総括 定期試験は実施しない
テキスト ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） ・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） ・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018） ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019） ・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）
参考書・参考資料等 授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。
学生に対する評価 ・各課題で評価する。 ・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに応じて課題の内容や回数の変わることもある。 ・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。 ・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。 ・詳細は当年のシラバスを熟読すること。 ・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の作成等。

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 仁野平　智明／達富　洋二 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することができる。
2. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習指導案を作成することができる。
3. 中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解したことに基づいて模擬授業を行うとともにその考察をすることができる。

授業の概要

本授業の内容は、中等国語科（「読むこと」・「知識及び技能」）の学習構想や単元研究について理解することである。

本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。

本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。

第1回：国語科の目標と中学校および高等学校学習指導要領の概要
第2回：理解にかかわる生徒のことば
第3回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の目標と年間指導計画
第4回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の単元づくり
第5回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習計画
第6回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のめあて（学習課題）
第7回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の言語活動
第8回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の評価
第9回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の指導上の留意点
第10回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の見通しと振り返り
第11回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習のワークシートとノート活用
第12回：「読むこと」・「知識及び技能」の学習の学習指導案
第13回：「読むこと」の模擬授業とICT活用
第14回：「知識及び技能」の模擬授業とICT活用

第15回：「読むこと」・「知識及び技能」の模擬授業と機器活用の総括 定期試験は実施しない
テキスト ・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） ・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） ・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018） ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019） ・達富洋二『ここからはじまる国語教室』ひつじ書房（2023）
参考書・参考資料等 授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。
学生に対する評価 ・各課題で評価する。 ・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに応じて課題の内容や回数の変わることもある。 ・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。 ・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。 ・詳細は当年のシラバスを熟読すること。 ・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の作成等。

授業科目名： 中等国語科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 北川　雅浩／竜田　徹 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）における学習構想や単元研究についての理解を深めるとともに指導法について考察することができる。
2. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）における学習指導案の質を高めるとともに指導法を具体化することができる。
3. 中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）における指導法について考察したことに基づいて模擬授業を行うとともに指導法の課題を明らかにすることができる。

授業の概要

本授業の内容は、中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の学習構想や単元研究について理解を深めるとともに指導法について考察することである。

本授業は、予習における「国語科単元についての課題の検討」、授業中における「予習課題の自己評価・具体的な指導法についての講義内容の理解・模擬授業の実施」、復習における「習得した内容の整理と考察の記述」という方法で実施する。

本授業では、「予習－授業－復習」において主体的に学習に取り組むことを期待する。

授業計画

第1回：中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の指導法
第2回：中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の言語活動
第3回：中等国語科（「話すこと・聞くこと」・「書くこと」）の評価
第4回：「話すこと・聞くこと」の目標と内容
第5回：「話すこと・聞くこと」の事例分析
第6回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案の作成
第7回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とICT活用
第8回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とICT活用の総括
第9回：「書くこと」の目標と内容
第10回：「書くこと」の事例分析
第11回：「書くこと」の学習指導案の作成
第12回：「書くこと」の模擬授業とICT活用

第13回：「書くこと」の模擬授業とICT活用の総括
第14回：「読むこと」との接続と単元学習
第15回：「知識及び技能」との接続と単元学習

テキスト
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編」東洋館出版（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編」東山書房（2019）
・全国大学国語教育学会編、『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』東洋館出版社（2019）
・竜田徹『構想力を育む国語教育』溪水社（2014）

参考書・参考資料等
授業中に担当者から提示、あるいは資料を配布する。

学生に対する評価
・各課題で評価する。
・受講者の状況や学修効果の観点から、各回の授業内容や順序を変更することがあり、それに応じて課題の内容や回数の変わることもある。
・詳細については、当該年度のシラバスを熟読すること。
・期限内に提出しなかった者は評価の対象としない。
・詳細は当年のシラバスを熟読すること。
・予定している課題：「単元研究についてのレポート」、「学習指導案」、「学習の記録」の作成等。

授業科目名：国語科教育学演習A 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：北川　雅浩 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

国語科教育における小中連携や学び合いの充実に向けて、教材研究や学習指導案の作成に取り組むことを通して、国語科授業実践力を高めることができる。

授業の概要

初等国語科教育法や中等国語科教育法で学んだことをもとに、授業を構築・実践するための能力を身につける。

授業計画

第１回：9年間を見通した国語科カリキュラムの重要性
第２回：国語科単元学習と教科書教材の活用
第３回：子供たちの意欲や必要感を喚起する学習課題の設定
第４回：言語活動の設定と言語活動モデルの準備
第５回：主体的・対話的で深い学びを引き出す発問
第６回：個の学びと集団での学び
第７回：国語科における学習評価（教師による評価、自己・相互評価）
第８回：　A・B領域の学習指導案の作成
第９回：C領域の学習指導案の作成
第１０回：国語科授業の実際（書くこと）
第１１回：国語科授業の実際（話すこと・聞くこと）
第１２回：国語科授業の実際（物語を読むこと）
第１３回：国語科授業の実際（説明文を読むこと）
第１４回：国語科授業の実際（言葉の特徴や使い方）
第１５回：総括とレポート課題

テキスト

中学校学習指導要領解説国語編　　小学校学習指導要領解説国語編

参考書・参考資料等

授業内で適宜提示する

学生に対する評価

学習指導案及び模擬授業（40%）、授業内の協議等への参加（40%）、レポート課題（20%）

授業科目名：国語科教育学演習B 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：仁野平智明 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ：　国語科教育学の理論と実践との統合を図り、自らの力で「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の授業構築ができるようになるための基礎力を培う。

授業の概要：国語科「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」領域の目標と内容を理解するとともに小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身につける。

授業計画

第１回：国語科教育における「話すこと・聞くこと」の指導の意義を学ぶ
第２回：小・中学校間接続の観点から「話すこと・聞くこと」の指導のあり方を考える
第３回：小学校高学年の音声言語指導について考える（教材研究）
第４回：小学年高学年の音声言語指導について考える（授業構想の検討）
第５回：中学校の音声言語指導について考える（教材研究・指導法研究）
第６回：中学校の音声言語指導について考える（学習指導案作成・模擬授業）
第７回：高等学校の音声言語指導について考える（教材研究・指導法研究）
第８回：中・高接続の観点から音声言語指導のあり方について考える（実践論文の考察）
第９回：小・中学校間接続の観点から「書くこと」の指導を考える
第１０回：小学校高学年の「書くこと」の指導について考える（教材研究・学習指導案の検討）
第１１回：中学校の「書くこと」の指導について考える（教材研究・指導法研究）
第１２回：中学校の「書くこと」の指導について考える（学習指導案の検討・模擬授業）
第１３回：高等学校の音声言語指導について考える（教材研究・指導法研究）
第１４回：中・高接続の観点から「書くこと」の指導のあり方について考える（実践論文の考察）
第１５回：半期のまとめ
定期試験

テキスト：

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』　文部科学省　平成30年２月
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　国語編』　文部科学省　平成31年2月

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

期末レポート（７０％）、小課題（３０％）

授業科目名：国語科教育学演習C 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：北川　雅浩 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

国語科教育の射程を捉え、理論に裏付けられた実践の成果を整理するとともに、新たに開拓され得る実践を展望することができる。

授業の概要

国語科教育に関する多様な領域についての理論と実践とを往還させながら、新たな授業開発に向けての実践知を獲得する。

授業計画

第１回：国語科教育の射程
第２回：理論と実践の往還
第３回：話すこと・聞くこと領域に関する理論の整理
第４回：話すこと・聞くこと領域における理論に基づいた実践事例の検討
第５回：書くこと領域に関する理論の整理
第６回：書くこと領域における理論に基づいた実践事例の検討
第７回：読むこと領域に関する理論の整理
第８回：読むこと領域における理論に基づいた実践事例の検討
第９回：領域を関連させた指導の実際　－音声言語と文字言語の関連指導―
第１０回：領域を関連させた指導の実際　－言語による理解と表現の関連指導―
第１１回：新たな領域につながる学習対象と指導の実際
第１２回：音声言語領域に関する理論と実践の探索（発表・協議）
第１３回：文字言語領域に関する理論と実践の探索（発表・協議）
第１４回：メディアリテラシー、演劇教育等に関する理論と実践の探索（発表・協議）
第１５回：総括とレポート作成

テキスト　必要な資料は授業内で配布する。

参考書・参考資料等　各授業にて紹介する。

学生に対する評価

授業内での発表（50%）、協議会への参加（25%）レポート課題（25%）

授業科目名：国語科教育学演習D 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：仁野平　智明 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ：　国語科教育学の理論と実践との統合を図り、自らの力で「読むこと」の授業構築ができるようになるための基礎力を培う。

授業の概要：国語科「読むこと」領域の目標と内容を理解するとともに、小・中接続、中・高接続の観点から授業を構築・実践するための能力を身につける。

授業計画

第１回：国語科教育における「読むこと」の指導の意義を学ぶ

第２回：小・中学校間接続の観点から「読むこと」の指導を考える

第３回：小学校高学年の文学的文章指導について考える（教材研究）

第４回：小学年高学年の文学的文章指導について考える（学習指導案の検討）

第５回：小学校高学年の説明的文章指導について考える（教材研究）

第６回：小学校高学年の説明的文章指導について考える（学習指導案の検討）

第７回：中学校の文学的文章指導について考える（教材研究）

第８回：中学年の文学的文章指導について考える（学習指導案作成・模擬授業）

第９回：中学年の文学的文章指導について考える（実践論文の考察）

第１０回：中学校の説明的文章指導について考える（教材研究）

第１１回：中学校の説明的文章指導について考える（学習指導案作成・模擬授業）

第１２回：中学校の説明的文章指導について考える（実践論文の考察）

第１３回：高等学校の文学的文章指導について考える（教材研究・学習指導案作成）

第１４回：高等学校の論理的文章指導について考える（教材研究・学習指導案作成）

第１５回：半期のまとめ

定期試験

テキスト：

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』　文部科学省　平成30年２月

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　国語編』　文部科学省　平成31年2月

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 期末レポート（７０％）、小課題（３０％）

授業科目名： 日本史概説 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

日本史研究の最先端の議論を知ることで、新たな歴史の見方を学び、各時代の特質に関する理解を深めるとともに、日本史の教材研究の基礎を身につける。

授業の概要

先史時代から現代まで日本史の通史的展開にそって、各時代を特徴づける主要なテーマを掲げ、研究の最先端の議論を紹介していく。

授業計画

第１回：「歴史」と時代区分
第２回：先史時代の時代区分論
第３回：モニュメントからみた先史時代の精神史
第４回：「倭国」から「日本国」へ
第５回：古代の官僚制と天皇
第６回：中世の荘園制と村落
第７回：中世遍歴民の世界
第８回：江戸時代の経済システム
第９回：蝦夷島の近世史
第１０回：文明開化と国民国家の形成
第１１回：対外戦争の近代史（１）―征韓論から日清戦争まで―
第１２回：対外戦争の近代史（２）―第一次世界大戦後から満州事変まで―
第１３回：「戦後」から「ポスト戦後」へ
第１４回：忘れられた「いくつもの日本」
第１５回：本授業の総括
定期試験（論述）

テキスト

プリントにして配布する。

参考書・参考資料等

『岩波講座日本歴史』第１巻～第19巻、岩波書店
学生に対する評価 毎回の授業後の小レポート（14％）、最終レポート（論述）（86％）

授業科目名： 日本史特講Ⅰ（史料論） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

史料に即して日本史の事象を理解し、史料を用いて教材をつくる力量を身につける。

授業の概要

日本史の代表的な事象について、さまざまな史料を読みながら、学び直していく。

授業計画

第１回：イントロダクション「史料とは何か」
第２回：倭国時代の漢字文化
第３回：『日本霊異記』が語る古代の民衆世界
第４回：史料としての絵巻物と中世身分制
第５回：絵図と地下文書で読み解く中世の環境変動
第６回：室町時代の古記録を読む
第７回：本能寺の変の調べ方
第８回：慶安御触書とは何か
第９回：「近世阿蘇家文書」からさぐる阿蘇山火口の近世
第10回：近代の立法史料を読む
第11回：オーラル・ヒストリーの可能性
第12回：記録映画に映された有明海の漁撈習俗
第13回：記録映画に映された山間地域の環境利用
第14回：被災史料をなぜ救出するか
第15回：本授業の総括
定期試験（論述）

テキスト

プリントにして配布する。

参考書・参考資料等

国立歴史民俗博物館・小倉慈司編『古代東アジアと文字文化』（同成社）、吉田一彦『民衆の古代史』（風媒社）、黒田日出男『境界の中世　象徴の中世』（東京大学出版会）、平瀬直樹『塩田

の村』（清文堂出版）、東京大学教養学部歴史学部会編『史料学入門』（岩波書店）、京都造形芸術大学編『古文書を読む』（角川書店）、村上一博・西村安博編『史料で読む日本法史』（法律文化社）、吉村豊雄・春田直紀『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』（清文堂出版）、石川一三夫・矢野達雄編著『法史学への旅立ち』（法律文化社）、寺崎英成ほか『昭和天皇独白録』（文春文庫）、白水智『古文書はいかに歴史を描くのか―フィールドワークがつなぐ過去と未来―』（NHKブックス）
学生に対する評価 毎回の授業後の小レポート（14%）、定期試験（論述）（86%）

授業科目名： 日本史特講Ⅱ（近現代）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 鬼嶋　淳 担当形態： 単独

科　目	教科に関する科目（中学校　社会　及び高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史及び外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

・本授業のテーマ：日本近現代史（民衆史の視点から）

・民衆にとって近現代とはどのような時代であったのかを、講義でとりあげたテーマのなかのいくつかの論点について、自ら説明できる。

・歴史的思考力を養う。

授業の概要

近現代日本の歴史が民衆にとってどのような時代であったのかを考えるため、国家や中央の政治家・官僚・軍人にとっての歴史ではなく、地域に生きる民衆にとっての歴史という視点から日本近現代史について講義をおこなう。

授業計画

第１回：ガイダンス　歴史を学ぶとは？　歴史資料について

第２回：開国と維新

第３回：民権と憲法

第４回：日清・日露戦争と民衆

第５回：第一次世界大戦と中国・朝鮮

第６回：「大正デモクラシー」の時代

第７回：昭和恐慌期の民衆

第８回：民衆にとっての植民地経験

第９回：戦争の全面化と国民総動員

第１０回：戦時下民衆の暮らし

第１１回：敗戦と占領

第１２回：講和と独立

第１３回：１９５０年代の社会運動

第１４回：高度成長の時代

第１５回：経済大国化と国際化

定期試験は実施しない

テキスト　別途指示する。

参考書・参考資料等　必要に応じ適宜紹介する。
学生に対する評価 ・講義の内容を理解すること　小レポート（３０％） ・歴史的思考力を養うこと。講義でとりあげたテーマのなかから、いくつかの論点について自ら説明できること　　学期末レポート（７０％）

授業科目名：日本史特講Ⅲ（近世史）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：久保　知里 担当形態：単独
科　目	教科に関する科目（中学校　社会　及び高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史及び外国史 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

1. 近世日本社会の大まかな流れを理解し、説明することができる。
2. 近世日本社会の人々の仕事や生活等ついて理解し、説明することができる。

授業の概要

この授業では、日本の近世（明治初年まで）を中心とした日本社会の変化や時代の流れを概観する。その上で、近世における人々の仕事や日常生活、思想（考え方）の変化など政治的な流れのみではなく、人々の生活に関わる視点から近世史への理解を深める。さらに九州北部地域の特徴、すなわち朝鮮通信使対応や長崎警備などの対外交渉を取り上げ、「世界」との関係についても学ぶ。そして近世（江戸時代）から近代への移行期における社会や武士たちの動きから時代の変化を捉え、近世史の特徴を理解する。

授業計画

第１回：イントロダクション：「日本」とは何か／なぜ歴史を学ぶのか
第２回：幕府とは何か〜江戸時代のはじまり〜
第３回：「鎖国」とは何か？〜秀吉の「唐入り」から朝鮮通信使まで〜
第４回：思想の転換〜思想転換による支配観と「ケガレ」の思想／学問の広がり〜
第５回：武士の仕事１：「役人」となる武士（家臣団）
第６回：「停滞／成熟」の18世紀
第７回：人々の日常生活〜近世人のライフサイクルと結婚、出産、子育て〜
第８回：「女」の仕事
第９回：「内憂外患」の時代へ〜佐賀・福岡藩と長崎警備、防衛政策〜
第１０回：武士の仕事２：武士の本分へ立ち返る
第１１回：テロと時代の変革〜幕末の動乱〜
第１２回：幕末における下級武士の生活
第１３回：「武士」たちの近代〜明治初年（明治10年頃まで）の武士の仕事〜
第１４回：近世から近代へ〜城郭の利用と軍隊の出現（西南戦争など）〜
第１５回：まとめとふりかえり

定期試験
テキスト 使用しない。毎回、講義資料を準備する。
参考書・参考資料等 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門』（勉誠社、2024年）、小川浩司『世界史とは何か一 「歴史実践」のために一』（岩波書店、2023年）など
学生に対する評価 定期試験60%、授業参加姿勢（授業中に指示する課題やミニッツペーパーや授業への積極性を含む）40%を目安として総合的に評価する

授業科目名： 日本史特講Ⅳ（中世史）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮武　正登 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

日本の中世（平安末期・鎌倉・南北朝・室町・戦国）という時代を主題とし、政治史の展開を軸としながら中世社会の特徴についての理解を深め、歴史資料の種類と活用法についても正しい知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

「武士」の発生以降、近世初頭に属する豊臣政権の成立前後までの約650年間を対象とした日本社会の諸相を多角的に検討しながら、歴史学を追究するための基本的な方法論―多様な史料の扱い方、歴史的事象への客観的視点などーについて解説していく。

授業計画

第１回：ガイダンス、「中世」のイメージ
第２回：中世という時代の外観と特質
第３回：中世史料論１（古文書・古記録・古典籍、金石文、絵巻物）
第４回：中世史料論２（絵図と地図、遺跡と遺物、地名と伝承）
第５回：平氏政権の成立と経済基盤―佐賀地方との関係性―
第６回：鎌倉開府と地方武士の生活拠点（前半）
第７回：鎌倉開府と地方武士の生活拠点（後半）
第８回：東アジア世界の中の日本と肥前
第９回：南北朝動乱と室町幕府の始動
第１０回：室町幕府体制の崩壊と戦国社会の到来
第１１回：織豊政権による近世封建制度への移行
第１２回：朝鮮出兵の真実（1）（文禄の役、肥前名護屋城、大名陣所）
第１３回：朝鮮出兵の真実（2）（慶長の役、名護屋城下町、終戦と国交回復）
第１４回：中世武家政治の拠点変遷－城と城下町の発展史－
第１５回：もう一つの中世世界―蝦夷と琉球―
定期試験

テキスト

各回の講義用テキストを配布する。
参考書・参考資料等 五味文彦編『大学の日本史2－中世』山川出版社2016
学生に対する評価 定期試験の実施による成績評価

授業科目名： 日本史特講Ⅴ（古代史） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 重藤　輝行
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

「教育の現場を目指す人のための日本原始・古代の歴史研究」

学校教員になった際に、歴史研究の進展に応じて自らの教育内容を更新できるようになることを目標として、授業では、現在の教材にいかに歴史研究の成果が反映されているか、日本原始・古代の歴史に即して、理解・説明できることを目標とする。

授業の概要

日本原始・古代の歴史に関する重要テーマを考古学的研究も混じえて、概説していく。講義は、高等学校用の教科書や大学の入試問題にこれらの論点がどのような形で現われているのか注意しながら、進められる。原始・古代の社会・文化が日本史を通じての基層を構成していることに関して認識を深めながら、日本原始・古代の歴史研究の成果と現状を学んでもらえれば、と考えている。

授業計画

第１回：イントロダクション

　授業の目的と進め方、履修に当たっての留意事項、学習の方法と評価の方法が説明される。

第２回：縄文時代の社会と文化（１）

　縄文時代開始期の文化様相について、旧石器時代の比較を踏まえ、概観する。

第３回：縄文時代の社会と文化（２）

　九州の縄文土器の変遷を説明するとともに、縄文時代の文化の動態を概観する。

第４回：縄文時代の社会と文化（３）

　縄文時代の集落遺跡や祭祀から、当時の社会、生業について概観する。

第５回：弥生時代の社会と文化（１）

　弥生時代の開始期について朝鮮半島との交流を踏まえながら、概観する。

第６回：弥生時代の社会と文化（２）

　弥生時代の社会の変化について、墳墓の様相を検討して概観する。

第７回：弥生時代の社会と文化（３）

　弥生時代の青銅器生産と鉄器の使用について概観する。

第８回：古墳時代の社会と文化（１）

前方後円墳等、古墳の動態から、当時の社会について概観する。

第９回：古墳時代の社会と文化（２）

古墳の副葬品の変化から、墳墓構築の社会的側面や技術変革について概観する。

第１０回：古墳時代の社会と文化（３）

古墳副葬品、集落の様相から、朝鮮半島等、東アジアとの交流について概観する。

第１１回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（１）

日本における仏教の導入について、寺院とその屋根を飾った古瓦に注目して概観する。

第１２回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（２）

律令的政治制度の成立について、地方官衙遺跡を素材として概観する。

第１３回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（３）

当時の社会構造と、律令制の確立による変化について、集落遺跡の検討から概観する。

第１４回：考古学からみた飛鳥・奈良時代の社会と文化（４）

当時の東アジアとの関係について、都城制の形成、遣唐使に関する遺跡等から概観する。

第１５回：まとめ

全体を振り返って、授業を整理する。

定期試験

テキスト

必要に応じ適宜紹介する。

参考書・参考資料等

各回に指示するもののほか、『岩波講座　日本歴史　古代』（岩波書店、2013～）を予定。

学生に対する評価

小テスト（授業中、２回に１回程度実施予定）５０％、試験５０％を予定しているが、履修人数に応じて最終的に決定する。

授業科目名： 世界史概説【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 黨　武彦／岡本　託
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史

授業のテーマ及び到達目標

世界史の各時代の特徴と、時代の移行の契機について説明できる。世界史と同時代の日本（身近な地域）との関連性を理解できる

授業の概要

中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、基礎的かつ包括的な講義をおこなう。その際、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。また、トピックによっては、日本の事柄とも関連づけながら理解を深めていきたい。

授業計画

第１回：世界史を学ぶことにどのような意味があるのか　歴史をとらえる見方・考え方
第２回：世界の古代文明と宗教のおこり
第３回：地中海世界　ギリシア文明とローマ帝国
第４回：東アジア世界の成立と日本列島
第５回：イスラーム世界の成立と発展
第６回：モンゴル帝国を中心とするユーラシア大陸の動きと東アジア世界
第７回：ルネサンスと宗教改革
第８回：大航海時代　欧州各国のアジアへの進出
第９回：市民革命の時代　イギリス市民革命・フランス革命・アメリカ独立
第１０回：産業革命のインパクト
第１１回：帝国主義とナショナリズム　欧州のアジア・アフリカ進出、中国の苦悩
第１２回：二度の世界大戦（１）第一次世界大戦から戦間期の世界
第１３回：二度の世界大戦（２）欧州のうごき　日中の対立
第１４回：東西冷戦から勢力均衡の崩壊
第１５回：まとめ　現代的諸問題
定期試験

テキスト 　各授業において資料を配布する
参考書・参考資料等 　授業中に適宜資料を配付する
学生に対する評価 レポート試験（４０％）、毎回の授業の最後に提出するコメントペーパー（４０％）、授業中の課題（２０％）

授業科目名： 世界史特講Ⅰ（中国史） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：黨武彦 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		

授業のテーマ及び到達目標

世界史の各時代の特徴と、時代の移行の契機について説明できる。世界史と同時代の日本（身近な地域）との関連性を理解できる

授業の概要

中学校社会科および高等学校地理歴史科で定められている外国史について、中学校歴史教科書の内容に準拠しつつ、日本の近現代史においても重要な意味を持つ中国近現代史に関する講義を映像資料を活用しながらおこなう。その際、台湾海峡問題など、現代の事柄の起源となっているもの、現代社会における変化と類似するもの、現代の社会問題と直結するものに注目しながら講義を進める。

授業計画

第１回：近現代の中国を中心とした東アジア史をとらえる見方・考え方
第２回：清朝の滅亡～半植民地の中国、辛亥革命
第３回：中華民国の成立、孫文と日本、宮崎滔天とアジア主義
第４回：日本の大陸進出　満洲事変から日中戦争
第５回：国共内戦と中華人民共和国の成立
第６回：毛沢東の中国１　中ソ関係、朝鮮戦争と東アジア情勢
第７回：毛沢東の中国２　大躍進から調整政策
第８回：毛沢東の中国３　文化大革命
第９回：毛沢東の中国４　米中接近、日中国交正常化
第１０回：毛沢東の死と改革開放政策の開始
第１１回：胡耀邦の近代化政策と天安門事件
第１２回：１９９０年代、鄧小平の南巡講話後の中国
第１３回：２１世紀の中国の発展、経済大国化、一帯一路政策
第１４回：２１世紀の台湾
第１５回：まとめ　日本と中国をめぐつ現代的諸問題
定期試験

テキスト

各授業において資料を配布する
参考書・参考資料等 濱下武志編『中国史5――清末～現在』（世界歴史大系、山川出版社、2002年）
学生に対する評価 レポート試験（６０％）、毎回の授業の最後に提出するコメントペーパー（２０％）、授業中の課題（２０％）

授業科目名： 世界史特講Ⅱ（西洋史） 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本　託 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史

授業のテーマ及び到達目標

教育、経済、政治、都市、市民生活、国際関係などのさまざまな視点から19世紀の全体像を理解する。これにより、中学校社会科および高等学校地理歴史科において、世界史分野を担当する教員が近現代史の授業プログラムを作成する際に必要な、歴史学的知識と思考方法を養う。さらに、高等学校の「歴史総合」では、従来の「世界史」「日本史」を融合した授業プログラムを作成する際に必要があり、その際に重要となる歴史学的知識と思考方法を養う。

授業の概要

教育、経済、政治、都市構造、市民生活などの様々なテーマを用いて、近代社会のターニングポイントとなった19世紀の社会を理解する。同時に、19世紀後半は西洋諸国が本格的にアジアへ進出した時代であり、本講義では、フランス外交の視点から、アジア進出における西洋諸国の力関係、日本へと進出した目的、日本へ赴任した外交官の特徴などを学んでいく。

授業計画

第１回：イントロダクション：講義の目的、講義の進め方、評価方法、参考書の紹介、歴史学で使う史料の特徴

第２回：19世紀フランスの政治史：政治史と社会史の違い／7つの政体を経験した19世紀フランス

第３回：フランスの産業革命：産業革命による「交通革命」／「ひと・もの・お金・情報」の移動スピードの変化

第４回：　近代的都市への変貌：第二帝政期のパリ都市改造

第５回：都市民衆の生活文化の変容：都市における民衆の生活とソシアビリテ／メディアの発達による価値観の変容

第６回：近代教育の始動：義務化・無償化までの道のり／普仏戦争の敗北から生まれたフランス公教育

第７回：国民の政治参加：1848年普通選挙実施までの道のりと、その後の苦悩

第８回：農村民衆の政治文化：都市・農村民衆の政治参加／革命はどのようにして起こるのか?

第９回：19世紀の植民地政策①：欧米諸国がアジアへ進出した背景

第１０回：19世紀の植民地政策②：近代フランスの植民地政策とアジア進出

第１１回：近代ヨーロッパ外交における日本①：日本の海外情報収集システム／世界のなかの日本 第１２回：近代外交官と日本：近代公務員制度と社会／どのような人物が外交官になったのか 第１３回：幕末期日本に赴任することの意味と役割①：フランス人外交官ギュスターヴ・ベルクール 第１４回：幕末期日本に赴任することの意味と役割②：フランス人外交官レオン・ロッシュ 第１５回：1867年パリ万博とジャポニスム：パリ万博をめぐるフランス政府と幕府の思惑 定期試験
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 定期試験（４０％）、毎回の授業の最後に提出するコメントペーパー（４０％）、授業中の課題（２０％）

授業科目名：世界史特講Ⅲ（東南アジア史）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：山﨑　功 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

東洋史の枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら説明できるようになっていること、東アジア、東南アジア文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から説明できるようになっていること

授業の概要

東洋史を要説する。世界史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けてアジア・日本諸地域の歴史を、東洋史のなかに立体的に定置概観する。アジアの諸文化の多様性・複合性と現代世界の特質を解説する。我が国の歴史と文化の多様性を、日本と東南アジアを東洋史の枠組みのなかで理解できるようにする。

授業計画

第１回：はじめに　東洋史の概観　日本と東アジア・東南アジア世界
第２回：西アジア世界・地中海世界とアジア・日本
第３回：南アジアと東南アジアの地理的特質
第４回：南アジアの文化，社会，国家の発展
第５回：南アジアとの交流と東南アジア世界・日本
第６回：東アジアとの交流と東南アジア世界・日本
第７回：諸地域世界の交流と再編　――　ユーラシアの海域及び内陸のネットワーク形成過程と日本・アジア
第８回：アジア諸地域の繁栄と日本　――　東南アジア海域の動向
第９回：アジア諸地域の繁栄と日本　――　明（みん）・清（しん）帝国と日本との関係
第１０回：アジア諸地域の繁栄と日本　――16世紀～18世紀アジア諸地域の特質と日本の位置付け
第１１回：：世界市場の形成と19世紀アジア・日本
第１２回：帝国主義と東アジア・東南アジア社会の変容
第１３回：二つの世界大戦とアジア
第１４回：米ソ冷戦とアジア・アフリカ世界
第１５回：グローバル化の問題　まとめ

定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等　講義にあわせておって配布、指示する
学生に対する評価 洋史の枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら説明できるようになっていること、東アジア、東南アジア文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から説明できるようになっていることを評価する。teamsを利用した最終課題、(70～100%)、必要に応じた小課題レポート(～30%) などにより総合的に評価する。

授業科目名： 日本史演習Ⅰ（地域史調査） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた地域史研究の方法を身につける。

授業の概要

調査地域の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。

授業計画

第１回：ガイダンス：本演習の計画を立てる

第２回：地域史調査の意義と方法

第３回：調査地域の立地環境

第４回：調査地域の古代

第５回：調査地域の中世

第６回：調査地域の近世

第７回：調査地域の近代

第８回：調査地域の現代

第９回：調査地域の民俗

第10回：現地調査の準備１（現地調査の班を編成し、班ごとに現地調査の事前資料を作成）

第11回：現地調査の準備２（現地調査の事前資料を完成させる）

第12回：現地調査の実施１（古文書調査や聞き取り調査を実施する）

第13回：現地調査の実施２（実地踏査を行う）

第14回：現地調査成果のまとめ１（現地調査の成果をまとめる）

第15回：現地調査成果のまとめ２（調査報告書原稿を作成する）

テキスト

授業中にプリントにして配付します。

参考書・参考資料等

吉村豊雄・春田直紀編『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』（清文堂出版）

学生に対する評価

授業中の発表内容や提出物（調査事前資料・報告書原稿など）で評価する。

授業科目名： 日本史演習Ⅱ（中世文書） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

史料の訓読と解釈、それにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身につける。

授業の概要

中世の古文書を教材にしながら、文書を訓読し、その内容が解釈できるところまで指導する。

授業計画

第１回：文献史料の手引
第２回：くずし字入門１（変体仮名の読み方を覚える）
第３回：くずし字入門２（数字や助詞の読み方を覚える）
第４回：中世文書の用字・用語・文体
第５回：中世文書の訓読法
第６回：下文の訓読と解釈
第７回：下知状の訓読と解釈
第８回：奉書の訓読と解釈
第９回：書下状の訓読と解釈
第10回：申状の訓読と解釈
第11回：売券の訓読と解釈
第12回：寄進状の訓読と解釈
第13回：村落定書の訓読と解釈
第14回：地下の日記の訓読と解釈
第15回：地下帳簿の訓読と解釈
定期試験（中世文書の訓読と解釈）

テキスト

苅米一志著『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館）

参考書・参考資料等

春田直紀編『中世地下文書の世界－史料論のフロンティア』（勉誠出版）

学生に対する評価

授業中の発表内容（20%）、史料の読解力を試す筆記試験（80%）

授業科目名： 日本史演習Ⅲ（荘園調査） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

さまざまな歴史資料による分析と現地調査に基づいた荘園史研究の方法を身につける。

授業の概要

荘園故地の歴史に関する先行研究の検討と現地調査の準備・実施を共同で行う。

授業計画

第１回：荘園村落遺跡概念の意義
第２回：遡及的景観復原の方法
第３回：村落景観復原調査の現実的課題
第４回：環境―生業変動の視点による荘園村落遺跡の調査法
第５回：荘園故地の環境
第６回：荘園故地の現代
第７回：荘園故地の近代
第８回：荘園故地の近世
第９回：荘園故地の中世
第10回：現地調査の準備１（現地調査の班を編成し、班ごとに現地調査の事前資料を作成）
第11回：現地調査の準備２（現地調査の事前資料を完成させる）
第12回：現地調査の実施１（古文書調査や聞き取り調査を実施する）
第13回：現地調査の実施２（実地踏査を行う）
第14回：現地調査成果のまとめ１（現地調査の成果をまとめる）
第15回：現地調査成果のまとめ２（調査報告書原稿を作成する）

テキスト

授業中にプリントにして配付します。

参考書・参考資料等

服部英雄編『中世景観の復原と民衆像―史料としての地名論』（花書院）

学生に対する評価

授業中の発表内容や提出物（調査事前資料・報告書原稿など）で評価する。

授業科目名： 日本史演習Ⅳ（近世文書） 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

史料の判読・読解とそれにもとづいた歴史研究の手法を実践的に身につける。

授業の概要

近世の古文書を教材にしながら、文書の訓読・くずし字の判読から文書の内容を読解し、その情報に基づいた考察ができるところまで指導する。

授業計画

第１回：文献史料の手引
第２回：くずし字入門１（変体仮名の読み方を覚える）
第３回：くずし字入門２（数字や助詞の読み方を覚える）
第４回：近世文書の用字・用語・文体
第５回：仮名書き文書の判読
第６回：往来物の判読
第７回：五人組帳前書の判読
第８回：近世土地台帳の判読
第９回：近世土地台帳の内容解釈
第10回：近世土地台帳の情報分析
第11回：近世土地台帳情報に基づく考察
第12回：近世褒賞記録の判読
第13回：近世褒賞記録の内容解釈
第14回：近世褒賞記録の情報分析
第15回：近世褒賞記録情報に基づく考察
定期試験（近世文書の判読と解釈）

テキスト

児玉幸多編『くずし字解読辞典　普及版』（東京堂出版）

参考書・参考資料等

佐藤孝之・天野清文編『近世古文書用語辞典』（吉川弘文館）
学生に対する評価 授業中の発表内容（20%）、史料の読解力を試す筆記試験（80%）

授業科目名：日本史演習Ⅴ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：伊藤　昭弘 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

地域に残る歴史資料（とくに古文書）を、日本史研究の最新の研究成果をもとに読み込み、歴史教育のなかで生かす方法を学ぶことで、「諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」（高等学校学習指導要領、日本史探究）が授業を実施する能力を身につける。

授業の概要

授業計画

第１回：ガイダンス

授業の進め方、評価方法について説明する。

第２回：古文書解読の方法

現在、古文書解読のためのアプリ（AI）無料で配布されているほか、いわゆる「くずし字」の用例もウェブ上で検索できる。この回では、アプリやウェブを用いた古文書解読の方法を学ぶ。

第３回：古文書解読実践（1）

佐賀藩の成立に関する古文書を読む。

第４回：

第3回の成果を、教科書における幕藩体制成立の説明とあわせて検討する。

第５回：

佐賀藩の知行制に関する古文書を読む。

第６回：

第5回の成果を、教科書における知行制の説明とあわせて検討する。

第７回：

佐賀藩の長崎警備にかんする古文書を読む。

第８回：

第7回の成果を、教科書における「鎖国」の説明とあわせて検討する。

第９回：

文化元年レザノフ長崎来航に関する佐賀藩の古文書を読む。

第１０回：

第9回の成果を、教科書における「開国」の説明とあわせて検討する。

第１１回：

幕末の佐賀藩主鍋島直正の藩政改革に関する古文書を読む。

第１２回：

第11回の成果を、教科書における幕藩体制の崩壊の説明とあわせて検討する。

第１３回：

佐賀藩出身の江藤新平に関する古文書を読む。

第１４回：

第13回の成果を、教科書における明治維新の説明とあわせて検討する。

第１５回：

ウェブ上のさまざまな歴史情報関係データベースを紹介し、生徒たちに歴史情報を入手・活用させるための手法を考える。

テキスト　佐賀藩に関する古文書を、教員が準備する。

参考書・参考資料等

論点・日本史学（ミネルヴァ書房）、日本近世史入門（勉誠社）

学生に対する評価

報告内容および議論への積極性を考慮して決定する。

授業科目名： 日本史演習VI 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 三ツ松　誠
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史

授業のテーマ及び到達目標

「高校と大学とをつなぐ日本近世史研究」

知識：現在の高等学校「日本史探究」の教材にいかに歴史研究の成果が反映されているか、日本近世史に即して、理解・説明できる。

態度：上述の説明を他者に示し、あるいは示された説明と自分のそれとを比較することができる。

技能：上述の説明を点数として測定できる。

授業の概要

日本近世史研究史上の重要テーマを概観する。高等学校用の教科書や大学入試にこれらの論点がどのような形で現れているのか、問題演習の形で取り扱う。歴史研究の成果に歴史教育が無関心であってはならないことを意識しつつ、近世史研究の成果と現状を学んでいく。

授業計画

第１回：【イントロダクション】

授業の目的と進め方、履修にあたっての留意事項、学習の方法と評価の方法が説明される。

第２回：「太閤検地と兵農分離」

太閤検地と兵農分離に関する諸議論が、戦後近世史の出発点にあることを理解する。

第３回：「役の体系――武士――」

軍役システムに立脚した江戸時代の領主制の仕組みを概観する。

第４回：「役の体系――百姓――」

近世経済の根幹、米年貢の仕組みと、人口の多くを占めた村々の姿と百姓の動きを理解する。

第５回：「役の体系――町人――」

武士の支配を支え、また掘り崩していった都市住民の在り方と、そこでの経済発展を概観する。

第６回：「役の体系――身分的周縁――」

「士農工商」で説明しきれない身分制の姿と、権威の源泉としての朝廷について考える。

第７回：「鎖国」

キリスト教諸国と日本との関係の変遷を概観し、日本社会へのその規定性を考える。

第８回：【試験演習】
　論述問題をどう評価するか、実践的な形式で理解を深める。
第９回：「海禁」
　近世国家が取り結んだ異域、とりわけ東アジア諸地域との関係について理解する。
第１０回：「文治政治」
　軍役の体系としての武士社会が太平の中で変貌を余儀なくされていく事情を理解する。
第１１回：「幕藩制改革論」
　近世中後期の政治史をめぐる見方を振り返ったうえで、三大改革の評価を考える。
第１２回：「開国前夜」
　18世紀末からの対外関係の変化とその国内的影響を理解する。
第１３回：「近世の文化」
　近世文化史の取り上げ方について考える。
第１４回：「開国」
　ウェスタン・インパクトに伴い、最幕末期に浮上した政治課題の争点を概観する。
第１５回：【まとめ】
　これまでの内容をおさらいし、必要に応じて補足を行う。
定期試験

テキスト
佐藤信／五味文彦／高埜利彦／鈴木淳ほか『詳説日本史』山川出版社、2023（本シラバスに即した開講開始時の令和10年度時点での最新版を利用する）

参考書・参考資料等
上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ！』勉誠社、2024（本シラバスに即した開講開始時の令和10年度時点での最新版を利用する）

学生に対する評価
平常点（各回の提出課題）50％、期末試験50％を予定している（履修人数に応じて変更の可能性がある）。

授業科目名： 日本史調査実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：春田直紀 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		

授業のテーマ及び到達目標

地域の歴史を語る素材を掘り起こし史料化・教材化していく技法を、実践的に身につけていく。

授業の概要

ひとつの地域に滞在し、その土地の歴史に関わるあらゆる情報を収集し、整理していく。具体的には村落を対象に、古文書の調査、住民への聞き取り、信仰物や農地・牧野・山林の現場確認をし、調査成果を報告書にまとめる。

授業計画

第１回：調査の概要説明
第２回：調査の事前資料作成
第３回：調査の図面作成
第４回：調査の打合せ
第５回：現地調査（資料収集）
第６回：現地調査（古文書調査）
第７回：現地調査（地名聞き取り調査）
第８回：現地調査（土地利用・生業聞き取り調査）
第９回：現地調査（社会組織聞き取り調査）
第10回：現地調査（行事・信仰聞き取り調査）
第11回：現地調査（土地利用・生業実地踏査）
第12回：現地調査（信仰物の撮影・採寸）
第13回：調査成果のまとめ（報告書作成）
第14回：調査成果のまとめ（作図）
第15回：本実習の総括

テキスト

「調査のしおり」を配布する。

参考書・参考資料等

吉村豊雄・春田直紀編『阿蘇カルデラの地域社会と宗教』（清文堂出版）

学生に対する評価

調査に取り組む姿勢、提出物（調査成果報告原稿）で評価

授業科目名： 西洋史演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本　託 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		

授業のテーマ及び到達目標

グローバル・ヒストリーを学び、従来の「西洋史」「日本史」「東洋史」という枠組みにとらわれない、新たな視点から歴史をとらえる能力を養う。さらに高等学校の「歴史総合」では、従来の「世界史」「日本史」を融合した授業プログラムを作成する際に必要があり、その際に重要となる歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」（高等学校学習指導要領、歴史総合）という能力を身につける。

授業の概要

近現代のグローバル・ヒストリーに関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。

授業計画

第１回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法

第２回：教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する。

第３回：グローバル化時代の歴史学（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第４回：グローバル・ヒストリーの可能性（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第５回：研究文献・論文に関する報告①（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第６回：近代化とお雇い外国人（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第７回：長崎の教会群という世界遺産（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第８回：研究文献・論文に関する報告②（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第９回：1700年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第１０回：1800年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第１１回：1900年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第１２回：1960年の世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１３回：研究文献・論文に関する報告③（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１４回：私たちの立ち位置と未来の構図（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１５回：新しい世界史とグローバル・ヒストリー（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20%　研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 西洋史演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本　託 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		

授業のテーマ及び到達目標

歴史修正主義を学び、歴史には歴史的事実と歴史的真実があることを理解する。そして、当事者によって歴史的事象のとらえ方が異なることを理解し、新たな視点から歴史をとらえる能力を養う。中学校社会科および高等学校地理歴史科において、世界史分野を担当する教員が授業プログラムを作成する際に必要な歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察する」（高等学校学習指導要領、世界史探究）という能力を身につける。

授業の概要

歴史修正主義に関する文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識を学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。

授業計画

第１回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法

第２回：教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する。

第３回：歴史学と歴史修正主義（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第４回：マルクス主義の修正（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第５回：ニュルンベルク裁判（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第６回：研究文献・論文の報告①（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第７回：ネオナチの歴史観（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第８回：反ユダヤ主義（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第９回：人道に対する罪（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第１０回：研究文献・論文の報告②（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第１１回：明治政府の歴史観①（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１２回：明治政府の歴史観②（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１３回：研究文献・論文の報告③（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１４回：植民地支配①（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１５回：植民地支配②（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20%　研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 西洋史演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本　託 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		

授業のテーマ及び到達目標

世界史のなかの近世・近代日本を学び、近世・近代の歴史を日本と世界の双方からとらえる能力を養う。さらに高等学校の「歴史総合」では、従来の「世界史」「日本史」を融合した授業プログラムを作成する際に必要があり、その際に重要となる歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」（高等学校学習指導要領、歴史総合）という能力を身につける。

授業の概要

日本から見た世界、世界から見た日本をテーマとした文献・論文を講読し、最新の歴史学的知識や歴史認識などを学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献・論文の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。また、卒業論文の執筆のために必要な文献の収集方法、歴史史料の性質、学界で論点となっているトピックに対する理解も深めていく。

授業計画

第１回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法

第２回：教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する。

第３回：大航海時代と九州①：中世ペストの流行とザビエル来日との関係（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第４回：大航海時代と九州②：ザビエルの日本での活動実態と九州の諸大名（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第５回：大航海時代と九州③：東インド会社と有田焼のヨーロッパ進出（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第６回：江戸時代の長崎と異国（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第７回：産業革命と日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第８回：19世紀欧米諸国のアジア進出①：19世紀ヨーロッパの国際関係とアジアとの連動制（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第９回：19世紀欧米諸国のアジア進出②：フランスの琉球進出にみるヨーロッパ諸国の勢力均衡（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１０回：幕末期日本の海外情報収集システム（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１１回：欧米諸国からみた幕末①：ヨーロッパ諸国における安政の五カ国条約の意図（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１２回：欧米諸国からみた幕末②：フランス人外交官ベルクールの活動にみる幕末日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１３回：欧米諸国からみた幕末③：フランス人外交官ロッシュの活動にみる幕末日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１４回：1867年パリ万国博覧会（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１５回：第一次世界大戦と九州（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20%　研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 西洋史演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本　託 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		

授業のテーマ及び到達目標

中世から現代にかけて、中学校社会科および高等学校地理歴史科の世界史分野における歴史的事象をいくつか取り上げ、研究成果を踏まえながら、なぜそれらの事象が起こったのかの因果関係を立体的に考える能力を養う。そうすることで、中学校社会科および高等学校地理歴史科において、世界史分野を担当する教員が授業プログラムを作成する際に必要な歴史学的知識と思考方法を養う。これにより、「世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察する」（高等学校学習指導要領、世界史探究）という能力を身につける。

授業の概要

中世から現代にかけての「世界史」に関する通史的な文献を講読し、歴史的事象を他の事象と関連させながら、歴史的事象の因果関係を含めて立体的に学ぶ。その際、受講生が⑴輪読文献、⑵研究文献の内容をまとめ、報告し、それに対する疑問点を提示する。そして、教員が現在学界で論点となっているポイントを提示し、受講生全員でディスカッションをおこなう。

授業計画

第１回：自己紹介／講読文献とその報告分担の決定／歴史学文献・論文の検索方法

第２回：「宗派化する世界――宗教・国家・民衆」（教員が報告のデモンストレーションをおこない、研究文献の内容のまとめ方、報告方法（レジュメのまとめ方・話し方）、疑問点の見つけ方について説明する）

第３回：アジア海域における近世的国際秩序の形成（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第４回：商品連鎖のなかの西アフリカ（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第５回：感染症・検疫・国際社会（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第６回：産業革命論――欲望解放と自然的制約（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第７回：大西洋世界のなかのフランス革命（受講生の報告／報告に対するディスカッション）

第８回：ロシアの「大航海時代」と日本（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第９回：啓蒙主義とジェンダー（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１０回：17～18世紀ヨーロッパにおける日本情報と日本のイメージ（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１１回：ナショナリズムとジェンダー（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１２回：移民の世紀（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１３回：海域から見た19世紀世界（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１４回：奴隷貿易・奴隷制の廃止と「自由」（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 第１５回：植民地統治と人種主義（受講生の報告／報告に対するディスカッション） 定期試験は実施しない
テキスト 授業中に適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する
学生に対する評価 授業参加態度（質疑応答、小課題発表）：20%　研究発表（資料と話し合い）：30% 発表後の最終レポート：50%

授業科目名： 人文地理学概説 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		

授業のテーマ及び到達目標

人文地理学とは何かを知る。中学校社会科地理的分野および高等学校地理総合・地理探究のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得する。

授業の概要

人文地理学における主要なトピックを紹介する。

授業計画

第１回：人文地理学とは何か
第２回：人口
第３回：資源・エネルギー
第４回：農林水産業の立地と分布
第５回：工業化と経済発展
第６回：流通と交易
第７回：ネットワークと社会
第８回：観光と地域
第９回：集落の形態と構造
第１０回：都市と社会
第１１回：開発と地域
第１２回：国土政策・地域政策
第１３回：環境問題
第１４回：世界と日本ー「国家」の地理ー
第１５回：地理学と社会
定期試験

テキスト

上杉和央・香川雄一・近藤章夫編『みわたす・つなげる人文地理学』古今書院（2021）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

毎回の授業後の課題（45%）、期末試験（55%）

授業科目名： 自然地理学特講Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 米島万有子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ：文化と自然環境

・地理学の基礎的な知識を習得します。

・自然環境と人間との付き合い方から生じる文化や環境問題の背景について理解を深めます。

・多面的な視点から地域の自然環境とそこに住む人々の生活との関係性を見る力を養います。

授業の概要

この授業では、人々の暮らしのなかで環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説します。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指します。

授業計画

第１回：地理学／自然地理学とは？　地図の基礎

第２回：災害と文化（1）火山災害－火山による被害と恩恵

第３回：災害と文化（2）水害－水害常襲地域における先人の智恵

第４回：災害と文化（3）地震－地震による被害と民間信仰

第５回：災害と文化（4）津波－津波による被害とハード・ソフト対策

第６回：グループワークによる逃げ地図・安心安全マップ作成（１）グループ話し合い

第７回：グループワークによる逃げ地図・安心安全マップ作成（２）地図作成

第８回：逃げ地図・安心安全マップのプレゼンテーション

第９回：観光と文化（１）観光モデルと観光に関わる問題

第１０回：観光と文化（２）湿地景観の保全とその活用

第１１回：山の環境と文化（１）里山の変化と野生動物の問題

第１２回：山の環境と文化（２）生物資源の活用と食文化

第１３回：住環境と文化　感染症と景観

第１４回：最終課題のプレゼンテーションと相互評価（１）Aグループ

第１５回：最終課題のプレゼンテーションと相互評価（２）Bグループ

定期試験に代えて、期末に課す最終課題の提出とその成果物のプレゼンテーション
テキスト テキストは使用しません。授業において資料を配布します。
参考書・参考資料等 小野映介・吉田圭一郎（2021）編『みわたす・つなげる自然地理学』古今書院 上野和彦・椿真智子・中村康子編(2015)『地理学概論』朝倉書店 杉浦芳夫 編著（2012）『地域環境の地理学』朝倉書店 逃げ地図づくりプロジェクトチーム編（2019）『災害から命を守る 「逃げ地図」づくり』ぎょうせい このほか参考文献・参考資料は、適宜授業内で紹介します。
学生に対する評価 期末に課す最終課題とそのプレゼンテーション（70%）と各授業回に課す課題の提出、授業への積極的参加度（30%）で評価します。 課題・授業への積極的参加度は、各授業回に課す課題の提出および完成度、授業・コメントシートでの発言や作業の取り組み姿勢、中間課題（逃げ地図・安心安全マップ）の作成およびプレゼンテーション等で評価します。課題の詳細は授業で説明します。

授業科目名： 人文地理学特講 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

平成２８年熊本地震の被災地の地理学的野外調査。高等学校学習指導要領　地理総合　２内容　C（１）自然環境と防災、および（２）生活圏の調査と地域の展望　の記述内容のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得する。

授業の概要

平成２８年熊本地震の被災地がいかに復旧・復興したか、あるいはしなかったかについて、地理学的な野外調査を行って考察する。

授業計画（２限連続８回）

第１回：授業内容の説明と古町地区河原町繊維問屋街の野外調査（２コマ連続）
第２回：古町地区唐人町通り以北の野外調査（２コマ連続）
第３回：古町地区唐人町通り以南かつ熊本市電A系統以東の野外調査（２コマ連続）
第４回：古町地区熊本市電A系統以西の野外調査（２コマ連続）
第５回：新町地区新鳥町商店街より南の野外調査（２コマ連続）
第６回：新町地区熊本市電B系統以西の野外調査（２コマ連続）
第７回：新町地区熊本市電B系統以東の野外調査（２コマ連続）
第８回：新鳥町商店街の野外調査およびまとめ（２コマ連続）
定期試験に代えて、レポートの作成

テキスト

伊東維年・鹿嶋洋編『熊本地震と地域産業』日本評論社（2018）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

フィールドノート（50%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 自然地理学特講Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 米島万有子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ：文化と自然環境

・地理学の基礎的な知識を習得します。

・自然環境と人間との付き合い方から生じる文化や環境問題の背景について理解を深めます。

・多面的な視点から地域の自然環境とそこに住む人々の生活との関係性を見る力を養います。

授業の概要

この授業では、人々の暮らしのなかで環境との関わりから生じた問題や文化について、主に日本国内の事例を取り上げ、地理学の基礎的な概念を踏まえながら解説します。事例の解説や読図作業を通じて、地理学的な視点・手法を習得するとともに、文化や環境問題を多面的に考えられるようになることを目指します。

授業計画

第１回：地理学／自然地理学とは？　地図の基礎

第２回：災害と文化（1）火山災害－火山による被害と恩恵

第３回：災害と文化（2）水害－水害常襲地域における先人の智恵

第４回：災害と文化（3）地震－地震による被害と民間信仰

第５回：災害と文化（4）津波－津波による被害とハード・ソフト対策

第６回：グループワークによる逃げ地図・安心安全マップ作成（１）グループ話し合い

第７回：グループワークによる逃げ地図・安心安全マップ作成（２）地図作成

第８回：逃げ地図・安心安全マップのプレゼンテーション

第９回：観光と文化（１）観光モデルと観光に関わる問題

第１０回：観光と文化（２）湿地景観の保全とその活用

第１１回：山の環境と文化（１）里山の変化と野生動物の問題

第１２回：山の環境と文化（２）生物資源の活用と食文化

第１３回：住環境と文化　感染症と景観

第１４回：最終課題のプレゼンテーションと相互評価（１）Aグループ

第１５回：最終課題のプレゼンテーションと相互評価（２）Bグループ

定期試験に代えて、期末に課す最終課題の提出とその成果物のプレゼンテーション

テキスト

テキストは使用しません。授業において資料を配布します。

参考書・参考資料等

小野映介・吉田圭一郎（2021）編『みわたす・つなげる自然地理学』古今書院

上野和彦・椿真智子・中村康子編(2015)『地理学概論』朝倉書店

杉浦芳夫 編著（2012）『地域環境の地理学』朝倉書店

逃げ地図づくりプロジェクトチーム編（2019）『災害から命を守る 「逃げ地図」づくり』ぎょうせい

このほか参考文献・参考資料は、適宜授業内で紹介します。

学生に対する評価

期末に課す最終課題とそのプレゼンテーション（70%）と各授業回に課す課題の提出、授業への積極的参加度（30%）で評価します。

課題・授業への積極的参加度は、各授業回に課す課題の提出および完成度、授業・コメントシートでの発言や作業の取り組み姿勢、中間課題（逃げ地図・安心安全マップ）の作成およびプレゼンテーション等で評価します。課題の詳細は授業で説明します。

授業科目名： 自然地理学特講Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田　圭介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学　・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

本講義のテーマは，中・高社会科地理分野の「地形学」に関する知識と技能を身につけ，ひいては自然災害のシステムを考え，教育現場で教えることができる人材輩出を目標とする。具体的には以下のとおりである。

1)本邦における典型的な地形について，その分布や形成過程を知識として習得し，説明することができる。

2)人間による土地利用の特徴や地形形成に伴う自然災害を説明することができる。

3)技能として，国土交通省発行の地形図の読解を行うことができる。

授業の概要

本講義では主に地形学分野を中心に取り上げて，講義形式で授業を行うが，教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して，簡単な解析作業を何度か行う。

授業計画

第１回：ガイダンス，自然地理学と自然災害科学との関係
第２回：氷河性海水準変動と地殻変動について
第３回：離水海岸１～砂州の形成と分布の特徴
第４回：離水海岸２～砂嘴・トンボロの形成と分布の特徴
第５回：海岸平野の形成と分布の特徴
第６回：三角州の形成と分布の特徴
第７回：離水海岸３～海岸段丘の形成と分布の特徴
第８回：沈水海岸１～リアス海岸・フィヨルドの形成と分布の特徴
第９回：沈水海岸２～エスチュアリの形成と分布の特徴
第１０回：海溝型地震と津波について
第１１回：リアス海岸のハザードマップの読図
第１２回：内陸型地震と変動地形について
第１３回：地形図を用いた変動地形の抽出
第１４回：斜面地形とその崩壊について

第１５回：地形図を用いた地すべり跡地の地図読解 課題レポート提出
テキスト 帝国書院編集部　編　『新詳資料　地理の研究』　帝国書院
参考書・参考資料等 特になし。適宜紹介する。
学生に対する評価 期末レポート：50%，毎回講義中に課すミニレポート：50%

授業科目名： 地誌学概説 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本　耕三／黒田　圭介 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会，高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌

授業のテーマ及び到達目標

読図や作図を通して見る地誌。中学校社会科地理的分野のバックグラウンドとなる見方・考え方を修得する。

授業の概要

　中学校社会科地理的分野≒地誌学習と言われることがあるが、区分された地域ごとに①自然環境、②人口、③産業、④交通などを平板に列挙するのではなく、地域の特色や地域間の結びつきを理解させなければならない。そこで、地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、特色や結び付きを考察していく。

授業計画

第１回：地誌学とは何か
第２回：農業用水の開発と農業的土地利用の変化を読む（愛知県）
第３回：産業の発達と地形の改変を読む（岐阜県）
第４回：ため池の改廃と保全を考える（兵庫県）
第５回：海岸の地形と高潮の関係を読む（岡山県）
第６回：水系図をつくる（奈良県）
第７回：土地利用図をつくる（長野県）
第８回：ハイサーグラフの作成（世界）
第９回：人口ピラミッドの作成（世界）
第１０回：性比と高齢化率の散布図の作成（日本）
第１１回：出荷額と販売額の散布図の作成（任意の都道府県）
第１２回：日本の工業分布を考える（日本）
第１３回：在日外国人の分布を考える（日本）
第１４回：都市圏の人口流動を考える（任意の都道府県）
第１５回：公示地価の等値線図をつくる（新潟県）
定期試験に代えて、各回の成果物の提出

テキスト

内田和子・寄藤昂編『地理学演習帳』古今書院（2010）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 各回の成果物（100%）

<table>
<tr><td>授業科目名：
人文地理学演習Ⅰ

【独自科目（熊大）】</td><td>教員の免許状取得のための
選択科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：
山本耕三
担当形態：
単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校　地理歴史）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項
・地理学（地誌を含む。）
・人文地理学・自然地理学</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標
野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：授業内容の説明と計画立案
第２回：熊本城下町古町地区の歴史（講義）
第３回：熊本地震と熊本城下町古町地区（講義）
第４回：インターネットで得られる資料の収集
第５回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集
第６回：熊本市立図書館における古地図・住宅地図収集
第７回：熊本大学附属図書館における熊本地震関係資料収集
第８回：熊本県庁における熊本地震関係行政資料収集
第９回：熊本市役所における熊本地震関係行政資料収集
第１０回：収集資料の整理と野外調査の準備
第１１回：古町地区での野外調査（1）熊本地震以降の土地利用変化
第１２回：古町地区での野外調査（2）熊本地震以降の移転と廃業
第１３回：野外調査で得られたデータの整理
第１４回：野外調査で得られたデータに基づく討論
第１５回：まとめ（レポートの作成）</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト
伊東維年・鹿嶋洋編（2018）：『熊本地震と地域産業』日本評論社</td></tr>
<tr><td colspan="4">参考書・参考資料等
熊本日日新聞社編集局編（2016）：『熊本地震連鎖の衝撃』熊本日日新聞社</td></tr>
</table>

学生に対する評価

図書館等での資料収集の参加度（25%）、野外調査の参加度（25%）、討論への参加度およびレポートの内容（50%）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。

授業の概要

大学所在地を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。

授業計画

第１回：授業内容の説明と計画立案
第２回：熊本城下町新町地区の歴史（講義）
第３回：熊本地震と熊本城下町新町地区（講義）
第４回：インターネットで得られる資料の収集
第５回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集
第６回：熊本市立図書館における古地図・住宅地図収集
第７回：熊本大学附属図書館における熊本地震関係資料収集
第８回：熊本県庁における熊本地震関係行政資料収集
第９回：熊本市役所における熊本地震関係行政資料収集
第１０回：収集資料の整理と野外調査の準備
第１１回：新町地区での野外調査（1）熊本地震以降の土地利用変化
第１２回：新町地区での野外調査（2）熊本地震以降の移転と廃業
第１３回：野外調査で得られたデータの整理
第１４回：野外調査で得られたデータに基づく討論（古町地区との相違点に留意して）
第１５回：まとめ（レポートの作成）

テキスト

伊東維年・鹿嶋洋編（2018）：『熊本地震と地域産業』日本評論社

参考書・参考資料等

熊本日日新聞社編集局編（2016）：『熊本地震連鎖の衝撃』熊本日日新聞社

学生に対する評価

図書館等での資料収集の参加度（25%）、野外調査の参加度（25%）、討論への参加度およびレポートの内容（50%）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。

授業の概要

大学所在地近隣市町村を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。

授業計画

第１回：授業内容の説明と計画立案
第２回：熊本県益城町木山地区の歴史（講義）
第３回：熊本地震と益城町木山地区（講義）
第４回：インターネットで得られる資料の収集
第５回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集
第６回：ミナテラス益城町交流情報センターにおける古地図・住宅地図収集
第７回：熊本大学附属図書館における熊本地震関係資料収集
第８回：熊本県庁における熊本地震関係行政資料収集
第９回：益城町復興まちづくりセンターにじいろにおける熊本地震関係行政資料収集
第１０回：収集資料の整理と野外調査の準備
第１１回：益城町木山地区での野外調査（1）熊本地震以降の土地利用変化
第１２回：益城町木山地区での野外調査（2）熊本地震以降の移転と廃業
第１３回：野外調査で得られたデータの整理
第１４回：野外調査で得られたデータに基づく討論（熊本市中心市街地とベッドタウンとの地域の性格の相違点に留意して）
第１５回：まとめ（レポートの作成）

テキスト

伊東維年・鹿嶋洋編（2018）：『熊本地震と地域産業』日本評論社

参考書・参考資料等 熊本日日新聞社編集局編（2016）：『熊本地震連鎖の衝撃』熊本日日新聞社
学生に対する評価 図書館等での資料収集の参加度（25%）、野外調査の参加度（25%）、討論への参加度およびレポートの内容（50%）

授業科目名： 人文地理学演習Ⅳ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

野外調査に基づいた人文地理学研究に必要な知識を得るとともに、中学校社会科地理的分野「地域の在り方」、高等学校地理歴史科地理総合「生活圏の調査と地域の展望」の授業を実施する能力を身に付ける。

授業の概要

大学所在地とは生活圏が異なる熊本県内を事例に、野外調査に基づいた人文地理学研究の企画・実施・まとめを行う。

授業計画

第１回：授業内容の説明と計画立案
第２回：人吉城下町の歴史（講義）
第３回：令和２年７月豪雨と人吉城下町紺屋町通り（講義）
第４回：インターネットで得られる資料の収集
第５回：熊本県立図書館における古地図・住宅地図収集
第６回：熊本県庁における令和２年７月豪雨関係行政資料収集
第７回：熊本大学附属図書館における令和２年７月豪雨関係資料収集
第８回：収集資料の整理と野外調査の準備
第９～１２回（集中講義）：人吉市紺屋町通りでの野外調査（土地利用変化（第9回）、事業所の移転（第10回）・廃業（第11回）・開業（第12回））
第１３回：野外調査で得られたデータの整理
第１４回：野外調査で得られたデータに基づく討論（地震被災地との相違点に留意して）
第１５回：まとめ（レポートの作成）

テキスト

熊本日日新聞社（2020）：『特別報道写真集 令和2年熊本豪雨 大水害の記録』熊日出版

参考書・参考資料等

人吉球磨月刊情報誌『どぅぎゃん』2020年9月号以降の各号

学生に対する評価

図書館等での資料収集の参加度（25%）、野外調査の参加度（25%）、討論への参加度およびレポートの内容（50%）

授業科目名： 自然地理学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田　圭介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学　・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

地理学的な研究を進めるうえで，地図読解能力は必須技能である。また，小・中社会科ならびに高等学校地理において地図読解を伴う学習内容が設定されており，これを教授できる技能が教員には求められる。そこでこの演習では，特に本邦に典型的に分布する小地形を具体例として，地形図や空中写真を用いた地形分類の技能を習得することを目標とする。

授業の概要

この演習では，机上作業として地図読解を行って，地形分類図やハザードマップなどの主題を作成し，その成果をもって現地調査（フィールドワーク）を行い，その図が現実とマッチしているか，演習後半に確認作業（グランドトゥルース）の現地調査を実施する。

授業計画

第１回：ガイダンス・地図記号について理解を深める
第２回：地図読解１～扇状地の土地利用
第３回：地図読解２～氾濫原の微地形分類
第４回：地図読解３～海岸平野の納屋集落と微地形の関係
第５回：地図読解４～等高線で尾根と谷を読む
第６回：地図読解５～リアス海岸と谷口平野
第７回：地図読解６～蛇行河川と三日月湖
第８回：地図読解７～洪積台地の地形分類
第９回：地図読解８～断層地形の分類
第１０回：地図読解９～丘陵地における切り盛り土判読
第１１回：地図読解１０～城下町の地形と道路形状
第１２回：現地調査の実施１～後背湿地と自然堤防の土地利用
第１３回：現地調査の実施２～丘陵開発ニュータウン
第１４回：現地調査の実施３～断層地形の確認
第１５回：現地調査のまとめ（学内にて実施）
課題レポート提出

テキスト なし
参考書・参考資料等 帝国書院編集部　編　『新詳資料　地理の研究』　帝国書院
学生に対する評価 毎時課題（50%），期末レポート（50%）で評価する。

授業科目名： 自然地理学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田　圭介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学　・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

本演習では日本国内のある地域(市町村単位)を取り上げ，その地域を構成する自然環境，歴史，経済，産業等について調べ，学習し，それらをまとめて総合的に解釈することで，様々な事象を多方面から俯瞰して考えることができる「地理学的な視点」を養うことを目標とする。

地理学は「百聞は一見に如かず」の学問で，その研究・教育の現場においては現地調査(フィールドワーク)の実施に重きが置かれる。小・中学校社会科教育の現場において「社会科見学」や「修学旅行」として実施される現地調査・現地観察は，児童・生徒に新鮮な驚きや知的好奇心を与える教育方法の一つである。本講義では，地理学的な考え方を習得するとともに，調べる→実際に実地で見聞きする→驚く，という一連の経験を学生のうちに体感し，その経験をもとに効果的な社会科教育を行うことができる教員の養成を目指すことを目標とする。

授業の概要

本演習では修学旅行や社会科見学を想定し，特に「自然環境」「土地利用」「産業」に着目して企画を行って，実際に現地調査・現地観察を行い，その学習効果を確認する。グループワークが主であるが，適宜講義も行って，知識の涵養に努める。

授業計画

第１回：ガイダンス・フィールドワークとは?
第２回：修学旅行の具体例を知る
第３回：事前調査１～調査地の選定
第４回：事前調査２～調査地の自然環境について調べる
第５回：事前調査３～調査地の土地利用について調べる
第６回：事前調査４～調査地の産業について調べる
第７回：事前調査発表会（グループごとに調べた内容を発表する）
第８回：企画１～観察・調査地の選定
第９回：企画２～観察・調査ルート作成
第１０回：企画３～修学旅行（または社会科見学）のしおり作成
第１１回：企画発表会（グループごとに企画内容を発表する）

第１２回：現地調査の実施１ 第１３回：現地調査の実施２ 第１４回：現地調査の実施３ 第１５回：現地調査のまとめ（学内で実施） 課題レポート提出
テキスト なし
参考書・参考資料等 なし。適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時課題（50%），期末レポート（50%）で評価する。

授業科目名： 自然地理学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田　圭介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学　・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

本演習では，地理情報システム(GIS)を用いた自然地理学的な解析作業を行って，そのシステムの操作方法や考え方を習得し，中学校社会科・高校地理においてGISの学習を展開できる人材輩出を目標とする。

授業の概要

本演習では，まずGISの理論を学び，次いでGISを用いて実際に主題図を作成して，その操作法や解析方法を学ぶ。最後に，現地調査を行ってデータを収集し，それをもってGISにて主題図の作成，および解析作業を行って，実践力を養う。本演演習では，デジタル機器を用いた測量を行って，GISで地形解析を実施する。

授業計画

第１回：ガイダンス・GISとは
第２回：GISの基礎１～中・高社会科におけるGISの取り扱いについて
第３回：GISの基礎２～データの取得と表示方法，投影座標系の設定を学ぶ
第４回：GISの基礎３～主題図作成に適したデータ形式を学ぶ
第５回：GISの基礎４～オーバーレイの概念を学ぶ
第６回：GIS演習１～DEMデータで地形を読む
第７回：GIS演習２～ベクタデータの作成方法
第８回：GIS演習３～主題図の作成
第９回：スマートフォンを用いた測量方法を学ぶ
第１０回：現地調査１（スケッチ，測量周辺環境の調査）
第１１回：現地調査２（ハンドレベルとクリノメーターによる測量）
第１２回：現地調査３（スマートフォンアプリを用いた測量）
第１３回：GIS演習４～現地調査より取得データの整理
第１４回：GIS演習５～DEMデータから等高線を作成する
第１５回：GIS実習６～主題図，特に微地形分布の作成
課題レポート提出

テキスト なし
参考書・参考資料等 適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時課題（50%），期末レポート（50%）で評価する。

授業科目名： 自然地理学演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田　圭介 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学　・自然地理学

授業のテーマ及び到達目標

本演習では特に災害地形に着目し，その読解や地形特性を学術論文の講読や地図読解より理解して，自然災害について深い理解をもち，防災において効果的な授業を構築できる教員育成を目標とする。

授業の概要

本演習では特に「内・外水氾濫」と「地震災害」に着目し，序盤はこれらの基礎的理解を深めるため，国内外の論文講読を行う。次に，災害地の調査法を学び，実際に被災した地域を訪れて調査・観察を行う。最後に，調査地のハザードマップの作成を行う。これらを通じて，実践力を養い，児童・生徒に対して災害大国日本で生き抜く術を教授できる教員の育成を図る。

授業計画

第１回：ガイダンス・氾濫と地震について知る
第２回：内・外水氾濫に関する基礎知識
第３回：論文講読１～外水氾濫
第４回：論文講読２～内水氾濫
第５回：論文講読３～1999年博多駅浸水
第６回：地震被害についての基礎知識
第７回：論文講読４～東日本大震災
第８回：論文講読５～熊本地震
第９回：論文講読６～福岡西方沖地震
第１０回：現地調査１～博多駅とその周辺（御笠川越水）
第１１回：現地調査２～博多ふ頭（地震被害）
第１２回：現地調査３～玄海島（地震被害）
第１３回：現地調査のまとめ（学内で実施）
第１４回：博多駅周辺の浸水リスクマップの作成
第１５回：リスクマップの発表会，まとめ
課題レポート提出

テキスト なし。
参考書・参考資料等 なし。適宜紹介する。
学生に対する評価 毎時課題（50%），期末レポート（50%）で評価する。

授業科目名： 地理学調査実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本耕三 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 地理学の調査法のいくつかを修得し、自分で調査できるようになる。			
授業の概要 泊程度の日程で実地調査（フィールドワーク）を行う。災害の被災地等現地にて、文献調査、聞き取り調査を行う。			
授業計画（集中講義、４日間、１日あたり授業４回相当） 第１日：現地調査の予備調査（主として図書館・資料館等での文献調査）と反省会（４コマ連続） 第２日：現地調査の本調査（聞き取り調査以外の調査）と反省会（４コマ連続） 第３日：現地調査の本調査２日目（聞き取り調査）の実施と反省会（４コマ連続） 第４日：現地調査の補足調査の実施と反省会（４コマ連続） 定期試験に代えて、レポートの作成			
テキスト 正井泰夫・小池一之編『卒論作成マニュアル　よりよい地理学論文作成のために』古今書院（1994）			
参考書・参考資料等 授業前に必要な資料を配布する。			
学生に対する評価 フィールドノート（50%）、期末レポート（50%）			

授業科目名： 法律学概説 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉岡　剛彦
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・法律学、政治学 ・法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

法律学（国際法を含む）の基本事項を講ずる。受講者が、社会における具体的な法的諸問題を考えることを通して、法概念・法知識・法思考のエッセンスを修得することを目標とする。本講義では、刑法を含めた公法や、私法（民法）の基本を理解した上で、その知識を応用しながら、交通事故という具体的事象に含まれた法的問題をみずから解析できることを目指す。

授業の概要

本講義では、担当教員が、出来るだけ具体的な社会問題を取り上げつつ、そこに含まれている法的論点を解説する。法と道徳の比較、いじめ問題など学校現場における法や人権のあり方、裁判員制度を念頭に置いた法教育に触れながら、憲法・刑法・民法の基礎知識を習得する。その上で学期後半では、交通事故という身近で具体的な問題を取り上げ、刑法や民法に関する法的知識を応用しつつ考察する。講義を通じて、法の基本的な考え方や仕組みにつき、受講学生に馴染んでもらうと共に、個々の問題とそれに対する（法的）対処を共に考える。

授業計画

第１回：イントロダクション（学校／教育と法とのかかわり）
第２回：法とは何か（１）法の特質、法と道徳、法と強制
第３回：法とは何か（２）法的正義（正義論の諸祖）
第４回：憲法と人権（１）立憲主義、世界人権宣言・国際人権規約
第５回：憲法と人権（２）教育を受ける権利、教育基本法、いじめ問題（いじめ防止対策推進法）
第６回：刑法の基礎（１）犯罪と刑罰、罪刑法定主義
第７回：刑法の基礎（２）刑事裁判、裁判員制度と法教育
第８回：刑法の基礎（３）死刑制度をめぐって（存廃論議、日米比較、死刑廃止条約）
第９回：民法の基礎（１）民法総論、契約とその成立、債権法、不法行為法（損害賠償）
第１０回：民法の基礎（２）家族法、ジェンダーと法（憲法24条、女性差別撤廃条約）
第１１回：交通事故の法的問題（１）交通事故の現状（少なくない子どもの犠牲など）
第１２回：交通事故の法的問題（２）刑法的側面：危険運転罪など交通事犯厳罰化
第１３回：交通事故の法的問題（３）民法的側面：被害者からの損害賠償請求（法定利率など）

第１４回：交通事故の法的問題（4）クルマ社会と自然・生活環境の破壊（気候変動枠組み条約など） 第１５回：学期全体のまとめ―リーガル・マインドとは何か？ 課題レポート提出
テキスト 担当者のほうで、各単元（テーマ）ごとに講義資料を準備・配付する。
参考書・参考資料等 田中成明『法学入門［第３版］』（有斐閣、2023年） 西原博史・斉藤一久『教職のための憲法入門［第３版］』（弘文堂、2024年） 初宿正典ほか著『いちばんやさしい憲法入門［第６版］』（有斐閣、2020年）
学生に対する評価 成績評価は、到達目標（法的諸問題に関する法概念・法知識・法思考の修得）を評価基準としつつ、講義内容に対する理解度を問う課題レポートによって行なう。また、授業において不定期にミニ・レポート用の用紙を配布し、それに授業に関する質問・意見・批判などを書いて提出してもらい、平常点（出席点）として加点する。

授業科目名： 法律学特講 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉岡　剛彦
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」

授業のテーマ及び到達目標

法律学（国際法を含む）について、特に「憲法・人権」を基軸に講ずる。憲法の精神（立憲主義）ならびに、様々な人権侵害事例を学んで内情を理解し、社会生活における不正義（人権や人格の侵害・蹂躙）に対する感受力（センシビリティ）を鋭敏化することを目標とする。

授業の概要

憲法の基本理念・基礎知識について説明した上で、社会的に不利な立場にある人たち（マイノリティ）の「人権」をめぐる法的論点や社会状況について講ずる。

授業計画

第１回：憲法と人権（立憲主義と人権保障、公共の福祉）
第２回：人権が侵害されるとき（１）部落問題（水平社や〝特殊部落〟を含めた歴史と現在）
第３回：同上（２）ハンセン病問題（国家的人権蹂躙の実相）
第４回：同上（３）優生保護法（優生思想・優生政策の国内外における歴史と現状）
第５回：障害者の人権（１）国内法・国際法における「障害者」観の深化、障害者権利条約
第６回：同上（２）障害者の「自立」をめぐる諸思想、障害者差別解消法と合理的配慮
第７回：外国人の人権（１）人権享有主体、国際人権規約（内外人平等待遇の原則）
第８回：同上（２）在日コリアンの歴史と人権、定住外国人への地方参政権
第９回：信仰と人権（宗教的少数者、信仰を理由とした医療拒否［親権停止］）
第１０回：ジェンダーと人権（１）女性の社会参加、女性差別撤廃条約と男女雇用機会均等法
第１１回：同上（２）男女共同参画社会基本法、育児介護休業法、クオータ制（割当制）
第１２回：同上（３）性的少数者（LGBTQ＋）の人権、同性婚法制化の国際情勢
第１３回：社会権（１）日本社会における貧困の現状（子どもの貧困を含む）とその要因
第１４回：同上（２）生存権と生活保護制度
第１５回：学期全体のまとめ―人権侵害への感受性・想像力を高めること
定期試験

テキスト

辻村みよ子『人権をめぐる十五講――現代の難問に挑む』（岩波書店、2013年）
参考書・参考資料等 棟居快行ほか『基本的人権の事件簿〔第7版〕』（有斐閣、2024年） 申惠丰『私たち一人ひとりのための国際人権法入門』（影書房、2024年）
学生に対する評価 成績評価は、到達目標（立憲主義ならびに人権問題への理解）を評価基準としつつ、基本的に学期末の定期試験（論述式）によって行なう。また、授業において不定期にミニ・レポート用の用紙を配布し、それに授業に関する質問・意見・批判などを書いて提出してもらい、平常点（出席点）として加点する。

授業科目名： 政治学概説Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

現代政治で見られる様々な現象を理解することを狙いとしている。新聞などで聞く話を十分に理解できるだけではなく、自分で分析し、どのような因果関係があるのか発見できるようになることが最終目的である。

授業の概要

今日の世界で起きる様々な政治問題を取り上げて検討していく。現代世界の状況を理解し、なぜアメリカではトランプ政権が誕生したのか、なぜイギリスはＥＵから離脱したのかといった問題を国内、国際の両面から検討していく。

授業計画

第１回：イントロダクション　保守」－「革新」とは
第２回：第二次世界大戦後の国際政治経済体制
第３回：日米貿易摩擦から日本のバブル経済へ
第４回：ＦＴＡをめぐる議論
第５回：ＥＵの政治（１）：誕生
第６回：ＥＵの政治（２）：発展
第７回：ＥＵの政治（３）：現状
第８回：ネオリベラル制度論
第９回：現代世界の特質　イラク戦争を事例に
第１０回：アメリカの政治　大統領選挙を事例に
第１１回：ポピュリズムとは何か
第１２回：リーマンショック　１００年に一度の危機はなぜ起きたか
第１３回：イギリスの政治　ＥＵ離脱を事例に
第１４回：日本の政治　選挙制度改革後の時代
第１５回：総括　これまでの授業を振り返って
定期試験

テキスト

西山隆行、向井洋子（編）『図録　政治学』弘文堂、２０２３年
参考書・参考資料等 随時提示する
学生に対する評価 定期試験（８０％）、小テスト（２０％）

授業科目名：政治学概説Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：朝倉　拓郎 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「政治学、経済学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		

授業のテーマ及び到達目標

現在、日本社会は様々な困難な問題に直面している。民主主義の社会においては、これらの問題を解決して住みよい社会を実現するか、あるいは問題の解決に失敗して住みにくい社会になるかは、主権者である我々市民の力量にかかっている。本講義の目的は、我々が主権者としての力量を高めるために必要不可欠な政治的教養を身につけることにある。

＜到達目標＞

①政治を理解するための基本的概念と歴史的知識を身につけ、説明できる。

②過去の歴史的経緯をふまえた上で、現在直面している政治的諸問題について考察し、自分なりの意見を持って説明できる。

授業の概要

本講義の内容は、以下の三つのパートからなる。

①政治の概念：政治を理解し、政治について議論する上で重要な概念をいくつか取り上げ、その概念の歴史的背景と意義について学ぶ。

②戦後日本の政治：戦後の日本の政治状況がどのように形成されたのかを学ぶ。

③現代政治の諸問題：現在我々が直面している政治的課題について、上記の議論をふまえて考察する。

授業計画

第１回：イントロダクション：講義の概要と受講上の注意

第２回：政治の概念（1）：「主権国家」「国民国家」

第３回：政治の概念（2）：「公共性」「法」

第４回：政治の概念（3）：「民主主義」と多数決

第５回：政治の概念（4）：「権力」とその抑制

第６回：戦後日本の政治（1）：占領期の日本

第７回：戦後日本の政治（2）：安保改定と高度成長

第８回：戦後日本の政治（3）：沖縄返還

第９回：戦後日本の政治（4）：55年体制の崩壊

第１０回：戦後日本の政治（5）：ポスト55年体制 第１１回：現代政治の諸問題（1）：安全保障問題 第１２回：現代政治の諸問題（2）：格差・貧困問題 第１３回：現代政治の諸問題（3）：日本の選挙とその課題 第１４回：現代政治の諸問題（4）：科学技術と政治 第１５回：現代政治の諸問題（5）：地域自治の課題と可能性 定期試験
テキスト テキストは指定しない。毎回資料を配付する。
参考書・参考資料等 参考書は、毎回配布する資料の中で紹介する。
学生に対する評価 試験（80%）＋小レポート（20%）によって評価する。

授業科目名： 政治学特講Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

冷戦後に起きた紛争・戦争を考察することで、現代世界の特徴を理解する。授業で取り扱う内容を説明できるようになることが最低限の目標であるが、それだけではなくそれぞれの紛争・戦争にはいかなる背景があるのか、そこから自分でインプリケーションを引き出せるようになることが最終目的である。

授業の概要

冷戦後に起きた紛争、１９９０年代に見られた人道的介入、２０００年代以降の対テロ戦争について考察する。加えて近年起きたウクライナ戦争、ガザをめぐるイスラエル・パレスチナ問題についても検討していく。

授業計画

第1回：イントロダクション（冷戦後の世界について）　授業の進め方
第2回：国連の集団安全保障システム
第3回：湾岸戦争
第4回：カンボジア内戦
第5回：ソマリア内戦
第6回：ルワンダ内戦
第7回：ボスニア内戦
第8回：コソヴォ内線
第9回：アフガニスタン戦争
第１０回：イラク戦争
第１１回：イスラエル・パレスチナ問題
第１２回：オスロ合意以後の問題
第１３回：アラブの春、シリア情勢
第１４回：ウクライナ戦争
第１５回：現代世界の特徴は何か

テキスト

小松志朗『人道的介入　秩序と正義、武力と外交』早稲田大学出版部、２０１４年
参考書・参考資料等 随時提示する
学生に対する評価 定期試験（８０％）、小テスト（２０％）

授業科目名：政治学特講Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：朝倉　拓郎 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項　・「政治学、経済学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

現在我々は様々な政治的、社会的課題に直面しているが、それらの課題を政治思想の知的伝統の中に位置づけて理解することを通じて、我々が抱えている課題の何が問題であるかを適切に言語化し、その課題を解決するための道筋を構想する力を養う。

＜到達目標＞

①政治思想の基礎的な概念を理解し、それを説明できる。

②思想家たちが直面した課題を歴史的な背景をふまえて理解し、それを説明できる。

③自分たちの社会が抱えている政治的課題について、政治思想の知識をふまえて理解し、他者と議論できる。

授業の概要

本講義では、西洋政治思想の基礎知識を学ぶ。具体的には、政治思想の発展に大きな影響を与えた思想家を取り上げて、その著作（いわゆる古典）を解説していくが、その際にたんに結論だけを紹介するのではなく、彼らが具体的にどのような問題に直面し、それに対してどのようなアプローチで答えようとしたのかという思索のプロセスに重点を置いて説明する。また、学生どうしで討論する時間を設け、現在の政治問題を政治思想の観点から分析し、解決策について議論する。

授業計画

第１回：イントロダクション：講義の概要と受講上の注意

第２回：古代ギリシャの政治思想（1）：アテナイの民主政

第３回：古代ギリシャの政治思想（2）：アリストテレス

第４回：キリスト教と政治思想（1）：原始キリスト教

第５回：キリスト教と政治思想（2）：トマス・アクィナス

第６回：ルネサンス期の政治思想（1）：ルネサンス期のイタリア

第７回：ルネサンス期の政治思想（2）：マキアヴェッリ

第８回：討論（1）：政治と道徳

第９回：近代の政治思想（1）：宗教改革の影響

第１０回：近代の政治思想（2）：ホッブズ

第１１回：近代の政治思想（3）：ロック

第１２回：民主化時代の政治思想（1）：トクヴィル 第１３回：民主化時代の政治思想（2）：J.S.ミル 第１４回：現代の政治思想：ロールズ 第１５回：討論（2）：民主主義と多様性 定期試験
テキスト テキストは指定しない。毎回資料を配付する。
参考書・参考資料等 参考書は、毎回配付する資料の中で紹介する。
学生に対する評価 試験（80%）＋小レポート（20%）によって評価する。

授業科目名： 法学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉岡　剛彦
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　社会　及び　高等学校　公民)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」

授業のテーマ及び到達目標

法律学（国際法を含む）に関して、法学演習Ⅰでは〈家族・結婚・ジェンダー〉（国際法・国際比較を含む）を主題として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈両性の本質的平等〉や〈持続可能な開発目標（SDGs）［目標５：ジェンダー平等を実現しよう］〉に関連する内容となる。家族法をはじめ家庭生活に関わる諸法の内容やその問題点を理解するとともに、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それに基づいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。

授業の概要

「家族・結婚・ジェンダーをめぐる法」に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、家族をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。

授業計画

第１回：イントロダクション―家族と法の関わり、ジェンダーとは何か？
第２回：結婚の現在（１）家族・結婚の過去・現在（「家」制度、専業主婦世帯と共働き世帯）
第３回：同上（２）晩婚化・非婚化と少子化、新専業主婦志向
第４回：家族法（１）結婚・離婚にかかわる民法の諸規定とその問題点
第５回：同上（２）夫婦の姓―夫婦別姓論議、法律婚／事実婚
第６回：同上（３）離婚後の共同親権、など
第７回：男女共同参画（１）女性と男性の育児休業取得率の隔差、男性の家事・育児の促進
第８回：同上（２）ノルウェー等におけるパパ・クオータ制（父親の育休取得の義務づけ）
第９回：ＤＶ防止法（１）ドメスティック・バイオレンス防止法の内容と課題
第１０回：同上（２）若年世代における「デートＤＶ」とその防止策
第１１回：ハーグ条約（１）国際結婚の増加とその背景、国際結婚をめぐる法律問題
第１２回：同上（２）国際結婚カップルの離婚と、国外への「子どもの連れ去り」
第１３回：同性婚（１）性的少数者（性［ＳＯＧＩ］の多様性、ＬＧＢＴＱ+の人権）
第１４回：同上（２）同性婚合法化へ向かう世界と、日本における法制化の可能性

第１５回：学期全体のまとめ―変わりゆく「家族のカタチ」に法はいかに対応しうる／すべきか
テキスト 犬伏由子ほか『レクチャージェンダー法［第２版］』（法律文化社、2021年）
参考書・参考資料等 三成美保ほか『ジェンダー法学入門［第３版］』（法律文化社、2019年） 辻村みよ子『概説ジェンダーと法［第２版］』（信山社、2016年）
学生に対する評価 各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（１）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（２）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は。これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 法学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉岡　剛彦
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

法律学（国際法を含む）に関して、法学演習Ⅱでは〈責任論〉（国際法・国際政治を含む）を主題として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識〉する観点に立脚しつつ、〈社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代社会と関連づけて多面的・多角的に考察〉することを目的とする。さまざまな事案・水準における法的／倫理的な責任が論議されるテーマを取り上げ、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それにもとづいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。

授業の概要

法的／倫理的責任を論じた（複数の）テキストを指定し、講読する。担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。

授業計画

第１回：イントロダクション―責任を引き受ける（引き受けさせる）条件とは？
第２回：責任論の基礎（１）法的責任―自由意志と責任主義、責任無能力（刑法39条）など
第３回：同上（２）倫理的責任―完全義務／不完全義務の区別など
第４回：故意・過失の認識なき責任（１）無過失責任（公害法、ＰＬ法など）
第５回：同上（２）学校・教師による自然災害リスクの予見性（大川小津波訴訟）
第６回：同上（３）信仰を理由とした医療拒否と「保護責任者遺棄罪」
第７回：集団としての責任（１）日本の「昭和の戦争」と戦争責任論の展開
第８回：同上（２）第二次大戦後の（西）ドイツにおける戦争責任との対峙
第９回：同上（３）〝戦後責任〟―戦後世代は戦争（責任）といかに向き合うか？
第１０回：ＡＩ時代の責任（１）自動運転車による交通事故時の責任の所在
第１１回：同上（２）情報操作（ディープフェイク等）による誤認にもとづく行為の責任
第１２回：同上（３）ＡＩ（アルゴリズム／アーキテクチャ）による意思形成の支援／操作

第１３回：自由意志・自己決定の問いなおし（１）責任主義と偶然性、「運」の議論（運の平等論）
第１４回：同上（２）自己決定する「自己」は真に自由たりうるか（責任を取りうるか）？
第１５回：学期全体のまとめ―これまでの／これからの責任（論）の変遷・変容

テキスト

瀧川裕英編『もっと問いかける法哲学』（法律文化社、2024年）
飯孝行編『子どもたちの命と生きる――大川小学校津波事故を見つめて』（信山社、2023年）
山田朗『日本の戦争：歴史認識と戦争責任』（新日本出版社、2017年）
西垣通・河島茂生『ＡＩ倫理――人工知能は「責任」をとれるのか』（中央公論社、2019年）

参考書・参考資料等

大塚直・米村滋人『多様なリスクへの法的対応と民事責任』（商事法務、2024年）

学生に対する評価

各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（１）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（２）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は。これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 法学演習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉岡　剛彦
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　社会　及び　高等学校　公民)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」

授業のテーマ及び到達目標

法律学（国際法を含む）について、法学演習ⅢとⅣでは〈“いのち”をめぐる法と生命倫理〉を統一テーマとして設定するが、Ⅲでは、特に「人が〈生まれること／生きること〉をめぐる法」を基軸として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義〉の視点、とりわけ〈基本的人権の尊重〉を基板としながら、妊娠中絶や生殖補助医療、出生前診断などを取り上げ、生命倫理や応用倫理に関わる諸法の内容やその問題点を理解する。その際、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それにもとづいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。

授業の概要

生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈生まれること／生きること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。

授業計画

第１回：イントロダクション―人の誕生をめぐる法と倫理
第２回：妊娠中絶（１）日本における中絶の歴史と現状、人工妊娠中絶に関する法制度
第３回：同上（２）アメリカなど諸外国の中絶に関する法制度と、賛否の社会的議論と背景
第４回：同上（３）女性の選択権ｖｓ胎児の生命権の対立図式は超えられるか？
第５回：赤ちゃんポスト（１）熊本・慈恵病院「こうのとりのゆりかご」設置前後の経緯
第６回：同上（２）諸外国の同種施設、匿名での預け入れは安易な子捨てを助長するか？
第７回：出生前診断（１）出生前診断とは何か（診断技術の発達と、国内外の関連法制）
第８回：同上（２）法的・倫理的論点（胎児の「障害」を理由とした中絶の是非など）
第９回：同上（３）新型出生前診断の普及は何をもたらすか？
第１０回：同上（４）遺伝子を選ばれた「デザイナーベビー」、遺伝子差別の未来？
第１１回：生殖補助医療（１）不妊症カップルの苦悩と苦闘
第１２回：同上（２）生殖補助技術（不妊治療）―人工授精、体外受精、代理出産

第１３回：同上（３）生殖補助医療に対する国内外の法規制の比較法的検討
第１４回：同上（４）日本でも代理出産を合法化すべきか、精子・卵子売買ビジネス
第１５回：学期全体のまとめ―生命操作の限界をどこに定めるか？

テキスト
玉井真理子ほか『はじめて出会う生命倫理』（有斐閣、2011年）
小林亜津子『看護のための生命倫理（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2010年）

参考書・参考資料等
葛生栄二郎ほか『新・いのちの法と倫理』（法律文化社、2009年）
金子章道ほか『学生と考える生命倫理』（ナカニシヤ出版、2014年）
小笠原信之『どう考える？生殖医療――体外受精から代理出産、受精卵診断まで』（緑風出版東京大学出版会、2005年）
玉井真理子ほか『出生前診断とわたしたち――「新型出生前診断」（ＮＩＰＴ）が問いかけるもの』（生活書院、2014年）

学生に対する評価
各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（１）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（２）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は、これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 法学演習Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉岡　剛彦
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　社会　及び　高等学校　公民)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」

授業のテーマ及び到達目標

法律学（国際法を含む）について、法学演習ⅢとⅣでは〈“いのち”をめぐる法と生命倫理〉を統一テーマとして設定するが、Ⅳでは、特に「人が〈死ぬこと／死なせること〉をめぐる法」を基軸として講義ならびに討論を行なう。学習指導要領「中学校社会科（公民分野）」が規定するところの、〈対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義〉の視点、とりわけ〈基本的人権の尊重〉を基板としながら、安楽死／尊厳死や死刑などを取り上げ、生命倫理や応用倫理に関わる諸法の内容やその問題点を理解する。その際、参考文献の探索・要約を行なって講義内で報告し、それにもとづいて意見表明・相互討論するスキル（特定のテーマについて、その内容や論点を調査・整理・検討・発表する能力）を修得することを目標とする。

授業の概要

生命倫理に関するテキストを指定し、講読する。各回の授業は、人が〈死ぬこと／死なせること〉をめぐる諸問題の一つをテーマに設定し、担当学生が、指定テキストをはじめ関連文献を調査のうえ、その内容を授業前半において報告し、それを基にして参加学生全員で検討・討議する。

授業計画

第１回：イントロダクション―「死の自己決定権」は認められるか？
第２回：安楽死・尊厳死（１）安楽死と尊厳死の定義（区別）、積極的安楽死とは何か
第３回：同上（２）安楽死を合法化したオランダの経緯と現状、日本での裁判例
第４回：同上（３）尊厳死とは何か、リビングウィル、日本における「尊厳死法」論議
第５回：同上（４）安楽死・尊厳死をめぐる法的・倫理的論点（安楽死のススメになる恐れ等）
第６回：脳死臓器移植（１）日本における「脳死」論議と、脳死臓器移植法の制定と改定
第７回：同上（２）脳死／臓器移植の論点、臓器移植を求めての医療ツーリズムと国際的規制
第８回：死刑制度（１）日本における死刑の現状と論議
第９回：同上（２）死刑廃止条約、アメリカにおける死刑の現状と議論（陪審制との関連）
第１０回：同上（３）死刑の諸論点（冤罪、国際世論、遺族の応報感情、犯罪抑止効果の有無）
第１１回：同上（４）市民が「死刑」を言い渡すかもしれない「裁判員制度」時代の死刑
第１２回：食肉生産（１）大規模工場生産化する食肉業、ケガレ視されてきた屠畜（部落差別）

第１３回：同上（２）動物愛護思想の高まりや「動物の権利」論（動物倫理学）
第１４回：同上（３）学校における動物を「自分で育てて殺して食べる」授業の意義と課題
第１５回：学期全体のまとめ―ひとつの〈死〉をめぐって交錯する自己と他者

テキスト
玉井真理子ほか『はじめて出会う生命倫理』（有斐閣、2011年）
小林亜津子『看護のための生命倫理（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2010年）

参考書・参考資料等
葛生栄二郎ほか『新・いのちの法と倫理』（法律文化社、2009年）
金子章道ほか『学生と考える生命倫理』（ナカニシヤ出版、2014年）
小笠原信之『許されるのか？安楽死――安楽死・尊厳死・慈悲殺』（緑風出版、2003年）
一ノ瀬正樹『死の所有――死刑・殺人・動物利用に向きあう哲学』（東京大学出版会、2011年）

学生に対する評価
各回ごとにレポートの提出を求める。このレポートには、（１）当該回のテーマについて指定テキストを読んで自分なりに検討した結果（見解）を記すとともに、（２）前回の授業での報告・討論を受けて前回のテーマについて自分なりに再検討した結果（見解）を書くものとする。さらに、学期末には、各参加者ごとに特定のテーマを選定し、独自の調査を付加して、3,000字程度のレポート提出を課する。成績評価は、これらのレポートと、毎回のゼミにおける出席・報告・発言など、平素のゼミ参加態度を総合的に勘案して行なう。

授業科目名： 政治学演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。

授業の概要

社会科公民分野及び公民科の指導に関連する大学生向けの内容を心がけ、現代性の特徴を一つ一つ検討していく。

授業計画

第１回：イントロダクション　演習の進め方について
第２回：西山、向井（編）『図録　政治学』第１章、２章、３章
第３回：西山、向井（編）『図録　政治学』第４章、６章
第４回：西山、向井（編）『図録　政治学』第７章、８章
第５回：西山、向井（編）『図録　政治学』第９章、１０章、１１章
第６回：これまでの内容をもとに受講生の発表（１）（現代の政治の特徴について）
第７回：これまでの内容をもとに受講生の発表（２）（現代の政治の特徴について）
第８回：西山、向井（編）『図録　政治学』第１２章、１３章
第９回：西山、向井（編）『図録　政治学』第１４章、１５章
第１０回：西山、向井（編）『図録　政治学』第１６章、１７章、１８章
第１１回：西山、向井（編）『図録　政治学』第１９章、２０章
第１２回：西山、向井（編）『図録　政治学』第２１章、２２章
第１３回：西山、向井（編）『図録　政治学』第２３章、２４章
第１４回：西山、向井（編）『図録　政治学』第２５章、２６章、２７章
第１５回：受講生の報告、全体の総括
定期試験

テキスト

西山隆行、向井洋子（編）『図録　政治学』弘文堂、２０２３年

参考書・参考資料等 随時提示する
学生に対する評価 最終レポート（６０％）、毎回の発言、貢献度（４０％）

授業科目名： 政治学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

政治学の古典を精読し、現代政治の理解を深めることが目的である。

授業の概要

最初に政治思想の流れを包括的に論じた『民主主義とは何か』を精読する。その後J．S．ミルをはじめ、様々な古典を読んでいく。

授業計画

第１回：イントロダクション　演習の進め方について
第２回：宇野『民主主義とは何か』（１）序章、第１章、第２章を輪読
第３回：宇野『民主主義とは何か』（２）第３章、第４章を輪読
第４回：宇野『民主主義とは何か』（３）第５章、結びを輪読
第５回：これまでの内容をもとに受講生の発表（１）
第６回：これまでの内容をもとに受講生の発表（２）
第７回：ミル『自由論』（１）第１章、第２章を輪読
第８回：ミル『自由論』（２）第３章、第４章を輪読
第９回：ミル『自由論』（３）第５章を輪読
第１０回：グループ・ワーク（１）（民主主義の特徴について）
第１１回：グループ・ワーク（２）（現代政治における民主主義の危機について）
第１２回：オーウェル『動物農場』（１）前半部分を輪読
第１３回：オーウェル『動物農場』（２）後半部分を輪読
第１４回：各自で新聞記事を持ち寄り発表
第１５回：総括　受講生の発表
定期試験

テキスト

宇野重規『民主主義とは何か』講談社、２０２０年、Ｊ．Ｓ．ミル『自由論』光文社、２０１２年、ジョージ・オーウェル『動物農場』（出版社はどこでも構いません）

参考書・参考資料等

随時提示する
学生に対する評価 最終レポート（６０％）、毎回の発言、貢献度（４０％）

授業科目名： 政治学演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

現代社会で見られる様々な政治問題について検討し、自分で分析できるようになることが目的である。受講生のプレゼンテーション能力を磨くことも目的である。

授業の概要

ベーシックインカム、外国人労働者の受け入れ、日本の選挙制度などについてディベート形式で検討していきます。

授業計画

第１回：イントロダクション　演習の進め方について
第２回：ベーシックインカムとは何か
第３回：ベーシックインカムについてグループ・ディスカッション
第４回：ベーシックインカムについてディベート
第５回：外国人労働者受け入れについて　関連文献の講読
第６回：外国人労働者受け入れについてグループ・ディスカッション
第７回：外国人労働者受け入れについてディベート
第８回：日本の選挙制度について　関連文献の講読
第９回：日本の選挙制度についてグループ・ディスカッション
第１０回：日本の選挙制度についてディベート
第１１回：ＮＰＯを作るならどのような活動を行うか　社会問題を新聞記事から見つける
第１２回：発表の準備　グループ・ディスカッション
第１３回：受講生による発表（１）（自分で組織するＮＰＯ活動について）
第１４回：受講生による発表（２）（その問題と解決策について）
第１５回：総括　学んだことを各自発表

テキスト

駒崎弘樹『「社会を変える」を仕事にする：社会起業家という生き方』筑摩書房、２０１１年

参考書・参考資料等

随時提示する

学生に対する評価 最終レポート（６０％）、毎回の発言、貢献度（４０％）

授業科目名： 政治学演習Ⅳ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

演習では学生の積極的な発言が求められる。毎回課題文献を読み、独自の見解を報告することが求められる。それを踏まえ社会科公民分野及び公民科の指導内容に関わる自分の研究を深めていくことが狙いである。

授業の概要

学生の主体的な発言を通じて社会科公民分野及び公民科の指導の前提となる現代世界の理解を深めていく。とりわけポピュリズムの問題、民主主義に対する挑戦について考えていく。

授業計画

第１回：イントロダクション　演習の進め方について
第２回：ポピュリズムが台頭する現代政治
第３回：『少数派の横暴』（１）第１章、第２章、第３章を輪読
第４回：『少数派の横暴』（２）第４章、第５章、第６章を輪読
第５回：『少数派の横暴』（３）第７章、第８章を輪読
第６回：これまでの内容をもとに受講生の発表（１）（アメリカ政治の変容について）
第７回：これまでの内容をもとに受講生の発表（２）（グローバル化がもたらしたアメリカ政治への影響について）
第８回：Norris and Inglehart, *Cultural backlash*（１）第１章を輪読
第９回：Norris and Inglehart, *Cultural backlash*（２）第１０章を輪読
第１０回：これまでの内容をもとに受講生の発表（１）　（ポピュリズム政治が及ぼす影響について）
第１１回：これまでの内容をもとに受講生の発表（２）（世界で見られるポピュリズム政治について）
第１２回：アメリカ大統領選挙についての文献
第１３回：イギリスのＥＵ離脱についての文献
第１４回：日本の現状についての文献
第１５回：受講生の報告、全体の総括

テキスト

スティーブン・レビツキー、ダニエル・ジブラット『少数派の横暴　民主主義はいかにして奪われるか』新潮社、２０２４年
参考書・参考資料等 随時提示する
学生に対する評価 最終レポート（６０％）、毎回の発言、貢献度（４０％）

授業科目名： 政治学調査実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 阿部　悠貴 担当形態： 単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

実社会において政治、法律がどのように機能しているのか考察する。自分で問いを立て、それを分析する能力を身に着けることが目的である。

授業の概要

自分で資料を収集すること、データを作ることとはどういうことか。具体的な事例をもとに検討していく。また議会見学、裁判所見学なども取り入れていく。

授業計画

第１回：イントロダクション　演習の進め方について
第２回：新聞記事アーカイブの調べ方
第３回：大量のデータをどう作成するか　テキストマイニングの手法（１）概要について説明
第４回：大量のデータをどう作成するか　テキストマイニングの手法（２）利用方法について
第５回：大量のデータをどう作成するか　テキストマイニングの手法（３）各自で実践し、発表
第６回：受講生が調査した内容を発表
第７回：裁判所見学
第８回：裁判所見学をもとに受講生の報告（１）（前半グループ）
第９回：裁判所見学をもとに受講生の報告（２）（後半グループ）
第１０回：熊本市議会見学
第１１回：熊本市議会をもとに受講生の報告（１）（前半グループ）
第１２回：熊本市議会をもとに受講生の報告（２）（後半グループ）
第１３回：世論調査について　クリティカルシンキング
第１４回：自分で調査を行うならどうするか　グループ・ディスカッション
第１５回：総括　これまでの授業を振り返って
定期試験

テキスト

西山隆行、向井洋子（編）『図録　政治学』弘文堂、２０２３年

参考書・参考資料等

随時提示する
学生に対する評価 最終レポート（６０％）、毎回の発言、貢献度（４０％）

授業科目名： 経済学概説 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大野　正久 担当形態：単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校　社会及び高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学・経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

市場における価格決定の理論とゲーム理論の基本的な考え方をテーマとする。価格決定の理論とゲーム理論の基本的な考え方を理解し、その国際貿易の問題等への応用について理解できるようになることを目標とする。

授業の概要

授業の前半では、市場における価格決定の理論について説明し、国際貿易等の問題について、市場均衡や余剰の概念を用いて考察する。授業の後半では、ゲーム理論について説明し、各国の貿易政策の問題等へのゲーム理論の応用や公共財供給の問題について説明する。また、行動経済学の基本的な概念についても学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：経済のしくみについて
第３回：市場における需要について
第４回：市場における供給について
第５回：市場における需要と供給について
第６回：経済学の国際経済等への応用について
第７回：ゲーム理論について（１）同時手番のゲームについて
第８回：ゲーム理論について（２）逐次手番のゲームについて
第９回：ゲーム理論の貿易政策等への応用について
第１０回：公共財の概念と公共財供給の実験
第１１回：公共財供給の理論について
第１２回：公共財供給と投票について
第１３回：行動経済学について（１）ヒューリスティックについて
第１４回：行動経済学について（２）ナッジについて
第１５回：これまでの授業のまとめ

定期試験
テキスト 各回の授業内容のパワーポイント資料については、Moodleに掲示する。
参考書・参考資料等 N・グレゴリー・マンキュー（著）足立英之・石川城太・小川英治・地主敏樹・中馬宏之・柳川　隆（訳）（2011）『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社. 伊藤元重（2015）『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社.
学生に対する評価 成績評価については、授業における中間テスト（40%）と期末テスト（60%）により評価する。

授業科目名：社会学概説【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：園田　浩之 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ ： 社会学の基礎的な視座や理論を紹介しながら、ふだんは意識化（そして言語化）することが難しい「社会」の存在に気づき、それを多面的に理解するための「ものの見方」を解説する。社会とその中で生きている自分自身の関係を捉え直す思考法（のひとつ）として「社会学的想像力」に注目し、その働き（性能）と意義について解説する。

到達目標 ：
１．知識領域
社会学の基本的な概念（キーワード）や理論を説明することができる。

２．態度領域
社会現象・社会問題に関心を向け、その成り立ちを（ひとりよがりでない説得的な形で）繊細に言語化できる。それとともに、自分と異なる他者の意見や考えを傾聴し、それに応答することができる。

３．技能領域
社会にかかわるテーマや問題を自ら発見し、関連する情報を調べ、現実の複雑さを（過度に単純化することなく）理解した上で、さらなる問題点を具体的に提示することができる。

授業の概要
私たちの生きている現代社会は、とても複雑で不透明です。ですが、そのすべては私たちの「やっていること（ただし、その多くは「気づいていない」こと）」からできています。社会学を学ぶということは、ふだんあまり意識することのない私たちの「あたりまえを」、ふだんとは「別の視点」から問い直してみることです。それは同時に「私たち自身」を知ることにもつながります。社会学は、そんなふうに「あまりに近くて見てなくなっているもの」の成り立

ちを考えようとする学問です。ありふれた日常をまるで異文化のように経験すること、「ふだん」についてふだんとは異なるまなざしを向けてみること。社会学は、そのためのものの見方・考え方です。講義では、社会学的なものの見方の基礎に親しんでもらうことを目標にしながら、社会とその中で生きる私たち自身について複眼的に考えるテーマを扱っていきます。社会学をつうじて、皆さんの「あたりまえ」から距離をとり、ふだんその中に（それを前提に）成り立っている皆さん自身の姿を再発見してもらえたらと思います。この講義は、そうした考察に向けて皆さんを案内するための「はじまりの地図」のようなものです。

授業計画

第1回：イントロダクション（講義への招待＆導入、およびガイダンス）
第2回：社会への問い（1）社会の「わからなさ」
第3回：社会への問い（2）社会という謎／問いの始まり
第4回：あたりまえをみるために（1）足元から考える／日常の社会学
第5回：あたりまえをみるために（2）日常生活の秩序／習慣から考える
第6回：あたりまえをみるために（3）「社会」とその中で生きている「自分たち」に気づく
第7回：社会学の作法（1）　比較する目を養う
第8回：社会学の作法（2）　前提へとさかのぼる
第9回：社会学の作法（3）　関係に注目する
第１０回：社会学的想像力への離陸（1）いま・ここ・自分を越えて
第１１回：社会学的想像力への離陸（2）ミクロとマクロ、行為と構造
第１２回：社会学的想像力への離陸（3）社会の見通せなさ／意図せざる結果
第１３回：社会の読み解き方（1）作られる現実　（具体的な社会現象を手がかりに）
第１４回：社会の読み解き方（2）　ラベリング（具体的な社会問題を手がかりに）
第１５回：社会学の使いみち　社会学的想像力と現代社会

定期試験

テキスト

担当教員が、講義資料を準備・配布します（テキストは使用しません）。

参考書・参考資料等

C.W.ミルズ 『社会学的想像力』（2017年、ちくま学芸文庫）
A.ギデンズ 『社会学（第五版）』（2009年、而立書房）など

学生に対する評価

１．講義への実質的な参加と学期中に課す課題（小レポートなど）‥20％
２．期末試験・・・・・・・・80％

授業科目名：社会学特講【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：園田　浩之 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ ： 社会学の視点・思考法を紹介しながら、それに基づいて、現代社会の抱える諸問題（具体的には、多様性、マイノリティ、差別に関連したトピック）について考察する。「わかったつもり」を越えて現実を複眼的に理解するための視点を与えるものとして、社会学の問い方、理論、概念の性能を解説する。

到達目標 ：
1. 知識領域
社会学の基本的な概念(キーワード)や理論を説明することができる。

2. 態度領域
社会現象・社会問題に関心を向け、その成り立ちを(ひとりよがりでない説得的な形で)繊細に言語化できる。それとともに、自分と異なる他者の意見や考えを傾聴し、それに応答することができる。

3. 技能領域
社会にかかわるテーマや問題を自ら発見し、関連する情報を調べ、現実の複雑さを(過度に単純化することなく)理解した上で、さらなる問題点を具体的に提示することができる。

授業の概要
私たちの生きている現代社会は、とても複雑で不透明です。この講義では、そんな現代社会と、その中に生きる私たち自身の姿を知るための方法（のひとつ）として、社会学的なものの見方・考え方を紹介・解説します。現代社会には、性急で過度な一般化（わかりやすさ）が溢れています。そのこと自体、現代社会の捉え難さ・不透明さの裏返しなのかも知れません。しかし「現実」の複雑さや奥行きは、私たちの常識も含めて、そうした「わかりやすさ」を一度疑ってみることの先にようやく見えてきます。そうした発見と思考のアップデートを皆さんに

経験してもらうために、社会学の視点から具体的な社会現象・社会問題を取り上げつつ、講義を進めていきます。

授業計画

第1回 : イントロダクション（講義への招待&導入、およびガイダンス）

第2回 : スローシンキングと（しての）社会学 ： 「わかりやすさ」の向こう側

第3回 : 複眼的思考に向けて（1） 現実の複雑さ、理解の単純さ

第4回 : 複眼的思考に向けて（2） 他者理解の困難さ

第5回 : 複眼的思考に向けて（3） 他者理解の困難さ （続き）／「わかったつもり」を越えて

第6回 : 多様性の社会学（1） 多様性の時代（？）

第7回 : 多様性の社会学（2）マジョリティ／マイノリティをめぐって

第8回 : 多様性の社会学（3）マジョリティ／マイノリティをめぐって（続き）

第9回 : 多様性の社会学（4）違いとノイズから始まる思考

第１０回 : 多様性の社会学（5）現実の複雑さ、それを見えなくする言葉

第１１回 : 多様性の社会学（6）思考のアップデート

第１２回 : 現代社会の読み解き方（1）権力の偏在／遍在（フーコー以前／以後）

第１３回 : 現代社会の読み解き方（2）アイデンティティ政治

第１４回 : 現代社会の読み解き方（3）インターセクショナリティ（交差性）の視点

第１５回 : 社会学の効能

定期試験

テキスト

担当教員が、講義資料を準備・配布します（テキストは使用しません）。

参考書・参考資料等

Z.バウマンほか 『社会学の考え方』（2016年、ちくま学芸文庫）

R.コリンズ 『脱常識の社会学 社会の読み方入門』（2013年、岩波書店）など

学生に対する評価

１．講義への実質的な参加と学期中に課す課題（小レポートなど）‥20％

２．期末試験・・・・・・・・80％

授業科目名： 地域社会学概説 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉武由彩 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

地域社会学の基礎的知識を習得し、現代日本の地域社会における課題について考察することができる。

授業の概要

産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く解説する。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。

授業計画

第１回：授業概要説明
第２回：地域とは何か：地域社会の定義、地域社会の重要性（参考：テキストはじめに、1章）
第３回：都市と農村、地方：都市と農村の対比、地方とは（参考：テキストはじめに、1章）
第４回：農村社会の構造：家と村（参考：テキスト4章）
第５回：都市化、産業化と地域社会（参考：テキスト2章）
第６回：過疎問題と限界集落（参考：テキスト2章）
第７回：現代農村の現状分析（1）：人口還流（Uターン）（参考：テキスト3章）
第８回：現代農村の現状分析（2）：農村家族、子育て（参考：テキスト4章）
第９回：高齢化と地域社会（1）：生きがいと地域差（参考：テキスト5章）
第１０回：高齢化と地域社会（2）：期待される地域社会（参考：テキスト6章）
第１１回：高齢化と地域社会（3）：近隣関係と地域組織（参考：テキスト6章）
第１２回：住民主体の地域福祉活動の事例（参考：テキスト6章）
第１３回：地域社会調査（参考：テキスト8章）
第１４回：地域活動の担い手（参考：補足資料）
第１５回：講義のまとめ（参考：テキスト全体）
期末レポート

テキスト

山本努編，2019，『地域社会学入門――現代的課題との関わりで』学文社.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 授業への積極的参加（発言、発表、コメントシート提出）30%、期末レポート70%

授業科目名： 社会人間学特講 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中川輝彦 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

社会学的観点から現代社会の特性を捉え、論じることができる。

授業の概要

社会学的観点から現代社会の構造と変容を講義する。まず社会学的な考え方を示し、次いでその考え方に基づいて現代社会とその「来し方行方」を考える。

授業計画

第１回：社会と社会学
第２回：社会学的思考①：ミクロな視点①　予期について
第３回：社会学的思考②：ミクロな視点②　行為とコミュニケーションについて
第４回：社会学的思考③：マクロな視点①　集団について
第５回：社会学的思考④：マクロな視点②　社会システムについて
第６回：社会学的思考⑤：ミクロ・マクロリンク
第７回：現代社会の構造と変容①：個人化①　文化について
第８回：現代社会の構造と変容②：個人化②　社会構造について
第９回：現代社会の構造と変容③：自由と安全性①　リスクについて
第１０回：現代社会の構造と変容④：自由と安全性②　統治性について
第１１回：現代社会の構造と変容⑤：テクノサイエンス①　ラボラトリーについて
第１２回：現代社会の構造と変容⑥：テクノサイエンス②　ジャーナルシステムについて
第１３回：現代社会の構造と変容⑦：グローバル化①　専門家システムについて
第１４回：現代社会の構造と変容⑧：グローバル化②　ハイブリッドモダンについて
第１５回：社会学と社会
定期試験

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

小レポート毎週提出（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 経済学特講 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大野　正久 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

授業の前半では、地方財政や地域経済における理論をテーマとする。経済学の基本的な考え方を理解し、地方財政や地域経済等の問題について経済学の視点から考えることができるようになることを目標とする。授業の後半では、公共経済学と環境経済学の基本的な理論をテーマとする。公共経済学と環境経済学の基本的な考え方を理解し、公共政策や環境政策について経済学の視点から考えることができるようになることを目標とする。

授業の概要

授業の前半では、はじめに経済学の考え方について説明し、その後、地方財政や地域経済の様々な問題について、経済学的な観点から説明する。授業の後半では、主に公共経済学や環境経済学における基本的な経済理論について説明する。経済社会における様々な問題への公共政策や環境政策について経済学的な観点から学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：経済学の考え方（１）ゲーム理論の基本的な考え方について
第３回：経済学の考え方（２）ゲーム理論の応用について
第４回：経済学の考え方（３）限界の概念について
第５回：地方財政における政府間財政移転について
第６回：地方政府間の財政的競争について
第７回：消費者行動の理論について
第８回：地方分権化の理論について
第９回：公共財供給の理論について
第10回：環境問題と経済学（１）環境問題に関する外部性について
第11回：環境問題と経済学（２）外部性と当事者間交渉および政府の政策的介入について
第12回：企業の理論について
第13回：独占市場について
第14回：公共政策と投票について

第15回：これまでの授業のまとめ 定期試験
テキスト 各回の授業内容のパワーポイント資料については、Moodleに掲示する。
参考書・参考資料等 小川　光・西森　晃（2015）『公共経済学』中央経済社. 佐藤主光（2011）『地方財政論入門』新世社. 畑農鋭矢・林　正義・吉田　浩（2008）『財政学をつかむ』有斐閣.
学生に対する評価 成績評価については、中間テスト（50%）と期末テスト（50%）により評価する。

授業科目名： 経済学演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大野　正久 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

授業のテーマ及び到達目標

ミクロ経済学の考え方を主なテーマとする。ミクロ経済学の考え方と分析手法について理解し、様々な経済社会問題について、ミクロ経済学の視点から考えることができるようになることを目標としている。

授業の概要

授業では、主にミクロ経済学について学習し、また、応用として、行動経済学についても学習する。ミクロ経済学と行動経済学のテキストを輪読し、ミクロ経済学および行動経済学の考え方について学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：ミクロ経済学（１）需要の理論について
第３回：ミクロ経済学（２）消費者行動の理論について
第４回：ミクロ経済学（３）供給の理論について
第５回：ミクロ経済学（４）市場均衡に関する分析について
第６回：ミクロ経済学（５）外部効果と公共財について
第７回：ミクロ経済学（６）情報の非対称性について
第８回：ミクロ経済学（７）独占市場について
第９回：ミクロ経済学（８）寡占市場について
第１０回：ミクロ経済学（９）不確実性のもとでの選択行動について
第１１回：ミクロ経済学（１０）ゲーム理論について
第１２回：行動経済学（１）ヒューリスティックについて
第１３回：行動経済学（２）プロスペクト理論の基本的な考え方について
第１４回：行動経済学（３）ナッジ理論の基本的な考え方について
第１５回：これまでの授業のまとめ
定期試験

テキスト

小川　光・家森信善（2021）『ミクロ経済学の基礎』中央経済社. 阿部　誠（2021）『サクッとわかる　ビジネス教養　行動経済学』新星出版社. 上記のテキストの他に、関連資料を配布することもある。
参考書・参考資料等 伊藤元重（2015）『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社. 川西　諭（2016）『知識ゼロからの行動経済学入門』幻冬舎.
学生に対する評価 成績評価については、演習時状況（積極性等）（60%）とレポート（40%）により評価する。

授業科目名： 経済学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大野　正久 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

授業のテーマ及び到達目標

現代の経済社会問題の経済学的考察をテーマとする。現代の経済社会問題について学習し、経済学的な観点から問題の解決策を考察できるようになることを目標としている。

授業の概要

授業では、各自興味のある経済社会問題に関連した既刊論文等について発表を行い、経済学的視点からの解決策について議論する。さらに、地域における公共政策についても議論する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：現代の経済（１）現代の経済社会問題についての調査
第３回：現代の経済（２）現代の経済社会問題の整理
第４回：現代の経済（３）現代の経済社会問題に関する発表
第５回：現代の経済（４）現代の経済社会問題に関する議論
第６回：現代の経済（５）関連の既刊論文等の調査
第７回：現代の経済（６）関連の既刊論文等の整理
第８回：現代の経済（７）関連の既刊論文等の発表
第９回：現代の経済（８）関連の既刊論文等に関する議論
第１０回：地域経済（１）地域経済に関する調査
第１１回：地域経済（２）地域経済の現状と課題に関する議論
第１２回：地域政策（１）地域における公共政策についての議論
第１３回：地域政策（２）地域における公共政策の経済学的考察
第１４回：地域政策（３）地域活性化に資する公共政策についての議論
第１５回：これまでの授業のまとめ
定期試験

テキスト

関連資料を配布することもある。

参考書・参考資料等

伊藤元重（2015）『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社. 小川　光・家森信善（2021）『ミクロ経済学の基礎』中央経済社. 阿部　誠（2021）『サクッとわかる　ビジネス教養　行動経済学』新星出版社. 大竹文雄（2022）『あなたを変える　行動経済学　よりよい意思決定・行動をめざして』東京書籍.
学生に対する評価 成績評価については、演習時状況（積極性等）（50%）とレポート（50%）により評価する。

授業科目名： 経済学演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大野　正久 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

応用経済学と行動経済学の考え方を主なテーマとする。応用経済学と行動経済学の考え方について理解し、環境問題等の様々な経済社会問題について、応用経済学と行動経済学の視点から考えることができるようになることを目標としている。

授業の概要

授業では、応用経済学と行動経済学のテキストを輪読し、応用経済学と行動経済学の考え方について学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：応用経済学（１）環境問題と消費者行動について
第３回：応用経済学（２）環境問題と企業行動について
第４回：応用経済学（３）情報の非対称性について
第５回：応用経済学（４）企業間競争について
第６回：応用経済学（５）企業行動と環境政策について
第７回：行動経済学（１）サンクコストについて
第８回：行動経済学（２）損失回避性について
第９回：行動経済学（３）現在バイアスについて
第１０回：行動経済学（４）デフォルトについて
第１１回：行動経済学（５）限定合理性について
第１２回：行動経済学（６）ナッジについて
第１３回：行動経済学（７）ナッジの設計について
第１４回：行動経済学（８）ピア効果について
第１５回：これまでの授業のまとめ
定期試験

テキスト

栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ』有斐閣.

大竹文雄（2022）『あなたを変える　行動経済学　よりよい意思決定・行動をめざして』東京書籍. 上記のテキストの他に、関連資料を配布することもある。
参考書・参考資料等 伊藤元重（2015）『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社. 小川　光・家森信善（2021）『ミクロ経済学の基礎』中央経済社. 阿部　誠（2021）『サクッとわかる　ビジネス教養　行動経済学』新星出版社. 川西　諭（2016）『知識ゼロからの行動経済学入門』幻冬舎.
学生に対する評価 成績評価については、演習時状況（積極性等）（60%）とレポート（40%）により評価する。

授業科目名： 経済学演習Ⅳ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大野　正久 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

現代の環境問題の経済学的考察をテーマとする。現代の環境問題について学習し、経済学的な観点から問題の解決策を考察できるようになることを目標としている。

授業の概要

授業では、各自興味のある環境問題に関連した既刊論文等について発表を行い、経済学的視点からの解決策について議論する。さらに、公衆衛生に関する政策についても議論する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：現代の環境問題（１）現代の環境問題についての調査
第３回：現代の環境問題（２）現代の環境問題の整理
第４回：現代の環境問題（３）現代の環境問題に関する発表
第５回：現代の環境問題（４）現代の環境問題に関する議論
第６回：現代の環境経済（５）関連の既刊論文等の調査
第７回：現代の環境経済（６）関連の既刊論文等の整理
第８回：現代の環境経済（７）関連の既刊論文等の発表
第９回：現代の環境経済（８）関連の既刊論文等に関する議論
第１０回：公衆衛生（１）公衆衛生に関する調査
第１１回：公衆衛生（２）公衆衛生の現状と課題に関する議論
第１２回：地域における公衆衛生（１）地域における公衆衛生についての整理
第１３回：地域における公衆衛生（２）地域における公衆衛生についての議論
第１４回：地域における公衆衛生（３）地域における公衆衛生の経済学的考察
第１５回：これまでの授業のまとめ
定期試験

テキスト

関連資料を配布することもある。

参考書・参考資料等

焼田党・細江守紀・薮田雅弘・長岡貞男（編）（2021）『新型コロナ感染の政策課題と分析 応用経済学からのアプローチ』日本評論社. 伊藤元重（2015）『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社. 栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ』有斐閣. 大竹文雄（2022）『あなたを変える　行動経済学　よりよい意思決定・行動をめざして』東京書籍.
学生に対する評価 成績評価については、演習時状況（積極性等）（50%）とレポート（50%）により評価する。

授業科目名： 地域社会学概説 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉武由彩 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」

授業のテーマ及び到達目標

地域社会学の基礎的知識を習得し、現代日本の地域社会における課題について考察することができる。

授業の概要

産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く解説する。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。

授業計画

第１回：授業概要説明
第２回：地域とは何か：地域社会の定義、地域社会の重要性（参考：テキストはじめに、1章）
第３回：都市と農村、地方：都市と農村の対比、地方とは（参考：テキストはじめに、1章）
第４回：農村社会の構造：家と村（参考：テキスト4章）
第５回：都市化、産業化と地域社会（参考：テキスト2章）
第６回：過疎問題と限界集落（参考：テキスト2章）
第７回：現代農村の現状分析（1）：人口還流（Uターン）（参考：テキスト3章）
第８回：現代農村の現状分析（2）：農村家族、子育て（参考：テキスト4章）
第９回：高齢化と地域社会（1）：生きがいと地域差（参考：テキスト5章）
第１０回：高齢化と地域社会（2）：期待される地域社会（参考：テキスト6章）
第１１回：高齢化と地域社会（3）：近隣関係と地域組織（参考：テキスト6章）
第１２回：住民主体の地域福祉活動の事例（参考：テキスト6章）
第１３回：地域社会調査（参考：テキスト8章）
第１４回：地域活動の担い手（参考：補足資料）
第１５回：講義のまとめ（参考：テキスト全体）
期末レポート

テキスト

山本努編，2019，『地域社会学入門――現代的課題との関わりで』学文社.

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 授業への積極的参加（発言、発表、コメントシート提出）30%、期末レポート70%

授業科目名： 倫理学概説【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 後藤　正英 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業の到達目標及びテーマ

倫理学の基礎知識を理解し、現代社会の課題を倫理学的視点から考察できるようにする。

授業の概要

過去の主要な哲学者たちの倫理思想と応用倫理学の諸分野について概説する。授業は基本的に講義形式で行うが、倫理的問題について双方向的な意見交換の機会も設ける。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：古代ギリシアの倫理思想（１）ソクラテスとプラトンの倫理思想
第３回：古代ギリシアの倫理思想（２）アリストテレスの倫理思想
第４回：ユダヤ教・キリスト教・イスラームの倫理理想
第５回：近代西洋の倫理思想（１）カントの義務論
第６回：近代西洋の倫理思想（２）功利主義倫理学
第７回：近代西洋の倫理思想（３）ミル以後の功利主義倫理学
第８回：近代西洋の倫理思想（４）ニーチェによる道徳批判
第９回：近代西洋の倫理思想（５）現代正義論の展開
第１０回：近代日本の倫理思想
第１１回：応用倫理学（1）生命倫理学
第１２回：応用倫理学（2）動物倫理学
第１３回：応用倫理学（3）スポーツと倫理
第１４回：応用倫理学（4）ケアの倫理
第１５回：授業全体のまとめ
定期試験

テキスト

特になし
参考書・参考資料等 特に指定しない。授業中に随時紹介する。
学生に対する評価 平常点４割、学期末試験６割 平常点：授業感想によって評価する。 学期末試験：基本的な知識や倫理学的な思考が習得されているか確認する。

授業科目名：哲学概説【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：竹花　洋佑 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

授業のテーマ及び到達目標

哲学についての基礎的知見を獲得する。

授業の概要

哲学の諸分野、哲学の歴史、および哲学の現代的諸問題について抗議を行う。

授業計画

第１回：イントロダクション、「哲学」という言葉

第２回：哲学と科学と宗教（1）（宗教の本質、科学の発達）

第３回：哲学と科学と宗教（2）（科学と非科学、宗教と科学に対する哲学の関係）

第４回：哲学の歴史－古代・中世－

第５回：哲学の歴史－近世－

第６回：哲学の歴史－近代－

第７回：哲学の歴史－現代－

第８回：哲学の諸分野－倫理学－

第９回：哲学の諸分野－宗教哲学－

第１０回：哲学の諸分野－美学－

第１１回：哲学の現代的諸問題－心の哲学－

第１２回：哲学の現代的諸問題－技術－

第１３回：哲学の現代的諸問題－幸福論－

第１４回：哲学の現代的諸問題－死の問題－

第１５回：まとめ

定期試験（実施しない）

テキスト

特に用いない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

授業中に行う小テスト（３回、60%）とレポート（40%）

授業科目名： 倫理学特論【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 後藤　正英 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業の到達目標及びテーマ

１）国際社会における文化の多様性と人間の尊厳について理解を深める。

２）倫理学の基礎知識を理解し、現代社会の問題を倫理学的視点から考察することができるようにする。

授業の概要

この授業では、近現代の西洋倫理思想の流れを寛容論の観点から再検討する。グローバル化の進行する多文化社会においては、さまざまな差異をもつ人びとの間の交渉と共存の技法について、考えを深めておくことが大切である。そのためのヒントを代表的な哲学者の倫理思想のうちに探っていく。

授業は基本的に講義形式で行うが、適宜、倫理的問題についてグループ・ディスカッションをする機会も設ける。

授業計画

第１回：イントロダクション

第２回：近代以前の宗教的寛容論

第３回：近代イギリスの寛容論：ジョン・ロック

第４回：近代フランスの寛容論：ルソー、ヴォルテール

第５回：近代ドイツの寛容論：レッシング、メンデルスゾーン

第６回：１９世紀イギリスの寛容論：ジョン・スチュアート・ミル

第７回：現代政治哲学の寛容論（１）：ロールズ、ウォルツアー

第８回：現代政治哲学の寛容論（２）：ハーバーマス

第９回：現代政治哲学の寛容論（３）：フォアスト

第１０回：現代政治哲学の寛容論（４）：グレイ、ホートン

第１１回：現代政治哲学における寛容論と相互承認論：ホーネットとフォアスト

第１２回：日本の伝統的宗教における寛容論

第１３回：現代日本の寛容論
第１４回：寛容論をめぐる諸問題（レイシズム）
第１５回：授業全体のまとめ
定期試験

テキスト
特になし。

参考書・参考資料等
特に指定しない。授業中に随時紹介する。

学生に対する評価
　平常点４割、学期末試験６割
平常点：授業感想によって評価する。
学期末試験：基本的な知識や倫理学的な思考が習得されているか確認する。

授業科目名： 応用倫理学概説 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：八幡英幸 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業のテーマ及び到達目標

現代社会の諸問題に対し、近現代の代表的な倫理学理論（義務倫理学、功利主義、徳倫理学など）の考え方を適用し、多面的・多角的な考察や議論を行うことができる。

授業の概要

現代社会の諸問題として、身近な倫理の問題、倫理と法の問題、倫理の拡張の問題を取り上げ、議論の状況を解説する。次いで、それぞれの問題についての意見交換を行う。また、このような考察や議論を通じて得られる応用倫理学の視点を学校教育にどう活かすかを考える。

授業計画

第１回：応用倫理学とは何か（参考：テキスト第１章）
第２回：身近な倫理その１：嘘と約束破りをめぐる倫理思想（参考：テキスト第３章）
第３回：意見交換：許される嘘と許されない嘘のちがいは何か
第４回：身近な倫理その２：公共空間の禁煙化と喫煙の自由（参考：テキスト第５章）
第５回：意見交換：目指すべきは完全禁煙か、分煙か
第６回：倫理と法その１：死刑制度についての論争（参考：テキスト第２章）
第７回：意見交換：死刑制度は存続させるべきか、廃止すべきか
第８回：倫理と法その２：安楽死・尊厳死についての論争（参考：テキスト第４章）
第９回：意見交換：自発的・積極的安楽死を合法化すべきか
第１０回：倫理の拡張その１：善行の義務についての論争（参考：テキスト第７・８章）
第１１回：意見交換：世界の貧困にどう立ち向かうべきか
第１２回：倫理の拡張その２：肉食および畜産についての論争（参考：テキスト第６章）
第１３回：意見交換：動物の福祉はどこまで実現可能か
第１４回：日本の学校教育における「倫理」の位置づけ
第１５回：意見交換：応用倫理学の視点を学校教育にどう活かすか
定期試験（論述）

テキスト

児玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』勁草書房（2020）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 毎回の授業後の課題（50%）、定期試験（論述）（50%）

授業科目名： 応用倫理学特論 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：八幡英幸 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

授業のテーマ及び到達目標

人間の心や体のあり方に関係する多様な倫理的課題に対し、近現代の代表的な倫理学理論の考え方を適用し、多面的・多角的な考察や議論を行うことができる。

授業の概要

人間の心や体のあり方に関係する倫理的課題として、身体の改変・増強の問題、脳機能の調整・強化の問題、その他の人間改変の問題を取り上げ、議論の状況を解説する。次いで、それぞれの問題についての意見交換を行い、これからの人間や社会のあり方についての考えを深める。

授業計画

第１回：エンハンスメントとは何か
第２回：身体の改変・増強の問題その１：美容整形（参考：テキスト第１部）
第３回：意見交換：美容整形をもっと身近なものにすべきか
第４回：身体の改変・増強の問題その２：ドーピング（参考：テキスト第１部）
第５回：意見交換：ドーピングが禁止される理由は何か
第６回：身体の改変・増強の問題その３：サイボーグ化（参考：テキスト第１部）
第７回：意見交換：不老不死は人間に何をもたらすか
第８回：脳機能の調整・強化の問題その１：スマートドラッグ（参考：テキスト第２部）
第９回：意見交換：スマートドラッグは教育や人間をどう変えるか
第１０回：脳機能の調整・強化の問題その２：気分明朗剤（参考：テキスト第２部）
第１１回：意見交換：気分明朗剤は人間や社会をどう変えるか
第１２回：その他の人間改変の問題その１：遺伝子操作（参考：テキスト第３部）
第１３回：意見交換：人間の遺伝子操作は許されるか
第１４回：その他の人間改変の問題その２：モラルエンハンスメント（参考：テキスト第３部）
第１５回：意見交換：モラルエンハンスメントは人間や社会に何をもたらすか
定期試験（論述）

テキスト

佐藤岳詩『心とからだの倫理学: エンハンスメントから考える』筑摩書房（2021）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 毎回の授業後の課題（50%）、定期試験（論述）（50%）

授業科目名： 倫理学演習Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 後藤正英 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業の到達目標及びテーマ

１）近現代西洋の代表的な倫理思想について理解を深める。

２）演習での発表や議論を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

３）『学習指導要領・社会編』に記載されている「現代社会における文化の意義と影響」や「現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組み」についての理解を深める。

授業の概要

この演習では、近現代西洋の代表的倫理学者の著作の抜粋を読み、彼らの提起する問題について考え、参加者全員で議論する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：近代西洋の倫理思想の流れ　教員による説明

第３回：古代ギリシアの倫理思想（１）文献講読

第４回：古代ギリシアの倫理思想（２）ディスカッション

第５回：功利主義と道徳感情論（１）文献購読

第６回：功利主義と道徳感情論（２）ディスカッション

第７回：カントの義務論（１）文献購読

第８回：カントの義務論（２）ディスカッション

第９回：ニーチェの道徳批判論（１）文献購読

第１０回：ニーチェの道徳批判論（２）ディスカッション

第１１回：現代正義論（１）文献講読

第１２回：現代正義論（２）ディスカッション

第１３回：ケアの倫理（１）文献講読

第１４回：ケアの倫理（２）ディスカッション

第１５回：授業全体のまとめ 定期試験
テキスト　特になし。配布資料を用いる。
参考書・参考資料等 特に指定しない。授業中に随時紹介する。
学生に対する評価 平常点（質疑応答の積極性、担当回の発表内容）：６割 学期末レポート：４割

授業科目名： 倫理学演習Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 後藤正英 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業の到達目標及びテーマ

１）近現代日本の代表的な倫理思想について理解を深める。

２）演習での発表や議論を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

３）『学習指導要領・社会編』に記載されている「現代社会における文化の意義と影響」や「国際社会における文化や宗教の多様性」について理解を深める。

授業の概要

この演習では、近現代日本の代表的倫理学者の著作の抜粋を読み、彼らの提起する問題について考え、参加者全員で議論する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：近代以前の日本の倫理理想の流れ　教員による説明

第３回：近現代日本の倫理思想の流れ　教員による説明

第４回：明治期の倫理思想（１）文献購読

第５回：明治期の倫理思想（２）ディスカッション

第６回：大正・昭和初期の倫理思想（１）文献購読

第７回：大正・昭和初期の倫理思想（２）ディスカッション

第８回：昭和後期の倫理思想（１）文献購読

第９回：昭和後期の倫理思想（２）ディスカッション

第１０回：平成・令和の倫理思想　教員による説明

第１１回：平成・令和の倫理思想（１）文献購読

第１２回：平成・令和の倫理思想（２）ディスカッション

第１３回：現代日本社会の倫理的諸問題（１）教員による説明

第１４回：現代日本社会の倫理的諸問題（２）ディスカッション

第１５回：授業全体のまとめ
定期試験

テキスト　特になし。配布資料を用いる。

参考書・参考資料等
　特に指定しない。授業中に随時紹介する。

学生に対する評価
　平常点（質疑応答の積極性、担当回の発表内容）：６割
　学期末レポート：４割

授業科目名： 倫理学演習 III 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 後藤正英 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業の到達目標及びテーマ

１）応用倫理学の基礎知識を得ることで、現代社会が抱える倫理的諸問題について理解を深める。

２）口頭発表と議論を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

３）『学習指導要領』に記載されている「現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組み」である「対立と合意」や「効率と公正」などについて理解を深める。

授業の概要

応用倫理学の諸分野の中から、特に生命倫理・環境倫理・社会倫理をとりまく諸問題を取り上げて、担当者の口頭発表に対して参加者全員でディスカッションする。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：生命倫理の諸問題（１）（概要について教員による説明）

第３回：生命倫理の諸問題（２）出産をめぐる倫理的諸問題（学生による発表とディスカッション）

第４回：生命倫理の諸問題（３）終末期医療（学生による発表とディスカッション）

第５回：生命倫理の諸問題（４）エンハンスメント（学生による発表とディスカッション）

第６回：環境倫理をめぐる諸問題（概要について教員による説明）

第７回：動物と人間の関係（１）欧米の状況　（学生による発表とディスカッション）

第８回：動物と人間の関係（２）日本の状況（学生による発表とディスカッション）

第９回：エネルギーと資源問題（学生による発表とディスカッション）

第１０回：社会倫理をめぐる諸問題（概要について教員による説明）

第１１回：スポーツと性の問題（学生による発表とディスカッション）

第１２回：各国の多文化教育や宗教教育をめぐる事情（学生による発表とディスカッション）

第１３回：情報リテラシーをめぐる課題（学生による発表とディスカッション）

第１４回：学校教育をめぐる課題（学生による発表とディスカッション）

第１５回：授業全体のまとめ
定期試験

テキスト
特になし。配布資料を適宜用いる。

参考書・参考資料等
特に指定しない。授業中に随時紹介する。

学生に対する評価
平常点（質疑応答の積極性、担当回の発表内容）：６割
学期末レポート：４割

授業科目名： 倫理学演習 Ⅳ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 後藤正英 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」

授業の到達目標及びテーマ

１）世界の諸宗教がもつ倫理思想について学ぶことで、国際社会における文化の多様性について理解を深める。

２）演習での発表や議論を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

３）『学習指導要領・社会編』に記載されている「現代社会における文化の意義と影響」や「国際社会における文化や宗教の多様性」について理解を深める。

授業の概要

人類の長い歴史においては、宗教が倫理思想をはぐくむ土壌となってきた。それぞれの地域の倫理思想の特色を理解し異文化理解を深めるうえで、宗教に関する基礎知識は必要不可欠である。この授業では、世界の諸宗教に見られる倫理思想についてその概要を紹介し、参加者の議論を通して理解を深めたい。授業の中では、宗教と現代社会をめぐる問題についても考察する。

授業は、テーマごとに、三つのプロセス（教員による概要の説明、文献購読、担当者による口頭発表とディスカッション）を繰り返す形で進行する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：イスラームとユダヤ教の概要について（教員による説明）

第３回：イスラームとユダヤ教の倫理思想をめぐる文献の購読

第４回：イスラームとユダヤ教と現代社会をめぐる諸問題について（学生による発表と議論）

第５回：キリスト教の概要について（教員による説明）

第６回：キリスト教の倫理思想をめぐる文献の購読

第７回：キリスト教と現代社会をめぐる諸問題について（学生による発表と議論）

第８回：神道・民間信仰の概要について（教員による説明）

第９回：神道・民間信仰をめぐる文献の講読

第１０回：神道・民間信仰と現代社会をめぐる諸問題について（学生による発表と議論）
第１１回：仏教の概要について（教員による説明）
第１２回：仏教の倫理思想をめぐる文献の購読
第１３回：仏教と現代社会をめぐる諸問題について（学生による発表と議論）
第１４回：現代社会の宗教をめぐる諸問題について（教員による説明と議論）
第１５回：授業全体のまとめ
定期試験

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
特に指定しない。授業の中で随時紹介する。

学生に対する評価
平常点（質疑応答の積極性、担当回の発表内容）：６割
学期末レポート：４割

授業科目名： 社会科教育演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬泰司 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		

授業の題材及び到達目標

小中学校社会科や高等学校社会系教科の基盤である社会科教育学の基礎知識を身に付ける。

授業の概要

社会認識教育学会編『新・社会科教育学ハンドブック』を読み，報告し，議論する。

授業計画

第 １ 回：演習のねらい・計画・評価
第 ２ 回：論文「社会認識と市民的資質」に関する報告
第 ３ 回：論文「社会科学科としての社会科」に関する報告
第 ４ 回：論文「社会研究科としての社会科」に関する報告
第 ５ 回：論文「社会問題科としての社会科」に関する報告
第 ６ 回：論文「シティズンシップ教育としての社会科」に関する報告
第 ７ 回：論文「社会科における問題解決」に関する報告
第 ８ 回：論文「社会科における理解」に関する報告
第 ９ 回：論文「社会科における説明」に関する報告
第１０回：論文「社会科における議論」に関する報告
第１１回；論文「社会科における意思決定」に関する報告
第１２回；論文「社会科における社会参加」に関する報告
第１３回；論文「社会科地理と地理科の違い」に関する報告
第１４回；論文「社会科歴史と歴史科の違い」に関する報告
第１５回：論文「社会科公民と公民科の違い」に関する報告
定期試験なし

テキスト

社会認識教育学会編『新　社会科教育学ハンドブック』明治図書，2012年

参考書・参考資料等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年

学生に対する評価

学習態度：20%，レジュメの作成とその報告：80%

授業科目名： 社会科教育演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬泰司 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業の題材及び到達目標

教科書を活用した社会科授業づくりの方法を身に付ける。

授業の概要

小中学校社会科や高等学校社会系教科の教科書を活用して授業を開発する。

授業計画

第 １ 回：演習のねらい・計画・評価
第 ２ 回：教科書の紙面分析（１）―教科書の本文記述の意図を推測する―
第 ３ 回：教科書の紙面分析（２）―教科書の本文記述の意図を検討する―
第 ４ 回：教科書の紙面分析（３）―教科書の資料掲載の意図を推測する―
第 ５ 回：教科書の紙面分析（４）―教科書の紙面構成の意図を検討する―
第 ６ 回：教科書の授業開発（１）―MQ（学習課題）とMA（答え）を設定する―
第 ７ 回：教科書の授業開発（２）―MQ（学習課題）とMA（答え）を検討する―
第 ８ 回：教科書の授業開発（３）―発問計画を立てる―
第 ９ 回：教科書の授業開発（４）―発問計画を検討する―
第１０回：教科書の授業開発（５）―授業計画を作成する―
第１１回；教科書の授業開発（６）―授業計画を作成する―
第１２回；教科書の授業開発（７）―ワークシートを作成する―
第１３回；教科書の授業開発（８）―ワークシートを検討する―
第１４回；教科書の授業開発（９）―模擬授業を実施する―
第１５回：教科書の授業開発（10）―授業計画を修正する―
定期試験なし

テキスト

小中学校社会科や高等学校社会系教科の教科書

参考書・参考資料等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年

学生に対する評価

学習態度：20%，教科書分析：30%，授業開発：50%

授業科目名： 社会科教育演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬泰司 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業の題材及び到達目標

小中学校社会科や高等学校社会系教科における授業改善の方法を身に付ける。

授業の概要

教育実習生や受講者自身の授業を観察・分析して，授業改善を図る。

授業計画

第 １ 回：演習のねらい・計画・評価
第 ２ 回：教育実習生の授業分析（１）―授業を参観する―
第 ３ 回：教育実習生の授業分析（２）―授業記録を取る―
第 ４ 回：教育実習生の授業分析（３）―授業の意義と課題を整理する―
第 ５ 回：教育実習生の授業分析（４）―授業の意義と課題を検討する―
第 ６ 回：教育実習生の授業改善（１）―MQ（学習課題）とMA（答え）を再設定する―
第 ７ 回：教育実習生の授業改善（２）―発問計画を再構成する―
第 ８ 回：教育実習生の授業改善（３）―授業計画を修正する―
第 ９ 回：受講者自身の授業分析（１）―授業を参観する―
第１０回：受講者自身の授業分析（２）―授業記録を取る―
第１１回：受講者自身の授業分析（３）―授業の意義と課題を整理する―
第１２回：受講者自身の授業分析（４）―授業の意義と課題を検討する―
第１３回：受講者自身の授業改善（１）―MQ（学習課題）とMA（答え）を再設定する―
第１４回：受講者自身の授業改善（２）―発問計画を再構成する―
第１５回：受講者自身の授業改善（３）―授業計画を修正する―
定期試験なし

テキスト

小中学校社会科や高等学校社会系教科の教科書

参考書・参考資料等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年

学生に対する評価

学習態度：20%，教育実習生の授業改善：40%，受講者自身の授業改善：40%

授業科目名： 社会科教育演習Ⅳ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬泰司 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業の題材及び到達目標

小中学校社会科や高等学校社会系教科に関する高度な授業づくりの方法を身に付ける。

授業の概要

授業づくりの現状を把握し，先行実践の特質と課題を整理して，その課題を克服する授業づくりに取り組む。

授業計画

第 １ 回：演習のねらい・計画・評価
第 ２ 回：授業づくりの現状把握（１）–学習指導要領を手がかりに
第 ３ 回：授業づくりの現状把握（２）–教科書記述を手がかりに–
第 ４ 回：授業づくりの現状把握（３）–一般的な社会科授業を手がかりに–
第 ５ 回：先行実践の整理（１）–先行実践の収集–
第 ６ 回：先行実践の整理（２）–先行実践の類型化–
第 ７ 回：先行実践の整理（３）–先行実践の特質と課題–
第 ８ 回：先行実践の課題を克服する授業づくり（１）–参考文献の収集–
第 ９ 回：先行実践の課題を克服する授業づくり（２）–教育内容の構成–
第１０回：先行実践の課題を克服する授業づくり（３）–単元の構成–
第１１回：先行実践の課題を克服する授業づくり（４）–発問・指示・資料の準備–
第１２回：先行実践の課題を克服する授業づくり（５）–教授計画書の作成–
第１３回：先行実践の課題を克服する授業づくり（６）–教授計画書の再検討–
第１４回：先行実践の課題を克服する授業づくり（７）–板書計画の作成–
第１５回：先行実践の課題を克服する授業づくり（８）–児童・生徒意識調査の開発–
定期試験なし

テキスト

社会認識教育学会編『新　社会科教育学ハンドブック』明治図書，2012年

参考書・参考資料等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年

学生に対する評価

学習態度：20%，先行研究：30%，授業開発：50%

授業科目名：社会科教育演習Ⅴ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：竹中伸夫 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び高等学校　地理歴史）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業の到達目標及びテーマ

１．教科教育学の最新の文献講読を手がかりに，学界の研究動向を大まかに把握できる。

２．他者に伝えることの難しさ（授業の困難さ）を実感するとともに，その留意点を理論的・体験的に獲得できる。

授業の概要

「研究成果を他者に伝える」をキーワードに，新書，専門書，論文とハードルを上げていき，その内容を伝え，伝わったかを議論する過程で，その留意点を考える。転じて，授業をするうえで最も重要な要素（教師の教材研究の成果を自身とは大きく異なる他者【子ども】にわかりやすく伝えるための方略）の体得に努める。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：社会系教科ないしは教育学に関する新書を読み，まとめた内容を他者に分かりやすく伝えよう

第３回：わかりやすく伝えるとは何をどうまとめることか（討議）

第４回：子どもにうまく伝えるには何をどうすればいいか（討議）といい授業の要件

第５回：文献講読の仕方についての概説（なぜうまく伝えられないのか）

第６回：社会系教科教育学に関する文献講読（事実のレベルにおいて留意すること）

第７回：社会系教科教育学に関する文献講読（分析のレベルにおいて留意すること）

第８回：社会系教科教育学に関する文献講読（解決のレベルにおいて留意すること）

第９回：他者に伝える際に留意すること（文献のまとめ）

第１０回：論文検索の方法と図書館の使い方

第１１回：社会系教科教育学に関する論文を読み，まとめた内容を他者に分かりやすく伝えよう（演習）

第１２回：文献のまとめを踏まえ，うまく伝わったか（討議）

第１３回：論文を読み，まとめた内容を他者に分かりやすく伝えるには何が必要か（講義）

第１４回：文献のまとめを踏まえ，うまく伝えるには何が足りないか（討議）

第１５回：研究成果をまとめ論文を書くことと自己の導出 定期試験
テキスト 苅谷剛彦『知的複眼思考法』講談社，2002年。
参考書・参考資料等 広田照幸他『教育問題はぜまちがって語られるのか？』日本図書センター，2010年。 伊藤公一朗『データ分析のカー因果関係に迫る思考法』光文社，2017年。
学生に対する評価 発表内容：60%，最終の口頭試問：40%

授業科目名：社会科教育演習Ⅵ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：竹中伸夫 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		

授業の到達目標及びテーマ

１．先行研究分析を手がかりに，教科内容と教科教育の研究動向を大まかに把握できる。

２．教材研究の難しさ（授業づくりの困難さ）を実感するとともに，その留意点を理論的・体験的に獲得できる。

授業の概要

地域調査と文献調査の二つを中心に，授業づくりにおける教材研究の在り方に関する演習を行う。それぞれの調査を計画，実施，公表，相互検討，評価する過程で，その留意点を実践的に把握する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業テーマの決定）

第２回：教材研究とは何をどうすることか

第３回：テーマに沿った基礎的文献の講読と概要発表

第４回：そのテーマを授業化するにあたって何をどのように調査すべきか（議論）

第５回：類似の授業実践例（先行研究）の概要把握

第６回：類似の授業実践例（先行研究）の課題把握

第７回：類似の授業実践例（先行研究）の改善方略の分析

第８回：教科内容学の吟味・検討

第９回：調査計画に沿って，地域調査を準備しよう

第１０回：地域調査の実施（往路と見学）

第１１回：地域調査の実施（質疑と復路）

第１２回：地域調査の成果報告

第１３回：教科内容学の成果との比較・検討

第１４回：調査の結果を，他者に分かりやすく伝えるということ（討議）

第１５回：研究成果の最終報告

定期試験

テキスト

全国社会科教育学会『社会科教育実践ハンドブック』明治図書，2011年。

参考書・参考資料等 向山洋一『向山洋一は“社会の授業”をどうつくっているか』明治図書，2014年。
学生に対する評価 発表内容：60%，最終の口頭試問：40%

授業科目名：社会科教育演習Ⅶ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：竹中伸夫 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び高等学校　地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		

授業の到達目標及びテーマ

１．把握した研究動向を踏まえ，中学社会・高校地理歴史科・公民科の授業づくり演習を行うにあたり，任意の教材を選択する。

２．選択した教材（テーマ）に関し，先行研究分析を手がかりに，教科内容と教科教育の研究動向を把握できる。

３．問いの構造化の難しさ（授業づくりの困難さ）を実感するとともに，その留意点を理論的・体験的に獲得できる。

授業の概要

授業づくりをキーワードに演習を行う。これまでの調査や演習の成果をどのように任意で組み合わせ，中学社会や高校地理歴史科における自らの選んだ教材（テーマ）に関するより優れた授業が作成できるか，その際の留意点などを実践的に把握・克服する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（社会科教育学における研究とは，何をどうすることか）

第２回：基礎的文献の講読と概要発表

第３回：基礎的文献の講読と課題把握

第４回：基礎的文献の講読と改善方略の分析

第５回：類似の授業実践例（先行研究）の概要発表

第６回：類似の授業実践例（先行研究）の課題把握

第７回：類似の授業実践例（先行研究）の改善方略の分析

第８回：教科内容学の論文分析と概要発表

第９回：教科内容学の論文分析と課題把握

第１０回：教科内容学の論文分析と改善方略の分析

第１１回：同種の研究目的に基づく論文（先行研究）の概要発表

第１２回：同種の研究目的に基づく論文（先行研究）の課題把握

第１３回：同種の研究目的に基づく論文（先行研究）の改善方略の分析

第１４回：先行研究分析と研究の方向性の吟味

第１５回：先行研究分析と研究の方向性の確立

定期試験
テキスト 全国社会科教育学会『小学校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書，2007年。 全国社会科教育学会『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書，2007年。
参考書・参考資料等 適宜指示する
学生に対する評価 発表内容：60%，最終の口頭試問：40%

授業科目名：社会科教育演習Ⅷ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：竹中伸夫 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会　及び高等学校　地理歴史）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業の到達目標及びテーマ

１．中学校社会科・高校地理歴史科・公民科の指導案（教授書）を作成できる。

２．指導案（教授書）づくりの難しさを実感するとともに，その留意点を理論的・体験的に獲得できる。

３．作成した指導案（教授書）を模擬的に実践し，その成果と課題を踏まえ，再考できる。

授業の概要

Ⅶで作成した授業をひとまず実践し，その成果と課題を確認したのち，より優れた指導案（教授書）の作成をキーワードに演習を行う。これまでの調査や演習の成果をどのように任意で組み合わせ，自らの選んだ教材（テーマ）における非常に優れた提案性のある授業指導案（教授書）を作成・実践できるか，その際の留意点などを実践的に把握・克服する。

授業計画

第１回：模擬授業

第２回：自身の課題の明確化とその克服方法の検討

第３回：文献調査の実施

第４回：文献調査成果の相互報告と課題の吟味

第５回：先行研究の分析

第６回：先行研究の成果の相互報告と課題の吟味

第７回：指導案（教授書）の吟味・検討（目的の部分を中心に）

第８回：指導案（教授書）の吟味・検討（方法の部分を中心に）

第９回：指導案（教授書）の吟味・検討（目的と方法の整合性について）

第１０回：指導案（教授書）の吟味・検討（成果の部分を中心に）

第１１回：指導案（教授書）の吟味・検討（目的の成果，方法の一貫性について）

第１２回：指導案（教授書）の吟味・検討（内容の吟味）

第１３回：指導案（教授書）の吟味・検討（成果と内容の関連性について）

第１４回：指導案（教授書）の吟味・検討（全体に関して）

第１５回：第2回模擬授業，および最終報告会

定期試験

テキスト 社会認識教育学会『新社会科教育学ハンドブック』明治図書，2012年。
参考書・参考資料等 適宜指示する
学生に対する評価 発表内容：60%，最終の口頭試問：40%

授業科目名： 中等社会科教育特講 （租税教育論） 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬泰司・竹中伸夫 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史，高等学校公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業の題材及び到達目標

１．主権者を育成する中等社会科租税学習の授業開発に必要な基礎的知識を理解する。

２．主権者を育成する中等社会科租税学習の授業を開発して，基礎的知識を身に付ける。

授業の概要

第１～４回：生徒の租税観の実態を踏まえた授業づくりに必要な基礎知識を学習する。

第５～９回：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業を開発し模擬授業に取り組む。

第10～15回：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業を開発し模擬授業に取り組む。

授業計画

第 １ 回：オリエンテーション（講義のねらいや評価方法）―生徒の租税観の実態―（藤瀬、竹中）

第 ２ 回：租税教育の基礎知識（１）―世界と日本の税の歴史―（藤瀬、竹中）

第 ３ 回：租税教育の基礎知識（２）―我が国の歳入／歳出―（藤瀬、竹中）

第 ４ 回：租税教育の基礎知識（３）―税の配分のあり方―（藤瀬、竹中）

第 ５ 回：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業開発（１）―教科書分析―（藤瀬）

第 ６ 回：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業開発（２）―授業計画の作成―（藤瀬）

第 ７ 回：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業開発（３）―授業計画の検討―（藤瀬）

第 ８ 回：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業開発（４）―模擬授業の実施―（藤瀬）

第 ９ 回：財政民主主義を題材にした中等公民学習の授業開発（５）―模擬授業の検討―（藤瀬）

第１０回：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業開発（１）―教科書分析―（竹中）

第１１回：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業開発（２）―授業計画の作成―（竹中）

第１２回：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業開発（３）―授業計画の検討―

（竹中） 第１３回：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業開発（４）―模擬授業の実施―（竹中） 第１４回：税の歴史を題材にした中等歴史学習の授業開発（５）―模擬授業の検討―（竹中） 第１５回：まとめ―優れた中等社会科租税学習の条件―（藤瀬、竹中） 定期試験なし
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』平成29年7月 文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』平成30年7月 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』平成30年7月 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』令和2年4月
参考書・参考資料等 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年
学生に対する評価 レポート：40%，指導案及び模擬授業：60%

授業科目名： 中等社会科指導法（社会・公民）Ⅰ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬　泰司／江島　薫 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．学習指導要領に示された中学校社会科・高等学校公民科の目標や内容を理解する。

２．中学校社会科・高等学校公民科の基本的な授業づくりの理論を理解し身に付ける。

授業の概要

第１～３回：学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校公民科の全体構造を学習する。

第４～９回：学習指導要領の下で行われている授業づくりの意義と課題を学習する。

第10～15回：教科書を主教材にした授業づくりの方法を学習し体験する。

授業計画

第 １ 回：オリエンテーション（講義のねらいや評価方法）―ベテラン教師の成長物語―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ２ 回：中学校社会科・高等学校公民科の目標論・学力論―学習指導要領を手がかりに―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ３ 回：中学校社会科・高等学校公民科のカリキュラム編成―学習指導要領を手がかりに―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ４ 回：事実・用語を教える授業づくりの現状と課題（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ５ 回：社会事象の解釈を教える授業づくりの実際（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ６ 回：社会事象の解釈を教える授業づくりの意義と課題（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ７ 回：社会事象の理論を教える授業づくりの実際（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ８ 回：社会事象の理論を教える授業づくりの意義と課題（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 ９ 回：中学校社会科・高等学校公民科の授業分析に挑戦（藤瀬　泰司／江島　薫）

第１０回：教科書を主教材にした授業づくりの方法（１）―授業動画の視聴―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第１１回：教科書を主教材にした授業づくりの方法（２）―教科書の使い方―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第１２回：教科書を主教材にした授業づくりに挑戦（１）―学習指導案と授業計画の作成（ICTの活用含む）―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第１３回：教科書を主教材にした授業づくりに挑戦（２）―学習指導案と授業計画の検討（ICTの活用含む）―（藤瀬　泰司／江島　薫）

第１４回：教科書を主教材にした授業づくりに挑戦（３）−模擬授業の実施（ICTの活用含む）−（藤瀬泰司／江島　薫） 第１５回：教科書を主教材にした授業づくりに挑戦（４）−模擬授業の検討（ICTの活用含む）−（藤瀬泰司／江島　薫） 定期試験なし
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」東洋館出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編」東京書籍（2019） 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』令和2年4月
参考書・参考資料等 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年
学生に対する評価 レポート：80%，指導案及び模擬授業：20%

授業科目名： 中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅰ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 竹中　伸夫／黒田　圭介 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．講義に基づき，多様な社会科授業の目標観の特質と課題，実践上の留意点を理解するとともに，それを通して自らの目標観を相対化し，再構築できる。

２．自らの目標観に基づく指導案を作成・実施・再検討できる

授業の概要

本授業では，学習者の社会科観を再構築することを目的とし，外国等の事例などをもとに多様な実践・目標観を比較・検討する。そののち，自身の目標観に基づき指導案を作成・実施・再検討する演習を行う。

授業計画

第１回：中学校社会科・高等学校地理歴史科，公民科は何の育成を目指しているのかー学習指導要領解説を手がかりにー

第２回：にもかかわらず，現状どうなっているのか①ー暗記教育の限界ー

第３回：にもかかわらず，現状どうなっているのか②ー活動主義の限界ー

第４回：他に，どのような教育がありえるのか①：教育史を通じた初期社会科，理解主義の説明

第５回：他に，どのような教育がありえるのか②：比較教育（英国）の場合

第６回：他に，どのような教育がありえるのか③：比較教育（米国）の場合

第７回：目標観・学力観の類型と学習指導要領との関係性

第８回：カリキュラム・マネジメントとは何かーカリキュラムメーカーとしての教師ー

第９回：授業を作ってみよう①：教材研究とは何をどうすることか

第１０回：授業を作ってみよう②：問いの構造化とは何をどうすることか

第１１回：授業を作ってみよう③：どのような学習形態とすべきか（ICTの活用も含む）

第１２回：授業を実践しよう①；中学校地理的分野の模擬授業（学習指導案の作成を含む）

第１３回：授業を実践しよう②：中学校歴史的分野の模擬授業（学習指導案の作成を含む）

第１４回：授業を実践しよう③：高等学校地理歴史科の模擬授業（学習指導案の作成を含む）

第１５回：実践を通して見えた課題を踏まえ授業を再検討しよう

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」東洋館出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編」東洋館出版（2019）

社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』令和2年4月

参考書・参考資料等

スティーブン・Ｊ・ソーントン著，渡部竜也他訳『教師のゲートキーピング』春風社（2012）

デニス・ロートン著，勝野正章訳『教育課程改革と教師の専門職性』学文社（1998）

学生に対する評価

レポート（５０％）と作成・改善した指導案（４０％）と模擬授業での取り組み（１０％）

授業科目名： 中等社会科指導法（社会・公民）II【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤瀬　泰司／江島　薫 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　公民）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を理解する。

２．中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を身に付ける。

授業の概要

第１～15回：中等社会科教育（Ｉ）の成果を踏まえて授業の分析や授業づくりに取り組む。

第１～７回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を学習する。

第11～15回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくりの理論を活用する。

授業計画

第 1 回：オリエンテーション（講義のねらいや評価方法）−中学校社会科・公民科の全体構造−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 2 回：中学校社会科・高等学校公民科の優れた授業の実際（1）−「法やきまり」の授業−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 3 回：中学校社会科・高等学校公民科の優れた授業の実際（2）−「格差社会」の授業−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 4 回：中学校社会科・高等学校公民科の優れた授業の実際（3）−「地方自治」の授業−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 5 回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくり（1）−よい指導案の条件−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 6 回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくり（2）−分かる授業の条件−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 7 回：中学校社会科・高等学校公民科の実践的な授業づくり（3）−面白い授業の条件−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 8 回：政治領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（1）−教科書の分析−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第 9 回：政治領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（2）−授業計画の作成−（藤瀬　泰司／江島　薫）

第１０回：政治領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（３）−模擬授業の実施−（藤瀬　泰司／江島　薫）
第１１回：政治領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（４）−模擬授業の検討−（藤瀬　泰司／江島　薫）
第１２回：経済領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（１）−教科書の分析−（藤瀬　泰司／江島　薫）
第１３回：経済領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（２）−学習指導案と授業計画の作成−（藤瀬　泰司／江島　薫）
第１４回：経済領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（３）−模擬授業の実施−（藤瀬　泰司／江島　薫）
第１５回：経済領域を題材にした実践的な授業づくりに挑戦（４）−模擬授業の検討−（藤瀬　泰司／江島　薫）
定期試験なし

テキスト
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」東洋館出版（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編」東京書籍（2019）
社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』令和2年4月

参考書・参考資料等
森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書，1978年

学生に対する評価
レポート：50%，指導案及び模擬授業：50%

授業科目名： 中等社会科指導法（社会・地理歴史）Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 竹中　伸夫／黒田　圭介 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　社会　及び　高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．講義を通じて評価について理解するとともに，指導案を評価する中で自らの実践を批判的に再検討できる

２．講義を通じてカリキュラムを開発・分析・再構築できる。

授業の概要

本授業はⅠの応用である。前半は評価論の概説とそれに基づく自身の授業評価演習，後半は中・長期的カリキュラム・マネジメントの必要性と重要性に関する概説とそれに基づく中期的カリキュラム作り演習で構成している。

授業計画

第１回：オリエンテーションー教師の専門職性ー

第２回：評価とは何をどうすることかーPDCAサイクルに見る評価の重要性と指導と評価の一体化ー

第３回：評価をするにはどのような情報が必要か，どのように情報を収集すればいいか

第４回：評価とテストの関係性について

第５回：Ⅰで作成した授業を評価しよう

第６回：より長期的な視点で教育を考えようー再度カリキュラム・マネジメントとは何かー

第７回：なぜそこまで教師がするのかーカリキュラム・マネジメントの必要性と重要性ー

第８回：カリキュラム・マネジメントの方法と留意点

第９回：学習指導要領の詳説①【中学校社会科地理的分野のカリキュラム構造】

第１０回：学習指導要領の詳説②【中学校社会科歴史的分野のカリキュラム構造】

第１１回：学習指導要領の詳説③【中学校社会科公民的分野のカリキュラム構造】

第１２回：学習指導要領の詳説④【歴史総合・地理総合のカリキュラム構造】

第１３回：長期的なカリキュラム・マネジメントとは何をどうすることか（他者の実践例を知る）

第１４回：中期的な単元レベルでのカリキュラム作り①：方略の詳説

第１５回：中期的な単元レベルでのカリキュラム作り②：実際の演習

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編」東洋館出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編」東洋館出版（2019） 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』令和2年4月
参考書・参考資料等 スティーブン・Ｊ・ソーントン著，渡部竜也他訳『教師のゲートキーピング』春風社（2012） デニス・ロートン著，勝野正章訳『教育課程改革と教師の専門職性』学文社（1998）
学生に対する評価 レポート（６０％）と作成したカリキュラム案（４０％）

授業科目名：代数学基礎【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：橋永　貴弘 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		

授業のテーマ及び到達目標

行列や行列式に関する基本的事項の修得を目標とする．

授業の概要

行列や行列の演算に関する基本的事項から始め，行列の基本変形，行列を用いた連立一次方程式の解法，逆行列の求め方や行列式の計算などについて講義，演習を行う．また抽象的なベクトル空間を学ぶための準備として，数ベクトル空間の基底や次元について解説する．

授業計画

第１回：行列
第２回：行列の演算
第３回：行列の分割
第４回：連立一次方程式と行列の基本変形
第５回：行列の簡約化と階数
第６回：連立一次方程式の解法
第７回：正則行列と逆行列
第８回：行列式
第９回：行列式の性質
第１０回：行列式の計算法
第１１回：行列式の展開，余因子と余因子行列
第１２回：クラーメルの公式
第１３回：数ベクトル空間
第１４回：ベクトルの1次独立と1次従属
第１５回：数ベクトル空間の基底と次元
定期試験

テキスト

三宅敏恒「線形代数学 初歩からジョルダン標準形へ」培風館

参考書・参考資料等

齋藤正彦 「線形代数学入門」 東京大学出版会

学生に対する評価 レポートおよび定期試験により評価する.

授業科目名： 代数学序論【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川中子　正 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		

授業のテーマ及び到達目標

よく利用される線形代数学の方法論について学ぶ。様々な数学分野への基礎学力を身に付け、基本的な計算が出来ることが到達目標である。

授業の概要

ベクトル空間、内積と直交性、行列の固有値と対角化についての解説及び演習を行う。様々な数学分野、物理学等の他分野へ線形代数学がどのように活用されているかについて学ぶ。

第１回：数ベクトル空間（基底、次元など）の復習
第２回：　（一般の）ベクトル空間の定義と例
第３回：　線型結合、一次独立性、基底、次元
第４回：　基底の存在定理と延長定理
第５回：　線型写像、階数公式
第６回：　和空間と直和
第７回：　基底の変換行列、線型写像の表現行列
第８回：　内積とSchwarzの不等式、ノルム
第９回：　（正規）直交基底、シュミットの直交化法
第１０回：　エルミート行列、実直交行列、ユニタリ行列
第１１回：　内積空間とその応用
第１２回：　固有値と固有ベクトル、特性多項式
第１３回：　行列の対角化とその応用
第１４回：実直交行列による実対称行列の対角化
第１５回：　実２次形式と２次曲線
定期試験

テキスト

笠原皓司著「線形代数学」サイエンス社

参考書・参考資料等

齋藤正彦著「線型代数入門」東京大学出版会

学生に対する評価

レポートと期末試験を総合的に評価する。

授業科目名： 代数学概論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための の 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：宮﨑誓 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		

授業のテーマ及び到達目標

中学校，高等学校の算数・数学における代数教育に必要な整数論と代数系、特に初等整数論と群論を中心に代数学の導入を行い，数学的背景を理解することを目標とする．

授業の概要

代数学の基礎となる初等整数論と群論について扱う．整数についての基本的性質および群に関する基本的概念を理解する．様々な例や問題を通して，性質や概念をしっかりと身に付ける．

授業計画

第１回：代数系の考え方の説明
第２回：整数の性質（約数・倍数・割算の原理）
第３回：整数の性質（ユークリッドの互除法・素因数分解）
第４回：合同式の導入
第５回：合同式の性質・フェルマーの小定理
第６回：中国の剰余定理
第７回：連分数展開
第８回：有理整数環、単元テストとその解説
第９回：集合論入門（写像、順序集合、濃度、加算個）
第１０回：集合論入門（整列集合、選択公理、Zornの補題）
第１１回：群の定義
第１２回：群の例（整数・対称群・２面体群・一般線形群）
第１３回：部分群と生成元
第１４回：巡回群・元の位数
第１５回：群の概念の身近な例への応用
定期試験

テキスト

なし
参考書・参考資料等 山本芳彦：数論入門（岩波書店） 雪江明彦：整数論１（初等整数論からｐ進数へ）（日本評論社） 内田伏一：集合と位相（裳華房） 新妻弘、木村哲三：群・環・体入門（共立出版） 桂利行：代数学Ｉ（群と環）（東京大学出版会）
学生に対する評価 課題レポート，小テスト，定期試験を総合的に評価する．

授業科目名： 代数学講義 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 宮﨑誓 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学

授業のテーマ及び到達目標

中学校，高等学校の算数・数学における代数教育に必要な代数系、特に群論と環論を中心に代数学の講義を行い，数学的背景を理解することを目標とする．

授業の概要

代数学の基盤となる群論と環論について扱う．群および環についての基本的性質および応用について理解する．様々な例や問題を通して，性質や概念をしっかりと身に付ける．

授業計画

第１回：群の定義と例・部分群の考え方・直積
第２回：同値関係と剰余類
第３回：正規部分群と剰余群
第４回：ラグランジュの定理・正規部分群と剰余群
第５回：準同型写像と準同型定理
第６回：準同型定理の応用と中国の剰余定理
第７回：アーベル群の基本定理
第８回：群の作用、単元テストと解説
第９回：環の定義
第１０回：部分環・整域・単元・零因子
第１１回：有理整数環と多項式環
第１２回：多項式環の基本的な性質
第１３回：イデアルと剰余類・剰余環
第１４回：準同型写像・準同型定理
第１５回：ユークリッド互除法の考え方・ＵＦＤ・ＰＩＤ
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

桂利行：代数学Ｉ（群と環）（東京大学出版会）

雪江明彦：代数学１（群論入門）（日本評論社）

新妻弘、木村哲三：群・環・体入門（共立出版）

桂利行：代数学Ｉ（群と環）（東京大学出版会）

学生に対する評価

課題レポート，小テスト，定期試験を総合的に評価する．

<table>
<tr><td>授業科目名：
代数学特論

【独自科目（熊大）】</td><td>教員の免許状取得のための
の
選択科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：宮﨑誓

担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項
・代数学</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標
中学校，高等学校の算数・数学における代数教育に必要な代数系，特に体論について学ぶ. 体の考え方を導入し, 有限体・有理数の拡大体の概念を理解し, 数学的背景を理解することを目標とする.</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
代数学の基盤となる体論について扱う. 体の定義から始めて, 体の拡大・有限体などの体の基本的な性質を講義する. 様々な例や問題を通して, 性質や概念をしっかりと身に付ける.</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：体の定義・可換環から体へ・商体
第２回：体の標数・素体・有限体
第３回：体の拡大
第４回：代数的拡大・超越的拡大・拡大次数
第５回：代数的閉包
第６回：有限体の性質
第７回：作図問題の考え方
第８回：１の原始根、単元テストとその解説
第９回：体の拡大の考え方
第１０回：代数拡大と拡大次数
第１１回：分離拡大と非分離拡大
第１２回：ガロア拡大とガロア群
第１３回：ガロアの基本定理
第１４回：円分体とその性質
第１５回：代数方程式の根の考え方
第１６回：ガロア理論のまとめ、単元テストとその解説</td></tr>
<tr><td colspan="4">テキスト</td></tr>
</table>

なし
参考書・参考資料等 足立恒雄：ガロア理論講義（日本評論社） 桂利行：代数学Ⅲ（体とガロア理論）（東京大学出版会） 雪江明彦：代数学２（環と体とガロア理論）（日本評論社）
学生に対する評価 単元テストおよびレポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 幾何学序論【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 橋永　貴弘 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学

授業のテーマ及び到達目標

中学校の図形の合同や高等学校の集合・論理で学ぶように，数学全般において論証力は基本である．本講では現代数学の基礎である論理，集合および写像に関する基本事項を習得するとともに，数学的論理力，論証力を養うことを目標とする．

授業の概要

現代数学の言語である集合, 写像について講義する．特に集合，写像，同値関係，濃度，順序関係などの重要項目について詳しく解説する. 証明を中心に講義を展開していくが，何をどのような手順で示しているかを説明しながら進めていく．

授業計画

第１回：命題と論理記号
第２回：命題の証明
第３回：集合と部分集合
第４回：集合の演算
第５回：写像
第６回：像と逆像
第７回：単射，全射，全単射
第８回：合成写像，逆写像
第９回：集合の対等と濃度
第１０回：可算集合，非可算集合
第１１回：同値関係
第１２回：商集合
第１３回：順序集合
第１４回：整列集合と比較定理
第１５回：Zornの補題，整列定理
定期試験

テキスト

特に指定しない．

参考書・参考資料等 内田伏一著「集合と位相」（裳華房）
学生に対する評価 レポートおよび定期試験により評価する.

授業科目名： 幾何学概論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中川泰宏 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		

授業のテーマ及び到達目標
中学校，高等学校の算数・数学における図形教育に必要な図形や空間に対する感覚を養い，その数学的背景を認識することを目標とする．

授業の概要
現代数学において基礎となっている「位相」の概念について，その基本的事項についてユークリッド空間，および距離空間を中心に解説する．

授業計画
第１回：準備(その１)：集合について
第２回：準備(その２)：写像について
第３回：実数の集合(その１)：上限，下限，数列の極限について
第４回：実数の集合(その２)：実数の完備性について
第５回：ユークリッド空間(その１)：内点，内部，境界，触点，閉包について
第６回：ユークリッド空間(その２)：開集合，閉集合について
第７回：ユークリッド空間(その３)：関数の連続性について
第８回：距離空間(その１)：距離関数と距離空間について
第９回：距離空間(その２)：近傍，内点，内部，外点，外部，境界について
第１０回：距離空間(その３)：開集合と閉集合について
第１１回：距離空間(その４)：開集合系と閉集合系について
第１２回：近傍系と連続写像：距離空間の間の連続写像について
第１３回：完備距離空間：完備性と縮小写像の原理について
第１４回：点列コンパクト集合：点列コンパクト集合の性質について
第１５回：位相空間：位相空間について(ダイジェスト版)
定期試験

テキスト

なし
参考書・参考資料等 内田伏一著「位相入門」(裳華房), 内田伏一著「集合と位相」(裳華房)
学生に対する評価 講義の進行に応じて課すレポートの評価(５～１０%), および試験(９０～９５%)により評価する.

授業科目名： 幾何学講義 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中川　泰宏／橋永　貴弘 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		

授業のテーマ及び到達目標

教師に必要な素養のひとつである幾何学的な見方を習得するために幾何学の基礎を理解する.

授業の概要

現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について，曲線(平面曲線，および空間曲線)を題材に解説する.

授業計画

第１回：平面曲線(その１)：フレネ標構と曲率について
第２回：平面曲率(その２)：フレネの公式について
第３回：平面曲線(その３)：平面曲線の基本定理について
第４回：空間曲線(その１)：空間曲線のフレネ標構について
第５回：空間曲線(その２)：フレネ・セレの公式と空間曲線の基本定理について
第６回：閉曲線(その１)：等周不等式と四頂点定理
第７回：閉曲線(その２)：閉曲線の回転数について
第８回：曲面のトポロジー：閉曲面の分類定理について
第９回：曲面と座標近傍(その１)：曲面片，座標近傍について
第１０回：曲面と座標近傍(その２)：曲面，多様体の定義について
第１１回：第一基本形式(その１)：接ベクトル，単位法線ベクトルについて
第１２回：第一基本形式(その２)：第一基本形式について
第１３回：第二基本形式(その１)：ガウス標構について
第１４回：第二基本形式(その２)：第二基本形式について
第１５回：ガウス曲率と平均曲率：ワインガルテン写像，ガウス曲率，平均曲率について
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等 中内伸光著「じっくりと学ぶ曲線と曲面 −微分幾何学初歩−」（共立出版）
学生に対する評価 講義の進行に応じて課すレポートの評価（５～１０%），および試験（９０～９５%）により評価する．

<table>
<tr><td>授業科目名：
幾何学特論

【独自科目（熊大）】</td><td>教員の免許状取得のための
選択科目</td><td>単位数：
2単位</td><td>担当教員名：中川泰宏

担当形態：単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="3">教科に関する専門的事項
・幾何学</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標
教師に必要な素養のひとつである幾何学的な見方を習得するために幾何学の基礎を理解する.</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
現代の幾何学の中心の１つである微分幾何学の基本的事項について，曲面論（ガウス・ボンネの定理等）を題材に解説する.</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：測地線(その１)：ダルブー標構について
第２回：測地線(その２)：測地曲率と法曲率について
第３回：測地線(その３)：測地線について
第４回：測地線(その４)：測地線の例について
第５回：測地線(その５)：測地線の定義と存在定理について
第６回：ガウス・ボンネの定理(単純多角形の場合：その１)：単純多角形と測地多角形について
第７回：ガウス・ボンネの定理(単純多角形の場合：その２)：単純多角形の場合のガウス・ボンネの定理の主張
第８回：ガウス・ボンネの定理(単純多角形の場合：その３)：球面過剰の定理について
第９回：ガウス・ボンネの定理(単純多角形の場合：その４)：オイラーの多面体定理について
第１０回：ガウス・ボンネの定理(閉曲面の場合：その１)：閉曲面の場合のガウス・ボンネの定理の主張
第１１回：ガウス・ボンネの定理(閉曲面の場合：その２)：閉曲面の場合のガウス・ボンネの定理の意味
第１２回：閉曲面の場合のガウス・ボンネの定理の証明
第１３回：ガウスの定理について：ガウスの定理の主張とその証明</td></tr>
</table>

第１４回：単純多角形の場合のガウス・ボンネの定理の証明(その１)：証明のための準備 第１５回：単純多角形の場合のガウス・ボンネの定理の証明(その２)：証明について 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 中内伸光著「じっくりと学ぶ曲線と曲面 −微分幾何学初歩−」（共立出版）
学生に対する評価 講義の進行に応じて課すレポートの評価（１００％）により評価する.

授業科目名： 解析学基礎【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：川中子 正 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		

授業のテーマ及び到達目標

１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について学ぶ。到達目標は基礎的な計算が出来ることである。

授業の概要

１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。

授業計画

第１回：　関数および逆関数の定義
第２回：　関数の極限
第３回：連続関数の定義と性質
第４回：　微分および導関数の定義と性質
第５回：合成関数および逆関数の微分法、逆三角関数
第６回：三角関数、指数関数、対数関数、双曲線関数
第７回：高次導関数
第８回：力学への応用（自由落下運動、バネの振動現象）
第９回：平均値の定理と応用
第１０回：ロピタルの定理
第１１回：不定積分の定義と基本的性質
第１２回：有理関数、三角関数、無理関数の不定積分
第１３回：不定積分の計算
第１４回：定積分の定義と基本的性質、定積分の計算
第１５回：力学への応用（仕事と運動エネルギーの関係）
定期試験

テキスト

水本久夫著「微分積分学の基礎」培風館

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポートと期末試験を総合的に評価する。

授業科目名： 解析学序論【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中川　泰宏／川中子　正 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科に関する科目（中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		

授業のテーマ及び到達目標

１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について学ぶ。到達目標は基礎的な計算が出来ることである。

授業の概要

１変数関数の微分積分学の基礎的な内容について解説する。微分積分が物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。

授業計画

第１回：実数の連続性、上限と下限
第２回：数列、関数の極限の定義
第３回：基本列
第４回：無限積分（広義積分）
第５回：有界でない関数の積分（広義積分）
第６回：テイラーの定理と応用（不定形の極限など）
第７回：テイラー級数とその応用（オイラーの公式など）
第８回：常微分方程式の解法:変数分離形
第９回：常微分方程式の解法:同次形
第１０回：常微分方程式の解法(定数変化法):1階線形方程式
第１１回：常微分方程式の解法の力学への応用
（バネの振動現象、空気抵抗を考慮した落下運動など）
第１２回：無限級数の定義と収束性
第１３回：正項級数の収束の判定法 、交代級数
第１４回：絶対収束と条件収束
第１５回：整級数とその収束半径定期試験

テキスト

吹田信之、新保経彦著「理工系の微分積分学」学術図書出版社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポートと期末試験を総合的に評価する。

授業科目名： 解析学概論【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中川　泰宏／川中子　正
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学

授業のテーマ及び到達目標

多変数関数の微分積分学、フーリエ級数論の基礎的な内容について学ぶ。到達目標は、多変数関数の微分積分学、フーリエ級数論の基礎を理解し、基礎的な計算が出来ることである。

授業の概要

多変数関数の微分積分学、フーリエ級数論の基礎的な内容について解説する。それらが物理学などの他分野へどのように応用されているかについても示す。演習を重視し、基礎的な計算がしっかり出来るようにする。

授業計画

第１回：ユークリッド空間の位相（開集合、閉集合、集積点など）
第２回：多変数関数の極限と連続性
第３回：偏微分と高階偏微分、偏導関数、全微分
第４回：合成関数の微分とその計算
第５回：合成関数の微分法の応用（ラプラシアンの極座標表示、波動方程式の解法など）
第６回：テイラーの定理とその応用
第７回：関数の極値
第８回：面積、体積の定義
第９回：重積分の定義と性質
第１０回：累次積分法による重積分の計算
第１１回：変数変換の方法による重積分の計算
第１２回：広義積分とその計算
第１３回：無限次元内積空間とその具体例
第１４回：内積空間の完備性、パーセバルの等式
第１５回：内積空間の応用例（直交射影による関数の最良近似など）
定期試験

テキスト

吹田信之、新保経彦著「理工系の微分積分学」学術図書出版社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポートと期末試験を総合的に評価する。

授業科目名： 解析学講義【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中川　泰宏／川中子 正 担当形態： 単独

科　目	教科に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める科目区分又は事項等	解析学

授業のテーマ及び到達目標

微分積分学の諸命題等の証明法について学ぶ。到達目標は、微分積分学の論理的側面をしっかり理解していることである。

授業の概要

微分積分学を深く理解するためにその論理的側面（諸定理の証明）について詳しく学ぶ。証明問題の演習も重視する。履修生が少数の場合は、彼らに黒板で諸定理等の証明を説明させ、その後で質疑応答を行うセミナー形式を（部分的に）取ることもあり得る。

授業計画

第１回：実数の連続性
第２回：数列の極限の定義と応用
第３回：関数の極限の定義と応用
第４回：実数列の収束（区間縮小法、単調有界数列の収束性）
第５回：実数列の収束（コーシー列、有界数列の部分列の収束性）
第６回：連続関数の性質（中間値の定理、最大値、最小値の存在定理）
第７回：連続関数の性質（一様連続性など）
第８回：級数、正項級数
第９回：絶対連続性と条件収束
第１０回：関数列、関数項級数
第１１回：整級数
第１２回：リーマン積分の定義と性質
第１３回：関数の積分可能性（ダルブーの定理など）
第１４回：陰関数定理、逆関数定理
第１５回：常微分方程式の解の存在と一意性
（定期試験）

テキスト

吹田信之、新保経彦著「理工系の微分積分学」学術図書出版社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

セミナー形式による発表、演習問題の解答発表、期末試験の結果を総合的に評価する。

授業科目名： 解析学特論 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：中川泰宏 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学

授業のテーマ及び到達目標

　中学校・高等学校の数学の教員として必要な素養を涵養することを目標に, 解析学の基礎であるラプラス変換，フーリエ積分と複素関数論を学習する.

授業の概要

　社会・自然現象を記述する数理モデル（外力項がある微分方程式）を学習する． また，複素数の歴史と複素関数論を学習する. 但し, 受講生の習熟度に合わせて講義を進めて行く.

授業計画

第１回：　ラプラス変換と微分方程式
第２回：　単位関数・デルタ関数
第３回：　単位関数・デルタ関数とその応用（超関数と自然・社会現象との関係）
第４回：　単位関数・デルタ関数の応用と演習
第５回：　フーリエ積分
第６回：　フーリエ積分とその応用
第７回：　フーリエ積分とラプラス逆変換公式
第８回：　複素数とその歴史
第９回：　複素数（ｎ乗根とその応用）
第１０回：数列・級数・数列
第１１回：基本的な正則関数とその微分法
第１２回：複素関数の微分
第１３回：複素関数の積分
第１４回：複素関数の積分とその応用
第１５回：補遺
定期試験

テキスト

なし
参考書・参考資料等 矢野健太郎著他:　基礎解析学，裳華房 スタンリー・ファローウ著　伊理正夫，伊理由美訳：　偏微分方程式，朝倉書店
学生に対する評価 　単元テストにより評価する.

授業科目名： 確率統計学基礎 【独自科目（佐大案）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 西　晃央
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」

授業のテーマ及び到達目標

偶然的変動を伴う現象は確率モデルとして定式化され、その変動法則は確率分布として把握される。統計的データは母集団（確率モデル）からの無作為標本であり、これに基づいて母集団に関する推論が行われる。この科目を通して必修科目である「確率統計学」の内容へスムーズに接続されることを目標とする。

授業の概要

統計的データを見る視点やデータを纏める方法を解説する。また、統計学ではデータの背後に確率モデルが設定されるので、統計的データを理論的に考察するには確率論の素養が不可欠である。確率についての基本的事項を丁寧に説明する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（講義の目的・内容概要）、確率計算の基礎１（事象と確率）
第２回：確率計算の基礎２（条件付き確率と事象の独立性）
第３回：確率計算の基礎３（全確率の公式とベイズの定理）
第４回：確率変数とその確率分布、確率変数の独立性
第５回：確率分布の表示法（分布関数、確率関数、密度関数）
第６回：確率変数及び確率分布の平均値（期待値）、
第７回：ベルヌーイ試行と二項分布
第８回：二項分布の平均と分散、二項分布の例
第９回：　ポアソン分布の平均と分散、ポアソン分布の例
第１０回：正規分布の平均と分散、標準正規分布
第１１回：データの種類：量的データと質的データ、1変量データと多変量データ
第１２回：表やグラフによる量的データの表示：度数分布表、ヒストグラム、棒グラフ
第１３回：量的データへの視点：中心、バラツキ、形状
第１５回：量的データの要約：平均値、中央値、四分位数、パーセント点、分散、標準偏差
第１５回：2つの変量の関連：回帰と相関
定期試験

テキスト

スタンダード統計学基礎/　岩崎学・姫野哲人/　培風館
参考書・参考資料等 スタンダード文科系の統計学/　中西寛子・竹内光悦・中山厚穂/　培風館
学生に対する評価 課題レポート，定期試験を総合的に評価する.

授業科目名： 確率統計学 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 籾原幸二 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」

授業のテーマ及び到達目標

中学・高等学校数学科における確率・統計分野の内容について授業を行う際に必要となる，記述統計や確率モデルの基礎を学習することを目的とする．基本的な確率・統計に関する知識や技能を身に付け，それらを実際の役立てるデータ処理に応用することができることを目標とする．

授業の概要

身近な統計的データを取り上げながら，実際のデータの収集法，データの整理の仕方、確率モデルなどの確率統計の基本的な知識について説明する．また，統計的推定・検定について解説する．

授業計画

第１回：オリエンテーション(講義の目的・方法・内容概要)，データと標本抽出
第２回：中心の特性値(平均値・中央値)・ばらつき(分散・四分位範囲)・データの標準化
第３回：2変量間の相関関係と回帰直線
第４回：確率の定義とその性質・条件付き確率・事象の独立
第５回：確率変数と離散型確率分布(二項分布)
第６回：連続型確率分布(正規分布)
第７回：確率分布の活用(二項分布や正規分布の活用)
第８回：第１から７回までの範囲のまとめと演習
第９回：大数の法則とその活用
第１０回：中心極限定理とその活用
第１１回：統計的推定 (正規分布を用いた母平均の区間推定)
第１１回：統計的推定 (母比率の区間推定とその活用)
第１３回：統計的推定 (カイ2乗分布と母分散の区間推定)
第１４回：統計的推定 (t-分布を用いた母平均の区間推定)
第１５回：統計的検定 (母平均の検定)
定期試験

テキスト 確率統計学/　須子統太・鈴木誠・浮田善文・小林学・後藤正幸/　オーム社
参考書・参考資料等 これならわかる! 統計学/　涌井良幸・涌井貞美/　ナツメ社
学生に対する評価 課題レポート，小テスト，定期試験を総合的に評価する．

授業科目名： コンピュータ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 籾原　幸二／川中子　正、大林　将呉 担当形態： クラス分け・単独／オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ

授業のテーマ及び到達目標

小中高校，大学における算数・数学の内容，統計処理を中心に，数式処理ソフトとプログラミングソフトを用いての講義・演習を通して，数学教育，成績処理等におけるコンピュータの活用法について理解する．

授業の概要

Python，Scratchなどのプログラミング言語，Mathematica，SageMath，Sympy（Pythonのmodule）などの数式処理ソフトおよびlatexを用いたコンピュータ演習を行う．小学・中学・高等学校数学科，大学数学(微分積分学/線形代数学)の内容を中心に，実際に数値実験・プログラミングを行い，その問題と解法についての理解を深め，数学教育，成績処理等におけるコンピュータの活用法について考える．

授業計画

第１回：オリエンテーション(講義の目的・方法・内容概要)（籾原　幸二／川中子　正）

第２回： latex の活用法（基本操作，数式の入力法など）（籾原　幸二／川中子　正）

第３回： latex の活用法（複雑な数式の入力法，表の作成法，マクロの利用法など）（籾原　幸二／川中子　正）

第４回：数式処理ソフトの基本操作（籾原　幸二／川中子　正）

第５回：数式処理ソフトを用いた演習（素因数分解，方程式の解法，微分積分，行列など）（籾原　幸二／川中子　正）

第６回：数式処理ソフトを用いた演習（ニュートン法，円周率の近似など）（籾原　幸二／川中子　正）

第７回：数式処理ソフトを用いた演習（多面体，グラフの描画など）（籾原　幸二／川中子　正）

第８回：プログラミング言語ソフトウエアの基本操作（籾原　幸二／大林　将呉）

第９回：オブジェクト指向に関する解説，簡単なプログラミングの例の作成（籾原　幸二／川中子　正）

第１０回：プログラミング言語を用いた演習（変数，演算子）（籾原　幸二／川中子　正）

第１１回：プログラミング言語を用いた演習（籾原　幸二／川中子　正）

（関数，局所変数と大域変数，繰り返し文による数値計算など）（籾原　幸二／川中子　正）

第１２回：プログラミング言語を用いた演習（If文による素数の列挙，数え上げなど）（籾原　幸二／川中子　正）

第１３回：プログラミング言語を用いた演習
（リスト，配列を使った連立方程式の解法，ヒストグラム生成プログラムの作成など）（籾原　幸二／川中子　正）

第１４回：プログラミング言語を用いた演習（図の挿入，インターフェイスなど）（籾原　幸二／川中子　正）

第１５回：プログラミング言語を用いた演習（モジュール，ライブラリの使い方）（籾原　幸二／川中子　正）

（定期試験）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

・LaTeX美文書作成入門/　奥村 晴彦，黒木 裕介/　技術評論社

・Pythonではじめるゲーム作成超入門/　廣瀬豪/　インプレス

・よくわかるPython3入門①基礎編/　清水義孝/　Amazonのkindle本

・入門Mathematica/　日本Mathematicaユーザー会/　東京電機大学出版局

学生に対する評価

学修態度，課題レポート，小テスト，定期試験を総合的に評価する．

授業科目名： 応用数学特論 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 籾原　幸二 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ

授業のテーマ及び到達目標

計算の原理やアルゴリズムなどの計算機科学の基礎としての数学について学ぶ. 特に, 集合・数え上げ・グラフ理論・グラフアルゴリズムを中心に, アルゴリズムを作るうえで基礎になる数学的背景について理解することを目標とする.

授業の概要

集合・数え上げ・グラフ理論・グラフアルゴリズムなどの, アルゴリズムを作るうえで基礎になる数学的背景について解説する.

授業計画

第１回 : オリエンテーション(講義の目的・方法・内容概要)
第２回 : 集合・鳩の素原理・包除原理
第３回 : 母関数を用いた数え上げの方法
第４回 : グラフの定義と基本的性質・握手の補題
第５回 : グラフの連結度とそのフレーム強度への応用
第６回 : グラフの経路とオイラー回路
第７回 : 木グラフの数え上げ
第８回 : 第１から７回までの範囲のまとめと演習
第９回 : グラフの平面性と彩色問題
第１０回 : グラフのマッチングと結婚定理
第１１回 : グラフの行列表示・グラフの固有値
第１２回 : ネットワークフローとMin-Max定理
第１３回 : ソーティングアルゴリズムとその計算量
第１４回 : 欲張り法によるアルゴリズム
第１５回 : グラフの最短経路問題とアルゴリズム
定期試験

テキスト

グラフ理論入門　基本とアルゴリズム/　宮崎修一/　森北出版

参考書・参考資料等 グラフ理論入門 原書第4版/ R.J. ウィルソン 著, 西関隆夫・西関裕子共訳/ 近代化学社
学生に対する評価 課題レポート，小テスト，定期試験を総合的に評価する.

授業科目名：数学特論【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：橋永　貴弘 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業のテーマ及び到達目標

教壇に立って数学を教授するに十分な専門的知識や数学的思考力を身に付けることを趣旨とする．論理的な証明方法に対する理解を深めるとともに，発表を通じて効果的なプレゼンテーション能力を身に付けることを目標とする．

授業の概要

受講者の理解度に応じて題材を決め，受講者と共に内容を考察していく．教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために，受講者に発表の機会を与える．

授業計画

以下の授業計画であるが，受講者の理解度に応じて話題を変える．

第１回：距離関数と距離空間
第２回：近傍，内部，外部，境界
第３回：距離空間の開集合と閉集合
第４回：距離空間の間の連続写像
第５回：位相
第６回：内部，外部，境界
第７回：位相空間の間の連続写像
第８回：開基と基本近傍系
第９回：位相の生成
第１０回：積位相
第１１回：商位相
第１２回：連結性
第１３回：コンパクト性
第１４回：分離公理
第１５回：完備距離空間
定期試験

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等 内田伏一著「集合と位相」（裳華房），松坂和夫著「集合・位相入門」（岩波書店）
学生に対する評価 レポートおよび定期試験により評価する.

授業科目名：数学研究I 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：橋永　貴弘 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業のテーマ及び到達目標

教壇に立って数学を教授するに十分な専門的知識や数学的思考力を身に付けることを趣旨とする．主に幾何学の題材を通して，これらの力を養うとともに，解析学，代数学，幾何学の講義等でこれまでに学習した内容の理解を深める．また，一つの数式や考え方を見たときに，その意味やその専門的背景を見抜く能力を養うことを目標とする．

授業の概要

受講者の理解度に応じて題材を決め，受講者と共に内容を考察していく．教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために，受講者に発表の機会を与える．

授業計画

以下の授業計画であるが，受講者の理解度に応じて話題を変える．

第１回：ガイダンス
第２回：ユークリッド幾何学の復習
第３回：平行線の公準をめぐる議論の紹介
第４回：双曲幾何学
第５回：複素数の基本事項
第６回：複比
第７回：一次変換
第８回：反転
第９回：円々対応
第１０回：ポアンカレのモデル
第１１回：ポアンカレのモデルにおける距離
第１２回：ポアンカレのモデルにおける等長変換
第１３回：双曲幾何学の三角法
第１４回：相似の観点によるユークリッド幾何学と双曲幾何学の対比
第１５回：ポアンカレのモデルとクラインのモデル
定期試験

テキスト

小林昭七著「ユークリッド幾何から現代幾何へ」日本評論社
参考書・参考資料等 特に指定せず，受講者に応じて紹介する．
学生に対する評価 レポートおよび定期試験により評価する．

授業科目名：数学研究Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：橋永　貴弘 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業のテーマ及び到達目標

教壇に立って数学を教授するに十分な専門的知識や数学的思考力を身に付けることを趣旨とする．主に幾何学の題材を通して，これらの力を養うとともに，解析学，代数学，幾何学の講義等でこれまでに学習した内容の理解を深める．また，一つの数式や考え方を見たときに，その意味やその専門的背景を見抜く能力を養うことを目標とする．

授業の概要

受講者の理解度に応じて題材を決め，受講者と共に内容を考察していく．教員としての説明力や理解力を身に付けさせるために，受講者に発表の機会を与える．

授業計画

以下の授業計画であるが，受講者の理解度に応じて話題を変える．

第１回：曲面の接ベクトルと接平面
第２回：計量と第一基本形式
第３回：ポアンカレ計量
第４回：曲線の長さの第一変分と測地線
第５回：ポアンカレモデルにおける測地線
第６回：クラインのモデルにおける測地線
第７回：擬球
第８回：二変数関数の極値の議論の復習
第９回：曲面の第二基本形式
第１０回：ガウス曲率と平均曲率
第１１回：重積分の復習
第１２回：曲率の積分
第１３回：具体例とガウス曲率と平均曲率
第１４回：面積の第一変分
第１５回：極小曲面
定期試験

テキスト

小林昭七著「ユークリッド幾何から現代幾何へ」日本評論社
参考書・参考資料等 特に指定せず，受講者に応じて紹介する．
学生に対する評価 レポートおよび定期試験により評価する．

授業科目名： 数学教育学研究Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大林　将呉
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校，中学校及び高等学校　数学)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業のテーマ及び到達目標

教壇に立って算数及び数学を教授する際に必要となる数学教育学について学び，実践的指導力を身に付けることを趣旨とする．数学教育学だけでなく関連する数学，教育学，心理学等に関する文献研究や，授業観察，ビデオ分析などによる授業分析を通して，今求められる数学教育の在り方について理解を深める．

授業の概要

受講者の理解度と興味関心に応じて題材を決め，受講者と共に内容を考察していく．教員としての説明力や信念を身に付けさせるために受講者に発表の機会を与える．

授業計画

以下の授業計画であるが，受講者の理解度と興味関心に応じて話題を変える．

第１回：ガイダンス

第２回：数学教育学の歴史と位置づけ

第３回： 生命論的デザイン科学としての数学教育学

第４回： ヴィットマンの「生命論的デザイン科学」

第５回： 「パターンの科学」としての数学観

第６回：本質的学習環境（SLE）の要件と表現

第７回： Das Zahlenbuchにおける教材とその分析（1年生～2年生）

第８回： Das Zahlenbuchにおける教材とその分析（3年生～4年生）

第９回： 「人工物」としての授業構成論

第１０回： 授業ビデオの分析とディスカッション

第１１回：授業参観

第１２回： 授業分析とディスカッション

第１３回：SLE理論を基にした教材の研究・開発

第１４回：レポートの作成

第１５回：研究発表

定期試験

テキスト

山本信也著「生命論的デザイン科学としての数学教育学の課題と展望」熊日出版
参考書・参考資料等 Das Zahlenbuch1～4
学生に対する評価 課題レポート，研究発表を総合的に評価する.

授業科目名： 数学教育学研究Ⅱ 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大林　将呉 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校、中学校及び高等学校　数学)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業のテーマ及び到達目標

教壇に立って算数及び数学を教授する際に必要となる数学教育学について学び、実践的指導力を身に付けることを趣旨とする。数学教育学だけでなく関連する数学、教育学、心理学等に関する文献研究や、授業観察、ビデオ分析などによる授業分析を通して、今求められる数学教育の在り方について理解を深める.

授業の概要

受講者の理解度と興味関心に応じて題材を決め、受講者と共に内容を考察していく．教員としての説明力や信念を身に付けさせるために受講者に発表の機会を与える.

授業計画

以下の授業計画であるが、受講者の理解度と興味関心に応じて話題を変える。

第１回：ガイダンス

第２回：What if notによる問題の拡張とその方法

第３回：What if notによる問題の拡張とその実際

第４回：What if notによる問題の拡張とその可能性

第５回：ポリアの問題解決（理論）

第６回：ポリアの問題解決（実践）

第７回：算数・数学教育における表現様式とその体系（理論）

第８回：算数・数学教育における表現様式とその体系（実践）

第９回： 拡張による学習と数学教育

第１０回：授業参観

第１１回：授業分析及びディスカッション

第１２回：教材研究と学習環境の開発

第１３回：指導案の作成

第１４回：レポートの作成

第１５回：研究発表

定期試験

テキスト

中原忠男著「算数・数学教育における構成論的アプローチの研究」聖文新社
参考書・参考資料等 G. ポリア著「いかにして問題をとくか」丸善出版 ブラウン、ワルター（著）「いかにして問題をつくるか：問題設定の技術」東洋館出版社
学生に対する評価 課題レポート，研究発表を総合的に評価する.

授業科目名： 中等数学科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉村　昇／大林　将呉
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

・　「教科等の指導法に関する知識と実践力」及び「教科等の内容に関する知識」に関する能力を身に付けることを目標としている。具体的には、教師の立場で数学の授業を捉えることができ、自分なりに数学授業を構築することができることが目標である。

授業の概要

・　数学教育学の基礎的原理・方法について理解し、数学の教科としての存在意義についての認識を深めるとともに、具体的な授業構成のための基礎知識を身につける。

授業計画

第１回：数学教育の現状と課題
第２回：数学教育史
第３回：数学教育目標論（1）一般論から数学教育目標論へ
第４回：数学教育目標論（2）学習指導要領から見た目標
第５回：数学教育目標論（3）今後の在り方
第６回：教授＝学習理論
第７回：教材構成論
第８回：指導方法論
第９回：教具論（情報機器の活用を含む）
第10回：評価論
第11回：学習指導案の作成と検討
第12回：作成した指導案をもとにした模擬授業
第13回：模擬授業の相互評価（改善点の検討と改善点を考慮した指導案の作成）
第14回：改善した指導案をもとにした模擬授業とその相互評価
第15回：まとめ
定期試験なし

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）数学編」日本文教出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）数学編」学校図書（2019）
参考書・参考資料等 数学教育学研究会「新訂 数学教育の理論と実際〈中学校・高等学校（必修）」．聖文新社
学生に対する評価 授業中への積極的な参加態度，討論，および課題レポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 中等数学科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉井　貴寿／米田　重和
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

・　中学校・高等学校数学科の学習指導に関して，学習指導要領に示された目的，内容を理解するとともに，基本的な学習指導理論をもとに，具体的な授業設計ができるスキルを身に付ける。また，教材開発という視点から，課題学習等の学習環境デザインの原理等について理解を深める。

・　到達目標（A 水準）

（1）中等数学教育の制度的理解と課題の把握ができる

（2）教材の研究・開発に必要な基礎的な知識・技能を獲得し，それを有効に用いることができる

（3）学習指導理論をもとに具体的な授業を設計・改善する技能を獲得している

授業の概要

・　中学校・高等学校数学科の学習指導に関して，学習指導要領に示された目的，内容を理解するとともに，基本的な学習指導理論をもとに，具体的な授業設計を行う。また，学習環境デザイン視点から，教材開発の資質・能力を高める。

授業計画

第１回：ガイダンス：数学科教育の意義と目的

第２回：教科書分析と教材研究（１）：数と式

第３回：教科書分析と教材研究（２）：図形

第４回：教科書分析と教材研究（３）：関数

第５回：教科書分析と教材研究（４）：データの活用

第６回：授業設計（１）：ICT 活用

第７回：授業設計（２）：主体的・対話的で深い学び

第８回：授業設計（３）：数学的活動，課題探究

第９回：学習評価：観点別評価，ルーブリックの作成と活用

第 10 回：授業づくりと指導案作成

第 11 回：授業研究（１）：観察

第 12 回：授業研究（２）：分析

第 13 回：授業研究（３）：授業改善，指導案の修正

第 14 回：授業研究（４）：指導案の発表，相互評価

第 15 回：まとめ

定期試験なし
テキスト 　必要に応じて資料を配布
参考書・参考資料等 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）数学編」日本文教出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）数学編」学校図書（2019） 中学校数学，高等学校数学の教科書
学生に対する評価 　各回の課題への取組み（30%），小レポート（30%），総括レポート（40%）により総合的に評価する。

授業科目名： 中等数学科指導法Ⅲ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 吉井　貴寿／米田　重和 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

- 中学校・高等学校での数学科学習指導の基礎理論を教材論的側面から概観し，授業デザインの基礎を学ぶことを目標とする。また，中学校・高等学校数学科における望ましい学習環境デザインのために，学習課題を開発するという視点をもって教材研究に取り組む姿勢を身につけることもねらいとする。
- 到達目標（A水準）

（１）中学校・高等学校数学科で指導される学習内容についての背景的知識を獲得している
（２）学習環境のデザインという視点から教材研究・教材開発を行う方法を知っている
（３）上記の（１）（２）をふまえて，優れた教材研究・教材開発を実践することができる

授業の概要

- 中学校・高等学校数学科で指導される学習内容を概観し，それぞれの教材の背景的知識を理解する。また，単に教科書の内容を分かりやすく教えるということにとどまらず，生徒にとって望ましい学習環境のデザインという視点から，教材開発の資質・能力を高める。

授業計画

第１回：ガイダンス：数学科教育の理論と実践
第２回：数学教育の歴史と課題
第３回：教育関係法規と学習指導要領の位置づけ
第４回：代数領域の学習指導内容の基礎（１）：数の拡張
第５回：代数領域の学習指導内容の基礎（２）：文字の利用
第６回：代数領域の学習指導内容の基礎（３）：四則演算や因数分解
第７回：幾何領域の学習指導内容の基礎（１）：決定条件
第８回：幾何領域の学習指導内容の基礎（２）：論証
第９回：幾何領域の学習指導内容の基礎（３）：作図
第10回：解析領域の学習指導内容の基礎（１）：二次関数
第11回：解析領域の学習指導内容の基礎（２）：二次曲線
第12回：解析領域の学習指導内容の基礎（３）：ICT活用
第13回：確率・統計領域の学習指導内容の基礎（１）：記述統計
第14回：確率・統計領域の学習指導内容の基礎（２）：推測統計

第 15 回：数学科の学習環境デザイン 定期試験なし
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）数学編」日本文教出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）数学編」学校図書（2019） 必要に応じて資料を配布
参考書・参考資料等 中学校数学，高等学校数学の教科書
学生に対する評価 　各回の課題への取組み（30%），小レポート（30%），総括レポート（40%）により総合的に評価する。

授業科目名： 中等数学科指導法Ⅳ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 吉村　昇／大林　将呉 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　数学）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・ 中学校・高等学校数学科の学習指導に関して，学習指導要領に示された目的，内容を理解するとともに，基本的な学習指導理論をもとに，具体的な授業設計ができるスキルを身に付ける．また，教材開発という視点から，課題学習等の学習環境デザインの原理等について理解を深める．

授業の概要

・ 中学校・高等学校数学科の学習指導に関して，学習指導要領に示された目的，内容を理解するとともに，基本的な学習指導理論をもとに，具体的な授業設計を行う。また，学習環境デザイン視点から，理解教材開発の資質を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（数学教育の理論と実践）
第２回：中学校・高等学校数学科の学習指導要領（目標）
第３回：中学校・高等学校数学科の学習指導要領（内容）
第４回：中学校・高等学校数学科の学習指導と評価規準
第５回：中学校・高等学校数学科における言語活動の充実
第６回：授業設計と学習指導案の作成（教材研究の方法）
第７回：授業設計と学習指導案の作成（学習指導案の作成）
第８回：学習指導案の作成演習（発問づくり）
第９回：学習指導案の作成演習（板書計画の作成）
第10回：学習指導案の作成演習（ワークシートの作成）
第11回：マイクロティーチングと授業観察（改善点の整理）
第12回：マイクロティーチングと授業観察　（改善策の検討）
第13回：課題学習と教材開発（教材研究）
第14回：課題学習と教材開発（発表）
第15回：まとめ
定期試験なし

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）数学編」日本文教出版（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）数学編」学校図書（2019）

参考書・参考資料等

中学校数学，高等学校数学Ⅰ，高等学校数学A，高等学校数学Ⅱ，高等学校数学Bの教科書

学生に対する評価

授業中への積極的な参加態度，討論，および課題レポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 基礎物理学A【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中村　聡
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業のテーマ及び到達目標

理科の教員を目指して物理学を学ぶに当たっての問題意識を持つことが目標である。中学・高校の学習者がどのように物理学の抽象概念を認識して、どのような困難や誤解を抱きがちなのか把握する。

授業の概要

1. 理科離れの現状 ： 産業界と教育現場、学年進行 (他教科との比較)、嫌いになる理由 (小学校から潜在する理科離れ)、実験の功罪と本来の目的

2. 現状打開への試み ： 現職教員の活動(物理サークルなど)、進学校と入試問題

3. 生徒の先入観 ： 放物運動の例、運動量と力の混同、先入観の力学体系、力学的自然観、先入観を利用する教育 (意志の力と体重計の実験など)、先入観を知っておく

4. 教育の改善 ： 電流の誤概念(小学校で身につけ中学校で破綻する電流概念)、海外の研究、改善案(負担と効果)、授業担当者による工夫(授業方法の要点と教育効果)

授業計画

注：下記8回の授業計画は、各内容の時間配分を実績に基づいてなるべく正確に記したため、各回の切れ目が、学問の論理的構造(上記)とは異なる箇所で区切られている。

第１回：(ガイダンス)、理科離れの警鐘、学年進行、実験の功罪(理科離れの潜在化) 、実験の目的、現職教員の活動

第２回：入試問題の工夫、放物運動の例(運動と力の関係)、運動量と力、摩擦と摩擦力

第３回：先入観の力学体系、意志の力、体重計の実験、概念が未分化

第４回：浮力の実験、摩擦力と重力、“自己中心的”先入観

第５回：光に対する認識、電流概念(海外の研究)、その改善案

第６回：改善案(続き)、問題点 (多大な労力なのに限界も)

第７回：授業担当者による工夫 (カギは帰納主義からの脱却)

第８回：まとめ、課題

テキスト

特に指定しない、プリントを配布

参考書・参考資料等

吉本市「理科教育序説」培風館、板倉聖宣他「物理学入門」国土社、R. オズボーン他「子ども

達はいかに科学理論を構成するか」東洋館
学生に対する評価 レポートにより評価。平常点は例外的に加味するのみ。

授業科目名： 基礎物理学B 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 岸木　敬太 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業の到達目標及びテーマ

小学、中学、高等学校の理科の教員にとって必要とされる物理学の知識を得るために、物理数学と力学の基礎を理解する。

授業の概要

物理学を理解するために必要とされる数学（ベクトル解析、微分など）と力学の基礎について講義を行う。

授業計画

第１回：スカラーとベクトル
第２回：位置ベクトルと速度と加速度
第３回：運動の法則（第一、第二、第三）
第４回：力のつりあい、垂直抗力
第５回：摩擦力
第６回：斜面にある物体に働く力
第７回：簡単な運動と運動方程式
第８回：まとめと最終課題

テキスト

永田一清、「新・基礎力学」サイエンス社

参考書・参考資料等

和達三樹、「物理のための数学」岩波書店

学生に対する評価

毎回の課題（４０％）、最終課題（６０％）

授業科目名： 物理学概論Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村　聡
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業のテーマ及び到達目標　大学初年度レベル(高校＋α)の力学と熱物理に関して学び、また生徒の典型的な先入観を把握して、中学校及び高等学校の教師として必要な知識を身につける。

授業の概要

1. 力学の基本 ： 力と釣り合い、運動の表し方、運動の法則、簡単な運動 (力学の中心課題は、原因=受ける力によって結果=運動がどうなるか)

2. 力学の展開 ： 保存則 (力とその蓄積を区別する)、慣性力、剛体の力学 (教育用実験器具の盲点)

3. 熱 ： 熱と分子運動、熱機関

授業計画

注：下記15回の授業計画は、各内容の時間配分を実績に基づいてなるべく正確に記したため、各回の切れ目が、学問の論理的構造(上記)とは異なる箇所で区切られている。

第１回：(ガイダンス)、力 (受け手と与え手)、合力と分力、質点 (近似及び原子論に関わって)

第２回：力の釣り合い、摩擦力、空気抵抗力など (摩擦などを力の1つと認識する事の重要性)

第３回：位置、3次元空間とベクトル、速度、加速度(の豊富な中身)、運動の第1法則 (等速直線運動に対する認識)

第４回：運動の第2法則 (力と運動の関係,惑星の運動における整合性)、第1法則との関係、質量の役割

第５回：力の単位、運動方程式、重力・バネの力 (解としての運動の例)

第６回：バネの力 (続き)、力を決める変数、

第７回：運動の第3法則 (物体も空間も対等)、等速円運動

第８回：雨滴の落下、基本法則と微分方程式の関係性、力積、運動量

第９回：運動量保存則、仕事、運動エネルギー、保存力、位置エネルギー、力学的エネルギー保存則

第１０回：力のモーメント、ベクトルの外積 (3次元空間に於ける位置以外のベクトル)、中心力、角運動量、保存量の纏め、慣性系、並進加速系の慣性力

第１１回：遠心力、コリオリ力、力学の近似法、質点系の力学、重心、重心の運動方程式

第１２回：角運動量(回転)の運動方程式、角速度と慣性モーメント、剛体の釣り合い、独楽の運動、滑車と錘の運動

第１３回：斜面を転がる球の運動、熱と温度、熱の本性

第１４回：気体分子運動論、気体の状態方程式、熱の移動

第１５回：等圧変化・等積変化・等温変化、断熱変化、熱機関、カルノーサイクル、カルノーの原理 (

永久機関の夢と熱物理法則) 定期試験
テキスト ほぼ「教科書」と言って良い内容のプリントを配布する
参考書・参考資料等 原康夫「基礎物理学」学術図書、川勝博他「学ぶ側からみた力学の再構成」新生出版
学生に対する評価 期末試験により評価。平常点は例外的に加味するのみ。

授業科目名： 物理学概論Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村聡
			担当形態： 講義

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業のテーマ及び到達目標

大学初年度レベル(高校＋α)の波動と電磁気に関して学ぶ。中学・高校の学習者が理解に難しさを感じることの多い縦波/横波とか、電流概念や電圧などに対して注意を向けられることを目指す。

授業の概要

1. 波 ： 縦波/横波などの基本概念、弾性体振動の方程式(媒質イメージを確立する)、屈折などの波の諸性質、光は粒子か波か?(探求の歴史)

2. 電荷と電場 ： 電気回路(抵抗/コンデンサ)、電場、電荷間力、電荷の保存(電流に関する誤概念)

3. 磁気 ： 磁気に関する基本概念、電流と磁場、物質の磁性、 (補足) ベクトル解析とその応用

4. 電磁気学の完成 ： 電磁誘導の法則、マクスウェルの方程式、コイルと変圧、電磁波

5. 相対論への道 ： 光の媒質と絶対静止、特殊相対性理論、力学と電磁気の関係

授業計画

注：下記15回の授業計画は、各内容の時間配分を実績に基づいてなるべく正確に記したため、各回の切れ目が、学問の論理的構造(上記)とは異なる箇所で区切られている。

第１回：(ガイダンス)、縦波と横波（日常の重力空間との整合性)、媒質、弾性体の力学

第２回：波動関数、振動数・波数、干渉、回折、ホイヘンスの原理、屈折

第３回：反射、定在波・固有振動、ドップラー効果、うなり、水の波(媒質が回転)、光は粒子か波か?

第４回：光は粒子か波か?(続き)、光の波動説の確立、光の性質

第５回：電流、抵抗、コンデンサ（小学校への蓄電装置としての導入)

第６回：電圧と電位差・電場（オームの法則と運動方程式の類比)、電流周りの磁場、ファラデーの活躍（人物像を含む)

第７回：クーロンの法則、電荷の保存(ミクロに見て)、電気回路の誤概念、磁石

第８回：磁場と磁力線、電流周りの磁場、コイル、様々な磁性（物質の磁性の起源)

第９回：様々な磁性(続き)、磁場のBとH

第１０回：偏微分、勾配、全微分、発散,回転、線積分,面積分,体積分、ベクトルポテンシャル

第１１回：アンペールの法則、電荷と電場(積分形)、磁場の湧き出し、電磁誘導の法則(電流と磁場から類推&修正)

第１２回：電磁誘導(実験の分解)、電磁誘導の逆(変位電流)、マクスウェル方正式、変圧

第１３回：自己誘導、送電損失と変圧、LC回路(+無電源ラジオの教材) 第１４回：波動方程式(電磁波)、光、静止系、マイケルソン-モーリーの実験 第１５回：ローレンツ収縮、2つの公理、ローレンツ変換、固有時、4元ベクトル、力学の修正 定期試験
テキスト 特に指定しない、随時補助的なプリントを配布
参考書・参考資料等 原康夫「基礎物理学」学術図書、E.T.ホイッテーカー「エーテルと電気の歴史」講談社
学生に対する評価 期末試験により評価。平常点は例外的に加味するのみ。

授業科目名： 物理学 I 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岸木敬太 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業の到達目標及びテーマ

小中高校の理科の教員にとって必要とされる力学の知識を身につける。力学の基礎的知識を習得し、質点系と剛体の運動に対しての演習問題も解けるようになることを目標とする。

授業の概要

微積分学を使い力学における質点と質点系と剛体の運動を理解する。

授業計画

第１回：簡単な運動I（放物運動、空気抵抗など）
第２回：簡単な運動II（単振動、単振り子など）
第３回：仕事と位置エネルギー
第４回：エネルギー保存則と運動量
第５回：衝突問題
第６回：力のモーメント
第７回：角運動量
第８回：みかけの力
第９回：中間試験と試験内容の解説
第１０回：質点系の運動
第１２回：剛体の運動
第１３回：慣性モーメント
第１４回：簡単な剛体の運動例
第１５回：剛体のエネルギー
定期試験

テキスト

永田一清、「新・基礎力学」サイエンス社

参考書・参考資料等

原島鮮、「力学I」裳華房。原島鮮、「初等量子力学」裳華房。小出昭一郎、「量子力学 (I)」裳華房。　中田宗隆「なっとくする量子化学」講談社

学生に対する評価

中間試験(50%)と最終試験(50%)

授業科目名： 物理学 Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岸木敬太 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業の到達目標及びテーマ

小中高校の理科の教員にとって必要とされる電磁気学の知識を身につける。電磁気学の基礎的知識を習得し、電磁気学において基本的な演習問題についても解けるようになることを目標とする。

授業の概要

電磁気学の初歩からマクスウエルの方程式まで講義と問題演習を行う。電磁気学で使用するベクトル解析ついても講義を行う。

授業計画

第１回：クーロン力と静電場
第２回：電位
第３回：ガウスの法則
第４回：導体
第５回：コンデンサ
第６回：誘電体
第７回：定常電流
第８回：中間試験と試験内容の解説
第９回：静磁場
第１０回：電磁力
第１１回：アンペールの法則
第１２回：磁性体
第１３回：電磁誘導
第１４回：マクスウエルの方程式と電磁波
第１５回：問題演習
定期試験

テキスト

河辺哲次　「ベーシック電磁気学」　裳華房

参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 中間試験(40%)と定期試験(40%)と毎時間行う小テスト(20%)

授業科目名： エネルギー科学【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村　聡 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業のテーマ及び到達目標　学習指導要領で物理分野のキーワードが「エネルギー」であることを踏まえ、エネルギー資源に特有な制約が如何にして熱物理学から導かれるのか掘り下げる。物理学のミクロなイメージと社会問題であるエネルギー資源の関係を深い部分で理解する。

授業の概要

序論 ： 学習指導要領、資源枯渇と文明崩壊

1. エネルギー資源 ： エネルギーの保存、エネルギー変換

2. 気体分子運動論 ： 状態方程式、気体の変化、比熱、熱の移動、大気圧と高度

3. エントロピー ： エネルギーのリサイクル不可能性、エントロピーの定式化、断熱変化とエントロピー、熱機関 (エントロピーから見る)

4. 資源・エネルギー問題 ： エネルギー節約の物理的意味、将来のエネルギー需給、枯渇性エネルギー資源の見積もり

授業計画

注：下記15回の授業計画は、各内容の時間配分を実績に基づいてなるべく正確に記したため、各回の切れ目が、学問の論理的構造(上記)とは異なる箇所で区切られている。また受講者の理解度に応じて説明を加減し、それに伴う時間配分の変更は上記4.の部分で調節する。

第１回：(ガイダンス)、学習指導要領、資源枯渇と文明崩壊、リサイクル可能なエネルギー?、例1:石油ストーブ

第２回：例2:自動車、例3:電灯、補足:石油と分留、ガソリンと軽油の長短

第３回：例1:炭素の燃焼、例2:電池と電球、補足1:地球の熱収支、補足2:地球温暖化

第４回：例3:核融合、例4:光合成、実験結果(ボイル・シャルルの法則)

第５回：理論式(ミクロに見た圧力)、ボルツマンの関係式、等圧変化、等積変化、等温変化

第６回：断熱変化 (内部エネルギー、自由度などの概念をここで初めて解説)、モル比熱の実測値と理論値、熱伝導

第７回：熱放射、対流、エネルギーの節約と断熱、大気圧と高度

第８回：大気圧と高度(続き)、使用後の熱エネルギーと燃焼直後の熱エネルギーは何が違うのか?

第９回：場合の数とエントロピー、エントロピー増大則、位相空間、不確定性原理

第１０回：自由度を考慮した拡張、断熱変化ではエントロピーが変化しないこと、dS=dQ/T

第１１回：熱機関におけるエネルギーの流れ、熱機関の効率、熱機関の利用に伴うエントロピー増加、補足1:伝熱時のエントロピー増加 第１２回：補足2:宇宙の熱的死、エネルギー保存則とエントロピー増大則の制約、エネルギーの節約（コージェネレーション、廃棄物の燃焼)、太陽光発電 第１３回：風力発電、バイオマスエネルギーと食糧問題、ゼロ・エネルギー住宅、可採年数 第１４回：新油田発見と枯渇年数、定義の問題1（例:ウラン資源量)、定義の問題2（本当は増える筈) 第１５回：敢えて見積もる、持続性エネルギーに転換する可能性や費用など 定期試験
テキスト 特になし。第1章を除き、ほぼ教科書と言って良いプリントを配布。
参考書・参考資料等 特になし(分野横断的内容なので特定の書物に絞れない)
学生に対する評価 レポートにより評価。平常点は例外的に加味するのみ。

授業科目名： 量子物理【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村　聡
			担当形態： 講義

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業のテーマ及び到達目標　高校までの物理の内容に含まれていながら他の授業で取り上げることの難しい量子論について、腰を落ち着けて学ぶ機会とする。科学史に沿って登場人物達にも着目する。

授業の概要

1. 原子・分子 ： 原子・分子論、気体分子運動論
2. 原子の構造 ： 電子の発見、原子核の発見
3. 量子論への展開 ： エネルギー量子、光の粒子性、原子スペクトル、2つの新しい力学
4. 量子力学 ： シュレーディンガー方程式、簡単な場合の解
5. 波動関数の解釈 ： 確率解釈、確率解釈への反論、トンネル効果
6. 量子力学の応用 ： テーマは受講者の興味に応じて選択

授業計画

注：下記15回の授業計画は、各内容の時間配分を実績に基づいてなるべく正確に記したため、各回の切れ目が、学問の論理的構造(上記)とは異なる箇所で区切られている。また受講者の理解度に応じて説明を加減し、それに伴う時間配分の変更は上記6.の部分で調節する。

第１回：(ガイダンス)、原子論、分子論、気体の状態方程式

第２回：ガイスラー管、電子の電荷と質量

第３回：電子の電荷と質量(続き)、電子は原子の構成要素、ゼーマン効果

第４回：原子模型と原子核、残された問題

第５回：イギリスとヨーロッパ大陸の違い、空洞輻射、プランクの仮説

第６回：光電効果、アインシュタインの光量子仮説、コンプトン効果

第７回：水素原子スペクトルの観測(実験)結果、ボーアの原子模型、対応原理、量子条件

第８回：ド・ブロイの物質波、行列力学:(コペンハーゲン学派)

第９回：シュレーディンガー方程式、(偏微分方程式の)変数分離、2つの解と接続、境界条件

第１０回：解の吟味

第１１回：確率解釈(=標準)、事実と解釈、波束の収縮、2重スリットの実験、φと|φ|^2

第１２回：ハイゼンベルクの不確定性原理、シュレーディンガーの猫、ウィグナーの友人

第１３回：ボームの量子論、EPRパラドックス、ベルの不等式,アスペの実験、実在論と道具主義、ポテンシャル障壁外への浸み出し(トンネル効果)

第１４回：α崩壊、量子力学の応用

第１５回：量子力学の応用(続き)
テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 砂川重信「量子力学の考え方」岩波書店、小川岩雄「原子と原子核」共立出版
学生に対する評価 レポートにより評価。平常点は例外的に加味するのみ。

授業科目名： 基礎物理学演習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 岸木敬太 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学

授業の到達目標及びテーマ

物理学で必要とされる微積分の基礎を問題演習により習得する。「物理学I」と「物理学II」で学ぶ運動の法則、マクスウエルの方程式などの理解につなげる。

授業の概要

微積分を概説し演習問題を解く。物理学における数学の役割を理解できるようにする。

授業計画

第１回：初等関数の微分
第２回：多変数関数と微分
第３回：全微分と偏微分と勾配
第４回：不定積分
第５回：定積分
第６回：置換積分と部分積分
第７回：線積分
第８回：二重積分
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

和達三樹、「物理のための数学」岩波書店

学生に対する評価

試験（90%)と毎時間行う小テストもしくは課題(10%)

授業科目名： 基礎化学A【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 岡島　俊哉
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）自然現象に関連する様々な化学物質の基礎を学ぶ。

（到達目標）化学の美しさや面白さを感じ、継続的に学ぼうという意欲を持つことができた。

授業の概要

物質を構成する粒子やその結びつき方など、物質の基本を講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（発展性）を意識させる。

授業計画

（括弧内は小学校あるいは中学校の関連単元）

第１回：物質の構成と化学結合（１）　物質の構成　（小３：ものの体積と重さ、中１：いろいろな物質とその性質）

第２回：物質の構成と化学結合（２）　物質の構成粒子　（中２：物質の成り立ち、物質を表す記号）

第３回：物質の構成と化学結合（３）　粒子の結合　（小４：もののあたたまり方・ものの温度と体積、中３：水溶液とイオン）

第４回：物質の変化（１）　物質量と化学反応式　（中２：さまざまな化学変化、化学変化と物質の質量）

第５回：物質の変化（２）　酸と塩基　（小６：水よう液の性質、中３：酸・アルカリと塩）

第６回：物質の変化（３）　酸化と還元、酸化剤と還元剤　（小６：ものの燃え方・水よう液の性質、中３：電池のしくみ・電気分解）

第７回：物質の変化（４）　中和反応と塩・中和滴定、酸化還元反応・酸化還元滴定　（小６：水よう液の性質、中３：酸・アルカリと塩、中和）

第８回：まとめ、定期試験

テキスト

小学校・中学校及び高等学校教科書（開講時に指定する）

参考書・参考資料等

「フォトサイエンス　化学図録」など（開講時に指定する）

学生に対する評価

定期試験（30%）と提出物点（70%）でおこなう。

授業科目名： 基礎化学B 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村田　貴広 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

化学の基礎

＜到達目標＞

中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができる.

化学の基礎概念を中心に化学の基礎的事項を説明することができる.

授業の概要

物質を構成する粒子，原子構造とその安定性，元素の性質の周期性を中心に化学の基礎概念を修得するとともに，身近な物質を化学の視点で捉えて，現代社会における化学の重要性について展開して講義を行う.

授業計画

第１回：化学とは何か.

第２回：国際単位系　自然科学における世界共通ルール

第３回：化学の視点で最も身近な「水」を考える.

第４回：物質を構成する究極の粒子とは何か.

第５回：元素の周期表を読み解く

第６回：安定な原子核／不安定な原子核

第７回：化学と現代社会

第８回：まとめと理解度確認

テキスト

適宜，資料を配付する.

参考書・参考資料等

理系学生の基礎化学，姫野貞之・内野隆司，学術図書出版（978-4-7806-0261-6）

物理化学要論（第３版），田中勝久・中村敏浩編著ほか，学術図書出版（978-4-7806-1179-3）

マクマリー 一般化学（上下巻），東京化学同人(9784807907427，9784807907434)

学生に対する評価

授業ごとの課題に対する理解度 60%　期末レポート 40%

授業科目名： 化学概論Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡島　俊哉
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）物質の状態及び物質の変化に関連する基礎を学ぶ。

（到達目標）物質の状態及び物質の変化について、校種を超えて見方・捉え方及び考え方に関する自身の型を形成できた。

授業の概要

物質の状態及び物質の変化について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。

授業計画

（括弧内は小学校あるいは中学校の関連単元）

第１回：物質の状態（１）　固体の構造（１）　金属結晶、イオン結晶

第２回：物質の状態（２）　固体の構造（２）　イオン結晶、共有結合の結晶

第３回：物質の状態（３）　物質の状態変化（１）　粒子の熱運動、三態変化とエネルギー　（小４：水のすがた、中１：物質のすがたとその変化）

第４回：物質の状態（４）　物質の状態変化（２）　気液平衡、蒸気圧

第５回：物質の状態（５）　気体（１）　気体の体積と圧力・温度、気体の状態方程式　（小４：とじこめた空気や水、中１：いろいろな気体とその性質）

第６回：物質の状態（６）　気体（２）　混合気体、実在気体

第７回：物質の状態（７）　溶液（１）　溶解、溶解度、コロイド溶液　（小５：もののとけ方、中１：水溶液の性質）

第８回：物質の状態（８）　溶液（２）　希薄溶液の性質

第９回：物質の変化（１）　化学反応とエネルギー　化学変化と熱、ヘスの法則（入門編）

第１０回：物質の変化（２）　電池と電気分解（１）　電池（入門編）（中３：電池のしくみ）

第１１回：物質の変化（３）　電池と電気分解（２）　電気分解（入門編）（中３：電気分解）

第１２回：物質の変化（４）　化学反応の速さとしくみ（１）　反応条件と反応速度（入門編）

第１３回：物質の変化（５）　化学反応の速さとしくみ（２）　化学反応のしくみ（入門編）

第１４回：物質の変化（６）　化学平衡（１）　可逆反応と化学平衡（入門編）

第１５回：物質の変化（７）　化学平衡（２）　平衡状態の変化、電解質水溶液の化学平衡（入門編）

定期試験

テキスト 小学校・中学校及び高等学校教科書（開講時に指定する）
参考書・参考資料等 「フォトサイエンス　化学図録」など（開講時に指定する）
学生に対する評価 定期試験（30%）と提出物点（70%）でおこなう。

授業科目名： 化学概論 II【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡島　俊哉 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）物質の変化に関連して、「化学 I（入門編）」の発展内容を学ぶ。

（到達目標）物質の変化について、校種を超えて見方・捉え方及び考え方に関する自身の型を形成できた。

授業の概要

物質の変化について講義する。「化学 I」の「物質の変化（入門編）」の回の詳細編である。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。

授業計画

（括弧内は小学校あるいは中学校の関連単元）

第１回：化学反応とエネルギー（１）　化学変化と熱（小６：ものの燃え方）

第２回：化学反応とエネルギー（２）　ヘスの法則、化学反応と光

第３回：電池と電気分解（１）　電池　（中３：電池のしくみ）

第４回：電池と電気分解（２）　電気分解　（中３：電気分解）

第５回：化学反応の速さとしくみ（１）　化学反応の速さ

第６回：化学反応の速さとしくみ（２）　反応条件と反応速度

第７回：化学反応の速さとしくみ（３）　化学反応のしくみ（１）　活性化エネルギー

第８回：化学反応の速さとしくみ（４）　化学反応のしくみ（２）　活性化エネルギーの求め方

第９回：化学平衡（１）　可逆反応と化学平衡（１）　平衡定数、平衡移動の法則など

第１０回：化学平衡（２）　可逆反応と化学平衡（２）　速度定数と平衡定数、平衡定数と物質量

第１１回：化学平衡（３）　平衡状態の変化（１）　平衡移動の原理

第１２回：化学平衡（４）　平衡状態の変化（２）　平衡定数と平衡移動の原理

第１３回：化学平衡（５）　電解質水溶液の化学平衡（１）　電離定数、電離度と平衡定数　（中３：水溶液とイオン）

第１４回：化学平衡（６）　電解質水溶液の化学平衡（２）　弱酸・弱塩基の遊離、塩の加水分解　（中３：酸・アルカリと塩、中和）

第１５回：化学平衡（７）　電解質水溶液の化学平衡（３）　緩衝液、溶解度積

定期試験

テキスト 小学校・中学校及び高等学校教科書（開講時に指定する）
参考書・参考資料等 「フォトサイエンス　化学図録」など（開講時に指定する）
学生に対する評価 定期試験（30%）と提出物点（70%）でおこなう。

授業科目名： 化学Ⅰ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：村田　貴広 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

一般化学

＜到達目標＞

中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができる．

原子の構造と性質をもとに化学を理解することができる．

原子の性質と周期性に基づいて，多種多様な物質が形成されることを説明できる．

物質の物理的・化学的性質と化学反応について，これらの事象が原子の特性と挙動に起因していることを説明できる．

授業の概要

原子の構造を丹念に取り扱い，その理解に基づいて，化学結合，物質の構造，物質の相転移，物質の状態変化とそれらの性質，化学反応速度論，化学平衡，酸と塩基，酸化と還元について講義を行う．

授業計画

第１回：はじめに　ガイダンス

第２回：物質の成り立ち

第３回：原子の構造と電子配置

第４回：元素の性質とその周期性

第５回：イオン結合と共有結合

第６回：分子構造と化学結合

第７回：配位化合物

第８回：固体の構造と性質

第９回：化学熱力学１　熱力学第１法則

第１０回：化学熱力学２　反応エンタルピー

第１１回：自発的変化の方向と平衡の条件

第１２回：気相化学平衡

第１３回：酸塩基平衡

第１４回：酸化還元平衡 第１５回：化学反応の速度 定期試験
テキスト 理系学生の基礎化学，姫野貞之・内野隆司，学術図書出版（978-4-7806-0261-6）
参考書・参考資料等 LMSを利用して適宜資料を提供する
学生に対する評価 授業ごとの課題に対する理解度 20%　期末試験 80%

授業科目名： 化学Ⅱ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：村田　貴広 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

固体化学

＜到達目標＞

中学校および高等学校で化学分野を指導できる教諭として固体化学を通じて資質能力の専門性を向上することができる.

授業の概要

多様な物質群における固体を構成する元素とその化学結合の特性に基づいて，個々の物質に特徴的な構造と性質について講義を行う.

授業計画

第１回：固体化学の領域

第２回：化学結合と結晶構造

第３回：固体状態の熱力学　相平衡と状態図

第４回：固体の反応と合成

第５回：固体の構造解析とキャラクタリゼーション１　構造解析，組成分析

第６回：固体の構造解析とキャラクタリゼーション２　熱分析，状態分析

第７回：格子振動と熱的・弾性的性質

第８回：電子構造と電気伝導

第９回：誘電体

第１０回：磁性体

第１１回：光学的性質１　光透過，吸収，屈折，散乱

第１２回：光学的性質２　非線形光学効果

第１３回：光学的性質３　ルミネセンスの原理

第１４回：光学的性質４　ルミネセンスを利用した光学材料

第１５回：まとめと理解度確認

テキスト

固体化学 第２版，田中勝久，東京化学同人（9784807909643）

参考書・参考資料等 LMSを利用して適宜資料を提供する
学生に対する評価 授業ごとの課題に対する理解度 20%　期末試験 80%

授業科目名： 物理化学【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡島　俊哉
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）無機物質に関連する基礎を学ぶ。

（到達目標）無機物質について、校種を超えて見方・捉え方及び考え方に関する自身の型を形成できた。

授業の概要

無機物質について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。

授業計画

（括弧内は小学校あるいは中学校の関連単元）

第１回：非金属元素（１）　元素の分類と周期表
第２回：非金属元素（２）　水素・希ガス元素
第３回：非金属元素（３）　ハロゲン元素
第４回：非金属元素（４）　酸素・硫黄
第５回：非金属元素（５）　窒素・リン
第６回：非金属元素（６）　炭素・ケイ素
第７回：典型金属元素（１）　アルカリ金属元素
第８回：典型金属元素（２）　アルカリ土類金属元素
第９回：典型金属元素（３）　アルミニウム・スズ・鉛など
第１０回：遷移金属元素（１）　遷移元素の特徴
第１１回：遷移金属元素（２）　鉄・銅
第１２回：遷移金属元素（３）　銀・金
第１３回：遷移金属元素（４）　亜鉛
第１４回：遷移金属元素（５）　クロム・マンガン
第１５回：遷移金属元素（６）　金属イオンの分離・確認
定期試験

テキスト

小学校・中学校及び高等学校教科書（開講時に指定する）

参考書・参考資料等

「フォトサイエンス　化学図録」など（開講時に指定する）
学生に対する評価 定期試験（30%）と提出物点（70%）でおこなう。

授業科目名： 無機・有機化学【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡島　俊哉 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		

授業のテーマ及び到達目標

（授業のテーマ）有機鍵応物及び高分子化合物に関連する基礎を学ぶ。

（到達目標）有機化合物及び高分子化合物について、校種を超えて見方・捉え方及び考え方に関する自身の型を形成できた。

授業の概要

有機化合物及び高分子化合物について講義する。授業計画の各回において、関連する小学校及び中学校の単元があるものについては触れ、関連性（内容の発展性）を意識させる。有機化合物及び高分子化合物については、小学校と中学校において扱う内容は少ないので、生活の中で多く触れる（身近に存在する）物質を主に講義する。

授業計画

（括弧内は小学校あるいは中学校の関連単元）

第１回：有機化合物の分類と分析　有機化合物の特徴と分類、分析

第２回：脂肪族炭化水素　飽和炭化水素、不飽和炭化水素

第３回：脂肪族化合物（１）　アルコールとエーテル

第４回：脂肪族化合物（２）　アルデヒドとケトン

第５回：脂肪族化合物（３）　カルボン酸

第６回：脂肪族化合物（４）　エステルと油脂

第７回：芳香族化合物（１）　芳香族炭化水素

第８回：芳香族化合物（２）　フェノール類と芳香族カルボン酸

第９回：芳香族化合物（３）　芳香族アミンとアゾ化合物

第１０回：芳香族化合物（４）　芳香族化合物の分離、芳香族化合物の反応系統

第１１回：高分子化合物（１）　高分子化合物の構造と性質

第１２回：高分子化合物（２）　天然高分子化合物

第１３回：遷移金属元素（４）　合成高分子化合物（１）　合成繊維

第１４回：遷移金属元素（５）　合成高分子化合物（２）　合成樹脂

第１５回：遷移金属元素（６）　合成高分子化合物（３）　ゴム

定期試験

テキスト

小学校・中学校及び高等学校教科書（開講時に指定する）
参考書・参考資料等 「フォトサイエンス　化学図録」など（開講時に指定する）
学生に対する評価 定期試験（30%）と提出物点（70%）でおこなう。

授業科目名： 基礎生物学A【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 嬉　正勝 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業のテーマ及び到達目標

様々な生物がいかに生活環境に適応して生存しているかを理解し、生物学を学習することの価値を認める。様々な生体現象のしくみを理解し、自身の言葉で説明できる。

授業の概要

ヒトを中心とする生物の体のつくりと機能について、高校生物を未履修のものでも理解できるようやさしく通説してゆく。この講義を通して、ヒトを中心とした動物の構造や機能は必然性を持っていることを理解し、巨視的、体系的に生物学を理解して欲しい。

授業計画

第１回：生物のかたち（内骨格）
第２回：生物のかたち（外骨格、水力学的骨格）
第３回：運動が可能なしくみ（筋肉のしくみと働き１）
第４回：運動が可能なしくみ（関節のつくり）
第５回：ガス交換（動物のガス交換１）
第６回：ガス交換（動物のガス交換２）
第７回：体内循環（動物の循環システム）
第８回：まとめ、定期試験

テキスト

『フォトサイエンス生物図録』数研出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験（70%）と平常点（30%）でおこなう。平常点は聴講態度とする。

授業科目名： 基礎生物学B 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 田邊　力 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業のテーマ及び到達目標

進化の基本、自然選択、性選択、遺伝的浮動、有性生殖、分類、系統の各分野の基礎を習得し、それらを説明できる。

授業の概要

進化の基本、自然選択、性選択、遺伝的浮動、有性生殖、分類、系統の各分野の基礎概念を解説する

授業計画

第１回：進化の基本
第２回：自然選択
第３回：自然選択の波及効果
第４回：性選択
第５回：遺伝的浮動
第６回：有性生殖
第７回：分類体系
第８回：分類（学名と和名）
定期試験

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

進化の教科書 第1~3巻（講談社）

学生に対する評価

試験で評価する。

授業科目名： 生物学概論Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 嬉　正勝
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業のテーマ及び到達目標

様々な生物がいかに生活環境に適応して生存しているかを理解し、生物学を学習することの価値を認める。様々な生体現象のしくみを理解し、自身の言葉で説明できる。

授業の概要

生物の基本的なしくみとはたらきを高校生物の内容を交えながら、高校生物を未履修のものでも理解できるようやさしく通説してゆく。個体の大小や組織での機能に関係なく、細胞は生物を構成する基本単位である。その細胞がどのような構造を有し、いかに機能し個体を維持しているかについて講義する。この講義を通して、ヒトを含んだ様々な生物の構造や機能は必然性を持っていることを理解し、巨視的、体系的に生物学を理解して欲しい。

授業計画

第１回：生物の大きさ（生物にとってのサイズとは）
第２回：生物の大きさ（体の大きさがもたらすもの）
第３回：生物のかたち（内骨格）
第４回：生物のかたち（外骨格、水力学的骨格）
第５回：運動が可能なしくみ（筋肉のしくみと働き１）
第６回：運動が可能なしくみ（筋肉のしくみと働き２）
第７回：運動が可能なしくみ（関節のつくり）
第８回：運動が可能なしくみ（筋肉の種類と特性）
第９回：ガス交換（ガス交換における共通ルール）
第１０回：ガス交換（動物のガス交換１）
第１１回：ガス交換（動物のガス交換２）
第１２回：体内循環（動物の循環システム１）
第１３回：体内循環（動物の循環システム２）
第１４回：栄養（生産者における栄養）
第１５回：栄養（消費者における栄養）
定期試験

テキスト

『フォトサイエンス生物図録』数研出版

参考書・参考資料等 『ケイン　生物学』東京化学同人
学生に対する評価 定期試験（70%）と平常点（30%）でおこなう。平常点は聴講態度とする。

授業科目名： 生物学概論Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 嬉　正勝
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業のテーマ及び到達目標

我々ヒトを中心として、動物の感覚受容のプロセスを深く理解する。神経の働きや感覚器の構造等を正確に理解し、自身の言葉で説明できる。

授業の概要

動物は、外部環境の変化を瞬時に判断し適切な行動をおこなう。これには、それぞれの生活環境に適応した多彩な感覚受容器及び、その情報を伝える神経細胞が重要な働きをしている。この講義では、ヒトを含む様々な動物の神経系及び受容器に焦点を当て、動物の体の巧妙なしくみについて深く理解させる。

授業計画

第１回：動物の感覚（感覚とは何か）
第２回：動物の感覚（感覚の種類と質）
第３回：視覚（ヒト視覚器の構造１）
第４回：視覚（ヒト視覚器の構造２）
第５回：視覚（脳がものを見る１）
第６回：視覚（脳がものを見る２）
第７回：視覚（その他動物の視覚器）
第８回：味覚（ヒト味覚器のしくみ）
第９回：味覚（味質の違い、舌以外の味細胞）
第１０回：嗅覚（嗅覚器のしくみ）
第１１回：嗅覚（フェロモン、匂いの個人差）
第１２回：聴覚（音とは、ヒト聴覚器の構造）
第１３回：聴覚（可聴域、音源定位、音情報の上位伝達経路）
第１４回：聴覚（聴覚でものを見る、その他動物の聴覚器）
第１５回：脳とはなにか（動物の中枢神経系）
定期試験

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業中に、適宜紹介する。
学生に対する評価 定期試験（80%）と平常点（20%）でおこなう。平常点は聴講態度とする。

授業科目名： 生物学Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田邊　力 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業の到達目標及びテーマ

生態学の基礎概念、物質循環、生態系でのエネルギーの流れ、捕食関係、物質循環、環境DNA、生物多様性、絶滅危惧種、環境保全についての概念を習得し、身近な熊本県での事例を交えてそれらを説明できる。

授業の概要

生態学の基礎概念、物質循環、生態系でのエネルギーの流れ、捕食関係、物質循環、環境DNA、生物多様性、絶滅危惧種、環境保全についての概念を、身近な熊本県での事例を交えて解説する。

授業計画

第１回：生態学の基本概念
第２回：生き物どうしの関係
第３回：物質循環
第４回：生態系でのエネルギーの流れ
第５回：生態での閉鎖系と開放系
第６回：捕食
第７回：捕食防衛
第８回：擬態
第９回：物質循環
第１０回：環境DNA
第１１回：生物多様性
第１２回：絶滅危惧種
第１３回：環境保全：生態系サービス
第１４回：環境保全：ホタル放流の問題点
第１５回：環境保全の取り組み：身近な熊本県での事例
定期試験

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等 図鑑NEOシリーズ（小学館）
学生に対する評価 試験で評価する。

授業科目名： 生物学Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田邊　力 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業の到達目標及びテーマ

生殖、発生、生物地理、地球温暖化、系統の各分野の基礎概念を習得し、身近な熊本県での実例を交えて、それらを説明できる。

授業の概要

生殖、発生、生物地理、地球温暖化、系統の各分野の基礎概念を、身近な熊本県での実例を交えて解説する。

授業計画

第１回：生殖の基礎
第２回：無性生殖と有性生殖
第３回：発生の基礎
第４回：発生と進化
第５回：生物地理の基礎
第６回：生物地理で用いられる手法
第７回：熊本県の生物地理的特色
第８回：地球温暖化の基礎
第９回：熊本県で見られる地球温暖化の脊椎生物への影響
第１０回：熊本県で見られる地球温暖化の無脊椎動物への影響
第１１回：地球温暖化防止の試み
第１２回：系統の基礎
第１３回：系統群
第１４回：系統推定法
第１５回：系統分類
定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

進化の教科書第1～3巻（講談社）
学生に対する評価 試験で評価する。

授業科目名： 生命科学【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 嬉　正勝
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業のテーマ及び到達目標

生物学に高い関心のある学生が、高度な知識の習得と読解力、科学的思考力を身につけ、卒業研究への導入とする。科学文献の十分な読解力やその科学的理解が、実験者の立場からできる。

授業の概要

神経生理・行動学分野の実験手法や実験データを理解するすべを講義、トレーニングする。

授業計画

第１回：専門分野における論文検索のしかた
第２回：論文における図・グラフの作り方
第３回：生物学実験データの読み込み方
第４回：統計学的処理のしかた
第５回：神経細胞のつくり
第６回：神経細胞の働き
第７回：静止電位
第８回：活動電位
第９回：細胞内活動電位記録
第１０回：細胞外活動電位記録
第１１回：無脊椎動物の中枢神経
第１２回：動物行動の記録
第１３回：　生体時計（サーカディアンリズム）
第１４回：　生体時計（サーカディアンリズムの分子機構）
第１５回：卒業研究の進め方
定期試験

テキスト

なし。適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし。適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

平常点と定期試験でおこなう。平常点は予習状況及び聴講態度とする。

授業科目名： 理科フィールド実習A 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 嬉　正勝、角縁　進、 髙島千鶴
			担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学

授業のテーマ及び到達目標

学校現場での生物領域および地学領域の野外学習活動指導ができるようになる。実際のフィールド経験の蓄積から、生物と地学に対する専門性を高め、自信を持って野外活動等の引率ができるようになる。

授業の概要

野外実習を行い、講義で学修したことを野外で体験させ、生物や地学の専門性を高める。地学と生物を同時に行うことで、領域を跨いだ学修を行う。また、野外実習をとおして集団行動や協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。

授業計画

九州地域で２泊３日の野外実習をおこなう。

＜１日目＞

◯午前（180分：1-2限目相当）

海産生物の見分け方や危険生物についての講義

◯午後Ⅰ（180分：3-4限目相当）

海産生物の採集、生息環境の観察

◯午後Ⅱ（90分：5限目相当）

採集生物の調理

夜間の生物観察

＜２日目＞

◯午前（180分：1-2限目相当）*1日目を踏まえて，別地点で実施する

海産生物の採集、生息環境の観察

◯午後Ⅰ（270分：3-5限目相当）*午前とは別地点で実施する

潮間帯の生物調査、生息環境の観察

＜３日目＞

○午前（180分：1-2限目相当） その地域の露頭観察を行い，スケッチを行う ○午後Ⅰ（180分：3-4限目相当） クリノメーターを使用した地層の走向・傾斜の測定 ○午後Ⅱ（90分：5限目相当） 堆積構造や地層の重なりから，その場所の堆積環境の変遷を読み取る作業
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を紹介する。
学生に対する評価 開講日の学修状況（50点）及び学修報告（50点）で評価する。

授業科目名： 基礎地学A【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 角縁進，髙島千鶴
			担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

（１）地球の構造　（２）地球の活動　（３）太陽系の中の地球　（４）身近な気象現象を取り上げる．（１）は地球の概観，内部構造について理解し，説明できる．（２）プレートテクトニクスと地震や火山と関連付けて説明できる．（３）太陽系の構造や惑星の特徴ついて説明でき，なぜ地球にだけ生命が存在できるのかを理解できる．（４）雲のでき方や雨の生成過程，高気圧や低気圧と関連した前線などの身近な気象現象について説明できる．

授業の概要

中学校や高校教員（理科）として基礎的な内容を講義する．（１）はじめに地球の形と重力，地磁気について説明し，地震波と地球の層構造の関係について講義する．（２）（１）を踏まえて，プレートの運動によって，火山や地震が起きることを講義する．（３）はじめに太陽系に最も影響を及ぼす太陽の構造や特徴について説明し，次の太陽の周りを公転する各惑星の特徴を説明する．太陽系の恒星や惑星の特徴を踏まえたうえで，他の惑星と地球との違いを理解させる．（４）地球を取り巻く大気圏の構造について説明し，対流圏で起こる雨や低気圧，台風などの身近な気象現象の仕組みについて理解させる．

授業計画

第１回：地球の形と重力・地磁気　（担当：角縁）
第２回：地球の内部構造と構成物質　（担当：角縁）
第３回：プレートテクトニクス　（担当：角縁）
第４回：太陽・太陽系の惑星　（担当：髙島）
第５回：大気圏・大気中の水　（担当：髙島）
第６回：高気圧と低気圧　（担当：髙島）
第７回：日本の天気　（担当：髙島）
第８回：まとめ・テスト　（担当：角縁・髙島）

テキスト

作成したプリントを配布

参考書・参考資料等

ニューステージ　地学図表（浜島書店）
もういちど読む数研の高校地学（数研出版）

学生に対する評価

平常点　15%　レポート　85%で成績をつける．平常点は毎回授業の小レポートの提出とする．

授業科目名： 基礎地学B 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 池上　直樹
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

（１）太陽系の中の地球　（２）身近な気象現象　を取り上げる．（１）太陽系の構造や惑星の特徴を中心に説明でき，なぜ地球にだけ生命が存在できるのかを理解できる．（２）雲のでき方や雨の生成過程，高気圧や低気圧と関連した前線などの身近な気象現象について説明できる．

授業の概要

中学校や高校教員（理科）として基礎的な内容を講義する．（１）はじめに太陽系に最も影響を及ぼす太陽の構造や特徴について説明し，次の太陽の周りを公転する各惑星の特徴を説明する．また，天体観測の基礎を解説する．太陽系の恒星や惑星の特徴を踏まえたうえで，他の惑星と地球との違いを理解させる．（２）地球を取り巻く大気圏の構造について説明し，対流圏で起こる雨や低気圧，台風などの身近な気象現象の仕組みについて理解させる．

授業計画

第１回：太陽
第２回：太陽系の惑星
第３回：天体観測の基礎
第４回：大気圏
第５回：大気中の水
第６回：高気圧と低気圧
第７回：日本の天気
第８回：まとめ

テキスト

作成したプリントを配布

参考書・参考資料等

ニューステージ　地学図表（浜島書店）
もういちど読む数研の高校地学（数研出版編集部 編、数研出版）

学生に対する評価

平常点　15%　レポート　85%で成績をつける．平常点は毎回授業の小レポートの提出とする．

授業科目名： 地学概論I【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 角縁　進
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		

授業のテーマ及び到達目標

(1)地球の形成と内部構造について説明できる。(2)プレートテクトニクスについて理解し説明できる。(3)マグマと鉱物を理解し、火山活動との関係について説明できる。(4)地震と地震災害について説明できる。

授業の概要

中学校や高校教員（理科）として基礎的で必要な内容を講義する。(1)は地球の形成過程とそれによる地球の形、大きさ・内部構造などについて講義を行う。(2)はプレートテクトニクスの３つの境界と、そこで生じる地質現象を講義する。（3）鉱物の結晶構造について理解し、マグマと火山噴火との関係・火山災害について講義する。(4)地震活動について

授業計画

第１回：元素の宇宙存在度
第２回：地球の形成、地球の大きさと形
第３回：地震波の性質と地球の内部構造
第４回：岩石残留磁気と拡大する海洋底
第５回：プレートテクトニクス（発散境界）
第６回：プレートテクトニクス（収束境界：衝突帯）
第７回：プレートテクトニクス（収束境界：沈み込み帯）
第８回：ホットスポット
第９回：　中間試験および試験内容の解説
第１０回：造岩鉱物の結晶構造（かんらん石、輝石、角閃石）
第１１回：造岩鉱物の結晶構造（斜長石、石英））
第１２回：マグマと火山噴火
第１３回：火山災害
第１４回：地震
第１５回：地震災害
定期試験

テキスト

適宜、資料を配付する

参考書・参考資料等 授業中に、適宜、紹介する
学生に対する評価 中間試験 50点、定期試験 50点

授業科目名： 地学概論II【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 髙島　千鶴 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

(1)「気象」，(2)「地球環境と生物進化」，(3)「地球環境問題」を取り上げる．(1)は大気と海洋の構造や運動を理解し，日々の気象現象について説明できる．(2)は地球が誕生して以来の環境変遷と生物進化を関連づけて説明できる．(3)は(1)と(2)を踏まえて現代の地球環境問題を科学的に説明できる．

授業の概要

中学校や高校教員（理科）として基礎的で必要な内容を講義する．(1)は大気と海洋の構造や運動を踏まえ，大気と海洋との間に起こるエネルギー循環を理解させながら，気象現象について講義する．(2)は地球誕生から順に追って，現在までの環境変遷と生物進化の関連性に焦点を当て講義を行う．(3)は(1)と(2)を講義したうえで，地球環境問題を取りあげ，科学的な説明をして，解決策等を考えさせる．

授業計画

第１回：大気圏と海洋の構造
第２回：降水過程
第３回：太陽放射と地球の熱収支
第４回：大気の運動Ⅰ（風の力学，大気の大循環）
第５回：大気の運動Ⅱ（偏西風と温帯低気圧，貿易風）
第６回：大気の運動Ⅲ（台風，季節風，エルニーニョ）
第７回：地表の変化
第８回：地層の形成と化石
第９回：地球と生物進化Ⅰ（先カンブリア時代：地球誕生，生命誕生）
第１０回：地球と生物進化Ⅱ（先カンブリア時代：シアノバクテリアが与えた影響）
第１１回：地球と生物進化Ⅲ（古生代：カンブリアの爆発，生物の陸化）
第１２回：地球と生物進化Ⅳ（中生代：大型爬虫類，石油の生成）
第１３回：地球と生物進化Ⅴ（新生代：人類の進化）
第１４回：地球温暖化Ⅰ（温暖化のメカニズムと地球環境への影響）
第１５回：地球温暖化Ⅱ（将来予測）
定期試験

テキスト

作成したプリントを配布
参考書・参考資料等 ニューステージ　地学図表（浜島書店） もういちど読む数研の高校地学（数研出版）
学生に対する評価 平常点　15 %，試験　85 %で成績をつける．平常点は毎回授業の小レポートの提出とする．

授業科目名： 地学Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池上　直樹 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

熊本県の地質特性，化石コレクションを中心とした地学

＜到達目標＞

熊本県の地質の特性および熊本県内で発見された貴重な化石コレクショと関連付けながら，中学校および高等学校で地学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができる．

授業の概要

（1）地球の構成と活動　（2）地球の歴史　（3）地球の大気と海洋を基盤に，熊本県の地質の特性および熊本県内で発見された貴重な化石コレクショと関連付けながら講義を行う．

授業計画

第1回： イントロダクション
第2回： 地球の形と重力および地磁気
第3回： 地球内部を伝わる地震波・地殻熱流量
第4回： プレートの運動1　プレート境界，地質構造
第5回： プレートの運動2　変成作用，マントル対流
第6回： 地震と地殻変動とそのメカニズム，熊本県と密接に関連する断層帯
第7回： 世界の火山，日本の火山，阿蘇の火山
第8回： 地表に及ぼす作用：風化，土壌，河川のはたらき：熊本の地形の特質
第9回： 地質図1　地質調査とその方法
第10回： 地質図2　地質図の作成とその読み方
第11回： 地球の歴史，日本列島の成り立ち，熊本県内の化石との関係性
第12回： 地球環境と生物の変遷：熊本県内で発見された重要な化石コレクションを中心に
第13回： 世界の気象と気候：大気および海洋の大循環
第14回： 地球の環境2　環境と人間
第15回： まとめと理解度確認

テキスト

Our Home, Our World 私たちのふるさと、私たちの世界（モンタナ州立大学付属ロッキー

博物館，御船町恐竜博物館，天草市立御所浦白亜紀資料館，阿蘇火山博物館，熊本博物館　共同執筆）に，さらに専門的な独自解説資料を加えて使用
参考書・参考資料等 数研出版，新課程　視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録　ISBN 978-4-410-29094-7
学生に対する評価 毎回の授業における課題15%，期末試験85%

授業科目名： 地学Ⅱ 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池上　直樹 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

一般地学

＜到達目標＞

中学校および高等学校で地学分野を指導できる教諭としての資質能力を培うことができる.

授業の概要

宇宙の構造について講義を行う.

授業計画

第1回： イントロダクション

第2回： 太陽系の天体1　太陽と惑星　再確認

第3回： 太陽系の天体2　月，衛星

第4回： 太陽系の天体3　小天体，系外惑星

第5回： 太陽系の天体4　太陽系の誕生

第6回： 惑星の運動1　天球座標，自転，公転

第7回： 惑星の運動2　視運動，会合周期，ケプラーの法則

第8回： 恒星の世界1　恒星の性質

第9回： 恒星の世界2　HR図

第10回： 恒星の世界3　星の一生

第11回： 恒星の世界4　星団と連星・変光星

第12回： 宇宙と銀河1　銀河系と銀河

第13回： 宇宙と銀河2　宇宙の構造

第14回： 宇宙と銀河3　ビッグバン，宇宙の膨張，宇宙の進化

第15回： まとめと理解度確認

テキスト

作成したプリントを配布

参考書・参考資料等

数研出版，新課程　視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録　ISBN 978-4-410-29094-7

学生に対する評価

毎回の授業における課題15%，期末試験85%

授業科目名： 地球科学【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角縁進・髙島千鶴 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

（１）火成岩を構成する造岩鉱物やマグマの組成変化　（２）地球と生命の過去　を取り上げる．（１）鉱物の結晶構造を理解できる．マグマの発生とマグマ系列について，相平衡図を用いて理解することができる．マグマの組成変化と多様な火成岩の形成について理解できる．

（２）地球誕生から現在までの気候変動と生物進化の関連性について理解を深め，「将来の地球環境」や「地球と生命との共存」について考えることができる．

授業の概要

（１）鉱物学と岩石学の基礎からマグマの生成過程や多様性について講義する．（２）「気候変動と生物進化」についてより専門的な内容と最新の研究結果を交えながら講義する．太陽系の中で現在唯一生命が確認されている「地球」の特異性を説明し，地球と生命（微生物～人類まで）が，どのように相互作用してきたかを講義する．

授業計画

第１回：岩石・鉱物の分析方法　　（担当：角縁）
第２回：結晶構造　　（担当：角縁）
第３回：固溶体と相平衡図　　（担当：角縁）
第４回：玄武岩マグマの生成　　（担当：角縁）
第５回：ケイ長質マグマの生成　　（担当：角縁）
第６回：安山岩マグマの生成　　（担当：角縁）
第７回：太陽系の中の地球　　（担当：髙島）
第８回：古気候変動　　（担当：髙島）
第９回：微生物の代謝様式　　（担当：髙島）
第１０回：太古代の温室効果とメタン菌　　（担当：髙島）
第１１回：シアノバクテリアによる酸素革命　　（担当：髙島）
第１２回：全球凍結と多細胞生物　　（担当：髙島）
第１３回：温暖化と石油の生成　　（担当：髙島）
第１４回：気候変動と人類誕生　　（担当：髙島）
第１５回：化石燃料と人類　　（担当：髙島）
定期試験

テキスト

（1） 記載岩石学：岩石学のための情報収集マニュアル（共立出版）

（1）解析岩石学：成因的岩石学へのガイド（共立出版）

（2）作成したプリントを配布

参考書・参考資料等

（1）地殻・マントル構成物質（共立出版）

（2）ニューステージ　地学図表（浜島書店）

（2）地球環境46億年の大変動史（株式会社化学同人）

学生に対する評価

角縁：レポート10% 試験 90%で成績をつける.

髙島：平常点　15% 試験　85%で成績をつける．平常点は毎回の小レポートとする.

授業科目名： 理科フィールド実習B【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角縁進，髙島千鶴，嬉正勝
			担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学

授業のテーマ及び到達目標

地学や生物領域においては，「実際の物をその場で観察」することが，理解を深める．フィールド実習をとおして，１）学修したことを現場で活かし，２）学校現場で野外学修指導ができる，３）科学館など公共施設との連携教育ができるようになる．

授業の概要

野外実習を行い，講義で学修したことを野外で体験させ，地学や生物の専門性を高める．地学と生物を同時に行うことで，領域を跨いだ学修を行う．また，野外実習をとおして，集団行動や協調性，コミュニケーション能力の向上を図る．

授業計画

九州地域で２泊３日の野外実習を行う．

＜１日目＞

○午前（180分：1-2限目相当）

その地域の露頭観察を行い，スケッチを行う

○午後Ⅰ（180分：3-4限目相当）

クリノメーターを使用した地層の走向・傾斜の測定

○午後Ⅱ（90分：5限目相当）

堆積構造や地層の重なりから，その場所の堆積環境の変遷を読み取る作業

＜2日目＞

○午前（180分：1-2限目相当）*1日目を踏まえて，別地点で実施する

その地域の露頭観察を行い，その場所の堆積環境の変遷を読み取る作業

○午後Ⅰ（180分：3-4限目相当）

その地域の生物の採集や生息環境の観察

○午後Ⅱ（90分：5限目相当）

その地域の採集した生物の同定と生息環境との関連性の検討

＜３日目＞ 〇午前（180分：1-2限目相当） その地域の生物の採集や生息環境の観察　*2日目を踏まえて，別地点で実施する 〇午後（270分：3-5限目相当） 科学館などの公共施設を使った学習（見学および体験活動）
テキスト 作成したプリントを配布
参考書・参考資料等 ニューステージ　地学図表（浜島書店）
学生に対する評価 開講日の学修状況　50%　レポート　50%　で評価する．

授業科目名： 基礎物理学実験【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中村　聡
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標　物理分野の様々な実験を受講者自ら行うことで、実験操作に習熟すると共に、結果をレポートに纏めることで知識と実験の有機的な繋がりを学ぶ。

授業の概要

1. 誤差と近似 ： 誤差論、測定誤差の見積もり、有効数字、近似、ノギスと副尺

2.1 力学実験器具と回転運動 ： 斜面を転がる物体、剛体振り子

2.2 電磁誘導 ： 速度や磁力などと起電力の関係、変圧

2.3 太陽電池の特性 ： 基本的性質、電流-電圧特性、化学電池・ダイオードとの比較

2.4 真空放電と断熱変化 ： 水の凝固、圧力-温度測定(熱単元の実験の困難性)、真空放電

3. 作成を伴う実験 ： 簡易分光器の作成、電子回路の作成 など

4. 挑戦的テーマ ： 先輩が取り組んでいない、又はその先のテーマに取り組む

授業計画

注：上記2.1-2.4の実験器具は1つずつしかないため、受講者を班に分けて班ごとに異なる実験を行いながら、順番に全ての班が全ての実験を行う態勢をとる。また2.1-2.4と3.,4.の順番を入れ変えたり、4.の課題の内容次第で2.1-3.と同時並行で進めたり、更に2.3の屋外の課題については、天気の良い日に纏めて全ての班が実験するなど、受講生とテーマ及び天候に依存して下記と異なってくる。

第１回：(ガイダンス)、誤差論、測定回数と統計誤差、電池のサイズに関するの課題

第２回：有効数字、近似、ノギスの使用法、測定結果の集計

第３回：運動量保存の実験、斜面を転がる球

第４回：弾み車、ビースピによる速度測定、剛体振り子 (最も精度が高い測定)

第５回：コイル中を通る磁石の実験 (変数：磁力,速度,向き,コイルの巻き数)、オシロスコープによる観察、手回し発電器

第６回：モータの観察、変圧の実験

第７回：太陽電池の種類、太陽電池用教材モータ、屋外太陽電池による測定(電流-電圧,・抵抗-電力)

第８回：化学電池の特性、ダイオードの特性

第９回：断熱的減圧による水野凝固、圧力-温度測定と断熱変化の理論式

第１０回：真空放電の観察、クルックス管(教材)と電子単元

第１１回：上記3.の例：簡易分光器(測定用)の作成、光源の観察(太陽光,白熱球,蛍光灯,LED)

第１２回：上記3.の例：簡易分光器(演示用)の作成、光源の観察 第１３回：上記4.の例：異なる測定器具の比較 第１４回：上記4.の例：前回分析した測定器具を使用する 第１５回：補遺(実験器具の整理等)、全体のまとめ 定期試験は実施しない。
テキスト 特になし。2.1-2.4は(及び3.,4.のテーマ次第で)実験方法を記したプリントを配布。その他に必要な説明は随時板書する。
参考書・参考資料等 愛知・岐阜物理サークル「いきいき物理わくわく実験」日本評論社、「ナフィールド物理」講談社
学生に対する評価 レポートにより評価。平常点(実験への取組状況)は4割。

授業科目名： 物理学実験A 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 岸木敬太 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

物理実験

＜到達目標＞

これまでの講義の内容を実験により実感し、物理学の理解を深める。さらに、物理学実験に対する基本的な技術を習得し、教育実習での研究授業の準備を自立してできるようになる。

授業の概要

力学、電磁気学、音などに関して、小中学校理科に関連する実験を少人数のグループで行う。

授業計画

第１回：実験のガイダンス

第２回：教材工作と実験問題演習

第３回：重力加速度の測定

第４回：レンズの焦点距離

第５回：半導体の電気抵抗の温度変化

第６回：振り子の実験

第７回：実験についての口頭試問

第８回：実験についての試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

「物理学実験」　吉田卯三郎他三名　三省堂

学生に対する評価

レポート(30%)、口頭試問(40%)、試験(30%)により成績を評価する。

授業科目名： 物理学実験B 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 岸木敬太 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

物理実験

＜到達目標＞

これまでの講義の内容を実験により実感し、高度な内容の物理学の理解を深める。さらに、物理学実験に対する基本的な技術を習得し、教育実習での研究授業の準備を自立してできるようになる。

授業の概要

力学、電磁気学、光、量子力学などに関して、小中学校理科に関連する実験や、高等学校の基礎物理に関連する実験を少人数のグループで行う。

授業計画

第１回：実験のガイダンス

第２回：炭素の電力量と温度変化

第３回：固体の比熱の測定

第４回：回折格子、ヤングの実験

第５回：電磁誘導による誘導起電力

第６回：気注の共鳴

第７回：実験についての口頭試問

第８回：実験についての試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

「物理学実験」　吉田卯三郎他三名　三省堂

学生に対する評価

レポート(30%)、口頭試問(40%)、試験(30%)により成績を評価する。

授業科目名： 基礎化学実験【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 岡島　俊哉 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

実験観察を通して、初等・中等教育段階の化学実験を実施するために十分な水準の技能を習得できた。

授業の概要

初等・中等教育段階で行われる化学実験を体験させ、初等・中等教育段階の水準以上の実験操作を体験させ、実験時に要される技能を気付かせる。小学校・中学校および高等学校で行われる実験に要する技能水準と比較しつつ、その関連性及び発展性に気付かせ、熟達への意欲を醸成する。

授業計画

第１回：レポートの書き方（仮説の設定の仕方など）

第２回：器具の使い方、薬品の性状と取り扱い方（総論）

第３回：実験時に生じるハザードやリスクと対応　燃焼反応（１）　燃焼

第４回：実験時に生じるハザードやリスクと対応　燃焼反応（２）　消火

第５回：吸湿性・脱水作用・酸化作用とは何か　硫酸・硝酸の性質を例として

第６回：気体の製法と性質（１）　気体の発生装置と捕集法、検出法に関する一般実験

第７回：気体の製法と性質（２）　個別の気体を発生させる各論実験

第８回：金属イオンの系統分析（１）　沈澱反応と金属イオンの分離に関する一般実験

第９回：金属イオンの系統分析（２）　I 属及び II 属に属する金属の分離操作

第１０回：金属イオンの系統分析（３）　I 属～VI 属全体に属する金属の分離と検出

第１１回：金属イオンの系統分析（４）　未知混合物を分離し、含まれる金属イオンを同定する

第１２回：エステル化反応（１）　酢酸エチルの合成と加水分解

第１３回：エステル化反応（２）　エステル交換反応　バイオディーゼル燃料の合成と分離

第１４回：芳香族化合物の分離（１）　アニリン、安息香酸、フェノール、ニトロベンゼンの分離

第１５回：芳香族化合物の分離（２）　未知混合物を分離し、含まれる芳香族化合物を同定する

定期試験を実施しない

テキスト

資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等 資料を適宜配布する。
学生に対する評価 仮説を設定でき、仮説を検証するため、課題を発見しながら、解決を目指す技能（技術及び認知）の水準を、実験時の教員による観察（50%）、レポート（50%）で評価する。

授業科目名： 化学実験A 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村田貴広 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

化学実験

＜到達目標＞

小学校および中学校理科の化学領域における基礎知識を習得するために、試薬の安全な取り扱いおよび実験廃棄物の適切な処理ができるようになることを目指す。また、各種実験器具の取り扱い方について学ぶとともにそれらを利用した実験基本操作についても習得することを目指す。

授業の概要

小学校および中学校理科の化学領域における基礎知識を習得するために、試薬の安全な取り扱い方および実験廃棄物の適切な処理について学習する。また、各種実験器具の取り扱い方について学ぶとともにそれらを利用した実験基本操作についても学習する。

授業計画

第１回：ガイダンスおよび自然科学系の報告書作成の基本ルール

第２回：化学実験を安全に行うための基礎知識

第３回：化学実験基本操作　試薬および各種器具の取り扱い方

第４回：酸塩基反応と緩衝作用

第５回：酸化還元反応と電気化学

第６回：陽イオンおよび陰イオンの定性分析

第７回：有機化合物合成

第８回：無機化合物合成

テキスト

適宜，資料を配付する．

参考書・参考資料等

実験を安全に行うために　第８版，化学同人編集部 編，化学同人（9784759818338）

学生に対する評価

実験レポート 100%

授業科目名： 化学実験B 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村田貴広 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

化学実験

＜到達目標＞

無機化学，分析化学および物理化学に関わる実験手法を習得するとともに観察力を身に付けることを目指す．実験を通じて化学的理解を深めることを目指す．

授業の概要

無機化学，分析化学および物理化学に関わる基礎的な実験方法を身につけるため，酸塩基滴定，酸化還元滴定，吸光光度分析，反応速度解析，クロマトグラフィーを取り上げ，コンピュータを使用した実験データの適切な処理と解析を行う．

授業計画

第１回：正確な定量実験基本操作と実験データを正しく扱うための基礎知識

第２回：中和滴定

第３回：沈殿滴定

第４回：キレート滴定

第５回：吸光光度分析

第６回：反応速度解析

第７回：クロマトグラフィー

第８回：まとめと理解度確認

テキスト

適宜，資料を配付する．

参考書・参考資料等

実験データを正しく扱うために，化学同人編集部 編，化学同人（9784759811353）

学生に対する評価

実験レポート 100%

授業科目名： 基礎生物学実験【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 嬉　正勝 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

実験観察を通して自信を持って小・中・高の学校現場における生物実験を実施できるようにする。初等・中等教育の生物実験指導能力を身につける。

授業の概要

小、中学校および高等学校での学習内容に関する実験を主に扱う。

授業計画

第１回：科学レポートの書き方、ルーペの使い方、生物スケッチの書きかた
第２回：生体酵素実験
第３回：淡水魚の採集・分類と飼育
第４回：生き物を飼ってみよう！Ⅰ（水生生物）
第５回：植物組織の観察１[顕微鏡およびミクロメーターの使い方]　（
第６回：筋肉の働きと運動（関節の解剖）
第７回：水中微生物の観察
第８回：ヨウ素反応を使った実験（光合成、消化酵素）
第９回：生き物を飼ってみよう！Ⅱ（昆虫）
第１０回：メダカの発生の観察
第１１回：骨格標本作成及び筋肉の収縮実験
第１２回：無脊椎動物の解剖実験
第１３回：脊椎動物の解剖実験
第１４回：ヒトの味覚実験
第１５回：ダンゴムシの転向性交替反応
定期試験は実施しない

テキスト

必要に応じ適宜配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜配布する。

学生に対する評価

実験中の受講態度（20点）、レポートにおいて課題を発見し解決する能力（80点）。

授業科目名： 生物学実験A 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田邊　力 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・生物学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業の到達目標及びテーマ

身近な自然観察を通じて、小学校、中学校での生物実験を自分自身で準備して行える素地を習得する。身近でよく観られる種を同定できるようになる。

授業の概要

身近な自然観察、昆虫採集、昆虫法本作成を通じて、生物の幅広い分類群についての理解を深める。

授業計画

第１回：構内の植物観察（平行脈）、同定、スケッチ-1（植物の観察、同定）
第２回：構内の植物観察（平行脈）、同定、スケッチ-2（植物のスケッチ）
第３回：土壌動物の採集
第４回：土壌動物の同定
第５回：土壌動物のスケッチ
第６回：昆虫採集
第７回：昆虫標本作製（展翅･展足）
第８回：昆虫標本作製（同定･ラベル作成･仕上げ）

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

図鑑NEOシリーズ（小学館）
校庭の雑草（全国農村教育協会）

学生に対する評価

レポート、スケッチ、昆虫標本で評価する。

授業科目名： 生物学実験B 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田邊　力 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業の到達目標及びテーマ

身近な自然観察を通じて、小学校、中学校での生物実験を自分自身で準備して行える素地を習得する。身近でよく観られる種を同定できるようになる。博物館、動植物園等の社会教育施設を学校教育で活用できるようになる。

授業の概要

身近な自然観察を通じて、動物、植物の幅広い分類群についての理解を深める。博物館、動植物園等の社会教育施設を見学し、学校教育での活用法を習得する。

授業計画

第１回：構内の植物観察（網状脈）：同定
第２回：構内の植物観察（網状脈）：スケッチ
第３回：構内の植物観察（コケ）：同定、スケッチ
第４回：熊本博物館見学
第５回：熊本市動植物園見学（動物園パート）
第６回：熊本市動植物園見学（植物園パート）
第７回：構内の植物観察（樹木）：同定
第８回：構内の植物観察（樹木）：スケッチ

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポートで評価する。

授業科目名： 基礎地学実験【 独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 角縁進，髙島千鶴 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

地学全般の基礎的な実験を通して，地学分野の理解を深め，論理的思考力を養う．また，理科教員として，地学分野の実験・実習を十分に指導できるように実験・実習の手法を習得する．

授業の概要

地学に関する実験・実習を行なう．主に小学校・中学校・高校で行う実験や観察を扱い，その際に方法や観察のポイントや実験における安全面での注意点を説明する．また，実験器具の扱い方や管理の仕方についても説明する．

授業計画

第１回：ケプラーの法則（コンピューターを使用したシミュレーション）　（担当：角縁）
第２回：太陽のエネルギー／太陽黒点観測　（担当：角縁）
第３回：鉱物の結晶系　（担当：角縁）
第４回：火山灰中の鉱物　（担当：角縁）
第５回：火成岩の分類と肉眼鑑定　（担当：角縁）
第６回：偏光顕微鏡による薄片観察Ⅰ（結晶光学）　（担当：角縁）
第７回：偏光顕微鏡による薄片観察Ⅱ（造岩鉱物の観察）　（担当：角縁）
第８回：地形図の読み方　（担当：髙島）
第９回：クリノメーターを使用したルートマップの作成　（担当：髙島）
第１０回：地質図学　（担当：髙島）
第１１回：地層の堆積実験　（担当：髙島）
第１２回：堆積岩の分類と肉眼鑑定　（担当：髙島）
第１３回：対流圏の気圧と気温分布　（コンピューターを使用した作図）　（担当：髙島）
第１４回：天気図の作成　（担当：髙島）
第１５回：地震波の伝わり方　（担当：髙島）
定期試験・レポート

テキスト

作成したプリント

参考書・参考資料等

ニューステージ　地学図表（浜島書店）
学生に対する評価 角縁（50点）と髙島（50点）の合計点とする．平常点（授業態度・積極度）20%　レポート80%で評価する．

授業科目名： 地学実験A 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：池上　直樹 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

地質学分野の実験・観察

＜到達目標＞

小中学校理科地学分野の授業実践の基礎となる実験・観察を適切に行うことができ、科学的なデータの取り扱いや論理的な文書作成ができるようになる。

授業の概要

野外や室内において地質学分野の基礎的な実験・観察を実施し、調査観察器具の適切な操作法を習得するとともに、地質学的事象の見方、考え方を学ぶ。また、実験・観察の結果をレポートにまとめ、科学的文書の作成技能の向上を図る。

授業計画

第1回： ガイダンスと岩石観察
第2回： 地質調査の方法（野外）
第3回： 地層観察と試料採取（野外）
第4回： 火山灰の処理と観察
第5回： 偏光顕微鏡の取扱法と岩石薄片観察
第6回： 化石の観察
第7回： 珪藻化石を用いた古環境解析
第8回： まとめと岩石・化石鑑定実習

テキスト

自作資料を配布

参考書・参考資料等

ニューステージ新地学図表（浜島書店），地学の調べ方（コロナ社）奥村 清 編，
理科系の作文技術（中公新書）木下是雄 著

学生に対する評価

各実験レポート70%，鑑定試験30%

授業科目名： 地学実験B 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：池上　直樹 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

教材開発に資する地学実験

＜到達目標＞

小中学校理科地学分野の学習に必要な実験観察の技能などを習得した上で、学校現場で活用できる地学関連の実践的な教材開発を自主的に行うことができる.

授業の概要

野外や室内において地質学や天文学の分野の基礎的な実験・観察を実施し、調査・観察器具の適切な操作方法等を習得するとともに，地質学的事象の見方、考え方を学ぶ．また、実験・観察の結果をレポートにまとめ、科学的文書の作成技能の向上を図る.

授業計画

第1回：ガイダンスと地学教材開発

第2回：博物館の活用法（学外）

第3回：岩石薄片の作製：岩石の切断・研磨・接着法

第4回：岩石薄片の作製：岩石薄片の仕上げと岩石の記載法

第5回：化石レプリカの作製：シリコン樹脂と石膏による型取りと成形

第6回：化石レプリカの作製：フォトグラメトリによる3Dデジタル化石標本

第7回：プラネタリウムの活用法（学外）

第8回：天体観測と写真撮影

テキスト

ニューステージ新地学図表（浜島書店）および 自作資料

参考書・参考資料等

・「現代地球科学入門」（学術図書出版社）鹿島愛彦ほか著

・「基礎地球科学」（朝倉書店）西村裕二郎ほか著

学生に対する評価

各実験レポート70%，実験操作技能習熟度30%

授業科目名： 中等理科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邉　重義／後藤　大二郎、 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

学習指導要領に示された理科の目標や内容や理科の学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。

1. 中等教育の学習指導要領に示された理科の目標や内容を理解する。

2. 基礎的な理科の学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した教材研究を行う方法を身に付ける。

授業の概要

中等理科教育に関する目的論，カリキュラム論，学習指導方法論，自然認識論，評価論等の各領域について概説する。また，実際の授業実践を想定し，具体的な理科の学習内容についても取り上げていく。

1. 中学校・高等学校学習指導要領における理科の目標・主な内容・全体構造，個別の理科学習内容などを取り上げ，理科教育の理論を解説する。

2. 生徒の自然認識・科学的思考・理科の学力などの実態を視野に入れた理科授業設計および理科教育実践（ICT活用を含む）について解説する。

授業計画

第1回：イントロダクション／中学・高等学校理科の概要と理科を学ぶ意味

第2回：理科教育の目的・目標（学習指導要領）

第3回：理科教育の歴史1／理科教育の始まり

第4回：理科教育の歴史2／第二次世界大戦後教育課程の変遷

第5回：理科の内容Ⅰ／科学の基本概念と理科の内容

第6回：理科の内容2／理科の内容としての「科学的な方法」

第7回：理科のカリキュラム

第8回：観察・実験１／理科学習と観察・実験

第9回：観察・実験２／観察・実験の指導支援

第10回：教材・教具（ICT活用）

第11回：理科の学習論１／問題解決学習等

第12回：理科の学習論２／学習者の自然認識と教師の指導支援（ICT活用）

第13回：第8回：理科における評価（学習指導要領）

第14回：理科教師論 第15回：総括と振り返り 評価
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」学校図書（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）理科編」実教出版（2019）
参考書・参考資料等 日本理科教育学会編（1992）理科教育学講座1～10巻　東洋館出版
学生に対する評価 試験またはレポート（100%）

授業科目名： 中等理科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邉　重義、飯野（金柿）直子／露木　隆
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1．理科教育の目的・目標が教育実践において具体化されるプロセスおよびその方法を理解して、授業実践例を適切に評価できる。

2．理科の具体的な学習における教材研究の視点と方法を説明し、教材研究の具体的な内容を提案できる。

3．理科の教材研究の視点と方法を授業設計に結び付け、理科の学習指導案の文脈や指導支援の方法として具体化できる。

授業の概要

中等理科教育法の教材研究から授業構想までのアプローチを各論的に取り上げて説明を行い、その内容に関する理解を演習的な活動で深める。

授業計画

第１回：イントロダクション（渡邉　重義、飯野（金柿）直子／露木　隆）

第２回：中等理科教育の理論と実践（学習指導要領）（渡邉　重義／露木　隆）

第３回：理科教育における教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第４回：中学校理科エネルギー領域の教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第５回：物理分野の教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第６回：中学校理科粒子領域の教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第７回：化学分野の教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第８回：中学校理科生命領域の教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第９回：生物分野の教材研究（渡邉　重義／露木　隆）

第１０回：中学校理科地球領域の教材研究（飯野（金柿）直子／露木　隆）

第１１回：地学分野の教材研究（飯野（金柿）直子／露木　隆）

第１２回：中等理科学習研究①（学習指導案・模擬授業の準備）／ICT活用を含む（渡邉　重義／露木　隆）

第１３回：中等理科学習研究②（学習指導案・模擬授業の発表）／ICT活用を含む（渡邉　重義／露木　隆）

第１４回：中等理科学習研究③（学習指導案・模擬授業に関する省察）／ICT活用を含む（渡邉　重義／露木　隆） 第１５回：総括と振り返り（渡邉　重義、飯野（金柿）直子／露木　隆） 評価
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」学校図書（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）理科編」実教出版（2019） 必要な資料を適宜配布する。
参考書・参考資料等 井出耕一郎（1988）理科教材・教具の理論と実践　東洋館出版
学生に対する評価 試験またはレポート　100％

授業科目名： 中等理科指導法III 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 飯野（金柿）直子／露木　隆
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．学習指導案の構成や意義を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

２．具体的な授業場面を想定した教材研究を行い、教材やワークシートを作成することができる。

３．模擬授業や授業提案の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。

授業の概要

指導法の理論や学習者の自然認識、評価、ＩＣＴ活用など，中等理科教育法１および2での学修を踏まえて教材研究や授業作りを行い、模擬授業や授業提案を行う。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：学習指導案の書き方について／学習指導案の意義と指導案の書き方

第3回：教材研究について（ICT活用を含む）／教材研究の方法とICTを活用した理科授業

第4回：指導法の理論を生かす授業設計1／単元構想

第5回：指導法の理論を生かす授業設計2／授業構想

第6回：指導法の理論を生かす授業設計3／教材研究

第7回：指導法の理論を生かす授業設計4／学習評価の検討と指導案作成

第8回：模擬授業（ICT活用を含む）と省察1／指導法の理論を生かす授業設計について

第9回：模擬授業（ICT活用を含む）と省察2／指導法の理論を生かす授業設計について

第10回：指導支援の方策に注目した授業設計1／授業構想

第11回：指導支援の方策に注目した授業設計2／教材研究

第12回：指導支援の方策に注目した授業設計3／学習評価の検討と指導案作成

第13回：指導支援の方策に注目した授業設計4／指導案練り上げとワークシート作成

第14回：授業提案（ICT活用を含む）と省察／指導支援の方策に注目した授業設計について

第15回：総括と振り返り

評価

テキスト

テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」学校図書（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）理科編」実教出版（2019） 中学校理科教科書
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 取り組み状況・指導案・ワークシート　40%　模擬授業・授業提案　60% で評価する。 発表内容および提出物は授業の目標と授業者の課題・意図に概ね合致するものを合格とする。

授業科目名： 中等理科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目 （佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邉　重義・飯野（金柿）直子／露木　隆 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1．理科授業実践の具体例から、カリキュラムと教材配列、教材分析、観察・実験の計画など教材研究に関連した視点と方法を見出し、適切に評価できる。

2．理科授業実践の具体例から、授業の導入、課題の設定、評価活動など授業研究に関連した視点と方法を見出し、適切に評価できる。

3．教材研究や授業研究の視点と方法を生かして、学習者の学びを活性化するような授業実践の準備（教材作成／学習指導案作成／ワークシートを作成など）ができる。

授業の概要

中等理科教育における授業実践について、教材の特性や指導法の理論、学習者の自然認識、評価方法、ICT活用などの観点から分析・評価する。また、授業実践の省察などを通して、学習構想、指導支援の方策の提案、教材作成、模擬授業などを行う。

授業計画

第１回：イントロダクション（渡邉　重義・飯野（金柿）直子／露木　隆）

第２回：理科の教材研究と授業づくり１／カリキュラム研究①（渡邉　重義／露木　隆）

第３回：理科の教材研究と授業づくり２／単元・教材研究②（渡邉　重義／露木　隆）

第４回：理科の教材研究と授業づくり３／学習の文脈研究①（渡邉　重義／露木　隆）

第５回：理科の教材研究と授業づくり４／授業計画の研究②（渡邉　重義／露木　隆）

第６回：理科の授業研究と授業づくり１／学習評価と授業構想①（渡邉　重義／露木　隆）

第７回：理科の授業研究と授業づくり２／学習評価と授業実践②（渡邉　重義／露木　隆）

第８回：理科の授業研究と授業づくり３／「理科の見方」と授業実践①（渡邉　重義／露木　隆）

第９回：理科の授業研究と授業づくり４／「理科の考え方」と授業実践②（渡邉　重義／露木　隆）

第10回：理科における探究と授業づくり１／探究のための教材研究（飯野（金柿）直子／露木　隆）

第11回：理科における探究と授業づくり２／学習指導案の作成と発表（飯野（金柿）直子／露木　隆）

第12回：理科授業の準備に関する演習１（教材作成・模擬授業の構想）（渡邉　重義・飯野（金柿）直子／露木　隆）

第13回：理科授業の準備に関する演習２（教材作成・擬授業の発表）（渡邉　重義・飯野（金柿）直子／露木　隆）
第14回：理科授業の準備に関する演習３（教材作成・模擬授業の省察）（渡邉　重義・飯野（金柿）直子／露木　隆））
第15回：総括と振り返り（渡邉　重義・飯野（金柿）直子／露木　隆）
評価

テキスト
文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」学校図書（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）理科編」実教出版（2019）
中学校理科教科書

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価
ショートレポート（学習指導案含む）と授業実践演習レポートで評価する。ショートレポートや学習用ワークシートが授業の目標と授業者の課題・意図に概ね合致するものを合格とする。

授業科目名：理科教育実践入門 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：渡邉重義・飯野（金柿）直子 担当形態：オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

1. 教科書等を用いて中学校理科教材の分析を行い、理科授業実践に必要な知識や技能を的確に抽出することができる。

2. 理科教育実践の授業記録の視聴を通して、教える立場と学ぶ立場から詳細に授業観察を行うことができる。

3. 理科教材研究を協働的な学びとして実施し、自分の学びのプロセスを適切に考察することができる。

授業の概要

前半（8回）は理科教育内容に関する講義，科学的な考え方についての演習、理科授業の分析を行い、後半（7回）はグループごとにテーマを選択した教材研究を行う。

授業計画

第１回：イントロダクション（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第２回：理科教材研究の事例から学ぶ１－物理・化学領域（渡邉重義）

第３回：理科教材研究の事例から学ぶ2－生物・地学領域（渡邉重義）

第４回：「科学の考え方」と教材研究１－自然事象の観察と検証方法の立案（飯野（金柿）直子）

第５回：「科学の考え方」と教材研究２－グループによる検証実験（飯野（金柿）直子）

第６回：「科学の考え方」と教材研究３－発表とディスカッション（飯野（金柿）直子）

第７回：理科教育実践から学ぶ１－現職教員による理科授業実践VTRの視聴と分析（渡邉重義）

第８回：理科教育実践から学ぶ２－教育実習生による理科授業実践VTRの視聴と分析（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第９回：中学校理科教材研究演習１－テーマ設定・準備（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第１０回：中学校理科教材研究演習２－観察実験等（予備実験）による教材研究（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第１１回：中学校理科教材研究演習３－観察実験等による教材研究（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第１２回：中学校理科教材研究演習４－観察実験等による教材研究（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第１３回：中学校理科教材研究演習５－教材研究の整理・分析（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第１４回：中学校理科教材研究演習６－結果のまとめ・発表準備（渡邉重義・飯野（金柿）直子）

第１５回：研究成果の発表と省察および総括　（渡邉重義・飯野（金柿）直子）
テキスト 特に使用しない（資料を準備する）
参考書・参考資料等 文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　理科編 川村康文ほか（2010）実験で実践する魅力ある理科教育　小・中学校編　オーム社 雑誌：日本理科教育学会「理科の教育」東洋館出版社
学生に対する評価 授業中に実施する教材研究・授業研究に関するショートレポートで、授業における取り組み状況を評価する（約40点）。最終評価は、教材研究演習の発表とレポートで行う（約60点）。ショートレポートや教材研究の発表が授業の目標と授業者の課題・意図に概ね合致するものを合格とする。

授業科目名： ソルフェージュ基礎 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己／今井　治人 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ソルフェージュ

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育や演奏を支えるために不可欠なソルフェージュ力を身につけ、活かすことができる。

授業の概要

音高、音価、リズムの把握等について、視唱や聴音（旋律・和声等）の課題を含む様々な課題を通じて、教育活動や演奏の場面に活かせるソルフェージュ力をバランスよく養う。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：リズムの基本原理
第３回：リズム課題の実習
第４回：リズム課題（アンサンブル課題）の実習
第５回：音部記号の理解
第６回：各種音部記号を含むの読譜トレーニング
第７回：初見視唱・視奏の要点
第８回：和音の種類と認識の方法
第９回：読譜力向上を目指す和声課題の実習
第１０回：読譜における調性の把握について
第１１回：旋律課題による調性の理解
第１２回：和声課題による調性の理解
第１３回：移調の理解
第１４回：拍節感の理解とその重要性
第１５回：ソルフェージュ力の総論
定期試験

テキスト
「ダンノーゼルのソルフェージュ」ルモアーヌ社
「展開ソルフェージュ（初級中級者のための視唱課題集）」桐朋学園音楽部門編　音楽之友社
教員作成練習問題

参考書・参考資料等
「ダンドロームのソルフェージュ」ルモアーヌ社

学生に対する評価
授業の課題（30%）、参加状況（20%）及び期末試験（50%）から総合的に評価する。

授業科目名： ソルフェージュ応用A 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ソルフェージュ

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育と実技演奏を支えるさらに高いソルフェージュ力を身につける。

授業の概要

新曲視唱（テノール記号・アルト記号を含む）、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々な調性によるカデンツ奏などの課題を与え、さらに高いソルフェージュ力をバランスよく高める。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：旋律聴音・カデンツ奏（変ホ長調と同主短調）・新曲視唱
第３回：旋律聴音（２声）・和声聴音（４声）・新曲視唱（伴奏つき）
第４回：旋律聴音・カデンツ奏（ホ長調と同主短調）・新曲視唱
第５回：旋律聴音（２声）・和声聴音（３声/S・A・B）・新曲視唱（２重唱）
第６回：旋律聴音・カデンツ奏（変イ長調と同主短調）・リズムソルフェージュ
第７回：旋律聴音・新曲視唱（伴奏つき）
第８回：旋律聴音・カデンツ奏（ロ長調と同主短調）・新曲視唱
第９回：旋律聴音・和声聴音（４声）・新曲視唱（３重唱）
第１０回：旋律聴音・カデンツ奏（変ニ長調と同主短調）・新曲視唱（リズムつき）
第１１回：旋律聴音（２声）・新曲視唱（伴奏つき）
第１２回：旋律聴音・カデンツ奏（嬰ヘ長調と同主短調）・新曲視唱
第１３回：旋律聴音・和声聴音（３声/S・T・B）新曲視唱（伴奏つき）
第１４回：旋律聴音（２声）・和声聴音（４声）リズムソルフェージュ
第１５回：旋律聴音・カデンツ奏（復習）・新曲視唱（２重唱）
定期試験

テキスト

「展開ソルフェージュ　初・中級者のための視唱課題集」音楽之友社

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業で取り組む課題５０％、期末試験５０％から総合的に評価する。

授業科目名： ソルフェージュ応用B 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ソルフェージュ

授業のテーマ及び到達目標

ソルフェージュ力及び読譜能力の向上。コードネーム、数字付低音、簡易な伴奏付け、スコア・リーディングの実習を通して、教育現場に活用させ得るソルフェージュ力を修得する。

授業の概要

コードネーム、数字付低音の基礎を学習し、それに基づいた簡易な伴奏付けを実習する。スコア・リーディングの基礎を学習し、総合的なソルフェージュ力を向上させる。

授業計画

第１回：ソルフェージュ教育について・音楽におけるソルフェージュ能力の必要性
第２回：各種コードネームについて（１）各種コードネームの確認
第３回：各種コードネームについて（２）各種コードによるカデンツの演奏
第４回：数字付低音奏法（１）数字付低音奏法の理論について
第５回：数字付低音奏法（２）数字付低音奏法の実習
第６回：旋律の伴奏付け（１）旋律の伴奏付けの理論と実習
第７回：旋律の伴奏付け（２）旋律の伴奏付けの各種伴奏型による応用実習
第８回：旋律の伴奏付け（３）複雑な旋律への伴奏付け奏法の活用
第９回：旋律の変奏法（１）簡易な旋律の変奏法についての理論
第１０回：旋律の変奏法（２）簡易な旋律の変奏法の実習
第１１回：スコア・リーディング（１）スコア・リーディングについての基礎理論
第１２回：スコア・リーディング（２）小編成のスコアによるスコア・リーディングの実習
第１３回：スコア・リーディング（３）スコア・リーディングの活用法について
第１４回：強弱・拍節感・テンポの応用
第１５回：「ソルフェージュ応用B」総論
定期試験

テキスト

なし（教員オリジナルの問題を適宜配布）

参考書・参考資料等
スコア・リーディングの準備練習（モリス、ファーガソン著、オックスフォード大学出版）
ダンノーゼルのソルフェージュ（ダンノーゼル著、ルモアーヌ社）

学生に対する評価
授業中の課題実施（30%）定期試験（70%）

授業科目名： ソルフェージュ展開Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ソルフェージュ		

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育と実技演奏を支えるソルフェージュ力をより高度に身につける。

授業の概要

新曲視唱（テノール記号・アルト記号を含む）、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々な調性によるカデンツ奏などの課題を与え、ソルフェージュ力をバランスよく高める。

授業計画

第１回：

第２回：旋律聴音・カデンツ奏（ト・ヘ長調と各同主短調）・新曲視唱

第３回：旋律聴音（２声）・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）

第４回：旋律聴音・和声聴音（４声）・新曲視唱（リズムつき）

第５回：旋律聴音・カデンツ奏（ニ・変ロ長調と各同主短調）・新曲視唱（２重唱）

第６回：旋律聴音・和声聴音（３声/S・A・B）・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）

第７回：旋律聴音（２声）・カデンツ奏（イ・変ホ長調と各同主短調）・新曲視唱

第８回：旋律聴音・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）

第９回：旋律聴音・和声聴音（４声）・新曲視唱（リズムつき）

第１０回：旋律聴音・カデンツ奏（ホ・変イ長調と各同主短調）・新曲視唱

第１１回：旋律聴音（２声）・和声聴音（３声/S・T・B）・リズムソルフェージュ

第１２回：旋律聴音・カデンツ奏（ロ・変ニ長調と各同主短調）・新曲視唱（３重唱）

第１３回：旋律聴音（２声）・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）

第１４回：旋律聴音・和声聴音（４声）・新曲視唱

第１５回：旋律聴音・カデンツ奏（復習）・新曲視唱（４重唱）

定期試験

テキスト

「ソルフェージュ　視唱」（国立音楽大学編）音楽之友社

参考書・参考資料等

適宜配布。

学生に対する評価

授業で取り組む課題５０％、期末試験５０％から総合的に評価する。

授業科目名： ソルフェージュ展開Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ソルフェージュ

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育と実技演奏を支えるソルフェージュ力を確かなものとする。

授業の概要

新曲視唱、旋律や和声の聴音、リズムソルフェージュ、様々なハ音記号による読譜課題を与え、ソルフェージュ力をバランスよく高める。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：旋律聴音・ハ音記号による読譜（アルト・ヘ音記号）・新曲視唱
第３回：旋律聴音・和声聴音（３声/S・A・B）新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）
第４回：旋律聴音・ハ音記号による読譜（テノール・ヘ音記号）・新曲視唱（２重唱）
第５回：旋律聴音・和声聴音（４声）・新曲視唱（リズムつき）
第６回：旋律聴音（２声）・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）
第７回：旋律聴音・ハ音記号による読譜（アルト・テノール・ト音・ヘ音記号）・新曲視唱
第８回：旋律聴音・和声聴音（３声/S・T・B）新曲視唱（２重唱）
第９回：旋律聴音（２声）・和声聴音（４声）・新曲視唱（リズムつき）
第１０回：旋律聴音・ハ音記号による読譜（ソプラノ・ヘ音記号）・新曲視唱
第１１回：旋律聴音・和声聴音（３声/S・A・B）・新曲視唱（３重唱）
第１２回：旋律聴音・ハ音記号による読譜（各種ハ音記号）・新曲視唱
第１３回：旋律聴音（２声）・和声聴音（４声）・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）
第１４回：旋律聴音・和声聴音（４声）・新曲視唱（伴奏つき/弾き歌い）
第１５回：旋律聴音・ハ音記号による読譜（各種ハ音記号）・新曲視唱（４重唱）
定期試験

テキスト

「ソルフェージュ　視唱」（国立音楽大学編）音楽之友社

参考書・参考資料等

適宜配布。

学生に対する評価

授業で取り組む課題５０％、期末試験５０％から総合的に評価する。

授業科目名： 声楽基礎Ⅰ（伝統的な歌唱を含む） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 中原　雅彦／小村　朋代、林　直子 担当形態： クラス分け・単独／オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

西洋音楽・邦楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得する。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。

授業計画

第１回：ガイダンス（中原　雅彦／小村　朋代）
第２回：西洋音楽での発声法と呼吸法（中原　雅彦／小村　朋代）
第３回：イタリア語とイタリア古典歌曲の概要（中原　雅彦／小村　朋代）
第４回：イタリア古典歌曲集実践 ①（中原　雅彦／小村　朋代）
第５回：言葉と旋律との融合について（中原　雅彦／小村　朋代）
第６回：演奏解釈について（中原　雅彦／小村　朋代）
第７回：イタリア古典歌曲演奏時の技術的解決（中原　雅彦／小村　朋代）
第８回：伴奏パートとの的確なアンサンブルについて（中原　雅彦／小村　朋代）
第９回：日本の伝統的な歌唱法（中原　雅彦／林　直子）
第１０回：和楽器に合わせて声を出す（中原　雅彦／林　直子）
第１１回：イタリア古典歌曲実践 ②（中原　雅彦／小村　朋代）
第１２回： イタリア古典歌曲演奏時の技術的解決 （中原　雅彦／小村　朋代）
第１３回：イタリア古典歌曲の演奏解釈（中原　雅彦／小村　朋代）
第１４回：伴奏パートとの的確なアンサンブルについて（中原　雅彦／小村　朋代）
第１５回：研究のまとめ（中原　雅彦／小村　朋代）

定期試験
テキスト イタリア歌曲集第一巻（低声用、中声用、高声用）全音出版社、または、イタリア古典歌曲第一巻（低声用、中声用、高声用）教芸出版社。端唄「梅は咲いたか」・民謡「こきりこ節」の楽譜
参考書・参考資料等アルファベットで引く 6 か国語 音楽用語辞典，音楽之友社。 「うたうこと」フレデリック　フースラー（著），イヴォンヌ　ロッド・マーリング（著）須永義雄（翻訳）、大熊文子（翻訳）
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽基礎Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げること

授業の概要

発声の基礎を引き続き学びつつ、コンコーネ・イタリア歌曲集の教材を用い、言葉の発音や音楽的な表現について学びを深める

授業計画

第一回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸について」
第２回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「正しい音程の取り方」
第３回：歌唱の為の基礎的技術「フレージングのコントロール」
第４回：歌唱の為の基礎的技術「アーティキュレーションのコントロール」
第５回：歌唱の為の基礎的技術「ダイナミクスとアゴーギグのコントロール」
第６回：歌唱に用いる言語の発音法「日本語」
第７回：歌唱に用いる言語の発音法「イタリア語」
第８回：歌唱における感情表現技術「歌詞解釈」
第９回：歌唱における感情表現技術「歌詞の内容に沿った音楽的表現」
第１０回：歌唱における感情表現技術「その他の方法」
第１１回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸について」「ダイナミクスとアゴーギグのコントロール」
第１２回：歌唱における感情表現技術「歌詞解釈」「歌詞の内容に沿ったフレージングとアーティキュレーション」
第１３回：試験に向けた総括①
第１４回：試験に向けた総括②
第１５回：試験に向けた総括③
※履修学生の習熟度と課題の進歩状況に応じて、各回の反復や入れ替えは行うが、概ね計画通りに授業を進める
定期試験　授業内で指定した曲を課題とする（グループ実施）

テキスト

コンコーネ５０番（全音楽出版社）、イタリア歌曲集1（全音楽出版社）
参考書・参考資料等 「伝統のイタリア語発音ーオペラ・歌曲を歌うためにー」著：ルイージ・チェラントラ 訳：小瀬村幸子（東京藝術大学出版社）、「イタリア語で歌いましょうー歌唱表現を豊かにする発音・発声入門ー」著：森田学（株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名：声楽基礎Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：中原　雅彦 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得する。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する為、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：西洋音楽での発声法と呼吸法
第３回：イタリア語とイタリア古典歌曲の概要
第４回：イタリア古典歌曲集実践 ① イタリア語発音
第５回：イタリア古典歌曲の言葉と旋律との融合について
第６回：イタリア古典歌曲の演奏解釈について レガート
第７回：イタリア古典歌曲の演奏解釈 フレージング
第８回：イタリア古典歌曲の伴奏パートとの的確なアンサンブルについて
第９回：イタリア古典歌曲実践 ② イタリア語と旋律融合について
第１０回：イタリア古典歌曲演奏時の技術的解決 イタリア語発音と発声法
第１１回：イタリア古典歌曲の演奏解釈 言葉のリズム
第１２回：イタリア古典歌曲の演奏解釈レガートとフレージング
第１３回：イタリア古典歌曲の演奏解釈 アンサンブル
第１４回：伴奏パートとの的確なアンサンブルについて（ブレスの合わせ方）
第１５回：研究のまとめ
定期試験

テキスト

イタリア歌曲集第一巻（低声用、中声用、高声用）全音出版社、または、イタリア古典歌曲第一巻（低声用、中声用、高声用）教芸出版社。

参考書・参考資料等アルファベットで引く 6か国語 音楽用語辞典，音楽之友社。 「うたうこと」フレデリック　フースラー（著），イヴォンヌ　ロッド・マーリング（著）須永義雄（翻訳）、大熊文子（翻訳）
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽展開Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げること

授業の概要

声楽の基礎力を身につけるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う

授業計画

第１回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸について基礎」
第２回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸について展開」
第３回：歌唱の為の基礎的技術「正しい音程の取り方基礎」
第４回：歌唱の為の基礎的技術「正しい音程の取り方展開」
第５回：歌唱の為の基礎的技術「フレージングのコントロール」
第６回：歌唱に用いる言語の発音法「イタリア語初級基礎」
第７回：歌唱に用いる言語の発音法「イタリア語初級展開」
第８回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞解釈初級基礎」
第９回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞解釈初級展開」
第１０回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞の内容に沿った音楽的表現初級基礎」
第１１回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞の内容に沿った音楽的表現初級展開」
第１２回：伴奏者を伴っての実践（声楽展開Ⅰ試験曲）
第１３回：声楽展開Ⅰ試験曲の仕上げ
第１４回：声楽展開Ⅰ試験曲の表現追及
第１５回：声楽展開Ⅰ試験に向けた総括
※履修学生の習熟度と課題の進歩状況に応じて、各回の反復や入れ替えは行うが、概ね計画通りに授業を進める
定期試験　授業内で指定した曲を課題とする（グループ実施）

テキスト

コンコーネ５０番（全音楽出版社）、イタリア歌曲集１・２（全音楽出版社）ほか

参考書・参考資料等

「伝統のイタリア語発音ーオペラ・歌曲を歌うためにー」著：ルイージ・チェラントラ 訳：小瀬村幸

子（東京藝術大学出版社）、「イタリア語で歌いましょうー歌唱表現を豊かにする発音・発声入門ー」著：森田学（株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名：声楽基礎Ⅳ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：中原　雅彦 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得する。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。ドイツ歌曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：古典派・ドイツ歌曲作品
第３回：古典派・ドイツ歌曲作品のレガートとフレージング
第４回：古典派・ドイツ歌曲作品の言葉と旋律
第５回：古典派・ドイツ歌曲作品の演奏解釈
第６回：古典派・ドイツ歌曲作品の演奏時の技術的解決
第７回：古典派・ドイツ歌曲作品の伴奏パートとの的確なアンサンブル
第８回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品
第９回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品とイタリア歌曲との比較
第１０回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品の言葉と旋律
第１１回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品のレガートとフレージング
第１２回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品の演奏解釈
第１３回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品の演奏時の技術的解決
第１４回：初期ロマン派・ドイツ歌曲作品の伴奏パートとの的確なアンサンブル
第１５回：研究のまとめ
定期試験

テキスト

ドイツ歌曲集I（中声用、原調版）　全音出版社,

「ドイツ・リートへの誘い」梶木喜代子著　音楽之友社。
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽展開Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

声楽作品を演奏するための基礎的な知識と技術の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げること

授業の概要

声楽の基礎力を身につけるため、イタリア歌曲集１・２を教材に用い指導を行う

授業計画

第１回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸についての確認」
第２回：歌唱の為の基礎的技術「正しい音程の取り方の確認」
第３回：歌唱の為の基礎的技術「フレージングのコントロールの確認」
第４回：歌唱の為の基礎的技術「アーティキュレーションのコントロール」
第５回：歌唱の為の基礎的技術「ダイナミクスとアゴーギグのコントロール」
第６回：歌唱に用いる言語の発音法「イタリア語中級基礎」
第７回：歌唱に用いる言語の発音法「イタリア語中級展開」
第８回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞解釈中級基礎」
第９回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞解釈中級展開」
第１０回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞の内容に沿った音楽的表現中級基礎」
第１１回：歌唱における感情表現技術「イタリア語歌詞の内容に沿った音楽的表現中級展開」
第１２回：伴奏者を伴っての実践（声楽展開Ⅱ試験曲）
第１３回：声楽展開Ⅱ試験曲の仕上げ
第１４回：声楽展開Ⅱ試験曲の表現追及
第１５回：声楽展開Ⅱ試験に向けた総括
※履修学生の習熟度と課題の進歩状況に応じて、各回の反復や入れ替えは行うが、概ね計画通りに授業を進める
定期試験　授業内で指定した曲を課題とする（グループ実施）

テキスト

コンコーネ５０番（全音楽出版社）、イタリア歌曲集１・２（全音楽出版社）ほか

参考書・参考資料等

「伝統のイタリア語発音ーオペラ・歌曲を歌うためにー」著：ルイージ・チェラントラ 訳：小瀬村幸

子（東京藝術大学出版社）、「イタリア語で歌いましょうー歌唱表現を豊かにする発音・発声入門ー」著：森田学（株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名：声楽基礎Ⅴ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中原　雅彦 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

日本歌曲における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得する。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。日本歌曲と歌唱共通教材の日本歌曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。また、ピアノ弾き歌いもおこなう。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：歌唱共通教材
第３回：言葉と旋律
第４回：歌唱共通教材のレガートとフレージング
第５回：歌唱共通教材の演奏解釈
第６回：演奏時の技術的解決
第７回：伴奏パートとの的確なアンサンブル
第８回：日本歌曲作品
第９回：日本歌曲作品の言葉と旋律
第１０回：日本歌曲作品のレガートとフレージング
第１１回：歌唱共通教材と日本歌曲の演奏解釈
第１２回：歌唱共通教材ピアノ弾き歌い
第１３回：歌唱共通教材ピアノ弾き歌い ブレスについて
第１４回：ピアノの弾き歌いと多声部とのアンサンブル
第１５回：研究のまとめ
定期試験

テキスト

日本歌曲集Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（中声用、原調版）　全音出版社、

「日本名歌曲百選市の分析と解決Ⅰ・Ⅱ」畑中良輔監修、塚田佳男選曲・構成、黒沢弘光開設音楽之友社。
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽展開Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえつつ演奏する力を養うこと

授業の概要

日本歌曲を中心に指導を行い、日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえた上での演奏を実践出来るようになる

授業計画

第１回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸について定着を目指して」
第２回：歌唱の為の基礎的技術「正しい音程の取り方の定着を目指して」
第３回：歌唱の為の基礎的技術「フレージングのコントロールの定着」
第４回：歌唱に用いる言語の発音法「日本語初級基礎」
第５回：歌唱に用いる言語の発音法「日本語初級展開」
第６回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞解釈初級基礎」
第７回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞解釈初級展開」
第８回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞の内容に沿った音楽表現初級基礎」
第９回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞の内容に沿った音楽表現初級展開」
第１０回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞の内容に沿った音楽的表現初級発展」
第１１回：歌唱における感情表現技術「その他の方法」
第１２回：伴奏者を伴っての実践（声楽展開Ⅲ試験曲）
第１３回：声楽展開Ⅲ試験曲の仕上げ
第１４回：声楽展開Ⅲ試験曲の表現追及
第１５回：声楽展開Ⅲ試験に向けた総括
※履修学生の習熟度と課題の進歩状況に応じて、各回の反復や入れ替えは行うが、概ね計画通りに授業を進める
定期試験　授業内で指定した曲を課題とする（グループ実施）

テキスト

日本歌曲集１（全音楽出版社）ほか

参考書・参考資料等

発声と身体のレッスンー魅力的な「こえ」と「からだ」を作るためにー著：鴻上尚史（ちくま文庫）

学生に対する評価
出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点
計１００点満点により評価する

授業科目名：声楽実技Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：中原　雅彦 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得する。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。前期ロマン派の曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：前期ロマン派のクラシック声楽曲
第３回：前期ロマン派のクラシック声楽曲 言葉と旋律
第４回：前期ロマン派のクラシック声楽曲 レガートとフレージング
第５回：前期ロマン派のクラシック声楽曲 演奏解釈
第６回：前期ロマン派のクラシック声楽曲 演奏時の技術的解決
第７回：前期ロマン派のクラシック声楽曲 伴奏パートとの的確なアンサンブル
第８回：中期ロマン派のクラシック声楽曲
第９回：中期ロマン派のクラシック声楽曲 言葉と旋律 ②
第１０回：中期ロマン派のクラシック声楽曲 レガートとフレージング ②
第１１回：中期ロマン派のクラシック声楽曲 演奏解釈 ②
第１２回：中期ロマン派のクラシック声楽曲 演奏時の技術的解決
第１３回：中期ロマン派のクラシック声楽曲演奏時の技術的解決と演奏法
第１４回：中期ロマン派のクラシック声楽曲 伴奏パートとの的確なアンサンブル
第１５回：研究のまとめ
定期試験

テキスト

オペラ・アリア集　リコルディ版。ベッリーニ歌曲集。ドイツ歌曲集・ペータース版。日本歌

曲集１・２・３　全音出版社。
新西洋音楽史（上・中・下）グラウト、パリスカ著　音楽の友社
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽展開Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえつつ演奏する力を養うこと

授業の概要

日本歌曲を中心に指導を行い、日本語の発音や表現・解釈への理解を深め、発音の基礎を踏まえた上での演奏を実践出来るようになる

授業計画

第１回：歌唱の為の発声法・基礎的技術「姿勢と呼吸についての定着」
第２回：歌唱の為の基礎的技術「正しい音程の取り方の完成」
第３回：歌唱に用いる言語の発音法「日本語中級基礎」
第４回：歌唱に用いる言語の発音法「日本語中級展開」
第５回：歌唱に用いる言語の発音法「日本語中級発展」
第６回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞解釈中級基礎」
第７回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞解釈中級展開」
第８回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞の内容に沿った音楽表現中級基礎」
第９回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞の内容に沿った音楽表現中級展開」
第１０回：歌唱における感情表現技術「日本語歌詞の内容に沿った音楽的表現中級発展」
第１１回：歌唱における感情表現技術「その他の方法」
第１２回：伴奏者を伴っての実践（声楽展開Ⅳ試験曲）
第１３回：声楽展開Ⅳ試験曲の仕上げ
第１４回：声楽展開Ⅳ試験曲の表現追及
第１５回：声楽展開Ⅳ試験に向けた総括
※履修学生の習熟度と課題の進歩状況に応じて、各回の反復や入れ替えは行うが、概ね計画通りに授業を進める
定期試験　授業内で指定した曲を課題とする（グループ実施）

テキスト

日本歌曲集１（全音楽出版社）ほか

参考書・参考資料等

発声と身体のレッスン－魅力的な「こえ」と「からだ」を作るために－著：鴻上尚史（ちくま文庫）

学生に対する評価
出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点
計１００点満点により評価する

授業科目名：声楽実技Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中原　雅彦 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を習得する。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中で唯一言葉を伴った音楽である。後期ロマン派の曲を取り上げ、言葉と旋律の関係性を理解し、発声法を最大限に発揮して音楽を再現する事を目的とし、歌声と表現力をも用いて豊かな歌唱する事に重点をおく。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：後期ロマン派のクラシック声楽曲
第３回：後期ロマン派のクラシック声楽曲 言葉と旋律
第４回：後期ロマン派のクラシック声楽曲 レガートとフレージング
第５回：後期ロマン派のクラシック声楽曲 演奏解釈
第６回：後期ロマン派のクラシック声楽曲 演奏時の技術的解決
第７回：後期ロマン派のクラシック声楽曲 伴奏パートとの的確なアンサンブル
第８回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲
第９回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲 言葉と旋律
第１０回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲 レガートとフレージング
第１１回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲 演奏解釈
第１２回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲 演奏時の技術的解決
第１３回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲 演奏時の技術的解決と演奏法
第１４回：後期ロマン派・近代のクラシック声楽曲伴奏パートとの的確なアンサンブル ②
第１５回：研究のまとめ
定期試験

テキスト

オペラ・アリア集　リコルディ版。ドニゼッティ歌曲集 リコルディ版。ドニゼッティ歌曲集ドイツ歌曲集・ペータース版。日本歌曲集１・２・３　全音出版社。

新西洋音楽史（上・中・下）グラウト、パリスカ著　音楽の友社
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽展開Ⅴ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

声楽作品を演奏するための基礎的な知識の獲得を通し、歌唱における表現の幅を広げること

授業の概要

作品解釈などのディスカッションを重ね、より良い演奏実現に向け指導する

授業計画

第一回：歌唱の為の基礎的技術「姿勢と呼吸について」

第２回：歌唱の為の基礎的技術「フレージングとアーティキュレーションのコントロール」

第３回：歌唱の為の基礎的技術「ダイナミクスとアゴーギグのコントロール」

第４回：歌唱に用いる言語の発音法上級基礎

第５回：歌唱に用いる言語の発音法上級展開

第６回：歌唱における感情表現技術「歌詞解釈上級基礎」

第７回：歌唱における感情表現技術「歌詞解釈上級展開」

第８回：歌唱における感情表現技術「歌詞の内容に沿ったフレージングとアーティキュレーションの定着」

第９回：歌唱における感情表現技術「ダイナミクス及びアゴーギグの変化によるもの」

第１０回：歌唱における感情表現技術「歌詞の内容に沿った音楽的表現③」

第１１回：歌唱における感情表現技術「その他の方法」

第１２回：伴奏者を伴っての実践（声楽展開Ⅴ試験曲）

第１３回：声楽展開Ⅴ試験曲の仕上げ

第１４回：声楽展開Ⅴ試験曲の表現追及

第１５回：声楽展開Ⅴ試験に向けた総括

※履修学生の習熟度と課題の進歩状況に応じて、各回の反復や入れ替えは行うが、概ね計画通りに授業を進める

定期試験　授業内で指定した曲を課題とする（グループ実施）

テキスト

コンコーネ５０番（全音楽出版社）、イタリア歌曲集１・２（全音楽出版社）ほか

参考書・参考資料等

「伝統のイタリア語発音ーオペラ・歌曲を歌うためにー」著：ルイージ・チェラントラ 訳：小瀬村幸

子（東京藝術大学出版社)、「イタリア語で歌いましょうー歌唱表現を豊かにする発音・発声入門ー」著：森田学（株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点 計１００点満点により評価する

授業科目名： 声楽課題研究 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名：小村　朋代 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項・音楽 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

西洋音楽における、声楽の発声法・呼吸法・歌唱法・演奏法を四年間の総仕上げとして学ぶこと。

授業の概要

音楽の基礎となる「声楽」を通して、発声法や呼吸法、歌唱法や演奏法を学習する。「声楽」は音楽の中でも唯一言葉を伴った音楽である。言葉と旋律の関係性を理解し、様々な曲の歌唱における表現の幅を広げ、自分なりの考えを持って演奏出来るようになること。

授業計画

第１回：歌唱時の正しい姿勢
第２回：呼吸法の実践
第３回：フレージングのコントロール
第４回：アーティキュレーションのコントロール
第５回：ダイナミクスとアゴーギグのコントロール
第６回：歌唱に用いる言語の発音法
第７回：歌詞解釈
第８回：作品理解
第９回：音楽表現のためのフレージングとアーティキュレーション実践
第１０回：音楽表現のためのダイナミクスとアゴーギグ実践
第１１回：歌唱における感情表現の工夫
第１２回：伴奏者を伴っての実践
第１３回：課題曲の仕上げ
第１４回：課題曲の表現追求
第１５回：卒業演奏会に向けた総括
定期試験

テキスト
その都度指示する。

参考書・参考資料等
「伝統のイタリア語発音　オペラ・歌曲を歌うために(ルイージ・チェラントラ著、小瀬村幸子訳)」など

学生に対する評価
出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：６０点；試験：４０点
計１００点満点により評価する

授業科目名： 合唱【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中原　雅彦／小村　朋代 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

小学校を始め、中学校、高等学校の西洋音楽・邦楽において学校教員として合唱を指導していく上で必要な知識と技術を習得すること。

授業の概要

合唱の基本的な知識や発声法・表現法を身に付けることを目的とする。またアンサンブルにおける表現の向上を目指し、楽曲の練習から完成までの実践的な過程を学ぶ。また、合唱曲におけるピアノ伴奏についても学習する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：西洋音楽での発声法と呼吸法

第３回：ア・カペラの概要

第４回：ア・カペラの実践

第５回：ア・カペラの歌詞解釈と音楽的表現

第６回：アンサンブルとハーモニーの概要

第７回：アンサンブルとハーモニーの実践

第８回：アンサンブルとハーモニーの歌詞解釈と音楽的表現

第９回：アンサンブルとハーモニーの伴奏パートとの的確なアンサンブル

第１０回：歌唱時における母音と子音の扱いの概要

第１１回：歌唱時における母音と子音の扱いの実践

第１２回：合唱におけるフレージングの概要

第１３回：合唱におけるフレージングの実践

第１４回：合唱におけるフレージングの伴奏パートと的確なアンサンブル

第１５回：研究のまとめ

定期試験

テキスト アヴェマリア曲集(カワイ出版)、オラトリオ「メサイア」ヴォーカルスコア(ノヴェッロ版)、女声合唱のための「木下牧子アカペラ・コーラス・セレクション」(音楽の友社)等
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 出席した授業に対する積極性、態度、予習の取り組み：50 点；試験：50 点 計 100 点満点により評価する。

授業科目名： ピアノ基礎Ⅰ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己／石川　美也子
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む）

授業のテーマ及び到達目標

正しい読譜力・演奏技術の基礎を習得する。音楽の知識を修得し表現技術へ結びつけ、演奏に反映できる。

授業の概要

ピアノを演奏する上での正しい指の基本動作を身に着け、技術・表現の基礎力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：基礎技能を確認し、適した練習方法を提示。
第３回：読譜方法を知り、楽曲分析。
第４回：手のフォーム、指の動作確認
第５回：姿勢、身体の使い方
第６回：各モチーフと技術の整理
第７回：アーティキュレーションの表現方法、イントネーション
第８回：ハーモニーの役割
第９回：技能と身体の活かし方
第１０回：バランス
第１１回：テンポ・楽曲構成確認
第１２回：表現Ⅰダイナミクス
第１３回：表現Ⅱ音色
第１４回：表現Ⅲ構成バランス
第１５回：仕上げ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
定期試験（ピアノ実技）

テキスト

ハノン（全音出版社、音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価
個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%
定期試験レポート・・・10%
実技試験・・60%

授業科目名： ピアノ基礎Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を習得し、音楽の知識を表現技術へ結びつけ、演奏に反映できる。

授業の概要

練習曲を中心課題とし、ピアノを演奏する上で必要な技術の基礎力を強化し、表現基礎を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎）
第３回：楽曲分析
第４回：基礎技術Ⅰフレーズ
第５回：基礎技術Ⅱハーモニー
第６回：基礎技術Ⅲ声部
第７回：アーティキュレーションの表現方法、イントネーション
第８回：ハーモニー・フレーズの連携
第９回：テンポ・構成
第１０回：バランス
第１１回：表現Ⅰダイナミクス
第１２回：表現Ⅱ音色
第１３回：表現Ⅱ構成
第１４回：仕上げ（客観性）
第１５回：仕上げ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　基礎・練習曲を課題とする。（グループ実施）

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価
個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%
定期試験レポート・・・10%
実技試験・・60%

授業科目名：ピアノ基礎Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名：稲森　安太己 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

A水準（到達すれば「優」に相当）

1. ロマン派の楽曲について知り、作曲技法の違いや、表現の多様性を習得できる。

2. すでに学習した古典派との演奏スタイルの相違を知り、説明できる。

C水準（到達すれば「可」に相当）

ロマン派の楽曲の特徴を知り、古典派とは違った演奏スタイルを感じ取り、演奏表現に結び付ける工夫をすることができる。

授業の概要

ロマン派の作曲家のソナタ、及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学ぶと同時に、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：ロマン派の楽曲についての考察

第３回：読譜について

第４回：演奏解釈（1）楽曲について、様々な知識を使って解釈する方法を学ぶ。

第５回：演奏解釈（2）楽曲について、主に音楽理論の知識を用いて解釈する方法を学ぶ。

第６回：様々な演奏テクニックについて（1）五指の独立や、親指を通すテクニックを準備体操を含めて、詳細に学ぶ。

第７回：様々な演奏テクニックについて（2）重音奏法やポリフォニー奏法、オクターヴ奏法の基本を学ぶ。

第８回：演奏時における腕と体の使い方について

第９回：演奏時における呼吸について

第１０回：技術的な問題点の解決（1）課題曲の中におけるレガート奏法を中心にして、スケール・アルペッジオ奏法の各自の弾きにくい箇所を取り上げる。

第１１回：技術的な問題点の解決（2）課題曲の中におけるポリフォニー奏法を中心にして、各自の弾きにくい箇所を取り上げる。

第１２回：作曲された当時の時代背景について 第１３回：ロマン派と古典派における作曲技法の違い 第１４回：ロマン派と古典派における演奏様式の違い 第１５回：ロマン派の楽曲についてのまとめ 定期試験は実施しない。
テキスト 原典版（ヘンレ版、ウィーン原典版等）、または校訂版（パデレフスキー、ブライトコプフ等）の楽譜を各自で用意すること。
参考書・参考資料等 コルトー、ペルルミュテール、ケンプ、ボレー、アシュケナージ等の録音。（音楽棟資料室にあります） 兼常清佐著作集第５巻：大空社
学生に対する評価 授業への積極的参加態度（30％）、及び実技試験（70％）で評価する。

授業科目名： ピアノ展開Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。

授業の概要

古典派作品を中心とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎）
第３回：楽曲分析
第４回：基礎技術Ⅰフレーズ
第５回：基礎技術Ⅱハーモニー
第６回：アーティキュレーションの古典派解釈
第７回：フレーズとハーモニーの関連
第８回：構成
第９回：テンポ（技術・表現）
第１０回：バランス
第１１回：古典派表現Ⅰダイナミクス
第１２回：古典派表現Ⅱ音色
第１３回：古典派表現Ⅱ構成
第１４回：仕上げ（客観性）
第１５回：仕上げ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　基礎と古典派作品を課題とする。グループ実施。

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価
個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%
試験レポート・・・10%
実技試験・・60%

授業科目名： ピアノ実技Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

ロマン派の楽曲を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させる。高度な演奏技術を要する楽曲を流暢に弾くことができ、楽曲の構成を理解できる。

授業の概要

ロマン派の作曲家によるソナタ及び他の作品を通して、音楽を表現するための演奏技術を学び、楽曲分析能力をつけるための方法を学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス・課題曲の決定と考察
第２回：ロマン派の楽曲（特にシューベルト、ショパン、シューマン、リスト）について
第３回：読譜について
第４回：演奏解釈について（１）和声機能に即したフレージングについて
第５回：演奏解釈について（２）小フレーズと大フレーズについて
第６回：演奏テクニックについて（１）親指を活かした運指について
第７回：演奏テクニックについて（２）重音奏法、ポリフォニー奏法、オクターヴ奏法
第８回：演奏における腕と体の使い方について
第９回：演奏時における呼吸について
第１０回：技術的な問題点の解決（１）レガート奏法を中心に
第１１回：技術的な問題点の解決（２）ポリフォニー奏法を中心に
第１２回：作品の時代背景について
第１３回：ロマン派と古典派の作曲技法の違いについて
第１４回：ロマン派と古典派の演奏様式の違いについて
第１５回：ロマン派の楽曲についてのまとめ
定期試験（演奏試験を実施する）

テキスト

各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）

参考書・参考資料等 コルトー、ルビンシュタイン、ケンプ、アシュケナージ等の録音（音楽棟講義室に配架）
学生に対する評価 授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。

授業の概要

ロマン派作品を中心とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎）
第３回：楽曲分析
第４回：基礎技術Ⅰモチーフ・声部の弾き分け
第５回：アーティキュレーションのロマン派解釈
第６回：基礎技術Ⅱフレーズ・ハーモニー
第７回：基礎技術Ⅲダイナミクス
第８回：テンポ
第９回：構成理解
第１０回：バランス
第１１回：ロマン派表現Ⅰダイナミクス
第１２回：ロマン派表現Ⅱ音色
第１３回：ロマン派表現Ⅱ構成
第１４回：仕上げ（客観性）
第１５回：仕上げ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　基礎とロマン派作品を課題とする。グループ実施。

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%

試験レポート・・・10%

実技試験・・60%

授業科目名： ピアノ実技 II 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

近代に作曲された様々な作品を通して、ピアニスティックな演奏技術の習得と楽曲分析能力を向上させる。

授業の概要

フランスやロシアの近代の作曲家の作品にふさわしい演奏様式と解釈を学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス・課題曲の決定と考察
第２回：近代の楽曲（特にドビュッシー、ラヴェル、プロコフィエフ）について
第３回：読譜について
第４回：演奏テクニックについて（１）各学生の手に合った技術を見つける
第５回：演奏テクニックについて（２）レガート奏法とスタッカート奏法
第６回：演奏テクニックについて（３）スケール奏法とアルペジオ奏法
第７回：ポリフォニー奏法（１）２声対位法および３声対位法について
第８回：ポリフォニー奏法（２）４声部以上の対位法について
第９回：ペダルの使い方について（１）ペダルの踏み方の種類
第１０回：ペダルの使い方について（２）フランス近代音楽におけるペダリング
第１１回：演奏解釈について
第１２回：作品の時代背景について
第１３回：新しい芸術運動と音楽の関連について
第１４回：文学・哲学と音楽の関連について
第１５回：近代のピアノ音楽についてのまとめ
定期試験（演奏試験を実施する）

テキスト

各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）

参考書・参考資料等 コルトー、ルビンシュタイン、ケンプ、アシュケナージ等の録音（音楽棟講義室に配架）
学生に対する評価 授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。

授業の概要

ピアノ協奏曲を中心に、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高め、アンサンブルにより音楽全体を捉えていく。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎）
第３回：楽曲分析。ソロと伴奏。
第４回：基礎技術Ⅰフレーズ・ハーモニー・構成
第５回：基礎技術Ⅱダイナミクス・バランス
第６回：基礎技術Ⅲ時代様式
第７回：テンポ・構成理解
第８回：伴奏パートの理解
第９回：ソロ表現Ⅰ音色と身体の使い方
第１０回：ソロ表現Ⅱ表現構成
第１１回：アンサンブルⅠ　ソロの運びかた
第１２回：アンサンブルⅡ　合わせ方・呼吸法
第１３回：仕上げⅠ（客観性）予見と想定の確実性
第１４回：仕上げⅡ（客観性）暗譜・聴力
第１５回：仕上げⅢ　まとめ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　基礎とピアノ協奏曲作品を中心とした課題とする。グループ実施。

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし
学生に対する評価 個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30% 試験レポート・・・10% 実技試験・・60%

授業科目名： ピアノ実技 III 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

様々な作品を通してピアニスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身につける。
演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高める。

授業の概要

各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を様々な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。

授業計画

第１回：ガイダンス・課題曲の決定と考察
第２回：読譜について
第３回：演奏テクニックについて（１）課題ごとの演奏困難な箇所の練習法を考察
第４回：演奏テクニックについて（２）指の運動に関連する課題
第５回：演奏テクニックについて（３）手首や腕の運動に関連する課題
第６回：楽曲分析（１）分析内容を演奏に反映させる技術
第７回：楽曲分析（２）分析内容を演奏に反映させた結果を検証する方法
第８回：楽曲分析（３）分析内容の正誤の判定と独自分析による表現の許容範囲について
第９回：演奏解釈について（１）テクニックと分析から考察する演奏内容の範囲について
第１０回：演奏解釈について（２）演奏解釈を確定させる指針について
第１１回：暗譜について（１）身体的暗譜について
第１２回：暗譜について（２）分析的暗譜について
第１３回：作品の時代背景について
第１４回：演奏芸術について
第１５回：総合的なまとめ
定期試験（演奏試験を実施する）

テキスト

各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）

参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅳ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。

授業の概要

ロマン派後期～近現代作品を課題とし、ピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎）
第３回：楽曲分析。
第４回：基礎技術Ⅰアーティキュレーション・音型
第５回：基礎技術Ⅱフレーズ・ハーモニー
第６回：基礎技術Ⅲダイナミクス・バランス
第７回：テンポ・時代様式の理解
第８回：ペダル・身体の使い方
第９回：ロマン派後期～近現代表現Ⅰ音色
第１０回：ロマン派後期～近現代表現Ⅱフレーズ・ハーモニー
第１１回：ロマン派後期～近現代表現Ⅲ背景・キャラクター
第１２回：ロマン派後期～近現代表現Ⅳ身体の使い方
第１３回：構成
第１４回：仕上げⅠ（客観性）
第１５回：仕上げⅡ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　基礎とロマン派後期~近現代作品を課題とする。グループ実施。

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし
学生に対する評価 個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30% 試験レポート・・・10% 実技試験・・60%

授業科目名： ピアノ実技 IV 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

規模の大きな作品を通してピアニスティックな演奏技術に習熟し、高度な演奏様式を身につける。複雑な楽曲の演奏解釈に必要な楽曲分析の能力を高める。

授業の概要

各受講生が課題曲を選定し、それぞれの楽曲にふさわしい表現を高度な演奏技術と知識を駆使して楽曲の演奏に反映する。

授業計画

第１回：ガイダンス・課題曲の決定と考察
第２回：読譜について
第３回：演奏テクニックについて（１）課題ごとの演奏困難な箇所の練習法を考察
第４回：演奏テクニックについて（２）困難なテクニックの克服のための練習法
第５回：楽曲分析（１）和声機能に基づく分析
第６回：演奏テクニックについて（３）修めたテクニックの練度の向上について
第７回：演奏テクニックについて（４）総合的なテクニックの完成
第８回：楽曲分析（２）フレーズやアーティキュレーションに基づく分析
第９回：演奏解釈について（１）即時的・直感的演奏解釈の自覚の方法
第１０回：楽曲分析（３）作曲家のスタイルに基づく分析
第１１回：演奏解釈について（２）分析に基づく演奏解釈を演奏に反映させる方法
第１２回：作品の時代背景について
第１３回：演奏芸術について
第１４回：暗譜について
第１５回：総合的なまとめ
定期試験（演奏試験を実施する）

テキスト

各受講生の課題曲の原典版もしくは校訂版の楽譜（ヘンレ社、ベーレンライター社など）

参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業での課題への取り組み（30%）、実技試験（70%）

授業科目名： ピアノ展開Ⅴ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を習得し、時代様式の理解からふさわしい表現方法を修得する。技術と表現の結びつきを、客観的な視点（聴力）で演奏に反映できる。

授業の概要

個々に適した作品を課題とし、知識を深めながらピアノを演奏する上で必要な技術力と表現力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：手のフォーム・指の動作・身体の使い方（基礎）
第３回：楽曲分析
第４回：基礎Ⅰモチーフ
第５回：基礎Ⅱフレーズ・ハーモニー
第６回：基礎Ⅲダイナミクス・バランス
第７回：テンポ・時代様式の理解
第８回：ペダル・身体の使い方
第９回：表現Ⅰ音色
第１０回：表現Ⅱフレーズ・ハーモニー
第１１回：表現Ⅲ背景・キャラクター
第１２回：表現Ⅳ身体の使い方
第１３回：構成
第１４回：仕上げⅠ（客観性）
第１５回：仕上げⅡ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　各自に適した楽曲を課題とする。グループ実施。

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし
学生に対する評価 個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30% 試験レポート・・・10% 実技試験・・60%

授業科目名： ピアノ課題研究【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

読譜力・演奏技術の基礎を応用し、楽曲分析から演奏技術への反映、音楽表現に必要な客観性へ結びつけることができる。専門性の高い音楽教員としての音楽技能を習得する。

授業の概要

卒業演奏に向けて、舞台表現にふさわしく個々に適した作品を課題とし、卒業論文により学術的な知識を深めながら、演奏表現に結びつけ音楽技能を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：楽曲分析
第３回：技術基礎Ⅰ指の訓練
第４回：楽曲分析Ⅱ
第５回：技術基礎Ⅱ課題にふさわしい技術
第６回：構成分析
第７回：技術基礎Ⅲ骨格
第８回：表現Ⅰ身体の使い方
第９回：表現Ⅱ音色
第１０回：表現Ⅲフレーズ・モチーフ
第１１回：表現Ⅳ客観性
第１２回：作品背景・作曲家分析
第１３回：舞台所作と演奏持久力
第１４回：仕上げⅠ暗譜
第１５回：仕上げⅡ
個々の技能や進度に合わせて、1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験　各自に適した楽曲を課題とする。グループ実施。

テキスト

ハノン（全音出版社・音楽之友社）ほか

参考書・参考資料等

なし
学生に対する評価 個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・20% 試験レポート・・・10% 実技試験・・70%

授業科目名： 器楽基礎（和楽器を含む） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 山田　高誌／今井　治人、林　直子
			担当形態： クラス分け・単独／オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

リコーダーの歴史、演奏について学ぶとともに、日本伝統楽器の演奏法を学ぶ。

授業の概要

リコーダーの歴史、用いられた時代の演奏様式について学び、様々な様式、ジャンルの音楽の実習を行う。また、日本伝統楽器として琴、三味線等について広く学ぶ。

授業計画

第１回：リコーダーの歴史　～　歴史的音楽再構築の手がかりとしての“現代楽器”　（山田　高誌／今井　治人）

第２回：　リコーダー奏法の基礎。そして再構築されうる“歴史的演奏様式”について（山田　高誌／今井　治人）

第３回：リコーダー：ルネサンス時代の舞曲音楽の合奏（山田　高誌／今井　治人）

第４回：リコーダー：ルネサンス時代のポリフォニー作品の合奏（山田　高誌／今井　治人）

第５回：世俗歌曲マドリガーレの理解　～　詩の韻律の理解（山田　高誌／今井　治人）

第６回：リコーダー：世俗歌曲の合奏　（山田　高誌／今井　治人）

第７回：通奏低音実習（山田　高誌／今井　治人）

第８回：リコーダー：バロック時代の独奏ソナタの課題と練習（山田　高誌／今井　治人）

第９回：リコーダー：バロック時代の独奏ソナタの合奏（山田　高誌／今井　治人）

第１０回：リコーダー　演奏試験（山田　高誌／今井　治人）

第１１回：　日本伝統楽器：イントロダクション　楽器について歴史、記譜法（山田　高誌／林　直子）

第１２回：日本伝統楽器：奏法の初歩（山田　高誌／林　直子）

第１３回：日本伝統楽器：個人練習（山田　高誌／林　直子）

第１４回：日本伝統楽器：合奏（山田　高誌／林　直子）

第１５回：日本伝統楽器：演奏試験　（山田　高誌／林　直子）

定期試験は実施しない。

テキスト　適宜指示する
参考書　　適宜指示する
学生に対する評価 各授業とも、授業に対する参加度（50%）、実技試験（50パーセント）により評価を行う。

授業科目名： 器楽展開 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

楽器奏法を習得する過程から器楽指導の実践で必要な知識・技能を身につける。

授業の概要

各種リコーダーによる重奏の課題を通じて、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：チューニングについて

第３回：課題曲Ⅰ（二重奏）①２声体におけるハーモニーについて

第４回：課題曲Ⅰ（二重奏）②２声体におけるポリフォニーについて

第５回：課題曲Ⅰ（二重奏）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス

第６回：課題曲Ⅱ（三重奏）①３声体におけるハーモニーについて

第７回：課題曲Ⅱ（三重奏）②３声体におけるポリフォニーについて

第８回：課題曲Ⅱ（三重奏）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス

第９回：課題曲Ⅲ（四重奏）①４声体におけるハーモニーについて

第１０回：課題曲Ⅲ（四重奏）②４声体におけるポリフォニーについて

第１１回：課題曲Ⅲ（四重奏））③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス

第１２回：課題曲Ⅳ（四重奏以上）①ハーモニーについて

第１３回：課題曲Ⅳ（四重奏以上）②ポリフォニーについて

第１４回：課題曲Ⅳ（四重奏以上）③アインザッツ・ディナーミック・アゴーギグ・バランス

第１５回：全体のまとめ

定期試験

テキスト

適宜配布

参考書・参考資料等

吉沢実「リコーダーアンサンブルの基礎と技法【改訂版】」全音音楽出版社

学生に対する評価

授業での取り組み５０％、期末試験５０％をもとに総合的に評価する。

授業科目名： 器楽特別演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

器楽奏法の学修を深め、技術と表現を両輪とする器楽指導の実践で必要な知識・技能を身につける。

授業の概要

受講生の演奏技術の向上に資するとともに、器楽指導における実践的な知識・技能の演習をする。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：課題曲への考察とこれからの進め方

第３回：正確な読譜を目指す（リズム、ダイナミクス、音程）

第４回：正確な読譜を目指す（和声進行を把握する）

第５回：音楽の要素の表現への反映について（楽器の発音の仕組みからの考察）

第６回：音楽の要素の表現への反映について（身体能力の有効な活用からの考察）

第７回：楽曲構成についての考察（作曲様式や形式論から）

第８回：楽曲構成への考察と表現への反映（作品の全体像を把握する能力の向上）

第９回：これまでの成果演奏とその評価及び解説

第１０回：二重奏の課題について（アンサンブルにおけるリズム、ダイナミクス、音程の処理法）

第１１回：二重奏の課題について（アンサンブルにおける各声部の和声的処理について）

第１２回：二重奏の課題について（演奏を形成するコミュニケーションの方法について）

第１３回：二重奏の課題について（演奏全体像を構成する形式の共有について）

第１４回：二重奏の課題の演奏とその評価及び解説

第１５回：総論（これまでの学修の確認及び最終演奏）

定期試験

テキスト

適宜配布

参考書・参考資料等

適宜配布

学生に対する評価

授業での取り組み５０％、最終演奏５０％

授業科目名： 日本伝統音楽実習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 林　直子 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

日本伝統音楽を習得し、学校教育現場で実際に実技指導を伴う授業を実現する

授業の概要

三味線を使い、童謡から長唄まで実技を体験し、日本伝統音楽の基本を学ぶ

授業計画

第１回：三味線について、歴史、構造、材質などを理解する
　　取り扱い方、調弦、構え方を習得する
第２回：第１回の復習　実際に音を出す　童謡「うさぎ」、「さくら」の演奏
第３回：第２回の復習　ド、レ、ミ、ファ、ラ、シの音の確認　「お江戸日本橋」を演奏
　　奏法の「すくい」と「はじき」を覚える
第４回：第３回の復習　「お江戸日本橋」を１オクターブ上げて弾く　中指、薬指を使う
　　長唄「松の緑」の前弾きを弾く
第５回：第４回の復習　長唄「勧進帳」の寄せの合方を弾く
　　ミからドへの指の動かし方を覚える
第６回：第５回の復習　長唄「鞍馬山」のセリの合方を弾く
第７回：模擬授業の実施　実際に生徒に教える立場になったみる
第８回：第７回までの復習　長唄「吾妻八景」の佃の合方を弾く
第９回：第８回の復習　長唄「四季の山姥」の虫の合い方を弾く
第１０回：第９回の復習　長唄「連獅子」の狂いの合方を弾く
第１１回：第１０回の復習　長唄「小鍛冶」の拍子の合方を弾く
第１２回：第１１回の復習　長唄「小鍛冶」の拍子の合方の替手を弾く
第１３回：第１２回の復習　長唄「小鍛冶」の拍子の合方を合奏する
第１４回：総合復習（まとめ）
第１５回：試験課題曲の練習
定期試験

テキスト　必要に応じ適宜配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜配布する。
学生に対する評価 日本伝統音楽に取り組む意欲を①出席率で②習得の度合いで、を持って総合的判断とする

授業科目名： 音楽実践課題研究 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

授業で培った演奏や研究への多様な視点を用いて自らの力で演奏や研究成果を構築できる。

授業の概要

指揮・器楽の課題研究である。課題曲について技術と知識の両面から考察を深める。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：課題曲の設定とこれからの研究方針について

第３回：課題曲の技術的側面への考察

第４回：課題曲の理論的側面への考察

第５回：課題曲の歴史的側面への考察

第６回：これまでの考察の整理と演奏実践へ反映するための方法論

第７回：課題曲の音楽的言語について（技術的側面との関連）

第８回：課題曲の音楽的言語について（理論的側面との関連）

第９回：課題曲の音楽的言語について（歴史的側面との関連）

第１０回：これまでの考察の整理と演奏実践（技術的側面の実践）

第１１回：これまでの考察の整理と演奏実践（理論的側面の実践）

第１２回：これまでの考察の整理と演奏実践（歴史的側面の実践）

第１３回：研究成果への更なる考察（楽曲構成を踏まえた課題の抽出）

第１４回：研究成果の詳細な検討（技術的及び表現内容について）

第１５回：研究成果の再確認

定期試験

テキスト　適宜指示する

参考書　　適宜指示する

学生に対する評価

議論への参加（20％）、課題への取り組み30％，定期試験50％に基づき総合的に判断する。

授業科目名： 合奏 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 山田　高誌／今井　治人
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

合奏の指導に必要な知識と技能を身につけ、指導に生かすことができる。

授業の概要

楽器演奏を通して合奏の方法を学び、合奏指導で活用できる実践的な知識と技能を身につける。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：楽曲の練習１（課題楽曲に応じた各楽器のスケールの練習）

第３回：楽曲の練習２（ロングトーンの練習）

第４回：楽曲の練習３（楽器特有のアーティキュレイションの付け方）

第５回：楽曲の練習４（スケールを利用したアーティキュレイションの実践）

第６回：楽曲の練習５（演奏可能な音域を拡大するための技能）

第７回：楽曲の練習６（和音の合わせ方）

第８回：楽曲の練習７（アンサンブルに必要なアインザッツとブレス）

第９回：楽曲の練習８（指導法への展開）

第１０回：合奏の方法１（課題楽曲の選定と楽器の編成）

第１１回：合奏の方法２（パートの役割）

第１２回：合奏の方法３（これまでの学習を踏まえた合奏の実践）

第１３回：合奏の方法４（実践を通じた合奏の方法の考察）

第１４回：合奏の方法５（指導法への展開）

第１５回：成果発表

定期試験は行わない

テキスト

適宜、提示する。

参考書・参考資料等

履修者の演奏可能な楽器の構成に合わせて、適宜、提示する。

学生に対する評価

授業への参加（50%）、成果発表(50%)によって総合的に評価する。

授業科目名： 伴奏法演習Ⅰ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森　安太己／石川　美也子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

ピアノ伴奏の基礎知識、基礎技術を修得する。音楽全体を捉える事ができる。

授業の概要

音楽教員の授業展開に必要なピアノ伴奏の基礎技術や、主に学校教材の中の作品を取り上げ、楽曲全体の理解力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：楽曲分析　伴奏
第３回：楽曲分析
第４回：モチーフの役割
第５回：ハーモニーの理解
第６回：歌詞の理解
第７回：フレーズとの関わり・アンサンブルの特性
第８回：弾き歌い
第９回：バランス・テンポ
第１０回：ダイナミクス
第１１回：全体構成
第１２回：演奏時の身体の使い方、聴力
第１３回：合わせ
第１４回：仕上げ
第１５回：まとめ
グループ学習と個人指導にて1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験

テキスト

学校教材の他、個々に合わせて設定する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価
個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%
実技試験・・70%

授業科目名： 伴奏法演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択	単位数： 1単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

ピアノ伴奏の知識、応用技術を修得する。音楽全体を捉える事ができる。

授業の概要

音楽教員の授業を幅広く展開できるピアノ伴奏の応用技術や、様々な楽器や形態の作品を取り上げ、楽曲全体の理解力や表現力を高める。

授業計画

第１回：オリエンテーション（概要・課題選曲）
第２回：弾き歌い・楽曲簡易分析
第３回：初見・聴き分け
第４回：要約・ハーモニーの役割
第５回：無伴奏楽譜の伴奏付け
第６回：アンサンブルの特性Ⅰ　歌曲と合唱の違い
第７回：アンサンブルの特性Ⅱ　器楽（管楽器・弦楽器・打楽器）
第８回：楽曲分析
第９回：モチーフ、フレーズ分析
第１０回：全体構成
第１１回：伴奏の役割、バランス
第１２回：身体の使い方、聴力、ペダル
第１３回：合わせ
第１４回：仕上げ
第１５回：まとめ
グループ学習と個人指導にて1~15回の内容を総合的に指導する。
実技試験

テキスト

学校教材の他、個々に合わせて設定する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価
個人指導における課題点に対する毎回の改善、取り組み・・・30%
実技試験・・70%

授業科目名： 指揮法Ⅰ 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 今井　治人
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・指揮法

授業のテーマ及び到達目標

音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身につける。

授業の概要

ピアノを使った演習を行い、基礎的な段階から応用段階に至る指揮の技法について解説する。

授業計画

第１回：指揮法の概要と打法（解説・演習）
第２回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.1（解説）
第３回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.1（演習）
第４回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.2（解説）
第５回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.2（演習）
第６回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.4（解説）
第７回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.4（演習）
第８回：斎藤秀雄著「指揮法教程」練習題　No.7（解説・演習）
第９回：ドリープ「コッペリア・ワルツ」（解説）
第１０回：ドリープ「コッペリア・ワルツ」（演習）
第１１回：三善晃「麦わら帽子」（解説・演習）
第１２回：G.ホルスト「吹奏楽のための組曲第１番・シャコンヌ」（スコアリーデング）
第１３回：G.ホルスト「吹奏楽のための組曲第１番・シャコンヌ」（解説と演習１）
第１４回：G.ホルスト「吹奏楽のための組曲第１番・シャコンヌ」（解説と演習２）
第１５回：成果発表
定期試験

テキスト

斎藤秀雄著「改訂新版指揮法教程」音楽之友社

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

授業での課題への取り組み50％、期末試験50％から総合的に評価する。

授業科目名： 指揮法Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 今井　治人 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・指揮法

授業のテーマ及び到達目標

音楽的な意図を明確に伝えるための基礎的な指揮法を身につける。

授業の概要

ピアノ連弾を使った演習。スコアリーデングの習熟と共に応用段階の指揮法について解説する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：ドビュッシー「小組曲・1. 小舟にて」（楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説）

第３回：ドビュッシー「小組曲・1. 小舟にて」（実践演習）

第４回：ドビュッシー「小組曲・3. メヌエット」（楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説）

第５回：ドビュッシー「小組曲・3. メヌエット」（実践演習）

第６回：ドビュッシー「小組曲・4. バレエ」（楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説）

第７回：ドビュッシー「小組曲・4. バレエ」（実践演習）

第８回：ドビュッシー「小組曲・4. バレエ」（実践演習への追加指導及び解説）

第９回：ドビュッシー「小組曲」成果発表（講評及び解説）

第１０回：J. シュトラウス「こうもり」序曲（前半部の楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説）

第１１回：J. シュトラウス「こうもり」序曲（前半部の実践演習）

第１２回：J. シュトラウス「こうもり」序曲（中間部の楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説）

第１３回：J. シュトラウス「こうもり」序曲（中間部の実践演習）

第１４回：J. シュトラウス「こうもり」序曲（終結部の楽曲分析とそれを踏まえた指揮法の解説及び実践演習）

第１５回：　J. シュトラウス「こうもり」序曲　成果発表（講評及び解説）

定期試験

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

斎藤秀雄著「改訂新版指揮法教程」音楽之友社

学生に対する評価

授業での課題への取り組み50%、期末試験50%から総合的に評価する。

授業科目名： 音楽理論A 【独自科目（熊大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山田高誌 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

　データベース、レファレンス資料の使い方、そして先行研究を調べ、自らの興味や問を自ら解決する手法を身につける。そしてそれらを通して音楽研究、分析法を学ぶ。

授業の概要

　レファレンス資料、データベースの使い方、学術論文の仕組み、レジュメ、パワーポイント作成を学ぶ。それを通して多様な音楽に関わる専門研究について理解を図る。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：各種音楽事典の使い方
第３回：各種オンラインデータベースの使い方
第４回：学術論文の仕組み１　～　検索方法
第５回：学術論文の仕組み２　～　書式、文献記載法
第６回：学術論文の仕組み３　～　構成、脚注、引用方法
第７回：以下各トピックに関わる「先行研究」を各自探し、以下、輪読/ 討議の準備を行う
第８回：西洋楽器に関する論文についての紹介と討議
第９回：バロック～古典派時代の楽曲に関する論文の紹介と討議
第１０回：ロマン派時代の楽曲に関する論文の紹介と討議
第１１回：20世紀の作品の楽曲に関する論文の紹介と討議
第１２回：日本の伝統楽器に関する論文の紹介と討議
第１３回：日本の伝統音楽に関する論文の紹介と討議
第１４回：世界の楽器、音楽に関する論文の紹介と討議
第１５回：とりまとめと総括
定期試験は実施しない

テキスト

　適宜指示する

参考書・参考資料等

久保田慶一『音楽の文章セミナー』音楽之友社
学生に対する評価 授業に対する参加度(40%)、個人発表の準備と達成度(60%)による。

授業科目名： 音楽基礎理論 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川　美也子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

音楽の基礎理論を理解し、読譜における基礎知識を習得し基本的な楽曲分析ができる。

授業の概要

基本的な音楽理論を学び、楽曲分析や読譜における基礎力を身につける。

授業計画

第１回：譜表と音名、音符
第２回：リズムと拍子
第３回：音程Ⅰ　単音程・複音程
第４回：音程Ⅱ　臨時記号含音程・転回音程
第５回：音階Ⅰ　種類・長音階
第６回：音階Ⅱ　短音階
第７回：移調
第８回：調の関係
第９回：調判定
第１０回：和音Ⅰ　基本・三和音
第１１回：和音Ⅱ　四和音・カデンツ
第１２回：楽語・表示法
第１３回：コードネーム
第１４回：奏法
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

新装版　楽典　理論と実習　（音楽の友社）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回の取り組み・・・30％ 定期試験・・70％

授業科目名： 音楽理論 BI 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、音楽の知識と理解を深める。

授業の概要

和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、その実践力を確認する。各種楽曲の和声分析を行う。

授業計画

第１回：三和音の概説
第２回：配置、声部について
第３回：一般禁則について
第４回：三和音基本形について
第５回：三和音基本形の連結法について
第６回：三和音基本形によるバス課題の実施
第７回：三和音第１転回形について
第８回：三和音第１転回形の連結法について
第９回：三和音第１転回形によるバス課題の実施
第１０回：三和音第２転回形について・第２転回形の連結法について
第１１回：三和音第２転回形によるバス課題の実施
第１２回：機能和声について
第１３回：カデンツについて
第１４回：長調、短調の課題について
第１５回：音楽理論 BI のまとめ
定期試験

テキスト

島岡　譲著『和声のしくみ　楽曲のしくみ』音楽之友社（2012）

参考書・参考資料等

島岡　譲　他著『総合和声　実技・分析・原理』音楽之友社(1998)

池内友次郎　他著『和声　理論と実習 I』音楽之友社（2000）

学生に対する評価

授業中の課題への取り組み（30%）、定期試験（70%）

授業科目名： 音楽理論 BII 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

音楽理論を通して調性感覚、和声感覚を高め、課題実習を通して理論を習得する。

授業の概要

ドミナント諸和音、借用和音の進行法を学習する。バス課題およびソプラノ課題の実施を通して理論に習熟し、知識を深める。

授業計画

第１回：ドミナント諸和音の確認
第２回：カデンツについて
第３回：属七和音、属九和音の復習
第４回：属七和音、属九和音のソプラノ課題について
第５回：非和声音について
第６回：サブドミナント諸和音（D2 和音）の概説
第７回：借用和音、代理和音について
第８回：ドッペルドミナント和音について
第９回：ドリアの和音について
第１０回：ナポリの和音について
第１１回：サブドミナント諸和音（D2 和音）バス課題について
第１２回：サブドミナント諸和音（D2 和音）のソプラノ課題について
第１３回：楽曲における和音の分析について
第１４回：サブドミナント諸和音（D2 和音）の総論
第１５回：音楽理論 BII のまとめ
定期試験

テキスト

島岡　譲著『和声のしくみ　楽曲のしくみ』音楽之友社（2012）

参考書・参考資料等

島岡　譲　他著『総合和声　実技・分析・原理』音楽之友社(1998)

池内友次郎　他著『和声　理論と実習 I』音楽之友社（2000）

学生に対する評価

授業中の課題への取り組み（30%）、定期試験（70%）

授業科目名： 作曲法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育に必要な西洋音楽の基礎理論、和声法を学習し、知識と理解を深める。楽曲の和声分析や非和声音の分析を通して楽曲の読譜力を高める。

授業の概要

和声理論の講義をもとに、和声課題を実施し、実践力を身につける。各種楽曲の和声分析や非和声音の分析を行う。

授業計画

第１回：ドミナント諸和音の概説
第２回：カデンツについて
第３回：属七和音の概説
第４回：属九和音の概説
第５回：長調の属七、属九和音の活用
第６回：短調の属七、属九和音の活用
第７回：ドミナント諸和音のバス課題について
第８回：ドミナント諸和音のバス課題の実施
第９回：ソプラノ課題の概説
第１０回：旋律線について
第１１回：二声対位法の概説
第１２回：ドミナント諸和音のソプラノ課題概説
第１３回：ドミナント諸和音のソプラノ課題の実施
第１４回：楽曲における和声分析概説
第１５回：作曲法のまとめ
定期試験

テキスト

島岡　譲著『和声のしくみ　楽曲のしくみ』音楽之友社（2012）

参考書・参考資料等

島岡　譲　他著『総合和声　実技・分析・原理』音楽之友社(1998)

池内友次郎　他著『和声　理論と実習 I』音楽之友社（2000）

学生に対する評価

授業中の課題への取り組み（30%）、定期試験（70%）

授業科目名： 作曲演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

楽器学・管弦楽法の基礎を学び、編曲実習を通して楽器を活かした書法を磨く。様々な作曲家の様式を学習し、各種様式を模した作曲実習を行い、音楽理解力を高める。

授業の概要

様々な作曲家の様式による作曲実習を行う。短いピアノ曲を小編成（二重奏から三重奏）のアンサンブルに編曲する実習を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス・編曲法（１）木管楽器 I
第２回：編曲法（２）木管楽器 II
第３回：編曲法（３）金管楽器 I
第４回：編曲法（４）金管楽器 II
第５回：編曲法（５）弦楽器 I
第６回：編曲法（６）弦楽器 II
第７回：編曲法（７）総論
第８回：スタイル・スタディー（１）ベートーヴェン
第９回：スタイル・スタディー（２）ショパン
第１０回：スタイル・スタディー（３）受講生の選択による作曲家
第１１回：スタイル・スタディー（４）ブラームス
第１２回：スタイル・スタディー（５）受講生の選択による作曲家
第１３回：スタイル・スタディー（６）ドビュッシー
第１４回：スタイル・スタディー（７）ストラヴィンスキー
第１５回：総論
定期試験（作品発表）

テキスト

教員作成資料を適宜配布
参考書・参考資料等 河江　一仁著『新総合音楽講座８　管弦楽法概論』（財団法人ヤマハ音楽振興会）
学生に対する評価 課題提出（50%）、授業内での課題への取り組み（20%）、定期試験（30%）

授業科目名： 作曲演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲森　安太己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

管弦楽の楽器の特性や書法を深く理解し、作曲に活かす。楽曲の形式や構成を工夫し、創作主題をもとに小編成の楽曲を作曲し、創造的な音楽性を高める。

授業の概要

管弦楽の楽器の特性や書法、主題の創作や展開、変奏法について学習する。創作主題に基づき、形式・構成を感じさせることのできる楽曲の作曲実習を行う。

授業計画

第１回：主題の創作について
第２回：主題の展開、変奏法について（１）和音の修飾と非和声音
第３回：編曲法応用（１）各種木管姉妹楽器
第４回：主題の展開、変奏法について（２）リズムの拡大・縮小と音程の拡大・縮小
第５回：複数の楽器による響きの作り方について
第６回：編曲法応用（２）打楽器
第７回：２部形式・３部形式について
第８回：ソナタ形式について（１）ソナタ形式の構造と判定について
第９回：編曲法応用（３）ハープ
第１０回：ソナタ形式について（２）ソナタ形式の調機能について
第１１回：その他の形式について
第１２回：編曲法応用（４）鍵盤楽器
第１３回：自由な形式の楽曲について
第１４回：音楽における形式の意義・意味について
第１５回：総論
定期試験（作品発表）

テキスト

教員作成資料を適宜配布
参考書・参考資料等 河江　一仁著『新総合音楽講座８　管弦楽法概論』（財団法人ヤマハ音楽振興会）
学生に対する評価 課題提出（50%）、授業内での課題への取り組み（20%）、定期試験（30%）

授業科目名： 音楽学演習I 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 山田　高誌 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

音楽学の諸課題について理解を深める。

授業の概要

音楽学の中心的課題である楽譜校訂について学ぶ。

授業計画

第１回：音楽学という学問領域
第２回：楽譜校訂の種類　～　批判校訂版の意義、役割
第３回：楽譜史料検索の手法
第４回：楽譜史料検索の実際
第５回：批判校訂版作成にむけて、校訂方針の決定と、課題楽曲の設定
第６回：楽譜作成ソフト（フィナーレ）使い方実習
第７回：楽譜作成ソフト（ミューズスコア）使い方実習
第８回：校訂作業実習　ガイダンス
第９回：校訂作業実習　音符入力
第１０回：校訂作業実習 省略記号
第１１回：校訂作業実習　表情記号
第１２回：校訂作業実習　歌詞入力
第１３回：校訂作業実習　誤記等に対する介入
第１４回：校訂作業実習　校訂ノート記載
第１５回：とりまとめと総括
定期試験は実施しない

キスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

徳丸吉彦『民族音楽学』放送大学、1991
久保田慶一　他『はじめての音楽史』音楽之友社、1996

柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』音楽之友社、1999
根岸一美、三浦信一郎編『音楽学を学ぶ人のために』世界思想社、2004
ウィリー・アーペル『ポリフォニー音楽の記譜史』東川清一訳、春秋社、1998
大崎滋生『文化としてのシンフォニー』平凡社、2005
Maria Caraci Vela, La filologia musicale, Istituzioni, storia, strumenti critici, Lucca, LIM, 2005
福中冬子訳『ニュー・ミュージコロジー　音楽作品を「読む」批評理論』慶應義塾大学出版会、201

学生に対する評価

授業における参加度（50%）、課題における達成度（50%）

授業科目名： 音楽学演習II 【独自科目（熊大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 山田高誌 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

音楽文化に関わる諸課題（西洋、諸民族、日本、ポピュラー）について理解を深める。

授業の概要

音楽文化学領域の様々な対象、研究手法を学ぶ。

授業計画

第1回：イントロダクション

第２回：西洋音楽研究における諸課題　概要

第3回：楽曲分析について

第4回：歴史区分について

第5回：ジャンル区分について

第6回：楽譜校訂について

第7回：日本音楽史研究における諸課題　概要

第8回：能、歌舞伎について

第9回：　明治以降の邦楽、“作られた伝統”について

第１０回：民族音楽学研究における諸課題　概要

第１１回：モンゴル、インドを事例として

第１２回：西洋における諸民族の音楽（イタリア、東欧を中心とする伝統音楽)

第１３回：ポピュラー音楽研究における諸課題　概要

第１４回：ロック、ヒップホップを事例として

第１５回：とりまとめと総括

定期試験は実施しない

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

適宜指示する

学生に対する評価

授業課題における取組姿勢と達成度（60%）、期末レポート課題（40%）により評価する。

授業科目名： 音楽史Ⅰ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山田　高誌 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

世界各地の音楽の役割を理解したうえで、西洋と世界の各時代の様々なトピックを学ぶ。

授業の概要

「音楽」の総体から、一部が抜き出されて「歴史」とされたその「一部」の西洋と世界の音楽、および取りこぼされてきた音楽について、それぞれ理解を深める。

授業計画

第１回：世界の音楽の構造　～　宗教、共同体、産業
第２回：世界の楽器の広がり　～　ユーラシア大陸上の人々のコミュニケーションとして
第３回：歴史を刻むという行為　～　「西洋音楽史」と「クラシック概念」の成立
第４回：中世までの西洋音楽　～　古代ギリシャ、五線の発明
第５回：ルネサンス時代の音楽　～　ポリフォニーの発展
第６回：近代の芽生え　通奏低音の発明
第７回：モンテヴェルディ《オルフェーオ》（1607）
第８回：バロック時代の声楽、器楽
第９回：オペラの仕組み　ジャンル、役割、レパートリー
第１０回：モーツァルトと《フィガロの結婚》（1786）
第１１回：ベートーヴェンのシンフォニーとロマン派
第１２回：ヴェルディ、ヴェリスモオペラ
第１３回：20 世紀音楽　～　無調、新古典主義、12 音技法、セリー技法
第１４回：日本音楽史概論・通史１雅楽
第１５回：日本音楽史概論・通史２能、狂言、人形浄瑠璃等、その他の芸能
定期試験は実施しない

テキスト 　適宜指示
参考書・参考資料等 カロッツォ＆チマガッリ『西洋音楽の歴史１～３』川西麻理訳（2009-11）ほか
学生に対する評価 　授業参加度（30%）、ミニレポート（20%）、期末レポート課題（50%）により評価する。

授業科目名： 音楽史II 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 山田　高誌 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

通史の一部となる西洋音楽の個別ジャンルの形成と展開を、具体的なトピックを通して学ぶ

授業の概要

シンフォニー、オペラを中心に、ジャンルの形成、展開を多角的に検討する。

授業計画

第１回：イントロダクション
第２回：ジャンルの成立と発展、記述
第３回：シンフォニー：　17世紀の器楽曲として
第４回：シンフォニー：　18世紀　オペラ序曲として
第５回：シンフォニー：　18世紀　交響曲として
第６回：シンフォニー：　19世紀　ベートーヴェン、ブルックナー
第７回：シンフォニー：　19世紀　交響詩
第８回：オペラ：　17世紀　モノディと初期オペラ
第９回：オペラ：　17世紀　ヴェネツィアオペラ
第１０回：オペラ：　18世紀　オペラ・セリア　台本の仕組み
第１１回：オペラ：　18世紀　オペラ・セリア　音楽の仕組み
第１２回：オペラ：　18-19世紀　喜劇オペラ　台本の仕組み
第１３回：オペラ：　18-19世紀　喜劇オペラ　音楽の仕組み
第１４回：オペラ：　19世紀　オペラにおける写実主義
第１５回：とりまとめと総括
定期試験は実施しない

テキスト

適宜指示する

参考書・参考資料等

柿沼敏江『無調の誕生　ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』音楽之友社、2020

烏賀陽『Jポップとは何か　巨大化する音楽産業』岩波新書、2005
学生に対する評価 　授業参加度（30%）、ミニレポート（20%）、期末レポート課題（50%）により評価する。

授業科目名：日本・民族音楽概説 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本　百合子
			担当形態：単独

科　目	教科に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）

授業のテーマ及び到達目標：日本の伝統音楽の代表的な種目とその成立過程、音楽美のあり方や表現様式の特徴などを全般的に理解することを目標とする。

授業の概要：日本の伝統音楽の代表的な種目と、関連するアジアの諸芸能の例について、歴史の流れに沿って概説する。

授業計画

第１回：日本の伝統音楽の概要と歴史的な時代区分

第２回：原始古代の日本音楽の様相

第３回：雅楽の成立

第４回：雅楽の種類と各様式

第５回：琵琶楽の成立と発展

第６回：能狂言の誕生と展開　①狂言

第７回：能狂言の誕生と展開　②能

第８回：三味線の伝来と三味線音楽の分化　①歌いもの

第９回：三味線の伝来と三味線音楽の分化　②語りもの

第１０回：三味線音楽と舞台総合芸術　①歌舞伎舞踊

第１１回：三味線音楽と舞台総合芸術　②歌舞伎狂言

第１２回：三味線音楽と舞台総合芸術　③文楽

第１３回：箏曲の発展と三曲合奏

第１４回：近現代の箏曲の展開

第１５回：近現代の日本音楽

定期試験

テキスト：特に指定しない

参考書・参考資料等：必要に応じて、都度紹介する。

学生に対する評価：出席状況と受講姿勢から判定する平常点、小課題２～３回、最終課題１回の課題評点の合計点によって評価する。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅰ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山崎　浩隆／荒巻　治美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

音楽の指導法について歴史を含め多様な指導の在り方を理解するとともに、内容および方法の検討を行うことができる。

授業の概要

文献の講読および授業動画をもとに音楽科の指導法について検討する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：過去の音楽教育の検討1（明治期から戦前まで）

第３回：過去の音楽教育の検討2（戦後初期から現代まで）

第４回：表現指導の内容と方法（学習指導要領の検討）

第５回：表現領域の授業づくり（年間指導計画と学習指導案の検討）

第６回：鑑賞指導の内容と方法（学習指導要領の検討）

第７回：鑑賞領域の授業づくり（年間指導計画と学習指導案の検討）

第８回：模擬授業（教材の検討を中心に）

第９回：模擬授業（授業構成を中心に）

第１０回：模擬授業（教具・板書・ICT機器を中心に）

第１１回：表現領域の模擬授業

第１２回：鑑賞領域の模擬授業

第１３回：模擬授業の振り返り

第１４回：優れた授業実践の動向

第１５回：音楽科の課題と展望

定期試験を行わない

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等 　中学生の音楽：教育芸術社　　音楽のおくりもの：教育出版
学生に対する評価 　レポート、模擬授業や指導案などで行う。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山崎　浩隆／荒巻　治美 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができる。

授業の概要

文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：優れた音楽科教育法の研究1（理念の確認）

第３回：優れた音楽科教育の研究2（目的の確認）

第４回：優れた音楽科教育の研究3（指導法の確認）

第５回：優れた音楽科教育の研究4（指導法の分析）

第６回：優れた音楽科教育の研究5（指導法をもとにした活動）

第７回：優れた音楽科教育の研究6（指導法をもとにした活動の振り返り）

第８回：優れた音楽科教育の研究7（前回までと異なる指導法の理念の確認）

第９回：優れた音楽科教育の研究8（指導法の確認）

第１０回：授業の目標、内容、評価の検討（ICT活用おとび教材を含む）

第１１回：音楽科の授業づくり1（目標、内容および評価の検討）

第１２回：音楽科の授業づくり2（学習指導案の作成）

第１３回：音楽科の授業づくり3（模擬授業および振り返り）

第１４回：音楽科の授業づくり4（改善案の検討）

第１５回：音楽科の課題と展望

定期試験を行わない

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等 　中学生の音楽：教育芸術社　　音楽のおくりもの：教育出版
学生に対する評価 　レポート、模擬授業の指導案等で行う。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅲ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 山崎　浩隆／荒巻　治美 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができる。

授業の概要

文献の講読および授業動画をもとに具体的な音楽科の指導法について検討する。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：音楽科教育の検討1（英国の理論等をもとに）
第３回：音楽科教育の検討2（英国の実践等をもとに）
第４回：音楽科教育の検討3（英国の実践の分析等をもとに）
第５回：音楽科教育の検討4（これまでの内容をもとにしたディスカッション）
第６回：音楽科教育の検討5（米国の理論等をもとに）
第７回：音楽科教育の検討6（米国の実践等をもとに）
第８回：音楽科教育の検討7（米国の実践の分析等をもとに）
第９回：音楽科教育の検討8（5回以降の内容をもとにしたディスカッション）
第１０回：表現の授業づくり１（歌唱教材を中心に）
第１１回：表現の授業づくり２（ICT機器利用や課題設定を中心に）
第１２回：表現の授業づくり３（器楽教材を中心に）
第１３回：表現の授業づくり４（技能指導を中心に）
第１４回：鑑賞の授業づくり１（教材の研究を中心に）
第１５回：鑑賞の授業づくり２（ICY機器利用や課題設定を中心に）
定期試験を行わない

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）

参考書・参考資料等 　中学生の音楽：教育芸術社　　音楽のおくりもの：教育出版
学生に対する評価 　レポート、模擬授業の指導案等で行う。

授業科目名： 中等音楽科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 山崎　浩隆／荒巻　治美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　音楽）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

自身で設定した指導における課題を文献によって探究し、音楽教育の様々な考え方や実践方法の理解を深め、それらの知見をもとに授業づくりを行うことができる。

授業の概要

　文献および実践資料を通して指導についての理解を深めるとともに、それをいかした授業を構想し、実践することができる。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：調査・研究のテーマ設定
第３回：調査１（関連文献の検討等）
第４回：調査２（先行研究の検討等）
第５回：調査３（実践資料の検討等）
第６回：調査内容の整理
第７回：調査・研究結果の報告
第８回：調査をもとにした学習指導案の検討
第９回：修正した学習指導案の検討
第１０回：模擬授業１（歌唱活動等）
第１１回：模擬授業２（器楽活動等）
第１２回：模擬授業３（創作活動等）
第１３回：模擬授業４（鑑賞活動等）
第１４回：模擬授業の総括
第１５回：まとめ
定期試験を行わない

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編」教育芸術社（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美

術編」教育図書（2019）
参考書・参考資料等 　中学生の音楽：教育芸術社　　音楽のおくりもの：教育出版
学生に対する評価 　レポート、模擬授業の指導案等で行う。

授業科目名：絵画基礎Ⅰ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：松永　拓己 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

絵画のデッサンと映像メディア表現の基礎技能・表現力習得する。

授業の概要

様々なモチーフを単色で描写する。作品制作に取組、社会的制作発表を行う。

授業計画

第１回：デッサン表現①ガイダンス

第２回：デッサン表現①（静物描写）デッサンの基礎表現を行う（形態）

第３回：デッサン表現①（静物描写）デッサンの基礎表現を行う（色彩）

第４回：デッサン表現②（構成描写）デッサンの基礎表現を複数構成で行う（形態）

第５回：デッサン表現②（構成描写）デッサンの基礎表現を複数構成で行う（色彩）

第６回：デッサン表現②（人物描写）デッサンの基礎表現を人物で行う（形態）

第７回：デッサン表現③（人物描写）デッサンの基礎表現を人物で行う（色彩）

第８回：デッサン表現③（人物描写）スケッチ基礎表現を行う（形態）

第９回：デッサン表現③（人物描写）スケッチ基礎表現を行う（色彩）

第１０回：映像メディア表現①（風景描写）映像を使いスケッチを行う

第１１回：映像メディア表現②（静物描写）映像を使い静物デッサンを行う

第１２回：絵画制作社会活動（学外制作展示　企画創作）

第１３回：絵画制作社会活動（学外制作展示　実践）

第１４回：絵画制作社会活動（学外制作展示　発表会）

第１５回：まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

別途資料準備

参考書・参考資料等

絵画技法体系１，２，３（三麗社）1981年　世界美術百科Ⅰ（第一法規）1985年

学生に対する評価

提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名：絵画基礎Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松永　拓己 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

絵画表現に慣れ親しみ、基礎的水彩技法・制作法を習得する。

授業の概要

水彩画材の基礎を学び、様々な描画材に慣れ表現し、社会的発表を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：水彩画（紙）制作（技法）

第３回：水彩画（紙）制作（形態）

第４回：水彩画（紙）制作（色彩）

第５回：水彩画（キャンバス）制作（技法）

第６回：水彩画（キャンバス）制作（形態）

第７回：水彩画（キャンバス）制作（色彩）

第８回：水彩画（キャンバス）制作（空間）

第９回：水彩画（自由素材　他）制作（技法）

第１０回：水彩画（自由素材　他）制作（形態）

第１１回：水彩画（自由素材　他）制作（空間）

第１２回：絵画制作社会活動（学外活動　企画創作）

第１３回：絵画制作社会活動（学外活動　実践活動）

第１４回：絵画制作社会活動（学外活動　まとめ）

第１５回：　発表会

定期試験は実施しない。

テキスト

別途資料準備

参考書・参考資料等

絵画技法体系１，６，１０（三麗社）1981年　世界美術百科Ⅰ（第一法規）1985年

学生に対する評価

提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名：絵画演習Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松永　拓己
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

静物モチーフ描写、人物モデル描写を通して自己の構想的絵画表現ができる。

授業の概要

様々な描画材を用いて、静物画、人物画による絵画制作課題に取り組む。画面作り計画を理解する。素材、色彩、バランス、プロポーションの理解を進め絵画制作を行い学外発表する。

授業計画

第１回：画材の研究（ガイダンス　導入）
第２回：画材の研究（静物　構想画　技法）
第３回：画材の研究（静物　構想画　資料収集）
第４回：画材の研究（静物　構想画　形態）
第５回：画材の研究（静物　構想画　色彩）
第６回：画材の研究（静物　構想画　空間）
第７回：画材の研究（人物　構想画　技法）
第８回：画材の研究（人物　構想画　資料収集）
第９回：画材の研究（人物　構想画　形態）
第１０回：画材の研究（人物　構想画　色彩）
第１１回：画材の研究（人物　構想画　空間）
第１２回：絵画制作社会貢献活動（学外活動　企画創作）
第１３回：絵画制作社会貢献活動（学外活動　実践活動）
第１４回：絵画制作社会貢献活動（学外活動　まとめ）
第１５回：発表会
定期試験は実施しない。

テキスト

別途資料準備

参考書・参考資料等

絵画技法体系６（三麗社）1981年　世界美術百科Ⅰ（第一法規）1985年

学生に対する評価

提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名：絵画演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松永　拓己
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

絵画　風景画制作（テーマを設定、制作し、具象・抽象表現を理解し、自己表現を研究する）

授業の概

風景画を制作する。自然の中で五感を生かし、具象的表現、抽象的表現について計画を立て制作・作品発表を行う。

授業計画

第１回：絵画制作（テーマ設定・調査）
第２回：絵画制作（調査　資料収集）
第３回：絵画制作（風景画1）具象的表現（形態）
第４回：絵画制作（風景画1）具象的表現（色彩）
第５回：絵画制作（風景画1）具象的表現（空間）
第６回：絵画制作（風景画1）具象的表現（構成）
第７回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（形態）
第８回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（色彩）
第９回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（空間）
第１０回：絵画制作（風景画2）抽象的表現（構成）
第１１回：絵画制作（風景画3）自主的表現（形態）
第１２回：絵画制作（風景画3）自主的表現（色彩）
第１３回：絵画制作（風景画3）自主的表現（空間）
第１４回：絵画制作（風景画3）自主的表現（構成）
第１５回：発表会
定期試験は実施しない。

テキスト

別途資料準備

参考書・参考資料等

絵画技法体系１，６（三麗社）1981年　世界美術百科Ⅰ（第一法規）1985年

学生に対する評価

提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名：絵画演習Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松永　拓己
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 絵画（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

絵画における異素材表現研究を行い、コラージュ、版等による制作及びデジタル活用による絵画制作が出来る。

授業の概要

版を使った絵画表現と、デジタル素材（印刷を含む）活用による絵画表現の発表を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（資料収集）
第３回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（下絵）
第４回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（彫）
第５回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（貼）
第６回：異素材を使った絵画表現（コラージュ・版制作画）（擦）
第７回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（資料収集）
第８回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（構想）
第９回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（形態）
第１０回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（色彩）
第１１回：異素材を使った絵画表現（デジタル活用絵画）（空間）
第１２回：絵画制作社会活動（学外活動ワークショップ　企画創作）
第１３回：絵画制作社会活動（学外活動ワークショップ　実践）
第１４回：絵画制作社会活動（学外活動ワークショップ　まとめ）
第１５回：発表会
定期試験は実施しない。

テキスト

別途資料準備

参考書・参考資料等

絵画技法体系１，６、８（三麗社）1981年　世界美術百科Ｉ（第一法規）1985年

学生に対する評価

提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名： 彫刻基礎【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 徳安　和博／徳安　和博
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻

授業のテーマ及び到達目標

彫刻史や作家論、技法論、によって彫刻芸術を俯瞰的に理解する。その上で作り手として知っておくべき彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を講義と、実際に塑造演習、彫造演習を行うことで彫刻性を意識した立体造形の在り方を理解することで、総合的に彫刻の概念を拡張する。

授業の概要

彫刻芸術に講義・演習によって多角的にアプローチすることで、自分の表現や他人の表現を多角的に見る力を養う。彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を具体的な講義と演習によって理解する。彫刻を言語化するための基礎知識を学び、粘土、石膏、木材を使った演習をおこなう。知識を学び、言語化することで記録に残る彫刻作品の道筋を理解し、材料体験や技法体験を通じて、記憶に残る彫刻作品への道筋を理解する。

授業計画

第１回：彫刻について　講義
第２回：石膏による型どり体験　講義
第３回：石膏による型どり体験　演習
第４回：彫刻の要素について　講義
第５回：塑造　演習
第６回：塑造　まとめ
第７回：塑造　触覚性について　講義
第８回：塑造　触覚性演習
第９回：塑造　触覚性演習　まとめ
第１０回：彫造について　講義
第１１回：木彫　演習　木取り
第１２回：木彫　演習　荒彫り
第１３回：木彫　演習　荒彫り
第１４回：木彫　演習　仕上げ彫り
第１５回：木彫　演習　着色　木彫まとめ
定期試験　作品とレポートにより評価する。

テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 彫刻の歴史 先史時代から現代まで　東京書籍 彫刻の美　中央公論美術出版
学生に対する評価 ・講義を経て、彫刻概念の拡張ができたか。 ・講義と演習を経て、彫刻性を意識した立体造形の在り方を理解できたか。

授業科目名：彫刻演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 徳安　和博
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻

授業のテーマ及び到達目標

中学校および高等学校の美術学習における立体表現の指導能力修得のために、彫刻作品としての頭像の制作の手順や技法を、実践を通して理解する。

単にモデルの頭部と同じ形になるように模するのではなく、彫刻作品として成立するために必要な、頭像における量、面、均衡、動勢などについて理解し、作品に反映する。

授業の概要

授業２コマ180分間、毎回受講者が二人組となりお互いにモデルをしながらモデリングを進行し、1回、又は２回の授業で完成を目指す。制作にスピード感が必要。教員は塑造による頭像の制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。１０回目以降は作品の石膏どりを行う。作品は毎回写真で記録を残し、講評の時に過去作品と比較して自分の成長を振り返る。受講者は作品の写真と、石膏どりをした「頭像」を最後に提出する。

授業計画（１回の授業は９０分を２コマ連続で行う）

第1回　ポーズまたは構図について　クロッキーを行い、その後心棒作りや粘土の準備をする
第2回　頭像制作①　２人組で１作目の制作
第3回　頭像制作②　完成　作品を３方向から写真で記録しておく
第4回　頭像制作③　ペアを交代し２人組で２作目の制作
第5回　頭像制作④　２作目の完成　作品を３方向から写真で記録しておく
第6回　頭像制作⑤　ペアを交代し２人組で３作目の制作
第7回　頭像制作⑥　３作目の完成　作品を３方向から写真で記録しておく
第8回　頭像制作⑦　ペアを交代し２人組で４作目の制作
第9回　頭像制作⑧　４作目の完成　作品を３方向から写真で記録しておく
第10回　石膏どりの手順について。切り金入れ
第11回　石膏雌型の作成
第12回　雌型からの粘土掻き出し　型を洗浄する
第13回　雌型に離型剤を塗り、石膏雄型を作成する
第14回　石膏雌型を壊して、雄型を取り出す。修正を行う
第15回　作品講評　（１作目から４作目の写真、実際の作品との違いを知り、美術学習指導につながる知識・技能両面での自分の成長を自覚する）

定期試験　１作目から４作目の写真と石膏どりした作品提出による
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 彫塑 新装普及版：製作と技法の実際　岩野勇三　日貿出版社
学生に対する評価 ・自分の中にある観念的な形と、実際モデルの形の違いに気づくことができたか。 ・その上で、立体表現の特質である彫刻性を意識した作品制作ができたか。

授業科目名：デザイン基礎Ⅰ 【共同科目】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 和田　七洋
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 デザイン（映像メディア表現を含む）

授業のテーマ及び到達目標

初歩的なCGの活用方について知る。

デザインの基礎についての理解を深め、デザイン教育の基礎的な能力を培う。

授業の概要

CGアプリケーションの基本的な使用方法を学ぶ。

ポスター制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。

言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体としてイラストレーションポスターを制作する。

授業計画

授業計画

第１回：ガイダンス　CGアプリ活用法

第２回：CGアプリ　基礎１（ソフトウェア活用の基礎知識）

第３回：CGアプリ　基礎２（種類と特徴）

第４回：CGアプリ　演習１（イラストレーション試作）

第５回：CGアプリ　演習２（エフェクト効果の試作）

第６回：ガイダンスポスター制作

第７回：アイデアスケッチ制作

第８回：アイデアスケッチ講評１

第９回：ガイダンス　ロゴデザイン課題

第１０回：　ポスター制作１（テーマ設定、キャッチコピーとサブコピーの配置検討）

第１１回：　ポスター制作２（グリッドシステムを用いた図柄構成と色彩計画の検討）

第１２回：ファーストフィニッシュ　講評２

第１３回：ポスター制作３（図柄と文字情報の全体的な再構成）

第１４回：ポスター制作４（レイアウトの再確認と微修正作業）

第１５回：　最終講評

定期試験　なし

テキスト

適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 『線の冒険 デザインの事件簿』松田 行正著
学生に対する評価 作品とその制作過程をもとに評価

授業科目名：デザイン基礎Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：和田　七洋 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

デザイン基礎Ⅰで学んだ内容を基に発展したデザインの理解を深め、デザイン教育の基礎的な能力を高める。

授業の概要

架空の商品のロゴの制作を通し、基本的な技能を習得し、デザインの基本についての理解を深めデザイン教育の基本的な能力を培うタイポグラフィーの基本的な理解を深める。

ショート動画制作を通し、映像制作の基礎を学ぶ。

授業計画

第１回：ロゴデザイン　制作課題

第２回：アイデアスケッチ制作

第３回：アイデアスケッチ講評

第４回：ファーストフィニッシュ制作

第５回：ファーストフィニッシュ講評

第６回：セカンドフィニッシュ制作

第７回：セカンドフィニッシュ講評

第８回：ポスター制作講評

第９回：ガイダンス　ショート動画制作課題

第１０回：絵コンテ制作

第１１回：絵コンテ講評１

第１２回：撮影

第１３回：撮影＋編集

第１４回：編集（継続）

第１５回：　最終講評

定期試験　なし

テキスト

適宜資料を配布

参考書・参考資料等

『線の冒険 デザインの事件簿』松田 行正著
学生に対する評価 作品および制作過程をもとに評価

授業科目名：デザイン演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 和田　七洋
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

デザイン基礎Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を基に発展したデザインの理解を深め、美術科学習の教材開発能力向上として、デザイン教育の応用能力を高める。

授業の概要

美術科学習の教材として有効とされる絵本制作を通し、デザイン的な思考の基礎を学ぶ。文字等を含み応用する。

言語を視覚化しコミュニケーションのための媒体として絵本を制作する過程で、タイポグラフィーの基本的な理解を深める。

授業計画

第１回：ガイダンス　絵本制作課題

第２回：絵本に関しての説明　制作方法

第３回：アイデアスケッチ制作

第４回：　アイデアスケッチ講評

第５回：　アイデアスケッチ修正

第６回：　アイデアスケッチ　再講評

第７回：　アイデアスケッチ　修正

第８回：　スケッチをもとに絵本制作　１

第９回：　絵本制作　継続

第１０回：　絵本制作　継続

第１１回：　絵本講評　ファーストフィニッシュ

第１２回：　絵本制作　修正

第１３回：　絵本制作　継続

第１４回：　絵本制作　継続

第１５回：　最終講評

定期試験　なし

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等 『線の冒険 デザインの事件簿』松田 行正著
学生に対する評価 作品をもとにデザイン思考の基礎理解や教材開発への取り組みを評価する。

授業科目名：デザイン演習II【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：廣瀬　剛 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ／実技制作を通してイメージする力や発想力の向上をはかり、生徒の発想・構想能力向上のための指導・支援へつなげる。

到達目標／

・実技制作を通してイメージする力や発想力を高めることができる。

・与えられたテーマを柔軟な発想で表現できる感覚を養うことができる。

・完成した作品をポートフォリオにまとめ，他者を意識したプレゼン資料が制作できる。

授業の概要

本授業では、実技制作を通してイメージする力や発想力の向上をはかる。また、学校現場では生徒作品の記録撮影が必要になるため、適切な記録方法やICT機器を使用したポートフォリオ制作方法についても習得する。映像メディア表現では、学校現場での指導を想定した映像作品の制作方法について学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス・課題1「身近な素材から発想力を高める」

第２回：課題1「身近な素材から発想力を高める」制作

第３回：ポートフォリオ制作のための「作品記録撮影」について

第４回：課題1講評・ディスカッション

第５回：ICT機器を使用したポートフォリオ制作のための「画像加工」について

第６回：ICT機器を使用したポートフォリオ制作のための「文字構成」について

第７回：ICT機器を使用したポートフォリオ制作のための「レイアウト」について

第８回：課題1ポートフォリオ講評・ディスカッション

第９回：課題2「身近な環境を見つめフィールドワークを通してイメージする力を高める」制作1

第１０回：課題2「身近な環境を見つめフィールドワークを通してイメージする力を高める」制作2

第１１回：課題2講評・ディスカッション

第１２回：課題2ポートフォリオ講評・ディスカッション

第１３回：課題3「学校現場での映像メディア表現を想定した作品制作」

第１４回：課題3 ICT機器を使用した課題作品鑑賞・講評・ディスカッション

第１５回：課題3ポートフォリオ講評・ディスカッション 定期試験／ありません。授業での課題提出で評価します。
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 適宜提示します。
学生に対する評価 提出課題50% 作品ポートフォリオ30% 取組状況20%

授業科目名：デザイン演習III 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣瀬　剛 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ／今日の教育の重要点である「地域との連携」を踏まえ、実技制作を通して地域の魅力の理解を深め、伝達する能力を高め、教材開発能力の向上へつなげる。

到達目標／

・地元の地域特性について調査し、魅力について深く知ることができる。

・地域の魅力を写真、文章、ロゴタイプ、図表などにより適切に伝達することができる。

・広報物制作を行うためのICT機器を扱うことができる。

授業の概要

現在住んでいる地域の魅力を県外に向けてPRするための広報物の制作を行うことで、地域の魅力をより深く知り、広報を通じて第三者へ効果的に伝達する方法を学ぶ。

授業計画

第１回：ガイダンス、課題説明

第２回：課題制作のための素材撮影について

第３回：グループディスカッション（1）「テーマ・地域設定」

第４回：グループディスカッション（2）「役割分担」

第５回：グループディスカッション（3）「ロゴ制作」

第６回：サムネールチェック

第７回：作品制作1「調査・素材撮影」

第８回：作品制作2「画像加工」

第９回：作品制作3「レイアウト1」

第１０回：中間講評、ディスカッション

第１１回：作品制作4「文字構成」

第１２回：作品制作5「素材制作」

第１３回：作品制作6「レイアウト2」

第１４回：作品制作7「印刷・製本」

第１５回：講評・ディスカッション

定期試験／ありません。授業での課題提出で評価します。
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 適宜提示します。
学生に対する評価 提出課題70%　取組状況30%

授業科目名： 工芸基礎 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：喜久山　悟 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工芸		

授業のテーマ及び到達目標：

自然素材との関わりを通して立体造形の基礎技能を養う。また、学校教材としての工芸について考察する。

授業の概要：

制作実践が中心であるが、ここで獲得する技術、技能は個人制作の表現的力量を上げると同時に、工芸教育実践指導力を向上できる内容とする。

授業計画

第１回：ガイダンス・・・本授業の目的、方法の説明。

第２回：今日の工芸と教材について・・・幅広い観点から工芸を見渡し、学校現場の現状を勘案し今日的工芸教材について考察していく。

第３回：素材を採集する・・・地域環境を造形活動に活かすため観察と採集を行う。

第４回：素材を整える・・・素材を用いた造形活動の下準備。

第５回：アイディアスケッチ・・・制作内容の確定。作品化のための構想。

第６回：制作を行う１・・・下地作り。ドローイング。

第７回：制作を行う２・・・ドローイング。ペインティング。

第８回：制作を行う３・・・ペインティング。コーティング。

第９回：環境を活かした造形教材開発・・・身近な空間に作り出す立体工作表現および作例について解説。

第１０回：制作のためのロケーションハンティング・・・制作の舞台となる空間を選定する。

第１１回：制作を行う４・・・選定された空間のための立体制作アイディアスケッチ

第１２回：制作を行う５・・・木材その他の素材選びと加工

第１３回：制作を行う６・・・演出を意識した表現活動。

第１４回：制作を行う７・・・作品の写真撮影とデータ化

第１５回：まとめ・技術技法と教材化のポイント整理・・・互いの作品を評価しつつ、教材として教育実践上の課題を確認する。

テキスト：図画工作科、美術科教科書。クラフト作品図録。
参考書・参考資料等：学習指導要領
学生に対する評価：提出物・作品及びレポート（７０％）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０％）

授業科目名： 工芸演習 【シラバス共通科目 （熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：喜久山悟/喜久山悟 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・工芸		

授業のテーマ及び到達目標：
ミュージアムショップグッズ開発をとおして立体造形の基礎能力を養う。また、美術遺産の調査、学校教材としての工芸について考察する。

授業の概要：
制作実践が中心であるが、ここで獲得する技術、技能は個人制作のためだけに獲得するものではなく、これらを活かして工芸教育実践力を向上できるような内容とする。

授業計画
第１回：ガイダンス・・・本授業の目的、方法の説明。
第２回：今日の工芸と教材ついて・・・幅広い観点から工芸を見渡し、今日的工芸を教材の視点で分析していく。
第３回：ミュージアムショップのグッズ調査・・・各地にある美術館・博物館のミュージアムショップの商品に着目する。
第４回：コンセプトづくり１・・・自身が提案するミュージアムショップのグッズ考案
第５回：コンセプトづくり２・・・内容の確定。対象となる美術（テーマ）の歴史や文化等下調べ
第６回：制作を行う・・・アイディアを具体化する素材や加工法の整理
第７回：制作を行う・・・商品としての特性を意識した造形
第８回：制作を行う・・・それぞれの基礎技法の確認
第９回：制作を行う・・・パッケージを含め構成して作品化していく
第１０回：制作を行う・・・消費者の立場に立ったグッズの長所をチェックし、造形的に表明できるようにする
第１１回：制作を行う・・・開発グッズの本体およびパッケージデザインを含め商品的価値を高める演出を行う
第１２回：制作を行う・・・グッズ商品の魅力をプレゼンテーションする広告デザインの作成

第１３回：プレゼンテーション１・・・動画、スライド等を用いた商品プレゼンテーション 第１４回：プレゼンテーション２・・・授業参加者で互いのプレゼンテーションに対し、質疑応答を通して改善点、改良点について話し合う 第１５回：まとめ・技術技法と教材化のポイント・・・互いの作品を評価しつつ、教材としての実践上の課題を確認
テキスト：小学校図画工作教科書、クラフト作品集、「ミュージアムグッズ図鑑」
参考書・参考資料等：学習指導要領
学生に対する評価：提出物・作品及びレポート（７０%）　授業内容の理解・達成・制作過程（３０%）

授業科目名： 美術史概論 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松永　拓己、喜久山　悟 ／吉住　磨子
			担当形態： クラス分け・複数/単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．学生が、作品を鑑賞するための、また作品を研究するための基本となることがら（図像や様式など）について理解できるようになることを目指します。

２．美術と社会、宗教、経済、政治などが密接に結びついているということが、理解できるようになることを目指します。

授業の概要

古今東西のさまざまな造形作品、資料を題材にして、さまざまな角度から美術史・文化史について教えます。具体的には，スライドやyou tubeを使ってさまざまな作品を見せながら授業を進めます。

授業計画

第１回：ガイダンス：授業の概要について。履修上の注意。成績評価の方法等について

様式について（その１）：ギリシャ彫刻を例にして

第2回:：様式について（その２）：近現代美術を例にして

第3回：図像について（その１）：イコノグラフィーとイコノロジー

第4回：図像について（その２）：仏教図像学とキリスト教図像学

第5回：絵画の空間について（その１）：中世絵巻，頂相，水墨画，ポンペイの壁画，西洋中世宗教画，ルネサンス絵画を例にして

第6回：絵画の空間について（その２）：近現代美術を例にして（絵画の物質化，絵画の二次元化，絵画と彫刻のボーダーレス化）

第7回：美術と経済（芸術家とパトロン）

第8回：作品の真贋，オリジナルと複製について（その１）：古代ギリシャ・ローマの状況，職人から作家へ

第9回：作品の真贋，オリジナルと複製について（その２）：マルセル・デュシャンとベンヤミン

第10回：装飾美術と人間中心の美術：縄文土器と弥生式土器を例にして

第11回：装飾美術と人間中心の美術：ケルト美術とイスラム教美術を例にして

第12回 美術とジェンダー：美術と教育，歴史上女性の美術家が少なかったのはなぜか，現代における

ジェンダーをテーマにした作品 第13回： 庭について：日本，東洋，西洋の庭のデザイン，庭の表象 第14回： 復習とまとめ（第１回から第７回の授業） 第15回： 復習とまとめ（第８回から第１３回の授業） 定期試験
テキスト 増補新装カラー版西洋美術史、美術出版社、2023年。増補新装カラー版日本美術史、美術出版社、2024年。
参考書・参考資料等 授業中に紹介します。
学生に対する評価 期末試験

授業科目名： 造形実践演習 【シラバス共通科目】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 松永　拓己／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

授業のテーマ及び到達目標

造形表現の諸領域について知識理解と技能習得を進めながら、教材開発能力を高める。

授業の概要

造形表現の諸領域について、概説と演習を通じて理解を深めるとともに、それらの内容と教育実践とを接続しながら学修を進めることで、教材開発能力を高めていく。

授業計画

第１回：本授業のガイダンス（松永　拓己／栗山裕至）

第２回：絵画表現について①描画材、支持体、技法について（松永　拓己、栗山　裕至）

第３回：絵画表現について②版画表現について（松永　拓己／栗山裕至）

第４回：絵画表現について③イラストレーションについて（映像表現の内容を含む）（松永　拓己／栗山裕至）

第５回：絵画表現について④模擬制作演習（松永　拓己／栗山裕至）

第６回：絵画表現の授業実践について（環境設定、支援）（松永　拓己／栗山裕至）

第７回：絵画表現の授業実践について（鑑賞学習との接続）（松永　拓己／栗山裕至）

第８回：視覚伝達表現について①素材、技法について（松永　拓己／栗山裕至）

第９回：視覚伝達表現について②模擬制作演習（映像表現の内容を含む）（松永　拓己／栗山裕至）

第１０回：構成表現について③模擬制作演習（立体表現）（松永　拓己／栗山裕至）

第１１回：視覚伝達表現・構成表現の授業実践について（鑑賞学習との接続）（松永　拓己／栗山裕至）

第１２回：美術学習の題材開発へ向けた調査研究①技法習得について（松永　拓己／栗山裕至）

第１３回：美術学習の題材開発へ向けた調査研究②鑑賞対象作品の選定について（松永　拓己／栗山裕至）

第１４回：美術学習の題材開発へ向けた調査研究③社会教育施設との連携について（松永　拓己／栗山裕至）

第１５回：全体のまとめ（松永　拓己／栗山裕至）

定期試験は実施しない

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説美術編（平成29年） 高等学校学習指導要領解説美術編（平成30年） 授業内容に合わせて適宜資料を配布する
学生に対する評価 講義の小レポート、演習の取り組み、調査研究の小レポート等の総合で評価する

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

美術科の授業を担当するために必要な知識、技能、態度を、獲得・育成することを目的とする。

授業の概要

本講義では、A表現に関わる中学校美術科の授業実践を想定し、必要とされる美術科教育の基礎的な教育原理、教科の歴史、教育方法論などについて理解し、知識や技能を習得する。美術科教科書の題材を実際に体験しながら、学習指導要領の内容に沿ったA表現の授業について、指導計画を立案し短時間の模擬授業（デジタル機器やタブレット端末等のICT機器を適宜活用）を行うことで、授業方法の専門知識・技術を深める。

授業計画

第１回：ガイダンス（学習指導要領についての概説）
第２回：日本の美術教育草創期と文化受容について
第３回：教科書の変遷を通して見える美術教育思潮や教育内容
第４回：創造主義の出現と美術教育
第５回：創造主義の今日的な捉え方と美術教育
第６回：発達と造形の変化について（思春期・青年期の描画表現を中心に）
第７回：美術科の教科内容の成り立ちと教育課程
第８回：美術科の指導計画について（学習指導案を中心に）
第９回：A表現「絵に表現する活動の指導」について（教材研究）
第１０回：A表現「絵に表現する活動の指導」の解説（ICT活用の演示等を含む）
第１１回：A表現「彫刻に表現する活動の指導」について（教材研究）
第１２回：A表現「彫刻に表現する活動の指導」の解説（ICT活用の演示等を含む）
第１３回：A表現「デザインや工芸に表現する活動」について（教材研究）
第１４回：A表現「デザインや工芸に表現する活動」の解説（ICT活用の演示等を含む）
第１５回：B鑑賞の授業実践について（事例紹介、ICT活用についての解説を含む）
定期試験は実施しない

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説　美術編（平成29年6月、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　芸術編（平成30年7月、文部科学省）
参考書・参考資料等 中学校美術科教科書各種、高等学校美術教科書各種、授業時に適宜資料配布
学生に対する評価 講義レポート（50%）、教材研究関連レポート（50%）

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高校美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

授業のテーマ及び到達目標

美術科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。

授業の概要

美術科教育の内容や教育方法について、社会状況との関係、異校種との連携・接続、教材・教具などの観点から多面的に学習を進めていく。試行実践も適宜行い、授業実践力の向上へつなげていく。

授業計画

第１回：ガイダンス（本講義の趣旨と進行等について）
第２回：造形美術や諸芸術の時代状況と美術教育との関係（過去の事例および現在）
第３回：学校での美術教育と学校外での美術教育との関係（F.チゼックの実践例など）
第４回：表現学習指導における技能的支援のあり方について（ICT活用を含む）
第５回：小中連携・接続の観点から見た美術教育
第６回：小中連携・接続を念頭に置いた題材の試行実践
第７回：中高連携・接続の観点から見た美術教育
第８回：中高連携・接続を念頭に置いた題材の試行実践
第９回：デザイン学習における造形思考の探究（立体素材試行実践と解説）
第１０回：デザイン学習における造形思考の探究（ペーパークラフト試行実践と解説）
第１１回：デザイン学習の教育的意義と課題
第１２回：表現学習（絵画、立体・空間表現）と材料・技法
第１３回：表現学習（デザイン、工芸）と材料・技法
第１４回：学習指導案の立案
第１５回：模擬授業と振り返り
定期試験は実施しない

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
中学校学習指導要領解説　美術編（平成29年6月　文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　芸術編（平成30年7月　文部科学省）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価 講義レポート（100%）

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

授業のテーマ及び到達目標

表現学習と鑑賞学習について、専門知識と授業技術を深める。

授業の概要

前半では情報機器を活用した表現学習の授業開発を行う。後半では鑑賞学習の授業開発を中心に学修を進め、模擬授業を行う。これらを通じて授業方法の専門知識や授業手法の理解を深める。

授業計画

第１回：ガイダンス（学習指導要領の解説を含む）
第２回：ICTを活用した授業開発について（先行実践事例の解説）
第３回：参考作例作成を想定した教材開発（テーマ・コンセプト立案）
第４回：参考作例作成を想定した教材開発（コマ撮りアニメ絵コンテ作成）
第５回：参考作例作成を想定した教材開発（パワーポイント画面作成）
第６回：参考作例作成を想定した教材開発（パワーポイント画面修正、仕上げ）
第７回：参考作例作成を想定した教材開発（各自作品上映、学習材としての有効性検討）
第８回：鑑賞学習の授業実践と教材開発について（先行実践事例の解説）
第９回：鑑賞学習の教材開発（鑑賞対象作品の選定、アートカードのテーマ設定等）
第１０回：鑑賞学習の教材開発（鑑賞対象作品の資料作成、アートカードの作成）
第１１回：鑑賞学習の授業立案（学習指導案作成）
第１２回：鑑賞学習の授業立案（学習指導案作成、板書計画等）
第１３回：模擬授業実施（美術作品鑑賞）
第１４回：模擬授業実施（アートカードを用いた鑑賞）
第１５回：まとめ
定期試験は実施しない

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　美術編（平成29年6月、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説　芸術編（平成30年7月、文部科学省）
参考書・参考資料等 授業時に適宜資料配布を行う
学生に対する評価 教材開発レポート（50%）、指導計画関連レポート（50%）

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山　悟／栗山　裕至 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教材及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高校　美術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）

授業のテーマ及び到達目標

先行授業実践例の分析を通じて授業方法の専門的知識や技術を学ぶとともに、模擬授業実施を通して授業方法の専門的知識や技術をさらに深める。

授業の概要

先行授業実践例に基づく授業研究を行うとともに情報機器の効果的活用を検討する。さらに、模擬授業へ向けた指導計画立案や教具作成等を行い、模擬授業を実施する。最終回のまとめにおいて、教育実習へ向けた課題整理を行う。

授業計画

第１回：本演習の内容・進行のガイダンス
第２回：先行授業実践例（A表現）の相互検討と解説、意見交換
第３回：先行授業実践例（B鑑賞）の相互検討と解説、意見交換
第４回：附属学校園等での研究授業・公開授業記録映像の視聴、該当授業についての意見交換
第５回：先行授業実践例や附属学校園等の授業記録映像視聴を踏まえた、ICTの効果的活用の検討
第６回：学習指導要領の確認、模擬授業実践へ向けた課題整理
第７回：班編成と美術科題材選定、学習指導案立案
第８回：学習指導案立案と教具作成、参考作品試作
第９回：教具作成と参考作品の修正、情報機器活用の検討
第１０回：教具やICTの効果の検討、学習指導案の修正
第１１回：模擬授業Aの実施、相互評価、講評
第１２回：模擬授業Bの実施、相互評価、講評
第１３回：模擬授業Cの実施、相互評価、講評
第１４回：模擬授業Dの実施、相互評価、講評
第１５回：模擬授業まとめと総括、教育実習へ向けた課題整理
定期試験は実施しない

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）
中学校学習指導要領解説　美術編（平成29年6月、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　芸術編（平成30年7月、文部科学省）
参考書・参考資料等 中学校美術科教科書各種、高等学校美術教科書各種、授業時に適宜資料配布
学生に対する評価 模擬授業（70%）、レポート（30%）

授業科目名： 体つくり運動【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 末永　祐介／渡瀬　浩介 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・体育実技

授業の到達目標及びテーマ

本授業のテーマは、中学校、高等学校における保健体育教員として、現代社会における生徒の身体・身体活動の問題を踏まえ、学校教育における体つくり運動の教育的意義や学習内容論等の知識や実践的指導力について学修することを目的としている。

到達目標は、以下の通りである。

１．体つくり運動・多様な動きをつくる運動の目的、内容、方法について理解することができる。高めることができる。

３．体ほぐしの運動の目的、内容及びその系統的発展方法について理解し活用することができる。

４．ＩＣＴ活用によるコミュニケーション力と効果を高めることができる。

授業の概要

本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領における体力の内容及びその高め方等について理解するとともに実践的指導力を高めることを目的に、履修者自らが主体となり、体つくり運動の目的、内容、方法について実践し、心と体が一体であること、仲間とのかかわり方について学ぶ授業である。加えて、ＩＣＴの活用によるコミュニケーションの広がりと効果を目指す。

授業計画

第１回：ガイダンス：この授業の目的や概要について
第２回：体ほぐしの運動①（歩行運動を通して①：個人から集団運動へ）
第３回：体ほぐしの運動②（歩行運動を通して②：目を閉じて個人から集団運動へ）
第４回：体ほぐしの運動③（走運動を通して①：個人から集団運動へ）
第５回：体ほぐしの運動④（走運動を通して②：目を閉じて個人から集団運動へ）
第６回：体ほぐしの運動③（跳躍運動を通して①：個人から集団運動へ）
第７回：体ほぐしの運動④（跳躍運動を通して②：目を閉じて個人から集団運動へ）
第８回：体の動きを高める運動①（ストレッチ、巧みな動きを高める運動①：縄を使って個人で）
第９回：体の動きを高める運動②（ストレッチ、巧みな動きを高める運動②：縄を使って集団で）

第１０回：体の動きを高める運動③（ストレッチ、巧みな動きを高める運動③：ボールを使って個人で）
第１１回：体の動きを高める運動④（ストレッチ、巧みな動きを高める運動④：ボールを使って集団で）
第１２回：体の動きを高める運動⑤（ストレッチ、巧みな動きを高める運動⑤：縄とボールを組み合わせて集団で）
第１３回：体の動きを高める運動⑥（ストレッチ、力強い動きを高める運動①：個人で）
第１４回：各グループオリジナルの体つくり運動内容の説明と発表①（１・２・３グループ）
第１５回：各グループオリジナルの体つくり運動内容の説明と発表②（４・５グループ）及びまとめ
定期試験は実施しない

テキスト
・中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示・文部科学省）
・中学校学習指導要領解説保健体育編（平成 29 年７月・文部科学省）
・高等学校学習指導要領（平成 30 年３月告示・文部科学省）
・高等学校学習指導要領解説保健体育編（平成 30 年７月・文部科学省）

参考書・参考資料等
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店
※その他は講義中に適宜紹介する

学生に対する評価
授業リフレクション（内容理解）30%、課題レポート30%、意欲（授業への取組）40%

授業科目名： 器械運動 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 末永　祐介／田口　晴康
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技

授業のテーマ及び到達目標

授業の中では、学習する技そのものの動きのコツを身に付け、動き方を改善していくなど、動ける身体の獲得をめざす。習得した技を組み合わせて行なう、発表するなどにより達成感を味わう。 将来の教員採用試験対策も行う。

到達目標は以下の通りである。

学習指導要領に示されている各種目の技の習得ができる。

技の種類や体系、及び指導方法について理解できる。

技の補助や安全性について理解できる。

授業の概要

器械運動は、マット、鉄棒、平均台、とび箱などの器械、器具を使った「技」によって構成されている運動である。各運動種目では、自己の能力に応じて「技を習得する」「技が円滑にできる」ことをねらいとし、様々な運動課題の解決に取り組む学習指導が展開される。

また、そこでの学習の対象となる運動は、非日常的驚異性と姿勢的簡潔性を特徴として、誰にでも有効で客観的な技術を持つ技が取り上げられる。特に、学習指導要領に提示されている技を中心に練習、習得していく。

授業計画

第１回：オリエンテーション、基礎技の確認

第２回：マット運動の接転技（前転、後転、側転）

第３回：マット運動の接転技（開脚・伸膝前転、倒立前転）

第４回：マット運動の接転技（開脚・伸膝後転、後転倒立）

第５回：マット運動の翻転技（頭はねおき、側方倒立回転、前方倒立回転とび）

第６回：マット運動の組み合わせ技・連続技

第７回：跳び箱の切り返し系の技（開脚とび）

第８回：跳び箱の切り返し系の技（かかえ込み、屈身とび）

第９回：跳び箱の回転系の技（前方倒立回転とび）

第１０回：鉄棒の支持系の技（逆上がり、後方支持回転）

第１１回：鉄棒の支持系の技（逆上がり、前方支持回転）

第１２回：鉄棒の支持系の技（片足、両足かけ上がりおよび回転） 第１３回：鉄棒の組み合わせおよび発展技 第１４回：テストおよび発表会（マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動） 第１５回：授業のまとめと反省・レポート提出
テキスト 必要に応じて資料を配布する
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説（平成29年）　高等学校学習指導要領解説（平成30年）　文部科学省
学生に対する評価 マット、とび箱、鉄棒の3種目で行った技の中からノルマの技を設定し、動きのコツを身に付け、動き方を改善できたかどうか、マット(30点）、とび箱（30点）、鉄棒（30点）でチェックして評価する。レポート提出（10点）。

授業科目名： 水泳【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 大石　康晴・井福　裕俊／山津　幸司
			担当形態： クラス分け・複数／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技

授業の到達目標及びテーマ

水泳指導の基本を身につけ、最終的には80分程度の連続泳ができるようになることを目指す。

授業の概要

最初の3～4回は講義形式、残りの授業はプールでの実技形式で行う。水泳指導の基礎基本を学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の展開方法を含む）

（１）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる

第２回：水泳・水中運動の意義：水泳の特性とねらい、水中運動の心身に及ぼす影響

（２）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる

第３回： 安全管理：児童生徒の健康管理、施設・設備の安全管理、水泳指導の安全管理、救助法

（３）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる

第４回：学習のまとめと小テスト：水泳・水中運動の意義と安全管理の理解度把握

（４）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる

第５回：水慣れ、泳力テスト：速く泳ぐ能力の現状把握

（５）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第６回：クロール、平泳ぎ：バディシステム、伏し浮き、背浮き、け伸び、ビート版や浮き具の活用

（６）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第７回：クロール、平泳ぎ：クロールと平泳ぎのキックおよびプルの練習

（７）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第８回：クロール、平泳ぎ：キックとプルの統合と全習法、ターンの練習、リレー

（８）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第９回：背泳ぎ、バタフライ：背泳ぎとバタフライのキックの練習

（９）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第１０回：背泳ぎ、バタフライ：バタフライのプルの練習
（１０）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。
第１１回：背泳ぎ、バタフライ：背泳ぎのスタート練習、全体の一連動作、メドレーリレー
（１１）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。
第１２回：水中運動：アクアビクス、立ち泳ぎ
（１２）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。
第１３回：水中運動：水中でのレクリエーション、水球
（１３）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。
第１４回：水中運動：水中でのリラクゼーション、潜水
（１４）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。
第１５回：80分間連続泳：ゆっくり長く泳ぐ能力の確認
（１５）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

テキスト
・文部科学省、学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引（三訂版）」（2014年3月）

参考書・参考資料等
・水泳指導教本 ： 地域スポーツ指導者用
・日本水泳連盟、水泳指導教本改訂第 2 版 公認水泳指導員・水泳上級指導員用、大修館書店（2012 年 6 月）

学生に対する評価
小テスト（30%）、学習への取組み状況（30%）、遠泳力テスト（40%）

授業科目名： 陸上競技 【シラバス共通科目 （佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 井福　裕俊／甲木　秀典 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技

授業のテーマ及び到達目標

陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の理論及び基本的な技術を習得し、技術を分析する能力を高め、学校現場において陸上競技の指導を行うことができるようになる。

授業の概要

陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の特性や科学的知識を理解し、基本的な技術を身につけ、自身の技術を分析することで、学校体育における陸上競技の指導法を身につける。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業概要と陸上競技の特性について）
第２回：短距離走１：100m走の記録計測および動画撮影（Pre）
第３回：短距離走２：中間疾走（ピッチとストライド）
第４回：短距離走３：クラウチングスタート、クラウチングスタートから中間疾走
第５回：短距離走４：リレー（ルール、バトンパス）
第６回：短距離走５：100m走の記録計測および動画撮影（Post）および分析
　　障害走１：60mハードル走の記録計測および動画撮影（Pre）
第７回：障害走２： インターバル走とハードリング
第８回：障害走３： クラウチングスタート～１台目のハードリング
第９回：障害走４： 60mハードル走の記録計測および動画撮影（Post）および分析
　　跳躍１：走り幅跳びの記録計測および動画撮影（Pre）
第１０回：跳躍２：走り幅跳びの助走、踏切り、水平方向と鉛直方向への跳躍
第１１回：跳躍３：空中姿勢（かがみ跳び、そり跳び、はさみ跳び）、着地
第１２回：跳躍４：走り幅跳びの記録計測および動画撮影（Post）および分析
第１３回：投てき：砲丸投げ（両手投げ、立ち投げ、突き出し、サイドステップ投法）
第１４回：中長距離走：６分間走（ペース走、カルボーネン法による運動強度の設定）
第１５回：陸上競技の用具と技術の変遷

テキスト

・中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年７月　文部科学省） ・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（平成30年７月　文部科学省）
参考書・参考資料等 ・授業中に適宜資料等を配布する。 ・陸上競技指導教本アンダー16・19 【初級編】　基礎から身につく陸上競技 公益財団法人日本陸上競技連盟 編　大修館書店
学生に対する評価 レポート試験（100%）

<table>
<tr><td>授業科目名：
ゴール型球技
【シラバス共通科目
（熊大・佐大)】</td><td>教員の免許状取得のための
必修科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：
末永　祐介、大石　康晴／
坂元　康成、片桐　章光、</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>担当形態：
クラス分け・複数／オムニバス</td></tr>
<tr><td colspan="2">科　目</td><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目
（中学校及び高等学校　保健体育）</td></tr>
<tr><td colspan="2">施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="2">体教科に関する専門的事項
・体育実技</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の到達目標及びテーマ
バスケットボールの攻防に必要なフットワーク,パッシング,ドリブリング,シューティング,ボールキープなどボール・ハンドリングやボディ・コントロールに求められる基礎的個人スキルの習得と,コンビネーションを中心とした連携・チームプレイに必要な基礎的集団的スキルの習得を目指す。
本授業は、佐賀大学学士力２（２）に対応している</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
ゴール型球技の代表的種目として、サッカー及びバスケットボールを取り扱うが、本講義ではバスケットボールを展開する。バスケットボールの競技特性を理解し,個人的・集団的スキルの習得とチームプレイや戦術について学習し，また,発達段階に応じたスキル指導の内容や方法等,指導方法,さらにルールや審判法についても理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：　個人的スキルの習得（末永、大石／坂元　康成、片桐　章光）
次回までの課題：個人の各スキルの概要を整理しておくこと
第２回：個人的・集団的スキルの習得（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：個人・集団の各スキルの概要を整理しておくこと
第３回：　オフェンスにおける集団的スキルやチームプレイの習得（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：オフェンスの個人・集団の各スキルと連携・組織プレーについて整理しておくこと
第４回：　ディフェンスにおける集団的スキルやチームプレイの習得（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：ディフェンスの個人・集団の各スキルと連携・組織プレーについて整理しておくこと
第５回：オフェンスにおける連携・組織的技能とルール（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：オフェンスにおけるルールと技術要素を整理しておくこと</td></tr>
</table>

第６回：ディフェンスにおける連携・組織的技能とルール（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：ディフェンスにおけるルールと技術要素を整理しておくこと
第７回：オフェンスの場面変化に応じた技術の内容と判断力の習得（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：場面変化に応じた技術の内容と判断力について整理しておくこと
第８回：ディフェンスの場面変化に応じた技術の内容と判断力の習得（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：場面変化に応じた技術の内容と判断力について整理しておくこと
第９回： チーム戦力、作戦の組み立て（オフェンス）（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：戦術・作戦に必要なオフェンスの方法を整理しておくこと
第１０回： チーム戦力、作戦の組み立て（ディフェンス）（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：戦術・作戦に必要なディフェンスの方法を整理しておくこと
第１１回： ゲーム分析の方法と戦術・作戦計画の立て方（オフェンス）（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：ゲーム分析の方法とオフェンスの作戦計画について整理しておくこと
第１２回：ゲーム分析の方法と戦術・作戦計画の立て方（ディフェンス）（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：ゲーム分析の方法とディフェンスの作戦計画について整理しておくこと
第１３回：総合的なゲームとチーム力の分析（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：総合的なゲーム分析方法とチーム力分析方法について整理しておくこと
第１４回：総合的なゲームの進め方と指導計画（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：ゲームの進行と指導計画について整理しておくこと
第１５回：ゲームの進行と審判法（末永、大石／片桐　章光）
次回までの課題：ゲームの進行と審判法について整理しておくこと

テキスト：必要に応じて資料を配布する

参考書・参考資料等：最新科学が教えるバスケットボールのオフェンスメソッド　桶谷大監修/ 小谷究著など、随時紹介する

学生に対する評価
授業内での取り組み、積極性、態度等を総合的に評価する。
具体的には技術点等学習目標の到達度を 60%、授業に望む態度・姿勢（40 点）とする。

授業科目名： ネット型球技【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 坂本　将基／佐藤　広徳 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、バレーボールを用いてネット型球技を学習する。バレーボールの学習指導に必要となる個人技能（パス・レシーブ・サーブ・スパイク・ブロック）を習得し、模範しながら説明ができるようになること、また、作戦・戦術・審判・企画などについて学び、バレーボールの試合が運営できるようになることを目標とする。

授業の概要

ネット型球技としてのバレーボールの技術構造，ルール，および練習方法などについて学習するとともに、試合を行うための審判・企画・運営等についても学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション：バレーボールの成立ちや競技特性の理解
第２回：個人技能の習得①（スタンディングでのスパイクの練習）
第３回：個人技能の習得②（オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの練習）
第４回：個人技能の習得③（対人レシーブの練習）
第５回：集団技能の習得①（3人でのレシーブの練習）
第６回：個人技能の習得④（サーブ・サーブレシーブの練習）
第７回：個人技能の習得⑤（スパイク・ブロックの練習）
第８回：集団技能の習得②（3人でのレシーブから攻撃への展開）
第９回：集団技能の習得③（3人でのサーブレシーブから攻撃への展開）
第１０回：集団技能の習得④（簡易ルールによる導入ゲーム：チームとしての動きの理解）
第１１回：集団技能の習得⑤（簡易ルールによる導入ゲーム：ポジションの役割の理解）
第１２回：試合運営①（リーグ戦・審判の学習）
第１３回：試合運営②（リーグ戦・審判の学習）
第１４回：試合運営③（リーグ戦・審判の学習）
第１５回：個人技能のテスト・授業のまとめ
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等 コーチングバレーボール(基礎編)：日本バレーボール協会（編集)・大修館書店
学生に対する評価 授業態度（主体的な参加態度・協力姿勢・マナーなど）、個人技能のテスト（パス・スパイク・サーブ）、ゲームの記録などを総合的に評価する。

授業科目名： ベースボール型球技 【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育） 選択科目（高等学校　保健体育）	単位数： １単位	担当教員名： 井上　伸一 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		

授業のテーマ及び到達目標

学校あるいは健康スポーツに関わる現場において、専門見地から運動事象の発生、修得、修正、合理化に関わり実践的に展開できるようにする。

授業の概要

ベースボール型球技の全体構造や特性を理解させるとともに、ゲームのやり方、指導方法についても実習し、ルールの理解並びに審判法についても学習する。野球及びソフトボールにおける個人的技術を学習するとともに、ゲームの進め方、作戦の立て方等についても理解を深める。

授業計画

１．オリエンテーション
２．キャッチボール、バットスイングの基本
３．トスバッティングの技術練習
４．ボールキャッチの基本
５．フリーバッティングの技術練習
６．内野守備の基本動作
７．外野守備の基本動作
８．ポジションごとの守備練習
９．ティーボールの簡易ゲーム
10．ティーボールのゲーム
11．ソフトボールのルールと簡易ゲーム
12．ソフトボールのゲーム
13．野球のルールと簡易ゲーム
14．野球のゲーム
15．まとめ

定期試験は実施しない

テキスト

使用しない。適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

使用しない。授業中に、適宜、紹介する。

学生に対する評価 実技試験50%，リフレクションレポート30%，意欲（授業への取組）20%

授業科目名： ダンス【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 末永　祐介／坂下　玲子
			担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		

授業のテーマ及び到達目標

1）多様なテーマから表したいイメージをとらえ、即興的に表現したり、作品を創作したりして踊ることができる。

2）フォークダンスではそれぞれの踊り方の特徴を理解し、踊ることができる。

3）リズム系ダンスの基本的なステップを習得しリズムの特徴を理解して踊ることができる。

4）友達やグループのよい表現や動きを認めることができる。

授業の概要

中学校におけるダンス授業に対応した内容を中心に、多様なテーマや課題を取り上げ、ダンスの理論と実技を学習する。授業のまとめとして、グループで作品を創作する。

授業計画

第１回：ガイダンス：授業の概要と進め方の説明、ダンスの歴史・種類等

第２回：ダンス・ウォーミングアップの考え方と実際

第３回：フォークダンス①：外国のフォークダンス

第４回：フォークダンス②：外国のフォークダンスおよび日本の民謡

第５回：創作ダンス①：ものを手がかりとして

第６回：創作ダンス②：身近な生活や日常動作を手がかりとして

第７回：創作ダンス③：対極の動きを手がかりとして

第８回：創作ダンス④：多様な感じを手がかりとして

第９回：創作ダンス⑤：群（集団）の動きを手がかりとして

第１０回：現代的なリズムのダンス①：ロック、サンバのリズムで

第１１回：現代的なリズムのダンス②：ヒップホップのリズムで

第１２回：作品創作①：作品の主題と構成

第１３回：作品創作②：主題に合った動きの変化と工夫

第１４回：作品創作③：動きの工夫と踊り込み

第１５回：発表と鑑賞、まとめ

定期試験

テキスト

適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等 改訂版 明日からトライ ダンスの授業（全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2021）
学生に対する評価 授業への積極的参加度：各時間の発表等を含む（50%）、ノート及びレポート提出（30%）、グループ創作（20%）等総合的に判断する。

授業科目名： 柔道 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 坂本　将基／町田　正直 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技

授業のテーマ及び到達目標

1.　柔道の基本動作の理合いを理解する。

2.　柔道の基本動作（投技と受身）を習得する。

3.　柔道の基本動作を使い約束乱取を行うことができる。

授業の概要

本授業は柔道の基本的な動作のメカニズム（理合）の理解とその動作（投技と受身）の習得を目指して実際に柔道の稽古を行います。十分な基本動作の習得が確認された場合には、それを実戦（乱取）の中で活用する

授業計画

第１回：柔道の成り立ち・服装

第２回：柔道の基本動作　後受身と足技

第３回：柔道の基本動作　前受身と足技

第４回：柔道の基本動作　横受身と手技

第５回：柔道の基本動作　前回受身と腰技

第６回：柔道の基本動作の復習　単純な状況の中で

第７回：柔道の基本動作の復習　実践に近い状況の中で

第８回：柔道の基本動作の応用　足技に対する防御

第９回：柔道の基本動作の応用　手技に対する防御

第１０回：柔道の基本動作の応用　単純な状況の中で

第１１回：柔道の基本動作の応用　実践に近い状況の中で

第１２回：全体復習と実践練習（約束乱取・攻撃を中心に行う）

第１３回：全体復習と実践練習（約束乱取・防御を中心に行う）

第１４回：全体復習と実践練習（約束乱取・投げ技を中心に行う）

第１５回：全体復習と実践練習（約束乱取・寝技を中心に行う）

定期試験：実技試験

テキスト

随時必要な資料などを配布する

参考書・参考資料等

近代柔道（月間） 柔道実技指導のヒント　ISBN:978-4-8105-2117-7
学生に対する評価 リフレクションシート・・・到達目標 1.（40%） 実技試験・・・到達目標 2. 3.(60%)

授業科目名： 剣道 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育） 選択科目（高等学校　保健体育）	単位数： １単位	担当教員名： 吉谷　修
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的科目 ・体育実技

授業のテーマ及び到達目標　日本的な運動文化として剣道の技やそれに伴う所作の意味を理解した上で、剣道の実技や審判ができる。

授業の概要　「木刀による剣道基本技稽古法」を学習し、そこで学習した技を基に防具をつけての剣道運動の実技・審判法を実施する。

授業計画

第１回：オリエンテーション―学校教育における剣道に関する基本的理解―

第２回：木刀による剣道基本技稽古法（基本1、基本2）

第３回：木刀による剣道基本技稽古法（基本3、基本4）

第４回：木刀による剣道基本技稽古法（基本5、基本6）

第５回：木刀による剣道基本技稽古法（基本7、基本8）

第６回：木刀による剣道基本技稽古法（基本9と全体のまとめ）

第７回：剣道具の着装と剣道の基本的なルール

第８回：　木刀による剣道基本技稽古法を用いた打突

第９回：踏み込み足を用いた基本技と切り返し

第１０回：踏み込み足を用いた応用技

第１１回：互角稽古①―しかけ技を中心に―

第１２回：互角稽古②―しかけ技と応じ技を用いて―

第１３回：試合稽古①―試合の仕方を中心に―

第１４回：試合稽古②―審判法を中心に―

第１５回：　授業のまとめ―剣道の文化的特性と課題―

定期試験　実施しない

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

剣道試合・審判規則・細則（全日本剣道連盟）剣道試合運営の手引き（全日本剣道連盟

学生に対する評価　授業に対する取り組み・態度（40％）、実技課題の達成度（40％）、剣道

の文化性の理解（20%）により評価する。

授業科目名： ヘルスプロモーション実習 【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育） 選択科目（高等学校　保健体育）	単位数： １単位	担当教員名： 井上　伸一
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		

授業のテーマ及び到達目標

健康の維持増進のために必要な知識を習得するとともに、健康のための運動指導の技術を学び、実践できるようになることを目的とする。また健康に関する種々の測定方法について学ぶ。

授業の概要

佐賀大学が地域貢献事業として開催している健康教室に参加し、地域住民への運動指導を通じて、コミュニケーション力、指導力、企画運営力等の実践力を身につける。それぞれの学生は自分の担当班の参加者にストレッチや筋力トレーニング等を指導するとともに、対象の体力に応じたトレーニングメニューを作成させ、運動指導の能力を身につけさせる。

授業計画

１．オリエンテーション
２．子どもに対する運動指導の基礎
３．中高齢者に対する運動指導の基礎
４．ストレッチの方法
５．筋力トレーニングの方法
６．血圧等の測定方法
７．骨密度等の測定方法
８．健康教室に参加し、運動指導(ストレッチ)
９．健康教室に参加し、運動指導(筋力トレーニング)
１０．健康教室に参加し、運動指導(筋力トレーニング)
１１．健康教室に参加し、運動指導(レクリエーション)
１２．健康教室に参加し、運動指導(歩行動作)
１３．健康教室に参加し、運動指導(リズムダンス)
１４．健康教室に参加し、運動指導(リズムダンス)キャッチボール、バットスイングの基本
１５．まとめ

定期試験は実施しない

テキスト

使用しない。適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

使用しない。授業中に、適宜、紹介する。

学生に対する評価

毎回のリフレクションシート40%，レポート30%，意欲（授業への取組）30%

授業科目名：野外活動 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 井福　裕俊、坂本　将基 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		

授業のテーマ及び到達目標

・野外における活動の特性に応じた目的を理解し、その企画、運営、指導の為の資質と技術を身につけることを目指す。

授業の概要

体験型学習として夏季においてはキャンプおよび野外での活動体験を行う。冬季においてはスノースポーツを体験する。

授業計画

第１回：概要説明
第２回：林間実習（林間実習についてのオリエンテーション）
第３回：林間実習（テント設営）
第４回：林間実習（ロープワーク）
第５回：林間実習（野外調理の基礎）
第６回：林間実習（野外調理の応用）
第７回：林間実習（トレッキングの基礎）
第８回：林間実習（トレッキングの応用）
第９回：スノースポーツ実習（スノースポーツについてのオリエンテーション）
第１０回：スノースポーツ実習（前足固定による推進滑走）
第１１回：スノースポーツ実習（両脚固定のサイドスリップ）
第１２回：スノースポーツ実習（バックサイドターンとフロントサイドターン）
第１３回：スノースポーツ実習（緩斜面での連続ロングターン）
第１４回：スノースポーツ実習（緩斜面での連続ショートターン）
第１５回：総括

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

キャンプ論（加藤 文俊、慶應義塾大学出版会）
JSBAスノーボード教程（日本スノーボード協会、山と溪谷社）

学生に対する評価

野外活動に関する技術の理解と修得（70%）、活動への取組（30%）

授業科目名： 運動学（バイオメカニズムを含む） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 井上　伸一、市川　浩 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める科目区分又は事項等	・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

学校、スポーツ、健康における身体運動の実践および指導において、人間がどのように運動を認識し、習得するかを理解することは重要である。本授業では実践的運動研究に基づいた運動学の概念や目的、基礎理論を学び、当たり前にできることを説明できる重要性を理解し、自らの運動実践や他者への指導への役立て方について検討する機会を持つ。

授業の概要

実践的運動研究に基づいた運動学の概念や基礎理論について、授業回ごとにトピックを定め、講義形式で70分程度説明する。残りの時間を使いそのトピックに関する議論や演習を行う。

授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　ヒトの動きの原理
第3回　歩行動作のメカニズム
第4回　さまざまなスポーツ動作のメカニズム
第5回　スポーツにおける効率的な動き
第6回　運動学習の理論
第7回　機械と動物と人間の運動
第8回　運動の習得
第9回　形成位相論
第10回 身体知
第11回 動感図式
第12回 動感意識に基づいた指導構成
第13回 自己観察
第14回 運動の指導と指導上の措置
第15回 まとめ

テキスト

資料を配布

参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 期末テスト（60%）、レポート（40%）

授業科目名： 体育心理学【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山津　幸司
			担当形態： 単独

科　目	教科に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、体育やスポーツ指導者として「競技スポーツ」「学校体育」「健康のための運動・スポーツ」の実践場面に心理学の知見を応用できるようになるための基礎の習得を目標とする。【学士力番号1(4)】

授業の概要

運動・スポーツをより効果的、効率的かつ継続的に実践していくには、身体的側面のみならず心理学的な諸理論の理解が不可欠である。心理学の知見を応用できるようになるための基礎を教授する。共同科目のため開講形態はオンライン授業とする。

授業計画

第1回：オリエンテーション（体育・スポーツの心理学とは）

（1）本授業で学びたいことを考えてくる

第2回：運動技能の効果的な学習方法（1）：運動能力、運動技能、運動技術、運動学習

（2）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第3回：運動技能の効果的な学習方法（2）：フィードバック（FB）、心理的不応期、スキーマ里論

（3）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第4回：運動技能の効果的な学習方法（3）：運動学習の三段階説、FBの種類と機能、FB産出依存性

（4）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第5回：運動技能の効果的な学習方法（4）：文脈干渉効果、観察学習、メンタルプラクティス

（5）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第6回：スポーツと外発的動機づけ：動機づけの機能、達成動機、自己決定理論

（6）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第7回：スポーツと内発的動機づけ：自己決定と有能さの認知、遊び

（7）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第8回：運動好きと運動嫌いの心理学：運動有能感、苦痛回避動機、学習性無力感、原因帰属

（8）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第9回：目標に関連する心理学：目標設定、目標指向性
（9）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる
第１０回：覚醒水準とメンタルトレーニング（１）：逆U字型理論、あがり、さがり
（１０）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる
第１１回：覚醒水準とメンタルトレーニング（２）：ヤーキーズ・ドッドソンの法則、イメージ
（１１）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる
第１２回：健康づくりに役立つ運動心理学的側面について（１）：行動科学的アプローチ
（１２）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる
第１３回：健康づくりに役立つ運動心理学的側面について（２）：運動行動のステージ理論
（１３）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる
第１４回：運動・スポーツの心理的効果について（１）：不安、抑うつ、睡眠、運動依存
（１４）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる
第１５回：運動・スポーツの心理的効果について（２）：学業成績、認知症、脳機能
（１５）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

テキスト
幼稚園教育要領（文部科学省　平成２９年３月告示）
幼稚園教育要領解説（文部科学省　平成30年）

参考書・参考資料等
運動指導の心理学、スポーツ心理学入門、新版　運動心理学入門、スポーツメンタルトレーニング教本　改訂増補版

学生に対する評価
保健体育科教員として「学校体育」「競技スポーツ」「健康のための運動・スポーツ」の実践場面に心理学の知見を応用できるようになるための基礎の習得しているかの確認の為に、小テスト（30%）、レポートなどの予習復習（30%）、期末テスト（40%）を行い評価する。

授業科目名： 体育原理 【シラバス共通科目 （佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 坂本　将基／吉谷　修 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・体育とスポーツの概念について、自身の考えを述べることができる。

・体育やスポーツの本質を考え、あるべき体育やスポーツの原理・原則について理解する。

・保健体育教師やスポーツ指導者に求められる資質や倫理観を身に付ける。

授業の概要

「体育・スポーツとは何か」という根源的な問いから、体育・スポーツに関する様々な事柄について理解を深め、体育・スポーツのあるべき姿や進むべき方向について考える。

授業計画

第１回：授業概要の説明

第２回：体育とスポーツ

第３回：　身体からみた体育の可能性

第４回：　体育・スポーツにおける競争

第５回：　技術と技能

第６回：体育・スポーツ規範

第７回：　高度化と大衆化

第８回：　運動（スポーツ）文化

第９回：体育・スポーツと集団・組織

第１０回：　スポーツ産業

第１１回：　運動部活動の意義

第１２回：　スポーツ産業

第１３回：　スポーツ権

第１４回：　スポーツと政策

第１５回：総括

定期試験：

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等 教養としての体育原理（友添秀則編、大修館書店）
学生に対する評価 レポート試験（70%）、事前・事後学習の状況（30%）

授業科目名： 体育経営管理学【シラバス共通科目（熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大石　康晴／坂元　康成 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、体育やスポーツ指導者として「競技スポーツ」「学校体育」「健康のための運動・スポーツ」の実践場面にスポーツ経営学の知見を応用できるようになるための基礎の習得を目標とする。

なお本講義は佐賀大学学士力【１－３】、【２－２】に対応している。

授業の概要

学習目標 学校体育や地域等のスポーツ振興に必要となる体育・スポーツ経営の基礎理論及び方法論についての理解を深める。本稿では、アメリカンスポーツマネジメントの現状を参考にしながら，体育・スポーツ事業の経営過程について学習する。

授業計画

第１回：体育・スポーツ経営の必要性，目的，概念
第２回：運動者行動，体育事業，運動生活，体育経営体について
第３回： 体育・スポーツ経営の発展経緯と領域特性について
第４回： 体育・スポーツ事業の構成方法や体系について
第５回：体育・スポーツ施設の性格と整備について
第６回：保健体育審議会答申におけるスポーツ施設の整備指針について
第７回： スポーツクラブの性格論と経営課題について
第８回： 地域における広域スポーツセンターの役割と機能
第９回： 総合型地域スポーツクラブの意義と育成方法について
第１０回： 経営機能とマネジメントサイクルについて
第１１回： 経営計画の意義，分類，立て方について
第１２回： 組織成員の動機づけとリーダーシップについて
第１３回： 学校における体育・スポーツ経営の諸課題
第１４回： アメリカンスポーツから観るスポーツマネジメントの将来的展望
第１５回： まとめおよびレポート

テキスト

なし
参考書・参考資料等 「スポーツマネジメント」ボニーL・パークハウス　大修館書店 「体育経営管理学講義」宇土正彦、八代勉、中村平編著　大修館書店 「スポーツ経営学」山下秋ニ、畑攻、富田幸博編　大修館書店
学生に対する評価 体育・スポーツ経営に関する基礎理論の理解度や事業特性，経営の進め方に関する様々な具体的諸課題に対するレポート（30 点）及び最終レポート（50 点）をもって評価とする。また受講態度や授業への貢献度等（20 点）を総合的に判断し判定する。

授業科目名： 体育社会学 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大石康晴／山田　力也 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

・現代社会における体育・スポーツを取り巻く様々な現象を社会学的に検討することを通じて、これらをめぐる問題や課題について考察する力を養う。

・体育に加えスポーツの社会学的な捉え方の基礎を養うと同時に、体育社会学がスポーツ科学の一つの重要な専門学であることを理解する。

授業の概要

　スポーツは現代社会において、文化の一つとして人びとの生活のあらゆる側面に深く浸透している。本授業では、体育を取り巻く様々な現象を社会学的に検討し、それらをめぐる問題や課題について考察することを通じて、体育・スポーツ科学の一つの専門領域である体育社会学の見方、考え方を解説する。そこでは、スポーツの高度化や大衆化が社会にプラスのみならずマイナスの機能も生じさせている事実とその乗り越えの可能性についても考察していく。

授業計画

第１回：体育・スポーツの社会学的意味
第２回：現代社会と体育・スポーツ
第３回：体育・スポーツと政策
第４回：体育・スポーツと地域社会
第５回：体育・スポーツと経済
第６回：体育・スポーツと健康
第７回：体育・スポーツと社会化
第８回：体育・スポーツとメディア
第９回：体育・スポーツとグローバリゼーション
第１０回：体育・スポーツとジェンダー
第１１回：体育・スポーツとノーマライゼーション
第１２回：体育・スポーツと暴力
第１３回：体育・スポーツと社会病理
第１４回：スポーツ文化論

第１５回：体育社会学における学術研究の動向 定期試験
テキスト 特になし（適宜担当教員から資料配布する）
参考書・参考資料等 体育社会学研究 1~10、体育・スポーツ社会学研究 1~10(道和書院) スポーツ社会学研究（日本スポーツ社会学会） 森川・佐伯編著「スポーツ社会学講義」大修館、1989 井上俊編著「スポーツ文化を学ぶ人のために」世界思想社、2000 西山哲郎「近代スポーツ文化とは何か」世界思想社、2006 佐伯年詩雄「現代スポーツを読む」世界思想社、2006 大谷義博監修「変わりゆく日本のスポーツ」世界思想社、2008 松田・松尾・安松編著「福祉社会のアミューズメントとスポーツ」2010 井上・菊編著「よくわかるスポーツ文化論」2020
学生に対する評価 授業への取り組みによる平常点（20%）、レポート（20%）、定期試験（60%）

授業科目名： トレーニング科学 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育） 選択科目（高等学校　保健体育）	単位数： ２単位	担当教員名： 町田　正直 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

体力の各要素について理解する。

体力の各要素の優劣に与える要因について理解する。

体力テストと体力の関係について理解する。

トレーニング計画の基礎を理解する。

授業の概要

本授業では、体力の各要素と体力の各要素の優劣に与える要因、また、その能力を測定するための体力テストと体力の関係についての解説を行う。また、それらの能力を高めるためのトレーニング方法について、その実践例と合わせて解説する。

授業計画

第１回：体力への理解

第２回：行動体力１（筋力・筋パワー・筋持久力・全身持久力）

第３回：筋力

第４回：筋力と筋持久力

第５回：筋力とパワー（力とスピード）

第６回：筋持久力と全身持久力

第７回：行動体力２　（巧緻性）

第８回：行動体力３（意志・意欲・判断）

第９回：体力テストと体力

第１０回：トレーニング計画基礎

第１１回：トレーニング実践　筋力・筋パワーを高めるトレーニング

第１２回：トレーニング実践　筋持久力・全身持久力を高めるトレーニング

第１３回：トレーニング実践　巧緻性を高めるトレーニング

第１４回：防衛体力と行動体力

第１５回：防衛体力の向上を高めることを目指したトレーニング

定期試験
テキスト 体力トレーニング論：ISBN-9784469268577
参考書・参考資料等 必要に応じ適宜配布する。
学生に対する評価 定期試験100%

授業科目名： ヘルスプロモーション演習 【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育） 選択科目（高等学校　保健体育）	単位数： ２単位	担当教員名： 井上　伸一
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

健康のための運動指導の技術を身につけるとともにそれぞれの運動の効果や特性について理論的な理解を深める。また健康に関する種々の測定方法について学ぶとともに、その測定値の意義を深く理解する。

授業の概要

健康のための種々の運動について理論的に理解するとともに、その指導方法を実践的に学ぶ。佐賀大学が地域貢献事業としておこなっている健康教室に参加し、地域住民に運動指導をおこなっていく中で、指導方法を身につけるとともに、種々の測定をおこなうことで運動の効果について理解を深める。

授業計画

１．オリエンテーション
２．ストレッチの方法と意義
３．筋力トレーニングの方法と意義
４．リズムダンスの方法と意義
５．血圧の測定方法と測定値の評価
６．骨密度の測定方法と測定値の評価
７．体組成の測定方法と測定値の評価
８．健康教室で血圧を測定
９．健康教室で骨密度、体組成を測定
１０．健康教室に参加し運動指導を実施しその意義を講義する(ストレッチ)
１１．健康教室に参加し運動指導を実施しその意義を講義する(筋力トレーニング)
１２．健康教室に参加し運動指導を実施しその意義を講義する(リズムダンス)
１３．健康教室で血圧、骨密度、体組成を測定
１４．運動効果について評価
１５．まとめ
定期試験は実施しない

テキスト

使用しない。適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

使用しない。授業中に、適宜、紹介する。

学生に対する評価

毎回のリフレクションシート40%，レポート30%，意欲（授業への取組）30%

授業科目名：保健体育科課題研究Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 井福　裕俊（熊本大学） 大石　康晴（熊本大学） 末永　祐介（熊本大学） 坂本　将基（熊本大学） 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

・体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する専門知識を身に付ける。

・これらの基礎的な専門知識を基に、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する研究を行うための基礎的能力を身に付ける。

授業の概要

体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する資料収集、文献輪読、演習を中心にゼミ形式で学習を行う。

授業計画

授業計画

第１回：概要説明

第２回：保健体育教員に求められる体育原理の見方・考え方

第３回：保健体育教員に求められる体育原理に関する諸問題の把握と解決法

第４回：保健体育教員に求められる体育心理学の見方・考え方

第５回：保健体育教員に求められる体育心理学に関する諸問題の把握と解決法

第６回：保健体育教員に求められる体育経営管理学の見方・考え方

第７回：保健体育教員に求められる体育経営管理学に関する諸問題の把握と解決法

第８回：保健体育教員に求められる体育社会学の見方・考え方

第９回：保健体育教員に求められる体育社会学に関する諸問題の把握と解決法

第１０回：保健体育教員に求められる体育史の見方・考え方

第１１回：保健体育教員に求められる体育史に関する諸問題の把握と解決法

第１２回：保健体育教員に求められる運動学の見方・考え方

第１３回：保健体育教員に求められる運動学に関する諸問題の把握と解決法

第１４回：体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する

研究に向けた準備 第１５回：総括
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省） 体育科教育学入門　三訂版（岡出美則、大修館書店） 運動指導の心理学（杉原隆、大修館書店） よくわかるスポーツ文化論（井上俊、ミネルヴァ書房） 教養としての体育原理（友添秀則、大修館書店） ストレングストレーニング＆コンディショニング（石井直方、ブックハウスHD）
学生に対する評価 課題への取組（60％）、討議への積極的参加度（40％）

授業科目名：保健体育科課題研究Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 井福　裕俊（熊本大学） 大石　康晴（熊本大学） 末永　祐介（熊本大学） 坂本　将基（熊本大学） 担当形態：複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する高度な専門的知識を身に付ける。

・これらの高度な専門的知識を基に、体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する研究を行うための実践的能力を身に付ける。

授業の概要

体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する資料収集、文献輪読、演習を中心にゼミ形式で学習を行う。

授業計画

授業計画

第１回：概要説明

第２回：体育原理に関する研究に向けた準備（関連文献の輪読）

第３回：体育原理に関する研究に向けた準備（データ収集および分析）

第４回：体育心理学に関する研究に向けた準備（関連文献の輪読）

第５回：体育心理学に関する研究に向けた準備（データ収集および分析）

第６回：体育経営管理学に関する研究に向けた準備（関連文献の輪読）

第７回：体育経営管理学に関する研究に向けた準備（データ収集および分析）

第８回：体育社会学に関する研究に向けた準備（関連文献の輪読）

第９回：体育社会学に関する研究に向けた準備（データ収集および分析）

第１０回：体育史に関する研究に向けた準備（関連文献の輪読）

第１１回：体育史に関する研究に向けた準備（データ収集および分析）

第１２回：運動学に関する研究に向けた準備（関連文献の輪読）

第１３回：運動学に関する研究に向けた準備（データ収集および分析）

第１４回：体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史、運動学等に関する

研究に向けた準備（テーマの設定） 第１５回：総括
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説　保健体育編（文部科学省） 体育科教育学入門　三訂版（岡出美則、大修館書店） 運動指導の心理学（杉原隆、大修館書店） よくわかるスポーツ文化論（井上俊、ミネルヴァ書房） 教養としての体育原理（友添秀則、大修館書店） ストレングストレーニング＆コンディショニング（石井直方、ブックハウスHD）
学生に対する評価 課題への取組（60％）、討議への積極的参加度（40％）

授業科目名： 生理学（運動生理学を含む） 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大石　康晴、坂本　将基／町田　正直
			担当形態： クラス分け・複数／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

・エネルギー代謝を中心とした運動時における身体の生理反応について理解する。

・骨格筋の構造と機能を中心としたトレーニングに対する身体の生理反応について理解する。

・心拍数、酸素摂取量、二酸化炭素排出量、筋力などの生理反応を利用したトレーニング計画方法について理解する。

授業の概要

　各授業では学生に必要な追加資料を配布し、生理学に関する基本的な知見について概説する。さらに、運動・トレーニングに対する生体の適応についても解説する。

授業計画

第１回：生理学・運動生理学の概要（大石、坂本／町田）

第２回：運動のエネルギー（大石、坂本／町田）

第３回：筋系の収縮メカニズムとエネルギー -筋量と筋力の関係-（大石、坂本／町田）

第４回：神経系（運動神経）-運動単位と筋線維タイプ-（大石、坂本／町田）

第５回：神経系（感覚神経）-フィードバック機構-（大石、坂本／町田）

第６回：血液の成分とエネルギー -エネルギー産生に必要な素材-（大石、坂本／町田）

第７回：循環系 -運動エネルギー産生に必要な素材の運搬-（大石、坂本／町田）

第８回：呼吸器系 -運動エネルギー産生に必要な素材の収集と排出（大石、坂本／町田）

第９回：消化器系 -運動エネルギー産生に必要な素材の吸収-（大石、坂本／町田）

第１０回：運動時のエネルギー供給 -ATPとエネルギー-（大石、坂本／町田）

第１１回：神経系（中枢神経）-感覚情報の統合と運動出力-（大石、坂本／町田））

第１２回：内分泌系 -ホルモンとエネルギー代謝-（大石、坂本／町田）

第１３回：内分泌系 -ホルモンと筋肥大-（大石、坂本／町田）

第１４回：環境への身体順応（大石、坂本／町田）

第１５回：生理反応とトレーニング計画（大石、坂本／町田）

定期試験：

テキスト

３訂版・運動生理学の基礎と発展 星雲社; 三訂版 (2018/9/1) ISBN-13:978-4434250231
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 定期試験 (100%)

授業科目名： 解剖学 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育 ） 選択科目（高等学校　保健体 育）	単位数： １単位	担当教員名： 川久保　善智、町田　正直
			担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

身体活動と関連の強い人体の各器官系の構造について理解する。

各器官系と身体活動との関連を理解する。

授業の概要

本授業では、体育の教員として理解してほしい、身体活動と関連の強い人体の各器官系の構造とそれらの器官系と身体活動との関連について解説する。また、授業の後半には解剖供覧を行い、人体の構造についての理解を深める。

授業計画

第１回：骨格系と筋系（町田　正直）

第２回：呼吸器系と心臓血管系（町田　正直）

第３回：神経系と内分泌系（町田　正直）

第４回：消化器系（川久保　善智）

第５回：解剖供覧（川久保　善智）

第６回：解剖供覧（川久保　善智）

第７回：解剖供覧（川久保　善智）

第８回：全体復習・試験（町田　正直）

テキスト

人体の構造と機能　第4版　ISBN 978-4-260-02055-8

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験100%

授業科目名： 生理学実験・演習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大石康晴（熊本大学） 坂本将基（熊本大学） 担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

各種の実験や演習を通して、人体の生理的特性について理解する。

授業の概要

各種の実験により生理的特性を測定し、それについてグループディスカッションを行いレポートにまとめる。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の進め方や内容、評価について）
第２回：心拍数の測定と評価
第３回：呼吸数の測定と評価
第４回：運動時における心拍数と呼吸数の測定と評価
第５回：最大酸素摂取量の基礎
第６回：最大酸素摂取量の測定と評価（定常負荷による運動）
第７回：最大酸素摂取量の測定と評価（漸増負荷による運動）
第８回：筋線維組成の基礎
第９回：間接的手法による筋線維組成の測定
第１０回：筋線維組成の評価
第１１回：瞬発力の測定と評価
第１２回：持久力の測定と評価
第１３回：最大筋力の測定と評価
第１４回：筋疲労時における最大筋力の測定と評価
第１５回：まとめ
定期試験：実施しない（レポート提出有り）

テキスト

必要に応じて準備し配布する。

参考書・参考資料等

・春日規克編「運動生理学の基礎と発展」星雲社

・勝田茂編「運動生理学20講」朝倉書店
学生に対する評価 参加態度（25%）、授業に対する積極性（25%）、レポート（50%）

授業科目名：衛生・公衆衛生学 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 坂本　将基（熊本大学） 伊藤　雅浩（熊本大学） 担当形態：オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学

授業のテーマ及び到達目標

・衛生学および公衆衛生学の概念と意義を説明することができるようになる。

・ヒトの健康に影響を及ぼす自然環境や社会的環境について理解する。

授業の概要

　衛生学および公衆衛生学上の主要な問題点について概説する。そのうえで、社会や環境と健康の関わりについて考察し、議論していく。

授業計画

第１回：健康の定義、生活と健康（坂本、伊藤）

第２回：疫学の特徴と方法（伊藤）

第３回：疾病予防と健康管理（伊藤）

第４回：感染症（伊藤）

第５回：環境保健（坂本）

第６回：地域保健と保健行政（伊藤）

第７回：母子保健と小児保健（坂本）

第８回：学校における子どもの健康（坂本）

第９回：職場の健康（伊藤）

第１０回：高齢者の保健・医療・介護（坂本）

第１１回：精神保健（坂本）

第１２回：保健統計（坂本）

第１３回：国際保健医療（坂本）

第１４回：保健医療福祉の制度と法規（坂本）

第１５回：まとめ（坂本、伊藤）

定期試験

テキスト

　授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

シンプル衛生公衆衛生学（鈴木庄亮監修、南江堂） 衛生学（近藤雄二編、化学同人）
学生に対する評価 レポート試験（70%）、事前・事後学習の状況（30%）

授業科目名： 学校保健 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：井福裕俊、坂本将基、伊藤雅浩 担当形態：オムニバス
科　目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校　保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

学校現場における保健問題の現状を理解し、基本的知識を身につけることで、課題解決を図れるようになる。

授業の概要

学校現場における保健問題の現状や子どもの健康問題について理解し、基本的知識を身につけながら、課題解決の方法を探る。

授業計画

第１回：オリエンテーション（全１５講分の講義の概要説明）（担当：全教員）
第２回：学校におけるヘルスプロモーション（担当：伊藤）
第３回：学校における環境衛生（担当：伊藤）
第４回：健康な生活と疾病の予防（担当：伊藤）
第５回：感染症（担当：伊藤）
第６回：応急手当（担当：伊藤）
第７回：心肺蘇生法（担当：伊藤）
第８回：熱中症とその予防（担当：井福）
第９回：子どもの発育・発達（担当：井福）
第１０回：子どもの健康問題（１）肥満（担当：井福）
第１１回：子どもの健康問題（２）立位姿勢とからだの歪み（担当：井福）
第１２回：子どもの健康問題（３）扁平足と浮き指（担当：井福）
第１３回：子どもの健康問題（４）起立性調節障害　−起立性低血圧を中心に−（担当：井福）
第１４回：精神保健の基本（担当：坂本）
第１５回：心の健康問題とその対応（担当：坂本）

テキスト

・中学校学習指導要領解説　保健体育編（平成29年７月　文部科学省）
・学校環境衛生管理マニュアル　「学校環境衛生基準」の理論と実践（平成30年５月　文部科学省）

参考書・参考資料等

・授業中に適宜資料等を配布する。
学生に対する評価 　レポート試験（100％）

授業科目名： 学校安全・救急処置 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校　保健体育） 選択科目（高等学校　保健体育）	単位数： ２単位	担当教員名： 中村　有希 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、中学校、高等学校における保健体育教員として、学校体育を中心とした学校管理下における教育活動のリスクマネジメント・クライシスマネジメントについて学修することを目的としている。到達目標は、以下の通りである。

1　学校管理下における災害の特徴を理解し、事故要因について考察することができる。
2　教育活動における教師のリスクマネジメント・クライシスマネジメントを理解できる。
3　救急処置の基本的スキルを修得することができる。

授業の概要

本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、学校安全の意義や学校体育を中心とした事故の動向と対策、救急処置の基本について理解する。また、安全教育の観点を踏まえ、学校体育を巡る事故動向を分析し、傾向と対策について教師役と生徒役に分かれて模擬授業を行う。

授業計画

第１回　オリエンテーション（授業の目標と概要，成績評価、授業の進め方について）
第２回　学校安全の意義
第３回　安全管理（リスクマネジメント・クライシスマネジメント含む）と安全教育
第４回　学校管理下における事故の現況について
第５回　重大事故の特徴と発生要因の分析①事故事例・判例（運動部活動）を基に
第６回　重大事故の特徴と発生要因の分析②事故事例・判例（体育授業・体育的行事）を基に
第７回　学校体育における事故と対策①運動部活動における事故の特徴（模擬授業①）
第８回　学校体育における事故と対策②体育授業における事故の特徴（模擬授業②）
第９回　学校体育における事故と対策③体育的行事における事故の特徴（模擬授業③）
第10回　教育活動全般の事故の特徴と対策（模擬授業④）
第11回　救急処置の基本
第12回　救急処置法実習①心肺蘇生法
第13回　救急処置法実習②異物除去法
第14回　学校安全の課題
第15回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）
定期試験

テキスト

・中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示・文部科学省）
・中学校学習指導要領解説保健体育編（平成 29 年７月・文部科学省）
・高等学校学習指導要領（平成 30 年３月告示・文部科学省）
・高等学校学習指導要領解説保健体育編（平成 30 年７月・文部科学省）
・教員養成系大学保健協議会（2024）「学校保健ハンドブック（第８次改訂）」ぎょうせい

参考書・参考資料等

・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店

・環太平洋大学体育学部（2023）「体育授業のリスクマネジメント実践ハンドブック」大修館書店
学生に対する評価 定期試験40%、提出物30%、発表20%、意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 中等保健体育科指導法Ⅰ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 末永　祐介、坂本　将基／中村　有希
			担当形態： クラス分け・複数／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、保健体育教員として「保健体育の授業をつくる」そして「保健体育の授業を実践する」ために必要な保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、中学校・高等学校の学習指導要領における保健体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義を通して保健体育科指導法の基礎を理解する。

到達目標は、以下の通りである。

１　保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。

授業の概要

本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（授業の目標と概要、成績評価について・保健体育科の学びとは）
第２回　保健体育の目標と内容①（学習指導要領解説保健体育編体育分野の理解）
第３回　保健体育の目標と内容②（学習指導要領解説保健体育編保健分野の理解）
第４回　保健体育教師を取り巻く制度（教員の資質能力と法令）
第５回　保健体育教師としての成長と教師教育（学び続ける教員と授業研究）
第６回　よい体育授業の条件（体育授業の条件）
第７回　体育の学習者論（子どもの成長と体力・運動能力、運動技能の育成）
第８回　体育の学習内容と教材・教具論（体育授業の教材研究・ＩＣＴ活用）
第９回　体育の学習指導論（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）
第 10 回　体育の学習評価（指導と評価の一体化のための学習評価）
第 11 回　体育の授業評価（体育授業改善に貢献する授業研究）
第 12 回　体育の指導技術①（モニタリングと相互作用技術）

第 13 回　体育の指導技術②（マネジメント方略）
第 14 回　体育の指導技術③（インストラクション方略）
第 15 回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）
定期試験

テキスト
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）保健体育編」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）保健体育編 体育編」東山書房（2019）
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店）

参考書・参考資料等
・佐賀県教育委員会（2022）「中学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・佐賀県教育委員会（2023）「高等学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版
・日本保健科教育学会（2017）「保健科教育法入門」大修館書店
・森昭三/和唐正勝（2002）「新版保健の授業づくり入門」大修館書店

学生に対する評価
定期試験50%、リフレクションレポート10%、授業リフレクション30%、
意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 中等保健体育科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 末永　祐介、坂本　将基／中村　有希
			担当形態： クラス分け・複数／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、保健体育教員として「保健体育の授業をつくる」そして「保健体育の授業を実践する」ために必要な保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、中学校・高等学校の学習指導要領における保健体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義と演習を通して保健体育科指導法（主として、体育分野の学習内容について）の基礎を理解する。

到達目標は、以下の通りである。

1　保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解することができる。

2　学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。

授業の概要

本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（授業の目標と概要、成績評価について・保健体育科の学びとは）

第２回　体育の授業づくり①（体育学習指導案・学習ノートの作成方法）

第３回　体育の授業づくり②（体育の学習評価・授業研究）

第４回　体育の授業づくり③（体育の教材研究・ＩＣＴ活用）

第５回　授業実践①（模擬授業実践演習「体育分野領域Ａ」体つくり運動）
第６回　授業実践②（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｂ」器械運動）
第７回　授業実践③（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｃ」陸上競技）
第８回　授業実践④（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｄ」水泳）
第９回　授業実践⑤（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｅ」ゴール型）
第 10 回　授業実践⑥（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｅ」ネット型）
第 11 回　授業実践⑦（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｅ」ベースボール型）
第 12 回　授業実践⑧（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｆ」武道）
第 13 回　授業実践⑨（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｇ」ダンス）
第 14 回　授業実践⑩（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｈ」体育理論）
第 15 回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）
定期試験

テキスト
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）保健体育編」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）保健体育編 体育編」東山書房（2019）
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店

参考書・参考資料等
・佐賀県教育委員会（2022）「中学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・佐賀県教育委員会（2023）「高等学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版
・日本保健科教育学会（2017）「保健科教育法入門」大修館書店
・森昭三/和唐正勝（2002）「新版保健の授業づくり入門」大修館書店

学生に対する評価
定期試験 30%、リフレクションレポート 30%、授業リフレクション 30%、
意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 中等保健体育科指導法Ⅲ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 末永　祐介、坂本　将基／堤　公一
			担当形態： クラス分け・複数／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、保健体育教員として「保健体育の授業をつくる」そして「保健体育の授業を実践する」ために必要な保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、中学校・高等学校の学習指導要領における保健体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義と演習を通して保健体育科指導法（主として、保健分野の学習内容について）の基礎を理解する。

到達目標は、以下の通りである。

１　保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解することができる。

２　学習指導要領において取り上げられている保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解することができる。

授業の概要

本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの基本的な考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの基本的な考え方を理解する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（授業の目標と概要、成績評価について・保健体育科の学びとは）

第２回　学校保健と保健科教育①
（学校保健計画・学校安全計画の意義と学習指導要領保健体育編の理解）

第３回　学校保健と保健科教育②
（保健主事の役割及び養護教諭との連携と学習指導要領保健体育編の理解）

第４回　保健の授業づくり①（保健学習指導案・学習ノートの作成方法）

第５回　保健の授業づくり②（保健の学習評価・授業研究）

第６回　保健の授業づくり③（保健の教材研究・ＩＣＴ活用）

第７回　授業実践①模擬授業実践演習「健康な生活と疾病の予防」
第８回　授業実践②模擬授業実践演習「心身の機能の発達と心の健康」
第９回　授業実践③模擬授業実践演習「傷害の防止」
第 10 回　授業実践④模擬授業実践演習「健康と環境」
第 11 回　授業実践⑤模擬授業実践演習「現代社会と健康」
第 12 回　授業実践⑥模擬授業実践演習「安全な社会生活」
第 13 回　授業実践⑦模擬授業実践演習「生涯を通じる健康」
第 14 回　授業実践⑧模擬授業実践演習「健康を支える環境づくり」
第 15 回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）
定期試験

テキスト
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）保健体育編」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）保健体育編 体育編」東山書房（2019）
・教員養成系大学保健協議会（2024）「学校保健ハンドブック（第８次改訂）」ぎょうせい

参考書・参考資料等
・佐賀県教育委員会（2022）「中学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・佐賀県教育委員会（2023）「高等学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店
・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版
・日本保健科教育学会（2017）「保健科教育法入門」大修館書店
・森昭三/和唐正勝（2002）「新版保健の授業づくり入門」大修館書店

学生に対する評価
筆記試験30%、リフレクションレポート30%、授業リフレクション30%、
意欲（授業への取組）10%

授業科目名： 中等保健体育科指導法Ⅳ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 末永　祐介、坂本　将基／堤　公一 担当形態： クラス分け・複数／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　保健体育）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業のテーマは、保健体育教員として「保健体育の授業をつくる」そして「保健体育の授業を実践する」ために必要な保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価・授業研究の方法などを理解することである。特に、中学校・高等学校の学習指導要領における保健体育科の目標である生涯にわたる健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて、講義と演習を通して保健体育科指導法を理解する。

到達目標は、以下の通りである。

1　保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの考え方を理解することができる。

2　学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」及び保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの考え方を理解することができる。

授業の概要

本授業は、講義を通して保健体育科の目標・カリキュラム・学習内容・学習指導法・学習評価などの考え方を理解するとともに、演習を通して学習指導要領において取り上げられている体育分野「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「武道」「ダンス」「体育理論」及び保健分野についての授業づくりや授業研究の方法などの考え方を理解する。

授業計画

第１回　オリエンテーション
（授業の目標と概要、成績評価について・保健体育科の学びとは）

第２回　保健体育の目標・カリキュラム・学習内容（学習指導要領解説保健体育編の理解）

第３回　保健体育の授業づくり①（保健体育の学習評価・授業研究）

第４回　保健体育の授業づくり②（保健体育の教材研究・ＩＣＴ活用）

第５回　授業実践①（ＩＣＴを活用した附属中学校授業参観）
第６回　授業実践②（主体的な学びの実現に向けた附属中学校授業参観）
第７回　授業実践③（対話的な学びの実現に向けた附属中学校授業参観）
第８回　授業実践④（深い学びの実現に向けた附属中学校授業参観）
第９回　授業実践⑤（模擬授業実践演習「体育分野領域Ａ」）
第 10 回　授業実践⑥（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｂ・Ｃ」）
第 11 回　授業実践⑦（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｅ」）
第 12 回　授業実践⑧（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｆ・Ｇ」）
第 13 回　授業実践⑨（模擬授業実践演習「体育分野領域Ｈ」）
第 14 回　授業実践⑩（模擬授業実践演習「保健分野」）
第 15 回　総括リフレクション（リフレクションレポートの作成について）
定期試験は実施しない

テキスト
・文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
・文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）保健体育編」東山書房（2018）
・文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）保健体育編 体育編」東山書房（2019）
・岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店
・教員養成系大学保健協議会（2024）「学校保健ハンドブック（第８次改訂）」ぎょうせい

参考書・参考資料等
・佐賀県教育委員会（2022）「中学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・佐賀県教育委員会（2023）「高等学校体育指導ハンドブック」佐賀県教育庁保健体育課
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校保健体育】（令和２年３月・国立教育政策研究所教育課程研究センター）
・高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版
・日本保健科教育学会（2017）「保健科教育法入門」大修館書店
・森昭三/和唐正勝（2002）「新版保健の授業づくり入門」大修館書店

学生に対する評価
リフレクションレポート30％、授業リフレクション60％、意欲（授業への取組）10％

授業科目名：木材加工Ⅰ（実習を含む） 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　浩継、大塚　芳生 担当形態：オムニバス
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術及び高等学校　工業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。） ・工業の関係科目		

授業のテーマ及び到達目標

技術科教員に必要な木材加工の基礎基本として、①木材②木質材料の性能と特徴を理解する。

授業の概要

森林の有益な機能，森林資源の保護と木材利用の調和，生物由来の木材の特性，木質材料の特徴，木材の接着・塗装加工法等

授業計画

第１回：森林の有益な機能と森林伐採の是非（概論／森林資源の保護と木材利用の調和）
（担当：田口　浩継）
第２回：生物由来の木材の特性（３方向と３断面を有する木材の異方性）（担当：田口　浩継）
第３回：木工手工具（木工かんなの構造と機能）（担当：田口　浩継）
第４回：木工手工具（のこぎりの構造と機能）（担当：田口　浩継）
第５回：木工手工具（木工用のみの構造と機能）（担当：大塚　芳生）
第６回：木工手工具（木工用きり等の構造と機能）（担当：大塚　芳生）
第７回：設計図に基づいた木製品の製作（材料取り、切断）（担当：大塚　芳生）
第８回：設計図に基づいた木製品の製作（切削、組み立て）（担当：大塚　芳生）

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，技術科教育概論，九州大学出版会
山下晃功編者：技術研究選書，木材の性質と加工，開隆堂

参考書・参考資料等

検定済み教科書（技術・家庭科）

学生に対する評価

授業への積極的な参加意欲と態度20%，小試験・レポート30%及び期末テスト・製作物50%

授業科目名： 木材加工Ⅱ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　浩継、大塚芳生 担当形態：オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術及び高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

技術科教育の教員養成に備えるべき材料と加工分野における木材加工の基礎基本として、①手工具、②木工機械の構造と機能を教授する

授業の概要

木材加工に関する切削理論と加工法，主な木工手工具および木工機械の構造と機能を理解し、中学校技術の授業が担当できる。

授業計画

第１回：木材の物理的性質（木材の比重，含水率，膨潤収縮率）（担当：田口　浩継）
第２回：木質面材料（合板の構成原則と用途）（担当：田口　浩継）
第３回：木質軸材料（木材異方性を強調する集成材の特徴と用途）（担当：田口　浩継）
第４回：木材の接着・塗装（木材の接着メカニズムと方法、木材の塗装工程と方法）
（担当：田口　浩継）
第５回：木工機械（丸のこ盤の構造と機能）（担当：大塚　芳生）
第６回：木工機械（かんな盤の構造と機能）（担当：大塚　芳生）
第７回：木工機械（糸のこ盤、ボール盤の構造と機能）（担当：大塚　芳生）
第８回：木材の加工法のまとめ（担当：大塚　芳生）

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，技術科教育概論，九州大学出版会
山下晃功編者：技術研究選書，木材の性質と加工，開隆堂

参考書・参考資料等

検定済み教科書（技術・家庭科）

学生に対する評価

授業への積極的な参加意欲と態度20%，小試験・レポート30%及び期末テスト50%

授業科目名： 木材加工実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：田口　浩継、 大塚　芳生 担当形態：複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術及び高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

１．中学校技術科教員に必要不可欠な木材加工に関する基礎知識と基本技能を身につける。

２．木材を使用して指定製作を実践する。

授業の概要

木材を使用したものづくり課題として、各種の手工具と機械を安全に使用し、鍋敷き、マルチラック等を製作する。また、自由製作品の構造と機能を考えて製図を行い、各種の手工具と機械を安全に使用し、作品を完成する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（作業の安全性及び手工具、木工用機械の注意事項の周知）

第２回：鍋敷きの製作（木工具を使ったけがき、切断、通しほぞの加工技術の基礎）

第３回：マルチボックスの製作（木工機械を使った切削・切断技術、組み立て技術、塗装技法）

第４回：塗装技術の習得（目止め、着色を含む塗装方法の習得）

第５回：刃研ぎ技術の習得（鉋および鑿の刃研ぎに関する手入れの方法の習得）

第６回：製作品の構想（自由製作品の構想とスケッチ）

第７回：製作品の模型製作（自由製作品のミニチュア模型製作）

第８回：製作品の製図（自由製作品の構造と機能等を考えて製図）

第９回：製作品の製図（自由製作品の構造と機能等を考えて製図を完成）

第10回：製作品の製作（図面に基づきけがき、部品加工：切断）

第11回：製作品の製作（部品加工：切断・切削）

第12回：製作品の製作（部品加工：切削・研磨）

第13回：製作品の製作（組み立て）

第14回：製作品の製作（組み立て・調整）

第15回：製作品の自己評価と総合評価

テキスト

1. 山下晃功編者：技術研究選書、木材の性質と加工、開隆堂

2. 木材加工系実技教科書、(独)雇用・能力開発機構　職業能力開発総合大学校　能力開発研究

センター編
参考書・参考資料等 検定済み教科書　技術・家庭　技術分野　（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社
学生に対する評価 前半の成績は、製作品(70%)及び、積極的な参加意欲・取組姿勢(30%)によって評価する。 製作品及び、実技試験の評価は以下の観点による。 1. 製作品の評価：直角度、精度、塗装等 2. 切削手工具の刃研ぎ技能評価 また、後半に自由製作品については、製作品のデザイン、構造・機能、加工技術、組立技術、塗装・表面処理（７０％）および製作意欲（３０％）によって評価する。 製作品及び、実技試験の評価は以下の観点による。 1. 製作品の評価：直角度、精度、塗装、図面との整合性、自己評価、相互評価 2. 実技試験による評価：「鋸びき」「鉋がけ」の加工技能修得度、工具の調整・使用法、加工時の姿勢、仕上がり等

授業科目名： 製図Ⅰ（実習を含む） 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野　文慈
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む) ・工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 学士力達成のために，機械製図の基本的ルールを学ぶ			
授業の概要 技術科教員試験対応の，三角法，等角法，キャビネット法などを教授する			
授業計画 第１回：製図とは何か　生活機器製図で学ぶこと 第２回：製図の基本，線の引き方・文字のかき方　課題 『線の書き方』 基本的な図形のかき方 第３回：立体図(等角図・キャビネット図)の書き方 第４回：立体図(等角図・キャビネット図)における曲線部の書き方 第５回：立体図(等角図・キャビネット図)実技　課題　『等角図』 第６回：立体図(等角図・キャビネット図)実技　課題　『キャビネット図』 第７回：三角法を用いた品物の表示(フリーハンド) 練習問題 第８回：三角法を用いた図面の作成　課題　『三角法図面』 定期試験なし			
テキスト 自作の資料を配布する			
参考書・参考資料等 『初心者のための機械製図』森北出版			
学生に対する評価 課題の提出物で評価する			

授業科目名： 製図Ⅱ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野　文慈 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

機械製図の基本的ルールを学んだあと，PCを使った図面を書けるようになる

授業の概要

２DCAD，３DCADでの図面の書き方を学ぶ

授業計画

第１回：JWCADの使い方

コマンドの使い方（[消去]，[複線][伸縮]） 実習

コマンドの使い方([属変][属性習得][レイヤー]）実習

第２回：CAD図面　効率的な図面の書き方 ●課題『線種の区別』寸法の記入法

第３回：CAD図面　●課題 『建築平面図』

第４回：CAD図面　●課題　『家具の図面』

第５回：CAD図面　●課題『三角法の図面２』

第６回：3DCADのインストール環境　Autodesk

第７回：3DCAD を使った図面　『歯車』TinkerCad

第８回：3DCAD を使った図面　『フランジ』TinkerCad

定期試験なし

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『Tinkercadではじめる3D-CAD』工学社

学生に対する評価　提出物で評価する

授業科目名： 金属加工Ⅰ（実習を含む） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野　文慈 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

金属の特性を組織学的に理解し，加工するための鉄の本質を理解する

授業の概要

鉄の組織学を学んだ後，グローバルな鉄の性質や測定法を学ぶ

授業計画

第１回：金属加工学概論　鉄鋼とは

第２回：鉄と鋼

第３回：鉄の平衡状態図の見方

第４回：鋼の焼き入れ

第５回：ステンレス鋼・工具鋼

第６回：引張強さとせん断強さ

第７回：歯車の加工　歯車の減速比の計算

第８回：加工と精度　測定法実習

定期試験なし

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『**金属材料が一番わかる（しくみ図解）**』技術評論社

『**機械工作1**』実教出版

学生に対する評価

毎回のレポートの提出にて評価をする

授業科目名： 金属加工Ⅱ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野　文慈 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・材料加工(実習を含む。) ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

さまざまな鉄の加工法を学ぶ

授業の概要

鉄の組織学を学んだうえで，いろいろな加工法を学ぶ

授業計画

第１回：切削加工（旋盤・フライス加工）

第２回：研削加工　グラインダー

第３回：鋳造，鍛造、転造

第４回：溶接加工、接着

第５回：引き抜き加工　パイプ

第６回：ねじ

第７回：製図法（機械部品の図示法）

第８回：3Dプリンタの原理と応用

定期試験なし

テキスト

必要に応じ適宜紹介する。

参考書・参考資料等

『金属材料が一番わかる（しくみ図解）』技術評論社

『機械工作1』実教出版

学生に対する評価

レポートの内容によって評価する

授業科目名： 機械Ⅰ（実習を含む） 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大塚　芳生／小野　文慈 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　技術　及び　高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

材料力学・構造力学の基礎を学習する

授業の概要

力のつりあいを理解し，構造物にかかる応力が計算できるようになる.

授業計画

第１回：力の合成と分解

第２回：力のモーメント

第３回：応力とひずみ

第４回：引張応力，圧縮応力，引張試験実習

第５回：梁の断面に働く力

第６回：はりの教材づくり(実習)

第７回：座屈

第８回：降伏応力

定期試験なし

テキスト

『図解でわかる はじめての 材料力学』技術評論社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回のレポートで評価する.

授業科目名： 機械Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大塚　芳生／小野　文慈 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　技術　及び　高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

機械Iで 材料力学・構造力学を学び，トラスの設計を行う

授業の概要

平面トラスの設計を行う

授業計画

第１回：接触点，支点に働く力

第２回：トラスの概要

第３回：節点法・切断法

第４回：応力とひずみ

第５回：トラスの設計 (1)

・負荷条件を与え，トラス橋の形を設計する

第６回：トラスの設計 (2)

・各トラス部材力を計算していく

第７回：トラスの設計 (3)

・応力の大きさを勘案し部材のサイズを決定する

第８回：部材力とサイズのチェックを受ける

テキスト

『図解でわかる はじめての 材料力学』技術評論社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポートおよび設計書を評価

授業科目名： 機械実習 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大塚　芳生／小野　文慈 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気(実習を含む。) ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

学士力に到達するために機械工作のやり方および安全に対する知識を身につける.

授業の概要

安全について学んだあと，主に機械加工を体験する．また，接着加工として溶接，はんだ，ろう付けの加工方法を身ににつける.

授業計画

第１回：安全教育　(担当：小野　文慈)

第２回：ノギス，マイクロメータの使い方　(担当：小野文慈／大塚芳生)

第３回：機械加工(旋盤・フライス盤・ボール盤) 荒削り加工　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第４回：機械加工(旋盤・フライス盤・ボール盤)　仕上げ加工　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第５回：機械加工(旋盤・フライス盤・ボール盤)　溝加工，端面加工，平面加工　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第６回：接着加工(溶接・はんだ・ろう付け)　の基礎 (担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第７回：接着加工(はんだ・ろう付け)の実習　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第８回：接着加工(溶接)の実習　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第９回：安全教育・けがき　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第１０回：はつり作業　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第１１回：やすりがけ作業　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第１２回：キサゲ作業　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第１３回：ねじきり　下穴加工　(担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第１４回：ねじきり　タップ (担当：小野　文慈／大塚　芳生)

第１５回：ねじきり　ダイス (担当：小野　文慈／大塚　芳生)

定期試験　実施しない.

テキスト

なし

参考書・参考資料等

機械実習１**測定の基礎・手仕上げ・鋳造・溶接・塑性加工・切削加工　実教出版** 機械実習２**切削加工・研削加工・NC工作機械加工・CADとその応用　実教出版**
学生に対する評価　制作物とレポートによって評価する

授業科目名： 電気Ⅰ（実習を含む） 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 和久屋　寛
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

１）「直流回路」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。

２）「電流と磁気」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。

授業の概要

これは、後続科目「電気Ⅱ」とともに、電気工学の出発点となるべき基本的な授業科目である。それゆえ、中途半端な理解では、現代社会における関連技術の理解に支障を来すことが予想される。そこで、本講義では、工業高校において教科書として採用される書籍を敢えて取り上げ、直流回路、電流と磁気という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。

授業計画

第１回：　ガイダンス
　　直流回路①　直流回路の電流と電圧
第２回：　直流回路②　電力と熱エネルギー、電気抵抗
第３回：　直流回路③　電流の化学作用と電池
　　電流と磁気①　電流と磁界
第４回：　電流と磁気②　磁界中の電流に働く力
第５回：　電流と磁気③　磁性体と磁気回路
第６回：　電流と磁気④　電磁誘導と電磁エネルギー
第７回：　実習　模型用モータの仕組み
第８回：　総括と定期試験および解説

テキスト

・電気基礎１（堀田栄喜・藤田英明・川嶋繁勝 他9名，実教出版，2017）
　https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/17000035

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、定期試験の成績（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 電気Ⅱ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 和久屋　寛 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

１）「静電気」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。

２）「交流回路」に関する知識を修得し、関連する問題を解くことができる。

授業の概要

これは、先行科目「電気Ⅰ（実習を含む）」の続編という位置付けである。両科目は、電気工学の出発点であり、電子工学、情報通信工学と発展して、その延長線上に人工知能がある。それゆえ、現代社会における関連技術の理解に欠かせない内容を含む。そこで、本講義では、工業高校の教科書を敢えて取り上げ、静電気、交流回路という順序で深く学ぶ。また、演習問題に取り組むことを通して、その知識を活用できるように鍛える。

※「電気Ⅰ（実習を含む）」の履修を前提として進める。

授業計画

第１回：　ガイダンス
　　静電気①　電荷と電界

第２回：　静電気②　コンデンサ

第３回：　静電気③　絶縁破壊と放電現象

第４回：　交流回路①　交流の基礎

第５回：　交流回路②　R、L、Cの働き

第６回：　交流回路③　交流電力

第７回：　総復習

第８回：　総括と定期試験および解説

テキスト

・電気基礎１（堀田栄喜・藤田英明・川嶋繁勝 他9名，実教出版，2017）
　https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/17000035

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、定期試験の成績（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 電気実習【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和久屋　寛／大塚　芳生 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校　技術　及び　高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。） ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

１）実験レポートの役割を理解し、客観的な記述に基づくレポートを作成することができる。

２）簡単な電気回路の測定を通して、測定器の使い方を理解し、その説明ができる。

３）基本的な電子回路の工作を通して、その動作原理を理解し、その説明ができる。

授業の概要

これは、いくつかの現象を実際に観察し、その内容をレポートとしてとりまとめる授業科目である。そこで、本実習では、実験内容をとりまとめて第三者に分かりやすく説明するための「実験レポート」について、その重要性を説明した後、実践的なトレーニングとして、いくつかの基本的な電気回路及び電子回路に関わる実験に取り組む。

※「電気Ｉ（実習を含む）」の履修を前提として進める。

授業計画

第１回：　ガイダンス、安全教育　（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第２回：　レポート作成の基礎①　役割、基本的な構成、図表の作成方法　（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第３回：　レポート作成の基礎②　測定技術、誤差の評価（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第４回：　グラフ用紙の使い方（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第５回：　測定器の使い方（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第６回：　簡単な電気回路実験①　簡単な信号の作成とその波形の測定（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第７回：　簡単な電気回路実験②　オームの法則（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第８回：　模型用モータの仕組み（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第９回：　基本的な電子回路実験①　LEDの実験、増幅の実験（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第１０回：　基本的な電子回路実験②　タイマの実験（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第１１回：　基本的な電子回路実験③　光センサの実験（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第１２回：　電子回路工作の実際①　はんだ付け練習（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）

第１３回：　電子回路工作の実際②　基板の組み立て（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）
第１４回：　電子回路工作の実際③　動作の確認（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）
第１５回：　総復習　（担当：和久屋　寛／大塚　芳生）
定期試験は実施しない。

テキスト
・安全の手引（佐賀大学教育学部）
https://next.pd.saga-u.ac.jp/Anzen_no_tebiki.html

参考書・参考資料等
・関連する内容を指示する。

学生に対する評価
授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、レポート課題の内容（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名：生物育成ＩＡ（実習を含む）【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：一色　司郎 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		

授業のテーマ及び到達目標：主に園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、栽培学の基本的な部分を網羅の理解を目標とした。

授業の概要：栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。

授業計画

第１回：総論
第２回：園芸作物の形態
第３回：園芸作物の発育における生理生態的特性と栽培管理１．野菜
第４回：園芸作物の生理
第５回：園芸作物の発育における生理生態的特性と栽培管理　花き
第６回：農業資材および生産施設と植物工場
第７回：園芸作物の育種とNPBTおよび繁殖
第８回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理　落葉果樹

テキスト

「園芸学第2版」金山喜則編、文永堂出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

各回レポートを課し，その内容により評価する

授業科目名： 生物育成ＩＢ（実習を含む） 【独自科目（熊大】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　浩継 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		

授業のテーマ及び到達目標

生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解する。

授業の概要

生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。

授業計画

第１回：栽培の意義、作物の種類と分類
第２回：栽培環境としての土壌
第３回：土壌の理学性と化学性
第４回：普光・温度と生育
第５回：生育と開花の調整
第６回：種子繁殖・栄養繁殖と組織培養、育苗
第７回：整地と施肥、播種と植え付け
第８回：作物管理、土壌管理
定期試験

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会
日本農業教育学会編：学校園の栽培便利帳
星川清親：みんなの農業教室、家の光協会

参考書・参考資料等

検定済み教科書（技術・家庭科）

学生に対する評価

成績は試験(60%)、レポート(20%)及び授業・実習への積極的参加度(20%)などにより評価する.
試験結果の概ね６割以上の成績を修めたものを合格とする.

授業科目名：生物育成ⅡA【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：一色　司郎 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		

授業のテーマ及び到達目標：主に園芸作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的な分野に関わる学生にも、栽培学の基本的な部分を網羅の理解を目標とした。

授業の概要：栽培学は、作物の生産、流通、利用、あるいは教育、研究、行政に関わる職業に就く予定の学生だけでなく、人文科学的、社会科学的分野に関わる学生にも、受け入れられるものとした。

授業計画

第１回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理　落葉果樹

第２回：園芸作物の発育に伴う生理生態的特性と栽培管理　常緑果樹

第３回：スマート農業（

第４回：園芸作物の品質保持　特に収穫後の生理について

第５回：園芸作物の品質保持　特に野菜、果実および花卉の品質保持について

第６回：園芸作物の栄養成分と機能性成分

第７回：SDGsと園芸第８回：園芸作物の有機栽培

テキスト

「園芸学第2版」金山喜則編、文永堂出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

各回レポートを課し，その内容により評価する

授業科目名： 生物育成ⅡB 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　浩継 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成		

授業のテーマ及び到達目標

生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について理解する。

授業の概要

生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用い学修を進める。

授業計画

第１回：病害虫防除
第２回：化学調節、バイオテクノロジ
第３回：生物育成の技術における環境教育
第４回：種子繁殖・栄養繁殖と組織培養、育苗
第５回：動物の飼育環境の管理
第６回：水産生物の育成環境の管理
第７回：生物育成の技術の評価・管理
第８回：生物育成の技術と社会
定期試験

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会
日本農業教育学会編：学校園の栽培便利帳
星川清親：みんなの農業教室、家の光協会

参考書・参考資料等

検定済み教科書（技術・家庭科）

学生に対する評価

成績は試験(60%)、レポート(20%)及び授業・実習への積極的参加度(20%)などにより評価する.
試験結果の概ね６割以上の成績を修めたものを合格とする.

授業科目名： 生物育成実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：田口　浩継 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物育成

授業のテーマ及び到達目標

生物育成の技術に関する基礎的な知識及び技術の修得を目的とする。特に、作物を栽培するための育成環境、育成技術について講義と実習により理解する。

授業の概要

大江農場においての栽培実習を通して、「生物育成の技術」に関連した作物の管理技術や環境調節技術を習得する。また、生物育成の技術を指導するに必要な知識やスキルを身に付けるために、テキスト及びワークシートを用いるとともに実習により学修を進める。

授業計画

第１回：生物育成実習のガイダンス（目的・意義・実習計画・安全な実習）
第２回：栽培の意義、作物の種類と分類
第３回：ハウスの整備・草花の植え付け、果菜類の植え付け
第４回：栽培環境としての土壌、土壌管
第５回：土壌の理学性と化学性、作物管理
第６回：整地と施肥、播種と植え付け
第７回：甘藷の植え付け、果菜類管理
第８回：水稲播種、果菜類の管理
第９回：光・温度と生育の関係
第10回：草花、果菜類の手入れの仕方
第11回：生育と開花の調整
第12回：種子繁殖・栄養繁殖と組織培養、育苗
第13回：果菜類管理・根菜類の播種
第14回：柑橘類の摘花
第15回：果菜類の収穫・圃場の整備

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会
日本農業教育学会編：学校園の栽培便利帳
星川清親：みんなの農業教室、家の光協会

参考書・参考資料等 検定済み教科書（技術・家庭科）
学生に対する評価 成績は実習への積極的参加度(20%)、作業技能(20%)、実習試験（20%）、筆記試験(20%)、レポート(20%)により評価する。実習の方法、手順が概ね理解され、栽培技術の習得が概ね達成され、筆記試験・レポートで概ね６割以上の成績を修めたものを合格とする.

授業科目名： 情報とコンピュータⅠ （実習を含む） 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：大塚　芳生、 田口　浩継 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術及び高等学校　工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目		

授業のテーマ及び到達目標

ICT 活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報および ICT を活用した問題解決の理論・概念の理解と基礎的能力を育む。

授業の概要

ディジタル作品作成技術、画像表現、ネットワーク社会のルールとマナー、プログラミングの基礎について学びます。

授業計画

第１回：学校教育における情報処理
第２回：生活や社会を支える情報と身の回りにある情報の技術
第３回：コンピュータのハードウェア
第４回：プログラムの仕組み、構造、表現（実習を含む）
第５回：情報を処理するしくみ、伝えるしくみ、デジタル化の方法（実習を含む）
第６回：情報の表現とネットワークの仕組み（実習を含む）
第７回：情報セキュリティと情報モラル（実習を含む）
第８回：本授業のまとめ（実習を含む）

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，技術科教育概論，九州大学出版会
中学校学習指導要領技術・家庭編、開隆堂

参考書・参考資料等

熊本大学情報教育研究会：ITを自由自在に活用するヒント、明治図書、ISBN978-4-18-219818-2
斉藤孝：サーバのしくみがわかる本、技術評論者、ISBN4-7741-1000-0
検定済み教科書　技術・家庭　技術分野　（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社

学生に対する評価

各回授業で提出するリアクションペーパー50%と提出された作品（課題に対する作品）50%で評

価します。各回提出作品を10点満点、リアクションペーパー10点満点で採点し、全体で100点になるように換算します。提出した場合6点、課題条件を満たしている場合7点、工夫が見られる場合8点、独自性がある場合9点、独自性・新規性に優れている場合10点とします。ただし、著作権侵害・誹謗中傷など劣っている場合には5点以下の場合があります。特にリアクションペーパーでは自分が毎回受講して、自分がどのように変化したかを具体的に明記されているかどうか、新たな視点で振り返りをしているかどうかで評価します。

授業科目名： 情報とコンピュータⅡ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：大塚芳生、田口浩継 担当形態：複数
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術及び高等学校　工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目		

授業のテーマ及び到達目標

ICT 活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報および ICT を活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて，社会的な課題を解決できる。

授業の概要

ディジタル化の利点、情報伝達のしくみ、生活の中にある計測と制御、プログラミングによる問題解決について学ぶ。

授業計画

第１回：表現における評価
第２回：知的財産の保護
第３回：双方向性のあるコンテンツ
第４回：計測・制御による問題解決
第５回：これからの情報の技術
第６回：ICTを活用した課題解決1（提示した課題の解決・実習を含む）
第７回：ICTを活用した課題解決２（自らの課題の解決・実習を含む）
第８回：本授業のまとめ

テキスト

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，技術科教育概論，九州大学出版会
中学校学習指導要領技術・家庭編、開隆堂

参考書・参考資料等

熊本大学情報教育研究会：ITを自由自在に活用するヒント、明治図書、ISBN978-4-18-219818-2
検定済み教科書　技術・家庭　技術分野　（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社

学生に対する評価

各回授業で提出するリアクションペーパー50%と提出された作品（課題に対する作品）50%で評価します。各回提出作品を10点満点、リアクションペーパー10点満点で採点し、全体で100点になるように換算します。提出した場合6点、課題条件を満たしている場合7点、工夫が見られ

る場合8点、独自性がある場合9点、独自性・新規性に優れている場合10点とします。ただし、著作権侵害・誹謗中傷など劣っている場合には5点以下の場合があります。特にリアクションペーパーでは自分が毎回受講して、自分がどのように変化したかを具体的に明記されているかどうか、新たな視点で振り返りをしているかどうかで評価します。

授業科目名：情報とコンピュータ実習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：大塚　芳生、田口　浩継 担当形態：複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術及び高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

ICT 活用に関する知識・技能を習得するとともに、情報および ICT を活用した問題解決の理論・概念の理解を踏まえて，課題を解決できる能力を育む。

授業の概要

プログラミング技法、マルチメディア利用、制御技術とそれに伴う課題等を学びます。授業ごとに設定した学習課題について、ICTを用いながら学びます。毎時のはじめに前回の振り返りを実施します。

授業計画

第１回：概要説明，Webページ制作（GoogleサイトによるWebページ制作）
第２回：画像編集実習（写真編集ソフト（Googleフォト）を利用した画像処理・編集）
第３回：画像編集実習（ドロー系ソフト（Google図形描画）を利用した画像作成・編集）
第４回：動画制作実習（動画編集ソフトを利用した動画制作）
第５回：音楽制作実習（Google Song MakerやGarageBandを用いた音楽制作）
第６回：教育用プログラミングソフト（ScratchJR）を用いたプログラミング基礎
第７回：SphereBoltを用いたプログラミング制御
第８回：授業概要・評価の説明、ロボット製作とプログラミングによるロボット制御
第９回：前回の発表とタブレット端末を利用したマルチメディア制作
第10回：タブレット端末を利用したマルチメディア制作
第11回：前回の発表とタブレット端末を利用したプレゼンテーション制作
第12回：前回の発表とプログラミング教育用ソフトを用いた演習
第13回：ワープロ操作の学習
第14回：表計算ソフトの学習
第15回：本授業のまとめ

テキスト

中学校学習指導要領技術・家庭編、開隆堂
検定済み教科書　技術・家庭　技術分野　（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社

参考書・参考資料等 熊本大学情報教育研究会：ITを自由自在に活用するヒント、明治図書、ISBN978-4-18-219818-2
学生に対する評価 各回授業で提出するリアクションペーパー50%と提出された作品（課題に対する作品）50%で評価します。各回提出作品を10点満点、リアクションペーパー10点満点で採点し、全体で100点になるように換算します。提出した場合6点、課題条件を満たしている場合7点、工夫が見られる場合8点、独自性がある場合9点、独自性・新規性に優れている場合10点とします。ただし、著作権侵害・誹謗中傷など劣っている場合には5点以下の場合があります。特にリアクションペーパーでは自分が毎回受講して、自分がどのように変化したかを具体的に明記されているかどうか、新たな視点で振り返りをしているかどうかで評価します。

授業科目名： プログラミング 【独自科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 選択必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 和久屋　寛 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ ・工業の関係科目

授業のテーマ及び到達目標

１）ディスプレイへの文字出力、キーボードからの文字入力など、簡単なプログラムを作成できる。

２）加減乗除、大小比較、制御文などを用いて、基本的なプログラムを作成できる。

３）配列とポインタを理解し、その使い方を説明できる。

４）関数を理解し、その使い方を説明できる。

授業の概要

これは、様々な命令を用いて実際にコンピュータを動作させ、基本的な情報処理の仕組みを理解する授業科目である。今や、一種の家電製品と化したコンピュータであるが、決して、勝手に仕事をやってくれる「魔法の道具」ではない。あらかじめ記憶させた一連の命令を、単に順次実行させているだけである。そこで、本講義では、その一連の流れを体験することで、コンピュータを用いた情報処理について理解する。

授業計画

第１回：　ガイダンス
　　C言語をはじめる前に
第２回：　基本的なプログラム①　Hello World!
第３回：　基本的なプログラム②　数値型変数
第４回：　基本的なプログラム③　文字型変数
第５回：　演算子①　計算の演算子
第６回：　演算子②　比較演算子、論理演算子
第７回：　演算子③　ビットとバイト
第８回：　制御文①　if文
第９回：　制御文②　for文
第１０回：　配列とポインタ①　配列
第１１回：　配列とポインタ②　アドレス
第１２回：　関数①　関数の定義

第１３回：　関数②　引数の受け渡し 第１４回：　ファイルの入出力①　ファイルの読み出し 第１５回：　ファイルの入出力②　ファイルの書き出し 定期試験は実施しない。
テキスト ・Cの絵本 第2版 ―C言語が好きになる新しい9つの扉（アンク，翔泳社，2016） https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798150383
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業への出席状況とレポート課題の提出状況（50%）、最終課題（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅰ 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田口　浩継、大塚　芳生 担当形態： オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　技術）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

技術科教育における各学習内容について学修し、技術科教員としての素養としての知見を得ることを目的とする。

授業の概要

技術科教育における各学習内容について、課題解決学習の視点や具体的な指導内容、指導方法について学修する。

授業計画

第１回：授業概要・評価の説明、学習指導要領各学習内容における課題解決学習と技術と社会との関わり（田口　浩継）
第２回：課題解決学習と技術と社会との関わり（田口　浩継）
第３回：各学習内容における課題解決学習と技術科教育の授業設計（田口　浩継）
第４回：材料と加工の技術（木材）（田口　浩継）
第５回：材料と加工の技術（金属）（田口　浩継）
第６回：材料と加工の技術（プラスチック）（田口　浩継）
第７回：生物育成の技術（作物）（田口　浩継）
第８回：生物育成の技術（動物・水産生物）（田口　浩継）
第９回：エネルギー変換技術（エネルギーと社会）（大塚　芳生）
第10回：エネルギー変換の技術（電気）（大塚　芳生）
第11回：エネルギー変換の技術（機械）（大塚　芳生）
第12回：エネルギー変換の技術（ロボット製作の基礎・基本）（大塚　芳生）
第13回：情報の技術（情報・ディジタルと情報技術）（大塚　芳生）
第14回：情報の技術（計測・制御のプログラミング）（大塚　芳生）
第15回：情報の技術（情報モラル教育・情報セキュリティ教育）（大塚　芳生）

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）
日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会

参考書・参考資料等

検定済み教科書　技術・家庭　技術分野　（東京書籍、開隆堂、教育図書）の各社 中学校技術・家庭科（技術分野）事例集　（令和6年3月時点）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_02685.html
学生に対する評価 授業への積極的な参加意欲と態度(40%)、課題・レポート（60%）により成績評価を行います。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅱ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田口　浩継、大塚　芳生／角　和博
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：技術科教育の理論と実践についての基礎的な内容について学修し、技術科教員としての素養としての知見を得ることを目的とする。			
授業の概要：技術科教育に関連する指導計画、授業設計、授業分析、学習指導、学習評価、安全管理と指導、技術科固有の資質と能力の育成について学修する。			
授業計画 第１回：技術科の指導計画（指導計画の分類、指導計画作成のための実態把握）（田口　浩継／角　和博） 第２回：技術科の指導計画（指導計画の作成、指導計画の実際例）（田口　浩継／角　和博） 第３回：技術科の授業設計（授業設計の意味、授業設計と学習指導案作成の意義）（田口　浩継／角　和博） 第４回：技術科の授業設計（授業設計の留意点、授業設計の方法）（田口　浩継／角　和博） 第５回：技術科の授業分析（授業分析・授業観察の視点）（田口　浩継／角　和博） 第６回：技術科の授業分析（授業分析の対象／学習活動の分析）（田口　浩継／角　和博） 第７回：技術科の学習指導（技術科の学習指導の特徴、技術科の思考の枠組みと学習過程）（模擬授業と ICT 活用）（大塚　芳生／角　和博） 第８回：技術科の学習指導（技術科で育成する資質・能力と学習指導）（模擬授業とICT活用）（大塚　芳生／角　和博） 第９回：技術科の学習指導（果的な指導及び支援、授業内容・指導方法の改善）（模擬授業とICT活用）（大塚　芳生／角　和博） 第１０回：技術科の学習指導（教材・教具、題材の役割と効果）（田口　浩継／角　和博） 第１１回：技術科の学習評価（学習評価とは、観点別学習状況による評価）（大塚　芳生／角　和博） 第１２回：技術科の学習評価（問題解決的な学習における学習評価、学習評価（大塚　芳生／角　和博）） 第１３回：技術科の安全管理と指導（安全教育の意義と役割）（大塚　芳生／角　和博） 第１４回：技術科固有の資質と能力（Society5.0の実現に求められる資質・能力）（大塚　芳			

生／角　和博） 第１５回：技術科固有の資質と能力（技術科で求められる資質・能力と教育課程編成）（大塚　芳生／角　和博） レポート提出
テキスト： 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018） 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会
参考書・参考資料等：検定済教科書（技術・家庭　技術分野）東京書籍、開隆堂、教育図書 文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校技術・家庭　令和２年３月 古川・杉山／編著　平成２９年改訂　中学校教育課程実践講座　技術・家庭　ぎょうせい　２０１７
学生に対する評価 授業への積極的な参加意欲と態度（４０％）、課題・レポート（６０％）を総合して成績を評価する。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田口　浩継、大塚　芳生／角　和博 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

技術科教育の理論と実践についての基礎的な内容について学習し、技術科教員としての素養としての知見を得ることを目的とする。

授業の概要：技術科教育に関連する目的・意義、歴史的背景、教育課程、学校教育法、比較研究（各国の教育課程、実践事例）などについて学修する。

授業計画

第１回：技術科教育の目的と今日的課題（田口　浩継／角　和博）
第２回：技術教育及び技術科教育の概念、ものづくり教育の意義（田口　浩継／角　和博）
第３回：技術科教育の歴史的変遷（誕生から戦前）（田口　浩継／角　和博）
第４回：普通教育課程における技術教育の形成と展開（田口　浩継／角　和博）
第５回：子どもの発達と技術科教育（田口　浩継／角　和博）
第６回：教育課程の意義と編成（田口　浩継／角　和博）
第７回：技術科教育の教育課程の展開（田口　浩継／角　和博）
第８回：教育課程の評価の対象、方法、観点及び留意点（大塚　芳生／角　和博）
第９回：技術科における教育課程の評価の観点と留意点（大塚　芳生／角　和博）
第10回：学校教育法、地方教育行政法と教育課程（大塚　芳生／角　和博）
第11回：比較研究（アメリカの技術教育）（大塚　芳生／角　和博）
第12回：比較研究（STEM/STEAM教育とその影響）（大塚　芳生／角　和博）
第13回：比較研究（イギリスの技術教育）（大塚　芳生／角　和博）
第14回：比較研究（中国とドイツの技術教育）（大塚　芳生／角　和博）
第15回：比較研究（フィンランドと台湾の技術教育）（大塚　芳生／角　和博）
レポート提出

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）
日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会

参考書・参考資料等 文部科学省検定済教科書（技術・家庭科）、開隆堂出版、東京書籍、教育図書
学生に対する評価 授業への積極的な参加意欲と態度(40%)、課題・レポート（60%）を総合して成績を評価する。

授業科目名： 中等技術科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田口　浩継、大塚　芳生／角　和博 担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標：技術教育および技術科教育の本質を認識し、教材研究の主題の立て方、手順、情報収取の方法などを理解するとともに教育実践に生かそうとする姿勢の醸成を目指している。

授業の概要：技術科教育に関する基礎的な知識や技能を理解した上で、中学校技術・家庭科（技術分野）の教材研究の主題の立て方、手順、情報収取の方法、諸外国の技術教育や先端的な技術科教育などについて学習する。

授業計画

第１回：技術科教育の教材研究の着想（田口　浩継／角　和博）
第２回：技術科教育の教材研究の方法　（田口　浩継／角　和博）
第３回：技術科教育の教材研究における主題の立て方（田口　浩継／角　和博）
第４回：技術科教育の教材研究の手順（田口　浩継／角　和博）
第５回：技術科教育の資料の収集方法（田口　浩継／角　和博）
第６回：技術科教育の先行研究の整理（田口　浩継／角　和博）
第７回：技術科教育の教材研究1（材料と加工）（田口　浩継／角　和博）
第８回：技術科教育の教材研究2（生物育成）（田口　浩継／角　和博）
第９回：技術科教育の教材研究3（エネルギー変換）（大塚　芳生／角　和博）
第１０回：技術科教育の教材研究4（情報の技術）（大塚　芳生／角　和博）
第１１回：技術科教育の教材開発1（材料と加工）（田口　浩継／角　和博）
第１２回：技術科教育の教材開発2（生物育成）（田口　浩継／角　和博）
第１３回：技術科教育の教材開発3（エネルギー変換）（大塚　芳生／角　和博）
第１４回：技術科教育の教材開発4（情報の技術）（大塚　芳生／角　和博）
第１５回：技術科教育の総括（大塚　芳生／角　和博）
レポート提出

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）

日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会
参考書・参考資料等 文部科学省検定済教科書（技術・家庭科）、開隆堂出版、東京書籍、教育図書
学生に対する評価 授業への積極的な参加意欲と態度(40%)、課題・レポート（60%）を総合して成績を評価する。

授業科目名： 家庭経営学**I** 【シラバス共通科目 （熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 八幡（谷口）彩子／ 奥谷（竹内）めぐみ 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識の習得を目的とする。本授業の到達目標は以下の通り。

１）中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識を習得する。

授業の概要

家庭経営学の学び方について，基礎理論を確認した後，家庭経営（家庭経済を含む）に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して，自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに，現代社会における家庭経営に関する諸課題について，自分自身の生活設計上の問題と関連させながら考察を進める。

授業計画

第１回：家庭経営学を学ぶにあたって
第２回：生活問題解決スキルとしてのライフスキル
第３回：家族コミュニケーション・スキル
第４回：働くことと家庭経営
第５回：ライフステージと家庭経営
第６回：消費生活と家庭経営
第７回：子育てと家庭経営
第８回：高齢社会と家庭経営／定期試験またはレポート

テキスト　以下の参考書をもとにした資料を配付する。

参考書・参考資料等

臼井和恵（編著）『21世紀の生活経営－自分らしく生きる－』（第3版）同文書院
内藤道子・中間美砂子ほか（共著）『生活を創るライフスキル　生活経営論』建帛社

学生に対する評価

授業中の学習活動等への参加状況およびレポートまたは定期試験により授業目標の到達度を判定する。評価の比率は講義の中で説明する。

授業科目名： 家庭経営学Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 八幡（谷口）彩子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識の習得を目的とする。本授業の到達目標は以下の通り。

１）中学校・高等学校の家庭科教員免許状取得に必要な家庭経営学領域の基礎的知識を習得する。

２）授業で扱うテーマについて，中学校・高等学校　家庭科の授業に展開できる。

授業の概要

家庭経営学の学び方について，基礎理論を確認した後，家庭経営に関連するトピックスをとりあげる。それらのトピックスについて自分自身の問題として「考える」ことを通して，自分流ライフスタイルの構築をめざすとともに，中学校・高等学校家庭科の授業づくりを視野に入れる。高等学校家庭科で重視されている生活設計やリスク・マネジメントの基礎理論を修得すると共に，（おもに高等学校家庭科における）家庭経営に関する授業づくりを考える。

授業計画

第１回：リスクマネジメントと生活設計

生涯を見通した生活設計を行う際，どのようなリスクがあるのかを概観し，生活保障のための諸制度を把握する。

第２回：リスクマネジメントと介護保険

介護保険制度を中心に，社会の中で支え合って生きることの意義について考える。

第３回：地域社会と家庭経営

地域の中で，ボランティアとしてできることについて考える。

第４回：妻と夫の経済関係

妻と夫の家計・資産・経済関係の実態と政策との関わりについて検討する。

第５回：親と子の経済関係

親と子の関係を経済的側面から検討する。

第６回：高齢期の生活と経済保障

高齢期の経済生活の実態を概観し、外国との比較により、高齢者の生活状態・意識と制度の関わりについて考える。

第７回：家庭生活に関わる問題解決と教育

現代社会において、家庭生活に関わる問題解決のために求められる教育について考える。 第８回：まとめとふり返り
テキスト 以下の参考書をもとにした資料を配付する。
参考書・参考資料等 臼井和恵（編著）『21世紀の生活経営－自分らしく生きる－』（第3版）同文書院 内藤道子・中間美砂子ほか（共著）『生活を創るライフスキル　生活経営論』建帛社 重川純子『新訂　生活経済学』放送大学教育振興会（2016） 御船美智子『家庭生活の経済』放送大学教育振興会（1996）
学生に対する評価 授業中の討論・グループワーク等への参加状況（30%）およびレポート（70%）により授業目標の到達度を判定する。

授業科目名： 家庭経営学演習 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 八幡（谷口）　彩子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

この授業では，(1) 複式家計簿記の演習　(2) 「家計調査年報」等を活用した家計の構造分析 (3) 生活時間研究とその応用　(4) 人生80年時代の生活設計　の４テーマを扱う。

授業の到達目標は以下の2点である。

(1) 3年次までに学習した家庭経営学の理論的知見を踏まえ，よりよい家庭生活実現のための応用・実践方法を習得する。

(2) 中学校ならびに高等学校家庭科（家庭経営学領域）における実践的・体験的な学習指導力・教材指導力を身に付ける。

授業の概要

(1) 複式家計簿記の演習では，キャッシュレス時代に対応した複式家計簿記帳を通して，フローとストックの把握方法を習得する。

(2) 家計調査年報等を活用した家計の構造分析では，受講者に「家計調査年報」等に基づくデータを配布し，消費構造や家計構造の分析手法を学ぶ。

(3) 生活時間研究とその応用では，1日の生活時間調査を実施し，それをもとにエネルギー消費量を算出し，摂取エネルギーとのバランスのとり方を考えるとともに，家事労働研究への応用や疲労回復の方法について演習する。

(4) 人生80年時代の生活設計では、高校生が家庭科を学ぶ視点に立って，ライフコースの選択，ライフコースのよりよい実現を可能にする長期の経済計画について立案・シミュレーションを行う。

授業計画

第１回：家庭経営学演習を学ぶにあたって－家庭経済学概説

本授業への導入編として，授業の進め方等についてガイダンスを行うとともに，家計と家庭経済との違いなど，家庭経済学の基本用語や概念について説明する。

第２回：複式家計簿記の演習（1）複式家計簿記の成り立ち

第３回：複式家計簿記の演習（2）複式家計簿記の例題演習（期首の準備を中心に）

第４回：複式家計簿記の演習（3）複式家計簿記の例題演習（補助帳簿の〆切方を中心に）

第５回：複式家計簿記の演習（4）複式家計簿記の例題演習（正帳簿への集約と家計診断への応用）

第６回：家計の構造分析（1）「家計調査年報」による戦後の家計構造の経時的分析

第７回：家計の構造分析（2）「全国家計構造調査」による家計構造の世帯類型別分析
第８回：家計の構造分析（3）「全国家計構造調査」による家計構造のライフステージ別分析
第９回：生活時間研究とその応用(1)　わが国における生活時間研究の歩みと分析手法の概説
第１０回：生活時間研究とその応用(2)　1日の生活時間調査の実施・分析とエネルギー消費量の算出
第１１回：生活時間研究とその応用(3)　摂取／消費エネルギーのバランスと家事労働研究への応用
第１２回：人生80年時代の生活設計(1)　高校生向け生活設計ワークシートによる生活設計方法の習得
第１３回：人生80年時代の生活設計(2)　長期の生活設計４大項目に関する貯蓄計画シミュレーション
第１４回：人生80年時代の生活設計(3)　住宅ローンの返済方法に関するシミュレーション
第１５回：まとめ　４つの授業テーマをもとに，家庭科における具体的指導法を考える。
定期試験は行わない。

テキスト
テキストは使用せず，資料・ワークシートを配付する。

参考書・参考資料等
・重川純子『新訂　生活経済学』放送大学教育振興会（2016）
・御船美智子『家庭生活の経済』放送大学教育振興会（1996）
・大森和子『改訂新版家庭管理学』朝倉書店(1981)
・大森和子・好本照子・阿部和子・伊藤セツ・天野寛子（共著）『家事労働』光生館(1981)
・石川実（編）『高校家庭科における家族・保育・福祉・経済－「家庭総合」・「家庭基礎」指導の基礎知識－』家政教育社(2002)
・臼井和恵（編著）『21世紀の生活経営　自分らしく生きる』同文書院(2001)
・内藤道子・中間美砂子・金子佳代子・髙木直・田中勝（共著）『生活を創るライフスキル』建帛社（2002）

学生に対する評価
４つのレポート（各25%）により評価を行う。

授業科目名： 家政学原論 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 八幡（谷口）　彩子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

４年間の家政教育に関する専門領域の入門編として，家政学の学問論の理解を通して家政学の全体像をつかみ，総合的に生活を捉える家政学的視点を育成する。

本授業の到達目標は以下の通り。

１）４年間の家政教育に関する専門領域の入門として，家政学の学問論の理解を通じて家政学の全体像が把握できる。

２）総合的に家庭生活を捉える家政学的視点を身につける。

３）人間生活における家庭生活の意義について理解する。

授業の概要

本授業では，授業への導入，日本とアメリカを中心とする家政学の歴史（比較家政学），家政学論，家庭生活論，これからの家政学（家政学の将来）などの内容をもとに，「家政学とは何か」，家庭生活が人間生活において果たす役割について考える。

授業計画

第１回：家政学とは何か

本授業への導入編として，授業の進め方等についてガイダンスを行う。

第２回：家政学原論の由来

わが国における学問としての家政学の誕生と家政学原論の由来について概説する。

第３回：家政学成立の略史（1）日本（江戸時代）

家政学の歴史的考察の意義と江戸時代を中心に日本における家政学成立の略史について概説する。

第４回：家政学成立の略史（2）日本（明治期以降）

明治期以降の日本における科学としての家政学の成立過程について概説する。

第５回：家政学成立の略史（3）アメリカ

世界で最も早く科学として高等教育機関に位置づけられたアメリカにおける家政学成立の略史について社会的・文化的背景とともに概説する。

第６回：世界の家政学

国際家政学会の取組を中心に，世界の家政学の特徴ある動向を概説する。

第７回：家政学の名称および定義

家政学の名称をめぐる近年の動きと日本における家政学の定義を概説する。

第８回：家政学の対象および目的
　日本における家政学の定義をふまえつつ，家政学の対象認識の方法と研究方法について概説する。
第９回：家政学の性格・方法・体系および独自性
　家政学が独立した学問であるための学問としての要件について考える。
第１０回：人間の家庭生活のもつ意味（1）
　人間の家庭生活の意義について，生命維持機構（個体維持）の視点から考える。
第１１回：人間の家庭生活のもつ意味（2）
　人間の家庭生活の意義について，生命維持機構（種族維持）の視点から考える。
第１２回：現代における家庭の機能
　現代における家庭の機能ならびにこれからの家庭生活の展望について考える。
第１３回：人間の生涯発達と家政学
　家政学は，人間の生涯発達にどのように寄与するのかについて考える。
第１４回：家政学の社会的展開
　専門（職業）としての家政学の社会的展開の可能性について考える。
第１５回：これからの家政学
　時代の変化とともに，家庭生活が変化する中で，これからの家政学はどのように「よりよい生活の実現」に貢献するのかについて考える。
　定期試験

テキスト
　（一社）日本家政学会家政学原論部会（編）『やさしい家政学原論』建帛社(2018)

参考書・参考資料等
　亀高京子(監修)『若手研究者が読む「家政学原論」2006』家政教育社（2006）
　ヴァージニア・Ｖ・ヴィンセンティ(著)，倉元綾子(訳)『アメリカ・ホーム・エコノミクス哲学の歴史』近代文芸社（2005）
　松岡明子(編著)『家政学の未来－生活・消費・環境のニュー・パラダイム－』有斐閣(2004)
　八幡(谷口)彩子『明治初期における翻訳家政書の研究』同文書院（2001）
　亀高京子・仙波千代『家政学原論』光生館（1981）
　(社)日本家政学会家政学原論部会(監修)『家政学　未来への挑戦』建帛社（2001）
　S.ステイジ，V.B.ヴィンセンティ(編著)，倉元綾子(監訳)『家政学再考』近代文芸社(2001)
　(社)日本家政学会(編)『新版　家政学事典』朝倉書店（2004）

学生に対する評価
　授業時の発言・提出物(20%)，事後学習による小レポート(30%)および試験(50%)により判定する。

授業科目名： 家族関係学 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 八幡（谷口）　彩子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

本授業の到達目標は以下の３点である。

１）家族関係や家族法に関する基礎理論を習得すること。

２）現代における家族とそれをとりまく社会の変化の動向について理解すること。

３）授業で学んだ基礎理論を用いて，身近な家族のライフコースに関する聞き取り調査を行い，分析・考察ができること。

授業の概要

家族は，社会の最も基礎的な集団であり，私たちに最も身近な存在である。戦後，家族に生じた変化は，社会にさまざまな影響を及ぼしてきた。この授業では，家族関係や家族法に関する基礎的知識を習得するとともに，家族の生涯発達について学際的に概観し，社会の変化とこれからの家族のあり方について展望する。さらに，習得した基礎理論を活用して，家族のライフコースに関する聞き取り調査を実施し，分析・考察を行う。

授業計画

第１回：家族関係学を学ぶにあたって

第２回：家族に関する基礎的概念と諸相

第３回：配偶者の選択と結婚

第４回：家族問題への法的接近

第５回：法的にみた結婚

第６回：夫婦関係の諸相

第７回：離婚制度

第８回：妊娠・出産をめぐって

第９回：子どもの発達と親子関係

第１０回：青年期の自立と親子関係

第１１回：法的にみた親と子

第１２回：親の介護と介護保険制度

第１３回：扶養と相続

第１４回：これからの家族　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第１５回：まとめ　中学校及び高等学校家庭科における家族関係の授業展開を考える
　定期試験は実施しない。

テキスト
　長津美代子・小澤千穂子（編著）『改訂　新しい家族関係学』建帛社(2018)

参考書・参考資料等
・岡堂哲雄(編)『家族心理学入門』（補訂版）培風館(1999)
・利谷信義『家族の法（第2版）』有斐閣(2005)
・槇石多希子ほか(著)『変化する社会と家族』建帛社(1998)
・望月嵩『家族社会学入門』培風館(1996)
・湯沢雍彦・宮本みち子『新版　データで読む家族問題』日本放送出版協会(2008)
・湯沢雍彦『データで読む平成期の家族問題』朝日新聞出版(2014)

学生に対する評価
　まとめのレポート（70%），毎回の授業後に提出する事後学習レポート（30%）

授業科目名： 被服学Ⅰ 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 小松　美和子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

①衣生活の基礎知識を理解し、知識を生活に生かすことができる。②基本的被服実習のための技術を修得する。③安全性、効率性、創造性に配慮した製作実習ができる。

授業の概要

被服学の基礎を解説するとともに、被服実習を行う。衣生活の基礎知識を理解するとともに実習を通して基礎技能を習得する。

授業計画

第１回：衣服の起源・役割
第２回：衣服の歴史－世界と日本の服飾文化
第３回：被服材料１－衣服の構成要素（繊維、糸、布）
第４回：被服材料２－繊維の種類と性能（天然繊維）
第５回：被服材料３－繊維の種類と性能（化学繊維）
第６回：被服管理１－組成表示、品質表示、サイズ表示）
第７回：被服管理２－洗濯方法と洗剤の役割
第８回：被服管理３－手入れと保管
第９回：衣服と健康１－安全な衣服
第１０回：衣服と健康２―環境に配慮した衣生活
第１１回：被服製作実習基礎１－手縫いの作品の製図と裁断
第１２回：被服製作実習基礎２－手縫いの作品の製作
第１３回：被服製作実習基礎３－ミシンの作品の製図と裁断・ミシンの使い方
第１４回：被服製作実習基礎４－ミシンの作品の製作
第１５回：まとめ・これからの衣生活を考える
定期試験

テキスト　ビジュアル衣生活論（岡田宣子編著、建帛社出版）

参考書・参考資料等　　授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価　　定期試験（50%）、作品課題（30%）、レポート（20%）

授業科目名： 被服学Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 小松　美和子
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

①衣生活の基礎知識を理解し、家庭科の教員として必要な知識を獲得し説明することができるようになる。②被服学を科学的かつ多面的な視点からみることができるようになる。

授業の概要

被服学の基礎について科学的根拠を元に解説し、多面的な角度から衣生活の知識や技能を理解するとともに、実習を通して技能を習得する。

授業計画

第１回：衣服と色１－色とは何か（生活の中の色）
第２回：衣服と色２－色の視覚的効果・錯視（色の見え方）
第３回：衣服と色３－カラーユニバーサルデザイン（視認性の高い色と低い色）
第４回：衣服と色４－着装と色の配色
第５回：衣服と健康１－衣服と体温調節
第６回：衣服と健康２－衣服の着心地
第７回：衣服設計１－体型と衣服のサイズ
第８回：衣服設計２－採寸と型紙
第９回：衣服設計３－裁断と縫製技術
第１０回：衣服設計４－ユニバーサルデザイン
第１１回：環境に配慮した作品制作（１）企画デザイン
第１２回：環境に配慮した作品制作（２）製作
第１３回：日本の伝統的衣装１（日本の着物文化）
第１４回：日本の伝統的衣装２（日本の染織文化）
第１５回：まとめ・これからの衣生活を提案する
定期試験は実施しない

テキスト　ビジュアル衣生活論（岡田宣子編著、建帛社出版）

参考書・参考資料等　授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価　課題レポート（60%），作品（40%）

授業科目名： 被服学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 小松　美和子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

中・高等学校家庭科の被服学の内容に関する専門的知識・理解を深める。被服学の実験や実習を実施することにより、論理的・科学的な思考を身につけることができる。

授業の概要

布・繊維の特性に関する実験実習を行う。グループ別に実験内容を組み立て、実験を行い結果をまとめる。また、実験結果を発表し考察を通して専門的知識の理解を深める。

授業計画

第１回：オリエンテーション／実験の目的について
第２回：繊維の種類と区別・燃焼実験（１）実験計画
第３回：繊維の種類と区別・燃焼実験（２）実験準備と実施
第４回：繊維の種類と区別・燃焼実験（３）実験実施と記録・結果のまとめ
第５回：繊維の種類と区別・燃焼実験（４）プレゼンテーションと考察
第６回：布の保温性実験（１）実験計画
第７回：布の保温性実験（２）実験準備と実施
第８回：布の保温性実験（３）実験実施と記録・結果のまとめ
第９回：布の保温性実験（４）プレゼンテーションと考察
第１０回：洗濯実験（１）実験計画
第１１回：洗濯実験（２）実験準備
第１２回：洗濯実験（３）実験実施（汚れによる違い）と記録
第１３回：洗濯実験（４）実験実施（洗剤による違い）と記録
第１４回：洗濯実験（５）実験の記録・結果のまとめ
第１５回：洗濯実験（６）プレゼンテーションと考察
定期試験なし

テキスト　授業時に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等　　授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

実験レポート（40%）、まとめレポート（30%）、プレゼンテーション（30%）

授業科目名： 被服学演習Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名 小松　美和子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 家庭科）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

中・高等学校家庭科の被服学の内容に関する専門的知識・理解を深める。また、被服学に関する報告を読み解くことで、科学的根拠を学び、論理的・科学的な思考力を養う。

授業の概要

被服の構造に関する内容と技術について講義を行う。また、衣服に関する論文を読み解き、議論する。被服学に関する課題を論理的・科学的に捉え、今後の衣生活に活かす力を身につけることができる。

授業計画

第１回：オリエンテーション／被服とは何か?
第２回：被服の構造と着用（１）被服の種類
第３回：被服の構造と着用（２）被服の型紙
第４回：被服の構造と着用（３）被服のサイズと体型
第５回：被服の構造と着用（４）現代の課題
第６回：被服の構造と着用（５）課題の調査・まとめ
第７回：被服の構造と着用（６）発表・議論
第８回：被服に関する論文を読む（１）快適性
第９回：被服に関する論文を読む（２）機能性・安全性
第１０回：被服に関する論文を読む（３）環境
第１１回：被服に関する論文を読む（４）衣服とジェンダー
第１２回：被服に関する論文を読む（５）消費者行動
第１３回：被服に関する論文を読む（６）論文をまとめる
第１４回：被服に関する論文を読む（７）発表・議論
第１５回：まとめ／これからの衣生活について考える
定期試験はなし

テキスト　授業時に適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等　　日本家政学会誌　日本衣服学会誌　日本繊維製品消費学会誌　日本衣服学会誌　日本生理人類学会誌

学生に対する評価　課題レポート（60%）プレゼンテーション（40%）

授業科目名： 被服実習 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 篠塚　致子／小松　美和子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・被服学（被服実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

被服実習の基礎知識と基礎技術の習得を目指す。

授業の概要

被服製作の基礎となる構成学と実習を行う。

授業計画

第１回：身体の形と衣服について

第２回：採寸と製図

第３回：ミシンの使い方・安全指導／布の特性について

第４回：布の裁断

第５回：シャツの製作①しるしつけとしつけ

第６回：シャツの製作②肩とヨーク

第７回：シャツの製作③前身ごろと後ろ身ごろ

第８回：シャツの製作④前立て

第９回：シャツの製作⑤脇と裾

第１０回：シャツの製作⑥袖つけ

第１１回：シャツの製作⑦袖口

第１２回：シャツの製作⑧えり

第１３回：シャツの製作⑨ボタンホールとボタン付け

第１４回：アイロンの使い方とシャツの仕上げ

第１５回：まとめ

定期試験はなし

テキスト　授業時に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等　授業時に適宜資料を配布する。

学生に対する評価　作品（80%）、レポート（20%）

授業科目名： 食物学Ⅰ 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 萱島　知子 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

食物学（栄養学、食品学）に関する基礎知識を習得できる。健康を維持するための食生活について考え、意見を述べることができる。

授業の概要

食物学の栄養学と食品学について基礎的内容を解説する。健康を維持するための食生活について考え、意見交換する活動を取り入れる。

授業計画

第１回：はじめに（食事の役割）
第２回：栄養学（１）炭水化物
第３回：栄養学（２）たんぱく質
第４回：栄養学（３）脂質
第５回：栄養学（４）ビタミン
第６回：栄養学（５）ミネラル
第７回：栄養学（６）非栄養素
第８回：食品学（１）植物性食品
第９回：食品学（２）動物性食品
第１０回：食品学（３）加工食品
第１１回：食品学（４）食品衛生
第１２回：食事設計　（１）ライフステージ別の食事
第１３回：食事設計　（２）栄養評価
第１４回：食事設計　（３）改善
第１５回：まとめ（食生活と健康を考える）
定期試験

テキスト

大学で学ぶ食生活と健康のきほん（吉澤みな子他著、化学同人）

参考書・参考資料等

わかりやすい栄養学（吉田勉編、三共出版）

学生に対する評価

課題（５０％）、定期試験（５０％）

授業科目名： 食物学Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 篠塚　致子／萱島　知子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

食物学（調理学）に関する基礎知識を習得し、基礎技能への理解を深めることができる。現代の食生活の課題について考え、これからのあり方について意見を述べることができる。

授業の概要

食物学の調理科学について基礎的内容を解説する。現代の食生活の課題について考え、意見交換する活動を取り入れる。

授業計画

第１回：はじめに（調理の目的）
第２回：調理操作
第３回：植物性食品（１）穀類・芋類
第４回：植物性食品（２）野菜・果物類
第５回：植物性食品（３）豆類・キノコ類
第６回：動物性食品（１）肉類・魚類
第７回：動物性食品（２）卵類・乳類
第８回：成分抽出素材
第９回：おいしさの評価
第１０回：食文化　（１）和食の特徴
第１１回：食文化　（２）地域の食文化
第１２回：食生活の課題（１）課題設定
第１３回：食生活の課題（２）調査
第１４回：食生活の課題（３）発表
第１５回：まとめ（これからの食生活のあり方）
定期試験

テキスト

大学で学ぶ食生活と健康のきほん（吉澤みな子他著、化学同人）

参考書・参考資料等

調理学の基本（中嶋加代子編、同文書院）

学生に対する評価

課題（５０％）、定期試験（５０％）

授業科目名： 食物学実験・実習Ⅰ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 篠塚　致子／萱島　知子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

食物学の知識を活用し、基本的な調理操作について技能を習得できる。調理の目的について理解し、実践できる。

授業の概要

食物学の調理実習の内容について、基礎知識を解説し、基本的な調理操作に関する実習・実験を行う。調理の目的について考え、理解を深める活動を取り入れる。

授業計画

第１回：はじめに（調理の目的、調理実習の留意点）
第２回：安全で衛生的な調理
第３回：実習（１）基礎技能
第４回：実習（２）非加熱調理操作
第５回：実習（３）湿式加熱
第６回：実習（４）乾式加熱
第７回：実験（調理操作）
第８回：課題調理、片づけ、まとめ
定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

流れと要点がわかる　調理学実習　豊富な献立と説明（香西みどり他編集、光生館）
食品成分表（香川明夫監、女子栄養大学出版）

学生に対する評価

レポート課題（８０％）、実技課題（２０％）

授業科目名： 食物学実験・実習Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 篠塚　致子／萱島　知子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

食物学の知識を活用し、基本的な献立の調理について技能を習得できる。幅広い視点から献立作成の要件を理解できる。調理実習の指導上の留意点について理解し、実践できる。

授業の概要

食物学の調理実習の内容について、基本的な献立についての実習・実験を行う。地域の食材や郷土料理を取り入れた献立作成について解説する。調理実習の指導上の留意点について考え、理解を深める活動を取り入れる。

授業計画

第１回：はじめに（献立作成、調理実習指導上の留意点）
第２回：実習（１）卵を用いた献立
第３回：実習（２）食肉類を用いた献立
第４回：実習（３）魚介類を用いた献立
第５回：実習（４）郷土料理
第６回：実習（５）行事食
第７回：実験（基本食材）
第８回：課題調理、片づけ、まとめ
定期試験は実施しない

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

流れと要点がわかる　調理学実習　豊富な献立と説明（香西みどり他編集、光生館）
食品成分表（香川明夫監、女子栄養大学出版）

学生に対する評価

レポート課題（８０％）、実技課題（２０％）

授業科目名： 食物学実験・実習Ⅲ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 萱島　知子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

食物学の実験・実習をとおして、調理操作の原理や食品の特性を理解できる。指定条件での献立作成ができる。実習・実験を正確に実施し、得られた結果について考察し、議論できる。

授業の概要

食物学の講義や実習で学んだ内容を検証し、理解を深める実験・実習を行う。指定条件での献立作成の実習を行う。得られた結果について根拠資料を基に評価し、議論する活動を取り入れる。

授業計画

第１回：オリエンテーション、食物学実験の目的
第２回：実習（１）ジャム
第３回：実習（２）豆腐
第４回：実習（３）膨化調理
第５回：実習（４）グルテン形成
第６回：実習（５）魚料理
第７回：実習（６）弁当調理　献立作成
第８回：実習（７）弁当調理　実践・評価
第９回：実験（１）膨化調理
第１０回：実験（２）栄養素の定量
第１１回：実験（３）非栄養素の定量
第１２回：実験（４）遺伝子
第１３回：実験（５）食品衛生　手洗い実験
第１４回：実験（６）食品衛生　食中毒
第１５回：課題発表、片づけ
定期試験なし

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

調理科学実験（長尾慶子他編、建帛社）

流れと要点がわかる　調理学実習　豊富な献立と説明（香西みどり他編集、光生館） 食品成分表（香川明夫監、女子栄養大学出版）
学生に対する評価 レポート課題(６０%)、実技課題（３０%）、発表（１０%）

授業科目名： 食物学演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 萱島　知子 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

家庭科の食物学の内容に関する専門的知識・理解を深めることができる。さらに、家庭科教員に必要な論理的・科学的な思考力を養う。

授業の概要

食物学に関するテキストと論文を読み、解説し、意見交換をすることで、食物学の知識と理解を深める。食物学に関する報告の科学的根拠を理解し、望ましい食生活のあり方について考え、提案する。

授業計画

第１回：はじめに：食物学の基礎
第２回：テキスト輪読（１）望ましい食習慣とは
第３回：テキスト輪読（２）脂質
第４回：テキスト輪読（３）食塩
第５回：テキスト輪読（４）肥満
第６回：テキスト輪読（５）飲酒
第７回：テキスト輪読（６）食事管理
第８回：テキスト輪読（７）まとめ：望ましい食習慣のための指標
第９回：論文紹介（１）食品の機能性評価
第１０回：論文紹介（２）調理
第１１回：論文紹介（３）栄養
第１２回：論文紹介（４）食品
第１３回：論文紹介（５）食習慣
第１４回：論文紹介（６）食事管理
第１５回：まとめ：望ましい食習慣のための提案
定期試験なし

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

佐々木敏のデータ栄養学のすすめ（佐々木敏、女子栄養学出版）

佐々木敏の栄養データはこう読む！（佐々木敏、女子栄養出版） 行動栄養学とはなにか？（佐々木敏、女子栄養出版）
学生に対する評価 発表（５０％）、課題（５０％）

授業科目名： 住居学Ⅰ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中迫　由実／澤島　智明 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・住居学

授業のテーマ及び到達目標

中学校、高等学校家庭科住居分野で扱う内容を取り上げ、家庭科教員として必要な住居分野の知識を習得し、自身の生活の中での実践力を身に付けることを目的とする。

授業の概要

中学校、高等学校家庭科住居分野で扱われている専門的知識について学習する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：住まいの機能
第３回：気候風土と住まい
第４回：世界の住まい
第５回：住まいの歴史（近世まで）
第６回：住まいの歴史（近現代）
第７回：住まいの室内環境（光・音）
第８回：住まいの室内環境（熱・空気）（１）理論
第９回：住まいの室内環境（熱・空気）（２）実践
第１０回：住宅の性能
第１１回：ライフステージと住まい
第１２回：住まいの管理
第１３回：地域・環境と住まい
第１４回：住まいの計画
第１５回：授業の総括
定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

私たちの住居学　第２版（中根芳一編著、オーム社）

学生に対する評価
平常点：４０ｐ（平素の学習状況、発表、授業毎のレポートなどを総合して評価する）
定期試験：６０ｐ

授業科目名： 住居学Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中迫由実／澤島智明 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・住居学

授業のテーマ及び到達目標

(1) わが国の住まいや住まい方に関する諸問題について基礎的な説明ができる。

(2)わが国の住まいや住まい方に関する諸問題について、その改善策を自分なりに考察できる。

授業の概要

講義と見学を通じて、わが国の住まいや住まい方をとりまく諸問題に関する基礎知識を習得させ、これからの住生活のあり方を考える力を身に付けさせる。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：住様式に関する諸問題

第３回：住まいの賃貸に関する諸問題

第４回：住まいの確保に関する諸問題

第５回：住まいの室内環境に関する諸問題（光・音）

第６回：住まいの室内環境に関する諸問題（熱・空気）

第７回：伝統的民家の見学

第８回：住まいとエネルギーに関する諸問題

第９回：現代住宅の見学

第１０回：住まいの安全に関する諸問題（家庭内事故）

第１１回：住まいの安全に関する諸問題（地震災害）

第１２回：住まいの安全に関する諸問題（豪雨災害）

第１３回：子どもと住まいに関する諸問題

第１４回：高齢者と住まいに関する諸問題

第１５回：授業の総括

定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

私たちの住居学　第2版（中根芳一編著、オーム社）
学生に対する評価 授業毎のレポート（３０％）、見学レポート（３０％）、最終レポート（４０％）

授業科目名：住居学Ⅲ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中迫　由実 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学		

授業のテーマ及び到達目標

「まちづくり」について基本的な考え方や関係する知識を学ぶと共に、地域を歩き、安全で安心できる地域環境や今後の自分と居住地域との関わりについて考察する。

授業の概要

まちづくりに関する先行事例を学び、実践的なまちづくりの知識を習得するとともに、身近な地域の諸問題について考察する能力を身に付ける。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：住民とまちづくり１：まちづくりの基本的な考え方やまちづくりの担い手について講義をする。

第３回：住民とまちづくり２：参加・協働型まちづくりの方法と仕組みについて講義をする。

第４回：住民とまちづくり３：地域の価値を高めるためのコミュニティマネジメントについて講義する。

第５回：都市施設の計画

第６回：身近な公園の現状１：都市公園法の改正や公園の管理について講義する。

第７回：身近な公園の現状２：各自で近隣の公園の利用実態を調査し、結果のプレゼンテーションを行う。

第８回：身近な公園の現状３：公園が抱えている課題や先行事例について解説する。

第９回：安全で安心できる住環境について１：犯罪からの安全について諸理論に関する講義を行う。

第10回：安全で安心できる住環境について２：大学周辺を歩き、犯罪の発生という観点で危険な箇所を調査する。

第11回：安全で安心できる住環境について3：前回の講義で調査した結果をまとめる。

第12回：安全で安心できる住環境について４：調査結果の発表および課題解決にむけてディスカッションをする。

第13回：安全で安心できる住環境について5：防災の視点でフィールドワークをする場合のポイントについて講義をする。

第14回：安全で安心できる住環境について6：交通安全の視点でフィールドワークをする場合のポイントについて講義をする。

第15回：授業の総括
テキスト 「私たちの住居学　第２版」編著中根芳一、オーム社
参考書・参考資料等 「入門都市計画ー都市の機能とまちづくりの考え方ー　第2版」谷口守，森北出版 「生活の視点でとく都市計画」薬袋奈美子，室田昌子，加藤仁美著，彰国社
学生に対する評価 授業中の積極的な発言、コメントシート20%、レポート80%により総合的に評価

授業科目名： 住居計画学 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中迫由実／澤島智明
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・住居学

授業のテーマ及び到達目標

中学校、高等学校家庭科教員として住居分野に必要な知識を習得する。家事動線や時間とともに変化する住まいに対する要求を理解し、平面図を作成することを通して、ライフスタイルにあった住まいの特徴を理解し、計画する際の実践力を身につける。

授業の概要

住宅を計画するにあたり必要な、構造、設備、間取り、空間の使い方、資金計画などの知識を習得し、住まいの提案を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：各室設計の要点
第３回：製図の基礎１（製図記号と平面図）
第４回：製図の基礎２（製図のルール）
第５回：動作と寸法１（理論）
第６回：動作と寸法２（実践）
第７回：最新の住まい
第８回：住まいと費用
第９回：住まいの提案１（住要求の整理）
第10回：住まいの提案２（住空間の提案）
第11回：住まいの提案３（平面計画）
第12回：住まいの提案４（インテリア計画）
第13回：住まいの提案５（プレゼンボード作成）
第14回：住まいの提案６（プレゼンテーション）
第15回：授業の総括
定期試験なし

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

「住まい方から住空間をデザインする」新訂第二版（彰国社）著者：林知子 「私たちの住居学　第２版」編著：中根芳一、オーム社 「図解　住まいの寸法・計画事典　第二版」彰国社 「図解　住まいの寸法」学芸出版
学生に対する評価 授業中の積極的な発言、小レポート20％、課題（住まいの提案）80％により総合的に評価

授業科目名： 住居学演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 澤島　智明
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項	教科に関する専門的事項 ・住居学

授業のテーマ及び到達目標

(1)生活空間の物理的環境（音・熱・光・空気質・快適性）について基礎的な説明ができる。

(2)生活空間の物理的環境に関する問題点を見つけ、改善策を検討することができる。

授業の概要

住まいの物理的環境（音・熱・光・空気・快適性）に関する基礎知識を講義するとともに、身近な生活空間から物理的環境に関する問題点を見つけてその環境要素を測定する。測定結果をまとめてレポートを作成、発表、議論する。

授業計画

第１回：ガイダンス

第２回：人間と光、

第３回：住まいの光環境

第４回：光環境の測定

第５回：人間と音、住まいの音環境

第６回：音環境の測定

第７回：人間と熱

第８回：住まいの熱環境

第９回：熱環境の測定

第１０回：人間と空気、住まいの空気環境

第１１回：空気環境の測定

第１２回：人間と快適性

第１３回：住まいの快適性

第１４回：快適性の測定

第１５回：まとめ

定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等 　私たちの住居学　第2版（中根芳一編著、オーム社）、
学生に対する評価 平常点：４０％（平素の学習状況、作業への取り組み姿勢などを総合して評価する） 測定レポートおよび発表：６０％

授業科目名： 保育学 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 増田　仁
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学

授業のテーマ及び到達目標

子どもに関する社会学・生活史・現代の課題等について検討し、子どもが置かれている社会的文脈を理解する。

授業の概要

子どもの社会学・生活史・保育実践・家庭環境・現代の課題について考察し、子どもの社会的布置を理解することで、今後どのような支援が必要か議論していく。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：子どもの社会学（1）社会化
第３回：子どもの社会学（2）ジェンダーと教育
第４回：子どもの社会学（3）国際化
第５回：子どもの生活史（1）戦前
第６回：子どもの生活史（2）戦後（前半）
第７回：子どもの生活史（3）戦後（後半）
第８回：保育実践の検討（1）カリキュラム
第９回：保育実践の検討（2）指導法
第１０回：家庭環境と保育（1）1人親家庭の支援
第１１回：家庭環境と保育（2）共働き家庭の支援
第１２回：子どもをめぐる現代の課題（1）早期教育
第１３回：子どもをめぐる現代の課題（2）貧困
第１４回：子どもをめぐる現代の課題（3）虐待
第１５回：まとめ
定期試験なし

テキスト

保育原理（広田照幸ほか編、樹村房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価 レポート80％、学修態度20％

授業科目名： 保育学演習Ⅰ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西　雪夫
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学		

授業のテーマ及び到達目標

高等学校家庭科の内容に関する専門的知識・理解を深めるとともに、現代の保育をめぐる諸問題の背景を理解し、課題解決の方策を考えることができる。

授業の概要

授業の前半では、妊娠・出産と幼児の基本的生活習慣の獲得について解説する。授業の後半では現代の保育をめぐる諸問題について受講生が各自でテーマを決め、問題背景やその解決策について探究活動を行い、相互に情報共有をして保育問題への理解を深める。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：妊娠と出産（1）月経
第３回：妊娠と出産（2）妊娠とは
第４回：妊娠と出産（3）健康な妊娠とは
第５回：幼児期の五つの基本的生活習慣とは
第６回：幼児期の基本的生活習慣の獲得（1）排泄と睡眠の自立
第７回：幼児期の基本的生活習慣の獲得（2）食事の自立
第８回：幼児期の基本的生活習慣の獲得（3）清潔と着脱衣の自立
第９回：現代の保育をめぐる諸問題（1）研究テーマの決定
第１０回：現代の保育をめぐる諸問題（2）情報収集方法の計画
第１１回：現代の保育をめぐる諸問題（3）探究活動の中間報告１回目
第１２回：現代の保育をめぐる諸問題（4）探究活動の中間報告２回目（１回目以外の受講生）
第１３回：現代の保育をめぐる諸問題（5）最終報告１回目
第１４回：現代の保育をめぐる諸問題（6）最終報告２回目（１回目以外の受講生）
第１５回：総括
定期試験は実施しない

テキスト

子どもと学校（河合隼雄著、岩波書店）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 レポート80%、学修態度（授業中の発言等）20%

授業科目名： 保育学演習Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：増田　仁 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・保育学		

授業のテーマ及び到達目標

子どもの身体的・心理的発達、社会性の発達を発達段階ごとに理解する。さらに実際の子どもを観察することで理解を深めていくことを目標にする。

授業の概要

授業の前半では、子どもの身体的・心理的発達、社会性の発達を発達段階ごとに解説する。授業の後半では実際の子どもを観察し、子どもの発達や保育実践について理解を深める。最後に子どもに関する制度について紹介し、子どもを支える仕組みへの関心を深める。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：身体的発達（1）乳児
第３回：身体的発達（2）幼児前半
第４回：身体的発達（3）幼児後半
第５回：心理的発達（1）乳児
第６回：心理的発達（2）幼児前半
第７回：心理的発達（3）幼児後半
第８回：社会性の発達（1）乳児
第９回：社会性の発達（2）幼児前半
第１０回：社会性の発達（3）幼児後半
第１１回：子どもの観察の事前指導
第１２回：子どもの観察実習
第１３回：子どもの観察の事後指導
第１４回：子どもと制度（1）乳児院
第１５回：子どもと制度（2）児童相談所

テキスト

子どもと学校（河合隼雄著、岩波書店）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート80%、授業への積極的な参加20%

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅰ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 増田　仁／中西　雪夫 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：家庭科を学ぶ意義を理解するとともに、中学校・高等学校家庭科の学習内容と学習指導方法についての基礎的理解を深める。また、家庭科の授業実施に必要な基礎的な技能を身につける。

授業の概要

家庭科教育の意義に対する理解を深めるため、家庭科教育の過去・現在・将来について解説する。家庭科の学習内容と学習指導方法の理解を深めるため、家庭科の内容A・B・Cの授業実践の検討を行う。

また、グループで作成した学習指導案を基に模擬授業を行い、基礎的な技能を身に付ける。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：家庭科教育の概要と学習指導要領

第３回：戦前の家庭科教育の歴史

第４回：戦後の家庭科教育の歴史

第５回：これからの家庭科教育

第６回：中学校家庭科の授業の展開（１）家族と家庭生活の授業

第７回：中学校家庭科の授業の展開（２）保育と高齢者の授業

第８回：小学校家庭科の授業の展開（３）食生活領域の授業

第９回：小学校家庭科の授業の展開（４）衣生活領域の授業

第10回：小学校家庭科の授業の展開（５）住生活領域の授業

第11回：小学校家庭科の授業の展開（６）消費と環境の授業

第12回：年間指導計画と学習指導案

第13回：家庭科の評価

第14回：ICT活用と模擬授業（１）

第15回：ICT活用と模擬授業（２）

定期試験（またはレポート）

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2019）
参考書・参考資料等 中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023） 天野正子「『生活者』とはだれか」中央公論新社（1996）
学生に対する評価 定期試験またはレポート（70％）、模擬授業（30％）

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 増田　仁／中西　雪夫 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：中学校・高等学校における学習内容の理解を深めるとともに、授業実践に必要な技能を高める。

授業の概要

中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：課題解決学習と家庭科
第３回：模擬授業の計画（１）学習指導要領と家庭科教科書の分析
第４回：模擬授業の計画（２）教育内容研究（教材研究）
第５回：模擬授業の計画（３）教材開発
第６回：模擬授業の計画（４）学習指導案の作成
第７回：模擬授業の計画（５）発問計画・板書計画の作成
第８回：模擬授業の実施（１）個人又はグループによる模擬授業１回目
第９回：模擬授業の実施（２）個人又はグループによる模擬授業２回目
第10回：模擬授業の実施（３）個人又はグループによる模擬授業３回目
第11回：模擬授業の改善（１）実施した模擬授業の課題の改善策検討
第12回：模擬授業の改善（２）改善模擬授業の実施１回目
第13回：模擬授業の改善（３）改善模擬授業の実施２回目
第14回：模擬授業の改善（４）改善模擬授業の実施３回目
第15回：総括
定期試験（またはレポート）

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2019）
参考書・参考資料等 中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023） 堀内かおる「生活をデザインする家庭科教育」世界思想社（2020）
学生に対する評価 模擬授業（50%）、定期試験またはレポート（50%）

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 八幡（谷口） 彩子／中西 雪夫 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：中学校・高等学校における学習内容の理解を深めるとともに、授業実践に必要な技能を高める。

中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：アクティブラーニングの意義と家庭科
第３回：模擬授業の計画（１）学習指導要領と家庭科教科書の分析
第４回：模擬授業の計画（２）教育内容研究（教材研究）
第５回：模擬授業の計画（３）教材開発
第６回：模擬授業の計画（４）学習指導案の作成
第７回：模擬授業の計画（５）発問計画・板書計画の作成
第８回：模擬授業の実施（１）個人又はグループによる模擬授業１回目
第９回：模擬授業の実施（２）個人又はグループによる模擬授業２回目
第10回：模擬授業の実施（３）個人又はグループによる模擬授業３回目
第11回：模擬授業の改善（１）実施した模擬授業の課題の改善策検討
第12回：模擬授業の改善（２）改善模擬授業の実施１回目
第13回：模擬授業の改善（３）改善模擬授業の実施２回目
第14回：模擬授業の改善（４）改善模擬授業の実施３回目
第15回：総括
定期試験（またはレポート）

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2009）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2008）
文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」開隆堂（2008）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2009）
参考書・参考資料等 中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）
学生に対する評価 模擬授業（50%）、定期試験またはレポート（50%）

授業科目名： 中等家庭科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 増田　仁、中迫　由実／中西　雪夫
			担当形態： クラス分け・オムニバス／単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　家庭）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：中学校・高等学校における学習内容の理解を深めるとともに、授業実践に必要な技能を高める。

中学校・高等学校の授業実践に必要な技能を高めるため、個人又はグループで模擬授業の計画・実施・改善を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション（中迫　由実／中西　雪夫）
第２回：専門性を踏まえた家庭科（中迫　由実／中西　雪夫）
第３回：教材研究（１）教材研究の方法（中迫　由実／中西　雪夫）
第４回：教材研究（２）教材の教育的価値（中迫　由実／中西　雪夫）
第５回：教材研究（３）中学校家庭科の教材研究（中迫　由実／中西　雪夫）
第６回：教材研究（４）高等学校教家庭科の材研究（中迫　由実／中西　雪夫）
第７回：教材研究（５）教材研究のまとめ（中迫　由実／中西　雪夫）
第８回：模擬授業の計画（１）学習指導要領と家庭科教科書の分析（増田　仁／中西　雪夫）
第９回：模擬授業の計画（２）学習指導案の作成（増田　仁／中西　雪夫）
第10回：模擬授業の計画（３）発問計画・板書計画の作成（増田　仁／中西　雪夫）
第11回：模擬授業の実施（１）個人又はグループによる模擬授業１回目（増田　仁／中西　雪夫）
第12回：模擬授業の実施（２）個人又はグループによる模擬授業２回目（増田　仁／中西　雪夫）
第13回：模擬授業の改善（１）改善模擬授業の実施２回目（増田　仁／中西　雪夫）
第14回：模擬授業の改善（２）改善模擬授業の実施３回目（増田　仁／中西　雪夫）
第15回：総括（増田　仁／中西　雪夫）
定期試験（またはレポート）

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）
文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）技術・家庭編」開隆堂出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編」教育図書（2019）
参考書・参考資料等 中西雪夫ほか編著、小中学校家庭科の授業をつくる、学術図書出版社（2023）
学生に対する評価 模擬授業（50%）、定期試験またはレポート（50%）

授業科目名：英語音声学 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡﨑　伸一 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

音声学の基礎知識を理解し身につけ、英語の個々の音と単語・文レベルの発音ができる。音声指導のスキル・アイデアを豊富に有し、実践することができる。

授業の概要

小・中・高等学校において、英語科教員（英語教師）として音声指導する際に必要とされる音声学の基礎知識を得ながら、音声指導のスキルとアイデアを実践する。演習形式時にはペアやグループワークで協働することを求める。

授業計画

第１回：授業方針、音声指導力、国際共通語としての英語、アメリカ英語とイギリス英語
第２回：音声指導のモデルとゴール
第３回：音声学の基礎知識①（イントネーション、音節）
第４回：音声学の基礎知識②（強勢、リズム、両唇、歯茎、軟口蓋、母音）
第５回：音声学の基礎知識③（子音、音素、異音、英語のつづり字と発音）
第６回：音声指導の基本①（カタカナ表記、フォニックス）
第７回：音声指導の基本②（辞書、発音の評価、リスニングの素材）
第８回：談話レベルの発音①（イントネーション、文の区切り、強弱）
第９回：談話レベルの発音②（イントネーション群と焦点、リズム、リンキング）
第１０回：談話レベルの発音③（英語の歌）
　　単語レベルの発音①（英単語の音声の３要素、語強勢）
第１１回：単語レベルの発音②（/b/と/v/、/l/と/r/、/s/と/θ/、/s/と/ʃ/の違い）
第１２回：単語レベルの発音③（/h/と/f/、/p/と/t/と/k/、/ɪ/と/iː/、/æ/と/ʌ/と/ɑ/の違い）
第１３回：単語レベルの発音④（/əː/と/ɑə/、/oʊ/と /ɔː/の違い、過去形edや複数形sの発音）
第１４回：音声指導のデモンストレーション（ZOOMで実施）
第１５回：テスト（音読）（各自動画ファイルを提出）と講義の総括と課題について

テキスト

内田洋子・杉本淳子.（2020）.『英語教師のための音声指導Q&A』.研究社

参考書・参考資料等

『中学英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL×ICT×UDL』高橋昌由（編集，著）大学教育

出版 『高校英語「主体的・対話的で深い学び」×CLIL × ICT × UDL × PBL』高橋昌由（編集, 著)大学教育出版 『英語授業「主体的・対話的で深い学び」を高めるために』高橋昌由（編集, 著)大学教育出版
学生に対する評価 ▪ 毎回のリフレクション（30%） ▪ 音読テスト（15%） ▪ 模擬授業（15%） ▪ 期末レポート（40%）

授業科目名： 英語学 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 村里　泰昭／MOXON JONATHAN PETER
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

1.　様々な視点から英語を言語学的に考え、仕組みをより理解を深めることができる。

授業の概要

「英語学」というのは、英語という言葉がどのような仕組みになっているかを考える言語学の一領域です。その仕組みから規則を明らかにして英語を深いレベルで理解しようとします。つまり英語の音や単語、文や会話、様々な視点から英語がどのルールに沿って使用されているかを理解しようとする分野です。この科目では、その「音」（音素など）の組み立てを明らかにする音韻論、「単語」の仕組みを明らかにする形態論、「文」の仕組みを明らかにする統語論、などの観点から英語を考え、これから児童や生徒に教える教員として英語に関しての理解をより深める。

授業計画

第１回：オリエンテーション、コース概要の説明
第２回：　音韻論：音素の仕組み
第３回：　形態論：派生形態論の仕組み
第４回：　形態論：派生と複合から見えてくるもの
第５回：　統語論　生成文法：生成文法 – 句構造と名詞句の役割
第６回：　統語論　生成文法：生成文法 ー 移動
第７回：　統語論　機能的構文論：機能的構文論 ー 文の情報構造
第８回：統語論　機能的構文論：機能的構文論 ー 視点
第９回：語彙意味論：語の意味、意味関係、多義
第１０回：語彙意味論：名詞の意味 ー 加算と不可算の意味
第１１回：　認知意味論：カテゴリとタイプ、プロフィールとベース
第１２回：　認知意味論：概念メタファー
第１３回：　語用論：発話の論理形式、表意
第１４回：　語用論：推移と様々な情報を持つ表現
第１５回：　コースのまとめ、復習
定期試験

テキスト

「英語学の基礎」（三原健一、高見健一著　くろしお出版）

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

- 授業への参加、ディスカッションにおける発言、プレゼンテーションの技能など平常点 50%（関心、態度、スキル）
- 期末試験　50%（理解、スキル）

授業科目名： 英語学演習【シラバス共通（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村里　泰昭／MOXON JONATHAN PETER 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

1.　様々な視点から英語を言語学的に考え、仕組みをより理解をより深めることができる。

授業の概要

「英語学」で構築された知識をもとに英文による英語学の解説を通じて様々な視点から英語を言語的に考え、仕組みをさらに理解を深める。この理解を用いて教科書に使われている英文を分析しクラスルームプラクティスに繋げていく。

授業計画

第1回：オリエンテーション、コース概要の説明
第2回：言語と言語学の本質
第3回：音韻論：子音と母音、音素規則
第4回：形態論：語の内部構造
第5回：文法範疇
第6回：語彙意味論（1）意味成分
第7回：語彙意味論（2）プロトタイプと比喩
第8回：句構造と動詞の補文
第9回：副詞句と文の種類
第１０回：句構造
第１１回：文の意味論
第１２回：情報構造と発話行為（1）語用論と統合論
第１３回：情報構造と発話行為（2）言語行為論
第１４回：言語教育における言語学
第１５回：復習とまとめ
定期試験

テキスト

「The Linguistic Structure of Modern English」（Brinton, J.B. & Brinton, D.M.　John Benjamins出版）

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

- 授業への参加、ディスカッションにおける発言、プレゼンテーションの技能など平常点 25% （関心、態度、スキル）、
- オンライン学習　25%（理解、スキル）
- 期末試験　50%（理解、スキル）

授業科目名： 英語音声学演習【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名： 小野　浩司
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業の到達目標及びテーマ

日本人英語からの脱却を目指して、発音の基礎的知識を身に着け、さらにその知識を実践によって確かなものとすることが目標である。

授業の概要

日本人による英語発音(日本人英語)の特徴を明らかにしたうえで、日本人英語の弊害を理解する。授業では、日本人英語の原因を一つ一つ取り除き、正しい英語の発音を身に着けるようにしてゆく。

授業計画

第１回：発音チェック：英語の正しい発音ができているか
第２回：日本人英語の特徴と矯正(1)：母音編
第３回：日本人英語の特徴と矯正(2)：子音編
第４回：日本人英語の特徴と矯正(3)：音節とモーラ―母音挿入
第５回：綴り字と発音(1)：フォニックスと英語の綴り字
第６回：綴り字と発音(2)：フォニックスと英語の母音・子音
第７回：綴り字と発音(3)：フォニックスの問題点
第８回：日本人英語の特徴と矯正(4)：カタカナ発音の弊害
第９回：日本人英語の特徴と矯正(5)：強形と弱形
第１０回：日本人英語の特徴と矯正(6)：音のつながり
第１１回：日本人英語の特徴と矯正(7)：ピッチ言語とストレス言語
第１２回：日本人英語の特徴と矯正(8)：イントネーション(1)：平板調と抑揚調
第１３回：日本人英語の特徴と矯正(9)：イントネーション(2)：英語のイントネーションと意味
第１４回：日本人英語の特徴と矯正(10)：マザーグースを読む(1)：　英語のストレスを身につける
第１５回：日本人英語の特徴と矯正(11)：マザーグースを読む(2)：　英語のリズムを身につける
定期試験

テキスト

授業時指示する

参考書・参考資料等

川越いつえ著『英語の音声を科学する』、深澤俊昭著『英語の発音パーフェクト学習辞典』
学生に対する評価 定期試験（60%）、平常点（授業への積極的参加、発表などを総合的に判断）（40%）

授業科目名：第二言語習得論【独自科目(佐大)】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：MOXON JONATHAN PETER
			担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		

授業のテーマ及び到達目標

第二言語習得研究の研究テーマごとに最新の知見のまとめてもらい、各回のテーマについて議論を深めながら課題について学習していく。

(1) 第二言語習得論に影響を及ぼす要素について理解を深めることができる。

(2) 第二言語習得論をどのように教育現場で生かすへの理解を深めることができる。

授業の概要

第二言語習得研究とは何か、どのような研究成果があり、どのような仮説が提案されているかを整理・分析して理解することで、英語科教育における教授法の内容について、どこまでが事実として認められているか、どのような仮説が提案され、どのような内容が認められているかを概観する。英語教育に必要な第二言語習得の基礎的内容を知ることで理論的実践的に対応できる知識と技能を身につける。コース前半は理論、先行研究を中心に学修し、コース後半はどのように小中高の英語教育現場に行かせることができるかについて考える。

授業計画

第１回：オリエンテーション、第二言語習得論とは

第２回： 母語の影響

第３回： 年齢要因

第４回： 母語のフィルターとバイリンガリズム

第５回： 個人差と適性

第６回： 動機づけ

第７回： SLAから見た効果的学習法とは

第８回： 言語ができるとはどういうことか

第９回： 言語習得の本質とは何か

第１０回： SLAから見た日本の英語教育（１）迎えている課題

第１１回： SLAから見た日本の英語教育（２）解決のための取り組み

第１２回： 小学校英語教育のこれから

第１３回： 中学校英語教育のこれから

第１４回： 高校英語教育のこれから

第１５回： まとめと復習
テキスト 「英語教師のための第二言語習得論」（白井恭弘　大修館書店出版）
参考書・参考資料等 必要に応じ適宜紹介する。
学生に対する評価 ▪　定期試験　　５０％ 発表・リフレクションを含む授業課題の達成　５０％

授業科目名：英文法演習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

教科書を精読し、高校まで学んだ基礎的な英文法知識を確認し、ディスカッションやペアワークでニュアンスや言語使用領域への理解深める。

（1）科目で学習した英文法の基礎的知識を確認し、その内容を他者に説明できる。

（2）科目で学習した英文法の語法的応用への理解を深めることはできる。

（3）科目で学習した英文法の適切な言語使用領域への理解を深めることはできる。

授業の概要

英文法の本質的な特徴を理解することにより，コミュニケーションをする上での言語の果たす役割 についての理解を深めていく。高校で習った個々の
文法項目への理解を確認し、コミュニケーション上必要な使い分けのニュアンスや使用領域についての理解まで発展させる。日本語と比較しながら理解を深め、英文法の基礎的な知識を確認し、他者にわかりやすく説明できることを目標とする。その結果、コミュニケーションの中で場面に合った自然で正確なアウトプットができるようになると共に、中高の英語授業担当者として、必要なメタ言語知識を育成する。

授業計画

第1回：オリエンテーション、コース概要の説明

第2回：現在形と過去形の形式と用法

第3回：現在完了形と過去形の形式と用法

第4回：未来形の形式と用法

第5回：受動態の形式と用法

第6回：間接話法の形式と用法

第7回：動名詞と不定詞の違いと用法

第8回：理解確認と解説

第9回：冠詞と名詞の形式と用法の形式と用法

第10回：代名詞と限定詞の形式と用法

第11回：関係詞節の形式と用法

第１２回：形容詞と副詞の形式と用法
第１３回：接続詞と前置詞の形式と用法
第１４回：前置詞の形式、意味、用法
第１５回：句動詞の形式と用法

テキスト
「Grammar in Use Intermediate」（Murphy, R　Cambridge出版）

参考書・参考資料等
なし

学生に対する評価
- オンライン復習　30%（到達目標1）
- 授業内の発表　30%（到達目標1）
- 中間テスト　20%（到達目標1，2，3）
- 定期試験　20%（到達目標1，2，3）

授業科目名： 英語学課題研究 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村里泰昭 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学

授業のテーマ及び到達目標

(1)英語学に関わる高度な知識の習得を目指す。

(2)英語教育と英語学との接点を適切に理解した上で、英語学の知見を英語教育実践へ応用する方略を探求できる。

授業の概要

英語教育における語彙・文法と英語学との関わりについての討議・演習を中心に進めていく。教育実践への応用を前提とした英語学論文及び学術図書の批判的読解の方法も指導する。

授業計画

第１回：英語学とは何か

第２回：英語学の諸理論

第３回：英語学の研究手法

第４回：英語教育の中の英語学　１（先行研究文献の読み方）

第５回：英語教育の中の英語学　２（先行研究が示唆するもの）

第６回：英語教育の中の英語学　３（実践への応用と研究の限界とはなにか）

第７回：英語教育実践への応用　１（英語学データの種類）

第８回：英語教育実践への応用　２（英語学データ収集と分析）

第９回：語彙・文法　１（研究成果に基づいた語彙・文法の取り扱いへの具体的な提案）

第１０回：語彙・文法　２（その改善案の実現可能性の検証）

第１１回：英語教育現場と英語学

第１２回：英語教師が持つべき思考・認知と言語との関係について

第１３回：英語学における引用（筆者の意見・解釈と他者の意見・解釈を区別する手法）

第１４回：理論と実践の往還を可能にする英語学の貢献とは

第１５回：英語教師に必要な英語学の専門知識について

定期試験

テキスト

ハンドアウト

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

討議・演習への参加・貢献度（２０％）、レポート課題への取り組み等（８０％）を基に総合的に評価する。

授業科目名： 英語文学概論【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉村　圭 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

多用な英語文学作品に触れながら、そこで使用されている英語表現について理解し、その作品が書かれた国や地域の文化について理解を深める。

授業の概要

この授業では、『不思議の国のアリス』『ナルニア国物語』『ハリー・ポッター』といった、有名なイギリスの児童文学作品の読解を行う。そして作品鑑賞を通し、文学作品の多様な批評方法について講義を行う。授業では映像化作品等を用いおおまかなストーリーを確認し、ポイントとなる箇所の原文を精読する。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：英語文学作品で用いられる表現の面白さ
第３回：Lewis Carrollについて
第４回：Alice’s Adventures in Wonderland：だじゃれの翻訳
第５回：Alice’s Adventures in Wonderland：同音異義語の翻訳
第６回：Alice’s Adventures in Wonderland：文法の相違による困難さ
第７回：作品に反映された文化的背景（キリスト教聖書の影響）
第８回：The Chronicle of Narnia：終末世界としてのナルニア
第９回：The Chronicle of Narnia：救済の預言と救世主の到来
第１０回：The Chronicle of Narnia：死と復活の描かれ方
第１１回：作品に反映された社会問題
第１２回：J. K. Rowlingについて
第１３回：Harry Potter：ジェンダーから作品を読み解く
第１４回：Harry Potter：人種・階級差別を読み解く
第１５回：授業総括
定期試験なし

テキスト

テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ ： 「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.

中村邦生他. 1994. 『たのしく読めるイギリス文学 ： 作品ガイド150』ミネルヴァ書房.

神山妙子. 1989. 『はじめて学ぶイギリス文学史』ミネルヴァ書房.

川端有子他. 2015. 『映画になった児童文学』玉川大学出版部.

日本イギリス児童文学会編. 2001. 『英米児童文学ガイド: 作品と理論』研究社.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、最終課題・プレゼン50%

ただし、3分の2以上出席しなければ評価を不可とする

授業科目名： 英語文学演習Ⅰ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： OSHIMA KAREN／吉村圭
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

異文化の文学先品に触れることで異文化の知識を修得し、文化的素養を身に付ける。また文化の違いを認識し、それらの価値を認めることで他者の立場で物事を考察する。

授業の概要

この講義では、英語圏の文学作品について、同一の作品であっても多様な角度から異なる読み方ができることを学ぶ。また講義を通して学んだ観点をもとに、学生自身が主体的に作品を精読し、先行研究を踏まえながら作品を分析する。最終課題としてその成果はプレゼン等の形でアウトプットする。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：作品鑑賞
第３回：著者と時代背景について
第４回：作品の文化的背景
第５回：作品に用いられる文学的な英語表現とその読みについて
第６回：登場人物に関する考察
第７回：登場人物に関する従来の研究における議論
第８回：物語に着目した議論
第９回：物語の構造に関する従来の研究における議論
第１０回：派生作品や映像化作品との比較
第１１回：アダプテーション作品に関する従来の研究における議論
第１２回：課題作成：使用作品の選定、精読
第１３回：課題作成：先行研究を用いた情報収集
第１４回：課題作成：情報整理、最終課題の作成
第１５回：最終課題に関するプレゼン
定期試験なし

テキスト

テキストは使用しない。毎回資料を配布する。
参考書・参考資料等 小林真大. 2020. 『文学のトリセツ ： 「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社. 中村邦生他. 1994. 『たのしく読めるイギリス文学 ： 作品ガイド150』ミネルヴァ書房. 神山妙子. 1989. 『はじめて学ぶイギリス文学史』ミネルヴァ書房.
学生に対する評価 各回の授業内ミニレポート50%、最終レポート50% ただし、出席回数が全体の３分の２に満たない場合は不可とする。

授業科目名： 英語文学演習Ⅱ 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN／吉村圭 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

このクラスの目標は、1)アメリカ文学やイギリス文学の選りすぐりの作品を分析し、鑑賞する能力を養うこと、2)英語の読解力とライティング力を向上させることです。

授業の概要

私たちは、1）テキストの言語と文字通りの意味を理解すること、2）文字通りの意味を超えたより深い理解を養うこと、2）作品のテーマ、構造、スタイルを理解することを目指します。学生はグループディスカッションに積極的に参加することが求められます。

授業計画

第１回：クラスの紹介、ポリシー・期待事項開示。「文学とは何か」についてクラスで議論
第２回：文学と第1著者の紹介
第３回：第1話の紹介
第４回：第1話のグループディスカッション
第５回：第1話の議論を終える
第６回：第2著者とストーリーの紹介
第７回：第2話のグループディスカッション
第８回：物語と作者のレビュー、中間試験
第９回：第3著者とストーリーの紹介
第１０回：第3話のグループディスカッション
第１１回：第4話の紹介
第１２回：第4話のグループディスカッション
第１３回：第3話と第4話の作者のレビュー
第１４回：学期中に取り上げたすべての作家と物語についての議論
第１５回：すべての読書、著者、テーマ、その他の文学用語についての最終的な議論
定期試験

テキスト　*20th Century American Short Stories, Volume 1.* Jean McConochie.
ISBN 978-0-8384-4850-2

参考書・参考資料等　文学用語、歴史的背景に関するハンドアウト

学生に対する評価	授業への積極的な参加（授業準備を含む）30%、中間試験30%、期末試験40%

授業科目名： 英語文学講読Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：吉村　圭 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

異文化の文学先品に触れることで異文化の知識を修得し、文化的素養を身に付ける。また文化の違いを認識し、それらの価値を認めることで他者の立場で物事を考察する。

授業の概要

この授業では、1920年代にイギリスの小説家A. A. ミルンが著したWinnie-the-Pooh及びThe House at the Pooh Cornerを用い、多様な文学批評の方法について講義を行う。また、Milneによる原文の読解はもちろんであるが、ディズニーによって生み出されたアニメーション作品等も重要なテクストとして、授業の題材として扱う。各回資料を配布するため教科書は用いないが、対象となる２冊の小説（Winnie-the-Pooh、The House at the Pooh Corner 講談社英語文庫等）は各自で購入し、あらかじめ目を通しておくことが望ましい。

授業計画

第１回：オリエンテーション、作家A. A. ミルンについて
第２回：伝記的アプローチ：ミルンの平和思想
第３回：アダプテーション批評①：ディズニー映画の背景
第４回：アダプテーション批評②：キャラクター比較
第５回：アダプテーション批評③：行動の比較
第６回：アダプテーション批評④：ミルンの思想との比較
第７回：フェミニズム批評 ①：「プー」に見る母親たち
第８回：フェミニズム批評 ②：唯一の女性キャラクターカンガ
第９回：フェミニズム批評 ③：ディズニー映画に描かれた女性像の変遷
第１０回：キリスト教聖書の影響①：100エーカーの森の救世主は誰か
第１１回：キリスト教聖書の影響①：「プー」における楽園とその喪失
第１２回：語り手の問題：物語を語るのは誰？
第１３回：ポストコロニアル批評：「ヨーロッパならざるもの」はどう描かれるのか
第１４回：現代における「プー」：実写化映画『プーと大人になった僕』の創造的価値
第１５回：総括

テキスト

テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

A. A. Milne. 1997. 『クマのプーさん―Winnie‐the‐Pooh』講談社英語文庫.

A. A. Milne. 1998. 『プー横丁にたった家―The house at Pooh Corner』講談社英語文庫.

アン・スウェイト. 2018. 『グッバイ・クリストファー・ロビン ： 『クマのプーさん』の知られざる真実』国書刊行会.

小野俊太郎. 2020. 『「クマのプーさん」の世界』小鳥遊書房.

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ ： 「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、最終レポート50%

ただし、出席回数が全体の３分の２に満たない場合は不可とする。

授業科目名： 英語文学講読Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：吉村　圭 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		

授業のテーマ及び到達目標

異文化の文学先品に触れることで異文化の知識を修得し、文化的素養を身に付ける。また文化の違いを認識し、それらの価値を認めることで他者の立場で物事を考察する。

授業の概要

本講義では、SwiftのGulliver's Travels、DickensのChristmas Carolといった英文学を代表する作家の作品を鑑賞する。その際には、作家の伝記的背景や、宗教的な影響などを探りながら、重要な箇所の原文読解を行う。授業終盤では受講者自身が自ら読解する作品を選定し、その読解箇所に関する講義を行ってもらう。

授業計画

第1回： オリエンテーション：イギリス小説誕生の背景
第2回： Gulliver's Travels：Swiftのジャーナリスト精神
第3回： Gulliver's Travels：卑小化された小人の国「イングランド王国」
第4回： Gulliver's Travels：巨人が嗤う「イングランド王国」
第5回： Gulliver's Travels：陰謀の国「イングランド王国」
第6回： Gulliver's Travels：「馬の国」を介した人間批判
第7回： A Christmas Carol：作家ディケンズと貧困
第8回： A Christmas Carol：作品に見るキリスト教性
第9回： A Christmas Carol：スクルージの死と復活
第１０回： A Christmas Carol：アダプテーション作品の比較
第１１回： プレゼン準備：作品の選定
第１２回： プレゼン準備：先行研究の分析
第１３回： プレゼン準備：読解のポイントと読解箇所の選定
第１４回： プレゼン準備：パワーポイントの作成
第１５回： プレゼン

テキスト

テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考書・参考資料等

中村邦生他. 1994. 『たのしく読めるイギリス文学 : 作品ガイド150』ミネルヴァ書房.

神山妙子．1989．『はじめて学ぶイギリス文学史』ミネルヴァ書房. 小林真大．2020．『文学のトリセツ ： 「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社. 塩谷清人．2016．『ジョナサン・スウィフトの生涯』彩流社.
学生に対する評価 各回の授業内ミニレポート40%、課題・プレゼン60% なお、3分の2以上出席しなければ評価を不可とする

授業科目名： 英語文学特論【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：吉村　圭 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

英語文学作品について多様な観点から深く学び、そこで使用されている英語表現について理解し、その作品が書かれた国や地域の文化についてさらに理解を深める。

授業の概要

本講義では、Peter and Wendy（1911）の読解を通して、フェミニズムやポストコロニアリズムといった多様な文学作品へのアプローチ方法を講義する。その際には、Barrieの英文学作品と、後年ディズニーによって映像化されたアニメーション（1952）及び最新の映像作品（2023）の比較を通し、批評理論の理解をさらに深める。授業後半では本講義で身に付けた内容をもとに、Harry Potterシリーズを題材とした英語文学講読の教材作成を行ってもらう。

授業計画

第１回：オリエンテーション：作家James Mathew Barrieについて
第２回：フェミニズム：ウェンディの両面性
第３回：フェミニズム：家庭の天使・新しい女としてのウェンディ
第４回：フェミニズム：「お母さん」というジェンダーロール
第５回：フェミニズム：男たちを戦いへといざなう女神
第６回：ポストコロニアル：野蛮に表象されるインディアン
第７回：ポストコロニアル：物言わぬ他者たち
第８回：アダプテーション：Peter Pan（1952）に見る女性差別・人種差別
第９回：アダプテーション：Peter Pan and Wendy（2023）に見る差別のアダプテーション
第１０回：アダプテーション：Peter Pan and Wendy（2023）の創造的価値
第１１回：教材作成：作品の精読と読解の観点の決定
第１２回：教材作成：先行研究の収集
第１３回：教材作成：読解のポイントとなる箇所の抽出
第１４回：教材作成：プレゼン準備
第１５回：発表&総括

テキスト

テキストは使用しない。ただし、講義開講後に課題として決定した作品を購入してもらうことになるため、その点は了解のうえ受講すること。

参考書・参考資料等

小林真大. 2020. 『文学のトリセツ ： 「桃太郎」で文学がわかる!』 五月書房新社.
川端有子他. 2015. 『映画になった児童文学』玉川大学出版部.
日本イギリス児童文学会編. 2001. 『英米児童文学ガイド: 作品と理論』研究社.
ジャッキー ヴォルシュレガー. 1997. 『不思議の国をつくる―キャロル、リア、バリー、グレアム、ミルンの作品と生涯』河出書房新社.
アンドリュー・バーキン. 1991. 『ロスト・ボーイズ ： J・M・バリとピーター・パン誕生の物語』新書館.

学生に対する評価

各回の授業内ミニレポート50%、レポート・プレゼン50%
なお、3分の2以上出席しなければ評価を不可とする

授業科目名： 英米文学課題研究 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： OSHIMA KAREN 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学

授業のテーマ及び到達目標

英語による文学作品を解読、分析し、批評方法を確立する。それによって、現代社会を分析し批評できるような能力を養うことができる。そしてそのような英語文学作品の理解を英語教育に活かす方法を考えることができる。

授業の概要

各自の課題を設定し、教員も含めてお互いに討論しながら文学作品を読み進めていく。関連する英語論文を読み、形式に慣れるようにする。 ほぼ毎回レジメを使っての発表・討論が中心となる。

授業計画

第１回：ガイダンス（ガイダンスおよび授業の進め方）
第２回：英語文学の歴史概説
第３回：韻文と散文
第４回：小説の誕生
第５回：登場人物の分析（家族）
第６回：登場人物の分析（コミュニティー）
第７回：時代背景の分析（平時）
第８回：時代背景の分析（戦時）
第９回：思想の分析
第１０回：文化の分析
第１１回：英語教育と文学（登場人物）
第１２回：英語教育と文学（時代背景）
第１３回：英語教育と文学 （思想）
第１４回：英語教育と文学 （文化）
第１５回：この授業のまとめ
定期試験

テキスト　　ハンドアウト

参考書・参考資料等　適宜紹介する。

学生に対する評価　　発表（40%）とレポート（60%）を中心にして評価する。

授業科目名： 英語コミュニケーション論【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： MOXON JONATHAN PETER 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

効果的なコミュニケーションの在り方に関して学び、様々な人の意見を聞くことによって、自らにあったコミュニケーション活動・能力を探し出すというのがこの授業の開講意図です。

(1) 英語によるコミュニケーションについて批判的思考ができる。

(2) 英語を含む言語をさまざまな学問の方向から考えることができる

授業の概要

英語によるコミュニケーションは英語を母語を使うものとのコミュニケーションと限らず、現在においてはアカデミア、医療、ビジネス等の「共通語の英語」として使われています。国境を越えたコミュニケーションでも、たとえサブカルチャー内のコミュニケーションでも、広い意味での文化と文化の間のコミュニケーションをどう図るかも効果的な英語のよるコミュニケーションの大事な要素の一つです。その手助けとして、コミュニケーションの取り方の背景にある心理学、社会心理学、言語学、人類学などの知識と理解を深め、より効果的な英語コミュニケーションにつなげていきたいです。この科目ではこういった背景について英語の文章の解読から学び、ディスカッションからその理解を深め、学生自身の考えを作文で整理する流れになります。

授業計画

第１回：オリエンテーション、コース概要の説明

第２回：現代社会における異文化間コミュニケーション：世界でどこでどのように共通語として英語がしようされているかについて知る。

第３回：異文化間コミュニケーションのための英語： World Englishesと明瞭性について理解する。

第４回：人間のコミュニケーションの重要な特徴：コミュニケーション理論に基づいた英語コミュニケーションについて知り、自身の英語についての考えを文にまとめる。

第５回：「文化」という概念：文化人類学の基礎を知り、世界の中の日本文化についての考えを文にまとめる。

第６回：言語と思考：Sapir-Whorf仮説を基に文化と言語の深い関係について知り、その観点から日本語と英語の違いについての考えを文にまとめる。

第７回：コミュニケーション・スタイル：high contextとlow context文化の特徴について知り、その違いについてディスカションに繋げる。
第８回：人間の心理とコミュニケーション：コミュニケーションにおける「自立を保ちたい」と「承認してもらいたい」気持ちの兼ね合いについてしり、異文化コミュニケーションにおいてどのように影響するかを考え、その考えについてディスカションに繋げる。
第９回：文化を越えた発話行為:SATに基づくコミュニケーション論についてしり、speech actが言語をシフトしたときどのように変化するかを考え、その考えについてディスカションに繋げる。
第１０回：ステレオタイプと異文化間コミュニケーション：CLT理論に基づくステレオタイプの考え方を知り、ディスカッションして、考えを文書化する。
第１１回：文化的適応と異文化間コミュニケーション：聞き手に応じてコミュニケーションの工夫を考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
第１２回：高等教育におけるコミュニケーション：これまでの理論、自己分析を用いて様々な国の教育現場におけるコミュニケーションを考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
第１３回：留学と異文化適応:これまでの理論、自己分析を用いて留学先での生活とコミュニケーションを考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
第１４回：未来のための異文化能力：これまで学習した理論、行なった自己分析を用いてこれから教員として必要な英語コミュニケーション能力を考え、ディスカッションして、考えを文書化する。
第１５回：最終復習と振り返り

定期試験

テキスト

「Intercultural Communication for English Language Learners in Japan」（McConachy, T et al　Nan'Un-Do出版）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- (1) 発表、授業参加度　20%
  (2) 定期試験 50%
  (3) 宿題　30%

授業科目名： 英語アカデミックライティング 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： OSHIMA KAREN／MOXON JONATHAN PETER 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

（１）英語の小論文や卒業論文を作成することができるようになるための、基本的な知識と技能を修得し、応用できるようになる。

（２）論文構成の基礎として、アカデミックスキルズを確認し、アカデミックライティングの準備から完成までを理解し、英語論文着手ができるようになる。

（３）アカデミックライティングに適切な言い回しと表現を理解し、文書作成に応用できるようになる。

授業の概要

英語でアカデミックな文章を作成する際の、情報収集、情報整理、構成の方法、英文構成、パラグラフライティング、アウトライン、文章のまとめまでを演習形式で進める。また、口語的な表現や言い回しを超えたアカデミックな文章で使われる語彙や表現を学修します。

授業計画

第１回：オリエンテーション、コース概要の説明
第２回： 段落構造を考える
第３回： 段落構造を意識した実践
第４回： 記述式段落の特徴を考える。
第５回： 記述式段落の特徴を意識した実践
第６回： データ、事例に基づいた主張の展開を考える
第７回： データ、事例に基づいた主張の展開を意識した実践
第８回：課題の指導: Writing Assignment 1
第９回： 一貫性を考える。
第１０回： 一貫性を意識した実践
第１１回： エッセイの構造を考える
第１２回： プロセスライティング
第１３回： 因果関係を明確にするライティング
第１４回： 効果的に意見を述べる
第１５回：課題の指導：Writing Assignment 2

定期試験
テキスト 「Longman Academic Writing Series: 3 Paragraphs to Essays」（Oshima, Alice & Hogue, Ann. Pearson出版）
参考書・参考資料等 必要に応じ適宜配布する。
学生に対する評価 ■ Writing Assignment 1: 20% ■ Writing Assignment 2: 30% ■ オンライン学習: 20% ■ 授業参加度: 10%

授業科目名： 英会話 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： OSHIMA KAREN、島谷浩 担当形態： 複数

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

1)会話力を向上させ、語彙を増やす。2)言語の使用における文化の役割を認識する。3)英語を話すことに自信をつけ、他国の英語話者と交流できるようにする。

授業の概要

学生はペアワークやグループワークに参加し、日常の会話や議論でよく使われる慣用表現の語彙と知識を広げる。また、さまざまなトピックについて理由を添えて意見を述べる能力や、イントネーション・ジェスチャーを適切に使用してより明確なコミュニケーションを促進する能力も向上させる。

授業計画

第1回：イントロダクション
第2回：Unit 1 My interest
第3回：Unit 2 Descriptions
第4回：Unit 3 Rain or shine
第5回：Unit 4 Life at home
第6回：Unit 5 Health
第7回：単元の復習、中間試験の説明・練習
第8回：中間試験、試験内容の解説
第9回：Unit 6 What's on TV?
第10回：Unit 7 Shopping
第11回：Unit 8 Fun in the city
第12回：Unit 9 People
第13回：Unit 10 In a restaurant
第14回：対象ユニットすべての復習
第15回：期末試験の説明・練習
定期試験

テキスト　*Four Corners, Level 2.* Jack C. Richards, David Bohlke. Cambridge, 2019.
ISBN 97810092863

参考書・参考資料等　ハンドアウト
学生に対する評価　　授業への積極的な参加30%、中間試験30%、期末試験40%

授業科目名：英語オーラルコミュニケーションⅠ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：MOXON JONATHAN PETER 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

リーディング、リスニング、語彙、クリティカル・シンキングの分野において、アカデミックな英語の口頭表現力を強化すること。

学生は以下のことができるようになります：

(1) アカデミックな語彙を増やす。

(2) 関連するアカデミックなトピックに関するリスニング力を養う。

(3) アカデミックな言語を口頭で使う際の流暢さと自信を身につける。

(4) 英語での対人コミュニケーション能力をさらに向上させる。

授業の概要

アカデミックな場面やその他の状況における口頭コミュニケーション能力の向上に特に重点を置きながら、一般的なアカデミック・リテラシーとコミュニケーション能力の向上を目的とした実践的な英語の授業です。

学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うためのリーディングおよびリスニング練習、ペアや個人での口頭コミュニケーション活動、そしてクラス内プレゼンテーションが含まれます。.

授業計画

第１回：授業オリエンテーション

第２回：ユニット1A：変化をもたらす

第３回：ユニット1B：影響を与える

第４回：ユニット2A：身の回りのトレンド

第５回：ユニット2B：トレンドを見極める

第６回：ユニット3A：健康を大切にする

第７回：ユニット3B：アルツハイマー病への対応策

第８回：プレゼンテーション1

第９回：理解確認と解説

第１０回：ユニット4A：テクノロジーとデザイン

第１１回：ユニット4B：大規模なウェブサイトデザイン
第１２回：ユニット5A：地域発展のための取り組み
第１３回：ユニット5B：ベアフット・カレッジ
第１４回：プレゼンテーション2
第１５回：Consolidation & Final Test
総まとめと期末確認

テキスト
「Keynote 3」（Dummet, P. et al.　National Geographic Learning出版）

参考書・参考資料等
必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価
- 宿題：20%
- （目標（1)、(2)）
- 中間確認：20%
- （目標（1)、(2)）
- プレゼンテーション1&2：30%
- （目標（3)、(4)）
- 期末試験：30%
- （目標（1)、(2)）

授業科目名：英語オーラルコミュニケーションⅡ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：MOXON JONATHAN PETER 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

リーディング、リスニング、語彙、クリティカル・シンキングの分野において、アカデミックな英語の口頭表現力を強化すること。

学生は以下のことができるようになります：

(1) アカデミックな語彙を増やす。

(2) 関連するアカデミックなトピックに関するリスニング力を養う。

(3) アカデミックな言語を口頭で使う際の流暢さと自信を身につける。

(4) 英語での対人コミュニケーション能力をさらに向上させる。

授業の概要

「英語オーラル・コミュニケーション I」での学習を基礎とし、アカデミックな場面における口頭コミュニケーション能力の向上に特に重点を置きながら、アカデミック・リテラシーとコミュニケーション能力の全般的な向上を目指す実践的な英語の授業です。

学習方法には、教科書の使用、語彙力を養うためのリーディングおよびリスニング練習、流暢さを高めるためのクラス内プレゼンテーションやグループワークが含まれます。

授業計画

第１回：授業オリエンテーション

第２回：ユニット6A：良好なコミュニケーション

第３回：ユニット6B：デジタル時代のコミュニケーション

第４回：ユニット7A：アイデンティティ

第５回：ユニット7B：グローバルな移住

第６回：ユニット8A：日々の通勤

第７回：ユニット8B：交通の未来

第８回：プレゼンテーション1

第９回：理解確認と解説

第１０回：ユニット9A：言語の再生

第１１回：ユニット9B：言語の変化

第１２回：ユニット10A：感情を理解する 第１３回：ユニット10B：テクノロジーにおける感情 第１４回：プレゼンテーション2 第１５回：Consolidation & Final Test総まとめと最終確認
テキスト 「Keynote 3」（Dummet, P. et al.　National Geographic Learning出版）
参考書・参考資料等 必要に応じ適宜紹介する。
学生に対する評価 ▪　宿題：20% ▪　（目標（1)、(2)） ▪　中間確認：20% ▪　（目標（1)、(2)） ▪　プレゼンテーション1&2：30% ▪　（目標（3)、(4)） ▪　期末試験：30% ▪　（目標（1)、(2)）

授業科目名：英語アカデミックスピーキングⅠ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：１単位	担当教員名：MOXON JONATHAN PETER 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション

授業のテーマ及び到達目標

基礎的な専門内容を学術的に述べ、質疑応答に対応する力を育成する。

(1)基礎的なプレゼン英語を発信することができる。

(2)基礎的なプレゼン英語を理解することができる。

(3)簡単な内容をまとめプレゼンすることができる。

(4)簡単なプレゼンを聞き、その内容に対して質問ができる。

授業の概要

　アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、これらをするための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポスティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に教育学関連の内容のプレゼンで実践する。

授業計画

第１回：オリエンテーション、コース概要の説明

第２回：導入編　：伝えるべき情報とは？

第３回：導入編　：実践練習・フィードバック

第４回：良い印象を与える　：気を付けるべきこと

第５回：良い印象を与える　：実践練習・フィードバック

第６回：要点を伝える　：各種類のプレゼンを考える

第７回：要点を伝える　：プレゼンの構造とサインポスティング

第８回：視覚的に伝える情報を伝える　：資格情報の特徴と利用方法

第９回：視覚的に伝える情報を伝える　：グラフやデータを説明する

第１０回：視覚的に伝える情報を伝える　：スライド言語を口頭言語の工夫

第１１回：理解されるための工夫　：明瞭性を高める工夫ーイントネーション編

第１２回：理解されるための工夫　：明瞭性を高める工夫ーストレス編

第１３回：メッセージを締めくくる　：どの情報を伝えるか

第１４回：メッセージを締めくくる　：どの言語を利用して伝えるか

第１５回：質問への対応
テキスト 「English Presentations Today」（Pond, C Nan'Un-Do出版）
参考書・参考資料等 必要に応じ適宜紹介する。
学生に対する評価 ▪ 1 プレゼンテーション　40%　：到達目標の(1)(2)(3) 2 表現クイズ　30%　：到達目標の(1)(2) 3 定期試験（exam）　30%　:到達目標の(3)(4)

授業科目名：英語アカデミックスピーキングⅡ【独自科目(佐大)】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：１単位	担当教員名：MOXON JONATHAN PETER 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

様々な分野についての英語表現を学び、これらについての自分の考えをまとめ発表する

(1)基礎的なプレゼン英語を発信することができる。

(2)基礎的なプレゼン英語を理解することができる。

(3)簡単な内容をまとめ英語でプレゼンを作成することができる。

(4)簡単なプレゼンを聞き、その内容に対して質問ができる。

授業の概要

アカデミックなセッティングにおいて、論理的に順序よく、そして分かりやすく情報を伝達し、その内容について質疑応答などを通じて理解を深めること非常に大切である。この科目においては、アカデミックスピーキングIで学んだ基礎的な英語プレセンテーションスキルを発展させ、日本の現代社会に関連する「文化」、「食」、「社会」、「言語」などの様々な分野のプレゼンのための英語表現と共にプレゼンテーションスキルを育成した後、学んだことを実践できる機会を与える。授業展開として、導入、サインポースティング、チャンキングとイントネーション、重要な内容の強調、プレゼンのまとめ方、質疑応答の対応などに使える英語表現を提示、練習、最終的に内容のプレゼンで実践する。

授業計画

第１回：オリエンテーション、コース概要の説明

第２回：マンガのキャラクターの目から学ぶこと

第３回：日本の儀式と神々への供物

第４回：日本のアニメーション

第５回：大衆小説と変化する読書のかたち

第６回：和食のグローバル化

第７回：人間と動物の関係の発展

第８回：評価対象プレゼンテーション

第９回：日本における芸能界の変遷

第１０回：食におけるポップカルチャー

第１１回：猫と日本文化への強い影響

第１２回：言語と日本のメディア
第１３回：人権と日本文化
第１４回：カワイイ文化
第１５回：評価対象プレゼンテーション

テキスト
「Japanese Popular Culture in English - Discussions and Critical Thinking」（Sheridan, R et al.　Nan'Un-Do出版）

参考書・参考資料等
必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価
- 1 プレゼンテーション　50%　：到達目標の(1)(2)(3)
  2 表現クイズ　20%　：到達目標の(1)(2)
  3 定期試験（exam）　30%　：到達目標の(3)(4)

授業科目名： 異文化理解 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： OSHIMA KAREN 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・異文化理解

授業のテーマ及び到達目標

・異なる文化と自分自身の文化に対する理解と尊敬を育む。

・自分の文化で標準とされていることが、必ずしも他の文化でも標準とされているわけではないことを認識する。

・言語を学ぶときに文化の重要性を理解する。

・コミュニケーションは言葉だけでなく、身振り、姿勢、表情、沈黙などの非言語的手段を通じても行われることを認識する。

授業の概要

文化、言語的および非言語的コミュニケーション、価値観の多様性、認識の違いについて探求する。

授業計画

第１回：イントロダクション（文化とコミュニケーションの関係について）

第２回：トピック1　コミュニケーションとは何か？（文化がその決定要因になる仕組み）

第３回：異なる背景を持つ人々との交流による、多様性の体験的理解に役立つパラ言語について

第４回：トピック2　文化とは何か？（その文化の幅広い意味と獲得方法を探る）

第５回：文化的アイデンティティと国籍・民族・社会階級・性別等の要因が果たす役割（異文化交流による、多様性を体験的に理解することへのそれらの貢献度）

第６回：トピック3　非言語コミュニケーションについて

第７回：多様な文化を持つ人々との交流により体験的に理解できる非言語コミュニケーションの重要性と文化によるその解釈の違い

第８回：トピック1-3（コミュニケーションとは・文化とは・非言語コミュニケーション）の復習

第９回：トピック4　明確な異文化間コミュニケーションの重要性と実践

第１０回：異文化間コミュニケーションの崩壊事例を体験的に学ぶ

第１１回：トピック5　文化と価値観について

第１２回：　国別の価値観の違いがコミュニケーションスタイルに与える影響について（より良い国際関係を築くための文化交流の重要性を体験的に学ぶ）

第１３回：トピック6　文化とそれを通した認識の形成について

第１４回：国別の認識の違いが文化に与える影響について（世界文化の多様性を認識することの重要

性を体験的に学ぶ） 第１５回：トピック4-6（明確なコミュニケーションとは・文化と価値観・文化と認識）の復習 定期試験
テキスト　*Speaking of Intercultural Communication*. Peter Vincent. Nan'undo. ISBN 978-4-523-17804-8.
参考書・参考資料等　　ハンドアウト
学生に対する評価　　授業への積極的な参加30%、中間試験35%、期末試験35%

授業科目名： 英米文化事情Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：木原　誠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

授業の到達目標及びテーマ
文化の主体（記憶）は、文化をしるしづける境界（周縁）に宿る。このことは、「しるし付け」のことをポリネシア語で「タブー」と呼ぶことからも推し量ることができる。タブーこそ各トーテムを差異化すると同時に、人間の各内面の個性を形づくるものだからである。文化を差異化するタブー＝境界がどこに、そしてどのように引かれているかを発見する方法の習得、それが学習の到達目標である。テーマは文化のしるしとしての境界線である。

授業の概要
西洋には、「ヨーロッパ」という地中海の波の周期を意味する美しい名前のほかに、秘められたもう一つの名前がある―「オクシデント（日の没する地・没落の地）」。ヨーロッパの精神は、この呪われた名（表象）を12世紀後半、極西アイルランドの北西ドニゴール州・ダーヴ湖に浮かぶある小島（悪霊島）の洞窟の中に密かに封印した。以後、この島は生前の罪を贖う煉獄巡礼地とされ、今日に至っている。本授業では、ヨーロッパ文化史を周縁（極西）の地アイルランドから眺め直すことで、文化のもう一つの側面、闇の相貌に迫ってみたい。この試みは、いわば＜知の冒険＞にほかならないが、小島の穴の奥には知の秘宝が隠されていることを想えば、価値のある行為である。ダンテ、シェイクスピア、ラブレーもこの冒険に挑み、宝を密かに持ち帰った者たちなのである。彼らに倣い、洞窟から宝を持ち帰り、身に付けること、それが本授業の目的である。

授業計画
第１回：オリエンテーション
第２回：妖精の誕生―アイルランドと侵略の歴史
第３回：世の初めから隠されていること―タブーに宿るキリスト教の精神
第４回：世の初めから隠されていること―タブーに宿るカトリックの精神
第５回：煉獄の誕生
第６回：煉獄と幽霊の誕生
第７回：煉獄と中世都市伝説
第８回：『ハムレット』と都市伝説―「煉獄は存在するか否か、それが問題である」
第９回：煉獄を巡る宗教戦争―アイルランド/北アイルランド紛争の闇の奥へ
第10回：W. B. イェイツと煉獄-アイルランドとタタラ場
第11回：W. B. イェイツと煉獄-内なる炎
第12回：めぐり逢う幽霊たち―モダニズムと幽霊
第13回：めぐり逢う幽霊たち―夢幻能の中の幽霊
第14回：オリエントの地獄巡礼―鎌倉の幽霊伝説
第15回：総括
定期試験

テキスト
未定　ただし、毎授業でプリント配布する予定

参考書・参考資料等

参考書『周縁学』木原誠共編著　資料は毎回の授業で配布する。
学生に対する評価 定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解演習Ⅰ【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：木原誠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

授業のテーマ及び到達目標

授業の到達目標はヨーロッパ文化の背後にある文化・精神史・歴史的背景、その基礎的知識を身につけること。テーマはヨーロッパ文化と歩みとその行方。

授業の概要

学生に馴染み深い現代の英米の音楽の歌詞を精読しながら、その背後にある英米を中心としたヨーロッパ文化の特質を学んでいく。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：“Puff the Magic Dragon”の背景にある英米文化の特質
第３回：“I just called to say　I love You ”　の背景にある英米文化の特質
第４回：“Dancing Queen”の背景にある北欧文化の特質
第５回：“Last Christmas”　の背景にある英文化の特質
第６回：“Englishman in New York”の背後にある英米文化の特質
第７回：“Hey Jude”の背後にある英米文化の特質
第８回：“Bohemian Rhapsody”　の背後にある英米文化の特質
第９回：“Let it Be”の背後にある英米文化の特質
第１０回：“Alone Again”の背後にあるアイルランド文化の特質
第１１回：“Danny Boy”の背後にある英米文化の特質
第１２回：“Blowing in the Wind”の背後にある英米文化の特質
第１３回：“Take me Home Country Road”　の背後にある英米文化の特質
第１４回：“Part Time Lover”の背後にある英米文化の特質
第１５回：総括
定期試験

テキスト

プリント

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解論I【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：木原　誠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　外国語（英語))		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

授業の到達目標及びテーマ
授業の到達目標は異文化理解の基礎的な理論を習得すること。テーマは他者（他文化）に映る自己（自文化）を認識する方法、合わせ鏡の方法である。なお、この合わせ鏡の方法が異文化理解の基礎的な理論ということになる。

授業の概要

魚にとってもっとも理解できないもの、おそらくそれは水であろう。同様に、自己（自文化）にとってもっとも理解できないもの、それは他者（他文化）であるまえに、自己自身であろう。自己の瞳にけっして映りえないものは自己の瞳にほかならないからである。本授業では、異文化理解の根本命題を自文化の認識―自文化を深く理解するためにこそ他文化を学ぶ―におき、その方法（基礎理論）を具体的に提示していく。その方法とは異文化という逆説の合わせ鏡に自文化を映すというものである。合わせ鏡として想定しているものは、「オリエント」＝日本文化の対極に位置する「オクシデント」＝ヨーロッパ文化である。自文化を映す鏡は対極（逆説）であればあるほどよいからである。このことは箸の文化を認識することから考えれば、理解がいくだろう。中国、韓国は箸の文化をもっている。したがって、それらの文化の鏡によって、箸の形態の違いやその使い方の違いはそこに映る。ただし、日本が箸の文化であることは、箸を使わないヨーロッパ文化の鏡のなかにはじめて映し出されるのである。そういうわけで、本授業では、ヨーロッパのなかの極西アイルランド文化を鏡として主に用いる。極東の日本にとって対極の地理的位相＝表象の対極に位置するからである。・

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：文化（“culture”）の語源と意味の変容
第３回：異文化理解論の方法（基礎理論）としての合わせ鏡
第４回：「オリエント」に映る「オクシデント」＝ヨーロッパ
第５回：「オクシデント」のなかの「オクシデント」＝アイルランド
第６回：アイルランド文化という鏡に映る日本文化
第７回：日本文化という鏡に映るアイルランド文化
第８回：アイルランドと周縁的思考
第９回：周縁、アイルランドに宿るヨーロッパの主体
第10回：生の逆説の鏡としての死

第11回：死の国＝煉獄のアイルランド（アイルランドの死生観）

第12回：アイルランドの妖精V日本の妖怪

第13回：もうひとつのアイルランドの諸相=テロリズム

第14回：南北の境界線に宿る文化の主体

第15回：総括

定期試験

テキスト
『周縁学―九州／ヨーロッパの近代を掘る』木原誠共編著　昭和堂

参考書・参考資料等
参考書『歴史と虚構のなかの＜ヨーロッパ＞ － 国際文化学のドラマツルギー － 』木原誠共編著　資料は毎回の授業で配布する。

学生に対する評価

定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 英米文化事情II【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 木原　誠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

授業の到達目標及びテーマ
授業の到達目標は英語圏の文学作品を通して、その背後にある文化・精神史・歴史的背景、その深い知識を身につけること。テーマはヨーロッパ文化の深層。

授業の概要
「英米文化事情」とは広範にすぎる。そのため、本授業ではヨーロッパ文化の古層に横たわるケルト/アイルランド文化に絞って講義を行う。テーマはヨーロッパ文化固有の死生観である煉獄の概念である。とくに、煉獄の中世都市伝説が誕生した地、アイルランド・ドニゴール・ダーグ湖の小島にある「聖パトリックの煉獄の穴」は注目点となるだろう。この煉獄の穴が英文学に与えた大いなる影響をW. B.イェイツのいくつかの詩、戯曲、シェイマス・ヒーニーのいくつかの詩とシェイクスピア作『ハムレット』を中心に精読していくことになるだろう。

授業計画
第１回：オリエンテーション
第２回：『ハムレット』に表れる死生観について概説
第３回： 煉獄のハムレット（『ハムレット』読解1第一幕）
第４回：「煉獄は存在するのか否か、それが問題である」（『ハムレット』読解2第二幕）
第５回：「幽霊は存在するのか否か、それが問題である」（『ハムレット』読解3第三幕）
第６回：「供犠は存在するのか否か、それが問題である」（『ハムレット』読解4第四幕）
第７回：煉獄のイェイツ1（「イニシフリー湖島」を読む）
第８回：煉獄のイェイツ2（「ビザンティウム」を読む）
第９回：煉獄のイェイツ3（「彫像」を読む）
第10回：煉獄のイェイツ4（「揺れ動く」を読む）
第11回：煉獄のイェイツ5（『鷹の井戸』を読む）
第12回：煉獄のイェイツ6（『星から来た一角獣』を読む）
第13回：煉獄のヒーニー1（「掘る」を読む）
第14回：煉獄のヒーニー2（「トゥームブリッジ」を読む）
第15回：総括

定期試験

テキスト
Hamlet, Cambridge University Press

参考書・参考資料等
参考書『周縁学』木原誠共編著　資料は毎回の授業で配布する。

学生に対する評価
定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解演習II【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 木原　誠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

授業の到達目標及びテーマ

　授業の到達目標は異文化の背後にある文化・精神史・歴史的背景、その基礎的知識を身につけること。テーマはヨーロッパの周縁としてのアイルランド文化とその行方。

授業の概要

　通常、アイルランド文化は「イギリス」内部の周縁とみなされることが多い。だが、アイルランドはイギリスとは異なる民族（ケルト）、言語（ゲール語）、精神性を有しており、そこから当然のことながら、イギリスとは全く異なる固有の文化・文学を生み出してきた。本授業では、イギリス文化との比較をとおし、このことを確認していくことで、文化のもつ固有性と普遍性について学んでいく。テキストは、主にW. B. イェイツの作品（詩・戯曲）を用いて精読を試みる。

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：世界文化としてのイェイツ詩−比較文学の視点から

第３回：世界文化としてのイェイツ詩−間文化学の視点から

第４回： 世界文化としてのイェイツ戯曲−比較文学の視点から1

第５回： 世界文化としてのイェイツ戯曲−間文化学の視点から2

第６回： ヨーロッパ文化としてのイェイツ詩

第７回： ヨーロッパ文化としてのイェイツ戯曲

第８回： イギリス文化としてのイェイツ詩

第９回： イギリス文化としてのイェイツ戯曲

第10回： アイルランド文化としてのイェイツ詩−前期の詩を読む

第11回： アイルランド文化としてのイェイツ詩−後期の詩を読む

第12回： アイルランド文化としてのイェイツの前期戯曲

第13回： アイルランド文化としてのイェイツの後期戯曲

第14回： アイルランドの詩魂とイェイツの作品

第15回： 総括

定期試験

テキスト

W. B. Yeats, Collected Poems, Macmillan Press

参考書・参考資料等

参考書『周縁学』木原誠共編著　資料は毎回の授業で配布する。
学生に対する評価 定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名： 異文化理解論II【独自科目（佐大)】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 木原　誠 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

授業の到達目標及びテーマ：授業の到達目標は、文化における虚構の作用、その基礎的メカニズムを理解すること。テーマは文化の周縁としてのアジールである。

授業の概要　国家とはひとつの概念であって、本質的に実在しているわけではなく、ひとつの表象、すなわち虚構である。文化もまたそうである。だが、一度、虚構から発生した文化はしだいに実体化していく。本授業では、表象がどのようにして発生し、それが現実の歴史とていったかの実例を日本＝オリエントからみて極西に位置するアイルランド＝オクシデントの国家成立までのプロセスとその後の歴史・文化をみていく。そのうえで、比較文化学の立場から、今度は逆にオクシデントの対極をオリエント日本の東の関所、鎌倉幕府成立のプロセスを文化・文学＝虚構の視点からみていく。そのことで、虚構の力が現在にまでおよんでいることが分かるだろう。その際の注目点は、アジールとしての鎌倉・東慶寺である。

授業計画

第１回：歴史（事実）と文学（虚構）の関係性
第２回：表象とは何か。
第３回：表象としてのオリエントとオクシデント
第４回：アイルランド独立蜂起の背後にある虚構作用
第５回：パトリック・ピアスの死の意味について
第６回：　虚構の戦い―イェイツとピアス
第７回：オリエントのなかのオリエント、鎌倉
第８回：アジールとしての鎌倉
第９回：アジールとしての東慶寺
第10回：東慶寺が近代に与えた影響
第11回：東慶寺と夏目漱石
第12回：もうひとつの鎌倉、切通しを読む
第13回：鎌倉文化と桑田佳祐
第14回：オクシデント/アイルランドとオリエント/鎌倉
第15回：総括

定期試験
テキスト『ヨーロッパ文化と＜日本>』田村栄子編著、昭和堂
参考書・参考資料等　『周縁学―九州／ヨーロッパの近代を掘る』木原誠共編著　昭和堂
学生に対する評価 　定期テストと発表点との総合によって評価する。

授業科目名：中等英語科指導法Ⅰ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：島谷　浩／林（内田）裕子 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

1. 初等・中等・高等英語教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。
2. 単元構成・授業実践などの演習課題に応用できる指導実践の諸問題についての基礎知識を修得することができる。

授業の概要

各回のテーマについてテキストを中心とした文献を読み、日本の小・中・高等学校における外国語教育についての理解・考察を深めていく。また、言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては演習形式で検討していくことにより、授業指導の基礎を修得する。

授業計画

第１回：オリエンテーション、学習指導要領（小・中・高等学校）
第２回：英語の国際化、異文化理解の指導
第３回：学習者要因、習熟度への対応
第４回：第二言語習得理論から見た英語教育
第５回：文字（発音と綴り字）の指導
第６回：語彙・表現指導
第７回：教材研究（教科書，指導書の活用）、学習指導案作成
第８回：聞くことの指導（オーラルイントロダクション、デジタル教材の活用）
第９回：話すこと（発表）の指導
第１０回：話すこと（やりとり）の指導
第１１回：読むことの指導I （教材導入、内容理解、発問計画）
第１２回：読むことの指導II （音読、発音指導）
第１３回：書くことの指導 （語順、構成、修正的フィーバック）
第１４回：技能統合型の言語活動とその指導、模擬授業Ⅰ(読むことの指導)
第１５回：模擬授業II （書くことの指導）、 まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019） 「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版 」（中村典生 他著　東京書籍）(2022)
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年 文部科学省）
学生に対する評価 ▪ 期末試験（50%） ▪ 授業課題の達成度（50%）

授業科目名： 中等英語科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡崎　伸一／林（内田）裕子 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．小・中・高等学校における外国語（英語）教育の指導実践や学習評価などの諸問題について複眼的に理解・考察を深めることができる。

２．単元の指導計画作成・実践を通して指導技術を高めると同時に、指導案作成や模擬授業などの演習を通して、指導実践スキルの基礎を身につけることができる。

授業の概要

英語の国際化、単元設計、コミュニケーション能力，４技能の統合、ICTの利活用、Team Teachingなどのテーマに関する講義と演習課題に取組み、英語の学習・指導に関する知識の向上と授業実践及び学習評価についての基礎の修得を目指す。

授業計画

第１回：オリエンテーション、学習指導要領（小・中・高等学校）

第２回：第二言語習得、単元設計、学習指導案の作成

第３回：言語能力の測定と評価

第４回：ICTの利活用、教材研究（指導技術の変遷、ICT利活用例の概観）

第５回：ICTの利活用、教材研究（模擬授業）

第６回：文法指導

第７回：聞くことを中心とする指導（オーラルイントロダクション、デジタル教材の活用）

第８回：話すことを中心とする指導（英語によるインタラクション、即興性のあるやり取り）

第９回：読むことを中心とする指導（教科書本文の内容理解、発問計画）

第１０回：書くことを中心とする指導（発表・やり取りのためのライティングについて）

第１１回：技能統合型の言語活動（アプトプット活動、パフォーマンス課題）

第１２回：語彙指導

第１３回：Team Teaching

第１４回：模擬授業Ⅰ（Team Teaching 中学校編）

第１５回：模擬授業Ⅱ（Team Teaching 高校編）、まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）

「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版」（中村典生 他著　東京書籍）（2022）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）

学生に対する評価

- 期末試験（模擬授業や発表などのパフォーマンスを含む）（50％）
- 授業課題の達成度（50％）

授業科目名： 中等英語科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 岡崎　伸一／林（内田）裕子
			担当形態： クラス分け・単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１．初等・中等・高等英語教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。

２．指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の指導計画作成・実践を含む演習を通して指導技術を高めることができる。

授業の概要

各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における英語指導についての理解・考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討していくことにより、英語指導技術の定着及び指導力の更なる向上を達成させる。

授業計画

第１回： オリエンテーション、学習指導要領 （中・高等学校）

第２回：第二言語習得、単元設計、指導案作成

第３回：言語能力の測定と評価

第４回：教材研究・ICT等の利活用（言語活動の実践、教材開発）

第５回：教科用図書、語彙・表現指導（語彙知識の多面性、語彙の導入、理解・表現語彙の習得）

第６回：教科用図書、語彙・表現指導語彙指導（実践演習）

第７回：文法を中心とした指導（文法の導入、語順指導、言語活動）

第８回：文法を中心とした指導（模擬授業）

第９回：リーディング（音読・読解）を中心とした指導（音声指導、発問計画）

第１０回：リーディング（音読・読解）を中心とした指導（模擬授業）

第１１回：ライティングを中心とした指導 （プロセスライティング指導、フィードバックの提供）

第１２回：ライティングを中心とした指導（模擬授業）

第１３回：技能統合型の言語活動、タスク型・パフォーマンス課題（ディベート、ディスカッションの指導）

第１４回：技能統合型の言語活動、タスク型・パフォーマンス課題（ディベート、ディスカッションの実践）

第１５回：技能統合型の言語活動、タスク型・パフォーマンス課題（模擬授業、まとめ）

定期試験
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019） 「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版 」（中村典生 他著　東京書籍）（2022）
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省）
学生に対する評価 ▪　定期試験（模擬授業や発表などのパフォーマンスを含む）（50％） ▪　授業課題の達成度（50％）

授業科目名：中等英語科指導法Ⅳ【シラバス共通科目（熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 島谷　浩／林（内田）裕子 担当形態： クラス分け・単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校　英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

1. 初等・中等・高等英語教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論や論文批評を行うことができる。
2. 単元の指導計画作成・実践を通して指導技術の更なる向上を図ると同時に、指導法の効果を検証するための外国語教育研究の基礎的知識とスキルを身につけることができる。

授業の概要

各回のテーマについて、テキストを中心とした文献を読み、日本における初等・中等・高等教育における外国語教育について複眼的な視点から考察を深めていく。また、指導実践の諸問題を演習形式で検討し、指導力及び外国語教育研究の知識・スキルの更なる向上を達成する。

授業計画

第１回：オリエンテーション、　学習指導要領　（中・高等学校）
第２回：　指導案の作成、単元設計、評価方法・内容の設定
第３回：　第二言語習得理論
第４回：　指導を受けた第二言語習得（指導法と効果の検証について（ディスカッション））
第５回：　指導を受けた第二言語習得（指導法と効果の検証について（発表））
第６回：　領域統合型の言語活動（リスニング・スピーキングを中心とする指導方法と実践例の概観）
第７回：　領域統合型の言語活動（模擬授業）
第８回：領域統合型の言語活動（読解活動における発問・インタラクション）
第９回：領域統合型の言語活動（ライティング）
第１０回：　領域統合型の言語活動（プロセスライティング、修正的フィードバックに関する先行研究・実践例の概観）
第１１回：　領域統合型の言語活動（模擬授業）
第１２回：　小・中・高連携の外国語教育（外国語教育の動向、小中高連携の現状と課題）
第１３回：　小・中・高連携の外国語教育（単元設計、評価のあり方）
第１４回：　小・中・高連携の外国語教育（模擬授業 中学校入門期編）
第１５回：　小・中・高連携の外国語教育（模擬授業 高校入門期編、まとめ）
定期試験

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）」東山書房（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語編」開隆堂出版（2018）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編 英語偏」教育図書（2019）

「コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト 改訂版

」（中村典生 他著　東京書籍）（2022）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年 文部科学省）

学生に対する評価

- 期末試験（模擬授業や発表などのパフォーマンスを含む）（50%）
- 授業課題の達成度（50%）

授業科目名：英語科教育課題研究 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：岡﨑　伸一 担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語）
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

英語科教育に関する課題を発見し、論理的思考に基づいて解決策を提案する能力を養う。①課題設定から分析・発表までの一連のプロセスの習得、②調査手法の適切な選択・活用、③データに基づいた提案力、④効果的なプレゼンテーション能力の獲得を目標とする。

授業の概要

英語教育学に関わる討議・演習を通して、学生が自ら設定した課題について体系的に取り組む。前半で課題設定・調査設計の基礎を学び、中盤でデータ収集・分析を実施、後半で成果発表を行う。講義・演習・発表を組み合わせ、2回の中間発表を通じて継続的な指導を行う。

授業計画

第1回：オリエンテーション・課題解決とは何か、問題解決手法の基礎
第2回：課題テーマの設定方法・関連資料の調査と情報検索
第3回：企画書の作成・目標設定と仮説の立案
第4回：定量的調査手法・アンケート設計とサンプリング
第5回：定性的調査手法・インタビューと観察による情報収集
第6回：データ収集方法・調査における倫理的配慮
第7回：中間発表①・企画内容の発表と相互評価
第8回：統計解析の基礎・データ分析ツールの使用方法
第9回：質的データの分析・内容分析とコーディング
第10回：調査結果の整理・図表作成と可視化技法
第11回：報告書執筆の基本・構成と引用ルール
第12回：中間発表②・取り組み進捗状況の報告と指導
第13回：成果発表準備・プレゼンテーション技法
第14回：最終発表・課題解決成果発表と質疑応答
第15回：総括・取り組みの振り返りと今後の展望

テキスト

廣森友人編著.2020.『英語教育論文執筆ガイドブックージャーナル掲載に向けたコツとヒント』.大修館書店

参考書・参考資料等

浦野研他. 2016.『はじめての英語教育研究 ―― 押さえておきたいコツとポイント』研究社
学生に対する評価 ▪ 毎回のディスカッション（40%） ▪ 文献レポート（30%） ▪ 課題計画書（30%）

授業科目名： 書道史 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 樋口　将一
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道史

授業のテーマ及び到達目標

中国・日本における書文化史の流れを把握し、書体の変遷や書風の展開について理解する。また、手書き文字文化の現代的意義について自らの考えを述べることができる。

授業の概要

「書の歴史」について、代表的な書体の変遷と、主要な書人をとりあげてその書風や、各時代の書の捉え方、展開について論じる。さらに、我々が現在使用している文字の成り立ちや芸術性、その指導の重要性についても考える。

授業計画

第１回：書道史について

第２回：甲骨文の発見と漢字の字源研究について

甲骨文字の内容やその特徴についてみていく。また、甲骨文字以前の文字史料についても触れる。

第３回：金文について

青銅器（盥盤）の発掘報告から青銅器がどのように保管され、発見されたのかを考える。また、殷から西周、春秋戦国期の金文の特徴をみていく

第４回：篆書（石鼓文、泰山刻石など）の石刻文字について

石鼓文、泰山刻石の諸拓本について検討を加える。

第５回：木簡竹簡、帛書にみる肉筆書について

金文、刻石とは異なる中国古代における肉筆資料と書体の変遷について考える。

第６回：隷書（古隷、八分、草隷）について

磨崖書、漢碑の隷書について、肉筆資料との比較しながらその美について考える。また、書体の変遷についても検討する。

第７回：王羲之の登場、草書・行書の美を探る

王羲之とそれ以前の書から、王羲之登場の意義を考える。

第８回：楷書の完成：唐代の楷書の書風について

唐代楷書の作品とその変遷についてみていく。さらに、その背景について検討する。

第９回：楷書の古典：南北朝の楷書、石碑と墓誌について

南北朝楷書の石碑と墓誌をみて、その違いについて考える。

第１０回：宋代における書風の展開
宋の書風の展開について、三大家を中心にみていく。
第１１回：元から明代の書と、明末清初における長条幅の流行
元、明と明末清初の書の違いについて考える。
第１２回：清代碑学派の登場とその書について
清代碑学派の書論と代表的作品についてみていく。
第１３回：三筆の書、三蹟と仮名の美
日本の書の歴史について、三筆、三跡から仮名の書についてみていく。
第１４回：篆刻の歴史、文房四宝について
古璽から漢印、清から近代の印についてみていく。
第１５回：現代の書とその源流
現代の書の源流について検討し、今後の書のあり方について考える。
定期試験：授業ごとに小レポートを提出すること。最終課題として、書の変遷、展開をテーマにレポートを作成する。

テキスト
プリントを配布する。授業はスライドを用いて行い、スライドはオンラインで事前に閲覧できるようにする。

参考書・参考資料等
西林昭一『中国書道文化辞典』（柳原出版）、同『書の文化史』、『中田勇次郎著作集』、『西川寧著作集』（ともに二玄社）

学生に対する評価
授業内での取り組み（20%）と小レポート(20%)、提出課題（20%）、最終課題（40%）で行う。

授業科目名： 書論・鑑賞【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 樋口　将一
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　書道 ）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「書論、鑑賞」

授業のテーマ及び到達目標

書論に関する基礎事項が説明でき、代表的な書論の講読を通して、自らの考えを述べることができる。書作品の鑑賞の歴史と古人の品評、論題のあとをたずね、自らの鑑賞につなげることができる。なお、取りあげる書論や鑑賞作品については、基本的には高等学校芸術科書道教科書に掲載される範囲とするが、新出土の資料や近年発表の論文、従前とは異なった書道観による書作品もとりあげる。

授業の概要

歴代書論の理解と、制作における理論の把握についての重要性は、学習指導要領にも示されており、それらの素養を身につける授業である。代表的な書論の講読力を身につけるとともに、代表書跡に付せられた題跋等の講読を通じた書跡理解力や鑑賞力も養成する科目である。また、鑑賞については、書跡の歴史的・技法的深化を踏まえ、直観力を身につけることに繋げていく。

＊ 高等学校芸術科書道 学習指導要領内容B　鑑賞

・書の美の多様性と作品の特徴、書論による書の理解と鑑賞の深化をはかる。

・日本及び中国の書の伝統と諸文化との関連をはかり、書文化の継承と創造への関心を高める。

授業計画

第１回：はじめに、書の鑑賞

「書論・鑑賞」の授業の説明。書の鑑賞についての概論

第２回：文房四宝：鑑賞と体験

文房四宝のついての学習と鑑賞。実物の鑑賞と体験を通して、文房四宝についての理解する。

第３回：文房四宝（Ⅱ）、拓本

文房四宝のついての学習と鑑賞（Ⅱ）と拓本について学習。拓本の鑑賞と実践を行い、拓本について理解する。

第４回：王羲之と蘭亭序　双鉤填墨について、喪乱帖ほか

王羲之の代表作・蘭亭序を鑑賞し、その複製方法と言われる双鉤填墨について学習、実践する。書道の古典がどのように伝来したのか理解する。

第５回：王羲之と蘭亭序Ⅱ　李柏尺牘ほか
王羲之に対する評価や同時代の作品について学習し、王羲之が「書聖」と呼ばれる理由を検証する。
第６回：顔真卿と祭姪文稿
顔真卿とその代表作・祭姪文稿を鑑賞し、その人と書について学習する。また顔真卿に対する評価から書と人の関係性を学ぶ。
第７回：宋の三大家：蘇軾、黄庭堅、米芾
蘇軾、黄庭堅、米芾の書と書論を鑑賞し、書のあり方の変化を学習する。
第８回：唐代の楷書①　欧陽詢と虞世南、書風の比較
第９回：唐代の楷書②　褚遂良と顔真卿
初唐の三大家と顔真卿に対する書論を鑑賞し、歴代書論の品評について学習する。課題として、歴代書論の品評法を参考に、実際に初唐の三大家の品評を行う。
第１０回：北魏の楷書と碑学
碑学派の書論の展開と、その対象となった北魏の楷書を鑑賞する。
第１１回：篆書、隷書の古典と清朝名家の書
篆書、隷書の古典を鑑賞し、呉昌碩の臨書と比較する。
第１２回：草書の古典：非草書、十七帖
第１３回：草書の古典：書譜、自叙帖
草書の古典を鑑賞し、その内容（書論）についても精読する。
第１４回：日本の書：三筆と三跡、仮名
空海と最澄の手紙を読み、二人の交流、人となり、作品を鑑賞する。
第１５回：現代の書表現：少字数書、漢字仮名交じりの書
現代の書を鑑賞し、実際に現代書の制作方法に基づいて実践する。
定期試験：授業ごとに小レポートを提出すること。最終課題として、書の鑑賞ガイドを作成し、公開する。

テキスト
プリントを配布する。授業はスライドを用いて行い、スライドはオンラインで事前に閲覧できるようにする。

参考書・参考資料等
『中国書論大系』、『中国法書ガイド』（ともに二玄社）

学生に対する評価
授業内での取り組み（20%）と小レポート(20%)、提出課題（20%）、最終課題（40%）で行う。

授業科目名： 書道科指導法Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤木　香江
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　書道）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

高等学校学習指導要領書道の目標と内容を理解し、学習指導案の作成を通して、単元構成や模擬授業ができるようにする。

授業の概要

書道科年間指導計画の作成や、漢字の書の「楷書と行書」の教材を使用し、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）授業実践の研究に取り組ませる。
この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション　【高等学校書道教員の資質と能力について考える】
第２回：書道教育の理論と実践【書道の授業について考える】
第３回：学習指導要領の解説　【現代の書道教育について考える①】
第４回：学習指導要領の解説　【現代の書道教育について考える②】
第５回：学習指導要領の解説　【現代の書道教育について考える③】
第６回：学習指導案の作成（書道Ⅰ「漢字の書」楷書or行書）【年間指導計画を作成する】
第７回：学習指導案の作成（書道Ⅰ「漢字の書」楷書or行書）【年間指導計画を作成し、発表する】
第８回：学習指導案の作成（書道Ⅰ「漢字の書」楷書or行書）【学習指導案を作成する】
第９回：板書の書き方　　【板書計画の立て方について】
第１０回：学習指導案の作成（書道Ⅰ「漢字の書」楷書or行書）
第１１回：学習指導案の作成（書道Ⅰ「漢字の書」楷書or行書）
第１２回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕　模擬授業①および合評会
第１３回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕　模擬授業②および合評会
第１４回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕　模擬授業③および合評会
第１５回：模擬授業の実践と研究〔情報機器及び教材の活用を含む〕　模擬授業④および合評会
　　書道科教育法Ⅰの総括
定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019）

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）
参考書・参考資料等　　書の古典と理論　改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価　年間指導計画の作成（５％）、指導案・教材研究の内容（２０％）、 模擬授業（１０％）、授業記録・レポート等（３１％）、 意見交換・合評会（３４％） ：学習指導案の作成と模擬授業の状況を評価の基準とする

授業科目名： 書道科指導法Ⅱ 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 藤木　香江
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目 （高等学校　書道）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

高等学校学習指導要領書道の目標と内容を理解し、学習指導案の作成を通して、単元構成や模擬授業ができるようにする。

授業の概要

「仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻・刻字」の教材を使用して、学習指導案の作り方を知り、教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）、授業実践法研究に取り組ませる。この授業は高校の実務経験を有している教員が書道の実践的な教育を行う科目である。

授業計画

第１回：オリエンテーション　【書道科教育法Ⅱの概要】
第２回：学習指導案の作成法と学習内容　「仮名の書」の学習内容、仮名の書の鑑賞と演習
第３回：学習指導案の作成法と学習内容　仮名の書の授業展開について
第４回：学習指導案の作成法と学習内容　「漢字仮名交じりの書」の学習内容、
漢字仮名交じりの書の鑑賞と演習
第５回：学習指導案の作成法と学習内容　「漢字仮名交じりの書」の学習内容
漢字仮名交じりの書の授業展開について
第６回：学習指導案の作成法と学習内容　「篆刻・刻字の書」の学習内容、篆刻・刻字の書の鑑賞と演習、篆刻・刻字の書の授業展開について
第７回：教材による作品制作　作品制作（仮名・漢仮名・篆刻より選択）
第８回：教材による作品制作　作品制作（仮名・漢仮名・篆刻より選択）
第９回：教材による作品制作　作品研究発表
第１０回：教材による学習指導案作成　演習：指導案・教材の作成（添削）
第１１回：教材による学習指導案作成　演習：指導案・教材の作成（添削）
第１２回：教材による学習指導案作成　演習：指導案・教材の作成（添削）
第１３回：模擬授業の実践と研究（情報通信技術の活用を含む。）
模擬授業①および合評会
第１４回：模擬授業の実践と研究（情報通信技術の活用を含む。）
模擬授業②および合評会

第１５回：模擬授業の実践と研究（情報通信技術の活用を含む。） 模擬授業③および合評会 書写書道教育の課題と今後の取り組み 定期試験は実施しない
テキスト 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」東山書房（2019） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽偏 美術編」教育図書（2019）
参考書・参考資料等　　書の古典と理論　改訂版、授業中に適宜資料を配布する
学生に対する評価　作品研究（１０％）、指導案・教材研究の内容（２０％）、模擬授業（１０％）、 授業記録・レポート等（３０％）、意見交換・合評会（３０％） ：学習指導案の作成と模擬授業の状況を評価の基準とする

授業科目名： 職業指導 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：大塚　芳生、 田口　浩継 担当形態：オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・職業指導

授業のテーマ及び到達目標

これまで日本において行われてきた職業指導やその理論について学び，生徒が自らの進路を適切に選択し，自己実現を図るために，教師がなすべき指導・助言の在り方や指導法を身につける．高等学校における職業指導（進路指導）を支える基礎知識や役割の理解，及びキャリア教育の意義を踏まえ，高等学校の工業教育における職業教育やキャリア教育の現状と課題について考察することで，教育現場における実践的な態度の育成に向けて取り組むことを狙いとする。また，現代の生徒が抱えている問題や学校環境・家庭環境を深く分析し，その問題点を多面的にとらえて，これからの進路指導（職業指導）の課題と望ましいあり方について深く考える．

授業の概要

諸外国との比較を交えながら，日本の社会，経済，教育制度，産業構造の変化および学校が抱えている課題をしっかり捉え，持続可能な開発のための教育として，高等学校における工業を学ぶ生徒への職業指導（進路指導、キャリア教育含む）のあり方や自己の適性をふまえた的確な職業選択能力の養成手法について考えを深めていく．

授業計画

第１回：職業指導のガイダンス（担当：田口　浩継）
第２回：職業指導の歴史（担当：田口　浩継）
第３回：人間の発達と職業（担当：田口　浩継）
第４回：職業指導における個別的生徒理解（担当：田口　浩継）
第５回：職業選択のための自己分析の目的・方法（担当：田口　浩継）
第６回：職業指導の組織と運営（担当：田口　浩継）
第７回：学校と家庭・地域・関係機関との連携（担当：大塚　芳生）
第８回：職業観・勤労観の育成（担当：大塚　芳生）
第９回：カウンセリング（面接）の理論（担当：大塚　芳生）
第10回：カウンセリング（面接）の方法（担当：大塚　芳生）
第11回：職業指導の現状と課題⑴貧困、ワーキングプア、フリーター（担当：大塚　芳生）
第12回：職業指導の現状と課題⑵不登校、ひきこもり、ニート（担当：大塚　芳生）
第13回：職業指導の現状と課題⑶精神疾患、発達障害、障がい者の働き方（担当：大塚　芳生）

第14回：進路指導における生徒・保護者との関わり（担当：大塚　芳生） 第15回：学習のまとめ（これからの職業指導の在り方）（担当：大塚　芳生） 定期試験
テキスト 高等学校学習指導要領解説　工業編，文部科学省 日本産業技術教育学会・技術教育分科会編、技術科教育概論、九州大学出版会
参考書・参考資料等 高等学校キャリア教育の手引、文部科学省、教育出版
学生に対する評価 レポートが30%，試験が70%により成績評価を行う．レポートは，課題の把握，課題への取り組みに対する独自の手法，実効性，柔軟な思考の項目で評価する．考えを深めていくことが重要である．

授業科目名： 工業科指導法Ⅰ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：大塚　芳生、 田口　浩継 担当形態：オムニバス

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　工業）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

工業高校の現状と課題から、工業高等学校教育のあり方について理解し、工業高校における授業を実施できるようになる。

授業の概要

工業高校の現状と課題、諸外国との比較などによって知識を獲得するとともに、工業高校訪問から実体験を得る。

授業計画

第１回：ガイダンス（本講義の目的と概要説明）（担当：田口　浩継）
第２回：学校教育と教師の役割（担当：田口　浩継）
第３回：工業高校の実態（工業高校の見学）（担当：大塚　芳生）
第４回：高等学校教育の現状と課題（担当：大塚　芳生）
第５回：工業高等学校教育の課題と活性化策（担当：大塚　芳生）
第６回：わが国の工業教育の歩み（担当：大塚　芳生）
第７回：諸外国の工業教育の現状（担当：大塚　芳生）
第８回：教育実習と生徒理解（担当：田口　浩継）
第９回：工業高等学校教育の実際（施設，設備，進路指導など）（担当：大塚　芳生）
第10回：工業高等学校教育の実際（学習指導要領と教育課程編成）（担当：大塚　芳生）
第11回：工業高等学校教育の実際（学習指導法と学習評価）（担当：大塚　芳生）
第12回：学習指導案の作成と演習（担当：大塚　芳生）
第13回：工業高等学校教育の実際（開かれた学校づくりなど）（担当：大塚　芳生）
第14回：今後の工業高等学校のあり方と課題（現場教師を囲んで）（担当：田口　浩継）
第15回：全体のまとめ（担当：田口　浩継）
定期試験

テキスト

教職必修　工業科・技術科教育法　教職課程研究会　実教出版
また、適宜プリントを使用する。

参考書・参考資料等

小山田 了三著　「実践 工業科教育法」 東京電機大学　1999年

学生に対する評価
講義中に課すレポートおよび指導案の作成、期末試験および授業への参加意欲を総合的に評価する。授業への参加意欲（30%）、レポート（30%）、試験（40%）

授業科目名： 工業科指導法Ⅱ 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：大塚　芳生、 田口　浩継 担当形態：オムニバス
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

「工業科指導法Ⅰ」を基礎にして，より実用的な授業法（情報機器及び教材の活用を含む），生徒指導，進路指導，教育評価について考えを深め，「工業」教師としての総合的な実践力を身につける．

授業の概要

工業高等学校が抱える課題と解決策について学生間で討論と考察を重ね，豊かな発想と表現力およびコミュニケーション力を身に付ける．さらに，学生間で模擬授業を展開しながら教科指導上の諸問題を考察し合い，実践的能力と学生自身のプレゼンテーション技法を養う．また，常に生徒の立場になって考えを深め，生徒の学習意欲の向上と自らの指導法の改善の必要性を学ぶ．

授業計画

第１回：工業科教育の現状（担当：田口　浩継）
第２回：熊本県の工業科教育の課題（現職高校教員による説明）（担当：田口　浩継）
第３回：工業科教育の課題と対策（担当：田口　浩継）
第４回：課外活動と工業科教育（担当：大塚　芳生）
第５回：その他の活動と工業科教育（担当：大塚　芳生）
第６回：実用的な「課題研究」の指導法と評価（担当：大塚　芳生）
第７回：工業高校における生徒指導（担当：大塚　芳生）
第８回：工業高校における進路指導（担当：田口　浩継）
第９回：職業と工業科教育（担当：大塚　芳生）
第10回：SDGsと工業科教育（担当：大塚　芳生）
第11回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【建築】（担当：田口　浩継）
第12回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【機械】（担当：大塚　芳生）
第13回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【電気】（担当：大塚　芳生）
第14回：模擬授業の指導案・教材の作成と実践・評価【情報】（担当：大塚　芳生）
第15回：全体のまとめ（担当：田口　浩継）
定期試験

テキスト

教職必修　工業科・技術科教育法　教職課程研究会　実教出版 高等学校学習指導要領解説 工業編（平成30年5月　文部科学省）
参考書・参考資料等 小山田 了三著　「実践 工業科教育法」 東京電機大学　1999年
学生に対する評価 授業後のレポートが20%，模擬授業が30%，試験50%により成績評価を行う．レポートは，専門用語の説明ではなく，経済・産業，工業高校，工業科の教科，生徒や保護者が抱えている課題について毎回の授業で考えを深めることで，高得点につながる。模擬授業は，課題の把握，課題への取り組みに対する独自の手法，実効性，柔軟な思考の項目で評価する。

授業科目名：教育実践フィールド演習Ⅰ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：２単位	担当教員名：石井　宏祐
			担当形態：単独
科　目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

配属校での様々な体験活動を通して教育への関心及び教職への意欲を高めることを目的とする。到達目標は以下のとおり。

〇子ども、学校、教師を知ることを通して、教職を目指す者としての自己理解を深める。

授業の概要

配属校に3日間体験活動に行き、参与観察を行う。

グループで振り返りを行い、各自報告レポートを書き、気づきを共有する。

授業計画

第１回：大学での事前指導（全体、担当教員別）

第２回：配属校での事前指導

第３回：配属校での体験活動①（１日目・午前①子どもの一日の始まり）

第４回：配属校での体験活動②（１日目・午前②子どもの授業中の姿（集団指導の視点））

第５回：配属校での体験活動③（１日目・午後①子どもの授業中の姿（個別指導の視点））

第６回：配属校での体験活動④（１日目・午後②子どもの休憩時間と放課後）

第７回：配属校での体験活動⑤（２日目・午前①教師の一日の始まり）

第８回：配属校での体験活動⑥（２日目・午前②教師のことば）

第９回：配属校での体験活動⑦（２日目・午後①教師の授業づくり）

第１０回：配属校での体験活動⑧（２日目・午後②教師の休憩時間と放課後）

第１１回：配属校での体験活動⑨（３日目・午前①学級づくりを知る）

第１２回：配属校での体験活動⑩（３日目・午前②給食指導と清掃指導）

第１３回：配属校での体験活動⑪（３日目・午後①配慮が必要な子どもの対応）

第１４回：配属校での体験活動⑫（３日目・午後②記録と振り返り）

第１５回：大学での事後指導

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

配属校の教員の評価及び報告レポートによる評価。

授業科目名： 教育実践フィールド演習Ⅱ【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：達富　洋二 担当形態：単独

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

テーマ： 授業づくりに必要な実践的知識・技能を修得するため、１単位時間の授業づくりの課題に取り組む。到達目標は次の通り。

①課題に応じた適切な学習指導案を作成できる。

②前後の授業とのつながりや単元・題材の計画における位置づけを踏まえて適切な授業を考案することができる。

③課題に応じた効果的な資料・教具を作成できる。

④児童・生徒の実態を理解するとともに、実態に応じた授業をつくることができる。

⑤ 課題に応じた効果的な発問・指示計画、板書計画、机間指導計画、ノート指導計画等を作成できるとともに、それらの技能を効果的に活用した模擬授業を実施できる。

⑥模擬授業を客観的にふり返り、改善策を考案できる。

⑦教育実習に向けて責任をもって課題に取り組むことができる。

⑧授業を中心とする教育実践に関する問題意識を深めるとともに、教職への意欲を高める。

授業の概要

１単位時間の授業づくりに関する課題に個人で取り組む。学習指導要領や教科書、先行の授業実践を検討し、課題に応じた学習指導案、授業で用いる資料や教具等を作成して模擬授業を行い、授業改善を重ねる。作成した学習指導案等によって教育実習において実地授業を行い、その成果と課題及び具体的改善案について個人でリフレクションレポートにまとめる。また、これらの活動を通し、小学校・中学校教育実践に関する問題意識と教職への意欲を高め、卒業研究につながる積極的な態度を培う。

授業計画

第１回：フィールド演習Ⅱ（個人課題）の実施計画について

第２回：小学校におけるそれぞれの教科の授業実践の分析

第３回：中学校におけるそれぞれの教科の授業実践の分析

第４回：授業づくりの課題について

第５回：単元づくりの構想

第６回：授業づくりの構想

第７回：授業観察（実習校）

第８回：実習校での課題説明
第９回：学習指導案・学習計画の概要の理解
第１０回：学習指導案の作成
第１１回：学習計画の作成
第１２回：模擬授業の実施
第１３回：模擬授業のリフレクションと総括
第１４回：実習校における直前指導案指導
第１５回：学習指導案・授業計画の改善

テキスト
文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）」東京書籍（2008）
文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）家庭編」東洋館出版（2008）
中西雪夫ほか編著「小中学校家庭科の授業をつくる」学術図書出版社（2023）

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価
①作成した学習指導案、教具等　25%
②模擬授業　25%
③教育実践フィールド演習Ⅲノート　25%
④学修態度（協調性や自主性など）　25%

授業科目名： 熊本・学びの最前線 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 田口　浩継、大塚　芳生、前田　康裕 担当形態： オムニバス

科　目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

学校現場でも活用できるプレゼンテーションに関する知識・技能の獲得をして、実際に活用できる力を修得できる。

授業の概要

児童・生徒が効果的に情報活用能力を身につけるために教員として必要な技能・考え方の基礎概念を学習する.

授業計画

第１回：本授業の概要説明と情報機器の基本操作の学習（担当：田口　浩継）
第２回：ネットの情報からポスターに必要な要件を調べてスライドにまとめる（担当：田口　浩継）
第３回：プレゼンテーション：パフォーマンス評価（担当：田口　浩継）
第４回：情報の収集：構想を練り熊本大学の写真を撮影（担当：前田　康裕）
第５回：撮影した写真を元にKeynoteを使ってポスターを完成（担当：前田　康裕）
第６回：テキストとコンテキスト、情報とデジタルデータの特性理解（担当：前田　康裕）
第７回：教科書を元にKeynoteとiMovieを使って動画教材の構想（担当：前田　康裕）
第８回：教科書を元にストーリーボードの作成（担当：前田　康裕）
第９回：教科書を元にKeynoteとiMovieを使った動画の撮影（担当：前田　康裕）
第１０回：教科書を元にKeynoteとiMovieを使った動画の編集（担当：前田　康裕）
第１１回：発表と相互評価（担当：前田　康裕）
第１２回：スクラッチの基礎の学習とロボット（スフィロボルト）の操作方法（担当：大塚　芳生）
第１３回：ロボット（スフィロボルト）の動画の撮影（担当：大塚　芳生）
第１４回：ロボット（スフィロボルト）の動画の編集（担当：大塚　芳生）
第１５回：作品の発表とまとめ、本授業の学習の総括（担当：大塚　芳生）

テキスト

テキストを配布します

参考書・参考資料等

熊本大学教育学部情報教育研究会：イラストでつかむ　子どもに「学習プレゼン能力」を育てるノウ

ハウ、明治図書、2002.
学生に対する評価 ・A水準（到達すれば「優」に相当） ICTに関する知識と技能を修得し、学校現場で情報機器を用いて授業を行い、新たな視点からICT教育の存在意義について考察することができる。 ・C水準（到達すれば「可」に相当） ICTに関する知識と技能を修得し、学校現場で情報機器を用いて授業を行うことができる。

授業科目名： 幼小連携・小中連携教育論【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：名倉　一美、成松　美枝、石井　宏祐、栗山　裕至、達富　洋二、大林　将呉、中西　雪夫 担当形態：オムニバス

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

小１プロブレムや中１ギャップなどの問題に対応できる教員としての資質・能力を修得するため、各発達段階の特徴や幼小連携教育、小中連携教育の課題と取組み事例等について理解するとともに、連携教育への問題意識を深め、教職への意欲を高める。

授業の概要

前半は幼小連携教育の実態や課題について、教育制度、発達心理、認識論の視点から考察をする。後半は教科で異なる小中連携教育の実態や課題について考察するとともに、小中連携教育の展望について考察をする。

授業計画

第１回：オリエンテーション（全員）
第２回：幼小連携とは何か（名倉一美）
第３回：教育制度や教育行政から見た幼小連携（１）（成松美枝）
第４回：教育制度や教育行政から見た幼小連携（２）（成松美枝）
第５回：心の発達と人間関係から見た幼小連携（１）（石井宏祐）
第６回：心の発達と人間関係から見た幼小連携（２）（石井宏祐）
第７回：幼児の認識と遊び、小学校の教科学習と幼小連携（１）（栗山裕至）
第８回：幼児の認識と遊び、小学校の教科学習と幼小連携（２）（栗山裕至）
第９回：文系教科における小中連携の課題（達富洋二）
第10回　文系教科における小中連携教育の在り方（達富洋二）
第11回　理系教科における小中連携の課題（大林将呉）
第12回　理系教科における小中連携教育の在り方（大林将呉）
第13回　実技系教科における小中連携の課題（中西雪夫）
第14回　実技系教科における小中連携教育の在り方（中西雪夫
第15回　小中連携教育のこれから（達富洋二・大林将呉・中西雪夫）

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 各授業における演習への取組み状況（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。

授業科目名： LD等学習指導法 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 日高　茂暢 担当形態： 単独

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

開講意図

学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害の心理・発達的特性を正しくとらえていくとともに、教育的アプローチに必要とされる心理的側面を理解しながら、根拠ある支援のあり方を学ぶことができるようにする。

到達目標

学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害の学習面、心理面、行動面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、その効果的な指導法や支援、配慮について理解する。

授業の概要：

学習や行動上の困難があり、支援を必要とする通常学級に在籍する児童生徒は8.8%にのぼり、通常学級において特別支援教育を行う事が当然の時代になっている。本講義では、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の発達障害や関連する実態のある子どもの理解を深め、アセスメントの方法、学級経営上の配慮や指導上の工夫の基礎を学ぶことを目標とする。また講義内容に応じて、ペアワーク・グループワークやICT機器を用いたアンケート等を適宜行う。

授業計画

第１回：普通学校における特別支援教育のいま

第２回：発達障害概論（LD、ADHD、ASD、DCD、境界知能）

第３回：発達障害のある子どもの心理的疑似体験

第４回：ユニバーサル・デザインの授業作り

第５回：読みのアセスメント法

第６回：書きのアセスメント法

第７回：学習障害等のある子どもの読み書き指導

第８回：読解の困難とその指導法

第９回：学習障害等のある子どもの英語、計算・推論の指導

第１０回：ADHD等のある子どもの不注意による課題と指導

第１１回：自閉スペクトラム症等のある子どもの社会性の困難と指導
第１２回：自閉スペクトラム症特性に合わせた環境調整
第１３回：個別の指導計画の立案と実施
第１４回：通級指導教室の指導と実際
第１５回：発達障害のある子どもの支援と居場所論
定期試験

テキスト
配布資料に基づいて講義を進める。

参考書・参考資料等
勝二博亮ら「知的障害児の心理・生理・病理（第2版） エビデンスに基づく特別支援教育のために」北大路出版（2023）
村井敏宏・山田充「誤り分析で始める！学びにくい子への「国語・算数」つまずきサポート」明治図書（2015）
山田充「通級指導教室の実践 アセスメントから指導まで」かもがわ出版（2024）
栗本奈緒子「国語・算数の初歩でつまずく子への教え方と教材-個別でもみんなの中でも教えられる!」学研プラス（2020）
岡田智・田中康雄「暗黙のルールが身につく ソーシャルスキルトレーニング(SST)カード教材集」ナツメ社（2016）
岡田智ら「特別支援教育をサポートする ソーシャルスキルトレーニング(SST)実践教材集」ナツメ社（2014）
室橋春光・山下公司「発達障害のある子を読み解くワークショップ型事例研究 「アセスメント」研修のための課題２０」明治図書（2023）

学生に対する評価: 定期試験に基づいて評価する。なお、3分の1（5回）以上欠席した者は定期試験の受験資格を失う。

授業科目名： 大学生の道徳・倫理 【共同科目（佐大】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 足立　佳菜
			担当形態： 単独

科　目	大学が独自に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

道徳は「自己の生き方・あり方」「人間としての生き方・あり方」を問うものであり、小中学校段階の「特別の教科 道徳」での学びに閉じるものではない。知識の伝達者としてではなく学びの支援者・学びの専門家としての教師像が求められていることも鑑みれば、教師自身が道徳的問いを考え続ける力や態度、生活や社会に溢れる道徳的・倫理的問いを身近なものとして捉えることのできる力は教師の力量として不可欠である。そこで本授業では、小中学校の「道徳」の内容理解の深化をねらうとともに、これを発展させ、大学生自身が対峙する道徳的問いを個と協働で探求しながら道徳学習当事者としての態度を身につけることをねらいとする。

到達目標は以下の通りである。

① 「特別の教科 道徳」で扱われている内容項目を、一定程度説明することができる。
② 道徳的発達・成長のあり方について、長期的視点で捉えることができる。
③ 幅広い道徳に関する現代的課題を自分事として捉え、その課題の持つ意味・意義を自分なりの言葉で表現することができる。
④ 道徳学習当事者として自分自身の道徳的課題を見つけ、一定の知識や情報を基盤としながら、これらを論理的に説明することができる。
⑤ 本授業における自身の学びを振り返り、自身にとって重要な変容点を分析、言語化することができる。

授業の概要

本授業では、教職の学びとして「特別の教科 道徳」の内容理解を深めることと、一人の人間として道徳学習当事者としての態度形成を図ることの２側面をねらいとする。授業は講義形式による知識習得だけでなく、個々の調べ学習やグループ学習によるワーク形式など多様な学習形態で学びを深めるため、協働的学びへの積極参加を求める。

授業計画

第１回：ガイダンス、学習課題の確認
第２回：道徳性の発達・成長―大学生の位置づけ
第３回：「特別の教科 道徳」の内容項目（道徳的価値）
第４回：道徳的問いのシェアと対話【グループワーク】
第５回：道徳・倫理に関する現代的課題＜概論＞

第６回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論①―ダイバーシティ＆インクルージョン＞
第７回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論②―生命倫理と科学技術、世代間倫理＞
第８回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論③―不寛容社会＞
第９回：社会課題と自己の接続
第１０回：道徳・倫理に関する現代的課題＜各論④―（受講生アンケートにより設定）＞
第１１回：大学生による道徳・倫理の「問い」づくり【グループワーク】
第１２回：大学生による道徳・倫理の「問い」づくり【グループワーク】
第１３回：大学生による道徳・倫理の「問い」【全体共有】
第１４回：大学生による道徳・倫理の「問い」への解説・補足
第１５回：ミニテスト（重要語句確認）と学びのふり返り【ワーク】
学期末レポート

テキスト
なし

参考書・参考資料等
適宜授業内で紹介する。

学生に対する評価
A. レポート【50%】…到達目標③④⑤
B. グループ課題の作成・発表【20%】…到達目標③④
C. ミニテスト【10%】…到達目標①②
D. コメントペーパー【15%】…到達目標⑤
E. その他各種提出物【5%】
・A～E各項目においてそれぞれ60%に満たない場合は不可とする。
・３分の２以上出席しなければ、最終課題の提出資格を失う。

授業科目名：教育統計 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：西郡　大 担当形態：単独

科　目	大学が独自に設定する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

1.　記述統計について正しく理解する
2.　統計的仮説検定の論理を理解し，具体的な検定のやり方を習得する
3.　教育活動にいて妥当な統計手法を選択し，活用することができる

授業の概要

教育における統計的考え方の必要性を理解し，社会科学の諸領域で用いられる統計的手法のうち基礎的なものを習得する。また，具体的な課題に対して，その数量的な把握と統計的な検討から適切な解決を導く基礎的な力を身につける。

授業計画

第１回：教育分野における統計の意義
第２回：データ整理に必要な平均と割合，グラフの作成
第３回：学力検査の分析に必要な統計指標①（度数分布，ヒストグラム，代表値）
第４回：学力検査の分析に必要な統計指標②（四分位数，箱ひげ図，分散，標準偏差，歪度，　尖度）
第５回：変数の変換：変数の線形変換と標準化，偏差値
第６回：２変数の関係性：共分散，ピアソンの相関係数
第７回：回帰分析（回帰式の性質）
第８回：学力検査の信頼性・妥当性，教育場面で活用される尺度水準
第９回：質的変数を用いた分析（スピアマンの相関係数，クロス表分析，φ係数，クラメールの連関係数）
第10回：推測統計の考え方（２項分布，正規分布）
第11回：標本分布，推定と推定量，不偏性
第12回：統計的仮説検定の基礎
第13回：統計的仮説検定の演習
第14回：学校教育に関わるデータを用いた総合分析演習
第15回：まとめと小テスト（最終課題）

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

・『心理統計の技法』（渡辺洋著）福村出版
・『心理統計学の基礎』（南風原朝和著）有斐閣アルマ
・『本当に分かりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』（吉田寿夫著）北大路書房
・『統計分析のここが知りたい』（石井秀宗著）文光堂
『すぐわかる統計解析』（石村貞夫著）東京図書

学生に対する評価

［1］平常点（毎回の課題）：50点・・・（到達目標１）
［2］中間小テスト：20点・・・（到達目標2）
［3］最終課題：30点・・・（到達目標3）

※　平常点は，授業への参加状況，講義の最後に行う小レポート，課題提出の状況などを対象とする。

授業科目名：教育評価 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 髙崎　文子 担当形態： 単独
科　目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

授業のテーマ及び到達目標

指導と評価の一体化という考え方を理解し，評価を教育実践に活かす具体的な方法を考えることができる

授業の概要

教育評価の目的を問い直し，その歴史的位置づけや機能や様々な評価方法の特徴について解説し，教育実践において評価を用いる意義や適切な評価方法について解説する

授業計画

第１回：評価の経験と評価観
第２回：評価の目的
第３回：評価の歴史：戦前までの評価のあり方
第４回：評価の歴史：戦後における教育評価の変遷
第５回：評価の手法
第６回：評価の記録
第７回：評価のタイミング
第８回：評価のキジュン
第９回：ルーブリックを用いた評価
第１０回：主体性の評価
第１１回：適切な評価方法の選択
第１２回：自己評価・相互評価
第１３回：評価と学習意欲
第１４回：評価の影響と個人差
第１５回：全体のまとめ
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

「教育評価」梶田叡一著　有斐閣双書

「よくわかる教育評価」田中耕治編　ミネルヴァ書房 「2019年改訂新学習指導要領と『資質・能力』をはぐくむ評価」市川伸一編著　ぎょうせい
学生に対する評価 論述試験を実施する．講義で学んだ知識をもとに，評価の目的とその適切な用い方について考え，評価実践について独自の考察を深めることを到達基準とする．

授業科目名： 人権教育論 【独自科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：苫野　一徳 担当形態：単独

科　目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

以下のさまざまな観点から、現代日本の人権問題について考えながら、２１世紀の人権教育及び共生社会のあり方を考える。

授業の概要

①人権の原理を知る、②人間の性と人権について知る、③定住外国人の人権について知る、④ハラスメントについて知る、⑤子どもの権利について知る。多様なゲスト・スピーカーを迎え、より具体的、実践的に人権教育について考えることができるようにする。

授業計画

第１回：人権とは何か（１）（人権の哲学の歴史について）
第２回：人権とは何か（２）（価値人権論について）
第３回：人権とは何か（３）（ルール的人権論について）
第４回：人間の性と人権（１）（SOGIあるいはLGBTIQの基礎知識を知り、自己のセクシュアリティを振り返る）
第５回：人間の性と人権（２）（差別と解放の歴史について）
第６回：人間の性と人権（３）（LGBTの現状と課題について）
第７回：熊本の定住外国人に対する民間の支援について（コムスタカ～外国人と共に生きる会～の取り組み）
第８回：外国にルーツを持つ子どもたちの現状について（日本語習得の課題について）
第９回：熊本の定住外国人に対する生活支援について（熊本市国際交流事業団の取り組み）
第１０回：相談窓口から見える身近な暴力・ハラスメント（１）（私的な場での支配～DV・デートDV・子ども虐待を考える）
第１１回：相談窓口から見える身近な暴力・ハラスメント（２）（公的な場での支配～セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントを考える）
第１２回：相談窓口から見える身近な暴力・ハラスメント（３）（最も見えづらい支配～モラルハラスメントを考える）
第１３回：子どもの人権をめぐる諸問題（児童虐待・体罰・いじめ・不登校・「貧困」、「競争主義

的な教育制度」など、子どもを苦しめている権利侵害の今日的諸問題を取り上げ、その背景や要因を考える。） 第１４回：子どもの権利とは何か（「子どもの権利条約」と新しい子ども観（「子どもの権利条約」が生まれた歴史的意義をふまえながら、権利の行使主体としての子ども観とはどういうものかを、第12条「意見表明権」を切り口として学ぶ。） 第１５回：子どもを支える社会と教育（子どもの命と人権を守るための「子どもオンブズパーソン」「チャイルドライン」などの取り組みのほか、条約の第15条（仲間と自治）や第31条（ゆとりと遊び・文化）の権利を豊かに発展させる地域や学校の実践に注目する。最後に、子ども自身の問題を含む人権教育の課題を確認する。） 定期試験は実施しない。
テキスト 指定しない。
参考書・参考資料等 金泰明『人権は二つの顔を持つ』トランスビュー、2015年。
学生に対する評価 授業終了までの５回のレポートにより総合的に評価する。

授業科目名： 学校経営学 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 波多江 俊介 担当形態：単独

科　目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業のテーマ及び到達目標

達成目標は、知識面では制度の仕組みや課題に関する事柄を理解し、自身で説明できるレベルへの到達を目標とする。実践面では、地域や家庭、関連機関との連携を可能にする要素を理解することや、判例等を読んで安全に配慮した教育指導計画が作成できる等、教育活動を行う上で適切な判断ができる力の修得を目指す。

授業の概要

本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の３点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。

第１回：オリエンテーション：自身の教育体験を振り返る
第２回：教育行政制度の変遷にみる教育委員会の業務
第３回：公教育の原理と理念：「学校」に関する法規
第４回：学校教育と政治
第５回：学校教育と宗教
第６回：子どもの教育を受ける権利：子どもの貧困と公教育の使命
第７回：子どもの教育を受ける権利：権利条約からインクルーシブ教育まで
第８回：学級経営上の課題と効果的な学級経営の方法
第９回：学校保健安全：学校管理下における事故と予防・対応策
第10回：災害下の学校安全：リスクマネジメントの視点から
第11回：保護者・地域との連携の必要性：連携に関する諸制度の導入背景から実態まで
第12回：公教育に関する教育関係の法体系のまとめ
第13回：効果的な学校経営の運用実態と課題

第14回：教育関連法制度の問題点：制度の逆機能等 第15回：まとめ：近年の教育政策動向のおさらい 定期試験
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』2018年。
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 定期試験（100%）

授業科目名：道徳教育の理論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（小学校、中学校） 選択科目（幼稚園、高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名： 今井　伸和
			担当形態： 単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間との指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校） 大学が独自に設定する科目（幼稚園、高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（小学校、中学校）

授業のテーマ及び到達目標

- 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。
- 日本の戦前・戦後の道徳教育を比較し、その変遷と課題を説明できる。
- 現代社会における道徳教育の課題として、いじめ、情報モラル、生命倫理、SDGsなどを例に挙げ、その問題点と解決策について議論できる。
- 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
- 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
- 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
- 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。

授業の概要

本授業科目は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定める「道徳の理論及び指導法」にあたり、学習指導要領に掲げる事項に即した内容について取り扱う。主な内容については以下の通りである。

まず、道徳とは何かという基本的な問題について、印欧語族や日本語の「道徳」の語源に基づき、その意味や歴史的変遷を考察する。また、倫理学、心理学、社会学などの学問分野における道徳の捉え方について概説し、多角的な視点から道徳の本質に迫る。道徳教育の歴史については、日本の戦前と戦後の道徳教育を比較しつつ、その問題点を論じる。また現代的な課題については、生命倫理やSDGs、社会参画や情報化への対応等を検討する。道徳性の発達理論については、他律から自律へと至る過程について理解するため、ピアジェやフロイト等、種々の学説を取りあげる。道徳教育の目標・内容については、「よりよく生きる」ことについて中心に論じるとともに、道徳の内容項目における重要な概念を考究する。道徳教育の全体計画および道徳科の年間指導計画については、熊本市の事例をもとに、その内容と留意点を考察する。道徳科の評価については、基本的な考え方、評価の観点について検討する。

授業計画

第１回：道徳教育の意義と目的

第２回：道徳教育の歴史
第３回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル、生命倫理、SDGs等）
第４回：子どもの発達と道徳性
第５回：学習指導要領と道徳教育
第６回：道徳教育の指導計画
第７回：教育活動全体を通じた道徳教育
第８回：道徳科の評価
レポート試験

テキスト
教科書は使用しない。適宜、レジュメ・資料を配布する。

参考書・参考資料等
文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説――特別の教科　道徳編』
文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説――特別の教科　道徳編』

学生に対する評価
　レポート試験（80％）、毎回授業中に提出する小レポート（20％）。それぞれの評価基準は以下のとおり。
・問題についての論理的で一貫した解決策を提示し、創造的な論述であると評価できる（90～100点）。
・新しい方向性や別の考え方を組み入れている（80～89点）。講義の内容を主体的に受け取り直し、自分なりの考えをわずかに含んで論述されている（70～79点）。
・講義内容の再現ができている（60～69点）。

授業科目名： 道徳教育の実践 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（小学校、中学校） 選択科目（幼稚園、高等学校）	単位数： 1単位	担当教員名：足立　佳菜 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間との指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校） 大学が独自に設定する科目（幼稚園、高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（小学校、中学校）

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、道徳教育を多面的に考える力、道徳授業を構想し改善する力、社会にあふれる道徳的な問いに気づく力を修得し、自身の道徳観・道徳教育観の基盤を形成することを目的とし、以下の４点を到達目標とする。

① 現代教育、道徳教育の方向性や諸課題を踏まえ、これからの子どもたちに育みたい道徳に関する資質能力およびそれを育成する道徳授業に必要な要素を自分の言葉で説明できる。

② 道徳の諸授業論を踏まえながら、基本的な学習指導案を作成することができる。

③ 他者の学習指導案と比較検討したり他者からのレビューを踏まえて自身の学習指導案を分析し、改善の視点を得ることができる。

④ 道徳教育に関する自身の学びを振り返り、自身にとって重要な変容点を分析、言語化することができる。

授業の概要

本授業は、道徳・道徳教育に関する基礎的理解を踏まえたうえで、多様な道徳授業論・指導法を学習し、道徳の学びとは何かという問いを軸にしながら道徳の実践方法の幅広さを学ぶ。これらの知識理解の基、道徳授業の指導案作成やグループワーク・ピアレビューなどの協働的な学びを通して、授業計画を吟味し改善する多様な視点を得る。

授業計画

第１回：授業目的・学習課題の確認、道徳・道徳教育の基礎的理解の確認

第２回：道徳教育・道徳科の目標、現代的動向と教師の役割

第３回：道徳科の方法①―指導法の見方・考え方と各種授業論

第４回：道徳科の方法②―代表的指導法の比較演習、発問

第５回：学習指導案の検討

第６回：グループ別模擬授業（学習指導案の発表）

第７回：学習指導案・模擬授業の解説と振り返り

第８回：筆記試験および学習の振り返り

学期末レポート

テキスト

小学校／中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　特別の教科　道徳編　＊主免に合わせる

参考書・参考資料等

荒木寿友（2017）『ゼロから学べる道徳科授業づくり』明治図書

吉田誠・木原一彰（2018）『道徳科　初めての授業づくり - ねらいの8類型による分析と探究 - 』大学教育出版

学生に対する評価

A. 授業内筆記試験【10%】　…到達目標①

B. レポート【40%】　…到達目標①④

C. 指導案の作成・発表・点検【30%】　…到達目標②③

D. コメントペーパー、その他各種提出物、ワーク等の授業内活動【20%】　…到達目標①④

・A～D各項目においてそれぞれ60%に満たない場合は不可とする。

・３分の２以上出席しなければ、筆記試験やレポート提出の資格を失う。

授業科目名： 教職保健 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大沼　久美子、 秋月　百合、長谷　真 担当形態：オムニバス

科　目	大学が独自に設定する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びテーマ

① 学級担任や教科担任として、成長発達期にある子どもの保健管理について説明できる。

② 学校における健康教育を行う上で必要な知識を科学的に説明できる。

③ 養護教諭や栄養教諭等と連携した健康教育を考えることができる。

授業の概要

本授業は、学校保健および学校安全に関する法律や制度の概要、子どもの心身の健康の保持増進および健康や安全に関する医学的知識や情報、さらに健康安全に関する具体的かつ効果的な指導法や現代的健康課題への対応など，学校保健・学校安全に関する知識の修得とその活用を目指した授業実践や事例検討を行う。

授業計画

第１回：オリエンテーション（本授業の概要説明）（担当：大沼）

第２回：学校保健の法制度（学校保健安全法の概要）(担当：大沼)

第３回：学校保健及び学校安全について（担当：大沼）

第４回：母子保健統計(担当：長谷)

第５回：学校保健統計（担当：長谷）

第６回：こどもの成長・発達(担当：大沼)

第７回：学校で起こりやすい傷病とその対応（保健管理について）（担当：大沼）

第８回：早期発見が極めて重要な思春期以降に増加する疾患群(担当：大沼)

第９回：教員に必要な健康観察の視点と方法（担当：大沼）

第10回：学校で行う応急手当（担当：大沼）

第11回：思春期の性行動（担当：秋月）

第12回：思春期・青年期の性と生殖の健康課題(担当：秋月)

第13回：保健室の機能および養護教諭や栄養教諭等との連携（担当：大沼）

第14回：学校における保健教育について（担当：大沼）

第15回：振り返りとまとめ(担当：大沼)

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

新訂版・学校保健実務必携(第一法規)
学生に対する評価 評価は各担当教員が示す課題レポート等の評価を総合したものである。 ①事前学習、授業への積極的参加度、事後学習（30%） ②レポート内容が講義の目標と講師の課題・意図と概ね合致する（70%）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：城下　健太郎 担当形態： 単独

科　目	免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分	・日本国憲法

授業の到達目標及びテーマ

① 日本国憲法に関する基本的な知識を修得すること。

② 基本的知識を修得したうえで、現実に生じている憲法上の争いや具体的事件にそれらの知識を適用して考察することができるようになること。

授業の概要

日本国憲法は私たち個人にとって、普段、日常ではあまり意識されない法律です。ところが、憲法の背後にあるさまざまな原理（国民主権や基本的人権の尊重、 平和主義など）は、私たちが生きている現代社会に多くの問題を投げかけています。この講義では、できるかぎり具体的な憲法上の事件・争いを検討しながら、憲法の基本的知識としくみについて解説します。実際に憲法が国家の中で用いられている現状を見ながら、政治権力や死刑制度、あるいは福祉のあり方など社会の様々な問題へ触れながら、私たちの価値観をできるだけ柔らかくするような多様な立場を日本国憲法から学びます。受講者には自分たちが現在生きている社会状況を常に意識しながら、国家や法が引き起こす様々な問題を自分たち自身の問題として捉えるよう求めます。そこで 色々な立場を考えながら自らの立場について客観的に考えるという「問題の悩み方」を学習してほしいと思います。

授業計画

第１回　ガイダンス（憲法とは何か）

第２回　立憲主義とは何か（立憲主義の発展と日本への影響）

第３回　立憲主義と民主主義の対立（権力分立が動くとき：立法 v.s.司法）

第４回　現代社会における人権保障の仕組み（人権の主体と私人間効力の問題）

第５回　憲法と公共性①　（自由と公共の福祉の対立、公私ニ分論）

第６回　憲法と公共性②　（プライバシーと名誉 v.s. 表現の自由の攻防）

第７回　平和主義（憲法９条の解釈と平和的生存権の意義）

第８回　法の下の平等（家族生活・社会生活における平等）

第９回　国家と宗教（政教分離と良心の自由）

第１０回　医療と人権　（自己決定権と医療倫理）

第１１回　子どもと人権　（学校教育と子どもの自由）

第１２回　経済活動への規制（市場の自由とその調整）

第１３回　福祉国家の現在（自立と福祉をめぐる対立） 第１４回　人身の自由（手続的正義 v.s. 真実発見） 第１５回　まとめ（憲法の現代的意味） 定期試験
テキスト 『目で見る憲法』　初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之・上田健介　有斐閣　第6版　2024年
参考書・参考資料等 配布資料にて随時紹介します。
学生に対する評価 成績評価はミニレポート（15%）、定期試験（85%）によって行います。 レポートの形式は、到達目標の観点から出題する予定です。 到達目標①の観点から、ミニレポートを課し、憲法に関する基礎知識を習得しているかどうかを確認する問題を中心に出題する予定です。 到達目標①・②の観点から、定期試験は基本的知識に関する択一・用語問題および論述問題を出題する予定です。

授業科目名：体育実技Ⅰ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：１単位	担当教員名：井上　伸一 山津　幸司 担当形態：オムニバス
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める科目区分	・体育		

授業の到達目標及びテーマ

1. スポーツの基本技術を身につける.
2. それぞれの競技の戦術を理解する.
3. 適正な運動量を確保し，体力の向上を目指す.

授業の概要

チームスポーツ（バレーボール，ソフトボール等）を題材にして，運動技術の習得，チームスポーツとしての戦術の理解，そして体力の向上を目的としています．授業の前半はバレーボール，後半はソフトボールを行う予定ですが，履修者の状況等によって別種目を取り入れることもあります.

授業計画

第1回（井上、山津）：オリエンテーション
第2回（井上、山津）：1種目目　チーム分け、パスの基本
第3回（井上、山津）：1種目目　パス・サーブの基本練習、簡易ゲーム1
第4回（井上、山津）：1種目目　パスの応用練習、スパイクの基本練習、簡易ゲーム1
第5回（井上、山津）：1種目目　レシーブ･トス・スパイクの連続動作の基本，簡易ゲーム2
第6回（井上、山津）：1種目目　レシーブ･トス・スパイクの応用練習，正規ルールによるゲーム
第7回（井上、山津）：1種目目　レシーブ･トス・スパイクの応用練習，リーグ戦形式によるゲーム
第8回（井上、山津）：1種目目　リーグ戦形式によるゲーム，評価
第9回（井上、山津）：2種目目　チーム分け，キャッチボール，トスバッティング
第１０回（井上、山津）：2種目目　キャッチボールの応用，トスバッティングの応用，簡易ゲーム
第１１回（井上、山津）：2種目目　キャッチボールの応用，ティーバッティング，簡易ゲーム
第１２回（井上、山津）：2種目目　フリーバッティング，シートノック，簡易ゲーム
第１３回（井上、山津）：2種目目　シートノック，正規ルールによるゲーム
第１４回（井上、山津）：2種目目　リーグ戦形式によるゲーム
第１５回（井上、山津）：2種目目　リーグ戦形式によるゲーム，評価

※ 1種目目：バレーボール　2種目目：ソフトボール
テキスト 　必要に応じて教員が準備する。
参考書・参考資料等 　必要に応じて教員が準備する。
学生に対する評価 ・成績評価の方法 実技試験(70%)・・・到達目標 1, 3) レポート(30%)・・・到達目標 2) ・評価の基準 欠席が3回以上になる場合、学習目標が達成できていないと判断し「不可」とします。

授業科目名：体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：１単位	担当教員名：坂元　康成 堤　公一 担当形態：複数

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める科目区分	・体育

授業の到達目標及びテーマ

1) 成人期以降における運動・スポーツとの関わり方を理解する。

2) 成人期以降における運動・スポーツとの関わり方に基づいて実際に行動する。

3) 運動することを楽しむ方法を理解する。

4) 運動することを楽しむ方法に基づいて実際に行動する。

授業の概要

体育に関連する専門的知識を有する教員が、青年期とは異なる成人期以降における1)運動やスポーツと関わる方法、2)運動することを楽しむ方法について、実際の運動やスポーツの実習を中心に指導する科目です。特に体育実技 Ⅱ では、少人数で行うスポーツ（テニス・卓球）を学期中の前半と後半で実施してもらう予定です。

授業計画

第１回（坂元・堤）：オリエンテーション

第２回（坂元・堤）：卓球のルール

第３回（坂元・堤）：卓球の基礎的な個人技術

第４回（坂元・堤）：卓球の応用的な個人技術

第５回（坂元・堤）：卓球の基礎的な連携プレイ

第６回（坂元・堤）：卓球の応用的な連携プレイ

第７回（坂元・堤）：卓球の応用戦術

第８回（坂元・堤）：卓球のリフレクション及び評価

第９回（坂元・堤）：テニスのルール

第１０回（坂元・堤）：テニスの基礎的な個人技術

第１１回（坂元・堤）：テニスの応用的な個人技術

第１２回（坂元・堤）：テニスの基礎的な連携プレイ

第１３回（坂元・堤）：テニスの応用的な連携プレイ

第１４回（坂元・堤）：テニスの応用戦術

第１５回（坂元・堤）：テニスのリフレクション及び評価

テキスト

必要に応じて教員が準備する。
参考書・参考資料等 必要に応じて教員が準備する。
学生に対する評価 学習に取り組む態度（４０％）・・・到達目標2.4. 到達目標の達成度（６０％）・・・到達目標1.2.3.4.

授業科目名：英語A	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：１単位	担当教員名：小野　浩司
			担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める科目区分	・外国語コミュニケーション		

授業の到達目標及びテーマ

学生は以下のことができるようになります：

・日常的な場面で基本的な英語を使ってコミュニケーションをとる

・アクティブ・ラーニングの課題に積極的に取り組み、流暢さと自信を身につける

・基本的な語彙や文法をより正確に使えるようになる

授業の概要

この授業では、アクティブ・ラーニングを通じて英語でのコミュニケーションを学びます。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを組み合わせた実践的な課題に取り組みます。授業では、繰り返しの練習によって流暢さを養い、わかりやすく役立つ英語を取り入れながら、英語での発信を促します。また形式中心の活動を通じて基本的な語彙や文法を身につけられるよう工夫されています。

授業計画

第１回： オリエンテーション：授業の進め方とテキストの紹介

第２回： UN' s　Sustainable Development Goals

第３回 : Children Suffering from Malnutrition

第４回 : One Meal a Day

第５回 : U.S. Poverty and COVID-19

第６回 : Horseback Library

第７回 : Girls' Literacy in Focus

第８回 : Renewable Energy in School

第９回 : Europe's Largest Saltwater Lagoons

第１０回 : The Problem of Microplastics

第１１回 : Clean Energy of Fossil Fuels

第１２回 : Sustainable Agricultural Practice

第１３回 : E-waste, India's Ever-mounting Challenge

第１４回 : Limits of Green Energy

第１５回 : Review Quize

定期試験

テキスト

SDGs and Global Issues　山本五郎・Jonathan Brown　松柏社　2022
参考書・参考資料等 ・特になし
学生に対する評価 平常点(出席率・授業への積極的参加など)が30%、期末試験70%です。

授業科目名：英語B	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：１単位	担当教員名：Seneviratne Rohana 担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める科目区分	・外国語コミュニケーション

授業の到達目標及びテーマ

学生は以下のことができるようになります：

・批判的思考を使って、自分の考えを理解し、表現できるようになる

・グループディスカッションや協働課題に積極的に参加できるようになる

・繰り返しの学習を通じて、英語の流暢さと正確さを向上させる

授業の概要

この授業では、アクティブ・ラーニングとコミュニケーション課題を通じて、英語力をさらに伸ばします。短い読解文や音声・映像など、役に立つさまざまな教材に取り組み、英語での発信力を高めます。繰り返し使うことで流暢さを養い、指導付きの言語練習を通じて正確さも強化します。授業では、対話や振り返りを重視します。

授業計画

第１回： Orientation,

Course Introduction

Understand course structure and expectations

Assessment scheme

第２回 : Unit 1:

What are your favorite things?

• Personal interests • Fashion accessories • Adjectives for describing objects

第３回： Unit 2:

What is the weather like?

• Weather conditions • Dangerous weather • Effect of dangerous weather

第４回 : Review (Units 1-2) and Speaking Activity

第５回 : Unit 3:

How well do you work together?

• When things go wrong • Ways to avoid problems • Words related to understanding

第６回： Unit 4:

How do you relax?

• Ways to connect • Entertainment • Movies

第７回 : Unit 5:

What are we eating?

• Restaurant experiences • Categories on a menu • Party food
第８回： Review (Units 3-5) and Speaking Activity
第９回 : Unit 6:
How do you stay healthy?
• Fitness activities • Managing stress • Staying healthy
第10回： Unit 7:
How do you do this?
• Technology verbs • Describe work and co-workers • Phrasal verbs
第11回 : Unit 8:
How are you feeling?
• Common health problems • The flu • When you are sick
第12回： Review (Units 6-8) and Speaking Activity
第13回： Unit 9:
Can you tell me a story?
• Adjectives to describe • Morning routines • Verbs for thinking and understanding
第14回： Unit 10:
What will the future bring?
• Dreams and ambitions • Helping others • Making decisions
第15回： Final Review

（和訳）
第１回：オリエンテーション、コース紹介
コースの構成と期待される内容の理解
評価方法の説明
第２回：ユニット1：あなたの好きなものは何ですか？
個人的な興味、ファッション小物、物を表現するための形容詞
第３回：ユニット2：天気はどうですか？
天気の状態、危険な天気、危険な天気の影響
第４回：復習（ユニット1〜2）およびスピーキング活動
第５回：ユニット3：チームでうまくやれますか？
物事がうまくいかないとき、問題を避ける方法、理解に関する語彙
第６回：ユニット4：どのようにリラックスしますか？
人とのつながり方、娯楽、映画
第７回：ユニット5：何を食べますか？
レストランでの体験、メニューのカテゴリ、パーティー料理
第８回：復習（ユニット3〜5）およびスピーキング活動
第９回：ユニット6：どのように健康を保ちますか？

フィットネス活動、ストレス管理、健康を維持する方法
第10回：ユニット7：これはどうやってやるの？
テクノロジー関連の動詞、仕事や同僚の説明、句動詞（フレーズ動詞）
第11回：ユニット8：体調はどうですか？
よくある健康問題、インフルエンザ、体調が悪いとき
第12回：復習（ユニット6〜8）およびスピーキング活動
第13回：ユニット9：物語を話してくれますか？
描写に使う形容詞、朝のルーティン、思考や理解に関する動詞
第14回：ユニット10：未来はどうなるでしょう？
夢と野望、他人を助けること、意思決定
第15回：最終復習

テキスト
StartUp Level 4　Gail McCutcheon, Patricia B. Campbell, and K. T. H. Tan　Pearson　2021

参考書・参考資料等
・特になし

学生に対する評価
Students are encouraged to join every class in person and actively engage in both individual and group activities to avail themselves of the learning opportunities. In addition to in-class quizzes and presentations, online assignments must be completed to accomplish the course.

Class Participation (20%): Participation, In-class Performance, and Attitudes
Weekly Reflection Journals (20%): Online Assignment
Midterm Assessment (25%): A short Video Presentation on a chosen topic
Final Report (35%): Written Report on a chosen topic.

（和訳）
学生は、できる限り毎回授業に対面で参加し、個人およびグループ活動の両方に積極的に取り組むことが推奨されます。授業内での小テストやプレゼンテーションに加えて、オンライン課題もコース修了のために完了する必要があります。

評価項目：
授業参加（20%）：参加状況、授業内でのパフォーマンス、態度
週ごとのリフレクション・ジャーナル（20%）：オンライン課題
中間評価（25%）：選んだトピックに関する短いビデオプレゼンテーション

期末レポート（35%）：選んだトピックに関する書面レポート

授業科目名：英語C	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：１単位	担当教員名：大城　綾子
			担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める科目区分	・外国語コミュニケーション

授業の到達目標及びテーマ

学生は以下のことができるようになります：

·長めのスピーキングやライティングで、自分の考えを明確かつ流暢に伝えられるようになる

·アクティブ・ラーニングを通じて、より複雑な内容を分析し、対応できるようになる

·実際の場面で、英語を正確かつ効果的に使えるようになる

授業の概要

この授業では、より実践的な場面で自信を持って英語を使えるようにします。アクティブ・ラーニングを通じて、さまざまな教材を読み聞きし、ディスカッションやプレゼンテーションで意見を共有し、流暢に話す・書く学習をおこないます。授業には、語彙や文法の正確さ、批判的思考、自律的な学習を促す活動も含まれます。

授業計画

第１回：　ガイダンス

第２回：　Unit1 (Roommates)

第３回：Unit2 (Checking Out)

第４回：　Unit3 (Get in Shape)

第５回：　Unit4 (Money Management)

第６回：　Unit5 (Close Ties)

第７回：Review Unit1~5 / 小テスト

第８回：Unit6 (Time to Celebrate)

第９回：　Unit7 (Animals in Danger)

第１０回：　Unit8 (A Fine Art)

第１１回：Unit 9 (Tune in)

第１２回：　Unit10 (Music to Our Ears)

第１３回：Review Unit6 ~10 / 小テスト

第１４回：　Unit11(Study Abroad)

第１５回：Unit12 (Technology and You)

定期試験

テキスト

・New Connection, Book2　角山照彦 / Andrey Dubinsky / David Edward Keane　成美堂 2018
参考書・参考資料等 ・特になし
学生に対する評価 ・平常点（課題、発表、態度）30％・・・到達目標１，３ 小テスト30％・・・到達目標２ 試験40％・・・到達目標１，３ 授業の3分の2以上出席しなければ評価の対象としない。

授業科目名：英語D	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：鈴木　繁 担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分	・外国語コミュニケーション

授業の到達目標及びテーマ

・この授業では、TOEICで600点を取得できる英語力を身につけることを目標とする。

授業の概要

学生がICTを活用して、主体的に学習を実践します。

e-learnigによる学習内容は、以下の構成となっています。

1. リーディング 40問
2. 語彙 40問
3. リスニング 800問
4. 文法 740問

授業計画

第１回： ガイダンス（対面授業）

第２回： リーディング: 1-3、語彙:1-3、リスニング：1-70、文法：1-60

第３回： リーディング: 4-6、語彙:4-6、リスニング：71-140、文法：61-120

第４回： リーディング: 7-10、語彙:7-10、リスニング：141-210、文法：121-180

第５回： リーディング: 11-13、語彙:11-13、リスニング：211-280、文法：181-240

第６回： リーディング: 14-17、語彙:14-17、リスニング：281-350、文法：241-300

第７回： リーディング: 18-20、語彙:18-20、リスニング：351-420、文法：301-360

第８回： 第７回 までの解説（対面授業）

第９回： リーディング: 21-24、語彙:21-24、リスニング：421-490、文法：361-420

第１０回： リーディング: 25-28、語彙:25-28、リスニング：491-560、文法：421-480

第１１回： リーディング: 29-32、語彙:29-32、リスニング：561-630、文法：481-540

第１２回： リーディング: 33-35、語彙:33-35、リスニング：631-700、文法：541-600

第１３回： リーディング: 36-38、語彙:36-38、リスニング：701-770、文法：601-670

第１４回： リーディング: 39-40、語彙:39-40、リスニング：771-800、文法：671-740

第１５回：まとめ（対面授業）

テキスト

・テキスト不要

参考書・参考資料等

・必要に応じ適宜紹介する。

学生に対する評価

学習時間と進捗度

秀: 15時間以上の学習及び講義概要に示した①～④の各項目の達成率が75%以上

優: 14時間以上の学習及び講義概要に示した①～④の各項目のうち２項目の達成率が75%以上で、なおかつ残りの２項目が50%以上の達成率

良: 13時間以上の学習及び講義概要に示した①～④の各項目の達成率が50%以上

可: 12時間以上の学習及び講義概要に示した①～④の各項目のうち２項目の達成率が50%以上で、なおかつ残りの２項目が25%以上の達成率

授業科目名：情報基礎概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：和久屋　寛 担当形態：単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める科目区分	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目

授業の到達目標及びテーマ

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムは、「導入／基礎／心得／選択」から構成されており、それぞれの観点に応じて、次のとおり定める。

１）「導入／1. 社会におけるデータ・AI利活用」について理解し、その概要を説明できる。

２）「基礎／2. データリテラシー」について理解し、その概要を説明できる。

３）「心得／3. データ・AI利活用における留意事項」について理解し、その概要を説明できる。

４）「選択／4. オプション」について理解し、その概要を説明できる。

授業の概要

文部科学省の認定制度に準拠した書籍を教科書として採用することで、自学自習を促しながら、数理・データサイエンス・AIに関わる基礎的な事項について取り上げる。

また、必要に応じて、ビデオ教材を指定する。その視聴を通して、教科書とは異なる観点から、この分野の過去・現在・未来についても理解を深める。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：AIリテラシーとは

第3回：社会でどのような変化が起きているか

第4回：社会でどのようなデータが活用されているか

第5回：データ・AIを何に使えるか

第6回：データ・AIの技術

第7回：データを読み、説明し、扱う

第8回：データ・AIを扱うときに注意すること

第9回：データ・AIにまつわるセキュリティ

第１０回：統計と数学のきほん

第１１回：アルゴリズムとは何か

第１２回：データの構造とプログラミング

第１３回：データを上手に扱うには

第１４回：時系列データと文章データの分析 第１５回：データ活用実践、総復習 定期試験（レポート）
テキスト ［改訂新版］はじめてのAIリテラシー　岡嶋裕史、吉田雅裕　技術評論社　2024
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業への参加状況（←出席／関連する情報の提供／質問やコメントなどの発言）とレポート課題の提出状況（50%）、レポート課題の内容（50%）と定め、それぞれが一定の基準に達した場合に「合格」とする。

授業科目名： 情報基礎演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 小野　文慈 岡島　俊哉 担当形態：オムニバス

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分	・情報機器の操作

授業の到達目標及びテーマ

掲げられた学士力に到達するために

リテラシーとしてMicrosoftの３大ソフトであるWord,Excel,Powerpointを使いこなし、初級編のデータサイエンスを習得する

授業の概要

受講生はその日の課題に対応した使い方(Word,Excel,Powerpoint)を習得し、特にエクセルではデータサイエンスの初級を学ぶ。

授業計画

第１回： ライブキャンパスの登録方法[小野, 岡島担当]

Teamsの登録方法

LP(入学時)依頼

教職カルテ(入学時)依頼

パスワード変更説明

就職支援システム (JHS)

メール環境設定

履修登録

第２回： ♦文書の作成・表の作成(Word)[小野]

・表を作成する

・表のレイアウトを変更する

・セルの結合・セルの分割

・表に書式を設定する〃

第３回： ♦図形, 数式ツール(Word)[小野]

第４回： ♦関数を入力, SUM,AVERAGE(Excel)[小野]

第５回： ♦LP, 教職カルテのPC入力 [岡島担当]

第６回： ♦相対参照, 絶対参照 (Excel)

第７回： ♦グラフと図形(Excel)[小野]

・棒グラフを作成する

・円グラフを作成する
・複合グラフを作成する
・図形を作成する
第８回： ♦データベースの利用(Excel)[小野]
・データベース機能の概要
・データを並べ替える
・データを抽出する
第９回： ♦ブロック型のビジュアルプログラミング[小野]
・Code
第１０回： ♦基本統計でデータの傾向をつかむ(データサイエンス)[小野]
平均値，中央値，分散，標準偏差
MATLABの活用
第１１回： ♦ピボットテーブルの使い方[小野]
第１２回:♦データ可視化をマスターする[小野]
ヒストグラム，棒グラフ，ヒートマップ，散布図
第１３回:♦近似直線，相関係数(データサイエンス)[小野]
MATLABの活用
第１４回： ロイロノートの活用・応用
第１５回： 情報基礎演習のまとめ

テキスト
３０時間アカデミックＯｆｆｉｃｅ２０２１　杉本くみ子・大澤栄子　実教出版　2022

参考書・参考資料等
特になし

学生に対する評価
毎回の演習(50%)と3回程度の試験課題(50%)に相当する課題の評価を行い，平均で評価する
.

授業科目名： 教育原理A（理念及び思想） 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 苫野一徳 担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校及び高等学校)
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

そもそも教育とは何か、どうあれば「よい」と言いうるかについて、哲学的・歴史的観点から考察・解明を行い、教育の実践や構想を原理的に力強く行っていける教員の養成を目指す。

授業の概要

そもそも教育とは何か、学校は何のためにあるのか、どのような教育であれば「よい」と言いうるのか、教師は何のために存在し、どうあれば「よい」と言いうるか。本授業では、このような原理的、本質的問いに答え抜くことを通して、受講者の皆さんの教育観を数段深めることに寄与したいと思う。教育の古典的名著から、現代の最先端の教育実践まで、大量の情報のシャワーを浴びてもらいながら、自分がこれまでに受けてきた、当たり前だと思ってきた学校観、教育観、授業観、子ども観等を見つめ直し、さらに鍛えていっていただきたいと思う。

授業計画

第１回：イントロダクション（教育を原理的に考えるとはどういうことか）
第２回：国内外の最先端の教育実践を知る①〜その源流に流れる250年の思想
第３回：国内外の最先端の教育実践を知る②〜その源流に流れる250年の思想
第４回：ジャン＝ジャック・ルソー『エミール』を読む①〜「自然」な成長とは何か？
第５回：ジャン＝ジャック・ルソー『エミール』を読む②〜民主主義の土台としての教育
第６回：ジョン・デューイ『民主主義と教育』を読む①〜教育の「目的」を再考する
第７回：ジョン・デューイ『民主主義と教育』を読む②〜「成長」とは何か？
第８回：再び、最先端の教育実践へ〜過去の思想と実践を受け継ぎ、その先へ
定期試験

テキスト

苫野一徳『『エミール』を読む』岩波書店、2024年。
ジョン・デューイ『民主主義と教育』岩波書店、1975年。

参考書・参考資料等

苫野一徳『NHK100分de名著苫野一徳特別授業ルソー『社会契約論』』NHK出版、2020年。

井藤元・苫野一徳・小木曽由香『教育観を磨く−子どもが輝く学校をめぐる旅』日本能率協会マネジメントセンター、2023年。 苫野一徳『どのような教育が「よい」教育か』講談社、2011年。
学生に対する評価 授業中の提出物40%、グループ及び全体ディスカッションにおける貢献度10%、最終成果物50%で評価する。

授業科目名： 教育原理B（歴史・制度）【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：成松　美枝 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校及び高等学校)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

教育の思想と実践の変化を、日本と西洋諸国の教育の歴史に位置づけて考える。「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に関する基礎知識を身につけ、現在の学校教育の原理との関わりを理解することを目的とする。

授業の概要

西洋諸国と日本における、古代から現代に至るまでの教育の理念や思想、制度を包括的に取り上げながら、教育に関する原理の歴史的変遷について講義を行う。

授業計画

第１回：教育の歴史1 :西洋の教育の歴史　古代と中世の教育
第2回 教育の歴史2：西洋の近世の教育観　子どもの発見
第3回 教育の歴史3:　産業革命と近代学校の誕生
第4回 教育の歴史4：新教育運動と進歩主義教育
第5回 教育の歴史5：現代の教育　福祉国家と公教育制度の発展
第6回 教育の歴史6: 日本の中世・近世の教育史
第7回 教育の歴史7: 日本の明治・大正期の公教育制度の成立と発展
第8回 教育の歴史8: 日本の昭和・平成の時代の公教育制度の発展
定期試験

テキスト

特になし。毎回の講義時にレジュメや資料を配布する。

参考書・参考資料等

大田直子・黒崎勲著『学校をより良く理解するための教育学１教育原理』学事出版
2000 年、柴田義松『教育原理』有斐閣 2004 年、森川輝紀・小玉重夫『教育史入門』放送大学教育振興会、2012 年。

学生に対する評価

毎回提出する提出課題50%、定期試験50%によって評価する。

授業科目名： 幼児教育と保育の原理 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 名倉　一美
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標：１．日本の保育・幼児教育の理念や制度について説明することができる。2．日本の保育・幼児教育の理念について現在に至るまでの歴史的背景を解説できる。３．現代の日本の保育・幼児教育の課題を見つけ、自ら解決策を考えようとする意識を持つ。

授業の概要：・現在の日本の保育・幼児教育の施設種や制度、基本的理念について解説を行うとともに、そこに至るまでの歴史的背景について講義する。また、子育て支援、小学校教育との接続、海外の保育等の現状を紹介し、保育・幼児教育の今後の課題について解説する。

授業計画

第1回：　日本の保育・幼児教育施設について―幼稚園・保育所・認定こども園

第2回：　保育における「養護」と「教育」の考え方

第3回：子ども観・保育観の変遷

第4回：幼児教育・保育における子ども理解と発達

第5回：現在の日本の幼児教育・保育の理念

第6回：幼児教育・保育の目標と内容の変遷－6領域から5領域へ

第7回：保育の方法ー環境を通した保育

第8回：　世界の保育の歴史ーペスタロッチ、オーエン、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育

第9回：　日本の保育の歴史　幼稚園の歴史と倉橋惣三

第10回：日本の保育の歴史　保育所の歴史

第11回：近年の子育て環境の変化と現在の日本の子育て支援の現状

第12回：幼児教育と小学校教育の連携・接続の歴史

第13回：保育の専門性と保育者の研修

第14回：世界の保育の事情と日本の保育・幼児教育との比較

第15回：これからの保育・幼児教育の課題

テキスト

適宜プリント資料を配布する。

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

学生に対する評価

毎時行う各講義内課題（ワーク、ミニレポート、ミニテスト）にて評価する(100%)

授業科目名： 教職入門 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 成松　美枝
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校及び高等学校)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)

授業のテーマ及び到達目標

教職の意義及び教育の役割、教員の職務内容、教員の労働条件と研修に関する基礎的知識・理解を身につけ、自分の理想とする教員像を明確にする。

授業の概要

教職の意義や教員の職務内容、労働条件や研修について基礎的内容を学び、全体像をつかむ。また、学校教育を巡る近年の状況を理解しながらこれから求められる教員の資質・能力について考え、自分の理想の教師像を確立して今後の教職科目の履修に活かせるようにする。

授業計画

第１回：はじめに―教員になるために　オリエンテーション:授業内容の概要
第２回：教員免許状の種類と教職課程で学ぶこと
第３回：理想の教師像と教職の特徴
第４回：教師の問題への対応と支援
第５回：学校教育の役割と教員の使命
第6回：職務内容：　学習指導と生活指導
第7回：教員の職務内容:小学校教諭
第8回：教員の権利と身分保障について：服務規程
第9回：　教員の権利と身分保障について:懲戒と分限処分
第10回：教員の職務と力量形成：　現職小学校教諭の講演会
第11回：教員の職務と力量形成：　現職中学校教諭の講演会
第12回　:教員の研修制度について
第13回　:教育病理：いじめ・不登校・学級崩壊・暴力行為
第14回　:教育病理とチーム学校運営への対応
第15回:授業のまとめ－教師になるための重要事項の再確認
定期試験

テキスト

特になし、毎回の講義時にレジュメや資料を配布する。

参考書・参考資料等

藤本典裕編著『新版　改訂二版　教職入門―教師への道－』、図書文化社、2019 年。大津尚志、坂田仰『初めて学ぶ教職の基礎』、協同出版、2006 年。元兼正浩編著『教職論エッセンス』、九州大学大学院教育法制研究室、2017 年。
学生に対する評価: 毎回の提出課題(50%)、定期試験(50%)で総合評価する。

授業科目名： 現代の教育と社会A 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 波多江　俊介 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校及び高等学校)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

達成目標は、知識面では制度の仕組みや課題に関する事柄を理解し、自身で説明できるレベルへの到達を目標とする。実践面では、地域や家庭、関連機関との連携を可能にする要素を理解することや、判例等を読んで安全に配慮した教育指導計画が作成できる等、教育活動を行う上で適切な判断ができる力の修得を目指す。

授業の概要

本講義は、①教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する基礎的知識を修得すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を理解・把握すること、③教育改革の動向と成果に対する理解を深めること、の３点を目的としている。①では、公教育に関する諸法制度を扱う。教育を受ける権利や教員の義務、公教育を主として担う「学校」とはどういった施設を指しているのか等、教育関連法規を解説し、運用実態を解説していく。②では、法制度の運用過程で生じる課題について判例等を用いて説明する。法制度は万能ではないため、どういった点に課題が生じ、改善可能性を有しているか解説する。また、種々の教育関連データを扱い、読み取り方を解説する。③では、最新の教育改革動向に関する情報を答申や通知等を用いて解説していく。

第１回：オリエンテーション：公教育の原理と理念
第２回：教育行政制度の変遷にみる教育委員会の業務
第３回：保護者・地域との連携の必要性
第４回：学校教育と政治・宗教
第５回：子どもの教育を受ける権利：権利条約と子どもの貧困やインクルーシブ教育
第６回：学校保健安全：学校管理下における事故や災害に関わる予防・対応指導
第７回：効果的な学校経営の運用実態と課題
第８回：まとめ：近年の教育政策動向のおさらい

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』2018年。

参考書・参考資料等　　授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（100%）

授業科目名： 現代の教育と社会Ｂ 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 成松　美枝
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園、小学校、中学校及び高等学校)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)

授業のテーマ及び到達目標

公教育制度および教育行政の理念と仕組みを理解する。また、現在の学校を取り巻く問題とそれに対応する諸改革、学校安全の必要性と対応策について認識し理解を深める。

授業の概要: 全ての子どもに就学機会を保障する公教育の具体的な法制度と、現在の学校を取り巻く問題と改革、さらに学校管理下での安全を保障するための学校安全法制と取り組みについて講義を行う。

授業計画

第1回：私教育と公教育

第2回: 現代の公教育制度: 日本と諸外国の学校体系

第3回: 教育行政の組織と活動1: 国の教育行政・文部科学省

第4回: 教育行政の組織と活動2:教育委員会の制度と役割

第5回: 学校経営と学級経営の仕組み

第6回: 教育制度の改革1：学校評議員制度と学校運営協議会

第7回: 学校と地域の連携: チーム学校とコミュニティースクール

第8回: 教育制度の改革2 学校選択制度の実施

定期試験

テキスト

配布資料に基づいて講義を進める。

参考書・参考資料等

河野和清 編著:『教育行政学』ミネルヴァ書房 2006 年

勝野正章・村上祐介編著:『教育行政と学校経営［新訂］』放送大学教育振興会、2020年

学生に対する評価: 各回に課す提出課題(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

授業科目名：教育心理学A（学習） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：井邑　智哉 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

　幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、子どもへの支援の基礎となる心理学的な理解や考え方を学ぶ。

授業の概要

　子どもの行動のもつ意味を読み解くことができる力を養うために必要な心理学的知識や考え方を概説する。

授業計画

第１回：学習のメカニズム：古典的条件付け、オペラント条件付け
第２回：記憶のメカニズム、記憶方略
第３回：やる気のメカニズム①自己決定理論
第４回：やる気のメカニズム②期待×価値理論
第５回：学習方略、自律的な学習を目指して
第６回：メタ認知と学習観
第７回：学級集団について、学級の機能、協同学習
第８回：まとめと定期試験
定期試験

テキスト

　適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

　神藤貴昭・橋本憲（編）『新しい教職教育講座 教職教育編４ 教育心理学』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

　平常点（10%）、小レポート（30%）、定期試験（60%）。
　平常点は、講義内レポートへの取り組み等を総合的に判断する。

授業科目名：教育心理学B（発達） 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 高崎　文子 担当形態： 単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

授業のテーマ及び到達目標

　幼児、児童及び生徒の発達段階に応じた特徴を理解し、学習や学校生活における適切な支援を考えることができるようになる

授業の概要

子どもの発達の特徴を紹介し、環境要因としての教師の役割・関わり方について考える

授業計画

第１回：発達と教育のとらえかた
第２回：発達段階とその特徴
第３回：認知発達と学習
第４回：自己・社会性・アイデンティティの発達
第５回：遺伝と環境の影響
第６回：動機づけの発達
第７回：子どもの発達を促す教師のはたらきかけ：ハードアプローチ
第８回：子どもの発達を促す教師のはたらきかけ：ソフトアプローチ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

鹿毛雅治・奈須雅裕（編）「学ぶこと・教えること」金子書房

学生に対する評価

最終論述課題100％

最終論述課題（レポート）で評価します。子どもの発達への理解と教育実践への活用を深く考えられるようになったことを評価の観点とします。

半田授業科目名： 特別支援教育の基礎 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 芳野　正昭
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

授業のテーマ及び到達目標

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する

授業の概要

本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒（障害のある子ども）の学習上または生活上の困難を理解するために必要な、各種の障害の特性及び心身の発達、そして障害のある子どもを支える制度を概説する。

授業計画

第１回：オリエンテーション、特別支援教育とは
第２回：日本における障害児教育の歴史
第３回：各種障害等の理解と支援①：視覚障害及び聴覚障害
第４回：各種障害等の理解と支援②：知的障害
第５回：各種障害等の理解と支援③：肢体不自由
第６回：各種障害等の理解と支援④：病弱・身体虚弱、情緒障害
第７回：特別支援学校における教育の実際（関係機関・家庭との連携を含む）
第８回：自立活動と個別の指導計画と個別の教育支援計画

テキスト

「特別支援教育の基礎」　松山郁夫・芳野正昭編著　2020年　学文社

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。

学生に対する評価

定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 特別支援教育の展開 【共同科目（熊大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 菊池　哲平 担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

授業のテーマ及び到達目標

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達、障害のある子どもを支える制度を理解する

授業の概要

本授業では、「特別支援教育の基礎」を受け、特に通常の学級における特別支援教育の展開を中心に、発達障害や通級による指導の実際、また通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりについて概説する。

授業計画

第１回：インクルーシブ教育システムとは
第２回：発達障害の理解と支援①：発達障害とは
第３回：発達障害の理解と支援②：自閉症スペクトラム障害
第４回：発達障害の理解と支援③：ADHD
第５回：発達障害の理解と支援④：LD
第６回：通級による指導の実際・特別支援教育コーディネーターの役割
第７回：障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援
第８回：通常学級におけるインクルーシブな授業・学級づくりの実際
定期試験

テキスト

「特別支援教育の基礎」　松山郁夫・芳野正昭編著　2020年　学文社

参考書・参考資料等

適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。

学生に対する評価

定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名：教育課程論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：古賀竣也 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業のテーマ及び到達目標

＜テーマ＞

教育課程の意義、教育課程の編成の方法、カリキュラム・マネジメント

＜到達目標＞

（１）教育課程が学校および社会に果たしている役割や意義を説明できる。

（２）教科等横断的で、長期的な観点から、教育課程を編成する方法を説明できる。

（３）カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を説明できる。

（４）カリキュラム評価の方法を説明できる。

（５）実在する学校を１校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できる。

授業の概要

学校で何を、いつ、どのような順番で、どうやって教えるのか、という問いに取り組む中で、教育課程は編成される。また教育課程は、学習指導要領や学習指導要領解説だけでなく地域の特色や現状、社会のニーズなども踏まえて、編成される。しかし、これらすべてに対応して教育課程を編成しようとすると、授業時数に対する内容の量が過剰（詰め込み過ぎ）になったり特定の教科が優先（他の教科等の活動が軽視）されたりする懸念がある。そのため、教師も児童生徒も疲弊しないように、教育課程を柔軟に編成することが求められる。そこで本科目では教育課程の編成の方法を学修する。特に、教育課程の編成の基本原理や観点、組織として教育課程を編成するための学校の在り方や意義を学修する。最終的に、実在する学校を１校選び、その学校の教育課程の編成の案を提示できるようになることを目指す。

授業計画

第１回：教育課程の基準としての学習指導要領の特徴や位置づけを学修する。そのうえで、学習指導要領の改訂の変遷や改訂内容をもとに、教育課程の意義および役割、編成の目的を学修する。

第２回：カリキュラムの類型論や編成の原理を学修する。また、単元や学年を横断した長期的な観点から、教育課程を編成することの重要性および方法を学修する。

第３回：現行の学習指導要領をもとに、地域の特色や社会のニーズを踏まえた教育課程の役割を学修する。また、社会に開かれた教育課程の視点から、教育課程が社会で果たす機能を学修する。

第４回：教育課程の副産物としての「隠れた」カリキュラムの具体例を学修する。そのうえで、教育課程の編成に絶えず取り組むことの重要性や、カリキュラム評価の必要性を学修する。
第５回：カリキュラム評価の方法を学修する。また、カリキュラム評価を効果的にかつ継続的に実施するための組織の在り方を、カリキュラム・マネジメントの視点から学修する。
第６回：「学校に基礎を置くカリキュラム開発」の視点から、研究開発学校制度などの報告書を参考に、教科等を横断した教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの重要性を学修する。
第７回：実在する学校を１校選ぶ。そして、その学校の教育課程の編成の案（教科等を横断した活動、単元や時間割、教育内容の配列など）を作成する。
第８回：第７回で取り組んだ成果を相互評価する。この活動を通して、教育課程の柔軟な編成の方法と、カリキュラム評価の必要性を学修する。

テキスト
毎回の授業で、授業資料を配布する。

参考書・参考資料等
（１）小学校学習指導要領（平成29年公示）
（２）中学校学習指導要領（平成29年公示）
（３）高等学校学習指導要領（平成29年公示）

学生に対する評価
１．毎回の授業で課す小レポート（７０％）：＜到達目標＞の（１）～（４）と対応。
２．第８回の授業での発表内容（３０％）：＜到達目標＞の（５）と対応。

授業科目名： 教育方法学 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：足立　佳菜 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼稚園） ・教育の方法及び技術（小学校、中学校及び高等学校）

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、現代の教育動向について理解し、授業を中核としながらもより幅広い視点から教育方法のあり方を学び、教育方法・授業方法の多様な可能性に気づくことを目的とし、以下の３点を到達目標とする。

① 現代の教育方法について説明する際の必須用語（主体的・対話的で深い学び、個別最適で協働的な学び、コンピテンシーなど）について適切に説明ができる。

② 現代の教育の方向性を踏まえ、これからの子どもたちに育みたい資質能力およびそれを育成する授業に必要な要素を自分の言葉で説明できる。

③ 教育方法に関する自身の学びを振り返り、自身にとって重要な変容点を分析、言語化することができる。

授業の概要

本授業では、教育方法として一般的に想起される一斉授業の形態を、歴史、現代の動向、教育目的の変化、学習観、学び合い、学習環境デザインといった視点から批判的俯瞰的に捉え直し、教育方法の多様なあり方を学習する。

授業計画

第１回：授業目的・学習課題の確認
第２回：教育方法の歴史と現代的動向（主体的・対話的で深い学び、個別最適で協働的な学び）
第３回：学力・コンピテンシーとは何か　―方法を規定する教育目的の理解
第４回：経験学習と系統学習、一斉指導と個別指導
第５回：協働学習・協調学習　―学び合いはなぜ必要なのか
第６回：学習支援、学習環境デザイン　―教師の役割転換
第７回：発問、板書、教科書・教材
第８回：授業内筆記試験および学習の振り返り
学期末レポート

テキスト

小室弘毅・齋藤智哉編『ワークで学ぶ　教育の方法と技術』ナカニシヤ出版、2019年

参考書・参考資料等

適宜授業内で紹介する。
学生に対する評価 A.授業内筆記試験【20%】、B.レポート【50％】、C.各種提出物、授業内活動【30%】。 A～C各項目においてそれぞれ60%に満たない場合は不可とする。 ３分の２以上出席しなければ、筆記試験やレポート提出の資格を失う。

授業科目名： 教育とICT活用 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：前田康裕、大塚芳生、田口浩継 担当形態：複数

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼稚園） ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（小学校、中学校及び高等学校）

授業のテーマ及び到達目標

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方及び児童・生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の概要

一斉講義形式ではなく，情報通信機器の実技を伴う演習を通したり，学校現場の実態を理解したりすることによって，情報通信技術を効果的に活用した実践的な指導力を高める。また，授業ごとにデジタル・リフレクションシートを記入できるようにして形成的に評価し，学生自らが「主体的・対話的で深い学び」の実際を体験できるようにする。

授業計画

第１回：授業概要・評価の説明，社会背景と情報通信技術活用の意義
第２回：情報通信技術の授業での活用の意義と理論
第３回：情報通信技術を効果的に活用した学習指導
第４回：情報通信技術を効果的に活用した校務の推進
第５回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法１（各教科等の特性に応じた指導事例）
第６回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法２（教科横断的に育成する情報活用能力）
第７回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法３（情報活用能力育成の学習プロセス）
第８回：児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法４（デジタル・シティズンシップ）

テキスト

紙面あるいは電子媒体による資料を配付する。

参考書・参考資料等

１．前田康裕（2019）：まんがで知る未来への学び，さくら社，ISBN-13:978-4908983252
２．前田康裕（2020）：まんがで知る未来への学び２，さくら社，ISBN-13:978-4908983337
３．前田康裕（2020）：まんがで知る未来への学び３，さくら社，ISBN-13:978-4908983474
４．坂本旬，芳賀高洋，豊福晋平，今度珠美，林一真（2020）：デジタル・シティズンシップ

，大月書店，ISBN-13:978-4272412594
５．中川一史，赤堀侃司（2021）：GIGAスクール時代の学びを拓く！　PC１人１台授業スタートブック，ぎょうせい，ISBN-13:978-4324109199

学生に対する評価

定期試験の代わりに，リフレクションシート，制作物，発表等によって評価を行う。

授業科目名： 幼児理解の理論と方法 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 名倉一美、藤田豊 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標：

１．乳幼児期の子どもの発達特性を説明することができる。２．保育者が行う幼児理解の方法や配慮点について解説することができる。３．多面的な幼児理解のための記録や研修の必要性を理解し、自らも記録を作成することができる。

授業の概要：幼児一人一人の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、幼児期の発達の特性を踏まえ、理解を深めながら、幼児の生活の実情に即した幼児教育の基本的な考え方や方法を学ぶ。

授業計画

第1回：　「幼児理解」の学びの概要
第2回：　子ども理解①ー行為の「意味」を理解する
第3回：　子ども理解②ー子どもの「発達」過程を捉えるまなざし
第4回：　子ども理解の方法①ー保育者に求められる「観察」力
第5回：　子ども理解の方法②ー保育者に求められる「傾聴」力
第6回：　子ども理解の方法③ー保育者に求められる「表現」力
第7回：　育ちの過程への理解と援助①ー事例から学ぶ０～１歳児期の子ども
第8回：　育ちの過程への理解と援助②ー事例から学ぶ２～３歳児期の子ども
第9回：　育ちの過程への理解と援助③ー事例から学ぶ４～５歳児期の子ども
第10回：育ちの過程への理解と援助④ー事例から学ぶ「気になる」子への対応から
第11回：　子ども理解につながる保護者理解ー事例から学ぶ
第12回：　子ども理解と評価①ー記録と幼児の評価の視点
第13回：　子ども理解と評価②ー「理解」をより深めるための記録の取り方
第14回：　子ども理解と評価③ー「理解」をより深めるための保育カンファレンス
第15回：　子ども理解と評価④ー今後の保育の課題と幼児理解

テキスト　適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省「幼児理解に基づいた評価（平成31年）」（チャイルド社）

学生に対する評価

毎時行う各講義内課題（ワーク及びミニレポート）にて評価する(100%)

授業科目名：教育相談の理論及び方法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：高岸幸弘、黒山竜太 担当形態：複数

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園、小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を身につける

授業の概要

子どもを取り巻く状況（学校・家庭・社会）や、学校教育の領域でなされている活動がどのように心理的健康と関連するかを概観し、様々な心理的課題を抱えている児童や生徒に対して、学校内で教師が実行すべき教育相談（心理教育法やカウンセリング）の基本的知識と技術を提供します。それらを知的にも体験的にも学習していきます。

授業計画

第１回：教育相談の意義と理論
第２回：教育相談に関わる心理学的理論
第３回：子どもの発達と問題
第４回：カウンセリングの基礎知識
第５回：教育相談の計画の作成
第６回：不登校の対応
第７回：いじめの対応
第８回：専門機関との連携
定期試験

テキスト

新時代の教育相談～つなぐ、支える、ともに歩む～（高岸幸弘・黒山竜太編著、北樹出版）

参考書・参考資料等

よくわかる臨床心理学（下山晴彦編、ミルヴァ書房）

学生に対する評価

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（幼・小・中・高）	単位数：２単位	担当教員名： **吉岡　剛彦** **中西　雪夫**

科　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握（※１）	○	学校現場の意見聴取（※２）	○

受講者数　　１２０人

教員の連携・協力体制

教員養成カリキュラム委員会が全般的な運営にあたる。１クラスを，教職科目担当教員と教科内容科目担当教員各１名が共同で担当する。演習科目の特性を考慮し、１６～２０名程度の学生数を目安に１クラスを編成する。また，地域の教育委員会とも連携し，指導への参画を得る。

授業のテーマ及び到達目標

教師として必要な基礎的資質の形成に関して，以下の４項目について確認するとともに，履修学生が自己の課題を明確にすることができる。

① 教育に対する使命感や責任感をもち，子どもに対する愛情が豊かであること
② 社会性や対人関係，コミュニケーションの能力が適切であること
③ 児童生徒理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること
④ 教科等の指導力の基礎を形成していること

授業の概要

冒頭では事前に記入した教職カルテを活用し、個人面談を行ってこれまでの教職課程履修状況について確認する。その後、上述の目標に応じて、学級経営，児童・生徒理解，教科等指導に関する内容を取り上げ，ＩＣＴも積極活用しつつ、ロール・プレイ，事例研究，模擬授業等を行う。これらの活動に対しては、受講者が共同して主体的に取り組むことを求める。ただし、子どもとのコミュニケーションに関する内容については実務演習とし、学校現場において実際に児童生徒と触れ合う活動を行う。

毎回の講義を教職担当教員と教科担当教員の２名が共同で指導，評価を行う。その理由は，異なる視点から総合的に指導と評価を充実させるとともに，両者の連携を一層深めることにある。さらに，佐賀県教育委員会，佐賀市教育委員会とも連携しているので，指導主事等が授業計画のなかで2～3度は学生の指導と評価に参画する予定である。

授業計画

第１回教職実践演習の目的と概要（講義）
第２回個人面談（教職カルテの確認・記入）の実施
第３回学級経営案と学級づくり（学級経営について①）
第４回学級経営改善案の発表とディスカッション（学級経営について②）
第５～８回以下から２つの主題を選択し，それぞれに２コマを配当して演習を行う。
○地域・家庭との連携についてのロール・プレイ（地域連携①）
○地域・家庭との連携についてのディスカッション（地域連携②）
○いじめ問題について理論とシミュレーション（いじめ問題①）
○いじめ問題についてのディスカッション（いじめ問題②）

○特別な支援を要する子どもについての事例研究（特別支援教育①） ○特別な支援を要する子どもについてのディスカッション（特別支援教育②） 第９回子どもとのコミュニケーションについての実務演習（実習校実務演習①） 第10回子どもとのコミュニケーションについてのディスカッション（実習校実務演習②） 第11回教科等の内容研究についての学習指導案検討（学習指導案における教科等内容検討） 第12回ＩＣＴを活用した授業改善の検討（模擬授業の準備） 第13回ＩＣＴを活用した教科等の模擬授業の実施（模擬授業とディスカッション①） 第14回教科等の模擬授業についてのディスカッション（模擬授業とディスカッション②） 第15回これからの学校教育と自己の課題について（討論） 定期試験等最終レポート「これからの学校教育と自己の課題」をもって代える。
テキスト 「佐賀大学教職実践演習テキスト」を配布する。
参考書・参考資料等 担当教員が指示する。
学生に対する評価 学生に対する評価学習状況：10％小レポート：40％学習指導案：20％最終レポート：30％

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名：特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 波多江 俊介 担当形態： 単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法（小学校、中学校） ・総合的な探究の時間の指導法（高等学校） ・特別活動の指導法（中学校及び高等学校）

授業のテーマ及び到達目標

特別活動・総合的な学習の時間それぞれについて、学習指導要領の目標を達成できるような年間指導計画に位置付けた実施計画を作成し、実践することができる。

授業の概要

特別活動の指導法について講義・実践する。学習指導要領に記載されている学級活動・児童生徒会活動・学校行事・クラブ活動等について割り当てをし、各事項ごとのミッションを課すので、それをこなしてもらう。総合的な学習の時間の指導法についての講義・実践もまた同様とする。

授業計画

第１回：イントロダクション：教育課程編成の原理やカリキュラムマネジメントの視点から解説

第２回：学習指導要領における特別活動、総合的な学習の時間の目標や位置づけと、指導の在り方について解説

第３回：特別活動、総合的な学習の時間に関する、学校・家庭・地域における組織的指導体制について解説

第４回：特別活動の指導原理：学級活動・ホームルーム活動

第５回：特別活動の指導原理：児童会・生徒会活動

第６回：特別活動の指導原理：クラブ活動、学校行事

第７回：特別活動における指導実践①：学級活動・ホームルーム活動

第８回：特別活動における指導実践②：児童会・生徒会活動

第９回：特別活動における指導実践③：クラブ活動、学校行事

第１０回：総合的な学習の時間・探究の時間における、主体的・対話的で深い学びに繋がる探究的な学習の在り方について①

第１１回：総合的な学習の時間・探究の時間における、主体的・対話的で深い学びに繋がる探究的な学習の在り方について②

第１２回：総合的な学習の時間・探究の時間における、主体的・対話的で深い学びに繋がる探究的な

学習の在り方について③ 第１３回：特別活動、総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントの解説 第１４回：特別活動、総合的な学習の時間における実践と評価について 第１５回：特別活動、総合的な学習の時間に関する本講義のまとめ 定期試験は実施しない
テキスト 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』 『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』
参考書・参考資料等 元兼正浩『特別活動エッセンス **総合版**－望ましい人間関係づくりのために』花書院、2023年
学生に対する評価 「授業における提出物の内容：40%」・「授業における実践の完成度と実践への貢献度：40%」・「学期末のレポート：20%」で評価する。

授業科目名：生徒指導と学校カウンセリング	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：石井　宏祐 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標：

自己指導能力を育む生徒指導の意義と課題を、重層的支援構造をふまえて理解し、組織的な取り組みのあり方を概観する。さらに個別の課題を抱える児童生徒の事例をもとに、学校カウンセリングの具体的支援について学ぶ。本講義の達成目標は以下の2点である。

（１）生徒指導の理論的意義と実践的方法について基礎的知見を述べることができる。

（２）生徒指導における学校カウンセリングの基礎的知見を述べることができる。

授業の概要：

（１）生徒指導の意義と原理と課題を理解する。

（２）学校カウンセリングの方法を含む生徒指導の多彩な進め方を理解する。

（３）生徒指導上の個別の課題とそれぞれの対応について理解する。

（４）組織的な対応、特に連携を重視した取り組みのあり方を理解する。

（５）保護者理解と保護者連携について理解する。

授業計画

第1回：生徒指導の意義と方法第

第2回：生徒指導の課題

第3回：学習指導と生徒指導

第4回：生徒指導に関わる法令

第5回：生徒指導と児童生徒理解

第6回：生徒指導と保護者との関わり

第7回：生徒指導と学校カウンセリング

第8回：生徒指導における「個別の課題」総論

第9回：暴力行為の理解と対応

第10回：いじめの理解と対応

第11回：不登校の理解と対応

第12回：インターネットの問題の理解と対応

第13回：性と生と死に関する課題の理解と対応

第14回：児童虐待の理解と対応

第15回：適切な指導と不適切な指導

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する。

学生に対する評価

毎回の講義で提示する課題（小レポートや小テスト）にて評価する(100%)

授業科目名：進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：高岸幸弘、黒山竜太 担当形態：複数

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（小学校、中学校及び高等学校）
施行規則に定める科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業のテーマ及び到達目標

児童及び生徒が自ら将来を選択し計画するための進路指導、及び児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要なキャリア教育に関する基本的知識と技術を身につける

授業の概要

児童生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長していけるよう、進路指導は教師にとって重要な教育活動です。また、それを包含するキャリア教育は学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育むことを目的としています。これらのことについて、学生自身も教師を目指す立場として主体的に学んでいきます。

授業計画

第１回：進路指導の意義
第２回：教育課程における進路指導の位置づけ
第３回：進路指導の内容と領域
第４回：進路指導の進め方
第５回：キャリア教育とは
第６回：ガイダンスとしてのキャリア教育
第７回：キャリアカウンセリング・学校コーチングとは
第８回：進路相談・キャリアカウンセリングの実際
定期試験

テキスト

生徒指導・進路指導・教育相談テキスト（鈴木康明著、北大路書房）

参考書・参考資料等

よくわかる臨床心理学（下山晴彦編、ミルヴァ書房）

学生に対する評価

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

授業科目名：特別支援教育基礎論 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 芳野正昭・菊池哲平 担当形態： クラス分け・単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目

授業のテーマ及び到達目標

１．特別支援教育の理念と特別支援学校に関する制度との相互の関係を理解する。

２．障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、現代に至るまでの特別支援教育の基本的な考え方及び特別支援学校の変遷を理解する。

３．特別支援教育の思想と特別支援教育の理念や実際の特別支援学校の教育との関わりを理解する。

４．社会の状況を理解し、その変化が特別支援学校の教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。

５．特別支援学校の公教育制度を構成している教育関係法規を理解するとともに、そこに関連する特別支援学校教育要領・学習指導要領が有する役割・機能・意義を理解する。

６．特別支援学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。

授業の概要

特別支援教育の基礎について総論的に講義する。障害の捉え方、障害児教育の歴史、特別支援教育の理念と制度、特別支援学校の教育と課題、小・中学校等における特別支援教育、特別支援教育の対象となる各種障害の理解と支援に関して概説する。

授業計画

第１回：障害観・障害者観の変化とノーマライゼーション

第２回：ICFとインクルーシブ教育

第３回：特別支援教育の理念・思想

第４回：日本の障害児教育の歴史（１）戦前の特殊教育

第５回：日本の障害児教育の歴史（２）戦後の特殊教育の発展

第６回：日本の障害児教育の歴史（３）特殊教育から特別支援教育への転換および展開

第７回：特別支援教育の制度と特別支援学校の機能・役割

第８回：特別支援学校の教育（１）特別支援学校の目的及び教育目標と教育課程の基準

第９回：特別支援学校の教育（２）特別支援学校教育要領・学習指導要領と自立活動等

第１０回：特別支援学校の教育（３）一人一人の教育的ニーズ等に応じた支援、キャリア教育、関

係機関等との連携、交流及び共同学習 第１１回：特別支援学校の課題と小・中学校等における特別支援教育 第１２回：特別支援教育の対象となる障害（視覚障害）の理解と支援 第１３回：特別支援教育の対象となる障害（聴覚障害）の理解と支援 第１４回：特別支援教育の対象となる障害（知的障害）の理解と支援 第１５回：特別支援教育の対象となる障害（肢体不自由、病弱・身体虚弱）の理解と支援 定期試験
テキスト ①『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示　文部科学省） ②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
参考書・参考資料等 適宜、資料の配布、参考文献等の紹介をする。
学生に対する評価 授業期間中のレポート（10%）及び試験（90%）により評価する。

授業科目名： 知的障害児の心理・生理・病理 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高茂暢／半田健、日高茂暢 担当形態： クラス分け・単独／複数

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）

授業のテーマ及び到達目標

知的障害の心理面および生理面の特徴並びに知的障害の要因となる病理面や併存・合併症，それらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や関係機関との連携について理解する。

授業の概要

知的障害のある子どもの障害の重度化、多様化に応じて、指導実践の理論的背景に踏み込んだ研究がなされている。本授業では、心理学や中枢神経系の機能、知的障害に関わる病理的側面、家庭・関係機関との連携の観点から、知的障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。

授業計画

第１回：知的障害の定義、知的機能と適応機能
第２回：知的障害に関する生理的側面　中枢神経系の発達と障害・大脳機能局在説
第３回：知的障害に関する病理的側面　遺伝子疾患・染色体異常（ウィリアムズ症候群、ダウン症）
第４回：知的障害に関する病理的側面　てんかん・内分泌疾患・代謝性疾患
第５回：知的障害の心理機能　感覚・知覚
第６回：知的障害の心理機能　注意・記憶
第７回：知的障害の心理機能　学習理論
第８回：知的障害の心理機能　応用行動分析学
第９回：知的障害の心理機能　言語・コミュニケーション
第１０回：知的障害の心理機能　運動・健康
第１１回：知的障害と関連領域　自閉スペクトラム・精神疾患
第１２回：知的障害と関連領域　高次脳機能障害・児童虐待
第１３回：家庭や関係機関との連携　保護者理解
第１４回：家庭や関係機関との連携　連携の実際（ゲストティーチャー等の活用）

第１５回：まとめ　知的障害教育とエビデンス・ベースド・プラクティス 定期試験
テキスト 勝二博亮ら（2023）： 知的障害児の心理・生理・病理 エビデンスに基づく特別支援教育のために【第2版】. 北大路書房
参考書・参考資料等 梅谷忠勇（2004）：図解　知的障害児の認知と学習―特性理解と援助―. 田研出版. 小池敏英・北島善夫（2001）：知的障害の心理学―発達支援からの理解. 北大路書房.
学生に対する評価 定期試験やレポートに基づいて評価する。

授業科目名： 肢体不自由の心理・生理・病理 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：本吉大介・小篠史郎 担当形態： オムニバス

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知病）

授業のテーマ及び到達目標

授業テーマ：肢体不自由児の心理、生理、病理に関する特性を理解し、個別の支援に役立てる知識と連携の重要性を学ぶ。

到達目標

1. 肢体不自由の起因疾患（脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患）の病理、心理、生理的特徴と相互作用を理解する。
2. 脳性まひのある児童等の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達、認知特性を観察・把握する方法を理解する。
3. 家庭や医療機関との連携の重要性を理解する。

授業の概要

本授業では、肢体不自由児の心理、生理、病理に関する基礎的な知識を学び、具体的な事例を通して、それぞれの特性や支援の方法について検討する。また、家庭や医療機関との連携の重要性についても理解を深める。

授業計画

第１回：肢体不自由の概要と起因疾患の病理（本吉・小篠）
第２回：肢体不自由の生理的特徴（小篠）
第３回：肢体不自由の心理的特徴（本吉）
第４回：心理・生理・病理の相互作用（本吉）
第５回：観察・検査による個別支援のためのアセスメント（本吉）
第６回：家庭や医療機関との連携⑴家庭との連携（本吉）
第７回：家庭や医療機関との連携⑵医療機関との連携（本吉・小篠）
第８回：総合的な支援の実践事例（本吉）

テキスト

障害のある子供の教育支援の手引き～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課　令和３年６月）

参考書・参考資料等

適宜、配布・紹介する。
学生に対する評価 平常点３０％、中間課題３０％、期末課題４０％で総合的に評価する。

授業科目名： 病弱児の心理・生理・病理 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 日高　茂暢、藤田　一郎 担当形態： オムニバス

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病、含む領域：知肢）

授業のテーマ及び到達目標

病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気（身体疾患や精神疾患）や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携について理解する。

授業の概要

健康に関する考え方や病弱（身体虚弱を含む）による教育的ニーズをもつ子どもの病気に関する心理、生理、病理的側面に関する理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。

授業計画

第１回：健康の概念と病気理解に関する心理発達（日高　茂暢）
第２回：病弱児の理解と支援（身体疾患）　アレルギー疾患、心臓病（藤田　一郎）
第３回：病弱児の理解と支援（身体疾患）　小児がん（藤田　一郎）
第４回：病弱児の理解と支援（身体疾患）　緩和ケア、ターミナルケア期の子ども（藤田　一郎）
第５回：病弱児の理解と支援（精神疾患）　発達障害、心身症（日高　茂暢）
第６回：病弱児の理解と支援（精神疾患）　摂食障害（日高　茂暢）
第７回：病弱児の理解と支援（精神疾患）　社交不安・場面緘黙（日高　茂暢）
第８回：病弱児の理解と支援（関連領域）　病弱児者の家族、きょうだい（日高　茂暢）
定期試験

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

日本育療学会（2019）：標準「病弱児の教育」テキスト．ジアース教育新社.
宮本信也・土橋圭子（2015）：病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版．金芳堂.

学生に対する評価

定期試験に基づいて評価する。

授業科目名： 知的障害児指導法 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 芳野正昭・半田健 担当形態： クラス分け・単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：肢病）

授業のテーマ及び到達目標

１．特別支援学校（知的障害）の教育において教育課程が有する意義を理解する。

２．幼児、児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。

３．知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の概要

わが国において、知的障害児の学習指導要領がどのような考え方によって編成されているのか、特別支援学校ではどのような学習指導法がとられているのか、そして、教育活動の質向上に向けたカリキュラム・マネジメントの考え方とはどのようなことなのかについて講義する。

授業計画

第１回：知的障害に関する基礎知識（定義、捉え方）

第２回：特別支援学校（知的障害）の目的及び教育目標と教育課程の意義

第３回：特別支援学校（知的障害）における教育課程（１）知的障害児の学習上の特性等を踏まえた教育課程

第４回：特別支援学校（知的障害）における教育課程（２）特徴的な点

第５回：知的障害の教科の目標及び内容

第６回：教科の指導の実際と学習指導案

第７回：各教科別の指導と各教科等を合わせた指導

第８回：各教科等を合わせた指導（１）日常生活の指導、遊びの指導

第９回：各教科等を合わせた指導（２）生活単元学習

第１０回：各教科等を合わせた指導（３）生活単元学習の実際と学習指導案

第１１回：各教科等を合わせた指導（４）作業学習

第１２回：各教科等を合わせた指導（５）作業学習の実際と学習指導案

第１３回：教科の指導と自立活動の指導
第１４回：自立活動の指導と個別の指導計画
第１５回：個別の指導計画と PDCA サイクル
定期試験

テキスト
①『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示　文部科学省）
②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）

参考書・参考資料等
適宜、資料の配布および文献の紹介をする。

学生に対する評価
定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 知的障害児アセスメント論 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊池哲平・中村理美 担当形態： クラス分け・単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導に関する科目（中心領域：知）

授業のテーマ及び到達目標

知的障害および発達障害に関するアセスメント法を学び、幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。

授業の概要

知的障害のアセスメント法を学び、知的障害の知的機能や適応機能を評価し適切な支援を検討するプロセスについて理解を深め、知的障害児の指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。

授業計画

第１回：知的障害の定義、知的機能と適応機能
第２回：知的機能の評価　新版K式発達検査
第３回：知的機能の評価　田中ビネー式知能検査
第４回：知的機能の評価　ウェクスラー式知能検査　言語理解指標
第５回：知的機能の評価　ウェクスラー式知能検査　視覚処理指標、流動性推理指標
第６回：知的機能の評価　ウェクスラー式知能検査　ワーキングメモリー指標
第７回：知的機能の評価　ウェクスラー式知能検査　処理速度指標
第８回：適応機能の評価　S-M社会生活能力検査
第９回：適応機能の評価　Vineland II 適応行動尺度
第１０回：その他の評価　感覚プロファイル
第１１回：その他の評価　AQ、PARS、ADOS
第１２回：その他の評価　行動観察
第１３回：総合的アセスメント　検査結果から実態把握する
第１４回：総合的アセスメント　教育上の課題とアセスメントを対応づける
第１５回：まとめ　個別の指導計画に活かすアセスメント論
定期試験

テキスト

適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 定期試験に基づいて評価する。

授業科目名： 肢体不自由児教育総論 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：栗原和弘 担当形態： 単独

科　目	特別支援教育領域に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）

授業のテーマ及び到達目標

授業テーマ：肢体不自由児教育における教育課程の意義・編成方法とカリキュラム・マネジメントを理解する。

到達目標

1. 特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の意義と、その編成方法について理解する。
2. 肢体不自由児の特性や発達段階を考慮した教育内容の選定と指導計画の作成について理解する。
3. 自立活動を含めた個別の指導計画の作成と評価改善の方法を理解する。
4. 教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの関連性を実践的に理解する。

授業の概要

本授業では、特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の意義、編成方法、及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、教育課程の基盤となる特別支援学校教育要領に基づき、具体的な指導計画の作成方法を実践的に理解することを目的とする。

授業計画

第１回：肢体不自由児教育の意義
第２回：肢体不自由児の特性と教育的配慮
第３回：教育課程の編成方法
第４回：年間指導計画の作成
第５回：個別の指導計画⑴個別の指導計画の作成手順と自立活動の目標設定と内容選定
第６回：個別の指導計画⑵自立活動と教科の連携及び評価・改善
第７回：カリキュラム・マネジメント
第８回：教育実践の事例から学ぶ

テキスト

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本」
参考書・参考資料等 適宜、配布・紹介する。
学生に対する評価 平常点３０％、中間課題３０％、期末課題４０％で総合的に評価する。

授業科目名： 肢体不自由児指導法 【共同科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：本吉大介・栗原和弘 担当形態： 複数

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）

授業のテーマ及び到達目標

授業テーマ：肢体不自由児の特性を理解し、各教科等（「自立活動」を除く）の指導における配慮事項や授業設計の方法を学ぶ。

到達目標

1. 肢体不自由児の状態や特性、心身の発達段階を踏まえ、思考力、判断力、表現力の育成に必要な体験的活動を理解する。
2. 姿勢や認知の特性に応じた指導方法を工夫する能力を身につける。
3. 指導効果を高めるための補助具やICT、教材・教具の活用方法を理解する。
4. 自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成し、授業改善の視点を養う。

授業の概要

本授業では、肢体不自由児の特性を理解し、各教科等の指導における配慮事項を具体的に学ぶ。また、授業設計や教材開発の実践的なスキルを習得し、自立活動と関連付けた効果的な授業案作成を目指す。

授業計画

第１回：肢体不自由児の心理社会的課題と教育上の課題への理解
第２回：肢体不自由児の学習上の特性理解
第３回：基礎的概念の形成を促す体験活動と思考力・判断力・表現力の育成
第４回：姿勢や認知の特性に応じた指導方法⑴姿勢保持と学習環境の調整
第５回：姿勢や認知の特性に応じた指導方法⑵個別のニーズに応じた指導の実践事例
第６回：補助具やICTの活用⑴教材・教具の工夫と補助具
第７回：補助具やICTの活用⑵ICTの効果的な活用
第８回：教科指導と自立活動の関連⑴自立活動の目的と教科指導との関係性
第９回：教科指導と自立活動の関連⑵自立活動の視点を取り入れた学習指導案の作成
第１０回：学習指導案の作成⑴対象児童の特性に基づいた指導案作成
第１１回：学習指導案の作成⑵作成した指導案を用いたグループディスカッション
第１２回：授業改善の視点⑴効果的な授業の評価方法

第１３回：授業改善の視点⑵評価に基づく授業改善 第１４回：肢体不自由児を対象としたキャリア教育 第１５回：肢体不自由児とインクルーシブ教育
テキスト 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部） 文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本」
参考書・参考資料等 適宜、配布・紹介する。
学生に対する評価 平常点３０％、中間課題３０％、期末課題４０％で総合的に評価する。

授業科目名： 病弱児教育総論 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 芳野正昭／芳野正昭 担当形態： クラス分け・単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病）

授業のテーマ及び到達目標

１．特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を理解する。

２．幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。

３．病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の概要

病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。

授業計画

第１回：病弱・身体虚弱とは、病弱教育の意義
第２回：病弱児・身体虚弱児の教育の場・就学
第３回：特別支援学校（病弱）の教育課程
第４回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（１）教科の指導
第５回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（２）自立活動の指導
第６回：個別の指導計画と PDCA サイクル、進路指導
第７回：小・中学校における病弱教育：現状と課題
第８回：医療的ケア児の教育
定期試験

テキスト

①『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示　文部科学省）

②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成

30年3月　文部科学省） ③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省） ④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
参考書・参考資料等 適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。
学生に対する評価 授業期間中のレポート（10%）及び定期試験（90%）により評価する。

授業科目名： 病弱児指導法 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 芳野　正昭・半田　健 担当形態： クラス分け・単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病、含む領域：知肢）

授業のテーマ及び到達目標

１．特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を理解する。

２．幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。

３．病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の概要

病弱児・身体虚弱児とその教育に関して、病弱児・身体虚弱児の特性、病弱教育の意義、教育的ニーズ、教育の場、特別支援学校（病弱）における教育課程と指導法、カリキュラムマネジメント、進路指導、病弱教育の課題、重症心身障害児の教育の観点から概説する。

授業計画

第１回：病弱・身体虚弱とは
第２回：病弱教育の歴史と現状、病弱教育の意義
第３回：病弱児・身体虚弱児の教育的ニーズ
第４回：病弱児・身体虚弱児の教育の場・就学
第５回：特別支援学校（病弱）の教育課程
第６回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（１）教科の指導
第７回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（２）教科の指導の実際
第８回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（３）自立活動の指導
第９回：特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法（４）自立活動の指導の実際
第１０回：重症心身障害児の教育（１）重症心身障害児及び超重症児の概念
第１１回：重症心身障害児の教育（２）重症心身障害児の病弱教育の実際
第１２回：個別の指導計画と PDCA サイクル
第１３回：進路指導
第１４回：小・中学校における病弱教育：現状と課題

第１５回：医療的ケア児の教育 定期試験
テキスト ①『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示　文部科学省） ②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省） ③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省） ④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
参考書・参考資料等 適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。
学生に対する評価 定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 知的障害児教育総論 【シラバス共通科目（佐大・熊大）】	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 菊池哲平・半田健／中村　理美 担当形態： クラス分け・複数／単独
科　目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		

授業のテーマ及び到達目標

１．知的障害について、その実態や主な原因について基本事項を理解する。

２．特別支援学校（知的障害）における教育の実態について概要を理解する。

３．知的障害をはじめとする各種の障害に対する福祉的制度やサービスなどの概要を理解する

授業の概要

本科目は、特別支援学校教員免許を取得するためのオリエンテーション科目と位置付けている。知的障害について、その原因の生理・病理学的なメカニズムや知的発達に関する基本的な事項を解説する（心理・生理・病理分野）と共に、知的障害のある児童生徒に対する特別支援学校における教育の実態について、その特徴を解説する。さらに、障害のある子どもと関連する福祉的制度やサービス等について（療育手帳制度や児童発達支援・放課後等デイサービス、福祉就労制度等）について説明する。

授業計画

第１回：知的障害ってどんな障害？

第２回：知的障害の定義と呼称の歴史

第３回：知的障害の主な原因（病理）

第４回：知的障害教育の歴史

第５回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（１）：概要

第６回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（２）：生活単元学習

第７回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（３）：作業学習

第８回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（４）：日常生活の指導

第９回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（５）：遊びの指導

第１０回：特別支援学校（知的障害）における教育の実態（６）：自立活動

第１１回：就学前の知的障害のある子どもの学びの場

第１２回：特別支援学級における教育と実践

第１３回：特別支援学校卒業後の様子と進路支援 第１４回：知的障害教育の展開 第１５回：まとめ 定期試験
テキスト ①『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示　文部科学省） ②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省） ③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省） ④『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
参考書・参考資料等 適宜、資料の配布および文献の紹介をする。
学生に対する評価 定期試験やレポートによって評価する。

授業科目名： 発達障害児脳科学論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 日高　茂暢 担当形態： 単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：発達）

授業のテーマ及び到達目標

発達障害の障害特性や認知特性について精神生理学や神経心理学、認知神経科学の観点から理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の状態や認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。

授業の概要

発達障害のある子どもの障害特性や認知特性の背景にある脳機能の特徴を理解し、発達障害のある子どもや大人の理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。

授業計画

第１回：脳機能計測からとらえる発達障害
第２回：自閉スペクトラム症　社会的認知と脳機能
第３回：自閉スペクトラム症　感覚偏倚と脳機能
第４回：学習障害　音韻認知と脳機能
第５回：学習障害　ディスレクシアの早期発見と早期介入
第６回：ＡＤＨＤ　実行機能と脳機能
第７回：発達性協調運動症　書字動作と脳機能
第８回：特別支援教育を支える心理学研究のこれから
定期試験

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

北洋輔・平田正吾（2019）：発達障害の心理学　特別支援教育を支えるエビデンス．福村出版.

学生に対する評価

定期試験に基づいて評価する。

授業科目名： 視覚障害児の心理・生理・病理 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内川 義和、岡野（内川）真弓 担当形態： オムニバス

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：視）

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、「みる・みえる」仕組みを理解し、視覚障害とそれをもたらす疾患の概要、視覚障害による学習上または生活上の困難とそれに対する適切な配慮や支援について学ぶ。

【到達目標】

1.視覚障害教育の概要を説明できる。

2.眼の構造と機能の概要を説明できる。

3.様々な視覚障害の見え方の特徴を説明できる。

4.視覚障害をもたらす主な疾患を挙げ、その特徴を説明できる。

5.視覚障害による学習上、生活上の困難を述べることができる。

6.視覚障害児童生徒に対する支援の要点を説明できる。

7.保有視覚の評価と活用法について概要を説明できる。

授業の概要

本授業は、視覚障害児童・生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導および必要な支援を実践するために必要となる基本的知識の習得を目指す。本授業を通して、視覚障害による学習上または生活上の困難とそれに対する適切な配慮や支援について理解する。

本授業は資料（スライド）を用いて講義形式で行う。

内容ごとに小テストを行い、知識の整理と確認を行う。

本授業は、視能訓練士として視覚機能の評価と支援に関する実務経験を有している教員が、視覚障害児童・生徒への支援に関して必要となる知識を実践的に教育する科目である。

授業計画

第１回：視覚障害と特別支援教育（岡野（内川）　真弓）

第２回：視覚障害の理解1 眼の構造と機能（岡野（内川）　真弓）

第３回：視覚障害の理解2 視力障害（岡野（内川）　真弓）

第４回：視覚障害の理解3 屈折異常（岡野（内川）　真弓）

第５回：視覚障害の理解4 視野障害（岡野（内川）　真弓）

第６回：視覚障害の理解5 視力、視野障害の実際（演習）（岡野（内川） 真弓） 第７回：視覚障害の理解6 色覚異常（岡野（内川） 真弓） 第８回：視覚障害児童生徒に対する教育的支援（岡野（内川） 真弓） 第９回：身近な目の病気と症状（内川 義和） 第１０回：視覚障害の現状（日本、世界）（内川 義和） 第１１回：中途視覚障害をもたらす主な疾患（内川 義和） 第１２回：視覚障害をもたらす乳幼児・小児の主な疾患（内川 義和） 第１３回：視覚障害児童生徒に対する支援 保有視覚の評価（内川 義和） 第１４回：視覚障害児童生徒に対する支援 保有視覚の活用（内川 義和） 第１５回：視覚障害の早期発見（視覚健診）について（内川 義和） 定期試験
テキスト 障害のある子どもの保育・教育―心に寄り添う援助をめざして―、小竹利夫他編、建帛社、2020年
参考書・参考資料等 毎回の授業の際に、統計資料等を配布する。
学生に対する評価 成績評価は定期試験（筆記試験）（100%）による。

授業科目名： 聴覚障害児の心理・ 生理・病理 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深浦　順一 担当形態： 単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：聴）

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：覚障害者の生理および病理を理解し、自立活動、指導法への応用について学ぶ。

到達目標

１．聴覚系の構造と機能について説明できる。

２．聴覚検査について説明できる。

３．難聴の病態について説明できる。

４．補聴器、人工内耳について説明できる。

５．聴覚障害児の指導法について説明できる。

６．聴覚障害児の自立活動について説明できる。

７．聴覚障害児・者のための福祉制度を説明できる。

授業の概要

教員作成の資料に基づき、聴覚障害理解のための基礎、幼児から大学までの教育内容と配慮、社会保障制度までを概説する。特別支援教育領域の聴覚障害児・者に関する領域を「中心となる領域」とする科目である。

授業計画

授業計画

第１回：音の物理的性質、聴覚心理：音とは、音の強さ、高さ、音圧レベル、聴力レベル

第２回：聴覚系の構造と機能：伝音系（外耳、中耳）

第３回：聴覚系の構造と機能感音系（内耳、聴覚中枢路・後迷路）

第４回：聴覚障害の原因：外耳疾患、中耳疾患、内耳疾患、後迷路疾患、機能性疾患

第５回：聴覚機能検査：標準純音聴力検査、語音検査、聴性誘発反応検査

第６回：聴覚機能検査：新生児聴覚スクリーニング検査、他覚的聴力検査、乳幼児聴力検査

第７回：補聴器・人工内耳：補聴器・人工内耳の適応、補聴器・人工内耳の実際

第８回：言語機能と言語発達：音韻、意味、文法（統語、形態）、語用とその発達

第９回：聴覚障害の影響（小児）：言語発達とそれに関連する側面への影響

第１０回：聴覚障害の影響（成人）：中途失聴者、先天性難聴者

第１１回：評価：小児（発達、知能、学力等）、成人（コミュニケーション、心理等） 第１２回：聴覚障害児・者のコミュニケーション：口話法、手話法、トータルコミュニケーション法等 第１３回：幼児教育：生活言語の獲得 第１４回：学童期以降の教育：学習言語の獲得、読み書き能力の指導 第１５回：福祉制度と就労：障害者福祉法、その他 定期試験：実施する
テキスト 教員が作成した資料を使用する
参考書・参考資料等 特別支援教育の基礎．松山郁夫・芳野正昭編著．学文社
学生に対する評価 定期試験で評価する

授業科目名： 障害児行動分析学 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半田　健 担当形態： 単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：発）

授業のテーマ及び到達目標

１．発達障害・知的障害の特徴と二次的な障害について理解するとともに、児童生徒一人一人の行動問題に対する環境と個人との相互作用に基づく支援について理解する。

２．発達障害・知的障害のある児童生徒を含む学校・学級集団への支援や、ソーシャルスキルトレーニング、家庭・関係機関との連携についても理解する。

授業の概要

小・中学校や特別支援学校において発達障害・知的障害のある児童生徒が示す行動問題について、応用行動分析学に基づく支援を講義する。また、発達障害・知的障害のある児童生徒を含む学校・学級集団への支援や、ソーシャルスキルトレーニング、家庭や関係機関との連携についても講義する。

授業計画

第１回：発達障害・知的障害の特徴と二次的な障害
第２回：応用行動分析学の考え方
第３回：行動問題に対する機能的アセスメント
第４回：機能的アセスメントに基づく支援　適応行動の選定と増加
第５回：機能的アセスメントに基づく支援　適応行動の獲得・行動問題の消去
第６回：行動上の問題に対する支援の検討
第７回：行動上の問題に対する支援の提案
第８回：学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）
第９回：学級規模ポジティブ行動支援（CWPBS）
第１０回：ソーシャルスキルトレーニングに向けた児童生徒の実態把握
第１１回：実態把握に基づくソーシャルスキルトレーニングの考え方
第１２回：ソーシャルスキルトレーニングの検討
第１３回：ソーシャルスキルトレーニングの提案　小学校
第１４回：ソーシャルスキルトレーニングの提案　中学校
第１５回：家庭・関係機関との連携の実際

テキスト

適宜、資料の配布及び文献の紹介をする。

参考書・参考資料等

ミルテンバーガー，L，G. （著）野呂文行・佐々木銀河・青木康彦・神山　努（訳）（2024）行動変容法入門 日本語版第2版. ニ瓶社.

若林上総・半田　健・田中善大・庭山和貴・大対香奈子（2023）学校全体で取り組むポジティブ行動支援スタートガイド. ジアース教育新社.

オニール，R，E. et al.（著）三田地真実・神山　努（監訳）岡村章司・原口英之（訳）（2017）子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック. 金剛出版.

学生に対する評価

レポートや発表によって評価する。

授業科目名： 発達障害児教育総論 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村理美 担当形態： 単独
科　目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 （中心領域：発達）		

授業のテーマ及び到達目標

１．自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の心理的・生理的・病理的特徴や、幼児児童生徒一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性を把握について理解するとともに、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携について理解する。

２．通常の学級の教育課程を基盤として、通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程が有する意義や、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解するとともに、特別支援教育のセンター的機能の役割を果たす必要性について理解する。

３．自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の概要

自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症といった発達障害のある幼児児童生徒の支援について、心理学的・教育学的な視点から支援のあり方やアプローチの方法について学ぶことを目標として講義する。

授業計画

第１回：発達障害の概要（発達と障害）
第２回：発達障害の定義と分類
第３回：自閉スペクトラム症（ASD）の理解と支援
第４回：注意欠如多動症（ADHD）の理解と支援
第５回：限局性学習症（LD）の理解と支援
第６回：発達性協調運動症（DCD）の理解と支援

第７回：発達障害児の実態把握①心理・発達検査におけるアセスメント 第８回：発達障害児の実態把握②ワーキングメモリ 第９回：発達障害児教育における教育課程とカリキュラム・マネジメント 第１０回：発達障害児教育における自立活動の指導 第１１回：個別の支援計画と個別の指導計画 第１２回：通常学級・通級指導教室・特別支援学級における指導・支援 第１３回：発達障害児教育における情報機器の活用 第１４回：関係機関との連携と家族支援 第１５回：事例検討（指導案と支援の実際） 定期試験
テキスト 適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 レポート・定期試験に基づいて評価する。

<table>
<tr><td>授業科目名：
重複・視覚・聴覚障害児教育総論
【シラバス共通科目（佐大・熊大）】</td><td>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：
２単位</td><td>担当教員名：
芳野　正昭／本吉　大介

担当形態：
クラス分け・単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="3">特別支援教育に関する科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める科目区分又は事項等</td><td colspan="3">免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
（中心領域：重、含む領域：視、聴）</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業のテーマ及び到達目標
本授業では、重度・重複障害児、視覚障害児、聴覚障害児の教育に関して、以下の専門的知識と実践的視点を習得することを目指す。（1）重度・重複障害の概念、（2）重度・重複障害児、視覚障害児、聴覚障害児それぞれの心理的・生理的・病理的特徴ならびにそれらの相互作用、（3）重度・重複障害児の感覚や基本動作、コミュニケーションなどの発達支援の視点、（4）教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの考え方、（4）視覚障害児及び聴覚障害児に対する各教科及び自立活動の指導、（5）重度・重複障害児の個別の特性に応じた具体的な指導法について習得する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業の概要
本講義では、重度・重複障害児、視覚障害児及び聴覚障害児に対する学校教育の取り組みを中心に論じる。具体的には、（1）重度・重複障害児に関しては、重度・重複障害児の概念、心理的・生理的・病理的特徴、実態把握の進め方（観察・評価・アセスメント）・感覚や基本動作の発達支援・コミュニケーション行動の促進のための支援の視点、教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント、個別の指導計画の活用、超重症児の教育と医療的ケアについて論じる。また教育現場での実践例を映像等を用いて紹介するとともに指導法や支援の在り方について教育実践例を基に考察する。(2) 視覚障害児に関しては、心理的・生理的・病理的特徴、視覚障害児の視知覚や触知覚及び認知の特性、家庭や医療機関との連携、特別支援学校（視覚障害）の教育課程とカリキュラム・マネジメント、各教科及び自立活動の指導について論じる。(3) 聴覚障害児に関しては、心理的・生理的・病理的特徴、聞こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達、家庭や医療機関との連携、特別支援学校（聴覚障害）の教育課程とカリキュラム・マネジメント、各教科及び自立活動の指導について論じる。最後に、重度・重複障害児・視覚障害児・聴覚障害児への ICT・AT を活用した教育について解説する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業計画
第１回：重度・重複障害の概念と重度・重複障害児の行動等の特徴（病理面と心理面及び生理面</td></tr>
</table>

の特徴から）
第２回：視覚障害児の障害の起因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、視知覚や触知覚及び認知の特性と発達、家庭や医療機関との連携
第３回：聴覚障害児の障害の起因となる病理面と心理面及び生理面の特徴、聞こえの状態と言語面及び心理面の特性と発達、家庭や医療機関との連携
第４回：重度・重複障害児に対する実態把握の進め方と取り組みの視点（１）健康の保持・増進、自発的な動き
第５回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（２）感覚運動機能及び基本動作の発達支援
第６回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（３）人間関係の形成と心理的な安定
第７回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（４）コミュニケーションの促進
第８回：重度・重複障害児に対する取り組みの視点（５）学習や余暇に繋がる遊び、探索活動の促進
第９回：重複障害者等に関する教育課程の取扱いとカリキュラム・マネジメント
第１０回：重度・重複障害児、視覚障害児、聴覚障害児に対する個別の指導計画と PDCA サイクルとカリキュラム・マネジメント
第１１回：特別支援学校（視覚障害）の教育課程、各教科及び自立活動の指導
第１２回：特別支援学校（聴覚障害）の教育課程、各教科及び自立活動の指導
第１３回：盲知的障害児や聾知的障害児等の重複感覚障害児の教育
第１４回：超重症児の教育と医療的ケア
第１５回：重度・重複障害児・視覚障害児・聴覚障害児への ICT・AT を活用した教育

テキスト
①『特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示　文部科学省）
②『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）
③『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月　文部科学省）

参考書・参考資料等
適宜、配布したり紹介したりする。

学生に対する評価
授業期間中のレポート（40%）及び最終レポート（60%）により評価する。

授業科目名： ギフティッド・2Ｅ教育論 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日高　茂暢 担当形態： 単独

科　目	特別支援教育に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 （中心領域：発）

授業のテーマ及び到達目標

高い潜在能力をもつギフティッドや高い能力と障害を併せ持つ２Ｅについて、心理面や教育的ニーズ、その支援・指導を学び、幼児、児童又は生徒一人一人の状態や認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療機関との連携について理解する。

授業の概要

高い潜在能力をもつギフティッドや高い能力と障害を併せ持つ２Ｅについて、心理的特徴や教育的ニーズを学び、ギフティッドや２Ｅのある子どもの理解を深め、指導の背景になる基礎を学ぶことを目標として講義する。

授業計画

第1回：ギフティッド・2Eの定義、多重知能理論
第2回：ギフティッドと才能行動
第3回：レンズーリの三輪モデル、全校拡充モデル（ＳＥＭ）
第4回：ギフティッドの心理的特徴　知的水準と認知特性
第5回：ギフティッドの心理的特徴　非同期発達
第6回：ギフティッドの心理的特徴　Overexcitability（過度激動）
第7回：２Ｅ　ギフティッド＋自閉スペクトラム症の特徴と支援
第8回：２Ｅ　ギフティッド＋学習障害の特徴と支援
第9回：２Ｅ　ギフティッド＋ＡＤＨＤの特徴と支援
第１０回：ギフティッド・２Ｅの心理支援　肯定的分離理論（TPD）
第１１回：ギフティッド・２Ｅの心理支援　社会的孤立、うつ、自死
第１２回：諸外国の実践から見るギフテッド・2Ｅ教育　アメリカ
第１３回：諸外国の実践から見るギフテッド・2Ｅ教育　ヨーロッパ

第１４回：諸外国の実践から見るギフテッド・2Ｅ教育　アジア・オセアニア 第１５回：日本におけるギフテッド・２Ｅ教育と特別支援教育のこれから 定期試験
テキスト 小倉正義・片桐正敏（2024）：特別支援教育のはざまにいる子どもたち：ギフテッド・２Ｅ・境界知能．金子書房
参考書・参考資料等 片桐正敏・小泉雅彦・日高茂暢・富永大悟（2021）：ギフテッドの個性を知り、伸ばす方法．小学館． ジェームズ・ウェブら・角谷詩織（2019）：わが子がギフティッドかもしれないと思ったら．春秋社．
学生に対する評価 定期試験に基づいて評価する。